

上武道路・旧石器時代遺跡群(3)

一般国道17号(上武道路)改築工事に伴う  
埋蔵文化財発掘調査(その3)報告書

二〇一二 国 財團法人群馬県埋蔵文化財調査事業団



## 上武道路・旧石器時代遺跡群(3)

上泉唐ノ堀遺跡

上泉武田遺跡

芳賀東部団地遺跡

上泉新田塚遺跡群

五代砂留遺跡群

胴城遺跡

一般国道17号(上武道路)改築工事に伴う  
埋蔵文化財発掘調査(その3)報告書

2012.3

国 土 交 通 省  
財團法人群馬県埋蔵文化財調査事業団

# 上武道路・旧石器時代遺跡群（3）

上泉唐ノ堀遺跡

上泉新田塚遺跡群

上泉武田遺跡

五代砂留遺跡群

芳賀東部団地遺跡

胴城遺跡

一般国道17号(上武道路)改築工事に伴う  
埋蔵文化財発掘調査(その3)報告書

2012.3

国 土 交 通 省  
財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団



上武道路（8—2工区）予定路線地 東側



上武道路（8—2工区）予定路線地 西側(前橋市北部：南から)



上泉唐ノ堀遺跡 第3文化層



上泉新田塚遺跡群 左上2点：第1文化層、左下2点：第2文化層、右4点：第3文化層



上泉武田遺跡 左上1点：第1文化層、右上2点：第2文化層、下段3点：第3文化層



五代砂留遺跡群 左上1点：第1文化層、左下4点：第2文化層、右11点：第3文化層



芳賀東部團地遺跡 上段8点：第1文化層、下段10点：第2文化層



荆城遺跡 第1文化層

# 序

一般国道17号は関東と北陸を結ぶ大動脈ですが、そのバイパスとして計画された上武道路は、群馬県と東京圏とを結ぶ重要な広域ネットワークの一つとして、平成20年6月には主要地方道路前橋大間々桐生線までが供用開始されています。

上武道路の埋蔵文化財調査は、昭和49年1月から群馬県教育委員会によって開始され、財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団が設立された昭和53年度以降は、当事業団に引き継がれました。上武道路関連の発掘調査は、現在も続けられていますが、これまでに70遺跡の発掘調査が終了し、45冊の発掘調査報告書を刊行してまいりました。

このたび、前橋市上泉町から前橋市鳥取町までの間で発掘調査された、上泉唐ノ堀遺跡、上泉新田塚遺跡群、上泉武田遺跡、五代砂留遺跡群、芳賀東部団地遺跡、胴城遺跡の6遺跡の旧石器時代の発掘調査成果がまとまり、上武道路関連の旧石器時代遺跡群第3冊として刊行する運びとなりました。

本報告書では、上泉唐ノ堀遺跡で発見された今から3万年以上前の局部磨製石斧や環状ブロックを始めとして、出土した石器群から判明した旧石器人の生活技術など、地域の歴史解明に寄与する貴重な資料を報告しております。

本報告書刊行に至るまでには、国土交通省関東地方整備局、同高崎河川国道事務所、群馬県教育委員会、前橋市教育委員会、地元関係者の皆様には、格別の御尽力を賜りました。銘記して心から感謝申し上げますとともに、本報告書が基本的な歴史資料として広く活用されることを念願し、序といたします。

平成24年3月

財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団  
理 事 長 須 田 栄 一



# 例　　言

1 本書は一般国道17号(上武道路)改築工事に伴う埋蔵文化財発掘調査(その3)による、上泉唐ノ堀遺跡・上泉新田塚遺跡群・上泉武田遺跡・五代砂留遺跡群・芳賀東部団地遺跡・胴城遺跡の旧石器時代を対象として収録した。

## 2 遺跡の所在地

上泉唐ノ堀遺跡－前橋市上泉町2470番地ほか  
上泉武田遺跡－前橋市上泉町2017-1番地ほか  
芳賀東部団地遺跡(鳥取松合下遺跡含む)－鳥取町2470番地ほか  
胴城遺跡－前橋市勝沢町2062-1番地ほか

## 3 事業主体 国土交通省

## 4 調査主体 財團法人群馬県埋蔵文化財調査事業団

## 5 調査期間・調査体制

### 上泉唐ノ堀遺跡

平成18年7月1日～平成19年3月31日 担当 木津博明主任専門員(総括)、長澤典子調査研究員  
掘削請負 須賀工業株式会社 測量委託 技研測量設計株式会社

平成20年4月1日～平成20年6月30日 担当 木津博明主任専門員(総括)、齊藤 啓主任調査研究員  
掘削請負 須賀工業株式会社 測量委託 技研測量設計株式会社

### 上泉新田塚遺跡群

平成18年7月1日～平成19年3月31日 担当 木津博明主任専門員(総括)、桜岡正信専門員(総括)、長澤典子調査研究員

掘削請負 技研測量設計株式会社、測量委託 技研測量設計株式会社

平成19年4月1日～平成19年5月31日 担当 木津博明主任専門員(総括)、山田精一主任調査研究員  
掘削請負 技研測量設計株式会社、測量委託 技研測量設計株式会社

平成20年4月1日～平成20年6月30日 担当 木津博明主任専門員(総括)、齊藤 啓主任調査研究員  
掘削請負 技研測量設計株式会社、測量委託 技研測量設計株式会社

### 上泉武田遺跡

平成19年6月1日～平成19年12月31日 桜岡正信主任専門員(総括)、洞口正史主任専門員(総括)、友廣哲也主席専門員、新倉明彦主任専門員(総括)、弥城 淳調査研究員

掘削請負 技研測量設計株式会社、測量委託 株式会社シン技術コンサル

### 五代砂留遺跡群

平成19年2月1日～平成19年3月31日 担当 木津博明主任専門員(総括)、山田精一主任調査研究員  
掘削請負 株式会社シン技術コンサル、測量委託 技研測量設計株式会社

平成19年5月1日～平成20年3月31日 担当 木津博明主任専門員(総括)、新倉明彦主任専門員(総括)、山田精一主任調査研究員

掘削請負 技研測量設計株式会社、測量委託 技研測量設計株式会社

### 芳賀東部団地遺跡

平成19年5月22日～平成20年3月31日 担当 関 晴彦上席専門員、菊池 実主席専門員、新井 仁主任調査研究員  
掘削請負 技研測量設計株式会社、測量委託 技研測量設計株式会社

### 胴城遺跡

平成20年2月1日～平成20年3月31日 担当 高井佳弘主任調査研究員、宮下 寛調査研究員

掘削請負 技研測量設計株式会社、測量委託 技研測量設計株式会社

平成20年4月1日～平成20年10月7日 担当 女屋和志雄上席専門員、平井 敦主任調査研究員

掘削請負 株式会社シン技術コンサル、測量委託 技研測量設計株式会社

## 6 調査組織 財團法人群馬県埋蔵文化財調査事業団

- 7 整理主体 財團法人群馬県埋蔵文化財調査事業団  
8 整理期間 平成22年10月 日～平成23年11月30日  
9 本報告作成の担当者は次のとおりである。  
編集 関口博幸主任調査研究員(平成22年10月1日～平成23年3月31日：石器・接合資料観察)  
麻生敏隆上席専門員(平成23年4月1日～平成23年11月30日：原稿・編集)  
執筆 麻生敏隆上席専門員(第1章、第2章、第3章、第4章、第6章第1節)  
岩崎泰一上席専門員(第6章第1節：共同執筆)  
遺構写真 各遺跡・各担当者 遺物写真 佐藤元彦主幹  
遺物観察 岩崎泰一上席専門員、関口博幸主任調査研究員  
10 テフラ分析は、株式会社古環境研究所に委託した。(第5章第1節)  
11 黒曜石分析は、二宮修治氏(東京学芸大学)、建石徹氏(文化庁)、三浦麻衣子氏(東京学芸大学)に依頼した。(第5章第2節)  
12 結晶片岩に関する論考は、中島啓治氏(群馬大学非常勤講師)、中庄村八氏(群馬県立渋川清翠高等学校非常勤教諭)、保科裕氏(埼玉県立川越初雁高等学校教諭)に依頼した。(第6章第2節・第1項・第2項・第3項)  
13 石器石材の鑑定は、飯島静男氏(群馬地質研究会)に依頼した。  
14 出土遺物および遺構・遺物の図面・写真類は、一括して群馬県埋蔵文化財センターで保管している。  
15 それぞれの遺跡名称は、調査時点では「上泉新田塚遺跡群」、「上泉武田遺跡群」、「五代砂泊遺跡群」、「芳賀東部工業団地遺跡群」などと呼称されていた。  
16 本書の作成にあたっては、次の方に有益な指導と助言を賜った。記して感謝の意を表す次第である。  
小菅将夫(岩宿博物館館長)、大工原 豊(國學院大学)

## 凡 例

- 1 グリッドの設定、座標値の表記は、国家座標第IX系（世界測地系）を用いた。図中のグリッド番号は、Xグリッド、Yグリッドの交点を示したもので、グリッド番号は南東交点を基準とする。  
2 個々の石器にはそれぞれ固有の番号がついている。文章中、石器実測図、各種図表に記載されている石器番号は、石器に付けられたその固有の番号である。  
3 石器の実測図は原則として、主要石器の大部分が4/5、大型石器や接合資料が1/2の縮尺である。  
4 各遺跡・各文化層の石器・石材組成では、観察表に記載されている自然石については、人工物ではないということで、集計から除外している。  
5 本報告の中で使用した地図は、以下の通りである。  
国土地理院 200,000分の1『宇都宮』平成18年9月1日発行  
前橋市 2,500分の1『現形図』(42-2、43-1、43-2、44-3)  
6 本文中ににおいて記述されたテフラの名称は、以下による。

テフラ名	略号	給源	年代	テフラ名	略号	給源	年代
浅間板鼻黄色軽石	As-YP	浅間	15,000～16,000年前				
浅間大窪沢第1軽石	As-0k1	浅間	17,000年前	浅間白糸軽石	As-Sr	浅間	19,000年前
浅間板鼻褐色軽石群	As-BP	浅間	23,000～27,000年前(浅間室田軽石: As-UP; 浅間を下位に含む)				
始良Tn火山灰	AT	始良	29,000年前	棟名八崎火山灰	Hr-HA	棟名	32,000年前
赤城庭沼軽石	Ag-KP	赤城	34,000年前	棟名八崎軽石	Hr-HP	棟名	40,000年前
棟名湯の口軽石	Hr-UP	棟名	50,000年前				

# 目 次

## 口絵

序  
例言  
凡例  
目次  
図版目次  
表目次  
写真目次

## 第1章 発掘調査の概要

第1節 発掘調査に至る経緯	1
第2節 調査の方法と経過	2
第3節 グリッドの設定	6
第4節 旧石器時代の文化層	6
第5節 石器の器種分類	9

## 第2章 遺跡周辺の環境

第1節 地理的環境	11
第2節 基本上層	12
第3節 歴史的環境	15

## 第3章 各遺跡の遺構・遺物

第1節 上泉唐ノ堀遺跡	19
第2節 上泉新田塚遺跡群	47
第3節 上泉武田遺跡	75
第4節 五代砂留遺跡群	115
第5節 芳賀東部团地遺跡	175
第6節 脇城遺跡	245
遺物一覧表	261

## 第4章まとめと考察

第1節 各遺跡の様相	293
第2節 環状ブロック群の様相	314
第3節 土坑	320
第4節 磨群の様相	322
第5節 母岩分類	326

## 第5章 自然科学分析

第1節 テフラ分析	328
第2節 群馬県上武道路関連遺跡出土旧石器時代 黒曜石資料の産地分析	341

## 第6章 結晶片岩について

第1節 考古学からみた結晶片岩	347
第2節 地質からみた結晶片岩	353
第1項 赤城山南東麓の旧石器時代遺跡の結晶片岩謹	353
第2項 赤城火山形成史とその地下構造	358
第3項 旧石器時代遺跡にみいだされる 結晶片岩謹の供給源	362

## 写真図版(P L)

8工区全景	2
上泉唐ノ堀遺跡	4
上泉新田塚遺跡	13
上泉武田遺跡	17
五代砂留遺跡群	30
芳賀東部团地遺跡	47
脇城遺跡	68
片岩	71
抄録	
奥付	

# 図版目次

第1図 遺跡部位置図  
第2図 上武道路旧石器調査区  
第3図 大クーリット・中クーリット設定図  
第4図 基本上層図  
第5図 道跡群周辺地質図  
第6図 道跡群地形図  
第7図 周辺の旧石器時代遺跡分布図  
第8図 上泉唐ノ堀遺跡の文化層  
第9図 上泉唐ノ堀遺跡 石器分布状況  
第10図 上泉唐ノ堀遺跡 上層堆積状況  
第11図 上泉唐ノ堀遺跡 扯張6・7区石材別分布状況、扯張7区出土遺物  
第12図 上泉唐ノ堀遺跡 1~4号落ち込み

第13図 上泉唐ノ堀遺跡 扯張1・5区 出土遺物(1)  
第14図 上泉唐ノ堀遺跡 扯張1・5区 出土遺物(2)  
第15図 上泉唐ノ堀遺跡 扯張1・5区 出土遺物(3)  
第16図 上泉唐ノ堀遺跡 扯張1・5区 出土遺物(4)  
第17図 上泉唐ノ堀遺跡 扯張1・5区 出土遺物(5)  
第18図 上泉唐ノ堀遺跡 扯張1・5区 母岩別試料・接合資料(1)  
第19図 上泉唐ノ堀遺跡 扯張1・5区 母岩別試料・接合資料(2)  
第20図 上泉唐ノ堀遺跡 扯張1・5区 母岩別試料・接合資料(3)  
第21図 上泉唐ノ堀遺跡 扯張1・5区 母岩別試料・接合資料(4)  
第22図 上泉唐ノ堀遺跡 扯張1・5区 母岩別試料・接合資料(5)  
第23図 上泉唐ノ堀遺跡 扯張1・5区 母岩別試料・接合資料(6)  
第24図 上泉唐ノ堀遺跡 扯張1・5区 石器分布・垂直分布状況

第25回	上泉唐ノ屋遺跡	払張1・5区 瓷器別分布状況
第26回	上泉唐ノ屋遺跡	払張1・5区 石器別分布状況
第27回	上泉唐ノ屋遺跡	払張5区 接合資料の分布状況
第28回	上泉唐ノ屋遺跡	払張1・5区 梗合資料の分布状況
第29回	上泉唐ノ屋遺跡	結晶片岩の分布状況
第30回	上泉新田塙遺跡群	文化層
第31回	上泉新田塙遺跡群	石器分布状況
第32回	上泉新田塙遺跡群	土層堆積状況
第33回	上泉新田塙遺跡群	第1文化層 出土遺物
第34回	上泉新田塙遺跡群	第1文化層払張2区 器種別分布・石材別分布状況
第35回	上泉新田塙遺跡群	1号・2号落込み
第36回	上泉新田塙遺跡群	第2文化層 出土遺物
第37回	上泉新田塙遺跡群	第2文化層 石器分布・垂直分布状況
第38回	上泉新田塙遺跡群	第2文化層払張3区 器種別分布・石材別分布状況
第39回	上泉新田塙遺跡群	第2文化層払張4区 石材別分布状況
第40回	上泉新田塙遺跡群	第3文化層 出土遺物(1)
第41回	上泉新田塙遺跡群	第3文化層 出土遺物(2)
第42回	上泉新田塙遺跡群	第3文化層 出土遺物(3)
第43回	上泉新田塙遺跡群	第3文化層 母岩別資料・接合資料(1)
第44回	上泉新田塙遺跡群	第3文化層 母岩別資料・接合資料(2)
第45回	上泉新田塙遺跡群	第3文化層 母岩別資料・接合資料(3)
第46回	上泉新田塙遺跡群	第3文化層 石器分布・垂直分布状況
第47回	上泉新田塙遺跡群	第3文化層払張3区 器種別分布・石材別分布状況
第48回	上泉新田塙遺跡群	第3文化層払張4区 器種別分布状況
第49回	上泉新田塙遺跡群	第3文化層払張4区 石器別分布状況
第50回	上泉新田塙遺跡群	第3文化層払張3区 接合資料の分布状況
第51回	上泉新田塙遺跡群	第3文化層払張4区 接合資料の分布状況
第52回	上泉新田塙遺跡群	結晶片岩の分布状況
第53回	上泉武田遺跡群	文化層
第54回	上泉武田遺跡群	石器分布状況
第55回	上泉武田遺跡群	土層堆積状況
第56回	上泉武田遺跡群	第1文化層 出土遺物
第57回	上泉武田遺跡群	第2文化層 出土遺物
第58回	上泉武田遺跡群	第2文化層 母岩別資料・接合資料
第59回	上泉武田遺跡群	第2文化層 石器分布・垂直分布状況
第60回	上泉武田遺跡群	第2文化層 開槽別分布状況
第61回	上泉武田遺跡群	第2文化層 石材別分布・接合資料の分布状況
第62回	上泉武田遺跡群	第3文化層 出土遺物(1)
第63回	上泉武田遺跡群	第3文化層 出土遺物(2)
第64回	上泉武田遺跡群	第3文化層 出土遺物(3)
第65回	上泉武田遺跡群	第3文化層 出土遺物(4)
第66回	上泉武田遺跡群	第3文化層 出土遺物(5)
第67回	上泉武田遺跡群	第3文化層 出土遺物(6)
第68回	上泉武田遺跡群	第3文化層 出土遺物(7)
第69回	上泉武田遺跡群	第3文化層 母岩別資料・接合資料(1)
第70回	上泉武田遺跡群	第3文化層 母岩別資料・接合資料(2)
第71回	上泉武田遺跡群	第3文化層 母岩別資料・接合資料(3)
第72回	上泉武田遺跡群	第3文化層 母岩別資料・接合資料(4)
第73回	上泉武田遺跡群	第3文化層 母岩別資料・接合資料(5)
第74回	上泉武田遺跡群	第3文化層 母岩別資料・接合資料(6)
第75回	上泉武田遺跡群	第3文化層 母岩別資料・接合資料(7)
第76回	上泉武田遺跡群	第3文化層 母岩別資料・接合資料(8)
第77回	上泉武田遺跡群	第3文化層 母岩別資料・接合資料(9)
第78回	上泉武田遺跡群	第3文化層 母岩別資料・接合資料(10)
第79回	上泉武田遺跡群	第3文化層 母岩別資料・接合資料(11)
第80回	上泉武田遺跡群	石器分布・垂直分布状況
第81回	上泉武田遺跡群	器種別分布状況(1)
第82回	上泉武田遺跡群	器種別分布状況(2)
第83回	上泉武田遺跡群	第3文化層 石器別分布・配石状況
第84回	上泉武田遺跡群	接合資料の分布状況(1)
第85回	上泉武田遺跡群	接合資料の分布状況(2)
第86回	上泉武田遺跡群	接合資料の分布状況(3)
第87回	上泉武田遺跡群	第3文化層 結晶片岩の分布状況
第88回	五代砂留遺跡群	文化層
第89回	五代砂留遺跡群	石器分布状況
第90回	五代砂留遺跡群	土層堆積状況
第91回	五代砂留遺跡群	払張6区 出土遺物
第92回	五代砂留遺跡群	払張6区 石器分布・垂直分布・器種別分布状況
第93回	五代砂留遺跡群	払張3区 落ち込み
第94回	五代砂留遺跡群	払張3区 出土遺物
第95回	五代砂留遺跡群	払張3区 石器分布・垂直分布状況
第96回	五代砂留遺跡群	払張3区 器種別分布状況
第97回	五代砂留遺跡群	払張3区 石材別分布状況
第98回	五代砂留遺跡群	払張3区 接合資料の分布状況
第99回	五代砂留遺跡群	払張1区 石器分布・垂直分布状況
第100回	五代砂留遺跡群	払張5区 出土遺物
第101回	五代砂留遺跡群	母岩別資料・接合資料(1)
第102回	五代砂留遺跡群	母岩別資料・接合資料(2)
第103回	五代砂留遺跡群	母岩別資料・接合資料(3)
第104回	五代砂留遺跡群	石器分布・垂直分布状況
第105回	五代砂留遺跡群	器種別分布・石材別分布状況
第106回	五代砂留遺跡群	接合資料の分布状況
第107回	五代砂留遺跡群	出土遺物(1)
第108回	五代砂留遺跡群	出土遺物(2)
第109回	五代砂留遺跡群	出土遺物(3)
第110回	五代砂留遺跡群	出土遺物(4)
第111回	五代砂留遺跡群	出土遺物(5)
第112回	五代砂留遺跡群	出土遺物(6)
第113回	五代砂留遺跡群	出土遺物(7)
第114回	五代砂留遺跡群	出土遺物(8)
第115回	五代砂留遺跡群	出土遺物(9)
第116回	五代砂留遺跡群	出土遺物(10)
第117回	五代砂留遺跡群	出土遺物(11)
第118回	五代砂留遺跡群	出土遺物(12)
第119回	五代砂留遺跡群	出土遺物(13)
第120回	五代砂留遺跡群	出土遺物(14)
第121回	五代砂留遺跡群	出土遺物(15)
第122回	五代砂留遺跡群	出土遺物(16)
第123回	五代砂留遺跡群	母岩別資料・接合資料(1)
第124回	五代砂留遺跡群	母岩別資料・接合資料(2)
第125回	五代砂留遺跡群	母岩別資料・接合資料(3)
第126回	五代砂留遺跡群	母岩別資料・接合資料(4)
第127回	五代砂留遺跡群	母岩別資料・接合資料(5)
第128回	五代砂留遺跡群	母岩別資料・接合資料(6)
第129回	五代砂留遺跡群	母岩別資料・接合資料(7)
第130回	五代砂留遺跡群	石器分布・垂直分布状況
第131回	五代砂留遺跡群	器種別分布状況(1)
第132回	五代砂留遺跡群	器種別分布状況(2)
第133回	五代砂留遺跡群	器種別分布状況(3)
第134回	五代砂留遺跡群	器種別分布状況(4)
第135回	五代砂留遺跡群	石材別分布状況
第136回	五代砂留遺跡群	接合資料の分布状況(1)
第137回	五代砂留遺跡群	接合資料の分布状況(2)
第138回	五代砂留遺跡群	接合資料の分布状況(3)
第139回	五代砂留遺跡群	結晶片岩の分布状況
第140回	芳賀東部圧地遺跡	文化層
第141回	芳賀東部圧地遺跡	石器分布状況
第142回	芳賀東部圧地遺跡	土層堆積状況
第143回	芳賀東部圧地遺跡	B区 土層堆積状況
第144回	芳賀東部圧地遺跡	E区 土層堆積状況
第145回	芳賀東部圧地遺跡	D区 磚分布・垂直分布状況
第146回	芳賀東部圧地遺跡	D区 集石・集石上坑
第147回	芳賀東部圧地遺跡	I区 磚分布状況
第148回	芳賀東部圧地遺跡	I区 出土遺物(1)
第149回	芳賀東部圧地遺跡	I区 出土遺物(2)
第150回	芳賀東部圧地遺跡	I区 出土遺物(3)
第151回	芳賀東部圧地遺跡	I区 出土遺物(4)
第152回	芳賀東部圧地遺跡	I区 出土遺物(5)
第153回	芳賀東部圧地遺跡	I区 母岩別資料・接合資料(1)
第154回	芳賀東部圧地遺跡	I区 母岩別資料・接合資料(2)
第155回	芳賀東部圧地遺跡	I区 母岩別資料・接合資料(3)
第156回	芳賀東部圧地遺跡	I区 母岩別資料・接合資料(4)
第157回	芳賀東部圧地遺跡	I区 石器分布・垂直分布状況
第158回	芳賀東部圧地遺跡	I区 器種別分布状況
第159回	芳賀東部圧地遺跡	I区 石材別分布状況
第160回	芳賀東部圧地遺跡	I区 接合資料の分布状況
第161回	芳賀東部圧地遺跡	B区 出土遺物(1)

第162回	方賀東部組地道路	B区	出土遺物(2)
第163回	方賀東部組地道路	B区	出土遺物(3)
第164回	方賀東部組地道路	B区	母岩別資料・接合資料(1)
第165回	方賀東部組地道路	B区	母岩別資料・接合資料(2)
第166回	方賀東部組地道路	B区	母岩別資料・接合資料(3)
第167回	方賀東部組地道路	B区	接合資料(4)
第168回	方賀東部組地道路	B区	石器分布・垂直分布状況
第169回	方賀東部組地道路	B区	器種別分布状況
第170回	方賀東部組地道路	B区	石材別分布状況
第171回	方賀東部組地道路	B区	接合資料の分布状況
第172回	方賀東部組地道路	B区	結晶片岩の分布状況
第173回	方賀東部組地道路	E区	出土遺物(1)
第174回	方賀東部組地道路	E区	出土遺物(2)
第175回	方賀東部組地道路	E区	出土遺物(3)
第176回	方賀東部組地道路	E区	出土遺物(4)
第177回	方賀東部組地道路	E区	出土遺物(5)
第178回	方賀東部組地道路	E区	出土遺物(6)
第179回	方賀東部組地道路	E区	母岩別資料・接合資料(1)
第180回	方賀東部組地道路	E区	母岩別資料・接合資料(2)
第181回	方賀東部組地道路	E区	母岩別資料・接合資料(3)
第182回	方賀東部組地道路	E区	母岩別資料・接合資料(4)
第183回	方賀東部組地道路	E区	母岩別資料・接合資料(5)
第184回	方賀東部組地道路	E区	母岩別資料・接合資料(6)
第185回	方賀東部組地道路	E区	母岩別資料・接合資料(7)
第186回	方賀東部組地道路	E区	母岩別資料・接合資料(8)
第187回	方賀東部組地道路	E区	母岩別資料・接合資料(9)
第188回	方賀東部組地道路	E区	母岩別資料・接合資料(10)
第189回	方賀東部組地道路	E区	母岩別資料・接合資料(11)
第190回	方賀東部組地道路	E区	母岩別資料・接合資料(12)
第191回	方賀東部組地道路	E区	母岩別資料・接合資料(13)
第192回	方賀東部組地道路	E区	母岩別資料・接合資料(14)
第193回	方賀東部組地道路	E区	石器分布・垂直分布状況
第194回	方賀東部組地道路	E区	器種別分布状況
第195回	方賀東部組地道路	E区	石材別分布状況
第196回	方賀東部組地道路	E区	接合資料の分布状況(1)
第197回	方賀東部組地道路	E区	接合資料の分布状況(2)
第198回	方賀東部組地道路	E区	接合資料の分布状況(3)
第199回	方賀東部組地道路	E区	接合資料の分布状況(4)
第200回	制城道路の文化層		
第201回	制城道路	石器分布状況	
第202回	制城道路	上層堆積状況	
第203回	制城道路	出土遺物(1)	
第204回	制城道路	出土遺物(2)	
第205回	制城道路	母岩別資料・接合資料(1)	
第206回	制城道路	母岩別資料・接合資料(2)	
第207回	制城道路	石器分布・垂直分布状況	
第208回	制城道路	器種別分布状況	
第209回	制城道路	石材別分布状況	
第210回	制城道路	接合資料の分布状況	
第211回	制城道路	疊分布・石材別分布状況	
第212回	群馬の臼石器編年(開口2010より引用)		
第213回	群馬の臼石器時代石器群の変遷(開口2010より引用)		
第214回	上泉店ノ堀道路跡地盤1・5区のブロック別分布図		
第215回	上泉新田塙道路群第2文化層のブロック別分布図		
第216回	上泉新田塙道路群第3文化層のブロック別分布図		
第217回	上泉武田道路第2文化層のブロック別分布図		
第218回	上泉武田道路第3文化層のブロック別分布図		
第219回	五井砂留道路群縫合段のブロック別分布図		
第220回	芳賀東部組地道路1区のブロック別分布図		
第221回	芳賀東部組地道路B区のブロック別分布図		
第222回	芳賀東部組地道路E区のブロック別分布図		
第223回	道筋内変遷図(1)		
第224回	道筋内変遷図(2)		
第225回	自然科學分析試料採取位置図		
第226回	J-19トレンチの土層柱状図		
第227回	I区第2トレンチ上方地の土層柱状図		
第228回	I区第2トレンチ下方地の土層柱状図		
第229回	プレハブ東調査区北壁の土層柱状図		
第230回	北西部調査区深掘トレンチの土層柱状図		
第231回	J-19トレンチの火山ガラス比ダイヤグラム		
第232回	I区第2トレンチ上方地の火山ガラス比ダイヤグラム		
第233回	I区第2トレンチ下方地の火山ガラス比ダイヤグラム		
第234回	B区1トレンチの土層柱状図		
第235回	B区2トレンチの土層柱状図		
第236回	B区7トレンチの土層柱状図		
第237回	C区南北ベルトの土層柱状図		
第238回	C区2トレンチ南壁の土層柱状図		
第239回	C区17トレンチ南壁の土層柱状図		
第240回	D区2トレンチ東壁の土層柱状図		
第241回	D区2トレンチ東壁南側の土層柱状図		
第242回	C区17トレンチの火山ガラス比ダイヤグラム		
第243回	D区2トレンチ東壁試料1(lg-9)の火山ガラス比ダイヤグラム		重鉛物組成を含む
第244回	開口周辺の黒曜石原産地位置図		
第245回	クラスター分析の結果(平方ユクリッド距離・最遠距離法)		
第246回	富谷宮下道路の結晶片岩分布・垂直分布状況		
第247回	群馬県の地質概要		
第248回	本州中央部の地質構造		
第249回	赤城火山周辺域の地質構造		
第250回	赤城火山直下の基盤層と高線と地質断面図		
第251回	赤城火山発生直後の復元地図		
第252回	ボーリングおよび物理探査データにより暫定的に推定された関東野外地における新第三系地体構造区分		
第253回	Geological map of the Ayukawa-Sanbagawa area. S-s; Shibadaira synform A-a; Ayukawa antiform. 4 D-s; Osojini synform. Sn-a; Sanbagawa antifm. 矢野・田切 1998のFig2を引用		

## 表 目 次

第1表	各遺跡に認められる文化層
第2表	周辺道路
第3表	上泉店ノ堀道路 第1文化層 組成表
第4表	上泉店ノ堀道路 第3文化層 組成表
第5表	上泉新田塙道路群 第1文化層 組成表
第6表	上泉新田塙道路群 第2文化層 抵張3区組成表
第7表	上泉新田塙道路群 第2文化層 抵張4区組成表
第8表	上泉新田塙道路群 第3文化層 抵張3区組成表
第9表	上泉新田塙道路群 第3文化層 抵張4区組成表
第10表	上泉武田道路 第1文化層 組成表
第11表	上泉武田道路 第2文化層 組成表
第12表	上泉武田道路 第3文化層 組成表
第13表	五代砂留道路群 第1文化層 抵張3・6区組成表
第14表	五代砂留道路群 第2文化層 抵張1区組成表
第15表	五代砂留道路群 第3文化層 抵張5区組成表
第16表	五代砂留道路群 第3文化層 抵張7区組成表
第17表	芳賀東部組地道路 第1文化層 D区組成表
第18表	芳賀東部組地道路 第1文化層 I区組成表

第19回	芳賀東部組地道路 第2文化層 B区組成表
第20回	芳賀東部組地道路 第2文化層 E区組成表
第21回	制城道路 第1文化層 組成表
第22回	制城道路 疊分布・自然石組成表
第23回	出土石器一覧表
第24回	群馬県内環状ブロック群検出道路一覧表
第25回	群馬県内日石器時代道路縲群等一覧表
第26回	上泉武田道路火山ガラス比分析結果
第27回	上泉武田道路折衝率測定結果
第28回	芳賀東部組地道路火山ガラス比分析結果
第29回	芳賀東部組地道路重鉛物組成分析結果
第30回	芳賀東部組地道路テフラ輸出分析結果
第31回	芳賀東部組地道路延折率測定結果
第32回	電光X線分析の測定条件
第33回	東日本の主な產地黒曜石の6元素組成
第34回	產地分析の結果
第35回	上武道路田石器時代道路群黒曜石原産地一覧表
第36回	上武旧石器(1) (2)、片岩類縲括表

# 写真目次

P L 1	芳賀東部团地跡遺況(東から権名山を望む。 (平成23年12月撮影)	P L 31	五代砂留遺跡群	1 拡張6区炭化物検出状況(北から) 2 拡張6区落ち込み(北から) 3 拡張3区落ち込み(北から) 4 拡張3区遺物出土状況(北から) 5 拡張5区1面遺物出土状況(北東から) 6 拡張5区2面遺物出土状況(北東から) 7 拡張5区遺物出土状況(東から) 8 拡張5区遺物出土状況(南東から)
P L 2	1 遺跡群遺跡西側(南から) 2 遺跡群遺跡(西から)	P L 32	五代砂留遺跡群	出土遺物(1) 出土遺物(2) 出土遺物(3) 出土遺物(4) 出土遺物(5) 出土遺物(6) 出土遺物(7) 出土遺物(8) 出土遺物(9) 出土遺物(10) 出土遺物(11) 出土遺物(12) 出土遺物(13) 出土遺物(14) 出土遺物(15)
P L 3	1 遺跡群遺跡東側(南から) 2 遺跡群遺跡(東から)	P L 33	五代砂留遺跡群	1 B区試掘トレンチ5西壁セクション (東から) 2 E区南壁セクション(東から) 3 I区試掘トレンチ9南壁セクション (北から) 4 D区集石確認状況(西から) 5 D区集石検出状況(南東から) 6 D区遺物検出状況(北から) 7 D区集石1堆(北から) 8 B区南壁遺物出土状況(東から)
P L 4	1 南壁セクション(北から) 2 北壁セクション(南東から) 3 遺跡景観(南から)	P L 34	五代砂留遺跡群	1 B区全量(西から) 2 E区遺物出土状況(北から) 3 E区全量遺物出土状況(北から) 4 I区試掘トレンチ6遺物出土状況 (北から) 5 I区試掘トレンチ6拡張遺物出土状況 (北から)
P L 5	1 上泉唐ノ堀遺跡	P L 35	五代砂留遺跡群	
P L 6	1 上泉唐ノ堀遺跡	P L 36	五代砂留遺跡群	
P L 7	1 遺物出土状況(南から) 2 遺物出土状況(西から) 3 遺物出土状況(南東から) 4 遺物出土状況(東から) 5 遺物出土状況(北東から) 6 遺物出土状況(東から) 7 局部磨石石斧出土状況(北から) 8 結晶片岩類出土状況(北から)	P L 37	五代砂留遺跡群	
P L 8	出土遺物(1)	P L 38	五代砂留遺跡群	
P L 9	出土遺物(2)	P L 39	五代砂留遺跡群	
P L 10	出土遺物(3)	P L 40	五代砂留遺跡群	
P L 11	出土遺物(4)	P L 41	五代砂留遺跡群	
P L 12	出土遺物(5)	P L 42	五代砂留遺跡群	
P L 13	1 上泉新田塙跡群 1 試掘トレンチ68-G-4 南壁セクション (北から) 2 2号落ち込み(北から) 3 1号落ち込み炭化物検出状況(北から) 4 1号落ち込み(北から) 5 拡張3区第2文化層遺物出土状況 (北西から) 6 拡張3区第3文化層遺物出土状況 (北西から) 7 78-T-17遺物出土状況(東から) 8 拡張4区遺物出土状況(南から)	P L 43	芳賀東部团地跡	
P L 14	出土遺物(1)	P L 44	芳賀東部团地跡	
P L 15	出土遺物(2)	P L 45	芳賀東部团地跡	
P L 16	出土遺物(3)	P L 46	芳賀東部团地跡	
P L 17	出土遺物(4)	P L 47	芳賀東部团地跡	
P L 18	1 上泉武田遺跡	P L 48	芳賀東部团地跡	
P L 19	1 遺跡遺景(南から) 2 遺跡遺景(南東から)	P L 49	芳賀東部团地跡	
P L 20	1 上泉新田塙跡群 1 試掘トレンチ78-G 19遺物出土状況(南から) 2 第2文化層遺物出土状況(南から) 3 第2文化層遺物出土状況(西から) 4 第3文化層遺物出土状況(北西から) 5 第3文化層遺物出土状況(北西から) 6 第3文化層遺物出土状況(北東から) 7 第3文化層遺物出土状況(南から) 8 作業風景(南から)	P L 50	芳賀東部团地跡	
P L 21	出土遺物(1)	P L 51	芳賀東部团地跡	
P L 22	出土遺物(2)	P L 52	芳賀東部团地跡	
P L 23	出土遺物(3)	P L 53	芳賀東部团地跡	
P L 24	出土遺物(4)	P L 54	芳賀東部团地跡	
P L 25	出土遺物(5)	P L 55	芳賀東部团地跡	
P L 26	出土遺物(6)	P L 56	芳賀東部团地跡	
P L 27	出土遺物(7)	P L 57	芳賀東部团地跡	
P L 28	出土遺物(8)	P L 58	芳賀東部团地跡	
P L 29	出土遺物(9)	P L 59	芳賀東部团地跡	
P L 30	出土遺物(10)	P L 60	芳賀東部团地跡	
	1 遺跡遺景(南から) 2 試掘トレンチ33-M-15南壁セクション (北から)	P L 61	芳賀東部团地跡	
		P L 62	芳賀東部团地跡	
		P L 63	芳賀東部团地跡	
		P L 64	芳賀東部团地跡	
		P L 65	芳賀東部团地跡	
		P L 66	芳賀東部团地跡	
		P L 67	芳賀東部团地跡	
		P L 68	胸城道路	
		P L 69	胸城道路	
		P L 70	胸城道路	
		P L 71	結晶片岩(1)上泉唐ノ堀・上泉新田塙	
		P L 72	結晶片岩(2)上泉武田	
		P L 73	結晶片岩(3)上泉武田・五代砂留・芳賀東部 团地・胸城	
		P L 74	結晶片岩(4)胸城	

# 第1章 発掘調査の概要

## 第1節 発掘調査に至る経緯

上武道路は、東京圏と群馬県を結ぶ広域ネットワークを形成しており、前橋市や太田市、伊勢崎市などの市街地の渋滞緩和と地域活性化を図るために計画されたものである。地域高規格道路「熊谷渋川連絡道路」に位置付けられており、埼玉県熊谷市で深谷バイパスから分岐して北上し、群馬県太田市、伊勢崎市を経て前橋市田口町で再び国道17号に接続する総延長40.5kmに及ぶ一般国道17号の大規模バイパスである。現国道17号より以西は、前橋市田口町から渋川市半田までの5.7kmが前橋渋川バイパス、さらに渋川市東町閑下から同市上白井までの5.5kmは鰐沢バイパスとして供用が開始されている。

上武道路の建設が計画された地域は、関東平野の北西部から赤城山南面の山麓縁辺にかけてであり、埋蔵文化財の最も濃密に分布する地域の一つである。上武道路の建設計画が出された段階で群馬県教育委員会は、計画路線に沿った幅2kmの範囲の遺跡分布調査を行い472カ所の埋蔵文化財包蔵地を確認した。この結果をもとに建設省と群馬県教育委員会の間で協議が重ねられ、重要遺跡を路線からはずして現状保存をはかることとし、埋蔵文化財包蔵地57地点について、工事着工前に埋蔵文化財の発掘調査が必要であることを確認し、全路線が発表されたのが昭和46年11月のことである。昭和47年度には、開通が急がれた第I期工事区間である新田郡尾島町(現太田市尾島町)から前橋市二之宮町の国道50号までの発掘調査の実施に関して、建設省関東地方建設局高崎工事事務所、群馬県企画部幹線交通課上武対策係、群馬県教育委員会文化財保護課の三者で協議が行われた。その結果、路線内の発掘調査が実施されることになり、昭和48年4月1日付けで建設省関東地方建設局長と群馬県教育委員会教育長の間で「一般国道17号(上武道路)改築工事に伴う埋蔵文化財発掘調査の実施に関する協定書」が締結され、この協定書にもとづき建設省と群馬県教育委員会の間で発掘調査の委託契約が締結し、昭和49年1月から、群馬県教育委員会によって伊勢崎市三和町、新田郡新田町下江田前(現太田市新田町下江田)から順次発掘調査が進められた。その後、昭和53年度には財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団(以下、事業団と呼ぶ)が設立され、発掘調査は事業団に引き継がれた。第I期工事区の調査は、昭和63年度には調査対象となった35遺跡、534,000m<sup>2</sup>の発掘調査がすべて終了し、平成7年度末までに26冊の発掘調査報告書が刊行された。

統いて、国道50号(前橋市今井町)から主要地方道前橋大間々桐生線(前橋市上泉町)までの4.9km区間がII期工事区(7工区)として事業化された。7工区の発掘調査は、平成11年4月1日付けで国土交通省関東地方整備局(以下、国土交通省と呼ぶ)、群馬県教育委員会(以下、県教育委員会と呼ぶ)、事業団の三者間で締結された「一般国道17号(上武道路)改築工事に伴う埋蔵文化財発掘調査(その1)の実施に関する協定書」にもとづき、平成11年度から事業団によって着手された。平成14年度には、国土交通省、県教育委員会、事業団の三者は、平成14年4月1日付けで「一般国道17号(上武道路)改築工事に伴う埋蔵文化財発掘調査(その2)の実施に関する協定書(以下、「協定書その2」と呼ぶ)」を締結し、これにより萱野Ⅱ遺跡以北の発掘調査が開始された。こうして7工区の発掘調査が順調に進捗していく一方、平成17年度には、国土交通省から主要地方道前橋西久保線までの区間暫定供用を開始する旨の提示があり、「協定書その2」の変更契約を結んでこれに対応した。最終的にII期工事区では、平成11年度から平成16年度にわたって17遺跡、288,873.3m<sup>2</sup>が発掘調査され、平成21年度末までに16冊の発掘調査報告書としてまとめられた。

平成18年度には、最終工区となる前橋市上泉町から現国道17号(前橋市田口町)の第III期工事区(8工区)が事業化された。平成18年2月16日付けで、「一般国道17号(上武道路)改築工事に伴う埋蔵文化財発掘調査(その3)の実施に関する協定書」が、国土交通省、県教育委員会、事業団の三者間で締結され、埋蔵文化財発掘調査を実施することが正式決定された。31遺跡、400,000m<sup>2</sup>を対象として、平成18年7月から上泉唐ノ堀遺跡、上泉新田塚遺跡群から西に向かって順次発掘調査が開始され、現在(平成24年3月)に至っている。

## 第2節 調査の方法と経過

### 1 調査の方法

本報告書に掲載した上泉唐ノ堀遺跡、上泉新田塚遺跡群、上泉武田遺跡、五代砂留遺跡群、芳賀東部団地遺跡、胴城遺跡の6遺跡は、平成18年度から平成20年度にかけて発掘調査が行われた。

発掘調査はいずれの遺跡においても、掘削重機によって表土を全面的に除去した後に縄文時代以降の遺構確認を行い、調査が終了した地点から旧石器時代を対象とした試掘調査を行った。

試掘調査は、原則として10m×10mの小グリッド内に2m×4mのトレンチを10mピッチで設定し、対象となる遺跡全体に均等になるように配置し、しかも試掘対象面積の少なくとも8%の確認に努めた。試掘のための掘削は、ローム層への漸移層またはローム層最上層から暫時掘り下げ、基本的にHr~HPを面的に確認するまで行い、石器の出土層位と出土範囲を把握することに努めた。

旧石器時代の本調査は、試掘調査において石器が出土したトレンチを中心として石器の分布状況を把握することに留意しながら、石器の広がりが途切れる地点までトレンチを拡張し、石器出土範囲を確定した。また、石器出土層位がローム層上面から深い場合は、石器を含まないことが判明した上位の層を掘削重機によって除去し、作業の効率化を図った。

出土した石器については、基本的に全点番号を付し、出土地点、出土標高、出土層位を記録して取り上げた。ただし、文化層の把握については、各遺跡における出土状況に応じて個々に設定をしたために、基本土層における文化層の認定が異なってしまったものがある。また、炭化物等の分布が確認された場合には、石器と同様に出土地点などに関する情報を記録し、一部をサンプリングした。さらに、一部の遺跡においては微細な遺物の存在が予想されたため、石器分布の中心部分の土壤を探取し水洗選別を行うことで、多量の剥片や石片を回収した。

### 2 調査の経過

旧石器時代の調査は、いずれの遺跡においても基本的に上述のような経過で推移したが、遺跡ごとに簡潔に進行状況について記述する。

#### 上泉唐ノ堀遺跡

平成18年度

7月 土地番号1・8・9の範囲の調査開始。

8月 同範囲について、縄文時代の遺構調査を終了。旧石器時代確認のための試掘トレンチを設定し、調査を開始。  
47-G-17～47-L-15グリッドにおいて、As-BP上層で炭化物を検出した。

9月 47-H-17グリッドにおいて暗色帯から石器が出土し、周辺部へと拡張して調査を進めた。その結果、XI層上面で土坑とされたものが3基検出された。

10月 拡張4区と拡張2区で石器が出土。

11月 暗色帯中から局部磨製石斧が出土。

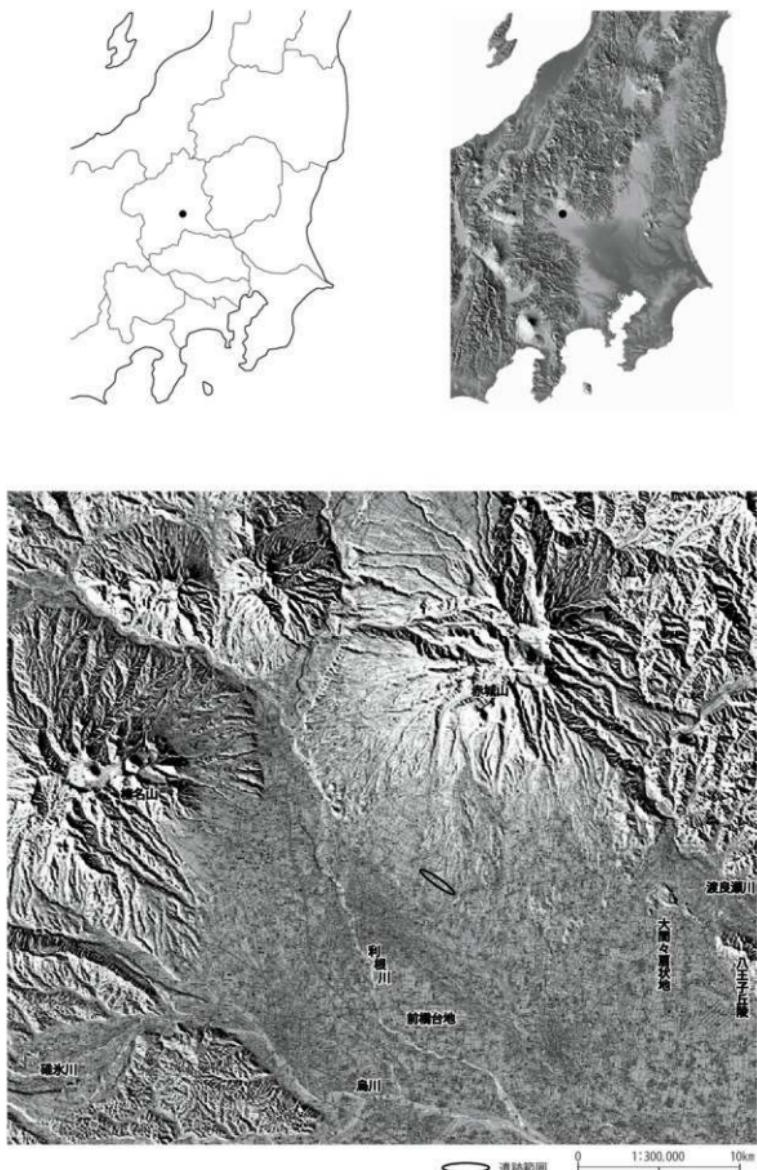
12月 88-T-11グリッドにおいて、As-SP下位から石器出土。

2月 88-S-9グリッドのIV～VI層下部から石器出土。

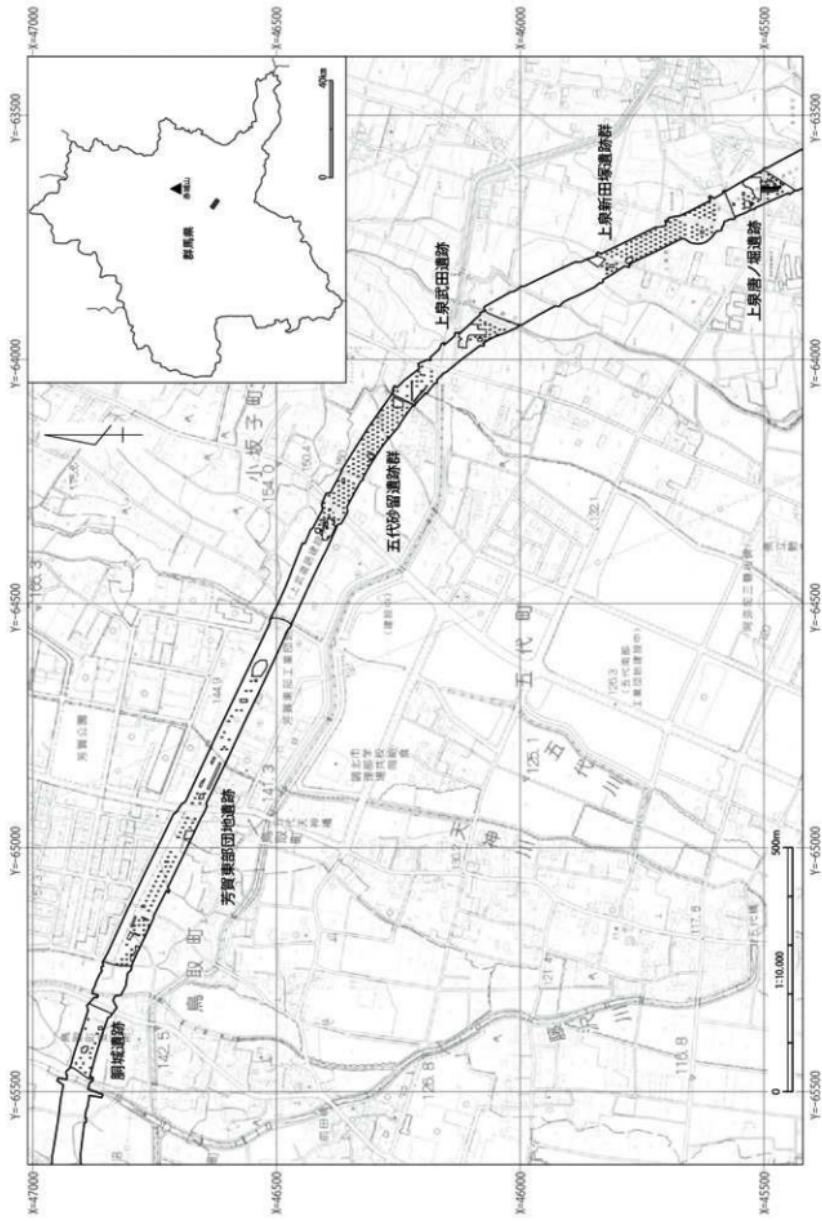
3月 第3拡張区の調査を行う。

平成20年度

5月 土地番号5・6・7において試掘調査を行った結果、石器の出土はみられなかった。



第1図 遺跡群位置図



第2図 上武道路旧石器調査区

## 上泉新田塚遺跡群

## 平成18年度

- 7月 土地番号12・18について11月までの調査で、石器1点を検出した。土地番号14・17・19について10月まで調査を行った結果、石器1点を検出した。
- 11月 土地番号20・23・24・25・28・30～33・36・37について調査を開始し、異なる3時期の石器群を検出した。
- 2月 調査区西側を中心に遺物出土地点周辺の拡張を行った。
- 3月 拡張調査を継続。

## 平成19年度

- 4月 土地番号10・11・26・29・34・38について5月まで調査し、石器出土は確認されなかった。

## 上泉武田遺跡

## 平成19年度

- 6月 土地番号56～68について調査開始。I区でAs-BP層下位から石器が多数出土。
- 9月 II区でAs-BP層上位から石器の出土を確認。
- 10月 II区でもI区と同様にAs-BP層下位から石器が出土。III・IV区では石器出土は確認されなかった。

## 五代砂留遺跡群

## 平成19年度

- 5月 土地番号69～98・100～104・109～117の調査を開始。
- 7月 1区の旧石器時代調査を開始。
- 8月 2区の旧石器時代調査を開始。
- 11月 台地中央部でAs-BP層上位から石器が出土。
- 2月 西側調査区台地部分の調査で、暗色帶上層から石器が出土。
- 3月 東側調査区東端部で、As-BP層下位で石器が出土し、グリッドの拡張を行った。

## 芳賀東部団地遺跡(鳥取松合下遺跡を含む)

## 平成19年度

- 5月 土地番号118・119・122～129・133～139・141～144・146・147・149～157の調査を開始。
- 9月 C区とD区の旧石器時代調査を開始。D区においてAs-BP層直下から疊群が出土。
- 10月 B区の調査において石器が多数出土し、11月にかけて調査を進めた。併せてE区とI区の調査を進め、石器が多数出土したため拡張を行った。

## 胴城遺跡

## 平成20年度

- 2月 土地番号178・180・181・183の調査開始。当該年度においては旧石器の確認はなし。
- 平成20年度
- 5月 土地番号177～183について調査を再開。
- 6月 暗色帶下部から結晶片岩類が出土。
- 8月 As-YP層下位からナイフ形石器などが出土し、グリッドの拡張を行った。

### 第3節 グリッドの設定

グリッドの設定は、国家座標第IX系(世界測地系)を利用した。大グリッドー中グリッドー小グリッドという方式で設定した。この方式は上武道路調査遺跡の統一仕様であり、各遺跡ともにこれに従った。

まず、8工区の起点となる上泉唐ノ堀遺跡の国家座標第IX系(世界測地系)X=45.000、Y=-63.000を基点としてこれより以西の上武道路調査遺跡すべて網羅する大グリッドを設定した。大グリッドは、1区画が東西1,000m×1,000mの大きさとした。大グリッドには、南から北へ順次No 1・2・3というかたちで番号を付けた。各遺跡を包括する大グリッドは、上泉唐ノ堀遺跡はNo 1、上泉新田塚遺跡群はNo 1、上泉武田遺跡はNo 2・3、五代砂留遺跡群はNo 3、芳賀東部团地遺跡はNo 3・4、胴城遺跡はNo 4である。

次に、大グリッドの中に1区画100m×100mの大きさとなる中グリッドを設定した。大グリッドの中は計100個の中グリッドに分割した。また、中グリッドには南東隅の中グリッドを基点(No 1)として、東側から西側へ番号を付けた。南側の最下段がNo 1～10、次に北側に移りNo 11～20、そして北側の最上段がNo 91～100というかたちで、合計100個の番号を付けた。各大グリッドには同じ番号の中グリッドが繰り返し存在するため、中グリッドの表記は8-93、8-4などのように大グリッドー中グリッドの組み合わせとした。

さらに、100m四方の中グリッドの中に、1区画5m×5mの大きさとなる小グリッドを設定した。一つの中グリッドは計400個の小グリッドに分割され、この小グリッドが、実際の発掘調査において最小単位となるグリッドである。

グリッドは、中グリッドの南東隅のXY座標交点を基点とし、X座標をYグリッド軸、Y座標をXグリッド軸とした。X座標(Yグリッド軸)には、5m間隔で南側から北側へ1・2・3というかたちで20までの計20個の算用数字を付けた。(例:X=44900には1、X=44905には2、X=44910には3)。

Y座標(Xグリッド軸)には、5m間隔で東側から西側へA・B・CというかたちでTまでの計20個のアルファベットを付けた。(例:Y=-63300にはA、Y=-63305にはB、Y=-63310にはC)。

グリッド番号は、Xグリッド軸とYグリッド軸の南東交点を基準として(Xグリッド-Yグリッド)とし、アルファベットと算用数字を組み合わせて行った。(例:A-1、B-2、C-3)。

以上のようにして設定したグリッド番号の表記方式は、4-A-1、14-A-1のように中グリッド番号—グリッド番号の組み合わせとした。各中グリッドには同じグリッド番号が存在し、グリッド番号だけの表記では図面や遺物取り上げに混乱が発生するため、グリッド番号の前に必ず中グリッド番号を付けて表記し混乱防止を図った。なお、大グリッド番号の表記は、影響が小さいことから省略した。

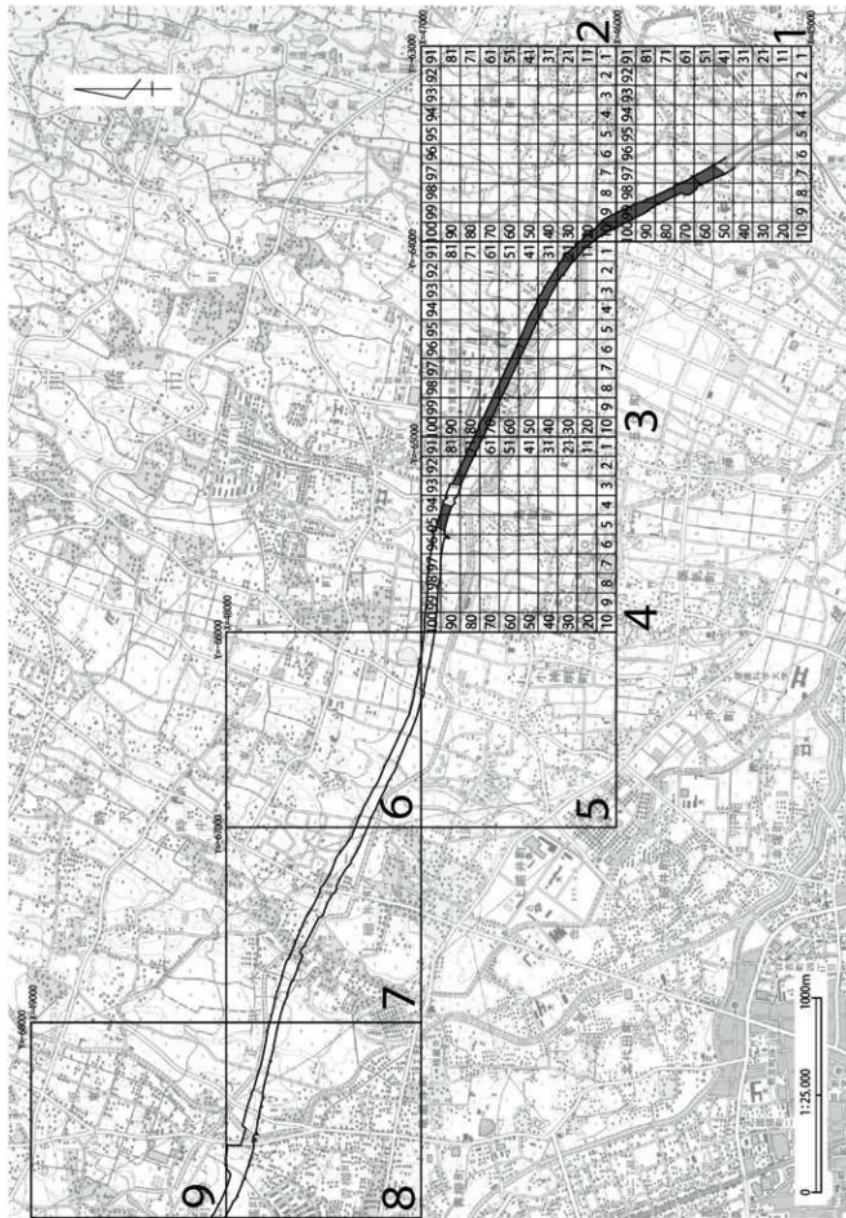
ただし、地区については、諸記録の管理上の扱いが煩雑となるため遺物や図面等の記録類への記入は省略した。これに代わり、上武道路のこれまでの仕様にならって、遺跡略称である「J K」を使用した。Jは上武、Kは国道の略である。本報告に掲載した上泉唐ノ堀遺跡はJ K52であるが、8工区にあたる部分はJ K52bとし、上泉新田塚遺跡群はJ K53である。

### 第4節 旧石器時代の文化層

文化層を設定するにあたっては、石器の出土層位を最大限に考慮した。このような層位的な事実と、剥片剥離技術の特徴や主要器種の技術形態的な特徴が整合関係にあるかどうか吟味したうえで、石器群の文化層を設定した。各遺跡から発見された石器群は、その帰属層位から判断すると、大きくみて五つの段階に分類することが可能である。

第1表に、各遺跡の文化層の分類とその帰属層位について表した。この表は、特に帰属層位を根拠として各文化層のおおまかな形成時期を示したものであり、大筋で『上武道路・旧石器時代遺跡群(1)』『上武道路・旧石器時代遺跡群(2)』

第3図 大ケリット・中ケリット 設定図



## 第1章 発掘調査の概要

に準拠した。従って、同じ帰属層位にある文化層同士が、編年的に同一段階にあるという事を意味している訳ではない。例えば、帰属層位がVI～VII層(AT下暗色帶)にある文化層同士を比較すると、剥片剝離技術の特徴や主要器種の技術形態的特徴が異なる様相を示すものが認められるケースがある。この場合は、層の根拠によって時間差が認定することが出来ない石器群同士であっても、考古学的に見ると形成時期の異なる段階に分別される可能性が高いということになる。

ここでの取扱いが大きく異なるのは、基本土層のVII層からIX層にかけての暗色帶下位から榛名八崎輕石層上位までの間で検出された結晶片岩の解釈である。これについては、『上武道路・旧石器時代遺跡群(1)』『上武道路・旧石器時代遺跡群(2)』の報告では人がかかわったとして「文化層」と認定されているが、解釈上いくつかの問題点もあることから下記の表では文化層としての扱いをしていない。これについては、第6章で詳しく検討することとする。

第1表 各遺跡に認められる文化層

上武道路	遺跡名	刷械	芳賀東部	五代砂留	上泉武田	上泉新田塚	上泉唐ノ脇 8工区	上泉唐ノ脇 7工区	上泉坂上	堀沼上
層位	テフラ									
II	As-YP									
III	As-O k1・2・ As-Sr	第1文化層		第1文化層 第2文化層	第1文化層 第2文化層	第1文化層	第1文化層 第2文化層	第1文化層	第1文化層 第2文化層	
IV・V	As-BP		第1文化層	第2文化層		第2文化層				
VI	AT			第3文化層	第3文化層	第3文化層	第2文化層		第2文化層 第2文化層	
VII			第2文化層				第3文化層	第2文化層		
VIII・IX								第3文化層	第3文化層	
X	Hr-HP									

菅野II	江木下大日	富田下大日	富田漆田	富田高石	富田西原	富田宮下	荒砥北三木堂II	今井道上II	群馬V期
第1文化層		第1文化層					第1文化層		群馬IV期
第2文化層							第1文化層		群馬Ⅲ期
第3文化層							第2文化層		群馬Ⅱ期
第4文化層		第2文化層					第3文化層	第4文化層	群馬Ⅰ期

## 第5節 石器の器種分類

本書で行った石器の器種分類の基準を以下に示す。

**槍先形尖頭器(ポイント)** 主として平坦な加工により先端および周縁が作り出されている石器。柳葉形、木葉形、広葉形をしているものが多い。加工は先端部のみではなく、器体全体に及ぶ。平坦な剥離により面的に加工されるものと、プランティングにより周縁が加工されるものがある。縄文時代には「石槍」と呼ばれる。

**角錐状石器** 断面が三角形を呈し、素材の腹面側から平坦な加工が施され、背面中央に1条の稜が作り出されている石器。断面が三角形を呈し、素材の腹面側から平坦な加工が施され、背面中央に1条の稜が作り出されている石器で、尖頭器の祖形との考えもある。「ゴロゴロ石器」や「閨型石器」などと呼称されたこともある。

**ナイフ形石器(ナイフ・ブレイド)** 石刃や縱長剥片などの鋭い縁辺を一部に残し、他の縁辺を細部加工した石器。代表的なのは、石刃などの両側辺に細部加工した「茂呂型ナイフ形石器」、一側辺のみを細部加工した「杉久保型ナイフ形石器」、基部部分のみを細部加工した「東山型ナイフ形石器」、それに『瀬戸内技法』による横長の翼状剥片を素材とし、一側辺のみを細部加工した「国府型ナイフ形石器」など、地域や時期の違いによって区分されるものもある。一方、剥片素材の尖刃や斜刃、それに台形石器もナイフ形石器に含めることもあり、その場合は全体の形状で先端を尖らせているものを小形ナイフ形石器とした。さらに「藪塚系ナイフ形石器」と呼称する意見もある。だが、筆者らのように「切出形石器」や「台形石器(トラピーズ)」、「台形様石器(トラピソイド)」などの、剥片の鋭い縁辺を一部に残し、他の縁辺を細部加工した石器のうち、石器長軸(主軸)に直交もしくは斜交する刃部をもつ石器を基本的にはナイフ形石器の1種とする考え方もあるが、AT降灰以前の時期を代表する器種の「台形様石器」の一部や、AT降灰以降の「切出形石器」や「台形石器」と呼称されていた石器など、時期的に特徴的に存在しているため、あえてナイフ形石器とは分離させる考え方もある。ここでは便宜的に含めておくこととする。

**石斧(アックス、ハンド・アックス)** 主として平坦な加工が施され、石器の長軸に直交するような刃部を持つ石器。打製もあるが、磨製、その中でも刃部には研磨が施されるものが多い。従来、「局部磨製石斧」と呼ばれているものもこれに含まれるが、研磨の認められないものや、用途が木材の伐採以外にもあったと考えられる点から「斧形石器」という呼称を用いる場合もある。欠損しているものについても、接合がなく素材からの両側縁への加工が認められる場合は1点として認定している。剥離後に加工が認められないものは調整剥片、そこに研磨面が認められるものについては刃部剥片として捉えている。

**彫器(グレイバー)** 縱状剥離によって作り出された彫刻刀面を持つ石器。「彫刻刀形石器」とも呼ぶ。

**搔器(エンド・スクレイパー)** 連続する加工により、厚い刃部が作り出されている石器。平面形は円形、拇指状を呈するものが多い。刃部の角度が45度以上のものを搔器、以下のものを削器とし分別することとする。

**削器(サイド・スクレイパー)** 連続する加工による刃部を持つ石器。形態や加工は様々である。刃部がノッチ状になる「挿入削器(ノッチド・スクレイパー)」や、連続する強い加工や平坦な加工により、鋸歯状の刃部が作り出されている「鋸歯縁状削器(デンキュレト・スクレイパー)」、それに複数のノッチ部によるベックと呼ばれている石器などもここに含む。

**石錐(ドリル)** 2側縁もしくは1側縁の加工により錐状の先端部が作り出されている石器。「錐器」とも呼ばれる。

**楔形石器(ビエスエスキュー)** 相対する両端に對向からの剥離が認められる石器。定義に合わない呼称のされ方が多い石器である。

**細石刃(マイクロブレイド)** 目的を持って連続的に剥離された長さ3cm前後・幅数ミリの小石刃小形の石刃。石器自体にはほとんど加工が施されないが、組み合わせ道具として用いられたと考えられている。

**細石核(マイクロコア)** 細石刃が剥離された石核。北方系・削片系と稜柱系とに大きく分けられる。

## 第1章 発掘調査の概要

**剥片(スパール)** 極状剥離によって剥がされた剥片。彫器や削片系細石核に伴う。

**加工痕ある剥片(リタッチド・フレイク)** 器種としての認定ができなかったが、2次加工が認められる剥片。「2次加工ある剥片」ともいう。

**使用痕ある剥片(ユースド・フレイク)** 使用痕の可能性の高い微細な剥離が認められる剥片。「微細剥離のある剥片」ともいう。

**石刃(ブレイド)** 石刃技法により連続して剥離された両側縁が平行する縦に長い石器。平面形は似ていても偶発的に剥離されたものや、剥離に連続性が認められないものは縦長剥片としこれと区別する。また、組成表中の石刃には稜付き剥片も含まれる。

**剥片(フレイク)** 石核などから打ち剥がされた石片。打面や打点との関係で長さと幅の比によって、縦長剥片と横長剥片に区分されることが多い。

**碎片(チップ)** 剥片剥離や加工時に出る細かい石屑。剥片との厳密な区別が難しいために、本報告では約1cmの長さを基準とし、それより小さいものを碎片とした。

**石核(コア)** 剥片を剥ぐための母体、または剥いたあとの中核。

**礫器(チョッパー、チョッピングトゥール)** 磨き素材とし、粗い加工によって刃部が作り出されている石器。

**敲石(ハンマーストーン)** 石器製作時の敲打痕が認められる石器。

**磨石(ローリングストーン)** 磨面のある石器。

**砥石(グラインダー)** 局部磨製石斧などの研磨に利用された、砥ぎ面のある石器。

**台石(アンビルストーン)** 石器製作時、あるいは食物加工などの際の工作台。

### 引用・参考文献

麻生敏隆・大工原豊 1994 「1期ーAT降灰以前のナイフ形石器文化ー」『第2回岩宿フォーラム／シンポジウム予稿集』岩宿文化資料館・岩宿フォーラム実行委員会

小菅将夫 2003 「北関東地方との対比」『第15回長野県旧石器文化交流会シンポジウム「野尻湖遺跡群の旧石器時代編年」』長野県旧石器文化交流会

間口博幸 2010 「群馬における旧石器時代石器群の変遷」『岩宿フォーラム2010／シンポジウム 北関東地方の石器文化の特色 予稿集』岩宿博物館・岩宿フォーラム実行委員会

津島秀章 2008 「第2章3.石器の分類」『上武道路・旧石器時代遺跡群(1)』財團法人群馬県埋蔵文化財調査事業団

佐藤宏之 1988 「台形様石器研究序説」『考古学雑誌』第73巻第3号 日本考古学会

須藤隆司 1986 「群馬県飯塚遺跡の石器文化ーナイフ形石器の形式学的考察ー」『明治大学考古学博物館館報』No2 明治大学考古学博物館

麻柄一志 1986 「いわゆる立野ヶ原型ナイフ形石器の基礎的整理」『旧石器考古学』33 旧石器文化談話会

旧石器文化談話会編 2000 『旧石器考古学辞典』(200 改訂版)旧石器文化談話会

## 第2章 遺跡周辺の環境

### 第1節 地理的環境

上武道路第8工区は、赤城山南西麓と広瀬川流域の低地部分を南東方向から北西方向に路線が設計されている。今次の報告対象になる上泉唐ノ堀遺跡、上泉新田塚遺跡群、上泉武田遺跡、五代砂留遺跡群、芳賀東部团地遺跡、胴城遺跡は、赤城山南西麓の末端側に当たる遺跡である。

赤城山麓端部には広大な裾野が広がっているが、これは火山活動に伴い発生した火碎流が山麓端部に堆積したものであり、4・50万年に及ぶ火山活動を経て現在の地形が形成されたことが判明している。

現在の赤城山は、黒檜山(1,828m)を最高峰として、駒ヶ岳(1,685m)・地蔵岳(1,674m)・長七郎山(1,579m)・小地蔵岳(1,574m)・鍋割山(1,332m)・荒山(1,572m)・鈴が岳(1,565m)からなる成層火山であり、裾野が長い秀麗な山として知られている。

赤城山の火山活動は、40～50万年前に活動が始まったと考えられている。その形成過程は古期成層火山形成期(40～50万年前から13万年前)、新期成層火山形成期(13～15万年前から4～5万年前)、中央火口丘形成期の三つの時期に区分されている。

古期成層火山形成期は、50万年前に活動を始め、成層火山を形成した。さらに20万年前に爆発的噴火を多発させ、火碎流や山体崩壊による岩屑なだれを起こし、それが山麓に流下した。山麓西側では、赤城・桶山・岩屑なだれにより桶山・箱田山・十二山を形成し、同東側では大間々で古渡良瀬湖を形成させ、権現山等の伊勢崎市北部の独立丘(流れ山)を形成させたとされている。

新期成層火山形成期には、休止期から再び活動期に入り山頂部に溶岩ドームを形成し、これが現在の駒ヶ岳の基になっている。また、側火山としての黒檜山・荒山・鍋割山・鈴が岳が形成され、鈴が岳の噴火により棚下火碎流が発生した。一方、荒山・鍋割山の活動は、7万5千年前に大胡火碎流を発生させている。これらの火碎流・岩屑なだれにより赤城山南麓の基本的な地形が形成されたようである。

中央火口丘形成期は山頂部が大きく陥没し、カルデラを形成している。約5.5万年前にはAg-UP(湯の口軽石)を降下させている。そして、約4.2万年前には、後期旧石器時代初頭の広域テフラになるAg-KP(鹿沼軽石)を降下させている。さらに、その後の活動で中央火口丘が形成され、カルデラ湖が3つに分断され小大沼・新坂平湖・オトギの森湖が形成されたが、沼尾川の浸食により新版平湖は消滅、小大沼は縮小し、柏川の浸食によりオトギの森湖も消滅している。赤城山は、この3つの活動期を経て休止した。

火山活動が休止したのち、山頂付近では浸食が進み現地形の祖形が形成され、その後も浸食は進んだことが明らかにされている。更新世に至り、山麓には再堆積した土砂により扇状地が形成されたことが明らかにされており、代表的なものとして、赤城白川扇状地(約2万年前)や荒砥川扇状地、柏川扇状地(縄文時代中期)がある。

本書で報告する上記6遺跡は、これら一連の火山性活動により生じた火碎流・大胡火碎流を基盤とする火山性扇状地の末端に立地している。上泉新田塚遺跡群・五代砂留遺跡群においては、大胡火碎流がローム層下、約5mに堆積することが確認された。これら火山性扇状地の上層部にはローム層が堆積、各遺跡周辺では上部ローム層、中部ローム層が厚く堆積しており、このローム層中には赤城山・樽名山・浅間山から噴出された火山灰層が確認されている。

赤城山南麓には扇状地を形成する幾多の河川が放射状に流下しており、これらの河川により上記6遺跡の立地する台地も区切られている。6遺跡の東端に当たる上泉唐ノ堀遺跡・上泉新田塚遺跡群は東を寺沢川に、西を荻窪川が流れ、南北に長い丘陵性台地に遺跡が立地していた。上泉武田遺跡・五代砂留遺跡群・芳賀東部团地遺跡も赤城山南麓を流れ

る天神川や金丸川その他の小河川や埋没谷により区切られており、6遺跡の西端にある崩城遺跡も同様で遺跡地の西側を金丸川により、東側を藤沢川により区切られている。これらはいずれも古期火山性扇状地に刻まれた丘陵性台地に立地する遺跡である。藤沢川より西側は赤城白川による赤城白川扇状地が広がっているが、この扇状地は約2万年前に形成されたものであり、河川浸食の若い台地となっている。こうした地形発達が遺跡の立地に影響していることは確實で、旧石器遺跡や縄文遺跡の動向を左右している。

## 第2節 基本土層

今次報告対象になる6遺跡の基本土層は、前述した赤城山南麓の地形発達に密接にかかわっている。これら6遺跡のローム層中の基本土層は層厚の厚薄は認められるものの、層位の矛盾はなく整合的である。また、これまでに既刊した『上武道路・旧石器時代遺跡群(1)』・『上武道路・旧石器時代遺跡群(2)』との整合性を確認した結果、一部で地形による堆積条件が異なる以外、ローム土層の層序すべてにおいて整合することが確認できている。

また、土層分層の観察要件は、色調・粒度・粘性等に観察視点を置き、テフラの堆積とローム層の関係を捉えることを主眼に置いた。また、各遺跡の立地する台地上では、層厚の厚いローム層が確認されているが、ローム層の堆積状態はテフラの堆積状況により異なるが、異種のテフラではなく、残存状態の異なりによる相違が確認できた。以下に示すローム層には、榛名山・浅間山を給源とするローカルテフラと、広域火山灰であるATが確認されているが、台地上に堆積したテフラの多くは、ローム層中に攪拌された状態で存在している。以下に各ローム層の層序および内容を記す。

### 表土層 現代の耕作土

I a 層 黒褐色土

I b 層 暗褐色土 ローム層への漸移層

II 層 黄褐色ローム層 As-YPを含む。地点によってはAs-YPの含有量に差がある。残存状況が良好な地点では、ブロック状に残存・攪拌して堆積がしていたが、As-YPの観察が全く観察できない地点も認められる。

IIIa 層 黄褐色ローム層 As-Sr及びAs-0k1を含有する。双方のテフラは、土層全体に攪拌状態で認められる。本層は、やや暗い色調を呈し硬質である。地点によっては、As-0k2の可能性があるテフラも含まれている。

IIIb 層 黄褐色ローム層 本層では特にテフラの含有は認められない。標高の低い赤城山南麓の遺跡では、本層が確認されたことが多い。

IVa 層 黄褐色ローム層 As-BPを含有する。As-BPの残存状況は遺跡・地点により若干の相違が確認できる。給源火山に近づくほど堆積状態は良好となり、間層を挟み3層が確認されるようになる。As-BPグループの中・上部に同定されている。

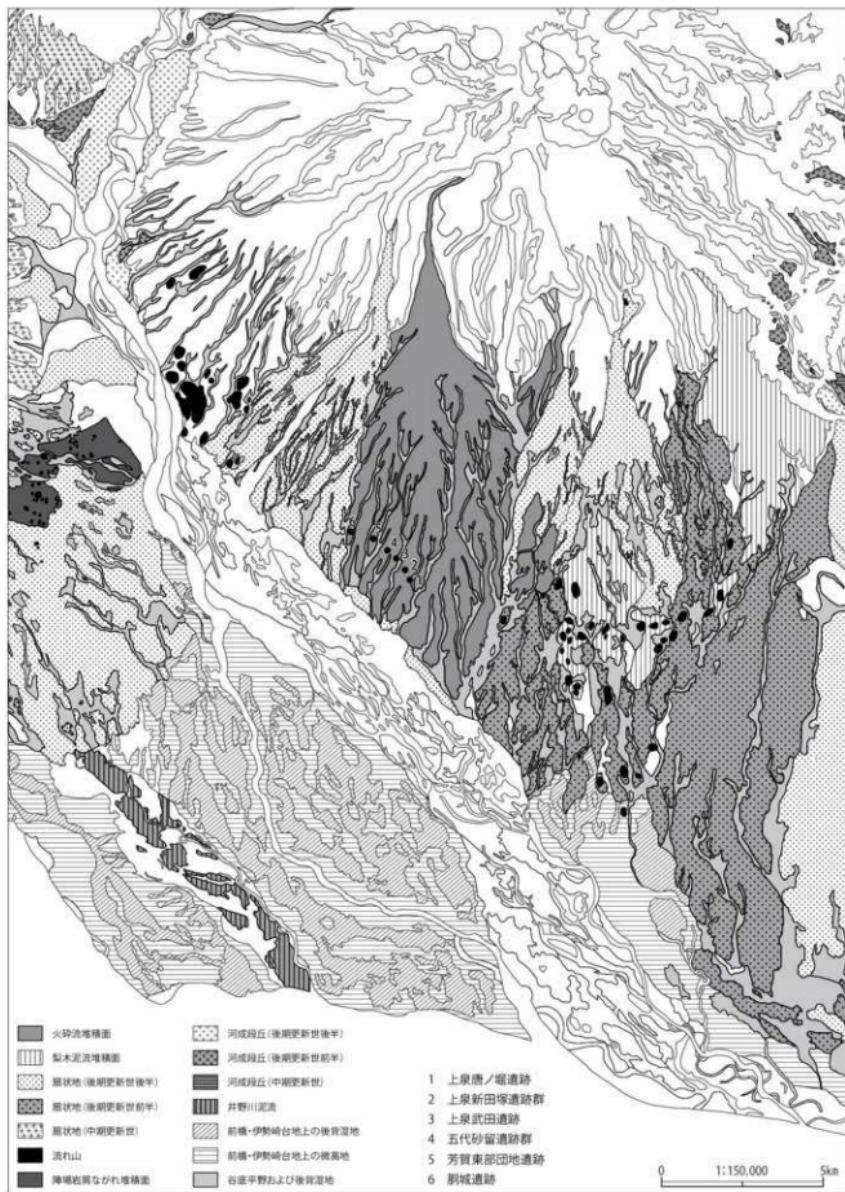
IVb 層 黄褐色ローム層 As-BPを少量含有する。As-BPの残存状況は不良で、ローム層中に粒子が散在する程度である。

V 層 褐色ローム層 AT極大層。遺跡・地点により相違は認められるが、残存状況は比較的良好である。特に、残存状況が良好な場合は、ATの上位部分に薄層を挟みAs-MPが観察される。

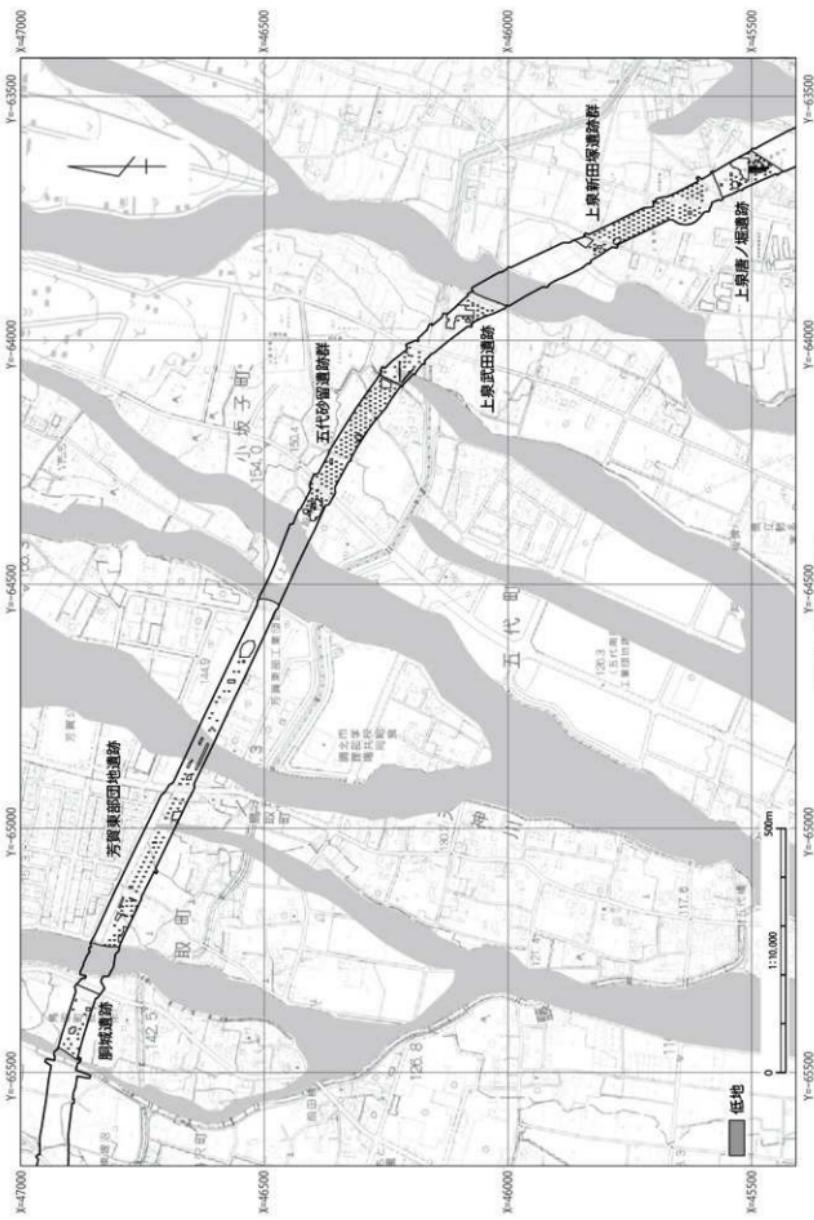
	表土層
I a	黒褐色土
I b	暗褐色土
II	黄褐色ローム
III a	黄褐色ローム
III b	黄褐色ローム
IV a	黄褐色ローム
IV b	黄褐色ローム
.....	
V	褐色ローム
VI	暗褐色ローム
VII	暗褐色ローム
VIII	黄褐色ローム
IX	黄褐色ローム
X	Hr-HP
XI	暗褐色ローム
XII	暗褐色ローム
XIII	黄褐色ローム
XIV	黄褐色ローム
XV	大胡火碎淡

上武道路遺跡群 基本層序(ローム台地)

第4図 基本土層図



第5図 遺跡群周辺地質図 早田 勉 1990「群馬県の自然と風土」『群馬県史通史編』付図を加筆



第6図 遺跡群地形図

- V層** 暗褐色ローム層 暗色帶。下層に比べてやや明るい色調を呈す。
- VII層** 暗褐色ローム層 暗色帶。上層に比べてやや暗く、硬質である。
- VIII層** 黄褐色ローム層 本層中、亀泉坂上遺跡では本層上部でHr-HAが確認されており(既刊『上武道路・旧石器時代遺跡群(2)』第7章自然科学分析参照)、富田漆田遺跡では詳細は不明分な褐色スコリア(仮称、富田スコリア)が発見されている(既刊『上武道路・旧石器時代遺跡群(1)』第11章自然科学分析参照)。
- IX層** 黄褐色ローム層 VII層より明るい発色でより硬質。
- X層** Hr-印層 遺跡間で層厚に若干の相違が認められている。層厚20~40cm程で一次堆積の状態。
- XI層** 暗褐色ローム層 暗く硬質である。
- XII層** 暗褐色ローム層 XI層の色調よりやや明るい発色をする。
- XIII層** 黄褐色ローム層 北橘スコリアを少量含有する。
- XIV層** 黄褐色ローム層 XIII層のブロック化が認められ、硬質である。
- XV層** 大胡火碎流堆積物 赤城山の新期成層火山形成期に、発生した火碎流。上泉新田塚遺跡群・五代砂留遺跡群では、ローム層下5m程で確認されている。富田漆田遺跡では、火碎流上位のローム層中から大山倉吉軽石(DKP)が確認されている。

### 第3節 歴史的環境

本遺跡が位置する赤城山南麓は、多くの旧石器時代遺跡が分布する地域として知られている。特に、昭和21(1946)年の相沢忠洋氏によるみどり市笠懸町(旧新田郡笠懸町)の岩宿遺跡の発見をはじめとする一連の調査・研究や、昭和29(1954)年の明治大学による桐生市(旧勢多郡新里村)の武井遺跡の調査など、史学上著名な遺跡が発見されており、旧石器時代研究では、その初期段階から極めて重要な地域であった。昭和40年代末以降、この赤城山南麓の末端部では、上武道路や北関東自動車道の建設や三和工業団地の造成などの大規模な開発が次々と行われた。特にこれらの開発が集中した大間々扇状地Ⅰ面とその西側の赤城山斜面台地末端部では、小河川や湧水地点に隣接した地域から多数の遺跡が発見されている(第7図参照)。

縄文時代の遺跡も同様な立地を選んで数多く分布しているが、藤沢川以西の赤城白川扇状地では開拓が若く、全体として縄文時代の遺跡が希薄になる傾向がある。

**旧石器時代** 旧石器時代後半では最も古い段階であるAT下位の遺跡が挙げられる。打製や局部磨製の石斧と石刃素材の基部調整・二側縁調整・一側縁調整の大形ナイフ形石器と、幅広剥片素材の斜刃・平刃・尖刃の小形ナイフ形石器を主体とする石器群(群馬Ⅰ期)が多数発見されている(第7図参照)。前述した岩宿遺跡、武井遺跡の他に和田遺跡、十二社遺跡、下触牛伏遺跡、書上本山遺跡、書上遺跡、堀下八幡遺跡、今井三騎堂遺跡、今井見切塚遺跡、三和工業団地Ⅰ遺跡、波志江中宿遺跡、富田下大日遺跡、熊の穴Ⅱ遺跡、内堀遺跡、堀越甲真木B地点遺跡などが挙げられる。特に、20~50mの円~橢円形の範囲で中央部が空白な石器の出土状況から、「環状ブロック群」と呼ばれる特徴的な分布が確認されている下触牛伏遺跡などは、石器を残した集団が形成した「ムラ」の様子を示すものとして注目されている。これについて、第4章第1節で詳しく記述することとする。

群馬Ⅱ期の遺跡としては、書上本山遺跡、書上遺跡、堀下八幡遺跡、今井三騎堂遺跡、今井見切塚遺跡、三和工業団地Ⅰ遺跡、波志江中宿遺跡、富田下大日遺跡、熊の穴Ⅱ遺跡、内堀遺跡、堀越甲真木B地点遺跡などが挙げられる。

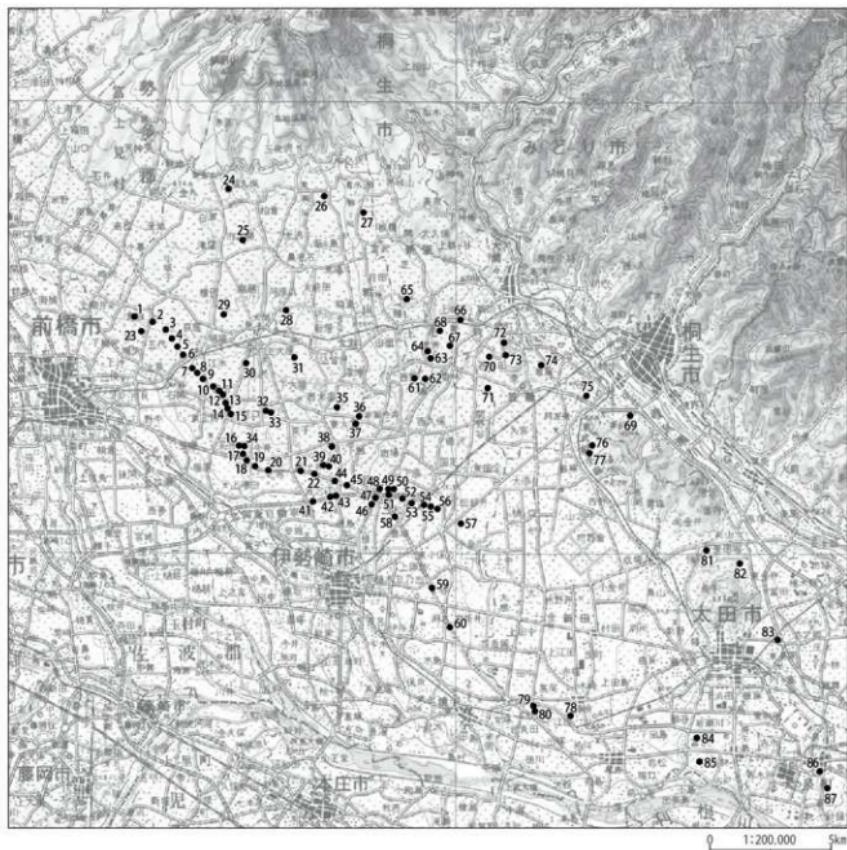
群馬Ⅲ期の遺跡として切出形ナイフ形石器と角錐状石器を主体とする石器群(群馬Ⅲ期)があるが、県内全体でのこの時期の遺跡数は極端に少ない。武井遺跡、十二社遺跡、岩宿遺跡、波志江中宿遺跡、三和工業団地Ⅰ遺跡、今井三騎堂遺跡、今井見切塚遺跡、見立溜井遺跡、多胡蛇黒遺跡などが挙げられる。

さらに、槍先形尖頭器を中心とする石器群(群馬IV期)の時期で、東長岡戸井口遺跡、御正作遺跡、岩宿II遺跡、元宿遺跡、梨ノ木J遺跡、新宮II遺跡、広間地西遺跡、三和工業団地I遺跡、下触牛伏遺跡、今井三騎堂遺跡、今井見切塚遺跡、三ツ屋遺跡、富田下大日遺跡、見立溜井遺跡などが挙げられる。

特に、武井遺跡は多量の槍先形尖頭器が出土した大規模な遺跡であり、現在進められている基礎整理による周辺の槍先形尖頭器が出土する遺跡との関係を含めた分析成果が期待される。

この時期は、礫群の形成が顕著な時期でもあり、波志江岡屋敷遺跡や前記の武井遺跡、下触牛伏遺跡、東長岡戸井口遺跡、御正作遺跡などでも、礫群が規模の大小の違いはあるもののそれぞれ検出されている。これについては、第4章第2節で詳しく記述することとする。

次の時期は細石刃と細石核の細石器を主体とする石器群(群馬V期)で、この時期も県内全体の遺跡数は少ないものの、舞台遺跡や三和工業団地IV遺跡、峯岸遺跡、柳形遺跡、市之関前田遺跡、柏倉芳見沢遺跡、頭無遺跡、鳥取福蔵寺II遺跡、



第7図 周辺の旧石器時代遺跡分布図

下原遺跡、大雄院前遺跡、八ヶ入遺跡からなどが挙げられる。特に、矢出川・休場系統の円柱形(棱柱形)の細石核が三和工業団地Ⅳ遺跡、舞台遺跡、峯岸遺跡、市之関前田遺跡から、削片系統の細石核が柏倉芳見沢遺跡、頭無遺跡、鳥取福蔵寺Ⅱ遺跡、下原遺跡、大雄院前遺跡、八ヶ入遺跡から出土しており、日本列島内での南方系からと北方系からのそれぞれの文化の流れが伺える。特に鳥取福蔵寺Ⅱ遺跡は、芳賀東部団地遺跡のすぐ南側に近接しており、前述したように、同様の時期の遺跡がこの周辺にさらに存在する可能性は高い。

また、馬見岡遺跡では北方系の削片系統と南方系の矢出川・休場系統が同時に存在するといわれているが、分布状況からその同時性に疑問を投げかける意見もある。

終末期は大形の尖頭器が主体となる時期で、前橋市石山遺跡、荒砥北三木堂遺跡などが挙げられる。この時期は日本における土器の出現時期に相当し、荒砥北三木堂遺跡からは無文土器と有舌尖頭器が出土している。

**縄文時代** 草創期前半の遺跡として、隆起線文土器や尖頭器、有舌尖頭器などが出土した小島田八日市遺跡、徳丸仲田遺跡、白井北中道遺跡が挙げられる。後半では爪形文や多縄文の五目牛新田遺跡、西鹿田中島遺跡、下宿遺跡が挙げられる。特に、徳丸仲田遺跡や白井北中道遺跡の窪み状の部分での遺物分布状況や、五目牛新田遺跡で竪穴住居が検出されたほか、徳丸仲田遺跡でも遺物分布に重なるよう竪穴状遺構が確認されており、定住化の傾向が明らかに窺える資料

第2表 周辺遺跡

番号	遺跡名	所在地	I期	II期	III期	IV期	V期	VI期	文献
1	脛城	前橋市							本報告
2	芳賀東部团地	前橋市	1						本報告
3	五代の宿	前橋市							本報告
4	上泉武田	前橋市							本報告
5	上泉新田塚	前橋市							本報告
6	上泉塙ノ塚	前橋市	1		1				本報告
7	龟崎坂上	前橋市	1	1					1
8	堤沿上	前橋市	1						1
9	菅野Ⅱ	前橋市	1	1					1
10	江木下大日	前橋市					2		
11	富田下大日	前橋市	1	1			2		
12	富田新田	前橋市					2		
13	富田赤石	前橋市	1				2		
14	富田高原	前橋市					2		
15	富田高下	前橋市	1	1			2		
16	荒砥北三木堂	前橋市	1	1			2		
17	今井道上Ⅱ	前橋市					2		
18	今井道上・下道	前橋市	1	1			3		
19	二之宮谷地	前橋市					4		
20	二之宮足尾	前橋市					5		
21	飯土井中央	前橋市					6		
22	飯土井・木松	前橋市					7		
23	鳥取福蔵寺Ⅱ	前橋市				1	8		
24	柏倉吉見沢	前橋市				1	9		
25	市之関前田	前橋市				1	10		
26	柳形	前橋市			1	11			
27	砂押	前橋市	1				12		
28	日光道東	前橋市					13		
29	堀越甲真木	前橋市	1				14		
30	三ツ屋	前橋市		1			15		
31	熊の穴Ⅱ	前橋市	1				16		
32	柳久保	前橋市				1	17		
33	通照	前橋市	1				18		
34	荒砥北三木堂	前橋市				1	19		
35	内脛	前橋市	1				20		
36	今井見切塚	前橋市	1	1	1		21		
37	今井三輪堂	前橋市	1	1	1		22		
38	石山	前橋市				1	23		
39	吾妻	前橋市					24		
40	下伏牛伏	伊勢崎市	1		1		25		
41	岡屋敷	伊勢崎市					26		
42	波志江西宿	伊勢崎市	1	1	1		27		
43	波志中宿	伊勢崎市					28		
44	波志六反田	伊勢崎市					29		

番号	遺跡名	所在地	I期	II期	III期	IV期	V期	VI期	文献
45	堀下八幡	伊勢崎市	1	1					30
46	本町古墳群	伊勢崎市					1		31
47	上植木光仙翁	伊勢崎市					1		32
48	光仙房	伊勢崎市					1		33
49	三和工業団地	伊勢崎市				1	1		34
50	三和工業団地Ⅳ	伊勢崎市						1	35
51	舞台	伊勢崎市	1				1		36
52	書上	伊勢崎市				1	1		37
53	大上	伊勢崎市	1	1					38
54	天ヶ堀	伊勢崎市	1			1	1		39
55	前道下	伊勢崎市							40
56	塚下	伊勢崎市							41
57	下田	伊勢崎市							42
58	書上本山	伊勢崎市				1			43
59	八寸長溝	伊勢崎市							44
60	下瀬名塚越	伊勢崎市							45
61	峯岸山	伊勢崎市					1		46
62	十二社	桐生市	1						47
63	武井	桐生市	1				1		48
64	峯岸	桐生市					1		49
65	山上城	桐生市	1						50
66	元宿	桐生市					1		51
67	広間地西	桐生市					1		52
68	梨子ノ木	桐生市					1		53
69	大雄院前	桐生市						1	54
70	和田	みどり市	1				1		55
71	馬見岡	みどり市							56
72	神社裏	みどり市							57
73	清水	みどり市							58
74	岩留	みどり市	1			1	1		59
75	笠懸北山	みどり市							60
76	藪塚台地	太田市	1						61
77	藪塚	太田市	1						62
78	花園	太田市					1		63
79	中江田AⅡ	太田市							64
80	中江田B	太田市							65
81	峯山	太田市	1	1					66
82	八ヶ入	太田市						1	67
83	東長岡Ⅱ・Ⅲ	太田市					1	1	68
84	高林三人	太田市					1		69
85	高林西原占塚群	太田市					1		70
86	間之原	大泉町							71
87	御正作	大泉町						1	72
			24	13	13	21	15	2	

である。

次の早期では、前半の撫糸文と押型文の時期の波志江中屋敷遺跡、吾妻遺跡、今井三騎堂遺跡、今井見切塚遺跡、波志江中屋敷東遺跡、五目牛新田遺跡、条痕文段階としての飯土井二本松遺跡が挙げられる。特に多田山丘陵に位置する今井三騎堂遺跡と今井見切塚遺跡では多数の撫糸文段階としての竪穴住居が検出されており、長期間にわたる居住の実態が明らかになりつつある。

前期では、波志江天神山遺跡、五目牛新田遺跡、五目牛南組遺跡、五目牛清水田遺跡、五目牛東遺跡群、舞台遺跡、三和工業団地I遺跡、飯土井二本松遺跡、荒砥二之堰遺跡、荒砥上ノ坊遺跡、下触牛伏遺跡、堀下八幡遺跡、多田山東遺跡、今井三騎堂遺跡、今井見切塚遺跡、鷹巣遺跡、今井南原遺跡、寺回遺跡、柳田遺跡が挙げられる。この時期には遺跡数が飛躍的に増加し、後半の諸磯式期を中心には沖積地や湧水を望む台地上に営まれた小規模な集落が形成される過程が明らかになりつつある。

中期では、波志江中野面遺跡、五目牛清水田遺跡、飯土井二本松遺跡、荒砥二之堰遺跡、多田山東遺跡、今井三騎堂遺跡、今井見切塚遺跡、田向遺跡、柳田遺跡、天ヶ堤遺跡が挙げられる。特に、荒砥二之堰遺跡や天ヶ堤遺跡では、中期後半から後期前にかけての住居が多数検出されており、集落の動向や社会構造を考える上で注目される。また、中期後半に遺跡数が再び増加する傾向が認められている。

後期では、五目牛洞山遺跡、五目牛洞山遺跡、飯土井二本松遺跡、荒砥二之堰遺跡、柳田遺跡、天ヶ堤遺跡が挙げられる。後期後葉から晩期にかけては遺跡数が減少、晩期にはこの周囲で遺跡がほとんど発見されていない。他の地域に移動しなければならないような環境や居住域の変化があったのであろうか。その解明が今後の課題でもある。

#### 主要文献

※「教委」は教育委員会

〔前編〕は財団法人群馬県埋蔵文化財教育委員会

〔町誌〕は町誌編さん委員会

1	郡理文	2010	478集	22	郡理文	2004	325集	43	郡理文	1992	140集	64	新田町教委	1997
2	郡理文	2000	418集	23	相澤忠洋	1967		44	郡理文	2001	227集	65	新田町誌	1987
3	郡理文	2000	418集	24	前橋市教委			45	郡理文	1991	114集	66	郡理文	2009
4	郡理文	1994	162集	25	郡理文	1986	51集	46	伊勢崎市教委			67	郡理文	2010
5	郡理文	1993	125集	26	郡理文	2003	341集	47	新里村教委			68	郡理文	1999
6	郡理文	1991	123集	27	郡理文	2003	330集	48	明治大学	1977		69	郡理文	2003
7	郡理文	1991	113集	28	郡理文	2001	283集	49	新里村教委	1975		70	郡理文	2006
8	前橋市教委	1998		29	郡理文	1992	140集	50	新里村教委	2005		71	郡理文	2008
9	前橋市教委	2005		30	郡理文	1990	111集	51	新里村教委	2008		72	大泉町教委	1984
10	宮城村教委	1991		31	郡理文	2008	452集	52	新里村教委					
11	宮城村教委	1981		32	郡理文	1988	80集	53	新里村教委					
12	郡理文	2007	361集	33	郡理文	2002	308集	54	桐生市教委					
13	大胡町教委	1994		34	郡理文	1999	246集	55	笠懸町誌	1983				
14	大胡町教委	1994		35	伊勢崎市教委	2004		56	笠懸町教委					
15	相澤忠洋	1999		36	郡理文	2005	345集	57	笠懸町教委	1995				
16	前橋市調査部	1991		37	郡理文	2008	428集	58	笠懸町教委					
17	前橋市教委			38	郡理文	2008	434集	59	明治大学	1956				
18	前橋市教委			39	郡理文	2008	396集	60	笠懸町誌	1988				
19	郡理文	1992	136集	40	郡理文	2008	437集	61	調査団	1999				
20	前橋市教委			41	郡理文	2007	414集	62	明治大学	1955				
21	郡理文	2007	382集	42	郡理文	2008	444集	63	新田町誌	1987				

## 第3章 各遺跡の遺構・遺跡

### 第1節 上泉唐ノ堀遺跡

#### 1 遺跡の概要

上泉唐ノ堀遺跡(JK57)は、一般国道17号(上武道路)第2期工事8工区の最南端に位置し、赤城山南麓を北から南に流れる寺沢川と荻窪川に挟まれた南北に細長い台地上の東側に立地する。標高は約142~145mである。

なお、上泉唐ノ堀遺跡の東側部分は7工区(JK57)の発掘調査の成果として、既に『上武道路・旧石器時代遺跡群(2)』に収録・報告されている。

#### 2 調査の経過

今回の報告は上泉唐ノ堀遺跡の西側部分の8工区(JK57b)部分の発掘調査の成果である。

平成18年度の発掘調査で、4ヶ所の試掘トレンチで石器の出土が認められたため、周縁部を拡張した結果、浅間板鼻褐色軽石(As-BP)層上位から2点(第1文化層:群馬Ⅳ期)、浅間板鼻褐色軽石(As-BP)層下位から19点(第2文化層:群馬Ⅱ期)、AT下位の暗色帶中で2箇所の石器集中から局部磨製石斧をはじめ241点(第3文化層:群馬Ⅰ期)が出土した。第3文化層では径約25mの環状ブロック群が検出されている。

試掘トレンチで遺物の存在が確認された地点を順次拡張して、最終的には拡張1~9区まで設定して発掘調査が実施され調査地点が多いことから、拡張区ごとに石器番号が付され、石器には「拡張」を「K」と略して注記されている。

その他、調査日誌などには落ち込みが5ヶ所検出されているとあったが、実際に図面や写真で記録が残されているのは4ヶ所だけであった。確認面は拡張1区のものがVII層上面で拡張9区のものがVIII層上面であった。底面の凹凸が激しく、人為的な遺構とは考えにくくと判断した。

平成20年度の発掘調査では残りの部分を調査、旧石器時代の遺構・遺物は確認されなかったが、暗色帶の下位から榛名八崎軽石(Hr-HP)の間で結晶片岩の礫など27点が出土した。これまでの『上武道路・旧石器時代遺跡群(1)』・『上武道路・旧石器時代遺跡群(2)』の調査報告との関連で、調査時点では第4文化層とされていたが、今回の整理作業では考資料として収録している。その点については、第6章でその是非について詳細な検討を行っており、参考していただきたい。

なお、本遺跡の旧石器時代の遺構・遺物に関する記載は下記に報告されているが、本報告を最終内容とする。

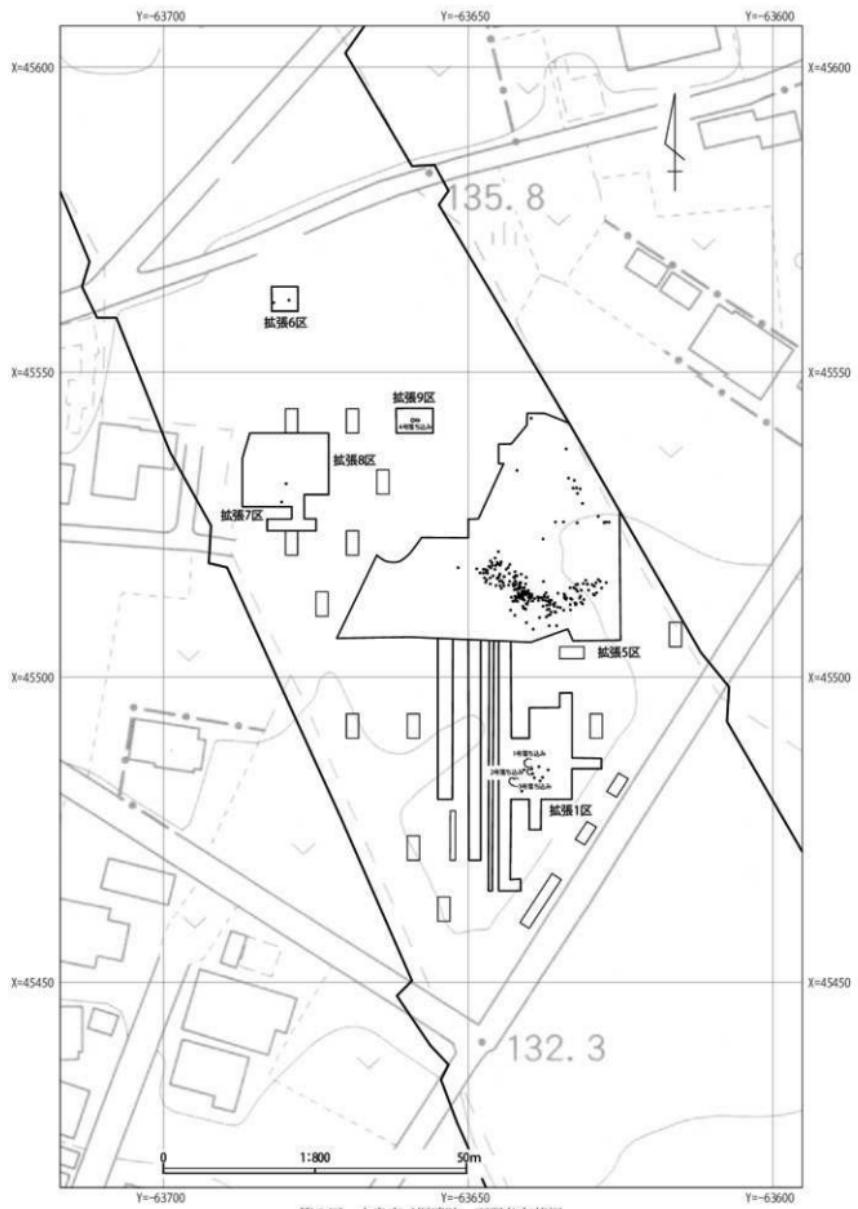
①『年報』27(平成19年度事業概要) 2008 財團法人群馬県埋蔵文化財調査事業団

②『財團法人群馬県埋蔵文化財調査事業団』WEB 18年9月、10月、11月 19年2月

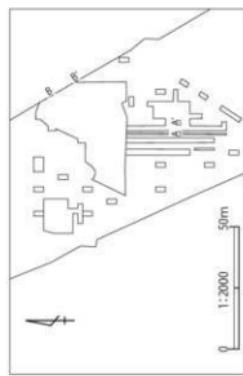
第8図は、上武道路が通過する赤城山南東麓のローム台地の基本土層であるが、本遺跡で確認されているのは、このうちのI層~XII層までであり、それ以下については確認されていない。

上武道路遺跡群 基本層序(ローム台地)	
V	表土層
I a	黒褐色土
I b	暗褐色土
II	黄褐色ローム(As-YP含む)
III a	黄褐色ローム(As-Sr・Ok1含む)
III b	黄褐色ローム
IV a	黄褐色ローム(As-BP中・上位含む)
IV b	黄褐色ローム(As-BP含む)
.....	
V	褐色ローム(AT・As-MP含む)
VI	暗褐色ローム(暗色帶上部)
VII	暗褐色ローム(暗色帶下部)
VIII	黄褐色ローム
IX	黄褐色ローム
X	Hr-HP
XI	暗褐色ローム
XII	暗褐色ローム
XIII	黄褐色ローム(北橘ヒヨウ含む)
XIV	黄褐色ローム
XV	大胡火碎流

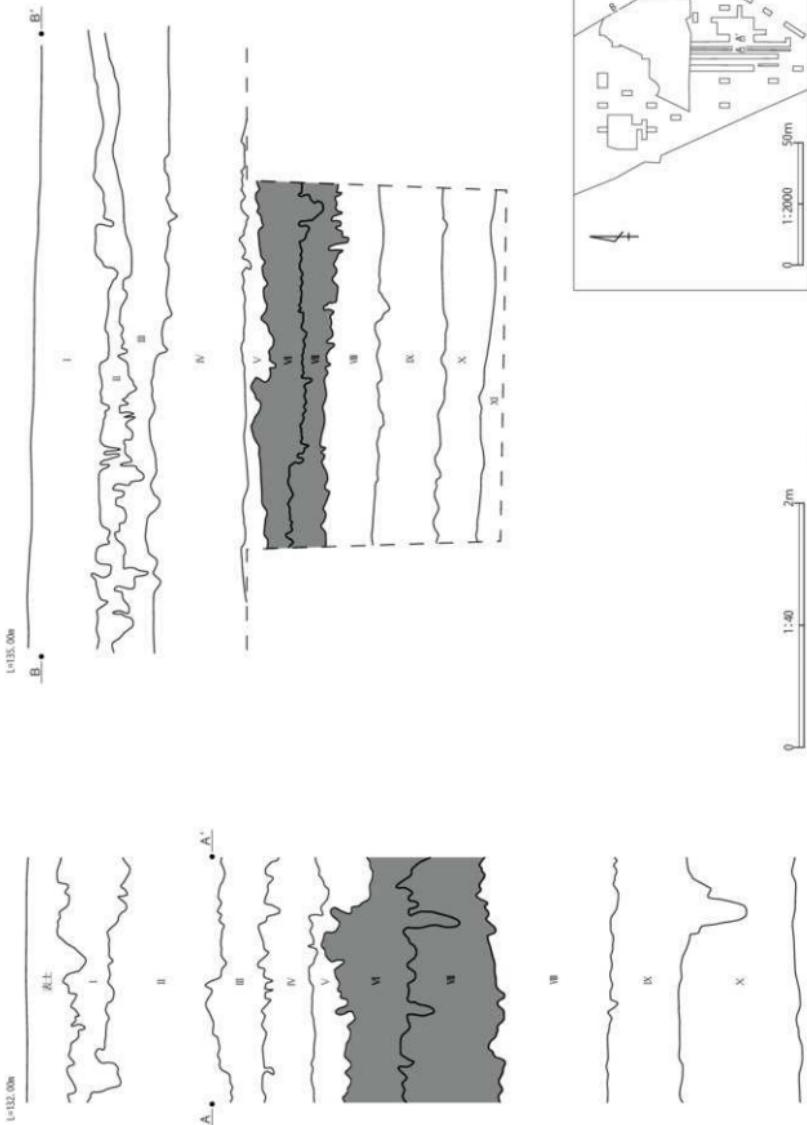
第8図 上泉唐ノ堀遺跡の文化層



第9図 上泉唐ノ堀遺跡 石器分布状況



第10図 上泉唐ノ堀遺跡 土解剖構造図



### 3 第1文化層

第1文化層は拡張6区(第3地点：4号ブロック)と拡張7区(第4地点：5号ブロック)、それに拡張8区から出土している。

#### (1)出土層位

基本土層のⅢ層を中心にⅡ層からⅣ層にかけて出土している。テフラとの関係では浅間板鼻黄色軽石(As-Yp、約13,000年前)より下位で、浅間大窪沢第1軽石(As-0k1、約17,000年前)の前後から、浅間板鼻褐色軽石(As-BP、約19,000～24,000年前)までの間である。出土層位からは群馬編年のIV期におそらくは相当すると考えられるものの、明確な時期を特定できる主要な石器がなく、時期の断定は難しい。

#### (2)検出遺構

拡張6・7・8区では、明確な遺構は検出されなかった。

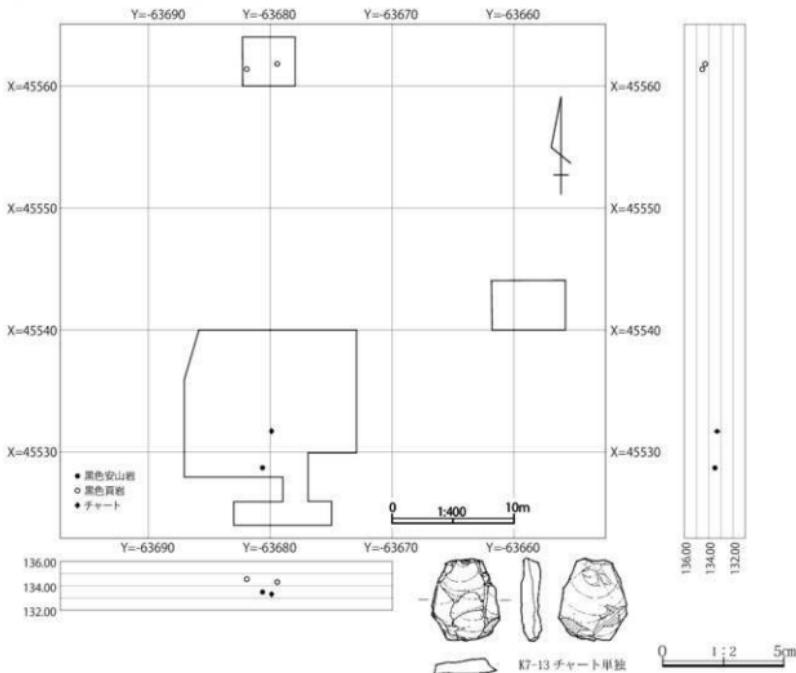
#### (3)出土遺物

拡張6・7・8区から、点数の差はあるものの、それぞれ石器が数点出土している。

<拡張6区>(第9・11図、PL. 5-8) 出土遺物の総点数は13点で、そのうちの石器が黒色頁岩の剥片2点(15.4%)である。残りの11点(84.6%)は自然石・自然石(岩片)・礫であり、その石材は、デイサイトガラス6点(54.5%)、粗粒

第3表  
上泉唐ノ堀遺跡 第1文化層組成表

	測定	碎片	種類	総計
黒色安山岩		1		1
黒色頁岩	2			2
チャート	1			1
雲母石英片岩		2	2	2
総計	3	3	2	6



第11図 上泉唐ノ堀遺跡 拡張6・7区石材別分布状況、拡張7区出土遺物

輝石安山岩5点(45.5%)である。石器は縦長剥片で、ほぼ中央で折断されており、打点側が残っている。石材は黒色頁岩である。図化はしていない。

遺物として剥片2点が出土した。

黒色頁岩 母岩が異なる剥片2点だけの出土である。K6-1(剥片)、K6-9(剥片)非実測

<拡張7区>(第9・11図) 出土遺物の総点数は16点で、そのうちの石器が剥片1点(7.7%)と碎片1点(7.7%)であり、その石材はチャートと黒色安山岩である。残りの14点(92.3%)は自然石・自然石(岩片)・礫であり、その石材は、粗粒輝石安山岩10点(71.4%)、デイサイトガラス2点(16.7%)、安山岩1点(8.3%)、輝綠凝灰岩1点(8.3%)である。

遺物として剥片1点と碎片1点が出土した。

チャート(第11図、PL. 7) 剥片1点のみ出土した。K7-13(剥片)

黒色安山岩 剥片1点のみ出土した。K7-7(碎片)非実測

<拡張8区>(第9・29図、PL. 6-8) ここからは、雲母石英片岩の自然石が2点出土している。

#### (4)母岩別資料・接合資料

拡張6区・拡張7区・拡張8区からは、ともに確認されなかった。

#### (5)分布状況

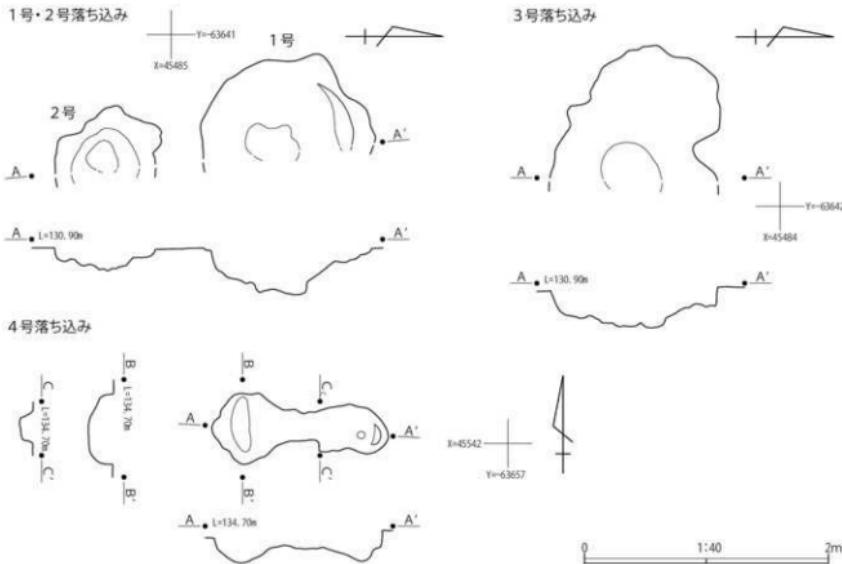
拡張6区・拡張7区・拡張8区とも、石器、自然石・礫のそれぞれが単独に近い状況で分布した。

## 4 第2文化層

第2文化層は拡張1区(第2地点)と拡張9区から出土している。

#### (1)検出層位

ローム層中で落ち込み4ヶ所が確認されている。1~3号落ち込みは暗色帶中の石器群調査中に、4号落ち込みは試



第12図 上泉唐ノ堀遺跡 1~4号落ち込み

### 第3章 各遺跡の遺構・遺物

掘トレンチの断面で確認されたものである。1～3号落ち込みの確認面はⅧ層上面、4号落ち込みは暗色帶中位(Ⅶ層)であった。

#### (2) 検出遺構

1区で1・2・3号、9区で4号の4ヶ所の落ち込みが確認されている(第9・12図)。As-BPを主体とする埋没土であることから、この時期と判断された。ただし、1～3号落ち込みについてはトレンチ掘削で半分が失われており、4号も含め完掘状態とエレベーションの図化にとどめた。

1号落ち込み(第12図、PL. 5-1・2) 主軸が東西方向で、推定規模が長軸約1.8m、短軸約1.4m、深さ約0.4mのやや楕円形である。土層は暗色帯が乱れた状態で堆積していた。

2号落ち込み(第12図、PL. 5-3・4) 主軸が東西方向で、推定規模が長軸約1.2m、短軸約0.9m、深さ約0.2mのやや楕円形である。土層は暗色帯が乱れた状態で堆積していた。

3号落ち込み(第12図、PL. 5-5・6) 主軸が東西方向で、推定規模が長軸約2.3m、短軸約1.4m、深さ約0.3mのやや楕円形である。土層は暗色帯が乱れた状態で堆積していた。

4号落ち込み(第12図、PL. 5-7) 主軸が東西方向で、推定規模が長軸約1.45m、短軸約0.6m、深さ約0.4mのカギのような形態である。土層は炭化物を多く含み、As-BPを多く含む基本土層のIV層が主体である。

いずれも、東西方向が長い形態ではあるが、前述したように土層や底部の凹凸が激しいことから、人為的な掘り込みとは考えにくいと考え、最終的に自然の産物と判断した。

#### (3) 出土遺物

第2文化層に相当する石器の出土はない。

## 5 第3文化層

第3文化層に相当する石器群が、拡張1区(第2地点：3号ブロック)と拡張5区(第1地点：1・2号ブロック)の2ヶ所の地点から出土している。主体となるのは拡張5区であるが、ここでは各区の概要を先に記して、石器についてはまとめて記述することとする。なお、拡張5区には拡張2区・拡張3区・拡張4区が含まれている。

#### (1) 出土層位

基本土層のVI層を中心にV層下部からVII層上部にかけて出土している。テフラとの関係では浅間板鼻褐色軽石(As-BP、約19,000～24,000年前)より下位で、榛名八崎軽石(Hr-HP、約4,000年前)よりも上位である。

#### (2) 検出遺構

石器の出土以外に、明確な遺構は検出されなかった。

#### (3) 出土遺物

拡張1区と拡張5区からそれぞれ集中して出土している。

#### <拡張1区>(第2地点：3号ブロック)(第9・24～26・28図)

出土遺物の総点数は11点で、内訳は石器が4点(36.4%)、剥片1点(9.1%)、礫・礫片類6点(54.5%)である。石器の器種は、局部磨製石斧2点(40.0%)、石刀2点(40.0%)、剥片1点(20.0%)である。石器の石材は、黒色頁岩2点(40.0%)、黒曜石1点(20.0%)、碧玉2点(40.0%)である。礫・礫片類の石材は、粗粒輝石安山岩3点(50.0%)、溶結凝灰岩1点(16.7%)、雲母石英片岩2点(33.3%)である(第4表参照)。ここで特徴は、主要な石器の数は少ないものの、群馬1期の特徴である局部磨製石斧が出土していることである。

#### <拡張5区>(第9・24～28図、PL. 4-3・6-1～6)

出土遺物の総点数は255点で、内訳は、石器が24点(9.4%)、剥片178点(69.8%)、碎片34点(13.3%)、礫・礫片類19点(7.5%)である。石器の器種は、ナイフ形石器6点(2.6%)、削器1点(0.4%)、加工痕ある剥片1点(0.4%)、石刀5点(2.1%)、局部磨製石斧1点(0.4%)、石核7点(3.0%)、敲石3点(1.3%)、剥片178点(75.4%)、碎片34点(14.4%)

である。石器の石材は、黒色安山岩193点(81.8%)、黒色頁岩5点(2.1%)、珪質頁岩1点(0.4%)、黒曜石29点(12.3%)、碧玉3点(1.3%)、デイサイト2点(0.8%)、粗粒輝石安山岩3点(1.3%)である。礫・礫片類の石材は、粗粒輝石安山岩6点(31.6%)、溶結凝灰岩3点(15.8%)、雲母石英片岩4点(21.0%)、黒色片岩6点(31.6%)である(第4表参照)。

第3文化層の内容を把握するには、拡張1区と拡張5区の両方を合わせて考える必要がある。全体では、総数266点で、内訳は石器28点(10.5%)、剥片179点(67.3%)、碎片34点(12.8%)、礫・礫片類25点(9.4%)である。石器の器種は、ナイフ形石器6点(2.5%)、削器1点(0.4%)、加工痕ある剥片1点(0.4%)、石刃7点(2.9%)、局部磨製石斧3点(1.2%)、石核7点(2.9%)、敲石3点(1.2%)、剥片179点(74.3%)、碎片34点(14.1%)である。石器の石材は、黒色安山岩193点(80.1%)、黒色頁岩7点(2.9%)、珪質頁岩1点(0.4%)、黒曜石30点(12.4%)、碧玉5点(2.1%)、デイサイト2点(0.8%)、粗粒輝石安山岩3点(1.2%)である。礫・礫片類の石材は、溶結凝灰岩4点(16.0%)、粗粒輝石安山岩9点(36.0%)、雲母石英片岩6点(24.0%)、黒色片岩6点(24.0%)である(第4表参照)。石器群はVI～VII層に帰属すると考えられ、黒色安山岩や黒曜石を石材とする小型のナイフ形石器と、局部磨製石斧を主体としており、群馬編年のI期である。

黒曜石の石器は原産地分析の結果、星ヶ塔産が最も多く、次に小深沢産で、僅かに柏崎産が同定された(第5章第3節参照)。特徴としていえるのが、この時期だけでなく、群馬県内の旧石器時代全般でも柏崎産の検出は珍しい。

次に、出土した石器を種類ごとに見ていくこととする。

**ナイフ形石器**(第13図、K2-27・K2-39・K2-45・K4-74・K4-114・K4-120、PL. 7)総数6点が出土している。K2-39は横長剥片が素材で、一側縁の表裏に平坦剥離調整を施している。石材は黒色安山岩である。K2-45は横長剥片を素材とし、側縁の一部に平坦剥離を施している。いわゆるベン先形、あるいは斜刃状を意図している。石材は黒色安山岩である。K2-27は表面にほぼ原石面が残る縱長剥片が素材で、基部側の両側縁に平坦剥離を施している。石材は黒曜石である。K4-120はおそらくは縱長剥片を素材として、打面部を折断して寸詰まりした先端部分を利用しており、裏面の基部寄りの一側縁に平坦剥離を施し、いわゆるベン先形を意図している。石材は黒色安山岩である。K4-74は縱長剥片、あるいは石刃を素材とし、その両端を折断した中央部を用いて、台形を意図している。一方の折断面に加工調整を加えており、表面の一部に原石面を残している。石材は黒曜石である。K4-114は原石面を打面とする肉厚な縱長剥片を素材とし、表面の両側縁や裏面の基部に大きな調整加工を施して、肉厚だがベン先形を意図している。石材は黒色安山岩である。いずれの資料も、一般的な鋭角な刃潰し(プランディング)ではなく、平坦剥離などを多用することで、いわゆるベン先形や斜刃状、あるいは台形状を作り出すのが主体で、台形様石器などと呼称されるタイプであり、群馬I期に特徴的な石器である。

**削器**(第13図、K4-28、PL. 7)表面の打点寄りに僅かに原石面を残した打面が小さい幅広の剥片で、表面の先端付近と裏面の両側縁に平坦剥離を施している。表面の剥離面から両設打面が推定される。石材は黒曜石である。

**加工痕ある剥片**(第13図、K2-14、PL. 7)1点出土している。K2-14はおそらくは縱長剥片を素材とし、一側縁に加工を加えている。もう一側縁は折断を加えている。石材は黒色安山岩である。

**石刃**(第13・14図、K1-4・K1-5・K2-28・K4-32・K4-11・K4-111、PL. 7)総数7点が出土している。K1-4は大きな打面部分で頭部調整が顯著であり、一側縁の裏面に微細な使用痕が認められる。石材は碧玉である。K4-11は打面部分と両側縁の大部分に原石面を残すことから、亜角礫から石刃を剥離し始めた段階での資料である。石材は黒色頁岩である。K4-111は表面すべてに原石面を残していることから、いわゆるファーストフレイクである。おそらくは亜角礫か立方体に近い形の原石と考えられる。石材は黒曜石である。K2-28は頭部調整が顯著だが、あるいは杉久保系のナイフ形石器かもしれない。石材は碧玉である。K1-5は原石面を打面とし、表面の一部にも原石面を残している。石材は黒曜石である。K4-32は打面部分を折断している。先端部分に残る逆方向からの剥離面の存在から、両極打面が推定される。石材は珪質頁岩である。K4-3は横長剥片を素材とし、一側縁に僅かに加工を加えている。石材は黒色安山岩である。この他に、多数の剥片や碎片が出土しているが、図化・資料化しているのは主に接合資料に含まれる資料だけである。(第18図～第23図、PL. 10～12)

### 第3章 各遺跡の遺構・遺物

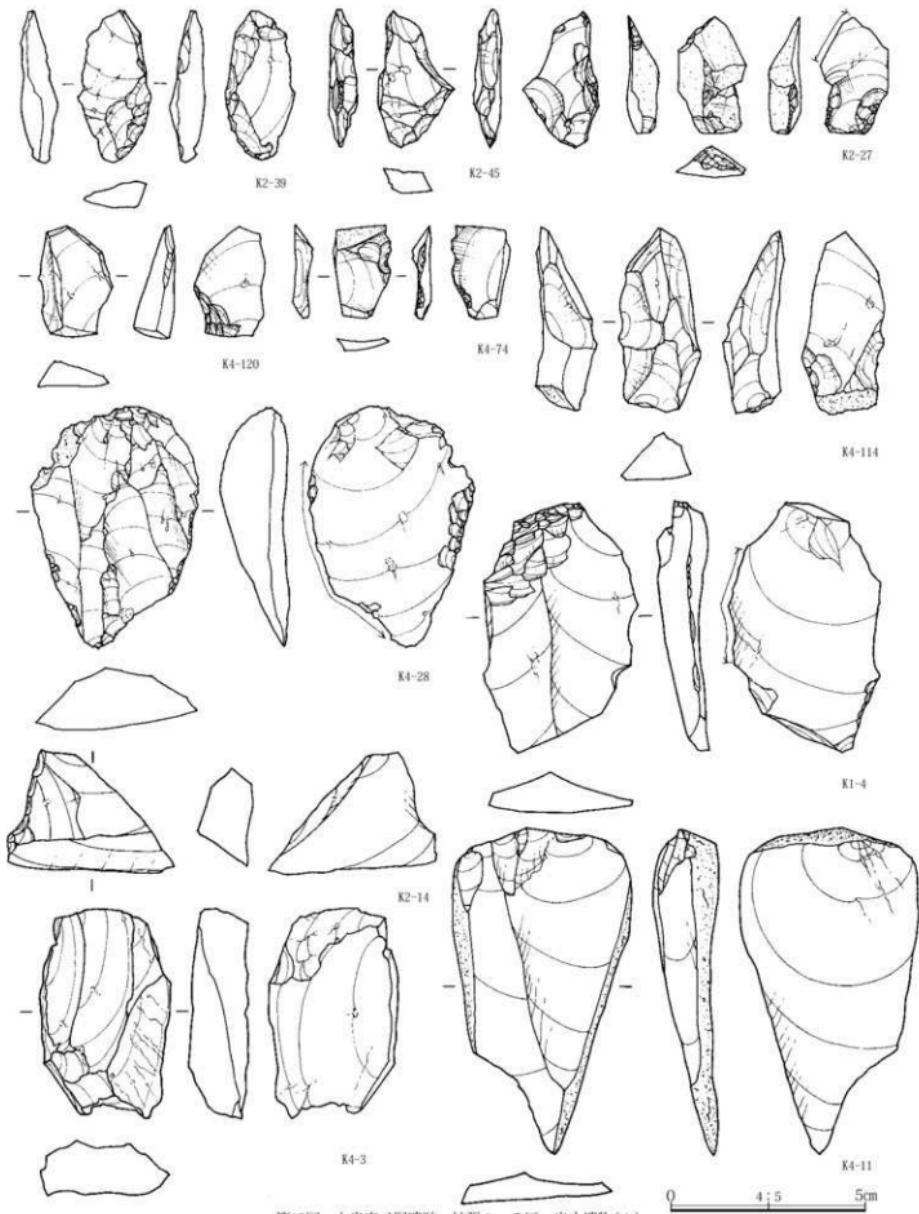
局部磨製石斧(第14・15図、K1-1・K1-2・K4-90、PL. 8)器体上半部から二つに折れた資料1点などの3点が出土している。K1-1+K1-2は頭部寄りの部分で、裏面側から二つに割れた資料である。表面の刃部寄りに原石面を残すことから、礫から剥離した大形の横長剥片を素材とし、裏面には分割時の剥離面が大きく残っている。刃部から体部にかけての広い範囲で、直交する方向に激しい研磨痕が残されている。また、折れた部分の一部に調整を施していることから、リダクションを試みたと考えられる。石材は黒色頁岩である。K4-90は表面の頭部寄りに原石面を残すことから、礫から剥離した大形の横長剥片を素材とし、裏面には加工前の剥離面が大きく残っている。K1-1+K1-2と同様に、刃部周辺には直交する方向に激しい研磨痕が残されている。石材は同じく黒色頁岩である。

石核(第15・16・17図、K2-65・K4-4・K4-6・K4-15・K4-40・K4-164・K4-168、PL. 9)7点出土している。K4-40は原石を分割した大形の剥片で、周縁から表・裏面に剥片を剥離している。裏面に原石面を残す。石材は黒色安山岩である。K4-15は原石を分割した剥片で、周縁から表・裏面に主に横長剥片を連続して剥離している。裏面に原石面を残す。石材は黒色安山岩である。K4-168は裏面の一部に原石面を残し、周縁から裏面に剥片を数枚だけ剥離し、最後に表面から1枚の縱長剥片を剥離している。石材は黒曜石である。K4-6は原石を分割した剥片で、裏面すべてに原石面が残り、表面から横長剥片を1枚だけ剥離している。石材は黒色安山岩である。K4-164は原石を小割りに分割した原石面が残る厚みのある剥片を素材に、原石面や周縁から表面側に剥片を剥離している。石材は黒色安山岩である。K4-4は原石を分割した大形の剥片で、周縁から表・裏面に剥片を剥離しているが、特に表面で中心部に向かって大小の剥片を剥離している。裏面に原石面を残す。石材は黒色安山岩である。K2-65は4~5cmの大きさの原石からおそらくは半裁した形で作り出した部分を素材とし、原石面や分割面など複数の打面を設定して、小形の剥片を何枚か剥離している。石材は黒曜石である。

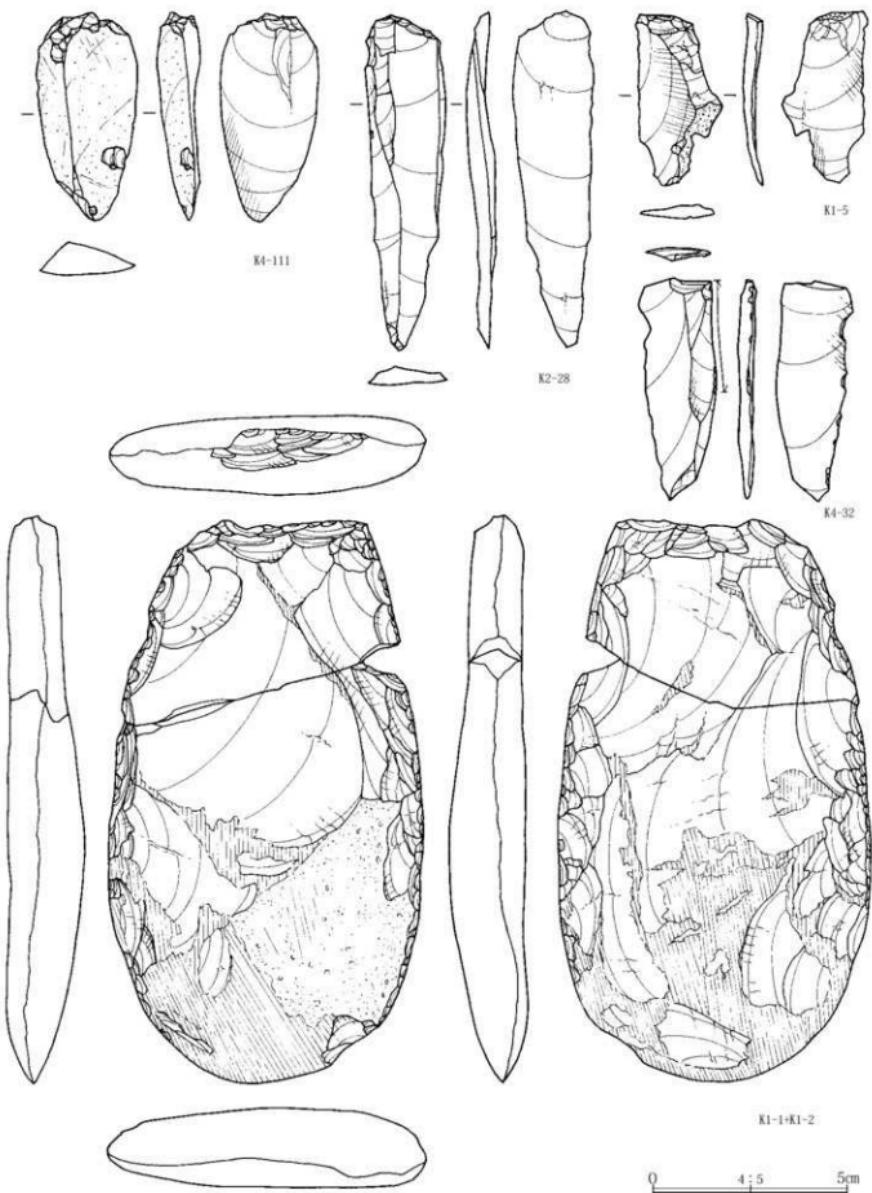
敲石(第17図、K4-47・K4-88・57-07-36、PL.10)3点が出土している。57-07-36はやや厚みのある楕円礫を素材に、長軸の両端と両側縁に多くの敲打痕が認められる。石材は粗粒輝石安山岩である。K4-47は楕円礫を素材に、長軸の両端に敲打痕が少量認められる。また、一面に磨痕が認められる。石材は粗粒輝石安山岩である。K4-88はやや厚みのある楕円礫を素材に、長軸の一端に多くの敲打痕が認められる。石材は粗粒輝石安山岩である。

第4表 上泉唐ノ堀遺跡 第3文化層 組成表

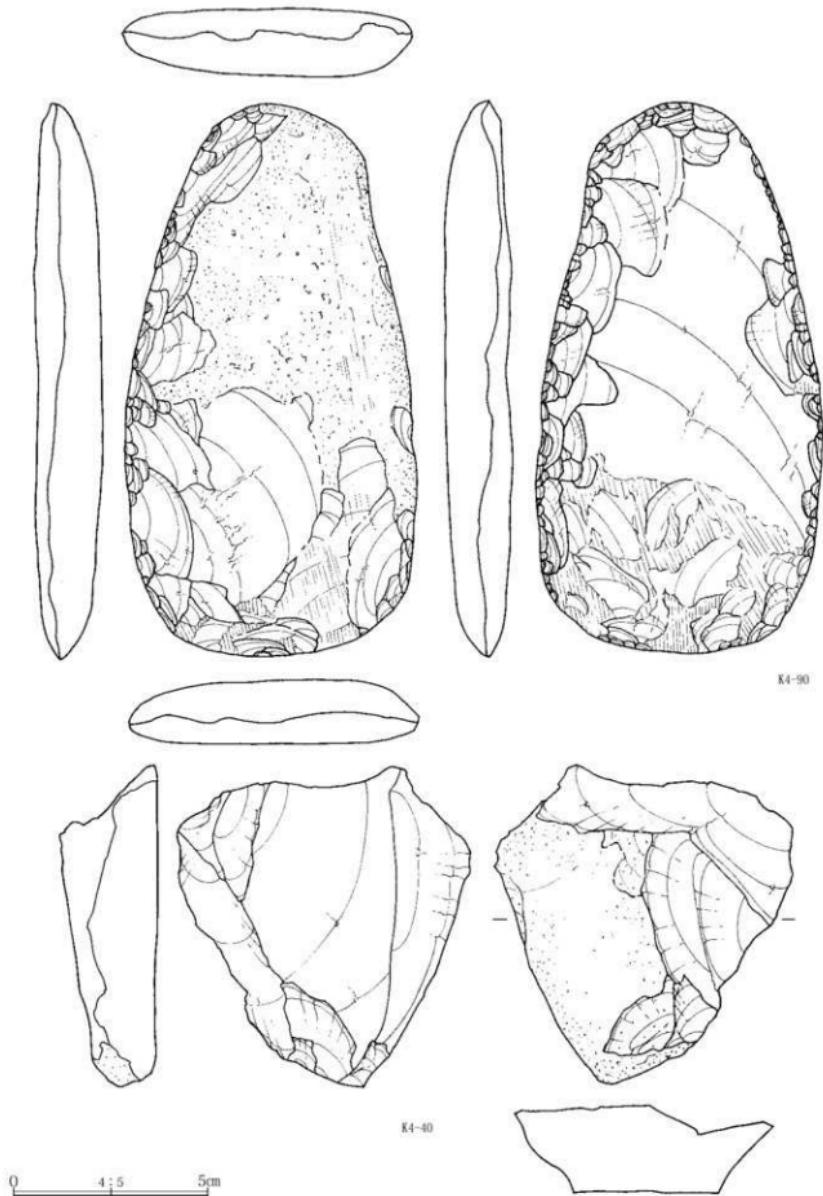
	ナイフ	削器	加工廻	石刀	局部磨製石斧	石核	敲石	剥片	砂片	礫	礫片	礫類	統計
黒色安山岩	4		1	1		5		151	31				193
黒色頁岩				1	3			3					7
日賀頁岩				1									1
黒曜石	2	1		2		2		20	3				30
碧玉				2				3					5
ダイサイト								2					2
溶結凝灰岩										1	3		4
粗粒輝石安山岩							3		3	6			12
雲母石英片岩											6		6
黒色片岩											6		6
統計	6	1	1	7	3	7	3	179	34	4	9	12	266



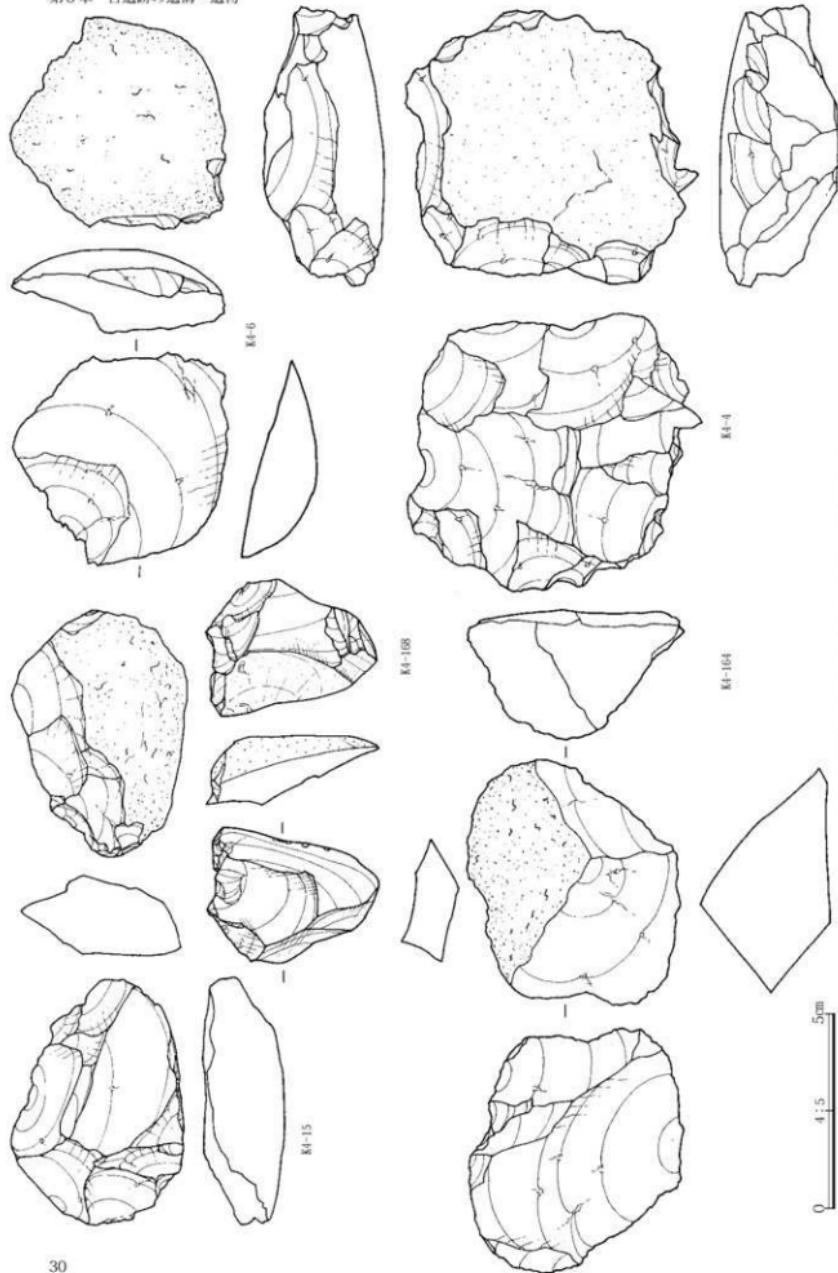
第13図 上泉唐ノ堀遺跡 挖張1・5区 出土遺物(1)



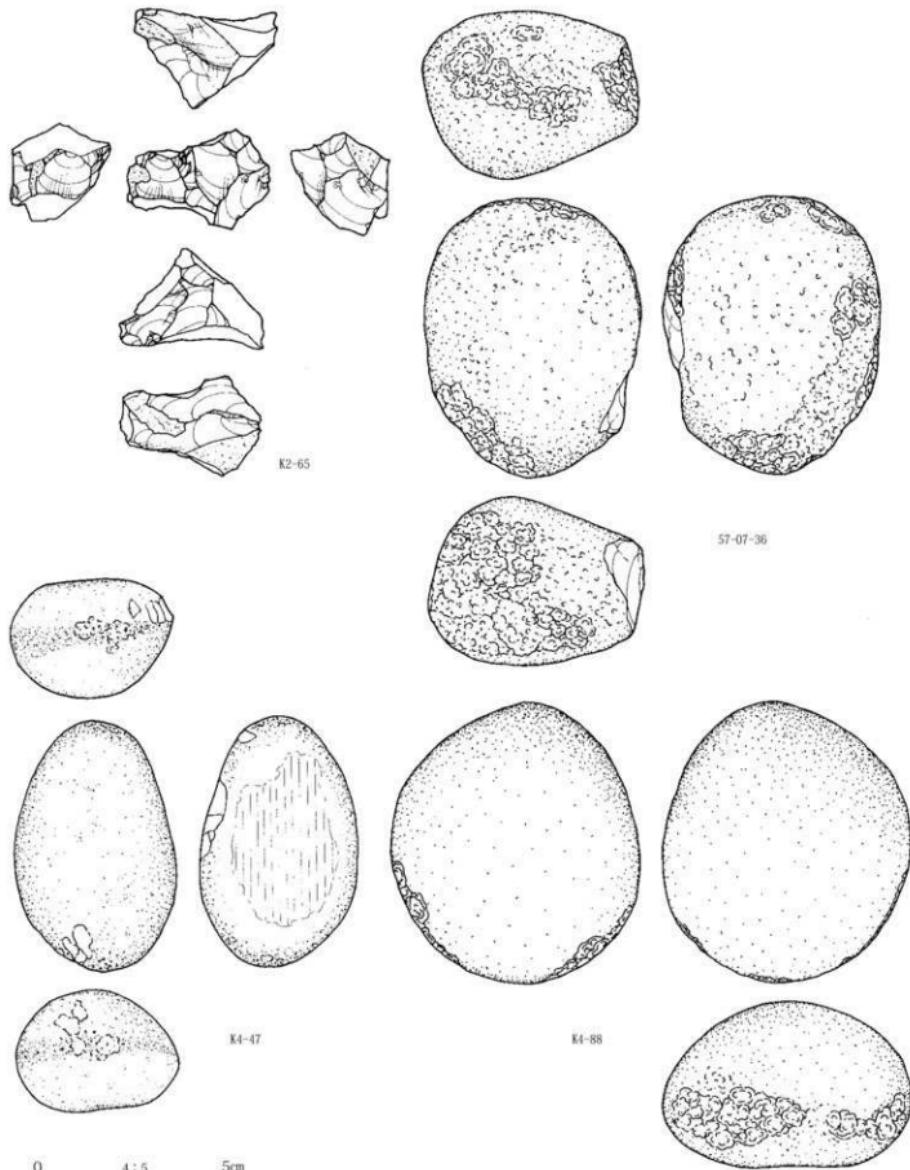
第14図 上泉唐ノ堀遺跡 拡張1・5区 出土遺物(2)



第15図 上泉唐ノ堀遺跡 拡張1・5区 出土遺物(3)



第16図 上柴山ノ堀遺跡 拡張1・5区 出土遺物(4)



第17図 上泉唐ノ堀遺跡 拡張1・5区 出土遺物(5)

### 第3章 各遺跡の遺構・遺物

#### (4)母岩別資料・接合資料(第18～23図、PL.10～12)

拡張5区の接合資料では、黒色安山岩が最も多く、次に黒曜石、黒色頁岩などである。自然石・礫を除く石器の総点数255点のうち、接合資料が63点(26.1%)であるが、重量は2,704.17gのうちの1,363.64g(50.4%)である。

黒色安山岩は、出土点数193点のうち、接合資料は16例52点である。

黒色安山岩1(第18・19図、PL.10・11)皺が激しく、爪状痕も多い。色調は灰6/1 (Hue7.5Y)。

出土点数27点のうち、接合資料は4例18点である。

黒色安山岩1-①(第18図、PL.10)剥片10点の接合資料である。分割礫の原石面を打面として、数枚の剥片を剥離した後、打面を90° 転位して石核の周縁から裏面側に剥離を加える。石核は遺構外に持ち出されている。

K2-32(剥片)→K4-56(剥片)→K2-37(剥片)→K4-29(剥片)→打面転位K2-29(剥片)→K4-53(剥片)→K4-69(剥片)+K4-59(剥片)+K4-92(剥片)→K4-93(剥片)

黒色安山岩1-②(第18図、PL.10)原石面を持ち、打面を180° 転位させる石核1点と、剥片3点の計4点の接合資料である。K4-67(剥片)→K4-64(剥片)→K4-183(剥片)→K4-164(石核)

黒色安山岩1-③(第19図、PL.11)連続して剥離された剥片を素材としたナイフ形石器1点と剥片1点の計2点の接合資料である。K4-120(ナイフ形石器)→K4-117(剥片)

黒色安山岩1-④(第19図、PL.11)剥片2点の接合資料である。K4-54(剥片)→K4-95(剥片)

黒色安山岩1(第13図、PL.7)の同一母岩と考えられる非接合資料は、以下の9点である。K2-39(ナイフ)、K2-41(剥片)、K2-43(剥片)、K2-51(剥片)、K2-53(剥片)、K4-66(剥片)、K4-70(剥片)、K4-91(剥片)、K4-118(剥片)  
黒色安山岩2(第19・20・22図、PL.11・12)皺が激しく、爪状痕も多い。

出土点数55点のうち、接合資料は10例27点である。

黒色安山岩2-①(第19図、PL.11)分割した礫の分割面を打面として幅広剥片を剥離し、90° 打面転位して剥離作業面を打面として数枚の剥片を剥離し、再び90° 打面転位して剥離作業面を打面として大形の剥片を剥離する。折断した剥片2例4点を含む剥片6点の接合資料である。K4-101(剥片)+K4-106(剥片)→K4-115(剥片)→K4-105(剥片)-K4-103(剥片)+K4-100(剥片)

黒色安山岩2-②(第19図、PL.11)原石面を打面とし、連続して剥離された剥片4点の接合資料である。K4-124(剥片)→K4-132(剥片)→K4-135(剥片)→K4-130(剥片)

黒色安山岩2-③(第20図、PL.11)原石面を打面とし、連続して剥離された剥片3点の接合資料である。K4-145(剥片)→K4-119(剥片)→K4-143(剥片)

黒色安山岩2-④(第20図、PL.11)原石面を裏面に持つ大型剥片を素材とする石核と剥片の各1点の計2点の接合資料である。K2-1(剥片)→K4-6(石核)

黒色安山岩2-⑤(第20図、PL.11)剥片2点の折断資料である。K4-16(剥片)+K2-14(剥片)

黒色安山岩2-⑥(第20図、PL.11)原石面を打面とする剥片2点の接合資料である。K2-56(剥片)→○→K4-136(剥片)

黒色安山岩2-⑦(第20図、PL.11)剥片2点の折断資料である。K2-4(剥片)+K2-2(剥片)

黒色安山岩2-⑧(第20図、PL.12)黒色安山岩2-⑧と同様に、原石面を打面とし、連続して剥離された剥片2点の接合資料である。K4-141(剥片)→K2-61(剥片)

黒色安山岩2-⑨(第20図、PL.11)縱長の剥片2点の折断資料である。K2-19(剥片)+K2-6(剥片)

黒色安山岩2-⑩ 剥片2点の接合資料である。K2-68(剥片)→K2-67(剥片)非実測

黒色安山岩2(第22図、PL.12)の同一母岩と考えられる非接合資料は、以下の28点であり、すべて剥片である。

K2-8(剥片)、K2-12(剥片)、K2-13(剥片)、K2-26(剥片)、K2-30(剥片)、K2-50(剥片)、K2-55(剥片)、K2-60(剥片)、K2-66(剥片)、K2-69(剥片)、K4-3(石刃)、K4-5(剥片)、K4-12(剥片)、K4-13(剥片)、K4-15(剥片)、K4-20(剥片)、K4-37(剥片)、K4-40(剥片)、K4-42(剥片)、K4-43(剥片)、K4-80(剥片)、K4-125(剥片)、

K4-138 (剥片)、K4-140 (剥片)、K4-144 (剥片)、K4-166 (剥片)、K4-174 (剥片)、K4-179 (剥片)

黒色安山岩3(第21図、PL.12)出土点数6点のうち、接合資料は1例5点である。

黒色安山岩3-①(第21図、PL.12)約8cmの大きさの原石を素材に、分割面を打面として剥片を剥離し、その剥離作業面を打面として90°打面転位して剥片を剥離し、さらに剥離作業面を打面として90°打面転位して剥片を剥離する。大部分に原石面が残る幅広の剥片5点の接合資料である。K4-102 (剥片)→K2-46 (剥片)→K4-104 (剥片)→K4-169 (剥片)→K4-108 (剥片)

黒色安山岩3の同一母岩と考えられる非接合資料は、以下の剥片1点である。K4-197 (剥片)

黒色安山岩4(第21・22図、PL.12)出土点数18点のうち、接合資料は1例2点である。

黒色安山岩4-①(第21図、PL.12)ナイフ形石器1点と側面の調整のための剥片1点の計2点の接合資料である。

K4-113 (剥片)→K4-114 (ナイフ形石器)

黒色安山岩4(第22図、PL.12)の同一母岩と考えられる非接合資料は、以下の16点であり、すべて剥片である。

K2-18 (剥片)、K2-22 (剥片)、K2-24 (剥片)、K2-35 (剥片)、K2-45 (剥片)、K2-59 (剥片)、K263 (剥片)、K2-64 (剥片)、K2-70 (剥片)、K4-19 (剥片)、K4-34 (剥片)、K4-52 (剥片)、K4-57 (剥片)、K4-128 (剥片)、K4-160 (剥片)、K4-175 (剥片)

黒色安山岩5(第22図、PL.12)の同一母岩と考えられる非接合資料は、以下の4点であり、すべて剥片である。K2-20 (剥片)、K2-21 (剥片)、K3-1 (剥片)、K4-172 (剥片)

黒色安山岩で、単独の母岩と考えられる資料(第16図、PL.9)は、以下の2点である。K4-4 (石核)、K4-158 (剥片)

黒色安山岩で、母岩分類が出来ない資料は、剥片50点と碎片31点の計81点である。

黒曜石は、出土点数30点のうち、接合資料は3例7点である。

黒曜石1(第22・23図、PL.12)黒色で、斑晶をやや含む。原石の形状や大きさは不明である。出土点数7点のうち、接合資料は2例5点である。

黒曜石1-①(第22図、PL.12)立方体ではほぼすべての面に剥離面を残す石核1点と剥片2点の計3点の接合資料である。

K2-52 (剥片)+K4-147 (剥片)→K2-65 (石核)

黒曜石1-②(第22図、PL.12)剥片2点の折断資料である。K4-188 (剥片)+K4-122 (剥片)

黒曜石1の同一母岩と考えられる非接合資料は、以下の2点である。K2-47 (剥片)、K2-62 (剥片)

黒曜石2(第23図、PL.12)出土点数4点のうち、接合資料は1例2点である。

黒曜石2-①(第23図、PL.12)折断剥片と打面を90°転位して剥離した剥片の2点の接合資料である。K4-26 (剥片)→K4-31 (剥片)

黒曜石2の同一母岩と考えられる非接合資料は、以下の2点である。K4-46 (剥片)、K4-50 (剥片)

黒曜石3(第23図、PL.12)での同一母岩と考えられる非接合資料は、以下の11点であり、すべて剥片である。K2-27 (剥片)、K4-25 (剥片)、K4-27 (剥片)、K4-31 (剥片)、K4-41 (剥片)、K4-48 (剥片)、K4-74 (剥片)、K4-111 (剥片)、K4-159 (剥片)、K4-168 (剥片)、K4-181 (剥片)

黒曜石(第13・23図、PL.7・12)で母岩分類が出来ない資料は、以下の7点である。K4-28 (削器)、K4-33 (剥片)、K4-153 (剥片)、K4-167 (剥片)、K4-30 (碎片)、K4-49 (碎片)、K4-60 (碎片)

デイサイトは、同じ母岩別資料である2点だけの出土である。

デイサイト1-①(第23図、PL.12)剥片2点の折断資料である。K4-161 (剥片)+K4-163 (剥片)

黒色頁岩(第13・15・23図、PL.7・8・12)黒色頁岩で母岩分類が出来ない資料は、以下の5点である。K2-17 (剥片)、K3-2 (剥片)、K4-11 (石刃)、K4-90 (局部磨製石斧)、K4-171 (剥片)

碧玉(第13・23図、PL.7・12)単独での出土である。K2-28 (石刃)、K4-177 (剥片)、K5-27 (剥片)

珪質頁岩(第14図、PL.7) 単独での出土である。K4-32 (石刃)

### 第3章 各遺跡の遺構・遺物

拡張1区(第2地点：3号ブロック)は局部磨製石斧2点と石刃2点、剥片1点の総数5点での出土である。

黒色頁岩1(第14図、PL. 8)出土点数2点のうち、接合資料は1例2点である。

黒色頁岩1-①(第14図、PL. 8) K1-2(局部磨製石斧)+K1-1(局部磨製石斧)

黒曜石(第14図、PL. 7) 単独での出土である。K1-5(石刃)

碧玉(第13・23図、PL. 7・12)単独の母岩で、出土点数は2点である。K1-4(石刃)、K1-6(剥片)

#### (5) 剥片剥離技術

まず、大形の原石を分割し、背面に原石面を残す分割礫の周縁から表裏面の中心に向かって、主に横長の剥片を剥離して、円盤状の石核を作り出す。これは群馬Ⅰ期に多い剥片剥離技術であり、黒色安山岩1-①が典型例であり、K4-4やK4-15などの石核がそうである。一方、原石の一端を打ち欠いて打面を作り出し、主に縦長の剥片を剥離する手法も群馬Ⅰ期からⅡ期にかけて多い剥片剥離技術である。黒色安山岩2-①がそれに近いが、一般には前者に黒色安山岩が多く用いられるのに対して、後者は黒色頁岩が多い。また、90°の打面転位だけではなく、180°転位する両極打面が認められる。

#### (6) 分布状況(第9・24・214図、PL. 4-3、6-1~6)

前記したように、拡張1区・第2地点を3号ブロック、拡張5区・第1地点を1号ブロックと2号ブロックの2ヶ所のブロックとに区分したが、石器分布が密なのは1号ブロックであり、その分布状況はいわゆる「環状ブロック群」のようでもあるが、北側半分の分布が希薄であることから、はたして環状と言いつつよいのか問題はある。だが、石器組成や剥片剥離技術などからみても、群馬Ⅰ期の時期の石器群そのものであり、やはりこの時期に特徴的な「環状ブロック群」と認定するのが妥当であろう。また、1号ブロックについては、さらに4~5群に細分が可能かもしれない。

#### (7) 石器の分布(第25図、PL. 6)

ナイフ形石器などの主要な石器は、やはり1号ブロックに集中しているが、局部磨製石斧は1号ブロックの南側と、分布密度が薄い北側の3号ブロックにも分布する。また、敲石や石核も前者から出土していることから、この部分が石器製作場である可能性が高い。一方、後者は局部磨製石斧だけでなく、石刃なども存在することから、利器を保管している居住空間の可能性もある。だが、1号ブロックとの間に僅かな接合関係のある2号ブロックは点数も少なく、性格がつかめない。

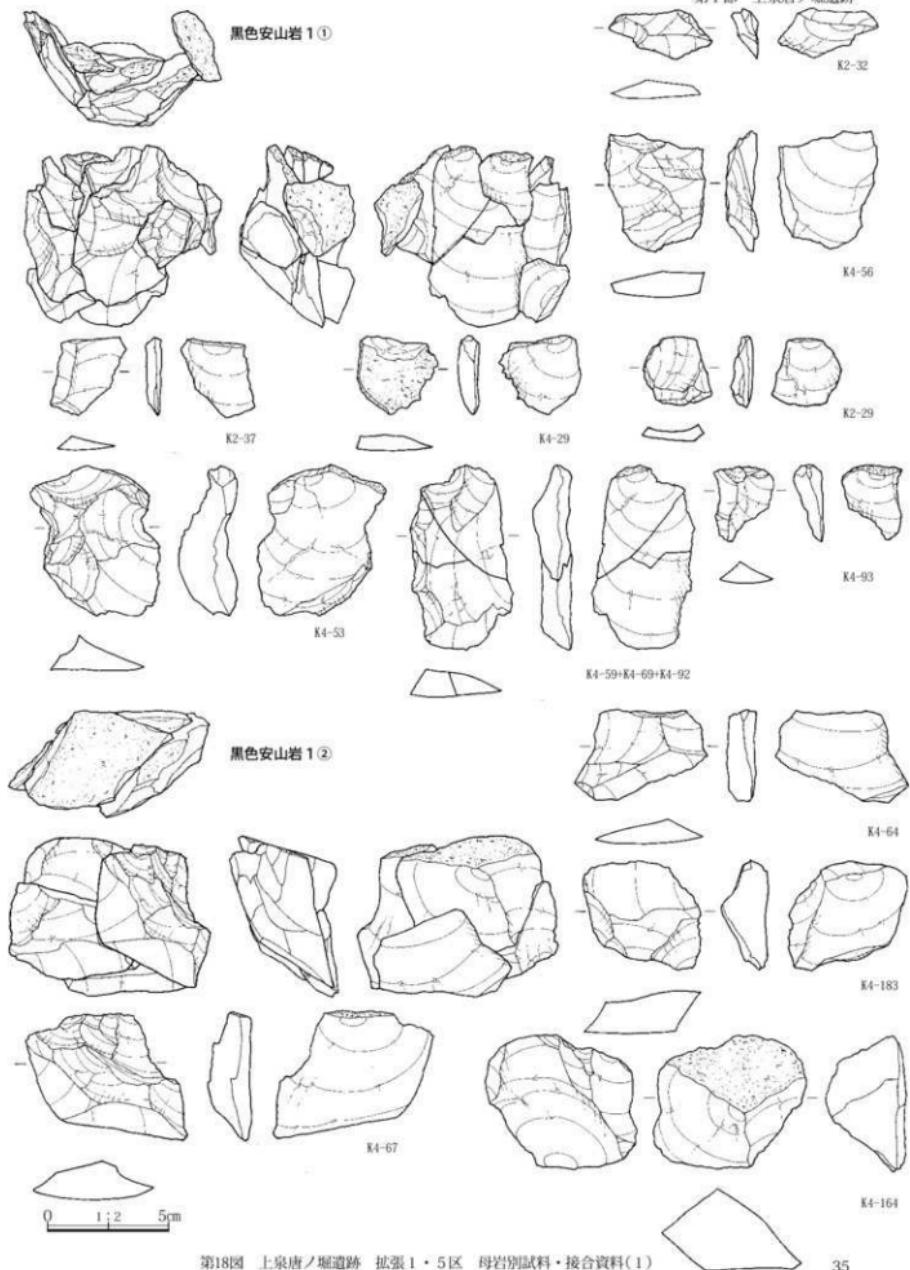
#### (8) 石材の分布(第26図)

主要な石材である黒色安山岩は分布全体に万遍なくあるものの、それに対して特徴的な分布をしているのが黒曜石である。主に1号ブロックの中央部から西側半分を中心に分布しており、東側と西側で何らかの違いがあるのかもしれない。

#### (9) 接合資料の分布(第26・27・28図)

やはり主要な石材である黒色安山岩を中心に多数の接合資料がみられるが、特に1号ブロックの西側に分布する黒色安山岩は原石、あるいは大形の分割礫であり、剥片剥離工程の初期からの展開を示している。また、前記したように、1号ブロックについては、接合資料の分布状況からも細分が可能かもしれない。その場合は、4~5ヶ所ぐらいであろう。

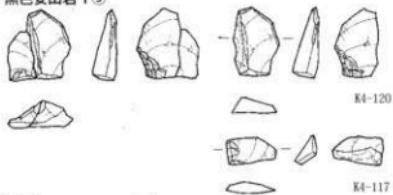
第1節 上泉唐ノ堀遺跡



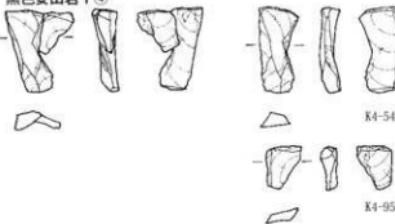
第18図 上泉唐ノ堀遺跡 拡張1・5区 母岩別試料・接合資料(1)

第3章 各遺跡の遺構・遺物

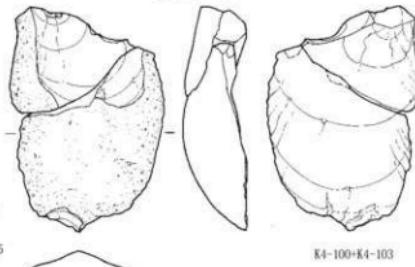
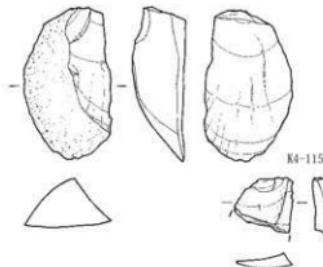
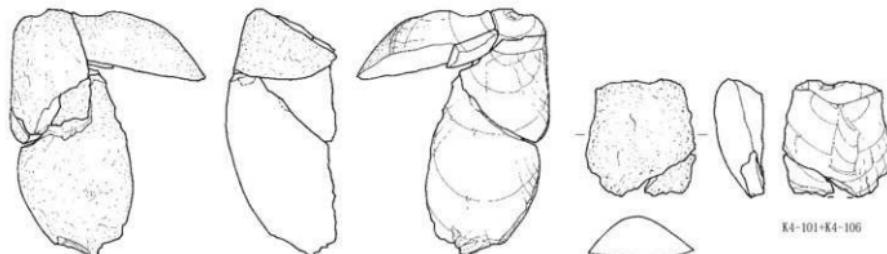
黒色安山岩 1③



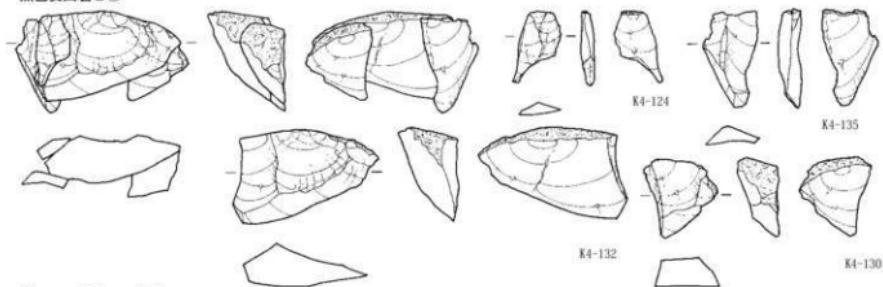
黒色安山岩 1④



黒色安山岩 2①



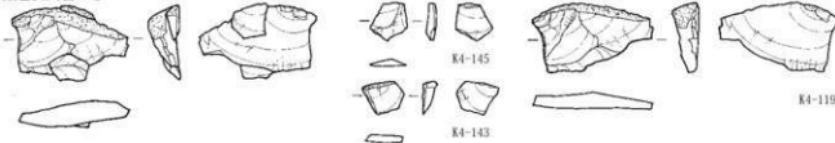
黒色安山岩 2②



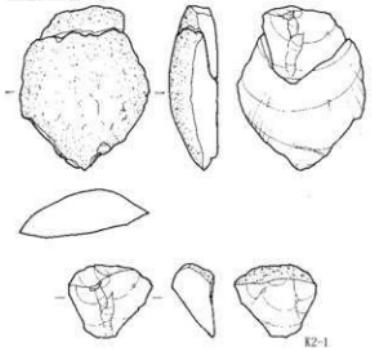
0 1 2 5cm

第19図 上泉唐ノ堀遺跡 拡張1・5区 母岩別試料・接合資料(2)

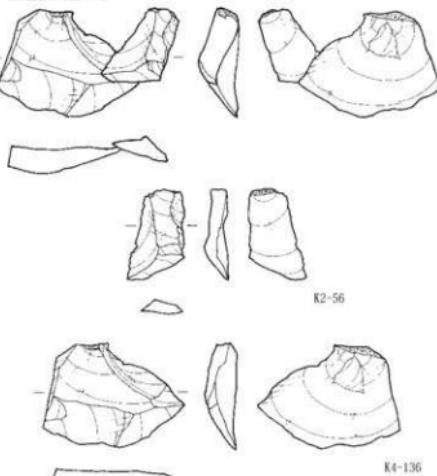
## 黒色安山岩 2③



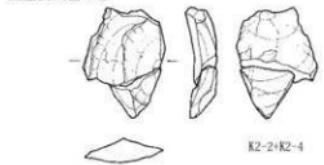
## 黒色安山岩 2④



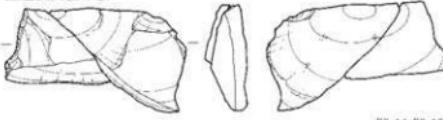
## 黒色安山岩 2⑥



## 黒色安山岩 2⑦



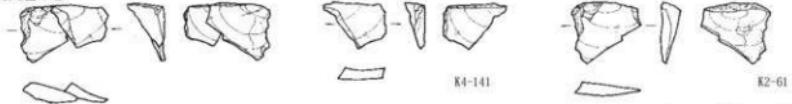
## 黒色安山岩 2⑤



## 黒色安山岩 2⑨



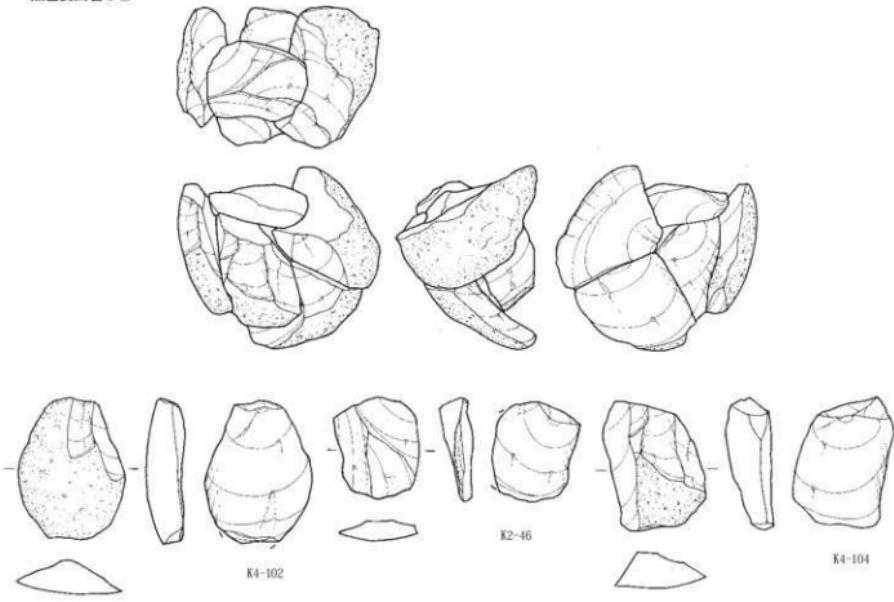
## 黒色安山岩 2⑩



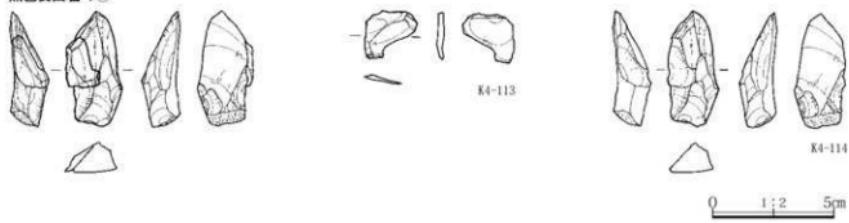
第20図 上泉唐ノ堀遺跡 拡張1・5区 母岩別試料・接合資料(3)

0 1 2 5cm

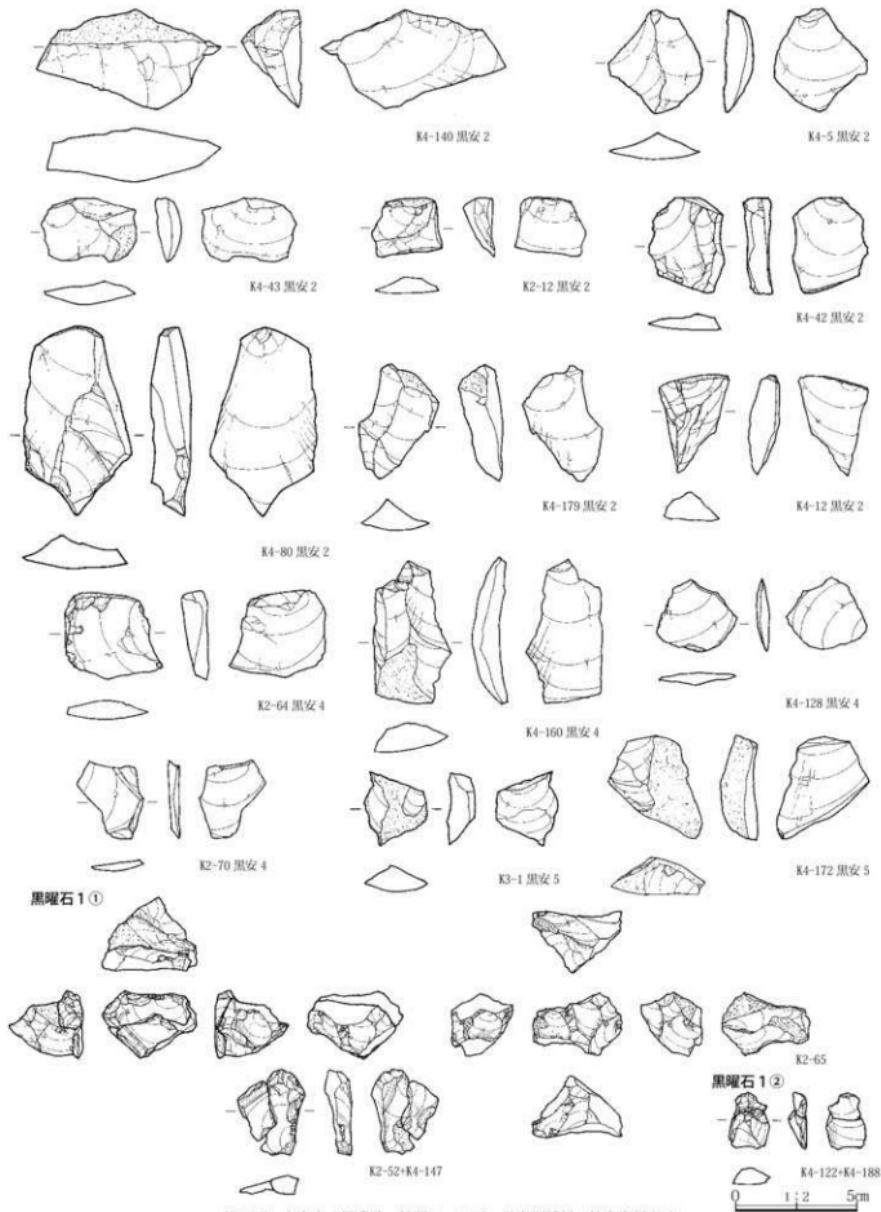
黒色安山岩 3①



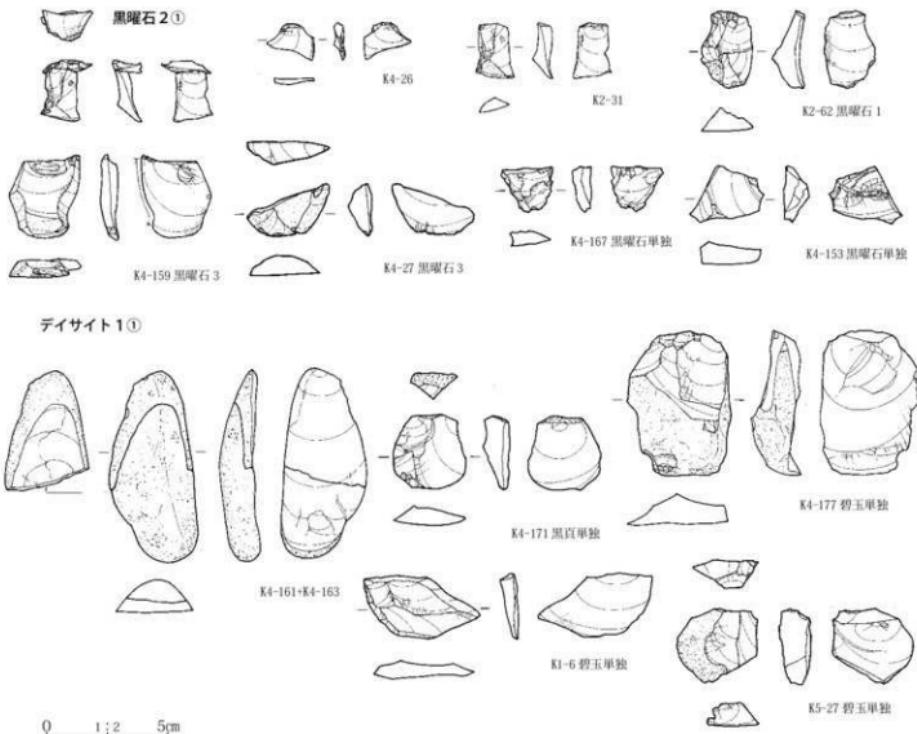
黒色安山岩 4①



第21図 上泉唐ノ堀遺跡 拡張1・5区 母岩別試料・接合資料(4)



第22図 上泉唐ノ堀遺跡 拡張1・5区 母岩別試料・接合資料(5)

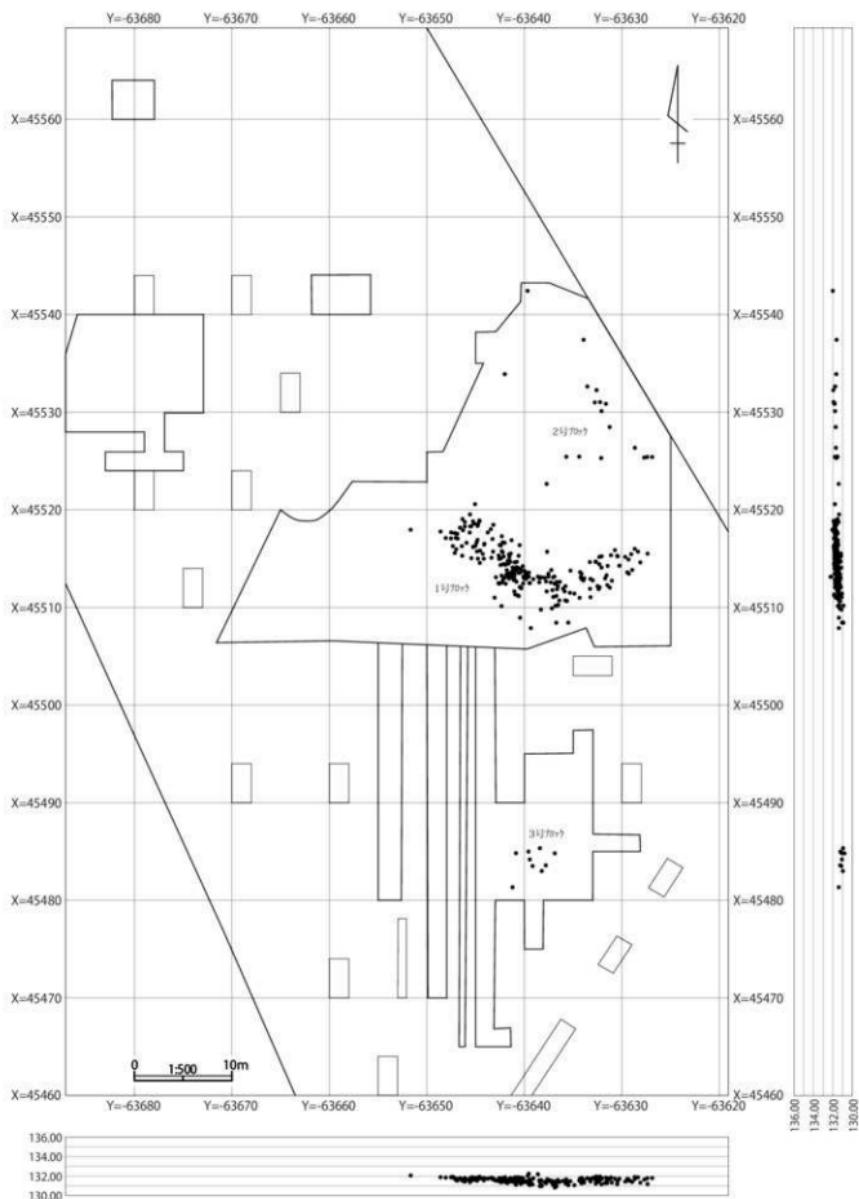


第23図 上泉唐ノ堀遺跡 拡張1・5区 母岩別試料・接合資料(6)

## 6 その他(第29図、PL. 5-8・71)

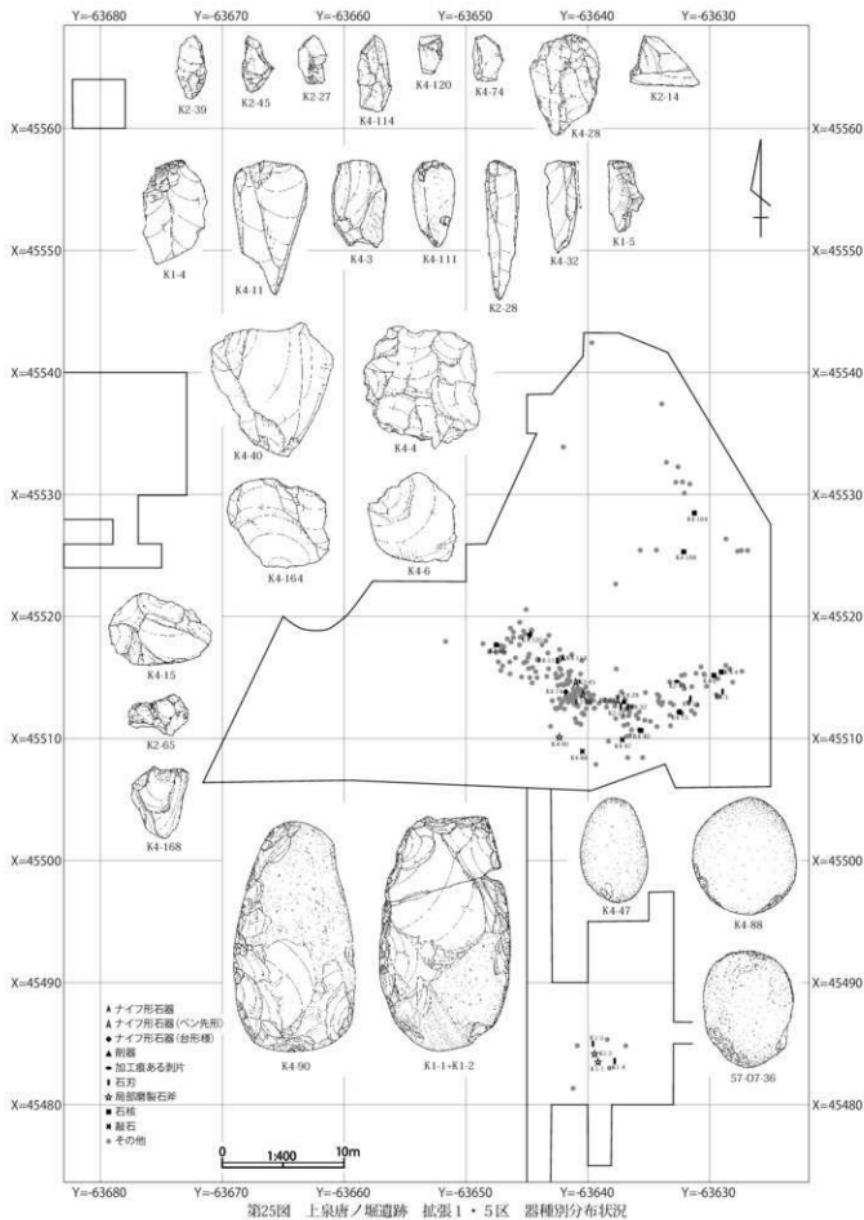
この他に、拡張6区・第3地点からは剥片と自然礫がそれぞれ1点出土している。石材はともに黒色頁岩である。拡張8区、及びトレンチ出土の資料は出土層位がはっきりとは把握されていない。おそらくは群馬編年のIV期の時期と想定される。

また、拡張5区・第1地点と拡張1区・第2地点で自然石が暗色帶下部から検出された。結晶片岩類を中心とした12点である。出土層位は暗色帶下部から棲名八崎軽石にかけてであり、グリッド内で集中しているように見える。上武道路関係の遺跡での旧石器時代で、前記したように上泉唐ノ堀遺跡(7工区)などでもこのような同様の出土事例が多いことから、それぞれの発掘調査の時点では遺物として取り上げていた。だが、端部が丸みを帯びた小形の棒状でいずれも剥片剥離の痕跡が認めないことなどから、考古学的にこれらを石器と認定しないこととし、遺物としての取り扱いをしないものの、地学サイドの意見も聽取しながら、あくまで参考資料として紹介することとした。石材は、雲母石英片岩6点(50.0%)、黒色片岩6点(50.0%)である。分布状況は、第2文化層の他の石器と同一である。さらに、それぞれの個体の大きさからも、利器的などらえ方がまったくできない。こうした点からもやはり、石器とは認定できない。

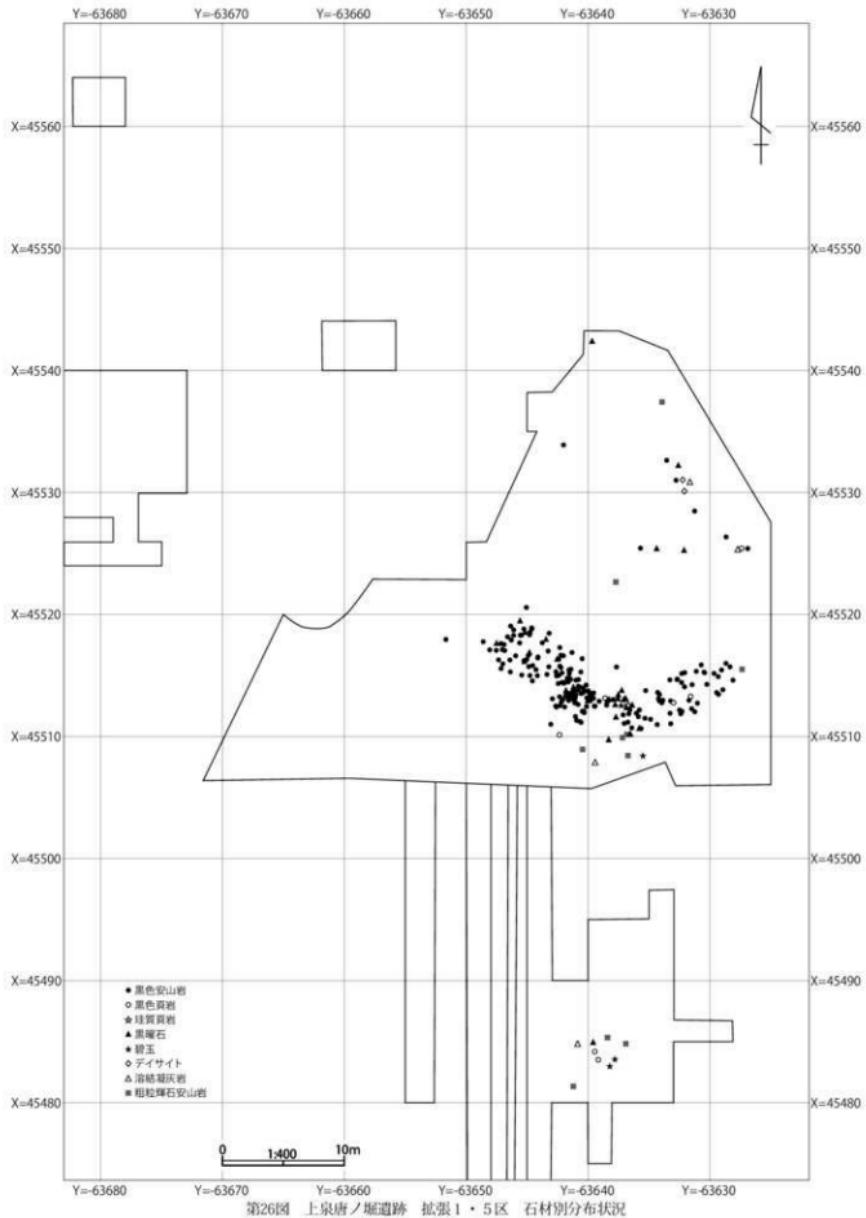


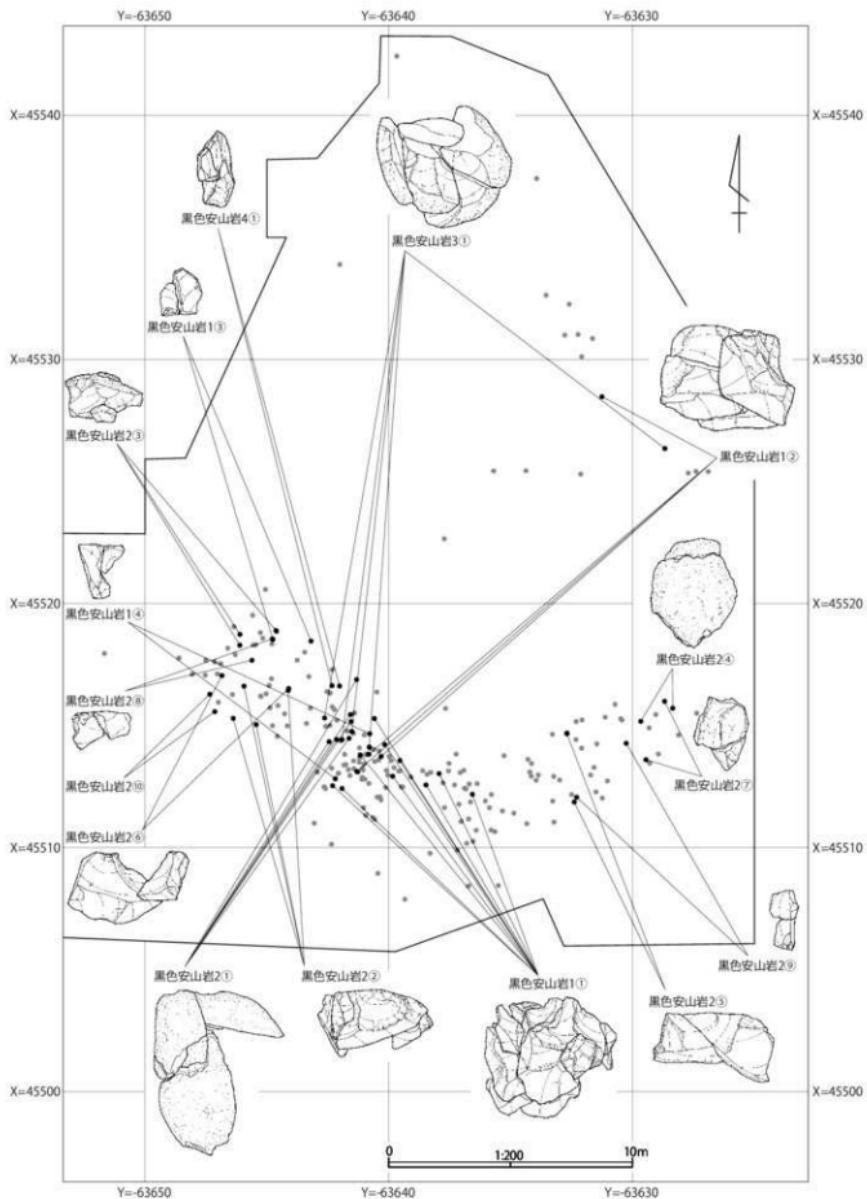
第24図 上泉唐ノ堀遺跡 拡張1・5区 石器分布・垂直分布状況

第3章 各遺跡の遺構・遺物



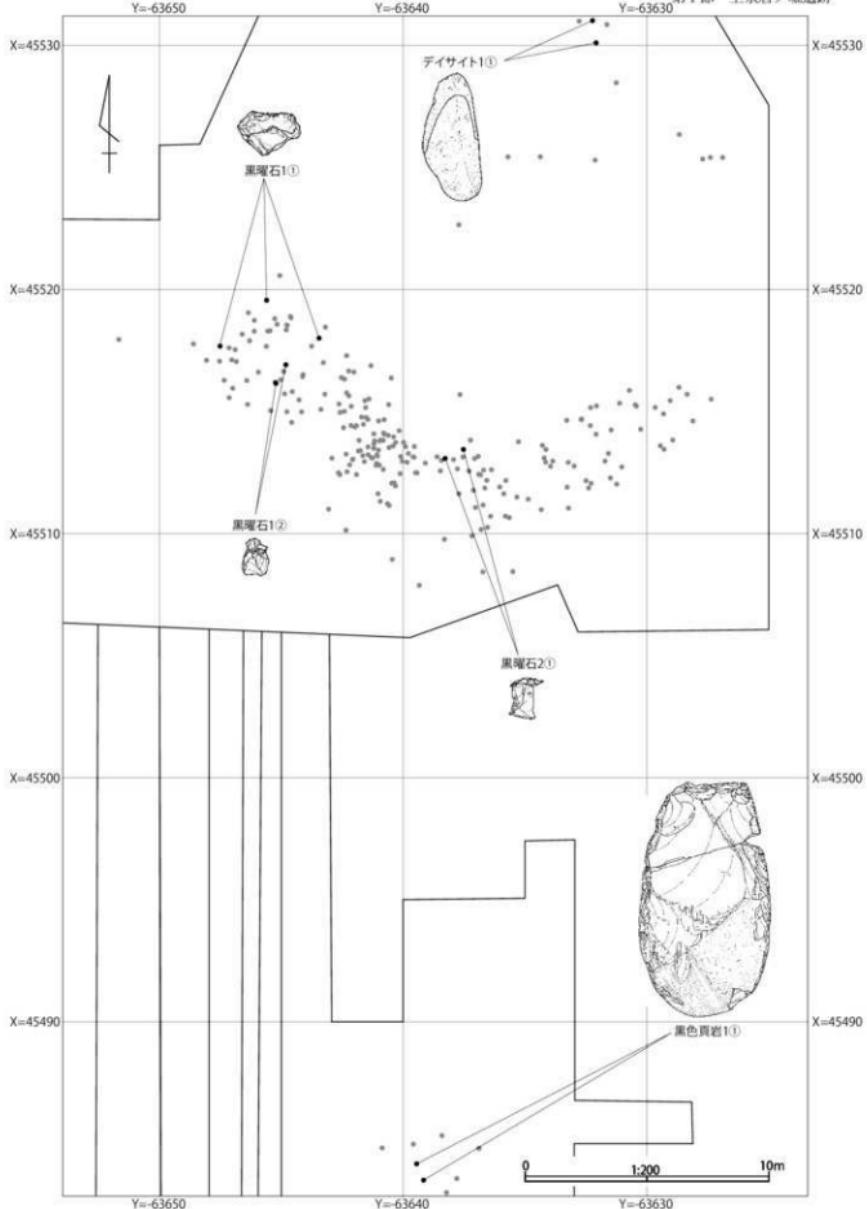
第25図 上泉唐ノ堀遺跡 拡張1・5区 器種別分布状況



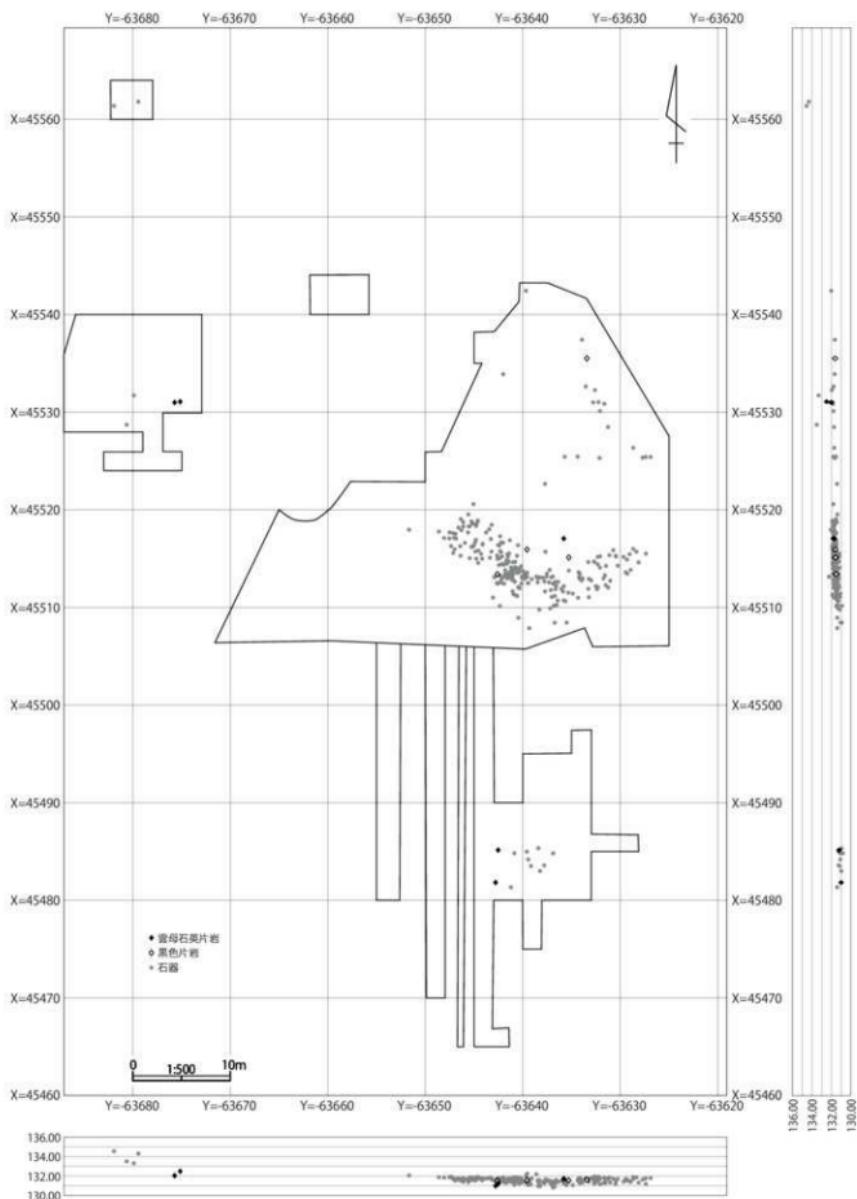


第27図 上泉唐ノ堀遺跡 拡張5区 接合資料の分布状況

第1節 上泉唐ノ堀遺跡



第28図 上泉唐ノ堀遺跡 拡張1・5区 接合資料の分布状況



第29図 上泉唐ノ堀遺跡 結晶片岩の分布状況

## 第2節 上泉新田塚遺跡群

### 1 遺跡の概要

上泉新田塚遺跡群(JK54)は、寺沢川と获窪川に挟まれた南北に長い台地上の西側に位置する。遺構・遺物の出土地点は获窪川寄りの西の台地で、南西に緩やかに傾斜しており、標高は約135～141mである。

### 2 調査の経過

平成18年度の発掘調査で、1ヶ所の試掘トレンチで暗色帯中から1点の石器が出土したため周辺部を拡張したが、他に石器の出土はなかった。

平成19年度の発掘調査では、数ヶ所の地点から石器が出土したために周囲を拡張して調査を継続した。それぞれを拡張2区、拡張3区、拡張4区と呼称した。このように調査地点が多いことから、出土した石器の登録番号で「拡張」を「K」と表記した。つまり、「拡張2区」は「K2」となり、注記も同様である。さらに複数の遺物が出土した拡張4区を第1地点、拡張3区を第2地点、拡張2区を第3地点と呼称した。第1地点と第2地点では2つの文化層がそれぞれ確認されている。なお、拡張1区については図に記載していないが、拡張2区の北側に位置している。

石器ブロックは5ヶ所があり、それぞれの石器の出土層位は、第3地点が浅間大窪沢第1軽石(As-0k1)下位から浅間板鼻褐色軽石(As-BP)層上位にかけての槍先形尖頭器の時期(群馬IV期)、第2文化層の第1地点と第2地点が浅間板鼻褐色軽石(As-BP)層下位から暗色帯までの間、第3文化層の第1地点と第2地点が暗色帯中である。

また、落ち込み2基を検出したが、その確認面はIV層である浅間板鼻褐色軽石(As-BP)層上位で、埋没土もAs-BPを主体としていたが、土層や底部の様子から、人為的な遺構とは考えにくいと判断した。平面図と写真を参考資料として記載してある。おそらくは、2基ともに上泉府ノ堀遺跡の事例と同様に木の根などの自然に起因するものと考えられる。

なお、本遺跡の旧石器時代の遺構・遺物に関する記載は下記に報告されているが、本報告を最終内容とする。

①『年報』27(平成19年度事業概要) 2008 財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団

②『財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団』WEB 19年1月、2月、3月

第30図は、上武道路が通過する赤城山南東麓のローム

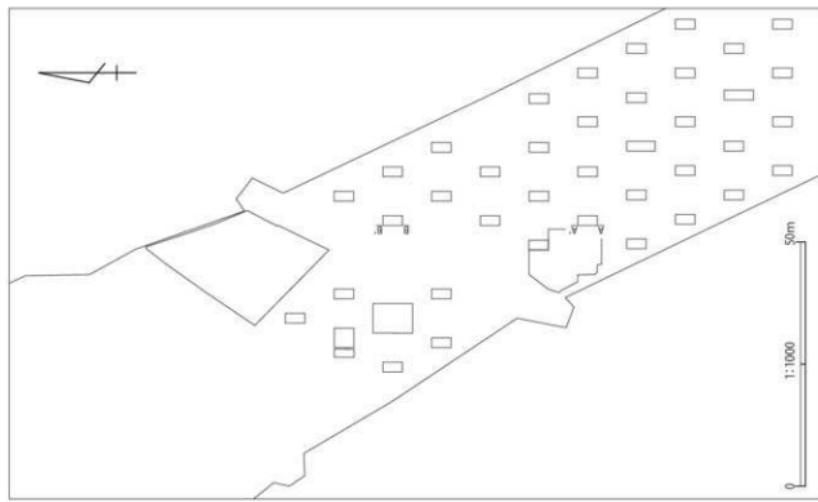
台地の基本土層であるが、本遺跡で確認されているのは、  
このうちの1層～畠層である。



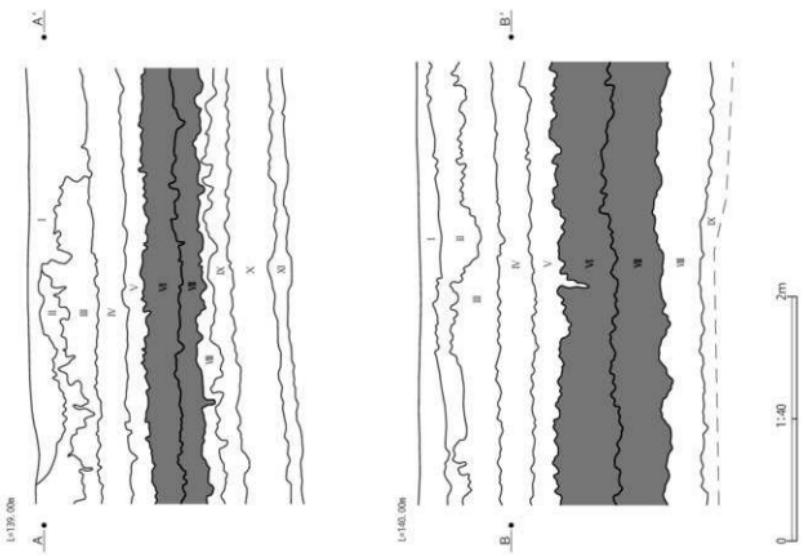
第30図 上泉新田塚遺跡群の文化層



第31図 上泉新田塚遺跡群 石器分布状況



第32図 上泉新田塚遺跡  
土壙堆積状況



### 3 第1文化層

第1文化層は、後世の時代の遺構と、拡張2区(第3地点)から出土している。

#### (1) 出土層位

基本土層のⅢ層が中心で、テフラとの関係では浅間板鼻黄色軽石(As-YP、約13,000年前)より下位で、浅間大窪沢第1軽石(As-Ok1、約17,000年前)までの間である。

#### (2) 検出遺構

石器の出土以外には、明確な遺構は検出されなかった。

#### (3) 出土遺物

<表探> 1号道から1点の槍先形尖頭器が出土した(第33図、1号道-1、PL.14)。裏面側からの折断で、基部側を欠損しており、全体のほぼ半分残存している。石材はチャートである。本来の位置ではない地点からの出土であるが、第1文化層の石器として槍先形尖頭器を認定した。この文化層は槍先形尖頭器を主体とするもので、群馬編年のIV期後半に相当する。

<拡張2区>(第3地点)(第31・34図) 表面の先端部分に原石面を残す石刃が出土している。石材は黒曜石である。原産地分析の結果、産地不明と同定された(第5章第3節参照)。出土点数は石刃1点(50.0%)、剥片1点(50.0%)である。石器の石材は、黒曜石1点(50%)、黒色頁岩1点(50%)である(第5表参照)。

石刃(第33図、K2-1、PL.14)細かい打面を残し、剥離面の頭部調整も多い。長さは4.9cmにしては湾曲が激しく、表面の一部に原石面を残す。石材は黒曜石である。

#### (4) 母岩別資料・接合資料

黒曜石(第33図、PL.14)単独出土の石刃1点である。K2-1

黒色頁岩 単独出土である。色調は灰6/1(Hue7.5Y)、自然面は歓が顕著。剥片1点である。K2-2(非実測)

#### (5) 剥片剥離技術

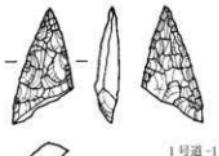
小さな面を打面とし、剥離作業面の頭部調整が顕著など、IV期の特徴がしっかり出ている。

#### (6) 分布状況(第34図)

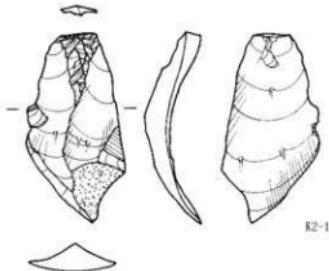
石器・自然石共に、単独に近い出土状態であり、特に石器は石刃と剥片の各1点ずつの単発の散布である。

第5表 上泉新田塚遺跡群 第1文化層 組成表

	槍先形尖頭器	石刃	剥片	総計
黒色頁岩			1	1
黒曜石		1		1
チャート	1			1
総計	1	1	1	3



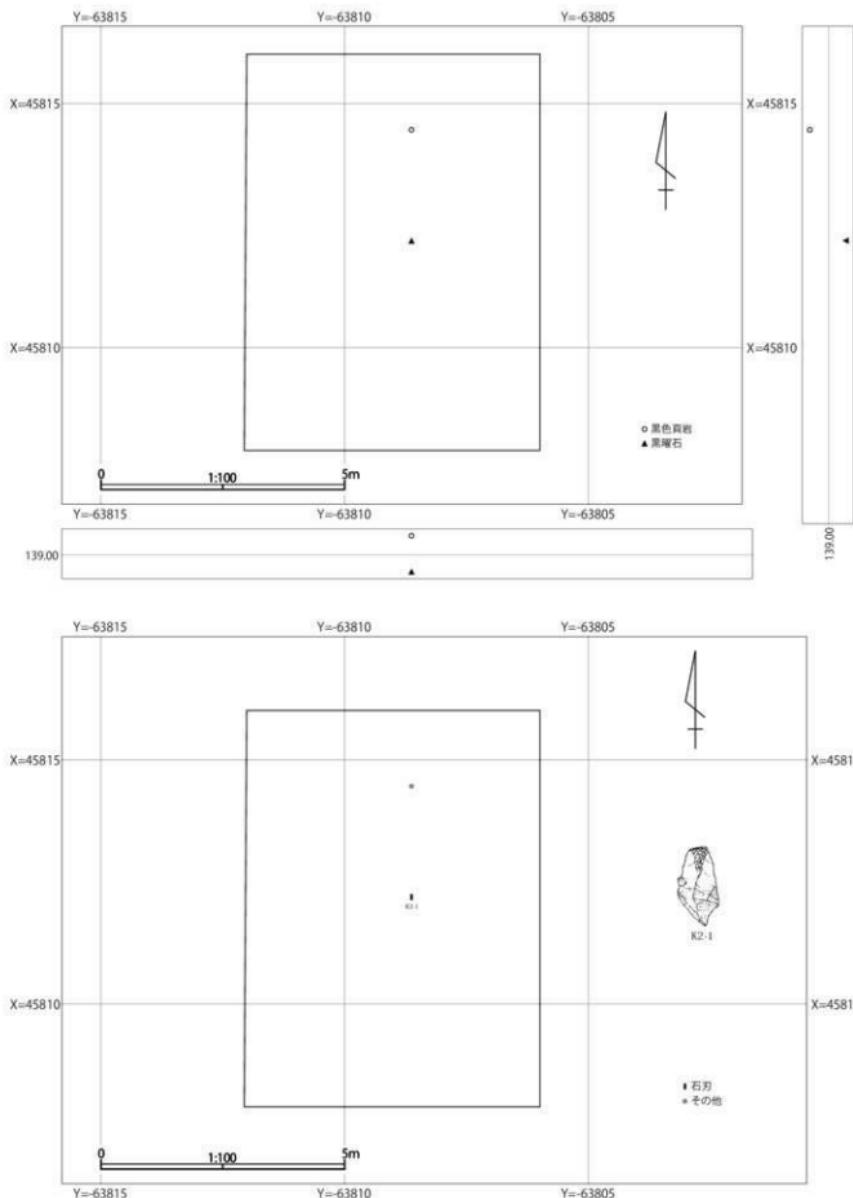
1号道-1



K2-1

0 4.5 5cm

第33図 上泉新田塚遺跡群 第1文化層 出土遺物



第34図 上泉新田塚遺跡群 第1文化層拝張2区 器種別分布・石材別分布状況

## 4 第2文化層

第2文化層の出土地点は、拡張3区(第2地点)、拡張4区(第1地点)の両地点である。

### (1)出土層位

基本土層のV層を中心にIV層からVI層にかけて出土している。テフラとの関係では浅間板鼻黄色軽石(As-YP、約13,000年前)より下位で、浅間大窪沢第1軽石(As-0kl、約17,000年前)から浅間板鼻褐色軽石(As-BP、約19,000～24,000年前)までの間である。

### (2)検出遺構

石器の出土以外で、前述した2基の落ち込みを検出した。

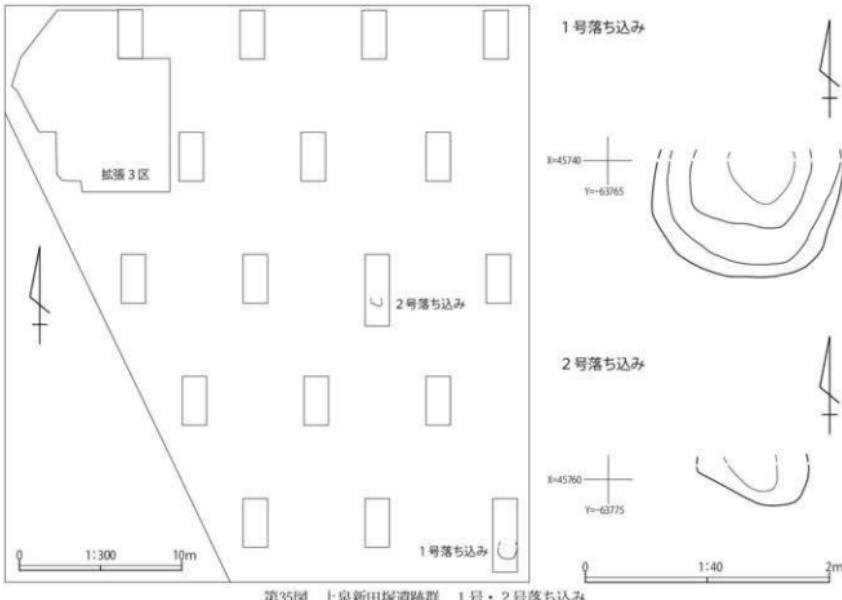
#### 1号落ち込み(第35図、PL.13-3・4)

確認面は基本土層IV層の浅間板鼻褐色軽石(As-BP)層上位であり、埋没土もAs-BPを主体とし、多数の細かな炭化物が認められた。炭化物の位置に刺してある竹串の数でその集中の度合いが判断できる。

#### 2号落ち込み(第35図、PL.13-2)

確認面は基本土層IV層の浅間板鼻褐色軽石(As-BP)層上位であり、埋没土もAs-BPを主体としていた。

2基ともに、試掘トレンチの断面で確認されたために、全景も南側半分だけが残っている状態で検出されたが、土層の堆積や底部の様子などから、人為的な遺構とは考えにくいと判断した。



## (3)出土遺物

拡張3区(第1地点)、拡張4区(第2地点)の両地点からで、共に多数の石器が出土している。

## &lt;拡張3区(第2地点)&gt;(第31・37・38図、PL.13-5)

出土遺物の総点数は30点で、内訳は石器6点(20.0%)、剥片20点(66.7%)、碎片3点(10.0%)、礫類1点(3.3%)である。石器の器種は、削器1点(3.4%)、石刃1点(3.4%)、加工痕ある剥片2点(6.9%)、使用痕ある剥片2点(6.9%)、剥片20点(69.0%)、碎片3点(10.4%)である。石器の主な石材は黒色頁岩24点(82.8%)、チャートが3点(10.3%)、黒色安山岩2点(6.9%)である。礫類は黒色片岩1点のみである(第6表参照)。

## &lt;拡張4区(第1地点)&gt;(第31・37・39図、PL.13-8)

出土遺物の総点数は10点で、内訳は、剥片9点(90.0%)、碎片1点(10.0%)、である。石器の主な石材は黒色頁岩6点(60.0%)、チャート2点(20.0%)、黒色安山岩2点(20.0%)である(第7表参照)。

拡張3・4区の出土遺物の総点数は40点で、内訳は石器6点(15.0%)、剥片29点(72.5%)、碎片4点(10.0%)、礫類1点(2.5%)である。石器の器種は、削器1点(2.6%)、石刃1点(2.6%)、加工痕ある剥片2点(5.1%)、使用痕ある剥片2点(5.1%)、剥片29点(74.4%)、碎片4点(10.2%)である。主な石材は、黒色頁岩30点(75.0%)、黒色安山岩4点(10.0%)、チャート5点(12.5%)、黒色片岩1点(2.5%)である。石器群はⅢ層に帰属すると考えられ、群馬編年IV期前半と考えられる。

次に、出土した石器を種類ごとに見ていくこととする。

**削器**(第36図、K3-9、PL.14)1点が出土している。広めの原石面を打面とする、やや幅広の縦長剥片を素材とし、一側辺のほぼすべてに大小の調整痕が施されている。石材は黒色頁岩である。

**加工痕ある剥片**(第36図、K3-17・K3-26、PL.14)2点が出土している。K3-17は両極剥離された小形剥片の一側辺に調整を施している。石材はチャートである。K3-26は表面に原石面を残す横長剥片を素材とし、打面部の両面縁に調整を施している、石材は黒色頁岩である。

**使用痕ある剥片**(第36図、K3-6・K3-18、PL.14)2点が出土している。K3-6は原石面を打面とする縦長剥片を素材とし、一側辺の一部に細かな使用痕が残されている。石材は黒色頁岩である。K3-18は原石面を打面とするやや幅広の縦長剥片を素材とし、両側辺の一部に細かな使用痕が残されている。石材は黒色頁岩である。

**石刃**(第36図、K3-32、PL.14)1点が出土している。原石面を大きく打面とし、やや幅広で、石材は黒色頁岩である。

## (4)母岩別資料・接合資料(第36図、PL.14)

## &lt;拡張3区(第2地点)&gt;

黒色頁岩6(第36図、PL.14)色調は灰6/1(Hue7.5Y)、縞状の節理が顕著。単独の非接合資料として使用痕ある剥片1点、剥片2点の計3点がある。K3-6(使用痕ある剥片)、K3-7(剥片)、K3-10(剥片)

黒色頁岩7(第36図、PL.14)色調は灰5/1(Hue7.5Y)、やや風化している。単独の非接合資料として加工痕ある剥片1点と剥片3点の計4点がある。K3-2(剥片)、K3-26(加工痕ある剥片)、K3-29(剥片)、K3-33(剥片)

黒色頁岩8(第36図、PL.14)色調は灰8/2(Hue7.5Y)、自然面は円滑でやや珪化している。単独の非接合資料3点がある。K3-5(剥片)、K3-8(剥片)、K3-18(使用痕ある剥片)

黒色頁岩(第36図、PL.14)単独の母岩の非接合資料として、削器1点、石刃1点、剥片3点の計5点がある。K3-4(剥片)、K3-9(削器)、K3-16(剥片)、K3-28(剥片)、K3-32(石刃)

黒色頁岩の分類不能の非接合資料は9点がある。K3-3(剥片)、K3-12(碎片)、K3-13(剥片)、K3-14(剥片)、K3-15(剥片)、K3-25(剥片)、K3-27(剥片)、K3-30(剥片)、K3-34(剥片)

黒色安山岩の分類不能の非接合資料は2点がある。K3-20(碎片)、K3-22(碎片)

チャート(第36図、PL.14)単独の母岩の非接合資料として3点がある。K3-11(剥片)、K3-17(加工痕ある剥片)、K3-19(剥片)

### 第3章 各遺跡の遺構・遺物

#### <拡張4区(第1地点)>

黒色頁岩の分類不能の非接合資料として6点がある。K4-4(剥片)、K4-5(碎片)、K4-6(剥片)、K4-8(剥片)、K4-12(剥片)、K4-15(剥片)

黒色安山岩の分類不能の非接合資料として2点がある。K4-2(剥片)、K4-16(剥片)

チャートの分類不能の非接合資料として2点がある。K4-9(剥片)、K4-11(剥片)

#### (5)剥片剥離技術

原石面を打面している資料が5点もあることから、原石を直接持ち込んで原石面や分割面を打面として、剥片を剥離する工程と考えられるが、やや資料不足で説明が及ばない。

#### (6)分布状況(第37・215図)

石器の分布は、拡張4区の僅かな分布を北から1～3号ブロックとする。拡張3区の北側の6点と南側が東西にそれぞれ縦並びのように別れて見えるが、大きくは南北の2ヶ所の分布と判断し、4号ブロック、5号ブロックと呼称する。共にやや散漫な分布である。

#### (7)石器の分布(第38図)

拡張4区の1～3号ブロックには主要な石器がないものの、4号ブロックに加工痕ある剥片が集中しており、生産活動の場と想定される。

#### (8)石材の分布(第38・39図)

4号ブロックには黒色頁岩だけが分布しており、2号ブロックは黒色頁岩が多く、チャート、黒色安山岩は僅かである。

#### (9)接合資料の分布

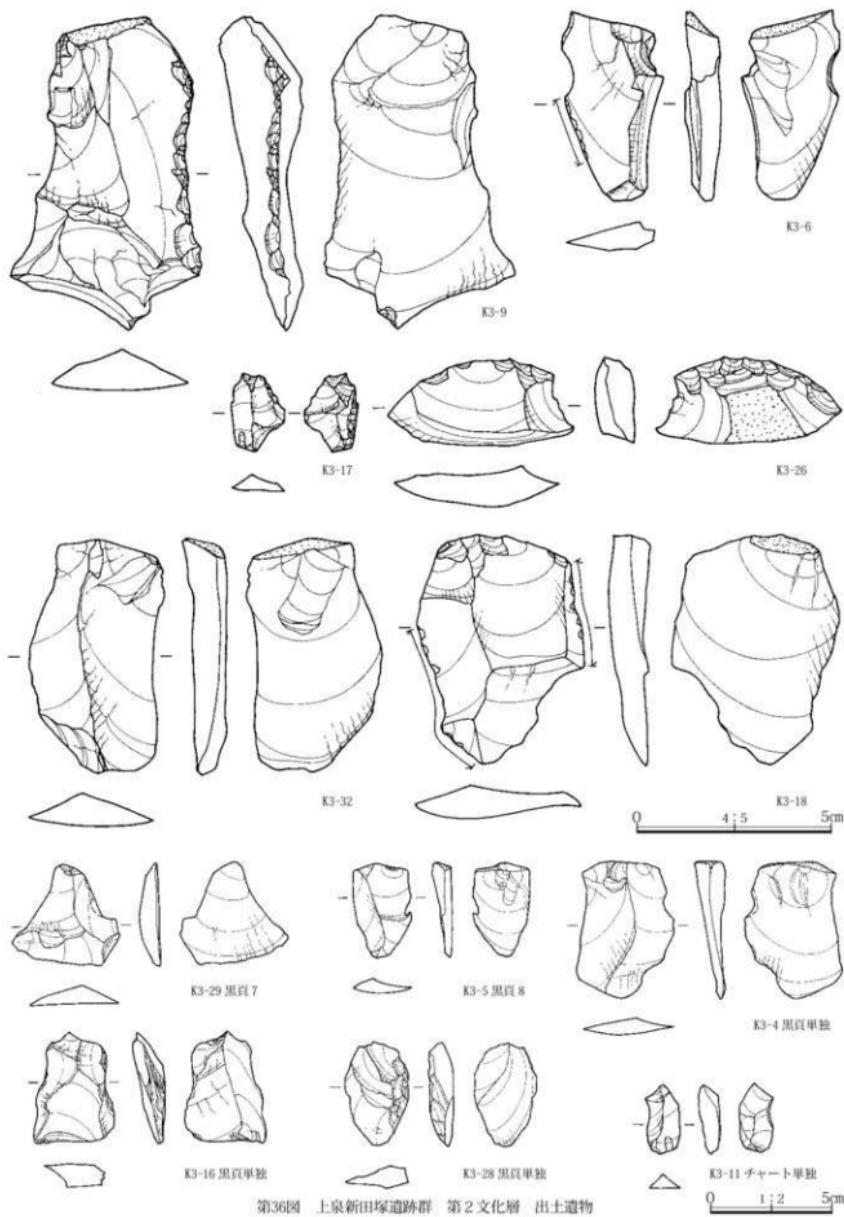
接合資料は確認されていない。

第6表 上泉新田塚遺跡群 第2文化層 拡張3区組成表

	削器	加工痕	使用痕	石刃	剥片	碎片	種類	総計
黒色安山岩						2		2
黒色頁岩	1	1	2	1	18	1		24
チャート			1		2			3
黒色片岩							1	1
総計	1	2	2	1	20	3	1	30

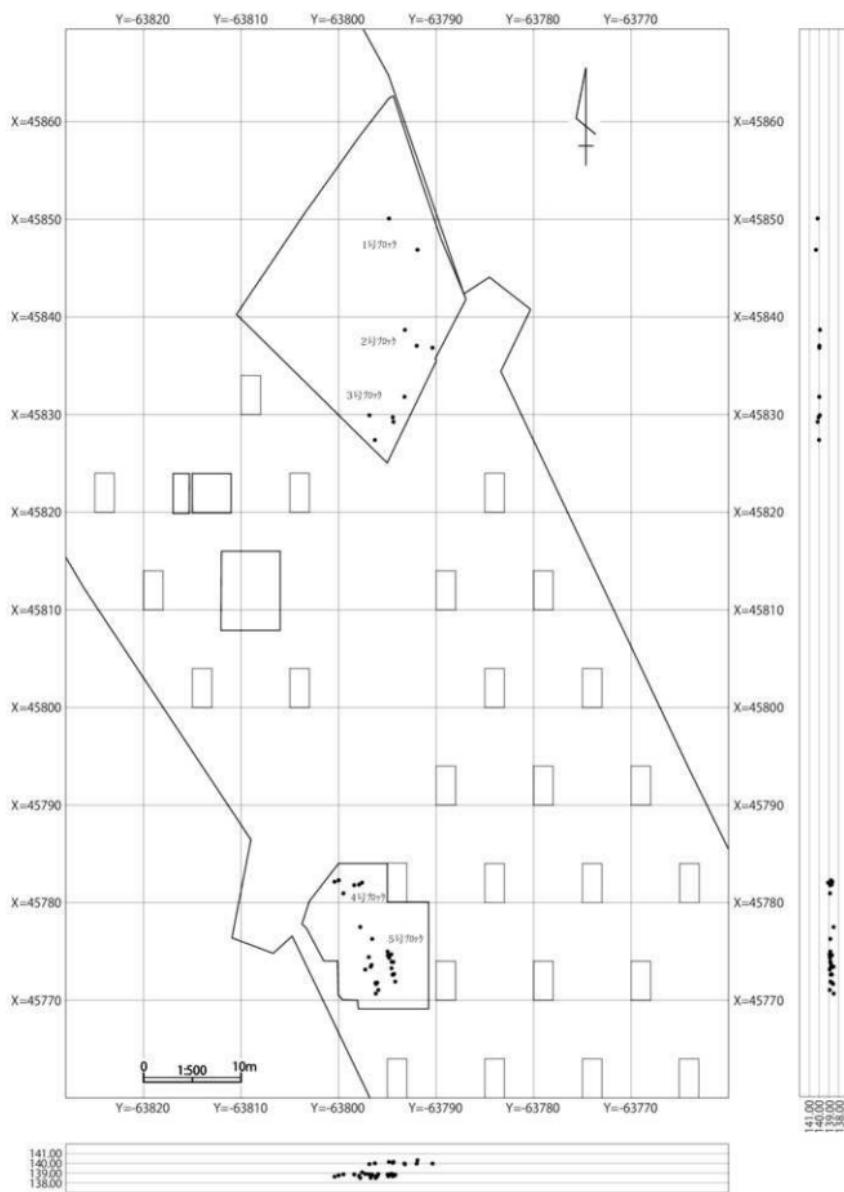
第7表 上泉新田塚遺跡群 第2文化層 拡張4区組成表

	剥片	碎片	総計
黒色安山岩	2		2
黒色頁岩	5	1	6
チャート	2		2
総計	9	1	10

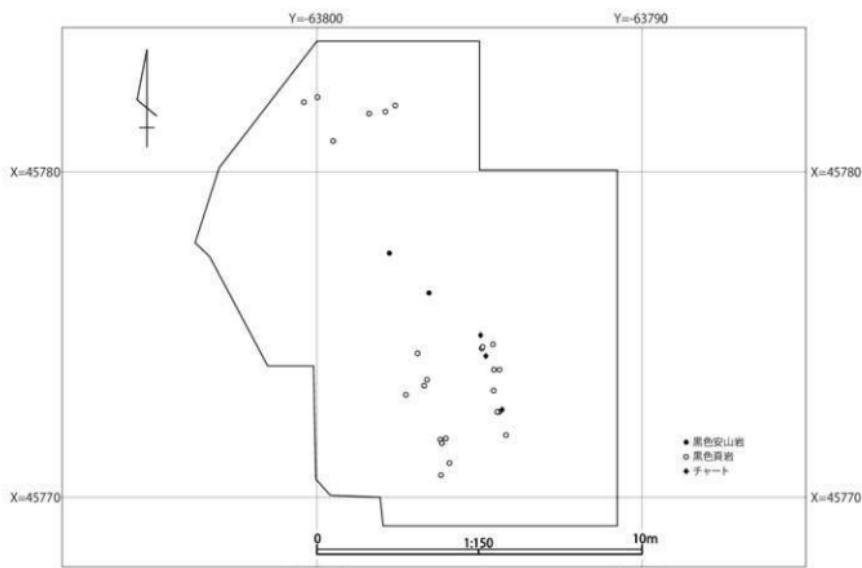
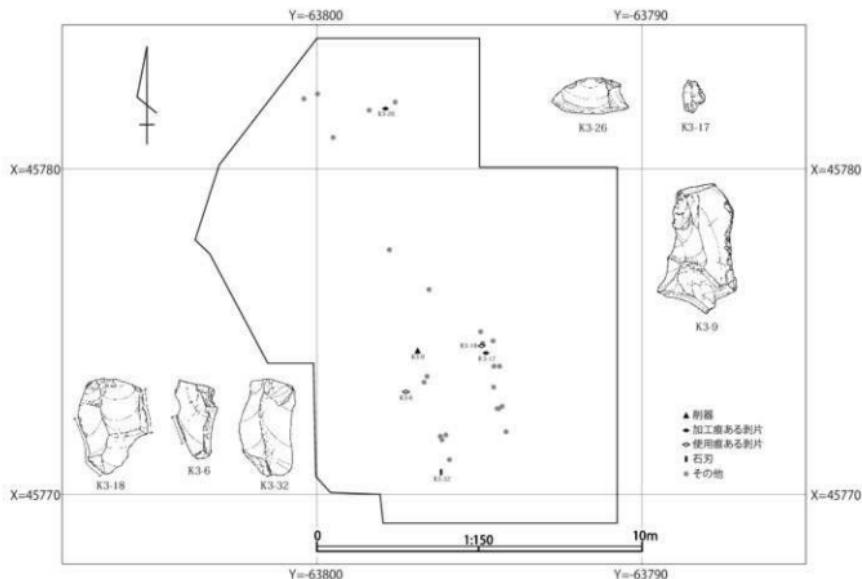


第36図 上泉新田塚遺跡群 第2文化層 出土遺物

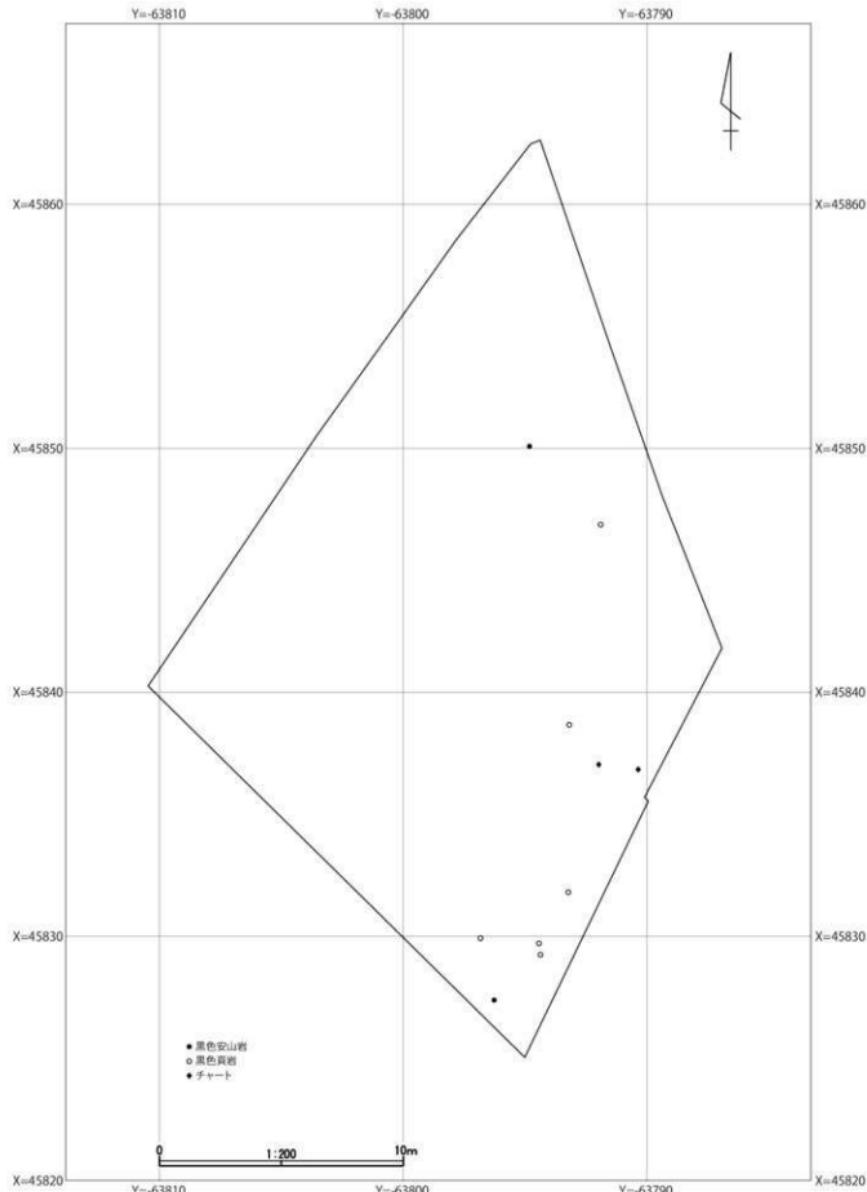
第3章 各遺跡の遺構・遺物



第37図 上泉新田塚遺跡群 第2文化層 石器分布・垂直分布状況



第38図 上泉新田塚遺跡群 第2文化層拝張3区 器種別分布・石材別分布状況



第39図 上泉新田塚遺跡群 第2文化層擴張4区 石材別分布状況

## 5 第3文化層

第3文化層の出土地点は、第2文化層と同様に、拡張3区(第2地点)と拡張4区(第1地点)の両地点からであるが、出土層位が異なることから、発掘調査段階では分離していたが、ここでは同一文化層として扱う。

### (1) 出土層位

基本土層のVI層を中心にV層の浅間板鼻褐色軽石(As-BP、約19,000～24,000年前)を含む黄褐色ローム層からVII層の暗色帶に相当する暗褐色ローム層にかけて出土した。テフラとの関係ではVI層の姶良Tn火山灰(AT、約28,000年)よりも下位で、X層の榛名八崎軽石(Hr-HP、40,000年)よりも上位である。

### (2) 検出遺構

石器の出土以外には、明確な遺構は検出されなかった。

### (3) 出土遺物

出土地点は、拡張3区(第1地点)、拡張4区(第2地点)の両地点である。

#### <拡張3区(第1地点)>(第31・46・47・50図、PL.13-6)

出土遺物の総点数は27点で、内訳は石器5点(18.5%)、剥片17点(63.0%)、碎片3点(11.1%)、礫・礫片2点(7.4%)である。石器の器種は、削器1点(4.0%)、加工痕ある剥片2点(8.0%)、石核1点(4.0%)、敲石1点(4.0%)、剥片17点(68.0%)、碎片3点(12.0%)である。主な石材はチャートが21点(77.8%)と多く、黒色頁岩2点(7.4%)、珪質頁岩2点(7.4%)、粗粒輝石安山岩1点(3.7%)、珪質変質岩1点(3.7%)などである(第8表参照)。

#### <拡張4区(第2地点)>(第31・46・48・49・51図、PL.13-8)

出土遺物の総点数は62点で、内訳は石器13点(21.0%)、剥片42点(67.7%)、碎片1点(1.6%)、礫・礫片類6点(9.7%)である。石器の器種は、加工痕ある剥片1点(1.8%)、石刃6点(10.7%)、石核6点(10.7%)、剥片42点(75.0%)、碎片1点(1.8%)である。石器の主な石材は、黒色安山岩30点(53.6%)、黒色頁岩25点(44.6%)、チャート1点(1.8%)である。礫の石材は、粗粒輝石安山岩1点(16.7%)、ホルンフェルス1点(16.7%)、雲母石英片岩2点(33.3%)、黒色片岩2点(33.3%)などである(第9表参照)。

拡張3・4区を合せた出土遺物の総点数は89点で、内訳は石器18点(20.2%)、剥片59点(66.3%)、碎片4点(4.5%)、礫・礫片・礫類8点(9.0%)である。石器の器種は、削器1点(1.2%)、石刃6点(7.4%)、加工痕ある剥片3点(3.7%)、石核7点(8.7%)、敲石1点(1.2%)、剥片59点(72.9%)、碎片4点(4.9%)である。主な石材は黒色安山岩30点(37.0%)、黒色頁岩27点(33.3%)、チャート22点(27.2%)、珪質頁岩2点(2.5%)である。礫の石材は、粗粒輝石安山岩2点(25.0%)、ホルンフェルス1点(12.5%)、珪質変質岩1点(12.5%)、雲母石英片岩2点(25.0%)、黒色片岩2点(25.0%)などである。石器群はVII層に出土量のピークがあり、石器組成などから群馬編年のⅠ期前半と考えられる。

次に、出土した石器を種類ごとに見ていくこととする。

**削器**(第40図、K3-2-4、PL.14)1点が出土している。K3-2-4はやや幅広の縦長剥片を素材とし、一側縁に連続して加工を施している。石材はチャートである。

**加工痕ある剥片**(第40図、K3-2-10・K3-2-29・K4-2-34、PL.14)3点が出土している。K4-2-34は打面の一部と先端部に原石面を残したやや幅広の剥片を素材とし、打面部分に僅かに加工が認められる。石材は黒色頁岩である。K3-2-10はやや厚めの縦長の剥片の裏面側の一縁の連続した加工が認められ、石材はチャートである。K3-2-29は節理によって打点部分が剥がれた小形の剥片を素材とし、石材はチャートである。

**石刃**(第40図、K4-2-5・K4-2-11・K4-2-15・K4-2-54・K4-2-55・K4-2-58、PL.14・15)6点が出土しているが、うちの2点は折断による接合資料である。K4-2-5は一側縁と先端部に原石面を残す、やや幅広の資料で、石材は黒色頁岩である。K4-2-55は打点がほとんど点のように細かく、幅も狭い石刃で、石材は黒色頁岩である。K4-2-58は打面が小さく、断面が台形状を呈する幅が狭い石刃で、石材は黒色頁岩である。K4-2-54は先端部が尖る資料で、打瘤部分が節理で剥がれ

### 第3章 各遺跡の遺構・遺物

ている。石材はチャートである。K4-2-11+K4-2-15はほぼ中央で裏面側から折り取られた資料で、石材は黒色頁岩である。この他に、多数の剥片や碎片が出土しているが、図化・資料化しているのは主に接合資料に含まれる資料だけである。(第43図～第45図、PL.16)

**石核**(第41図、K3-2-5・K4-2-7K4-2-12・K4-2-16・K4-2-38・K4-2-41・K4-2-47・K4-2-48、PL.15)総計8点が出土しているが、うち4点は折断による接合資料2例である。K4-2-12+K4-2-16は、側面に原石面を残す断面三角の厚みのある大形の剥片を素材に、裏面を打面に表面の一側縁から2枚の横長剥片を剥離した後に、ほぼ真ん中で折断して、頭部側の割面を作業面として2枚の剥片を剥離している。石材は黒色安山岩である。K3-2-5は小形の剥片を素材に、表裏面で1枚ずつの小形の剥片を剥離している。石材はチャートである。K4-2-47は底面に原石面を残す分割礫、あるいは大形の厚みのある剥片を素材に、表面や側面で数枚の小形の剥片を剥離している。石材は黒色安山岩である。K4-2-7は長方体に近い剥片を素材に、表面の周縁から中央に向かって小形の横長剥片を5枚前後剥離している。石材は黒色頁岩である。K4-2-38+K4-2-48は、分割による板状の形状で原石面を一部に残し、表裏面の周縁から中央に向かって数回の剥離を加えている。石材は黒色安山岩である。K4-2-41は分割面を打面とする舟底形を呈する石核で、打面を90°転位して小形の剥片を剥離している。石材は黒色頁岩である。

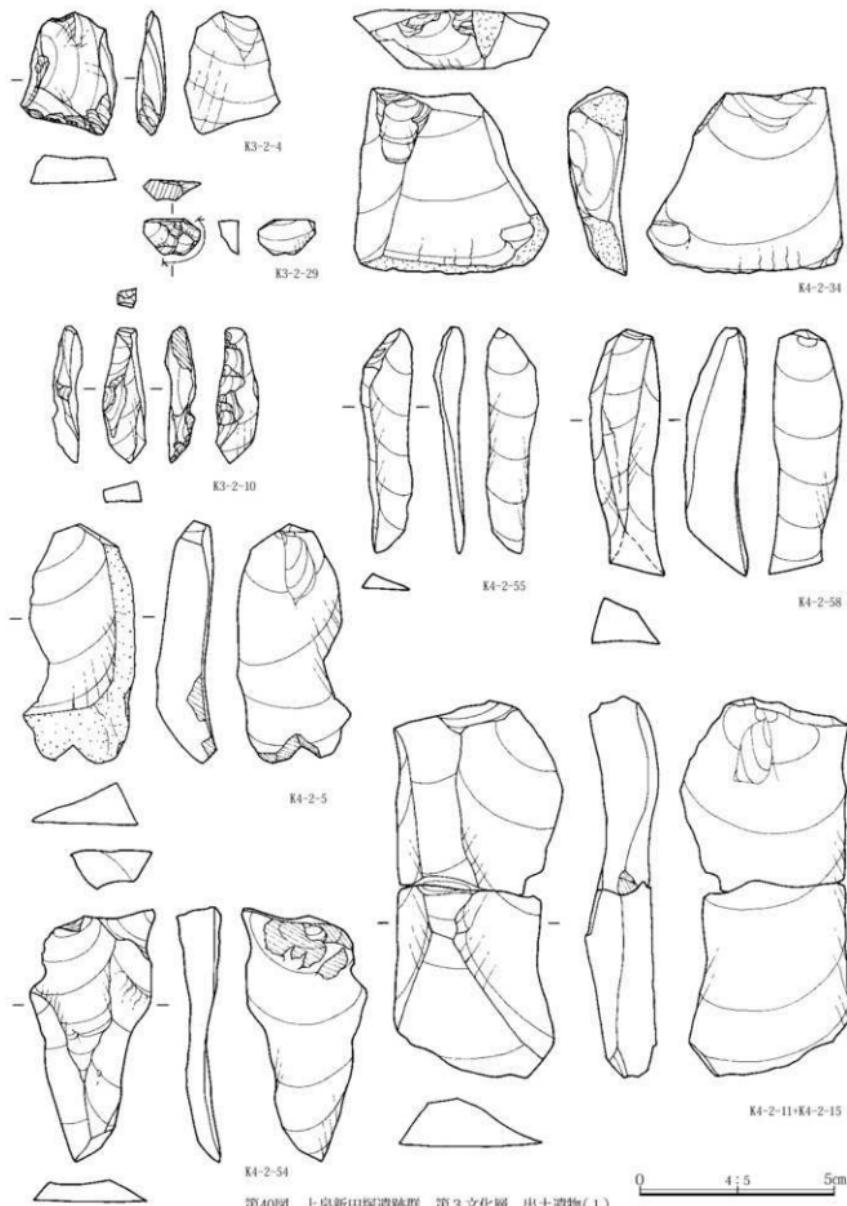
**敲石**(第42図、K3-2-26、PL.15) K3-2-26は棒状の亜角礫で、一端に数個の敲打痕と叩打による1枚の剥離面を残している。石材は珪質頁岩である。

第8表 上泉新田塚遺跡群 第3文化層 拡張3区組成表

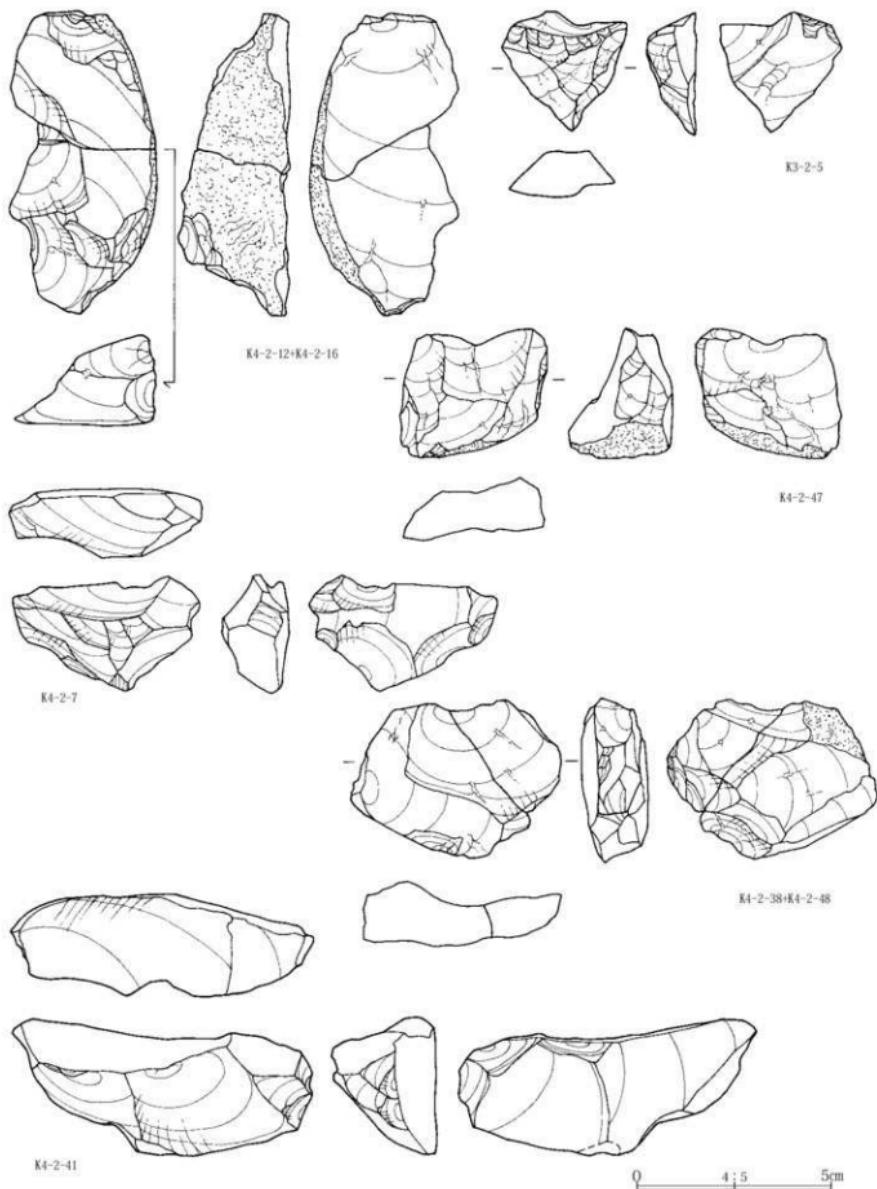
	削器	加工麻	石核	敲石	剥片	碎片	礫	礫片	総計
黒色頁岩					1	1			2
珪質頁岩					1	1			2
チャート	1	2	1		15	2			21
珪質安山岩							1		1
粗粒輝石安山岩								1	1
総計	1	2	1	1	17	3	1	1	27

第9表 上泉新田塚遺跡群 第3文化層 拡張4区組成表

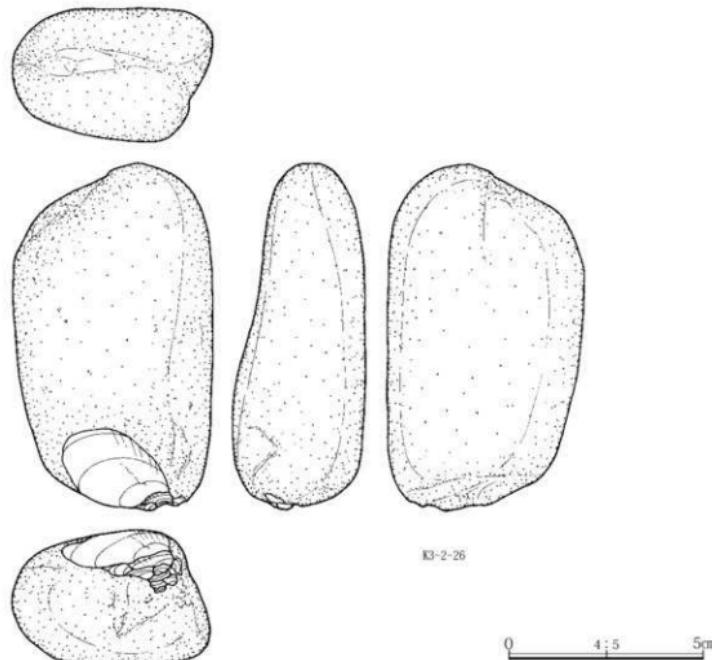
	加工麻	石刃	石核	剥片	碎片	礫	礫類	総計
黒色安山岩			4	25	1			30
黒色頁岩	1	5	2	17				25
チャート		1					1	1
ホルンフェルス						1		1
粗粒輝石安山岩						1		1
雲母石英片岩							2	2
黒色片岩							2	2
総計	1	6	6	42	1	2	4	62
底計	40	21	61					



第40図 上泉新田塚遺跡群 第3文化層 出土遺物(1)



第41図 上泉新田塚遺跡群 第3文化層 出土遺物(2)



第42図 上泉新田塚遺跡群 第3文化層 出土遺物(3)

## (4)母岩別資料・接合資料(第43・44・45図、PL.15)

## &lt;拡張3区(第2地点)&gt;

チャートの出土点数21点のうち、接合資料は2例4点である。

チャート1(第45図、PL.16)黒色部分と灰色部分からなる縞状構造がある。総点数は16点、うち接合資料は2例4点である。

チャート1-①(第45図、PL.16)剥片2点がある。K3-2-11(剥片)→K3-2-1(剥片)

チャート1-②(第45図、PL.16)剥片2点がある。K3-2-3(剥片)→K3-2-21(剥片)

チャート1(第40・41・45図、PL.14・15・16)の非接合資料は、削器1点、加工痕ある剥片1点、石核1点、剥片9点の計12点である。K3-2-4(削器)、K3-2-5(石核)、K3-2-8(剥片)、K3-2-10(加工痕ある剥片)、K3-2-12(剥片)、K3-2-17(剥片)、K3-2-18(剥片)、K3-2-22(剥片)、K3-2-23(剥片)、K3-2-25(剥片)、K3-2-28(剥片)、K3-2-29(剥片)

珪質頁岩単独(第45図、PL.16) 色調は灰5/1(Hue10Y)、自然面は皺が顕著。非接合資料1点がある。K3-2-2(剥片)<拡張4区(第1地点)>

黒色安山岩の出土点数30点のうち接合資料は2例21点である。

黒色安山岩1(第43図、PL.16)原石面が1/8程残る、直徑約10cmの円礫と推定される。出土点数17点のうち、接合資料は1例16点である。

### 第3章 各遺跡の遺構・遺物

黒色安山岩1-①(第43図、PL.16)石核2点と剥片14点の計16点がある。K4-2-29(剥片)→K4-2-26(剥片)→K4-2-36(剥片)→K4-2-42(剥片)→K4-2-38(石核)+K4-2-48(剥片)→K4-2-43(剥片)+K4-2-30(剥片)→K4-2-44(剥片)→K4-2-25(剥片)+K4-2-31(剥片)→K4-2-33(剥片)→K4-2-28(剥片)→K4-2-49(剥片)→K4-2-51(剥片)→K4-2-47(石核)

黒色安山岩1の非接合資料は剥片1点がある。K4-2-22(剥片)

黒色安山岩2(第43・44図、PL.16)残る原石面から推定される規模は、直径約10cmの円盤である。総点数は6点で、うち接合資料は1例5点である。

黒色安山岩2-①(第43図、PL.16)石核1点、剥片4点の計5点がある。K4-2-14(剥片)→K4-2-18(剥片)+K4-2-13(剥片)→K4-2-16(剥片)+K4-2-12(石核)

黒色安山岩2(第44図、PL.16)の非接合資料は剥片1点がある。K4-2-53(剥片)

黒色安山岩3(第44図、PL.16)接合資料は無い。非接合資料3点がある。K4-2-1a(剥片)、K4-2-21(剥片)、K4-2-24(剥片)

黒色安山岩単独の母岩は剥片1点がある。K4-2-16

黒色安山岩の分類不能は4点がある。K4-2-1b(剥片)、K4-2-40(剥片)、K4-2-46(碎片)、K4-2-65(剥片)

黒色頁岩の出土点数25点のうち、接合資料は2例4点がある。

黒色頁岩1(第44図、PL.16)風化が激しく剥離面の一部が剥げ落ちて、リング・フィッシャーが分かり難い。出土点数10点のうち、接合資料は1例2点である。

黒色頁岩1-①(第44図、PL.16)剥片と石核の計2点の接合資料である。K4-2-8(剥片)→K4-2-7(石核)

黒色頁岩1(40・41、PL.14・15)の非接合資料は、石刃3点、石核1点、剥片4点の計8点がある。K4-2-5(石刃)、K4-2-6(剥片)、K4-2-37(剥片)、K4-2-41(石核)、K4-2-45(剥片)、K4-2-55(石刃)、K4-2-58(石刃)、K4-2-60(剥片)

黒色頁岩2-①(第40図、PL.15)剥片の折断資料である。K4-2-15(剥片)+K4-2-11(剥片)

黒色頁岩3-①(第44図、PL.16)大形の剥片の折断資料である。K4-2-17(剥片)+K4-2-19(剥片)

黒色頁岩4(第44図、PL.16)非接合資料は剥片2点がある。K4-2-57(剥片)、K4-2-61(剥片)

黒色頁岩5(第44図、PL.16)原石面は爪状が顕著で、珪化が強い。非接合資料として剥片2点がある。K4-2-3(剥片)、K4-2-9(剥片)

黒色頁岩単独(40・44図、PL.14・16)の母岩は、加工痕ある剥片1点、剥片3点の計4点がある。K4-2-20(剥片)、K4-2-34(加工痕ある剥片)、K4-2-35(剥片)、K4-2-56(剥片)

黒色頁岩には分類不能とした剥片3点がある。K4-2-23(剥片)、K4-2-32(剥片)、K4-2-59(剥片)

#### (5) 剥片剥離技術

黒色安山岩1-①にみられるような、大形の原石の一端を打ち欠いて打面を作り出し、主に縦長の剥片を剥離する手法は群馬Ⅰ期からⅡ期にかけて多い剥片剥離技術である。さらに、打面の再生や剥離面への打面の90°転位もよく用いられている。こうした点からも、群馬Ⅱ期相当と考えられる。

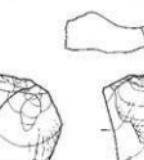
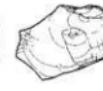
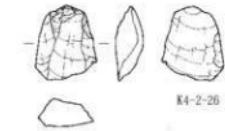
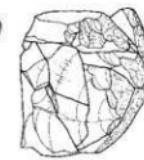
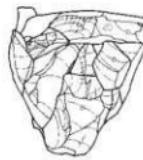
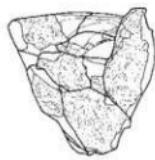
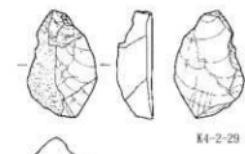
#### (6) 分布状況(第31・46・216図)

上泉新田塚遺跡群では、トレーンチで遺物の存在が確認された地点を順次拡張し、拡張1区、拡張2区・第3地点、拡張3区・第2地点、拡張4区・第1地点と呼称した。また、第1地点には1号ブロックから6号ブロックまでの6ヶ所のブロック、第2地点は7号ブロックから9号ブロックまでの3ヶ所のブロック、第3地点は10号ブロックに分離された。この中で特徴的なのは、2号ブロックと3号ブロックであり、石刃と石核が集中しており、接合関係から見ても石器製作場と考えられる。

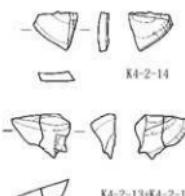
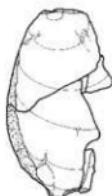
#### (7) 石器の分布(第47・48図)

主要な石器の分布をみると、利器はほとんどなく、前記した接合資料の石刃と石核が多いこと、それに、石器製作に関係する台石が北側の分布のほぼ中心に位置することからも、石器製作の場を示している。

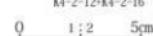
## 黑色安山岩 ①

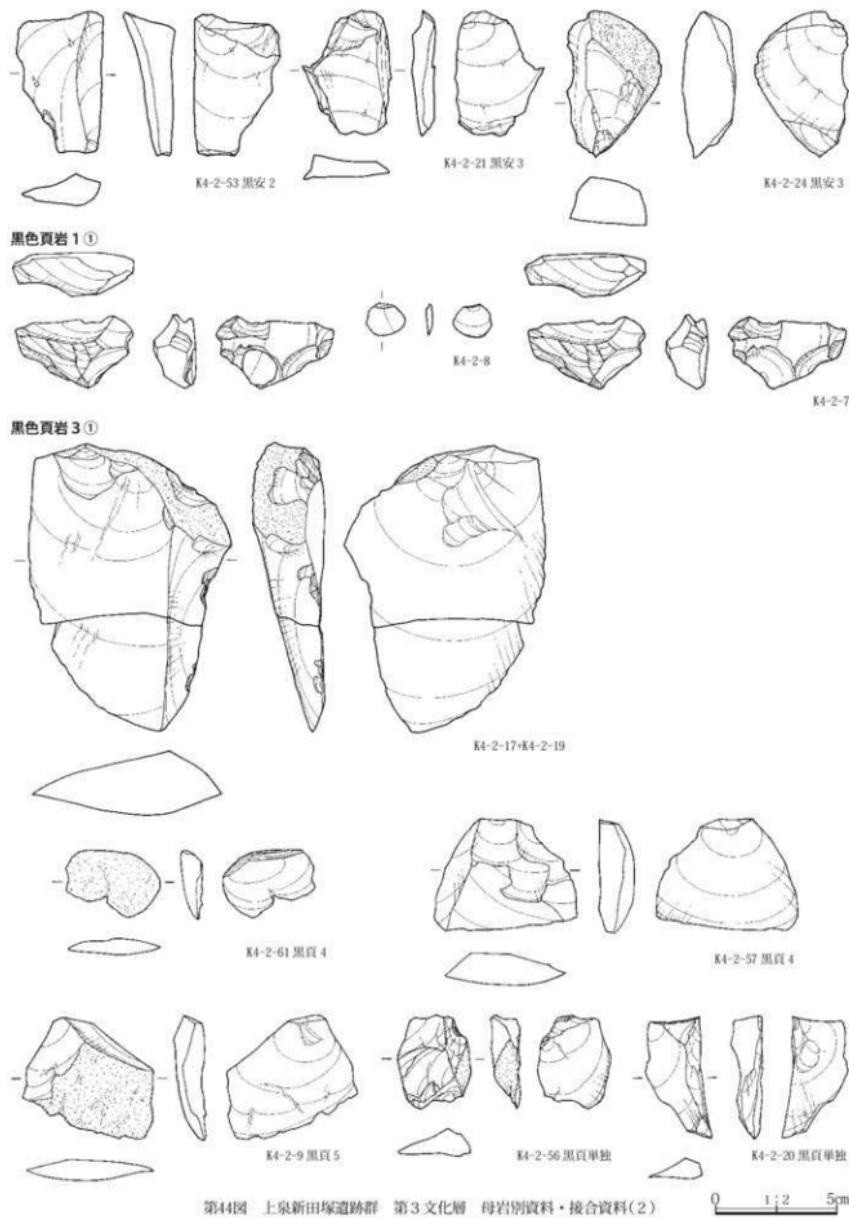


## 黑色安山岩 ②



第43図 上泉新田塚遺跡群 第3文化層 母岩別資料・接合資料(1)





第44図 上泉新田塚遺跡群 第3文化層 母岩別資料・接合資料(2)



第45図 上泉新田塚遺跡群 第3文化層 母岩別資料・接合資料(3)

## (8) 石材の分布(第47・49図)

黒色安山岩と黒色頁岩がほぼ主体を占める。また、拡張4区から雲母石英片岩2点と黒色片岩2点が出土したが、石器としなかった。

## (9) 接合資料の分布(第50・51図)

最も注目すべきは、拡張4区の2号ブロックと3号ブロックで、黒色安山岩の接合資料がほとんどこの2ヶ所に集中している。それに対して、拡張3区にはチャートの接合資料が僅かに存在するだけである。

## 6 その他(第52図、Pl.71)

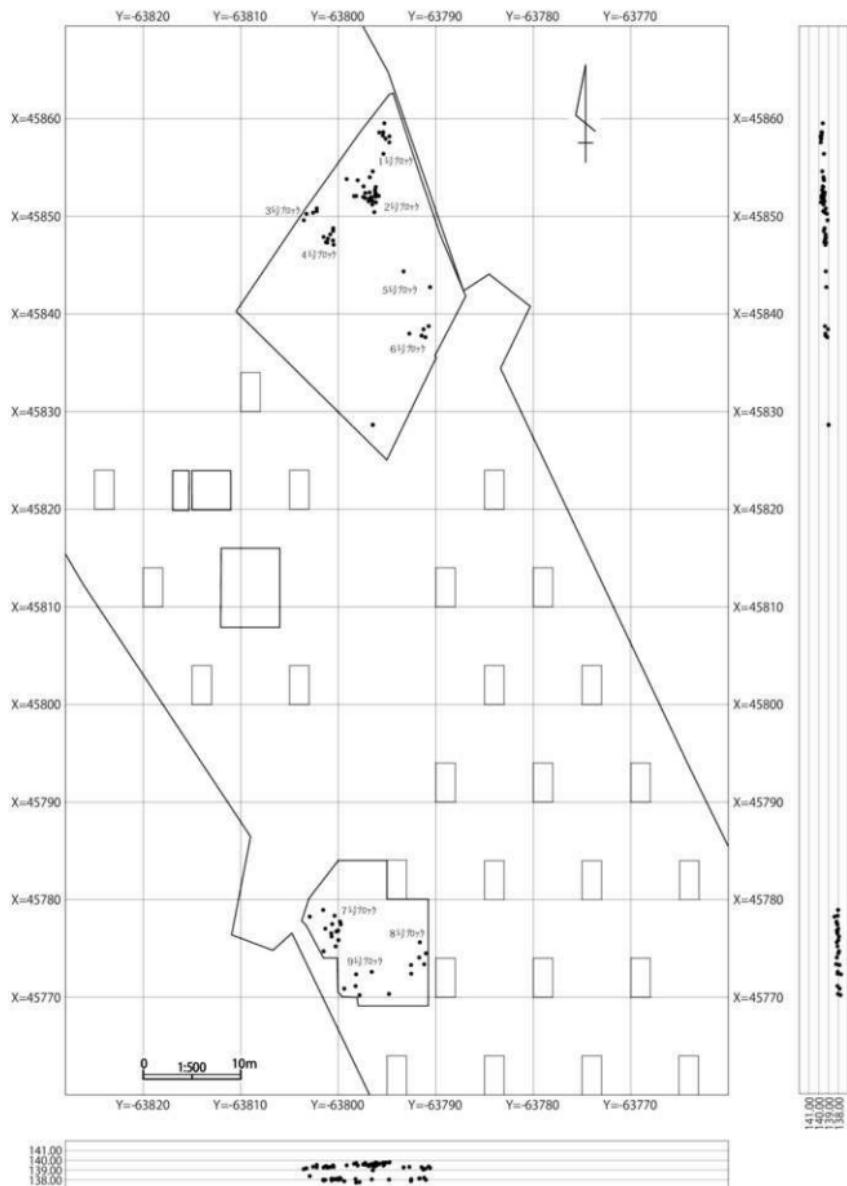
第1・2・3文化層に含まれる石器以外で、主に出土層位や座標値が把握されていない資料がある。珪質頁岩(非実測)の剥片が1点 78-G-1、珪質頁岩(非実測)の碎片が1点 78-G-2が出土している。

この他に、結晶片岩類が数点出土しているが、すべて自然石である。

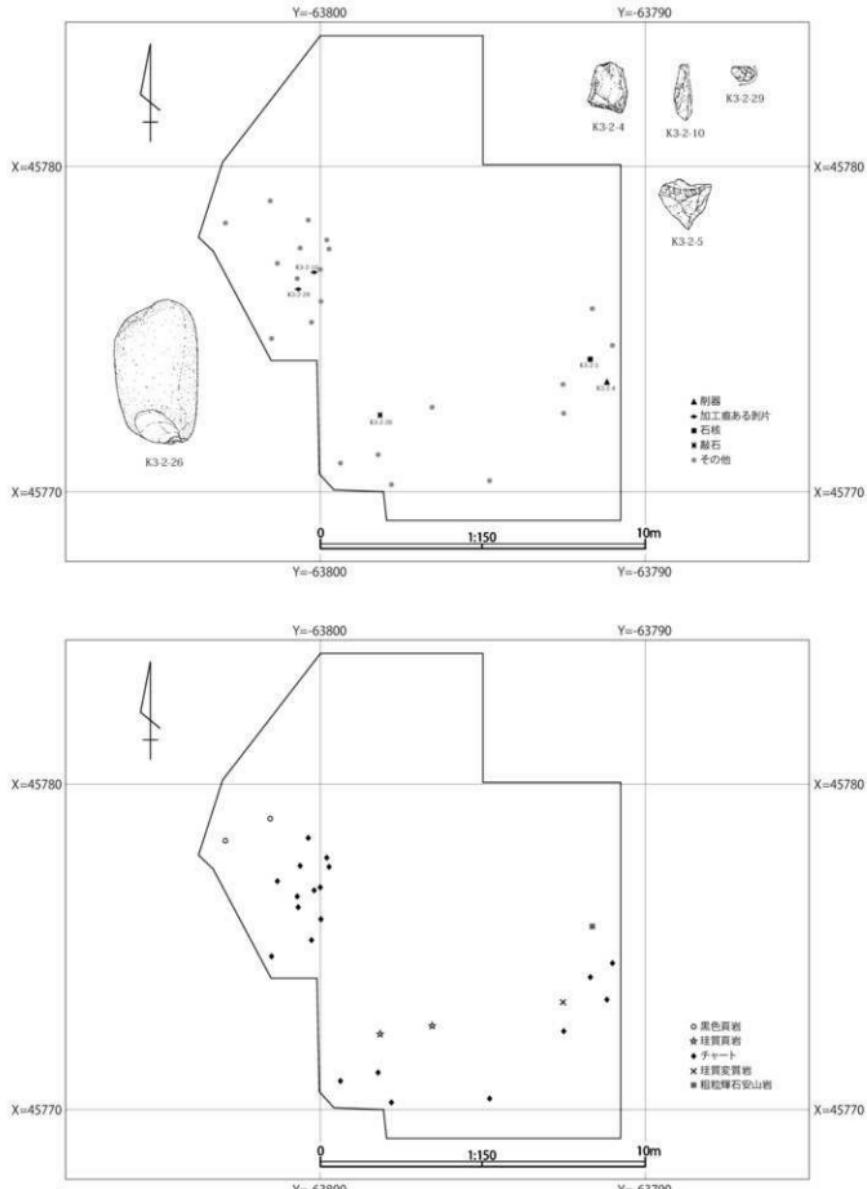
第2文化層 黒色片岩1点が拡張4区(K4-3)から出土している。

第3文化層 雲母石英片岩2点 K4-2-52、K4-2-64、黒色片岩2点 K4-2-10、K4-2-50が拡張4区から出土している。

第3章 各遺跡の遺構・遺物

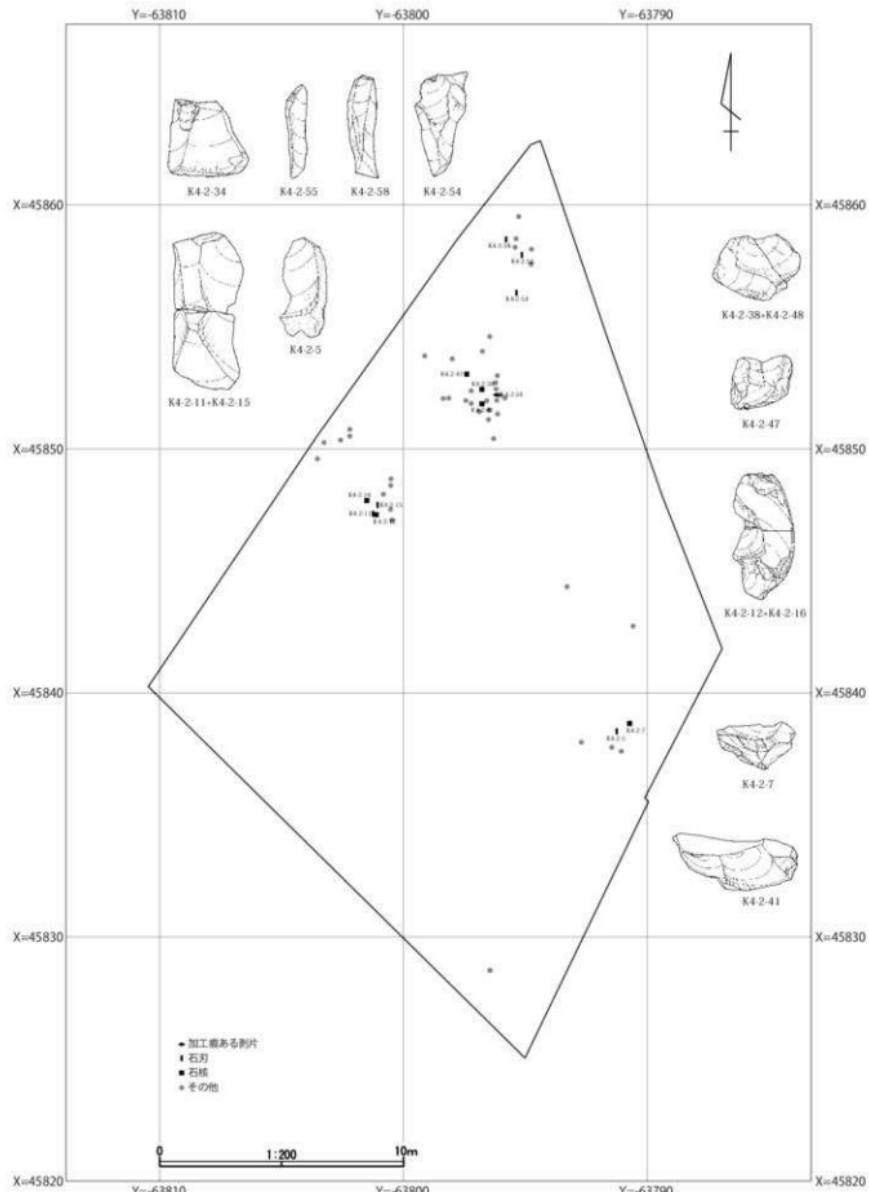


第46図 上泉新田塚遺跡群 第3文化層 石器分布・縦横分布状況

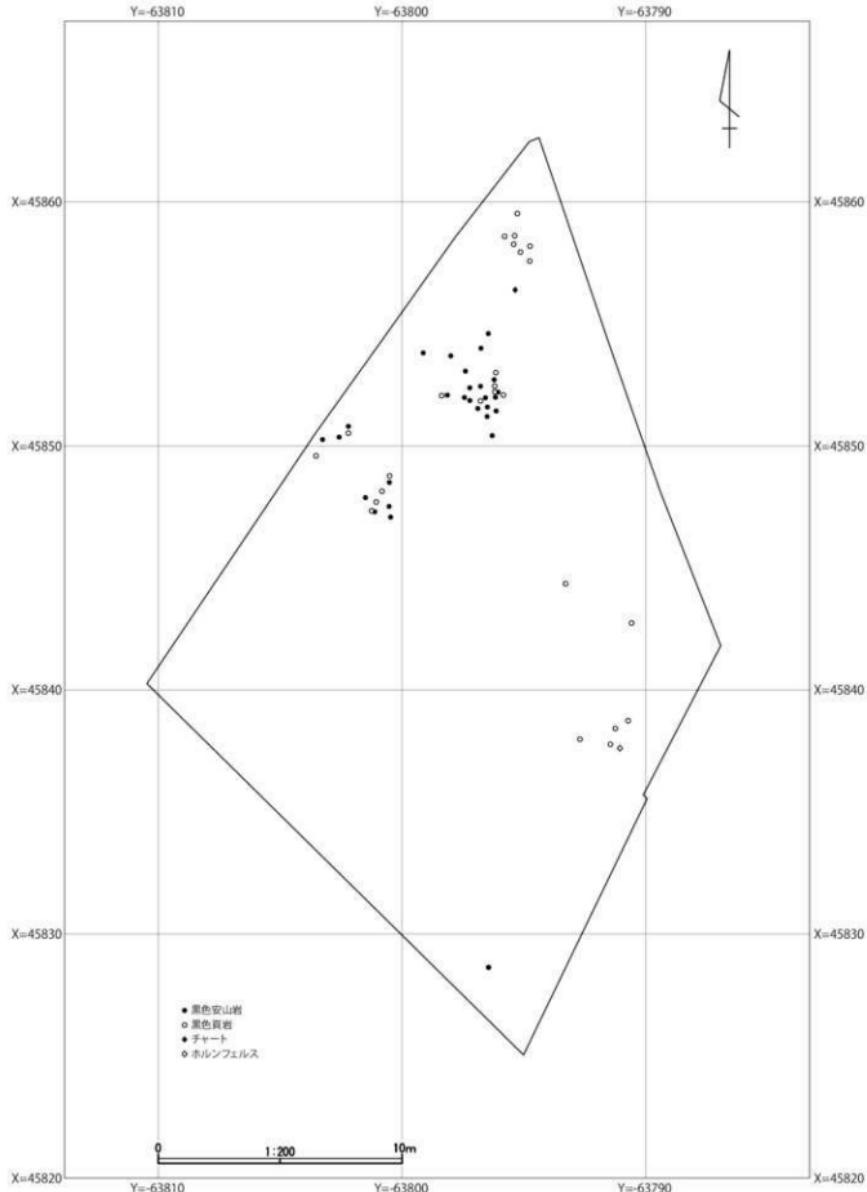


第47図 上泉新田塚遺跡群 第3文化層拝張3区 器種別分布・石材別分布状況

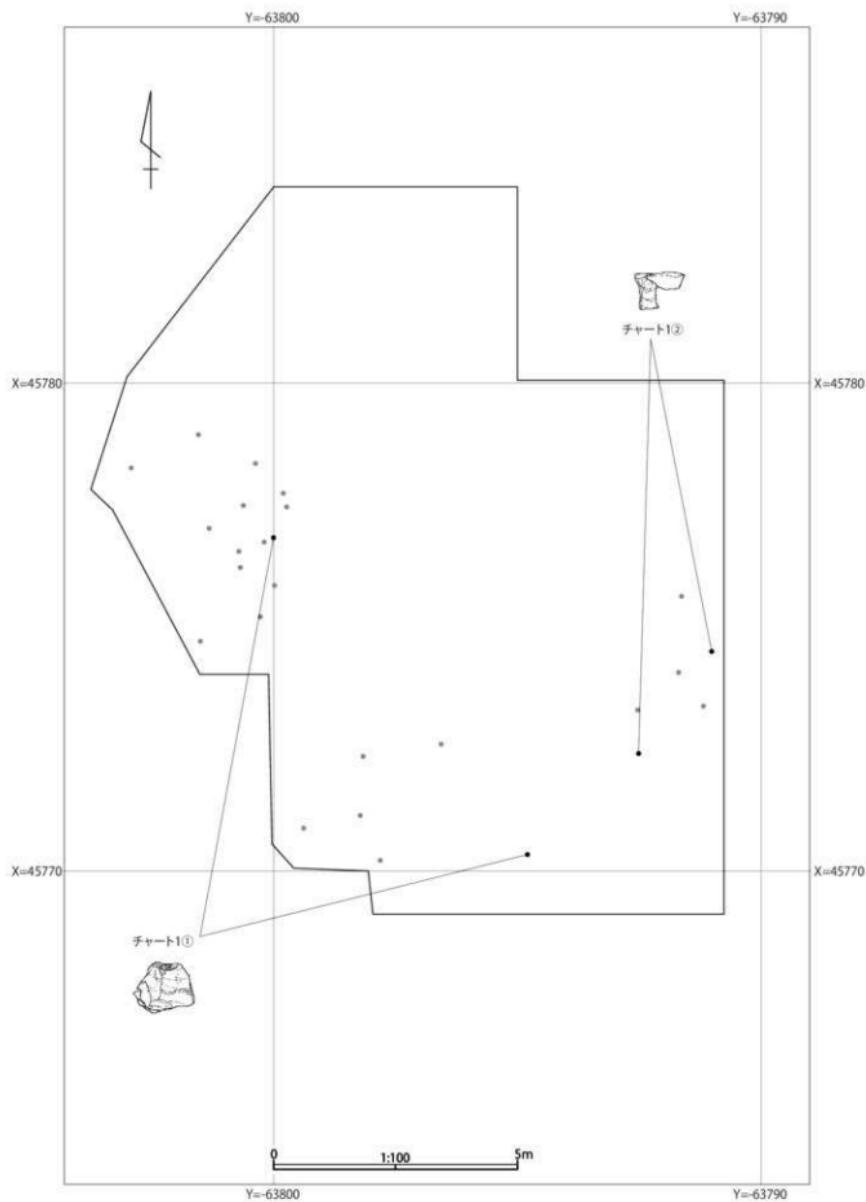
第3章 各遺跡の遺構・遺物



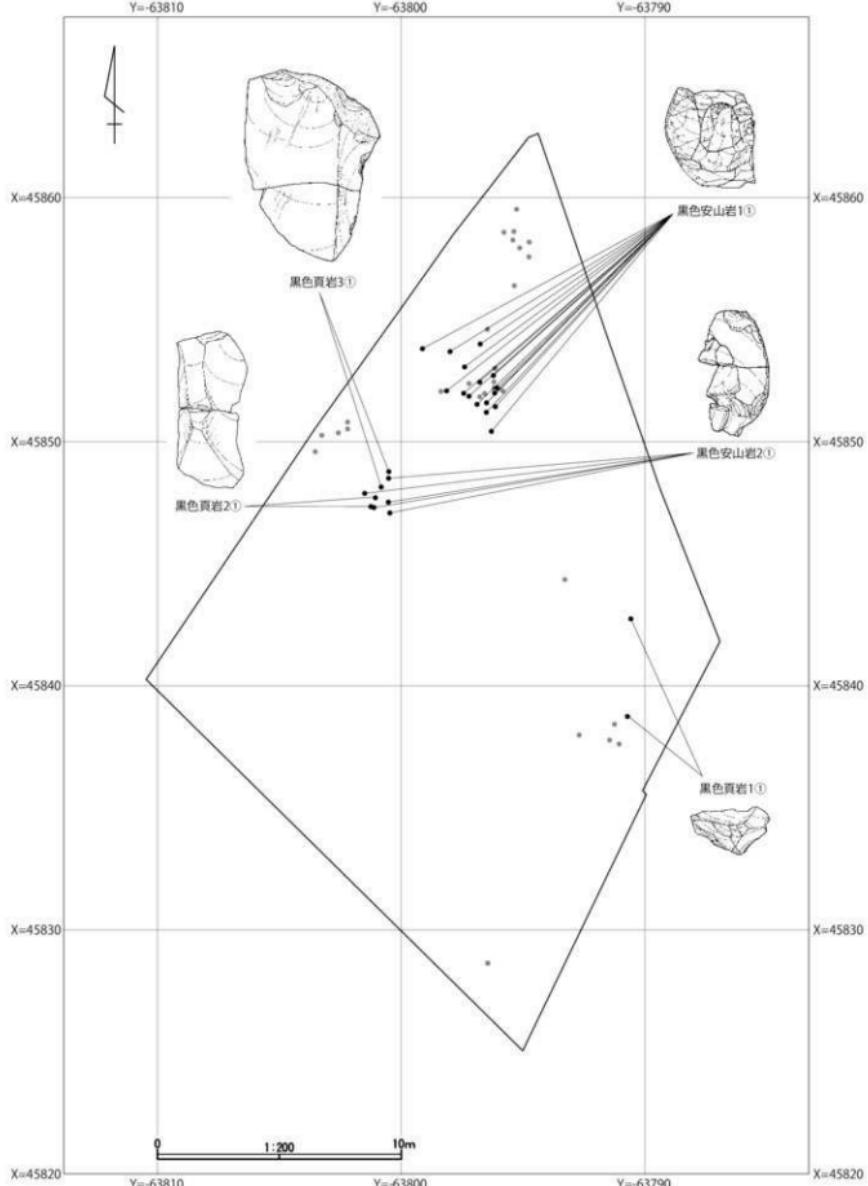
第48図 上泉新田塚遺跡群 第3文化層擴張4区 器種別分布状況



第49図 上泉新田塚遺跡群 第3文化層擴張4区 石材別分布状況

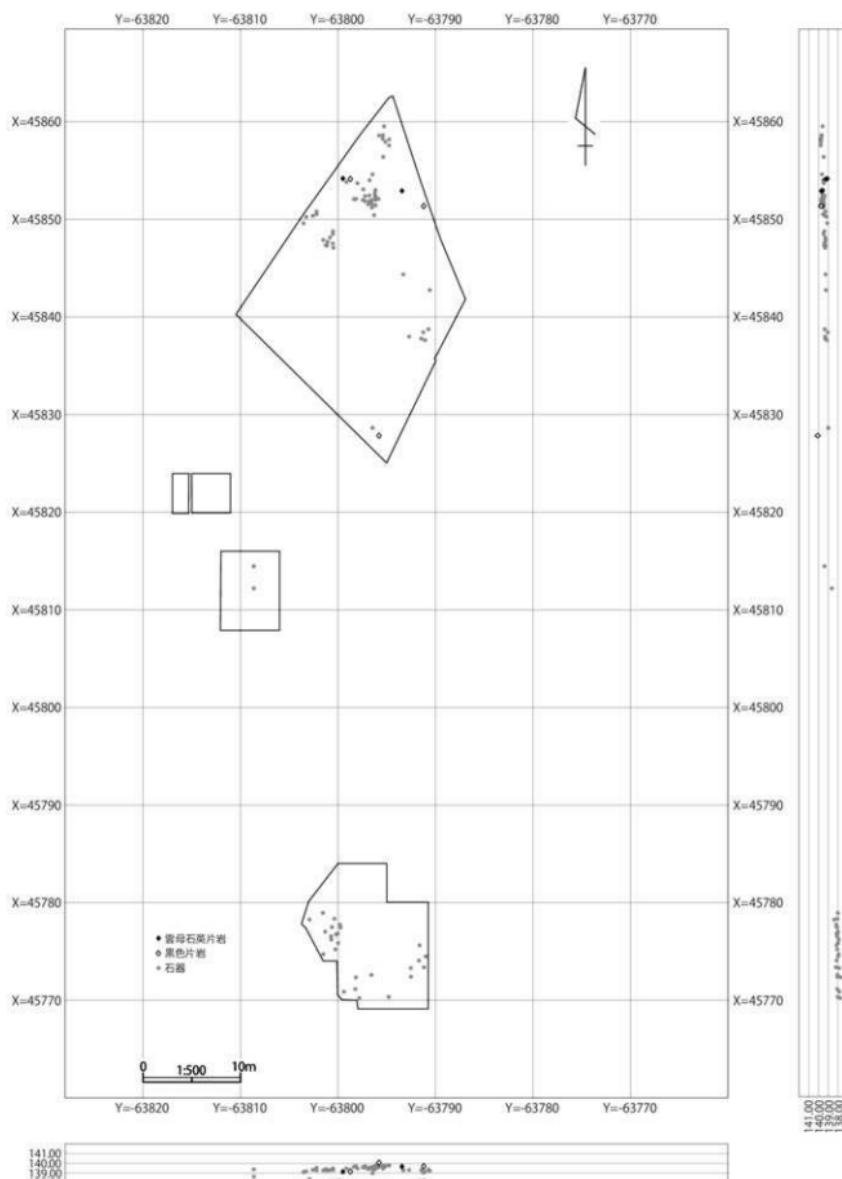


第50図 上泉新田塚遺跡群 第3文化層拡張3区 接合資料の分布状況



第51図 上泉新田塚遺跡群 第3文化層拡張4区 接合資料の分布状況

第3章 各遺跡の遺構・遺物



第52図 上泉新田塚遺跡群 結晶片岩の分布状況

## 第3節 上泉武田遺跡

### 1 遺跡の概要

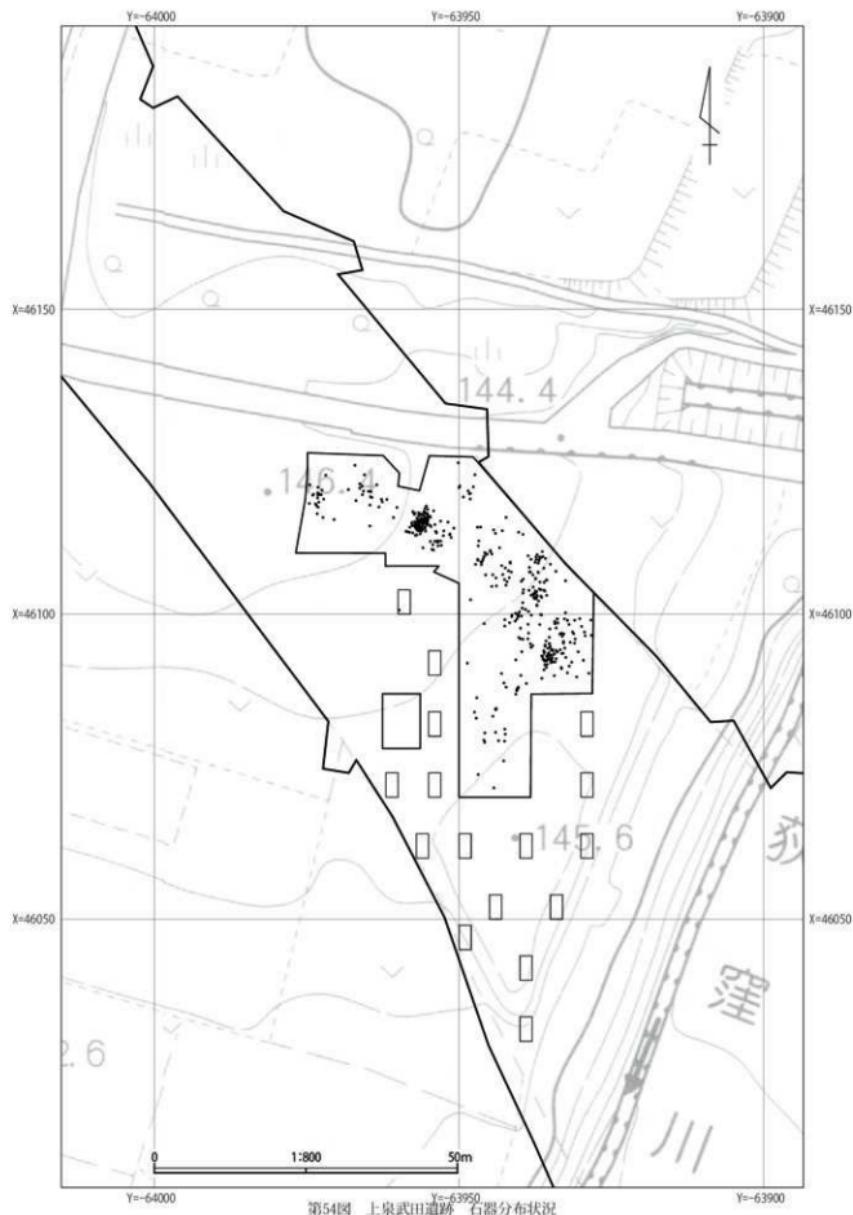
上泉武田遺跡(JK54)は赤城山南麓に広がる火山性扇状地上にあり、获窪川右岸に立地する。本遺跡出土の石器群は获窪川を臨む台地東側に分布した。石器群が出土した地点は南東方向に傾斜(第54図)する緩斜面にあり、获窪川が流れる低地から入り込んだ支谷が石器分布域の北側に入り込んでいる。台地縁辺は获窪川により深く浸食され、比高差は約10mを測る。

### 2 調査の経過

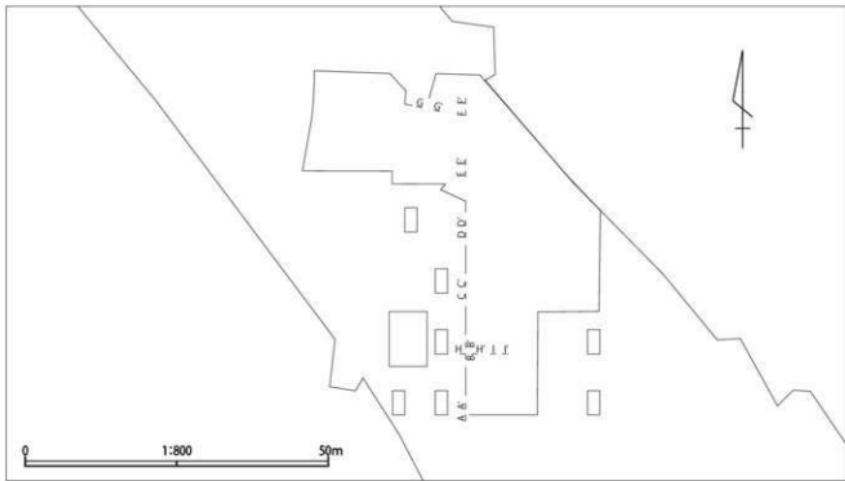
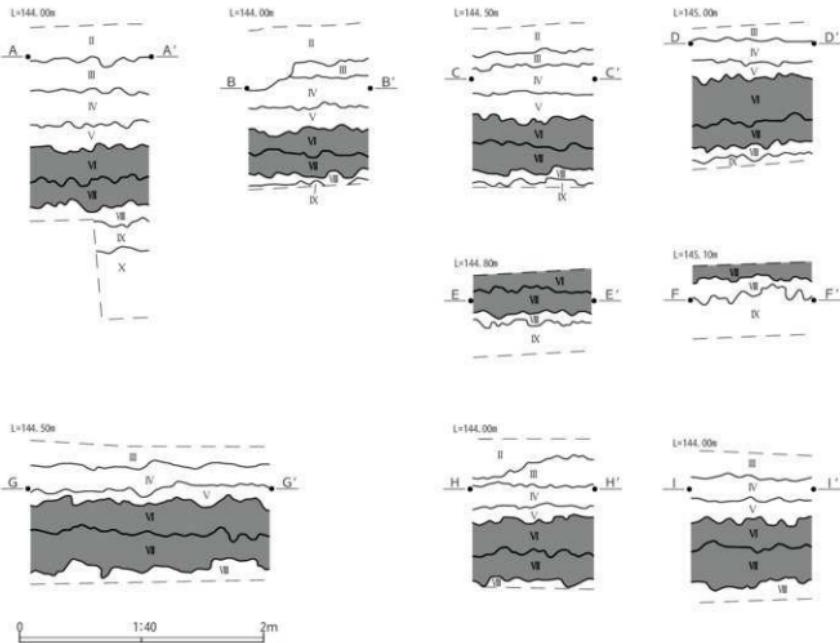
平成19年度の調査は台地東側Ⅰ区から開始されている。この地点は暗色帯上面まで削平されており、遺構精査の段階で旧石器遺跡の存在が判明したため、当初から石器の出土層位について注意が払われていた。削平地点において暗色帶中に石器が出土していたが、周辺域に調査を進めたところ、石器がⅣ層(As-BP)をブロック状に含む)中からも出土することが明らかとなった。これにより文化層が上下2層に分離されることが予想されたため、上層から出土する石器群を第1文化層として、下層から出土する石器群を第2文化層として石器を取り上げた。

石器群のある台地は火山麓扇状地特有の丘陵性台地となっており、丘陵の両端に河川が流れ、南北方向の浸食谷を形成しているが、石器群が分布した地点の地形を微視的にみると、南東方向から遺跡北に入り込んだ谷の台地縁辺に石器群が分布したものと判断された。調査中、台地地形を明らかにするため、座標軸に合せて柱状図を作成していたが、先にも述べたとおり、文化層が二分される可能性が想定されたので、調査区南で検出された配石(X=46090)にトレチを設定し掘り下げたところ、調査区東端で榛名八崎軽石が浸食され、その上位に暗色帯が堆積することが明らかになった。旧石器調査が終了した時点で重機により掘削、暗色帯の傾斜方向とは逆に、榛名八崎軽石が西側に向かい傾斜堆積することが明らかになった。Ⅰ区旧石器調査は平成19年8月をもって終了した。市道東のⅡ区についてはその東側で石器が出土、その出土層位が暗色帯より上位であることが確認された。市道西については谷頭の臨んだ台地の西側斜面に当たり、旧石器時代の石器群が存在する可能性が大とされていたが、試掘調査の結果、石器群を確認することはできなかった。





第54図 上泉武田道路 石器分布状況



第55図 上泉武田遺跡 土層堆積状況

### 3 第1文化層

#### (1) 出土層位

I 区の 1 面から出土したが、本来の位置ではないので表採といえる。本来はⅢ層と考えられる。

#### (2) 検出遺構

石器の出土以外には、明確な遺構は検出されなかった。

#### (3) 出土遺物

第1文化層の石器は、I 区の 1 面から出土した槍先形尖頭器 1 点のみであり、個体の先端部側をほぼ半分欠損している(第56図、1面-2、PL.20)。表採資料であり、本来的な出土地点等は不明だが、槍先形尖頭器の形態的特徴から、石器の文化段階としては基本土層のⅢ層に帰属すると考えられ、群馬編年のIV期後半に位置付けることができる。石材は黒味が強い質の良い黒曜石であり、肉眼観察では信州と考えられたが、原産地分析の結果は产地不明と同定された(第5章第3節参照)。

### 4 第2文化層

#### (1) 出土層位

基本土層のⅢ層下部からIV層上部にかけて出土した。テフラとの関係では浅間板鼻黄色軽石(As-YP、約13,000年前)より下位で、浅間板鼻褐色軽石(As-BP、約19,000～24,000年前)までの間である。

#### (2) 検出遺構

石器の出土以外には、明確な遺構は検出されなかった。

#### (3) 出土遺物

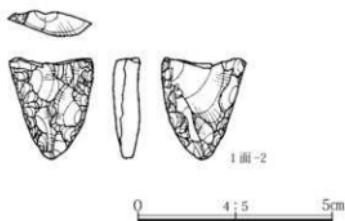
出土遺物の総点数は37点で、内訳は石器9点(24.3%)、剥片17点(46.0%)、碎片6点(16.2%)、礫・礫片5点(13.5%)である。石器の器種は、削器1点(3.1%)、石刃7点(21.9%)、石核1点(3.1%)、剥片17点(53.1%)、碎片6点(18.8%)である。石器の石材は黒色安山岩25点(78.1%)、黒色頁岩4点(12.5%)、黒曜石2点(6.3%)、チャート1点(3.1%)である。礫・礫片では、粗粒輝石安山岩3点(60.0%)、黒色頁岩1点(20.0%)、溶結凝灰岩1点(20.0%)である(第11表参照)。

次に、出土した石器を種類ごとに見ていくこととする。

**削器**(第57図、I 20、PL.20) 1 点が出土している。ほぼ中央で折断された大形の横長の剥片を素材とし、残る一縁に加工を加えている。石材は黒色安山岩である。

**石刃**(第57図、I 27・I 46・I 49・I 54・I 60・I 62・I 63、PL.20) 7 点が出土している。I 54 + I 63は小さい打点をもつ薄手の折断剥片同士で、先端部を欠損している。石材は黒色安山岩である。I 27は頭部と先端部を欠損する中間部のみで、幅はとても狭く、まるで細石刃の様である。石材は黒色頁岩である。I 46は表面の大部分に原石面が残り、180°の打面転位による剥離面が1面残されている。石材はチャートである。I 49は小さな打面で、先端部に原石面が残り、両側縁に細かな使用痕が多数認められる。石材は黒曜石である。I 62は幅広で先端部に原石面が残る。折断で頭部側を欠損している。石材は黒色安山岩である。I 60は幅広で、折断で先端部側を失っている。石材は黒色安山岩である。

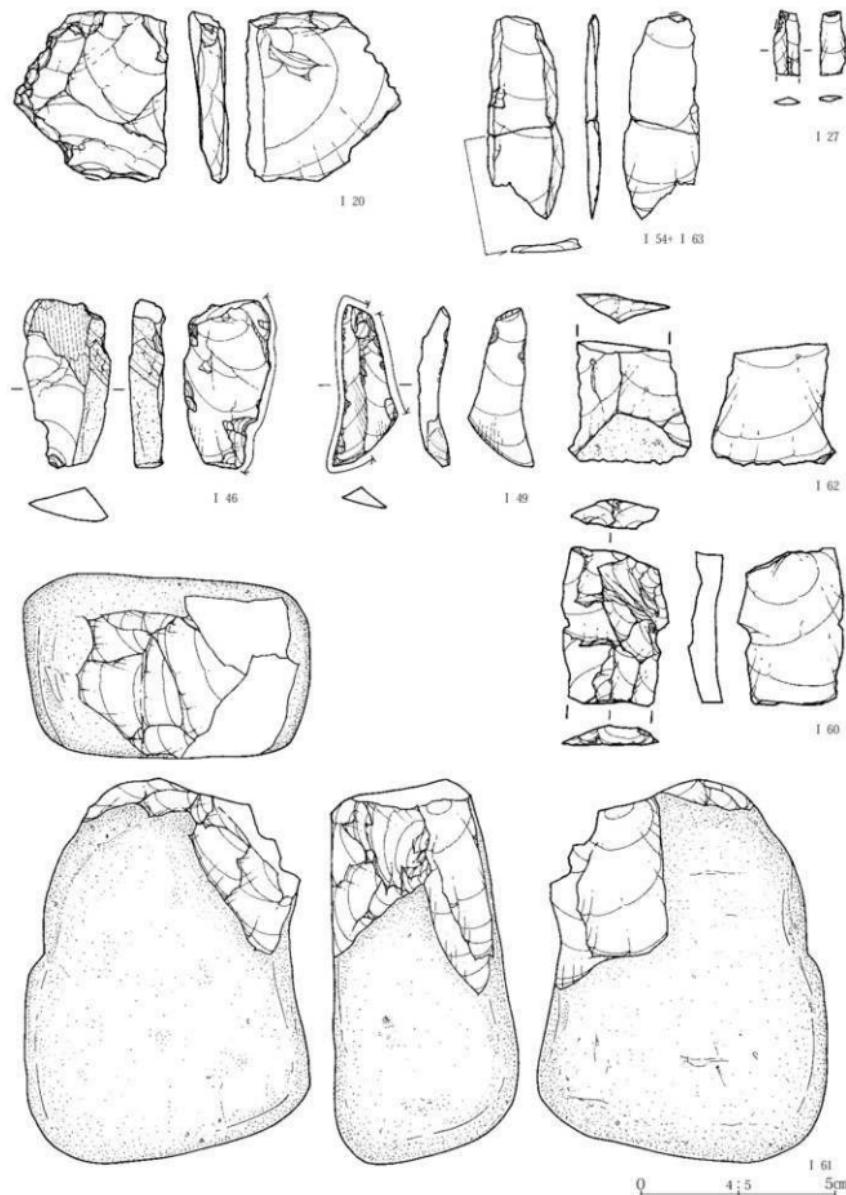
**石核**(第57図、I 61、PL.20) 1 点が出土している。亜角礫の一端を数回打ち欠いて剥片を剥離し、その剥離作業面を打面として90°転位をして2枚程縦長剥片を剥離し、さらにその剥離作業面を打面として90°転位をして2～3枚の剥片を剥離している。いずれの剥片も原石面を打面や表面に残していることが多い。石材は黒色頁岩である。



第56図 上泉武田遺跡 第1文化層 出土遺物

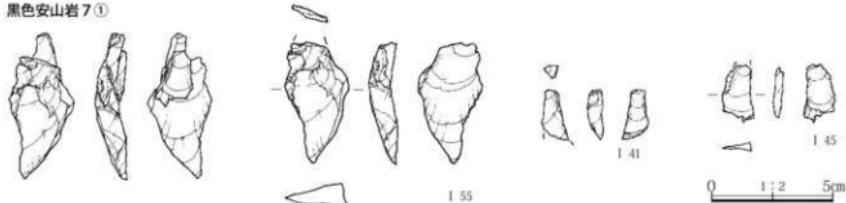
第10表 上泉武田遺跡 第1文化層 組成表

	槍先形尖頭器	総計
黒曜石	1	1
総計	1	1



第57図 上泉武田遺跡 第2文化層 出土遺物

## 黒色安山岩7①



第58図 上泉武田遺跡 第2文化層 母岩別資料・接合資料

第11表 上泉武田遺跡 第2文化層 組成表

	削器	石刃	石核	剥片	碎片	礫	礫片	総計
黒色安山岩	1	4		15	5			25
黒色頁岩		1	1	1	1		1	5
黒曜石		1		1				2
チャート		1					1	1
溶結凝灰岩					1			1
粗粒輝石安山岩						3	3	
総計	1	7	1	17	6	1	4	37

(4)母岩別資料・接合資料(第57・58図、PL.20)

黒色安山岩は総数25点が出土しており、そのうちの接合資料は2例5点である。

黒色安山岩7(第58図、PL.20)風化が激しく、リング・フィッシャーなど剥片剥離が見づらく、自然面もトロトロしている。点数5点のうち、接合資料は1例3点である。

黒色安山岩7-①(第58図、PL.20)同一打面から連続して剥離された剥片3点の接合資料である。I.55とI.45の打面部分は、剥離の打撃の際の衝撃で欠損している。 I.55(剥片)→I.41(剥片)→I.45(剥片)

黒色安山岩7(第57図、PL.20)非接合資料として石刃2点がある。I.60(石刃)、I.62(石刃)

黒色安山岩8-①(第57図、PL.20)石刃の折断資料である。I.54(石刃)+I.63(石刃)

黒色安山岩には単独母岩として非接合資料4点(第57図、PL.20)がある。I.18(剥片)、I.20(削器)、I.29(剥片)、I.38(剥片)

黒色安山岩には分類不能な剥片9点、碎片5点の計14点がある。

黒色頁岩には単独母岩として非接合資料5点(第57図、PL.20)がある。I.7(剥片)、I.17(碎片)、I.26(剥片)、I.27(石刃)、I.61(石核)

黒曜石には同一母岩と見られる石刃(第57図、PL.20)と剥片がある。I.49(石刃)、I.51(剥片)

チャート(第57図、PL.20)単独の非接合資料として石刃1点がある。I.46(石刃)

## (5)剥片剥離技術

数少ない接合資料や石核などの様子から、石刃や縦長剥片を主として剥離し、180°打面転位の両設打面が認められる。

出土層位との関係からも、群馬編年のIV期前半と推定される。

## (6)分布状況(第59図、PL.18)

第3文化層とほぼ分布域が同じであるが、遺物の標高値や内容などで分離することとした。西側の1号ブロックと東側の2号ブロックとしたが、内容的に1号ブロックが石器製作跡的、2号ブロックが居住空間的様相を示す。

## (7)石器の分布(第60図)

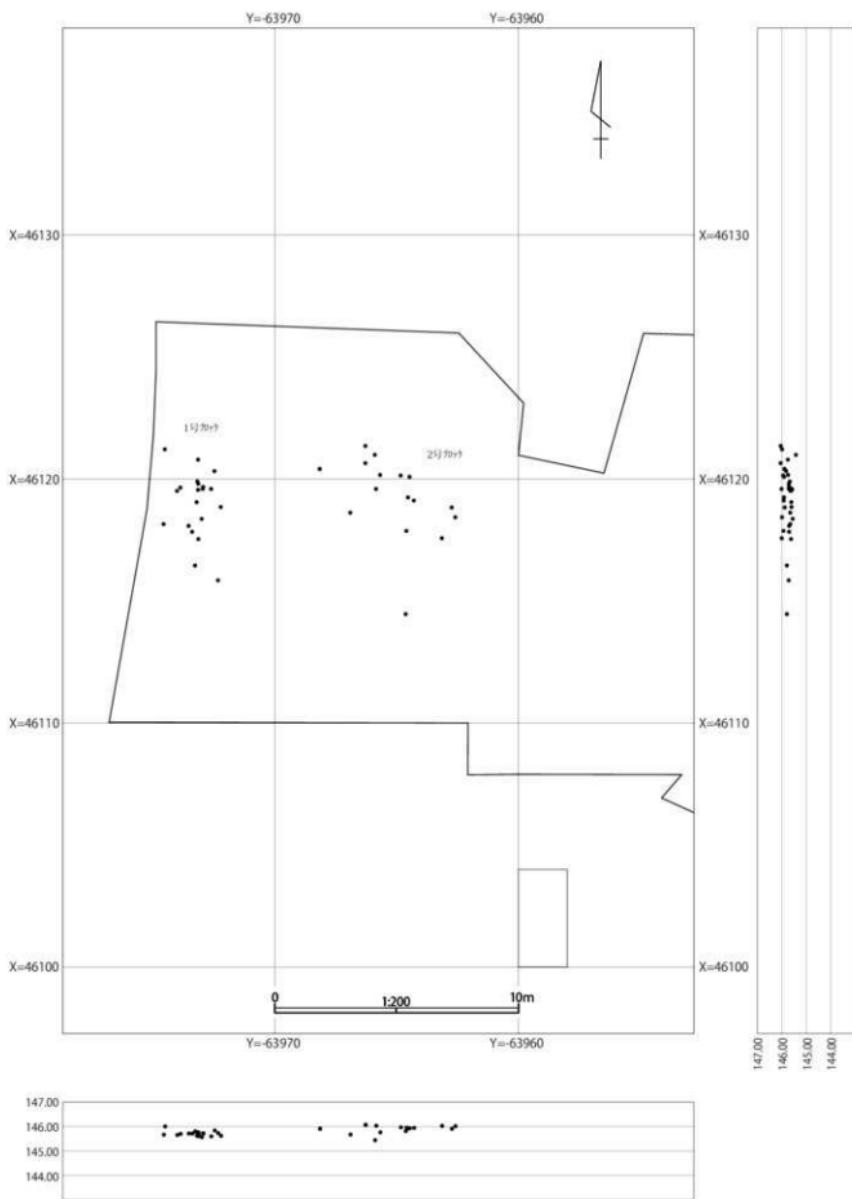
削器や石刃、石核が存在し、居住空間と石器製作の両方の機能を有すると考えられる。

## (8)石材の分布(第61図)

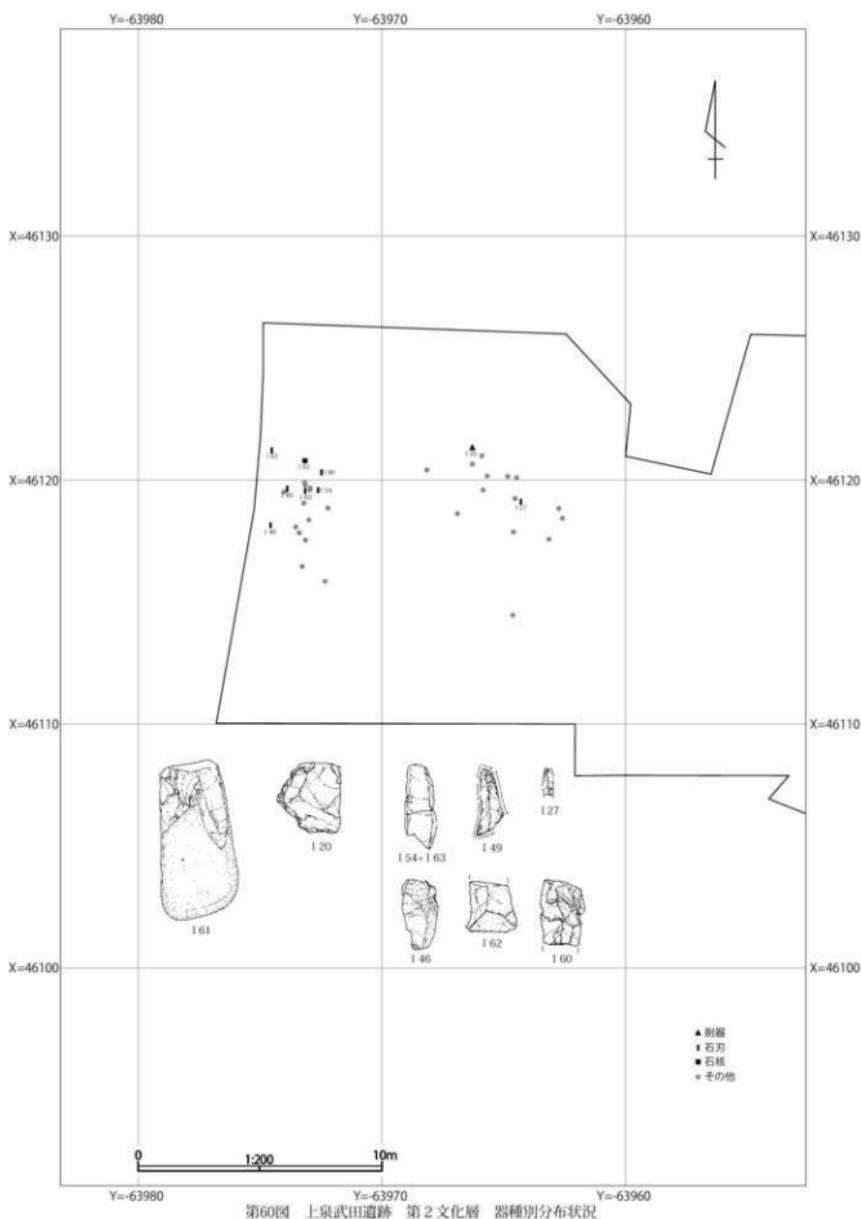
1号ブロックが黒色安山岩を主体に、黒曜石やチャートが僅かに含まれるのに対して、2号ブロックは黒色安山岩が主で、黒色頁岩が従の形で分布する。

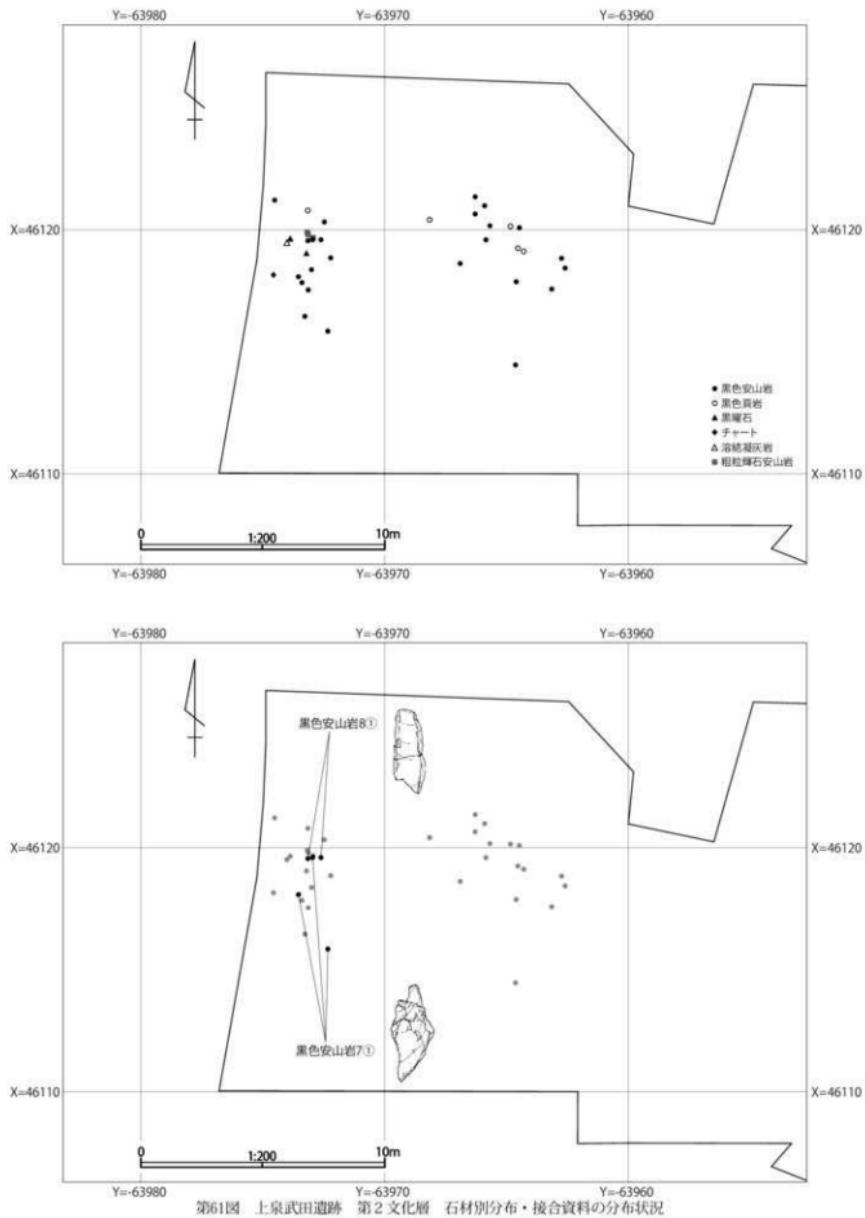
## (9)接合資料の分布(第61図)

黒色安山岩の接合資料が1号ブロックのみに存在する。



第59図 上泉武田遺跡 第2文化層 石器分布・垂直分布状況





第61図 上泉武田遺跡 第2文化層 石材別分布・接合資料の分布状況

## 5 第3文化層

### (1) 出土層位

基本土層のVI層を中心にV層からVII層にかけてで、テフラとの関係では浅間板鼻褐色軽石(As-BP、約19,000～24,000年前)より下位で、暗色帶上位までの間である。

### (2) 検出遺構

石器の出土以外には、明確な遺構は検出されなかった。

### (3) 出土遺物

第3文化層の石器群は、出土遺物の総点数は466点で、内訳は石器45点(9.7%)、剥片311点(66.7%)、碎片64点(13.7%)、礫・礫片・礫類46点(9.9%)である。石器の器種は、ナイフ形石器4点(1.0%)、彫器2点(0.5%)、削器1点(0.2%)、加工痕ある剥片1点(0.2%)、石刃21点(5.0%)、石核14点(3.3%)、敲石2点(0.5%)、剥片311点(74.1%)、碎片64点(15.2%)である。石器の石材は黒色安山岩が314点(74.8%)、黒色頁岩が94点(22.4%)と多く、珪質頁岩3点(0.7%)、黒曜石6点(1.4%)、チャート2点(0.5%)、細粒輝石安山岩1点(0.2%)などである。礫・礫片・礫類の石材は粗粒輝石安山岩18点(39.1%)、珪質変質岩2点(4.4%)、雲母石英片岩19点(41.3%)、黒色片岩7点(15.2%)などである(第12表参照)。

次に、出土した石器を種類ごとに見ていくこととする。

**ナイフ形石器**(第62図、II 27・II 266・II 327・II 328、PL.20) 総数4点が出土している。II 27は石刃を素材として、一側縁に調整を施している。石材は黒色頁岩である。II 327は横長剥片を素材に、両側縁に鋭角な調整を施し、裏面側に両側縁から平坦剝離を加えている。形状は小形の斜刃を作り出している。石材は黒曜石である。II 328は縱長剥片の一側縁のほぼすべてに裏面側から鋭角な調整を加えている。もう一側縁の基部寄りの一部に細かな調整を加えて、鋭い尖頭状を作り出している。石材は珪質頁岩である。II 266は大形の剥片を素材に、一側縁の一部に調整を加えて、もう一側縁は折断している。やや尖刃な、いわゆるペン先形を作り出している。石材は黒色安山岩である。

**彫器**(第62図、III 107・III 123、PL.20) 2点が出土している。III 123は縱長剥片、あるいは石刃を素材とし、打面の一端に大き目の長い楕状剝離を加えている。石材は黒色頁岩である。III 107は側面に原石面を残す剥片を素材とし、打面の一端に長い楕状剝離を加えている。石材は黒色安山岩である。

**削器**(第62図、II 176、PL.21) 1点が出土している。打面側の一部に原石面を残す大形の横長剥片を素材として、先端部分に大きな加工を加えている。石材は黒色安山岩である。

**加工痕ある剥片**(第62図、II 71、PL.20) 1点が出土している。表面に原石面を残すやや大形の剥片を素材とし、裏面の両側縁の打点寄りに加工が加えられている。石材は黒色安山岩である。

**石刃**(第63・64・65図、II 34・II 38・II 45・II 84・II 102・II 106・II 107・II 128・II 131・II 148・II 158・II 159・II 196・II 206・II 248・II 250・II 291・II 297・II 308・III 109・III 113、PL.21・22) 総数21点が出土している。II 38は打面が小さく、石材は黒色頁岩である。II 131は表面の大部分に原石面が残り、石材は黒色頁岩である。II 102は両縁が整っておらず、石材は黒色安山岩である。III 109は幅の広い先端部に原石面が残り、石材は黒色安山岩である。II 206は、石材は黒色安山岩である。II 148+II 248は先端付近で折断した資料で、石材は黒色頁岩である。II 297は一側縁の一部に使用痕があり、石材は黒色頁岩である。II 158は一側縁に調査時の欠損が顕著で、石材は黒色頁岩である。II 128は表面の大部分に原石面が残り、石材は黒色頁岩である。II 84は断面が幅広の台形で、石材は黒色安山岩である。II 106は表面の一部に原石面が残り、剥離作業面調整の痕跡が残り、一側縁に使用痕が残る。石材は黒色頁岩である。II 250は90°打面転位の剥離面が残されており、石材は黒色頁岩である。II 159は打点側を欠損し、石材は黒色頁岩である。III 113は表面の半分に原石面が残り、石材は黒色安山岩である。II 107は肉厚で、石材は黒色安山岩である。II 34は90°や180°打面転位の剥離面が残されており、石材は黒色頁岩である。II 291は打面が小さく、石材は黒色頁岩である。II 45は打点側を欠損し、

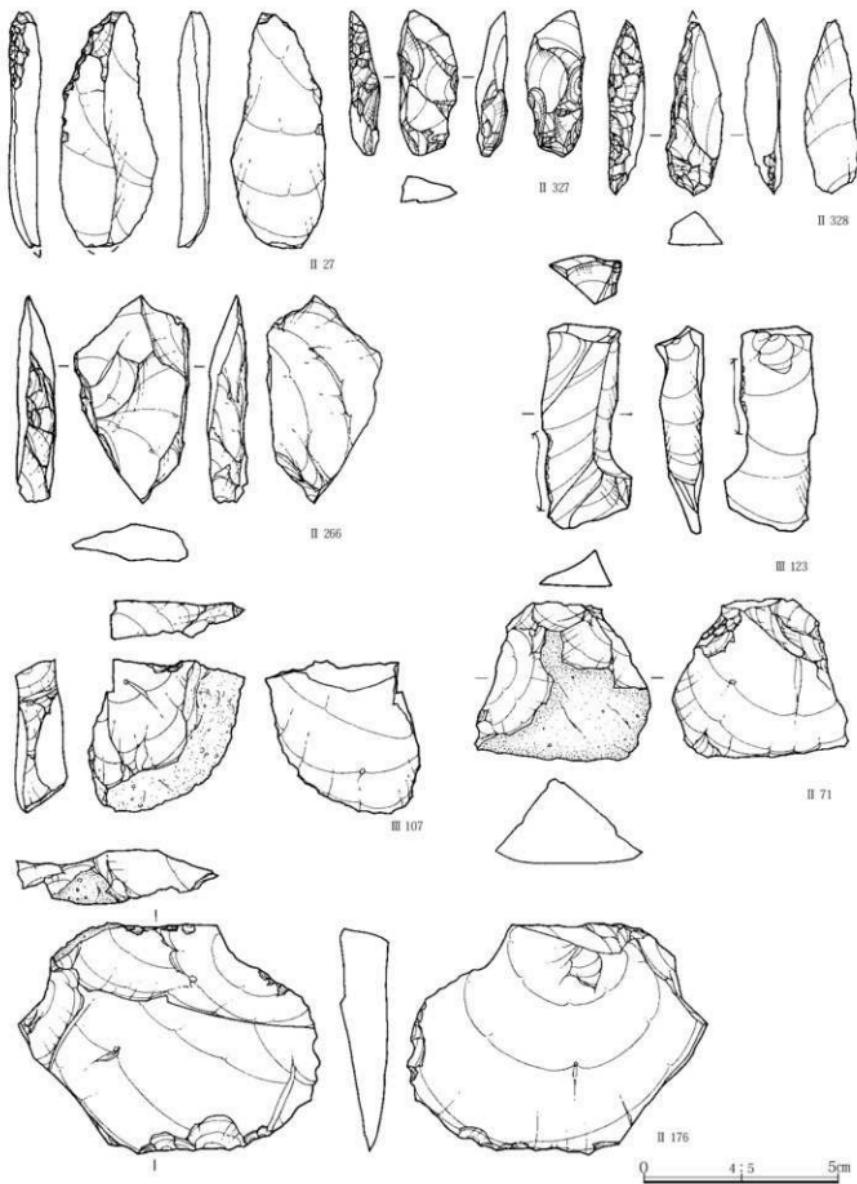
石材は黒色頁岩である。II 308は一側縁に僅かに使用痕が残る。石材は黒色頁岩である。II 196は打面が大きく、石材は黒色安山岩である。この他に、多数の剥片や碎片が出土しているが、図化・資料化しているのは主に接合資料に含まれる資料だけである。(第69図~第79図、PL.25~29)

**石核**(第65 ~ 68図、II 3・II 108・II 129・II 134・II 150・II 166・II 189・II 211・II 215・II 298・II 305・III 121・カクラン151・カクラン152、PL.22 ~ 24)総数14点が出土している。II 129は原石面を一部に残す厚手の剥片を素材に、打面を数か所に転位して小形の剥片を剥離している。石材は黒色安山岩である。II 134は裏面に原石面を残す分割礫の周縁から表裏両面の中心に向かって剥片を剥離している。石材は黒色安山岩である。II 189は厚手の剥片の一側面で裏面から小形の剥片を剥離している。石材は珪質頁岩である。カクラン152は厚手の剥片の周縁から表裏両面の中心に向かって剥片を剥離することで、両面体に近い形状を作り出している。石材は黒色安山岩である。カクラン151はII 134と同様に、裏面に原石面を残す分割礫の周縁から表裏両面の中心に向かって剥片を剥離している。石材は黒色安山岩である。II 298は船底形に近い形状の甲板面を打面として、小形の剥片を剥離している。石材は黒曜石である。II 108は長軸の大きさが約10cmの亜角礫を半分に打ち削った分割礫を素材に、礫の一端を打ち欠いて打面を作り出し、そこから長軸方向に数枚の縦長剥片を剥離している。石材は黒色頁岩である。II 3は立方体に近い剥片のあちらこちらを打面として、小形の剥片を1、2枚ずつ剥離している。石材は黒色頁岩である。II 150は薄手の長方体の剥片を素材に、周縁から表裏両面の中心に向かって剥片を剥離している。石材は黒色安山岩である。II 215は小形の剥片を素材に、左辺から一、二枚の小形の剥片を剥離している。石材は黒色頁岩である。II 305は原石面を一部に残す厚手の分割礫を素材に、一端を打ち欠いて打面を作り出し、表裏面の長軸方向にそれぞれ数枚の剥片を剥離した後、周縁から小形の剥片を数枚剥離している。石材は黒色頁岩である。II 121は長軸約16cm、短軸約13cmの長方体に近い亜角礫の一端から原石面をそのまま打面として、表面に原石面が残る大形の剥片を2枚ほど剥離している。あるいは、この剥離された剥片そのものも石核に利用されているのかもしれない。石材は黒色頁岩である。II 211は大形の剥片、あるいは分割礫を素材とし、180°打面転位をして両端から剥片を剥離している。石材は黒色安山岩である。なお、II 166は石核の破損品であり、未実測とした。

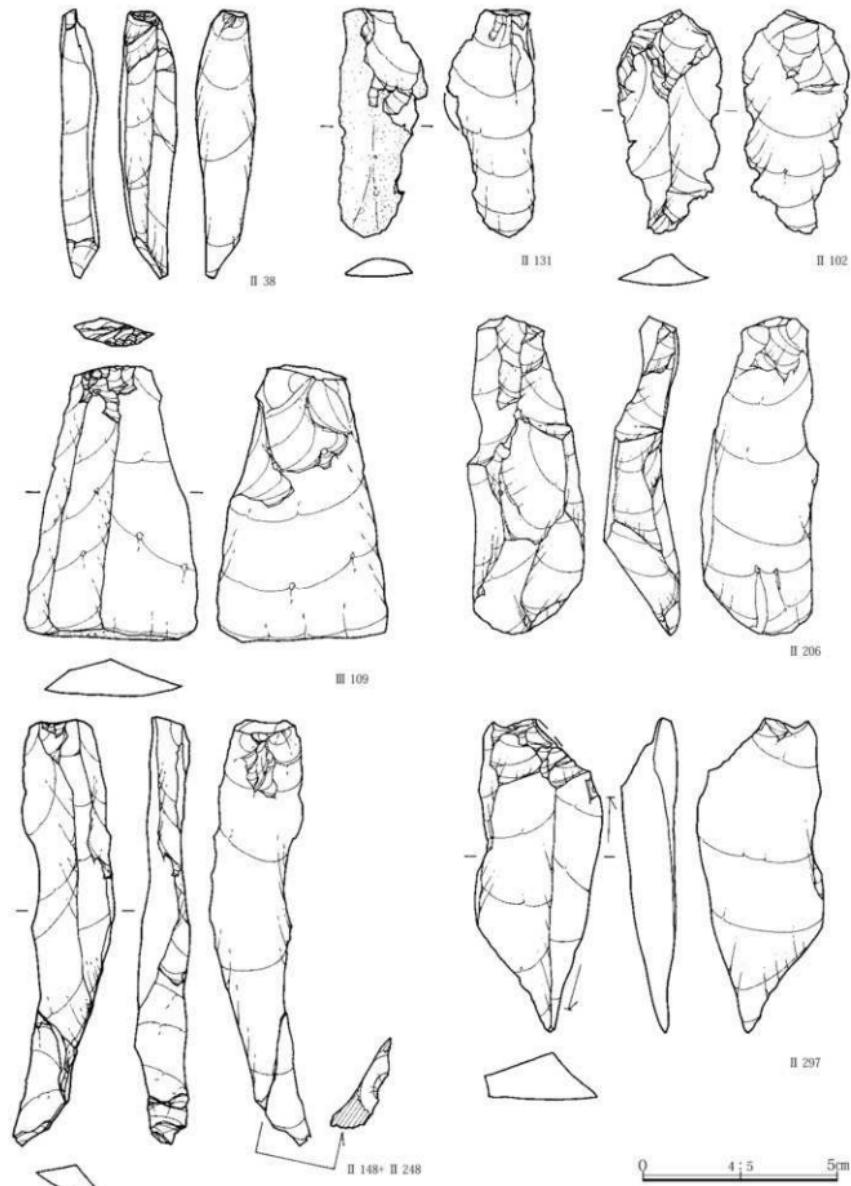
**敲石**(第68図、II 37・II 130、PL.24)2点が出土している。II 130は棒状の礫の両端を何度も使用したために、多数の敲打痕と共に衝撃による剥離痕をいくつも残している。石材は黒色頁岩である。II 37はやや扁平な礫を素材に、両端と一側縁に剥離痕を残している。石材は黒色頁岩である。

第12表 上泉武田遺跡 第3文化層 組成表

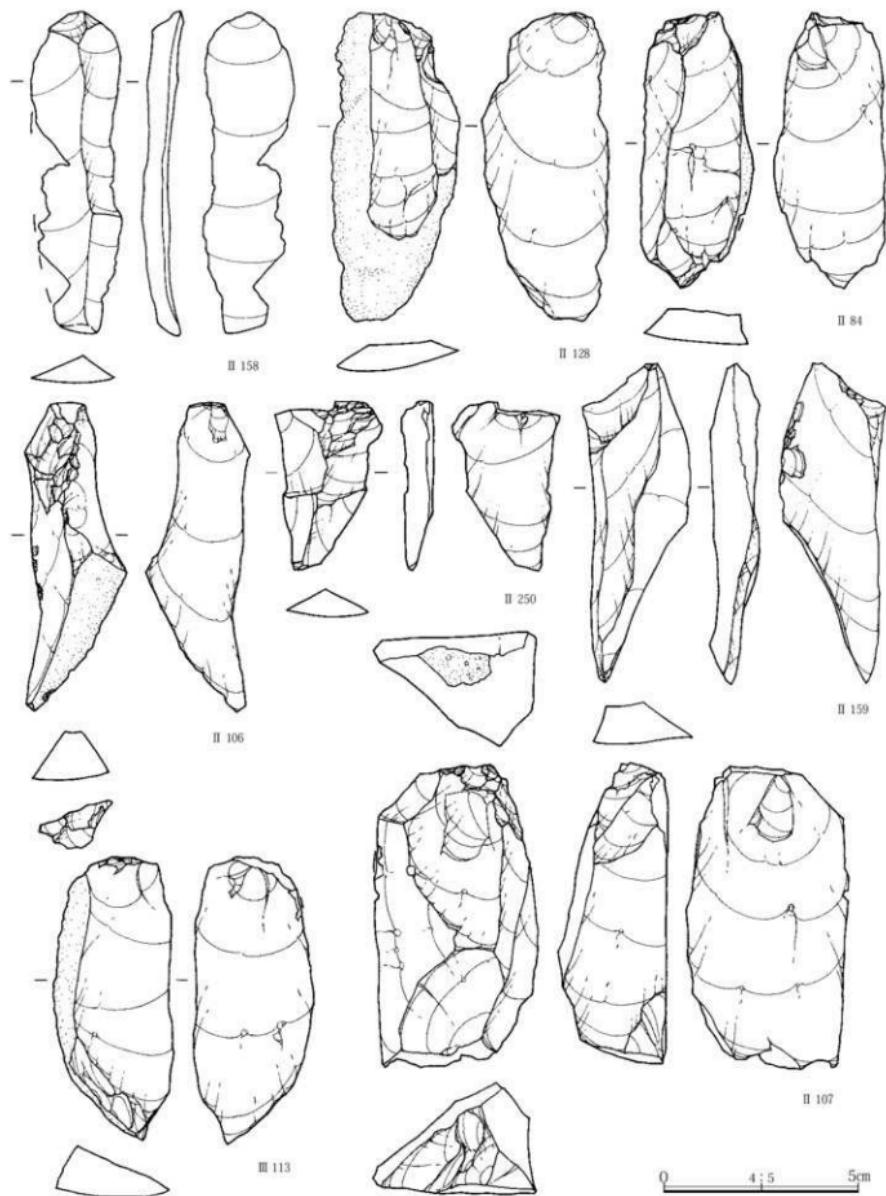
	ナイフ	形器	削器	加工痕	石刃	石核	敲石	剥片	鉗片	礫	礫片	礫類	統計
黒色安山岩	1	1	1	1	8	7		231	64				314
黒色頁岩	1	1			13	5	1	73					94
珪質頁岩	1						1		1				3
黒曜石	1					1		4					6
チャート								2					2
珪質變質岩									1	1			2
細粒輝石安山岩							1						1
粗粒輝石安山岩									9	9			18
雲母石英片岩											19		19
黒色片岩											7		7
統計	4	2	1	1	21	14	2	311	64	10	10	26	466



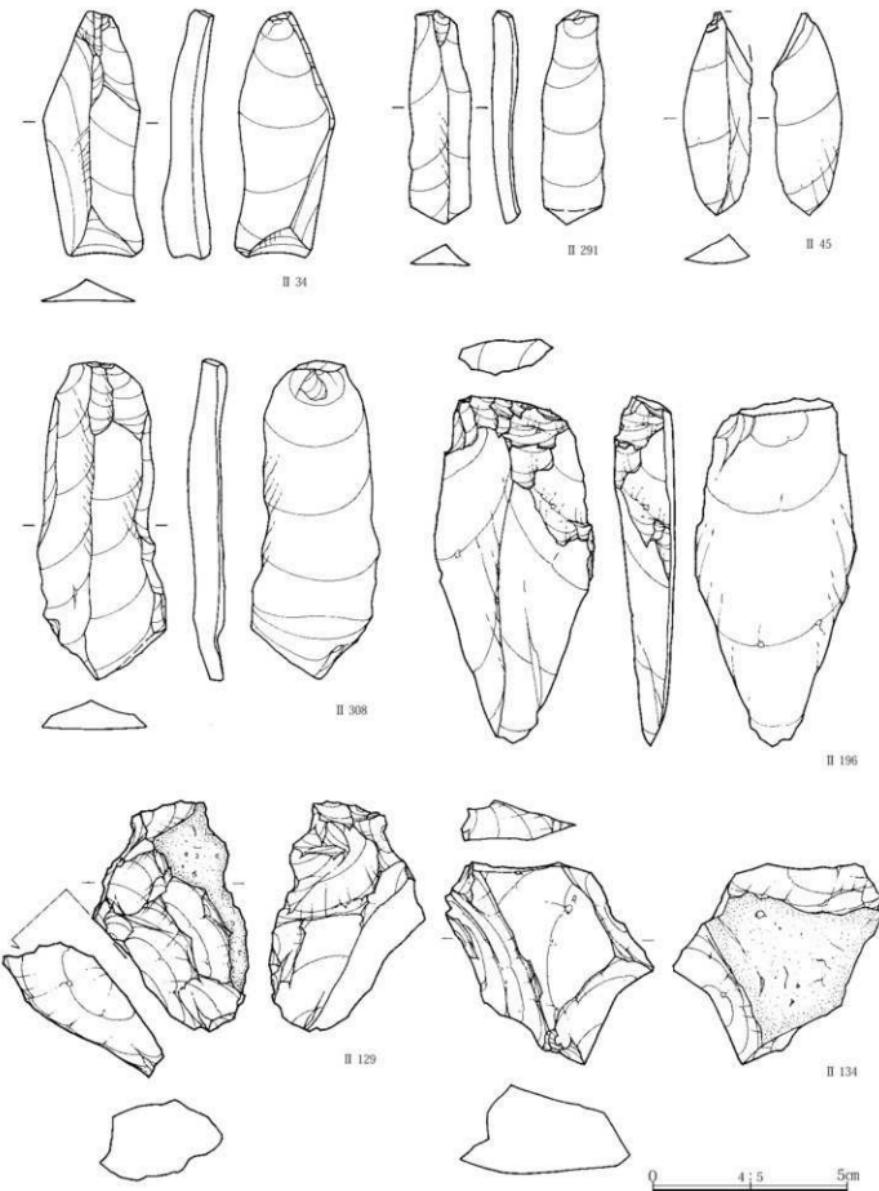
第62図 上泉武田遺跡 第3文化層 出土遺物(1)



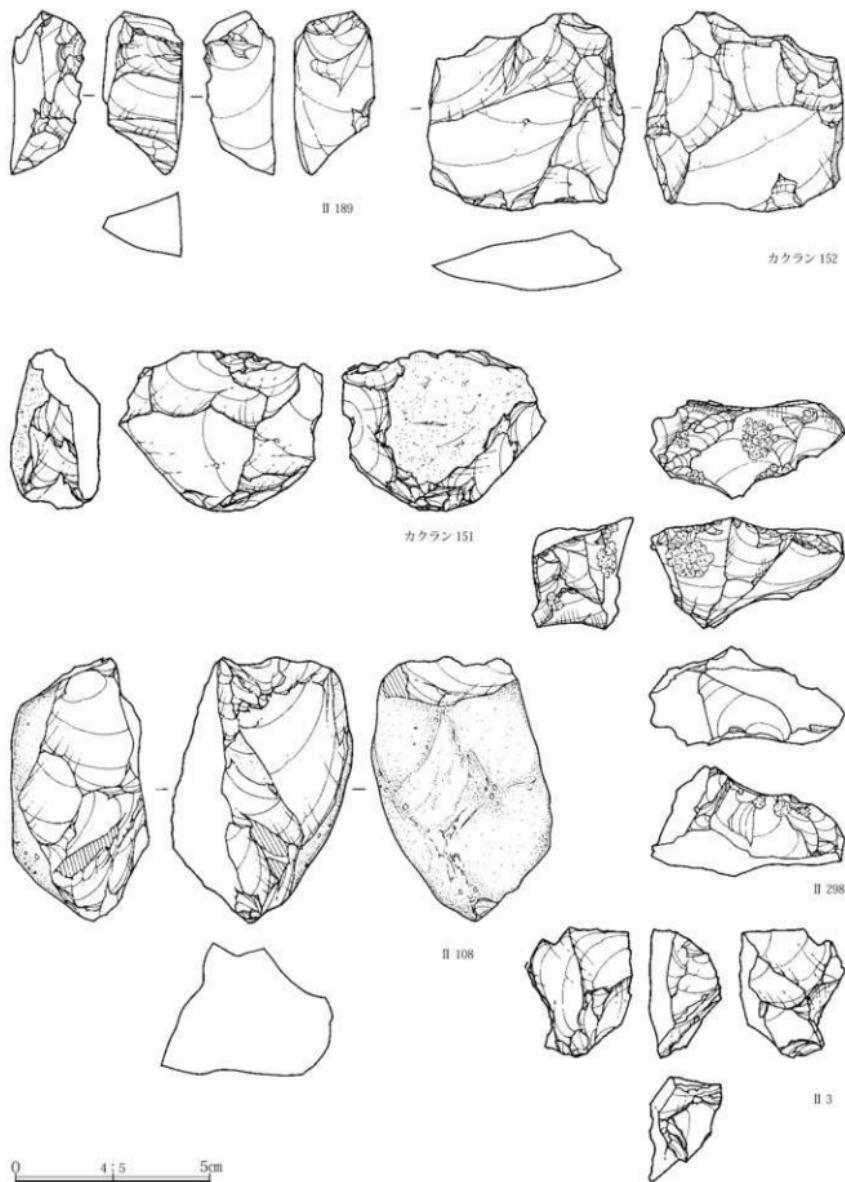
第63図 上泉武田遺跡 第3文化層 出土遺物(2)



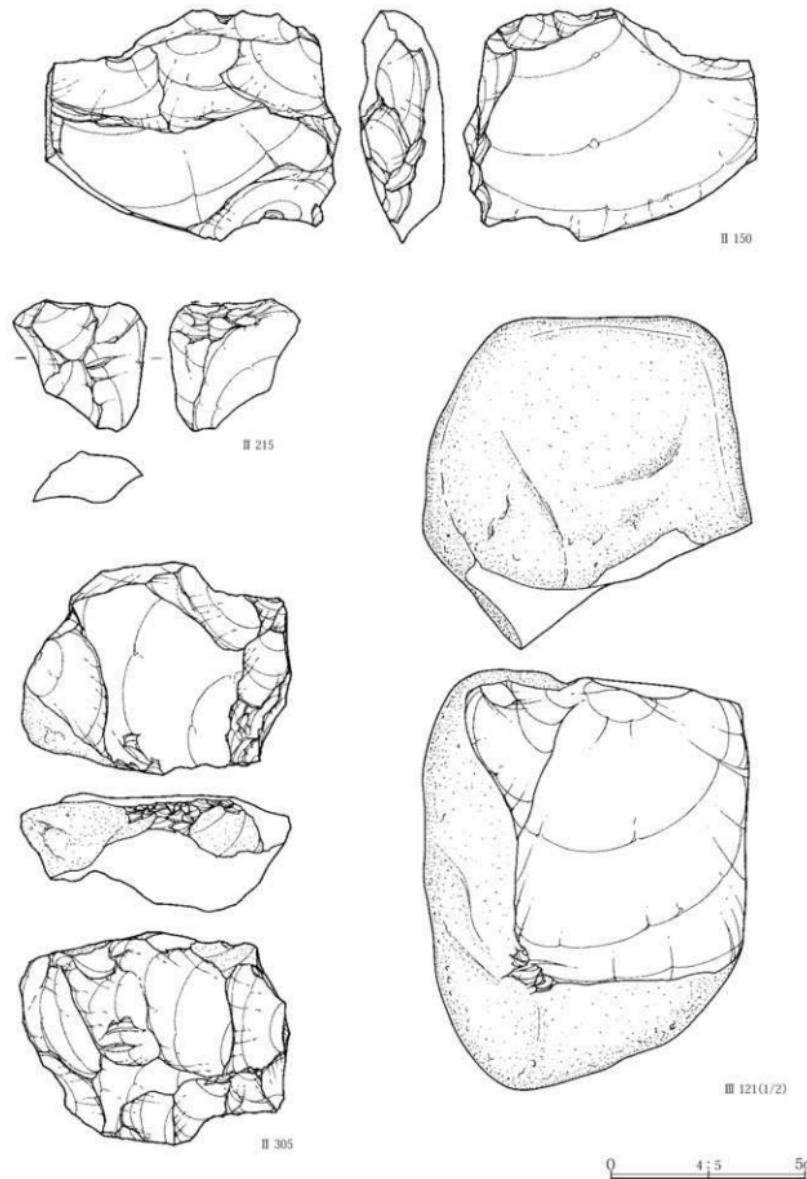
第64図 上泉武田遺跡 第3文化層 出土遺物(3)



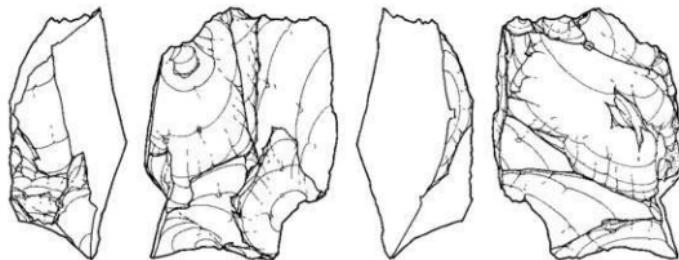
第65図 上泉武田遺跡 第3文化層 出土遺物(4)



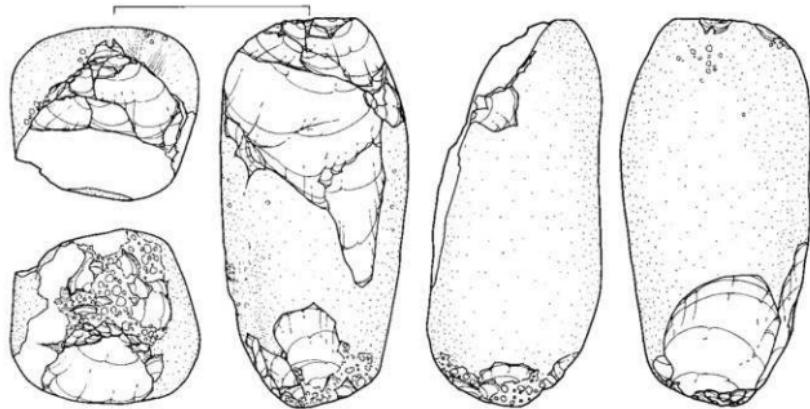
第66図 上泉武田遺跡 第3文化層 出土遺物(5)



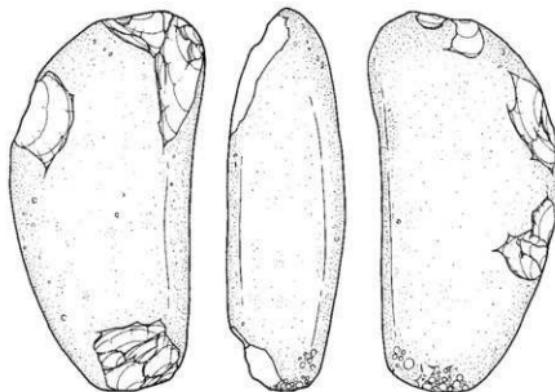
第67図 上泉武田遺跡 第3文化層 出土遺物(6)



II 211



II 130



II 37

第68図 上泉武田遺跡 第3文化層 出土遺物(7)

0 4 5 5cm

## (4)母岩別資料・接合資料(第69～79図、PL.25～29)

黒色安山岩の出土点数314点のうち、接合資料は27例91点である。

黒色安山岩1(第69～72図、PL.25～26)色調は灰6/1(Hue7.5Y)、自然面は皺が顕著。接合資料16例57点、非接合資料42点の計99点からなる。

黒色安山岩1-①(第69図、PL.25)分割礫の一端を打ち欠いて打面を作り出し、彫器や石刃や剥片を連続して剥離する。

彫器1点、石刃3点、折断を含む剥片6点の計11点の接合資料である。Ⅲ107(彫器)→Ⅲ108(剥片)→Ⅲ118(剥片)→Ⅲ113(石刃)→Ⅲ109(石刃)→Ⅲ89(剥片)+Ⅲ41(石刃)→Ⅲ116(剥片)+Ⅲ316(剥片)+Ⅲ43(剥片)

黒色安山岩1-②(第69図、PL.25)分割礫の一端を打ち欠いて打面を作り出し、表裏面で180°転位しながら縦長の剥片を剥離し、その後、さらに90°転位して表裏面で剥片を剥離している。剥片4点と石核1点の計5点の接合資料である。

Ⅱ202(剥片)→Ⅱ200(剥片)→Ⅱ204(剥片)→Ⅱ251(剥片)→Ⅱ211(石核)

黒色安山岩1-③(第70図、PL.25)同一打面から横長の剥片を連続して剥離している。削器1点と剥片4点の計5点の接合資料である。Ⅱ260(剥片)→Ⅱ174(剥片)→Ⅱ172(剥片)→Ⅱ177(剥片)→Ⅱ176(削器)

黒色安山岩1-④(第70図、PL.25)折断された2点を含む剥片4点の接合資料である。Ⅱ242(剥片)→Ⅱ147(剥片)+Ⅱ265(剥片)→カクラン155(剥片)

黒色安山岩1-⑤(第70図、PL.25)原石面を打面に、連続して横長の剥片を剥離している。剥片4点の接合資料である。

Ⅲ93(剥片)+Ⅲ86(剥片)+Ⅲ119(剥片)→Ⅱ165(剥片)

黒色安山岩1-⑥(第70図、PL.25)石核1点、剥片2点の接合資料である。Ⅱ238(剥片)→カクラン154(剥片)→カクラン152(石核)

黒色安山岩1-⑦(第71図、PL.26)剥片3点の接合資料である。Ⅱ273(剥片)→Ⅱ267(剥片)+Ⅱ275(剥片)

黒色安山岩1-⑧ 剥片3点の接合資料である。Ⅲ48(剥片)→Ⅲ96(剥片)+Ⅲ30(剥片)非実測

黒色安山岩1-⑨ 剥片3点の接合資料である。Ⅲ110(剥片)→Ⅲ105(剥片)→Ⅱ326(剥片)非実測

黒色安山岩1-⑩(第71図、PL.26)剥片3点の接合資料である。Ⅱ241(剥片)→Ⅱ117(剥片)→Ⅱ240(剥片)

黒色安山岩1-⑪ 剥片3点の接合資料である。Ⅱ164a(剥片)+Ⅱ164b(剥片)→Ⅱ162(剥片)非実測

黒色安山岩1-⑫(第71図、PL.26)剥片2点の接合資料である。Ⅱ262(剥片)→Ⅱ206(剥片)

黒色安山岩1-⑬ 石核1点、剥片1点の接合資料である。Ⅱ249(剥片)→Ⅱ166(石核)非実測

黒色安山岩1-⑭(第71図、PL.26)加工痕ある剥片1点と剥片1点の接合資料である。Ⅱ114(剥片)→Ⅱ71(加工痕ある剥片)

黒色安山岩1-⑮ 剥片2点の接合資料である。Ⅱ276(剥片)→Ⅱ277(剥片)非実測

黒色安山岩1-⑯ 剥片2点の接合資料である。Ⅲ49(剥片)→Ⅲ62(剥片)非実測

黒色安山岩1(第64・66・71・72図、PL.21・23・26)と同一母岩と見られる非接合資料として、石刃1点、石核1点、剥片41点の計43点がある。Ⅱ84(石刃)、Ⅱ97、Ⅱ109、Ⅱ110、Ⅱ111、Ⅱ112、Ⅱ113、Ⅱ116、Ⅱ119、Ⅱ120、Ⅱ123、Ⅱ145、Ⅱ151、Ⅱ157、Ⅱ168、Ⅱ169、Ⅱ170、Ⅱ194、Ⅱ195、Ⅱ213、Ⅱ217、Ⅱ256、Ⅱ257、Ⅱ258、Ⅱ261、Ⅱ268、Ⅱ281、Ⅱ284、Ⅱ312、Ⅱ315、Ⅱ317、Ⅱ319、Ⅱ320、Ⅱ321、Ⅱ322、Ⅲ24、Ⅲ65、Ⅲ77、Ⅲ83、Ⅲ115、Ⅲ120、カクラン151(石核)、カクラン157

黒色安山岩2(第72・73図、PL.26・27)色調は灰5/1(Hue7.5Y)、自然面は爪状痕が顕著だが、皺がやや少なめである。接合資料5例21点、非接合資料7点の計28点からなる。

黒色安山岩2-①(第72図、PL.26)剥片10点の接合資料である。Ⅱ59(剥片)→Ⅱ21(剥片)+Ⅱ2(剥片)→Ⅱ20(剥片)+Ⅱ56(剥片)→Ⅱ96(剥片)→Ⅱ36(剥片)→Ⅱ107(剥片)→Ⅱ29(剥片)+Ⅱ26(剥片)

黒色安山岩2-②(第73図、PL.27)剥片5点の接合資料である。Ⅱ1(剥片)→Ⅱ223(剥片)+Ⅱ35(剥片)→Ⅱ17(剥片)→Ⅱ22(剥片)

### 第3章 各遺跡の遺構・遺物

- 黒色安山岩2-③(第73図、PL.27)剥片2点の折断資料である。II32(剥片)+II64(剥片)
- 黒色安山岩2-④ 剥片2点の折断資料である。II25(剥片)+II13(剥片)非実測
- 黒色安山岩2-⑤ 剥片2点の折断資料である。II252(剥片)+II197(剥片)非実測
- 黒色安山岩2の同一母岩として、非接合の剥片7点がある。II9、II15、II16、II19、II44、II54、II93、
- 黒色安山岩3(第73図、PL.27)出土点数35点のうち、接合資料は4例8点である。
- 黒色安山岩3-①(第73図、PL.27)石核の折断資料である。II129(石核)→II134(石核)
- 黒色安山岩3-②(第73図、PL.27)剥片2点の折断資料である。II80(剥片)+II78(剥片)
- 黒色安山岩3-③ 剥片2点の折断資料である。カクラン153(剥片)+II75(剥片)非実測
- 黒色安山岩3-④(第73図、PL.27)剥片の折断資料である。II208(剥片)+II209(剥片)
- 黒色安山岩3(第65・67・73図、PL.22・23・27)非接合資料は、石核1点、石刃1点、剥片25点の計27点がある。II6、II47、II60、II66、II68、II72、II83、II85、II95、II125、II127、II132、II133、II135、II136、II141、II142、II150(石核)、II155、II196(石刃)、II198、II254、II303、II306、II309、II313、III35
- 黒色安山岩4(第74図、PL.27)色調は灰オリーブ6/2(Hue7.5Y)。1例3点の接合資料と1点の非接合資料の計4点がある。
- 黒色安山岩4-①(第74図、PL.27)剥片3点の接合資料である。II193(剥片)→II192(剥片)→II191(剥片)
- 黒色安山岩4(第74図、PL.27)非接合の剥片1点がある。II253
- 黒色安山岩5(第74図、PL.27)色調は灰5/1(Hue10Y)でかなり黒い。自然面はやや平滑で、爪状痕は少ない。接合資料1例2点、非接合資料2点の計4点である。
- 黒色安山岩5-①(第74図、PL.27)石刃1点、剥片1点の接合資料である。II104(剥片)→II102(石刃)
- 黒色安山岩5(第74図、PL.27)非接合の剥片2点がある。II210、II304
- 黒色安山岩6 非接合資料の剥片2点である。I8(剥片)、I11(剥片)
- 黒色安山岩には単独母岩として4点(第62・74図、PL.20・27)がある。II98(剥片)、II266(ナイフ形石器)、II219(剥片)、II307(剥片)
- 黒色安山岩には分類不能な剥片74点、碎片64点の計138点がある。
- 黒色頁岩は出土点数94点のうち、接合資料は12例41点である。
- 黒色頁岩1(第75・76図、PL.28・29)接合資料7例26点、非接合資料25点の計51点からなる。
- 黒色頁岩1-①(第75図、PL.27)ナイフ形石器1点、石刃1点、石核1点、剥片7点の計10点の接合資料である。II49(剥片)→II225(剥片)→II48(剥片)→II55(剥片)→II62(剥片)→II65(剥片)→II106(石刃)→II27(ナイフ形石器)→II58(剥片)→II3(石核)
- 黒色頁岩1-②(第75図、PL.28)石刃1点、石核1点、剥片3点の計5点からなる接合資料である。II105(剥片)→II38(石刃)→II14(剥片)→II103(剥片)→II305(石核)
- 黒色頁岩1-③(第76図、PL.28)剥片3点の接合資料である。II57(剥片)→II50(剥片)→II7(剥片)
- 黒色頁岩1-④(第76図、PL.28)石刃の折断資料である。II148(石刃)+II248(剥片)
- 黒色頁岩1-⑤(第76図、PL.28)石刃2点の接合資料である。II131(石刃)→II128(石刃)
- 黒色頁岩1-⑥(第76図、PL.28)剥片2点の接合資料である。II99(剥片)+II30(剥片)
- 黒色頁岩1-⑦ 剥片2点の折断資料である。II222(剥片)+II18(剥片)非実測
- 黒色頁岩1(第63～65・76図、PL.21・22・28・29)非接合資料の石刃3点と剥片22点の計25点がある。II8、II31、II39、II40、II43、II45(石刃)、II51、II53、II69、II86、II90、II92、II140、II154、II159(石刃)、II160、II182、II199、II226、II227、II233、II234、II271、II297(石刃)、III101
- 黒色頁岩2(第77図、PL.29)接合資料が1例4点、非接合資料が3点、計7点からなる。
- 黒色頁岩2-①(第77図、PL.29)剥片4点の接合資料である。II28(剥片)→II23(剥片)→II42(剥片)→II41(剥片)

黒色頁岩2(第66図、PL.23)非接合資料として、石核1点、剥片2点の計3点がある。II91、II108(石核)、II231  
黒色頁岩3(第77図、PL.29)1例4点の接合資料である。

黒色頁岩3-①(第77図、PL.29)敲石の4点の接合資料である。II282(剥片)→II221(剥片)→II130(敲石)←II279(剥片)  
黒色頁岩4(第78図、PL.29)2例5点の接合資料と石刃1点、剥片2点の計8点がある

黒色頁岩4-①(第78図、PL.29)剥片3点の折断資料である。表土146(剥片)+II207(剥片)+II152(剥片)

黒色頁岩4-②(第78図、PL.29)剥片2点の接合資料である。II153(剥片)→II175(剥片)

黒色頁岩4(第64・78図、PL.22・29)非接合資料として石刃1点と剥片2点がある。II250(石刃)、II310、III45

黒色頁岩5(第78図、PL.29)1例2点の接合資料である。

黒色頁岩5-①(第78図、PL.29)剥片2点の接合資料である。II287(剥片)→III46(剥片)

黒色頁岩5非接合資料はなし。

黒色頁岩6(第67・78図、PL.23・29)石核1点、剥片7点の計8点がある。II178、II215(石核)、II263、II264、II270、II285、II311、III63

黒色頁岩(第62・64・65・67図、PL.20~22・24)単独の母岩として彫器1点、石刃4点、石核1点、剥片1点の計7点  
がある。I7(剥片)、II34(石刃)、II158(石刃)、II291(石刃)、II308(石刃)、III121(石核)、III123(彫器)

黒色頁岩には分類不能な剥片7点がある。II61、II101、II122、II190、II224、II230、II278

黒曜石は接合資料1例3点、非接合資料3点の計6点からなる。

黒曜石1(第79図、PL.29)半透明だが、透明度は高い。斑状・筋状の模様を含む。接合資料は1例3点である。

黒曜石1-①(第79図、PL.29)剥片2点と石核1点の計3点の接合資料である。II292(剥片)→II298(石核)→II295(剥片)

黒曜石1(第79図、PL.29)同じ母岩別資料で、剥片2点の非接合資料である。I10(剥片)、II293(剥片)

黒曜石の分類不能資料(第62図、PL.20)ナイフ形石器1点である。II327(ナイフ形石器)

チャート単独母岩とし剥片2点がある。II13(剥片)、II77(剥片)

珪質頁岩(第62・66・78図、PL.20・23・29)単独母岩として3点がある。II189(石核)、II328(ナイフ形石器)、II302(剥片)

(5) 剥片剥離技術

裏面に原石面を残す分割礫の周縁から表裏両面の中心に向かって剥片を剥離している資料も存在するが、礫の一端を打ち欠いて打面を作り出し、そこから主に縦長の剥片を剥離する事例も多い。石材も黒色安山岩と黒色頁岩のどちらもを選択しており、両側に打面を設定する場合もある。

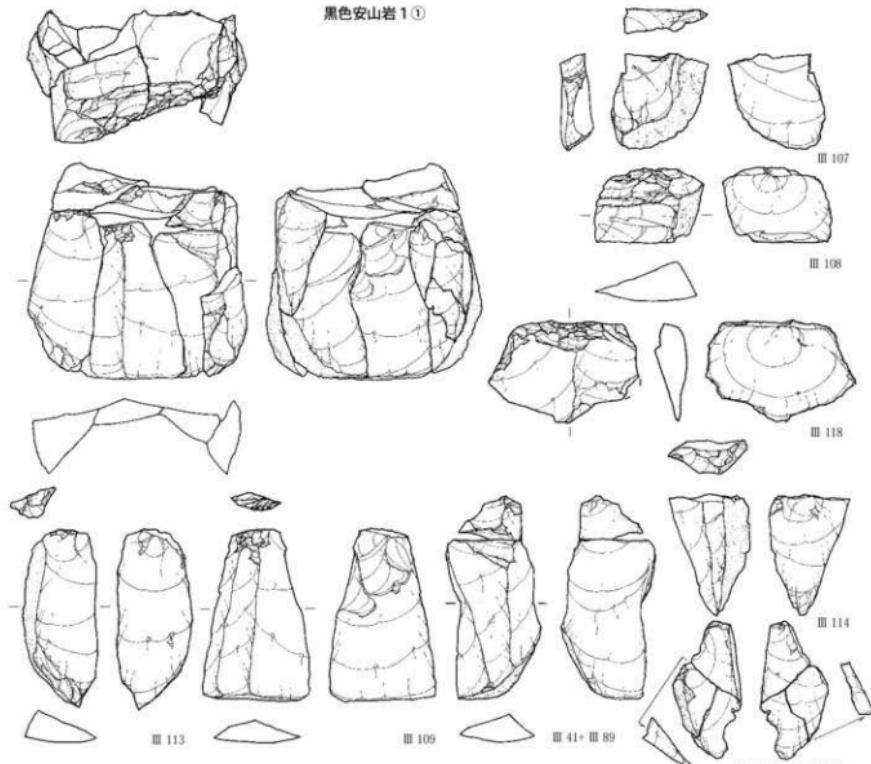
(6) 分布状況(第80・218図、PL.18-4・5、19)

ここで第3文化層とした石器群は、調査時に2時期あるものとされていたが、接合資料や母岩分類の結果を踏まえ、整理段階で同一文化層としたものである。調査区西の試掘が粗く若干不安だが、台地東側から遺跡地の北側に入り込んだ開析谷に沿って、石器ブロックは弧状分布したことができる。2号ブロックに最も密に石器が分布したほか、5号・7号ブロックの分布も比較的密度が濃い。第3文化層は南北方向に約60m・東西方向に約16mに弧状分布しており、このような分布状況は利根郡みなかみ町の後田遺跡や同町善上遺跡など、群馬I期後半期からII期前半期の石器群に特徴的である。

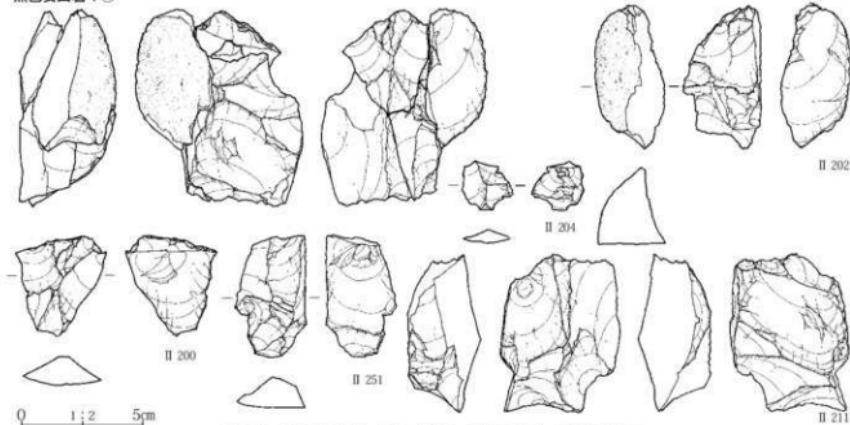
(7) 石器の分布(第81・82図)

ナイフ形石器は、1点(II-27)を除いて4点中3点がブロック外にある。これに対して、石刃とされたものはブロック内の大半は出土しているが、母岩レベルで単独とされたもの4点は半数がブロック内、半数がブロック外の出土である。彫器として器種認定されたもの2点が2号ブロックに出土しているが、これ以外の削器類についても石器ブロックの周辺部にあり、特徴的である。なお、8号ブロックには粗粒輝石安山岩製の亜円礫・角礫が直線的に並んだ(第80図を参照)地点が確認されている。被熱剥落した礫片や黒く変色している礫があり、礫群に似た特徴がある。礫は大型で平均重量1720gを測る。

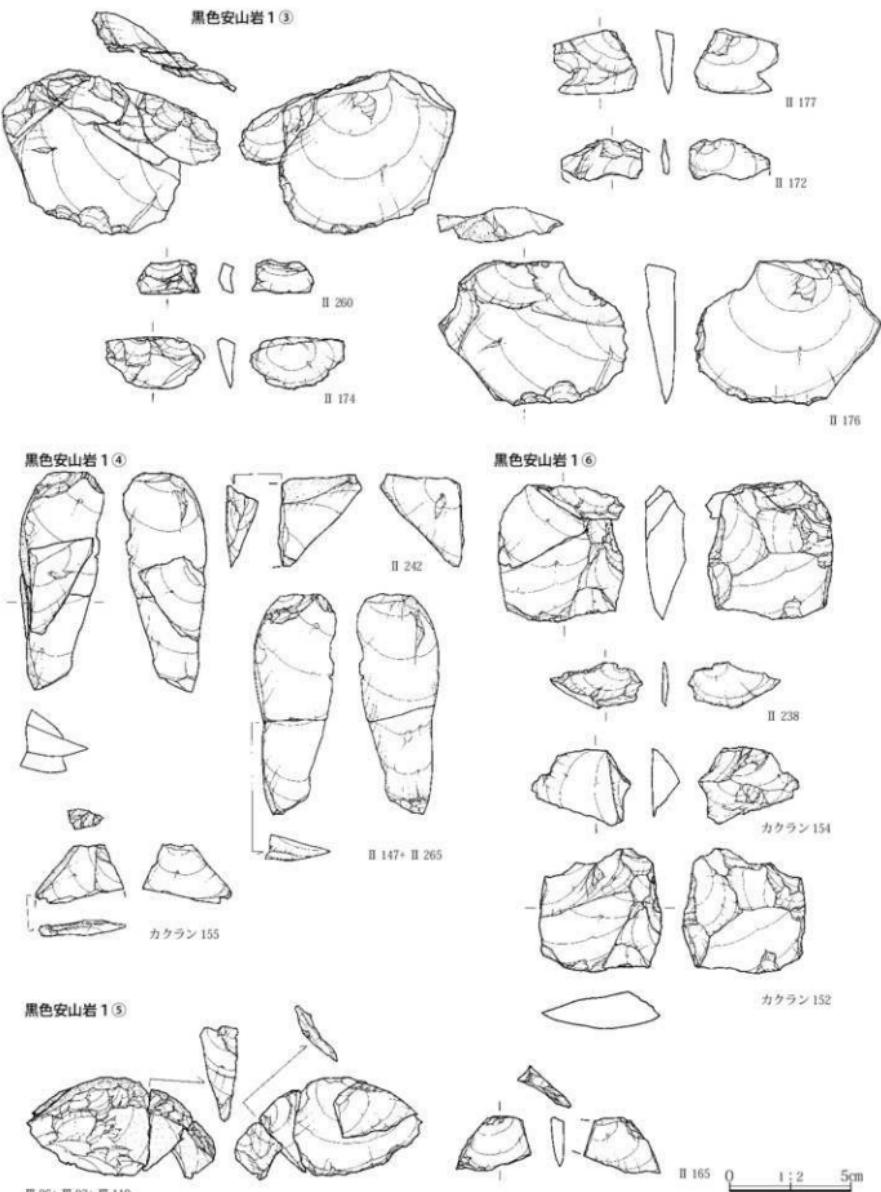
黒色安山岩 ①



黒色安山岩 ②



第69図 上泉武田遺跡 第3文化層 母岩別資料・接合資料(1)

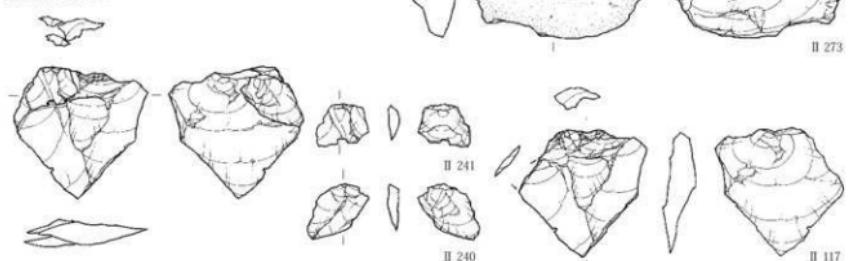


第70図 上泉武田遺跡 第3文化層 母岩別資料・接合資料(2)

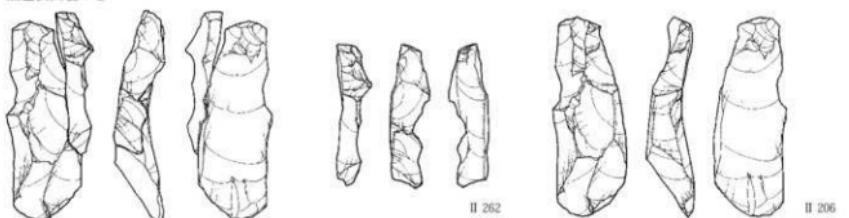
第3章 各遺跡の遺構・遺物  
黒色安山岩 1⑦



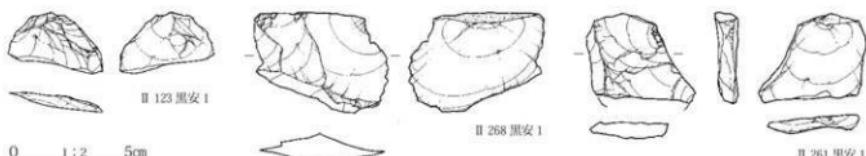
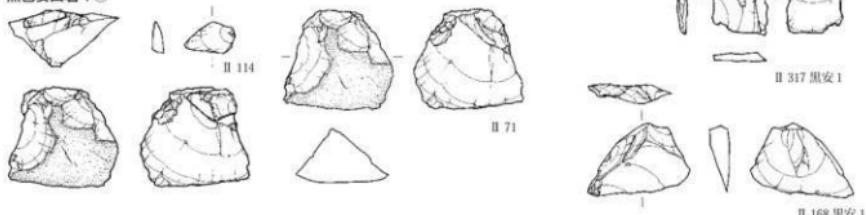
黒色安山岩 1⑩



黒色安山岩 1⑫

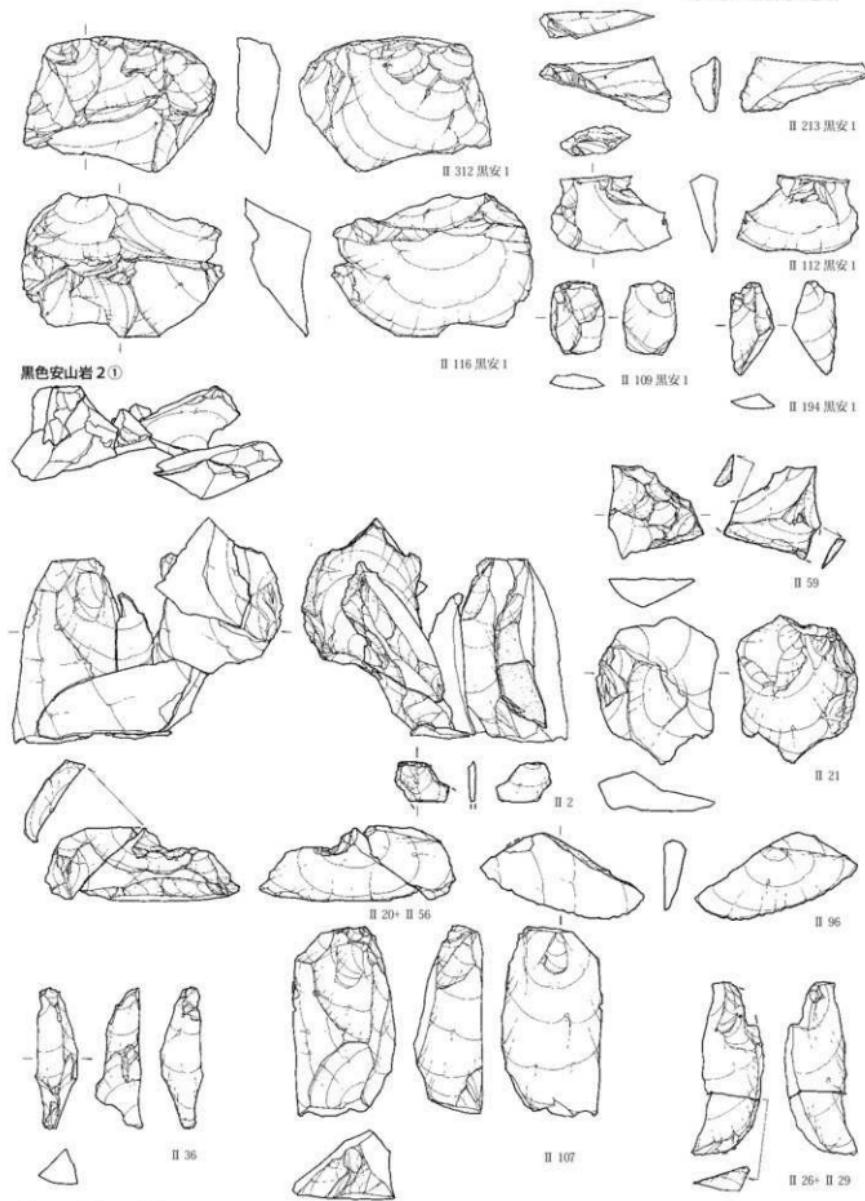


黒色安山岩 1⑯



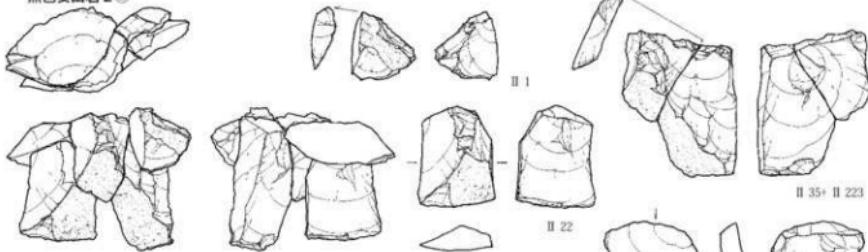
0 1:2 5cm

第71図 上泉武田遺跡 第3文化層 母岩別資料・接合資料(3)

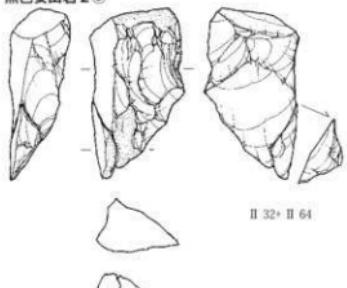


第72図 上泉武田遺跡 第3文化層 母岩別資料・接合資料(4)

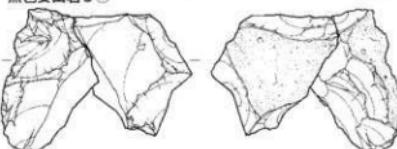
黒色安山岩 2②



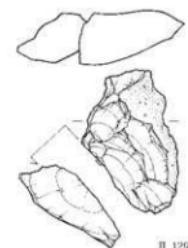
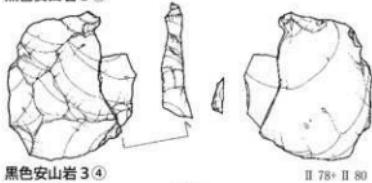
黒色安山岩 2③



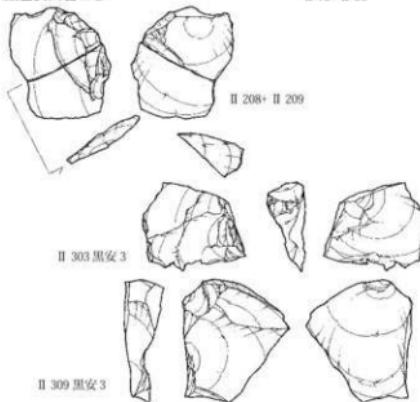
黒色安山岩 3①



黒色安山岩 3②

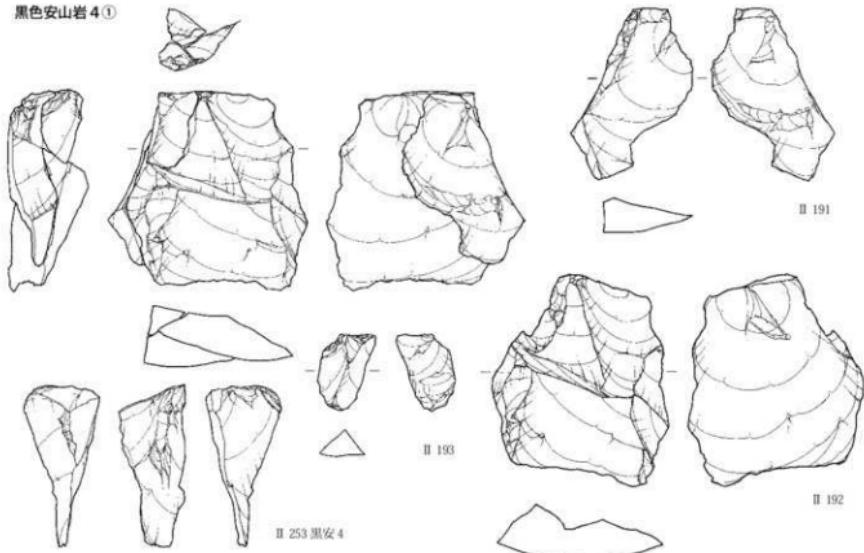


黒色安山岩 3④

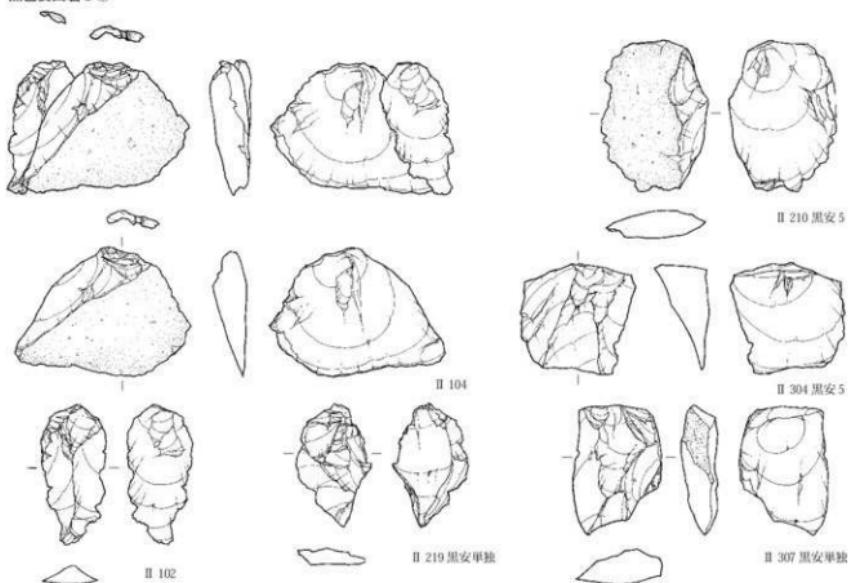


0 1:2 5cm 第73図 上泉武田遺跡 第3文化層 母岩別資料・接合資料(5)

## 黒色安山岩 4①



## 黒色安山岩 5①



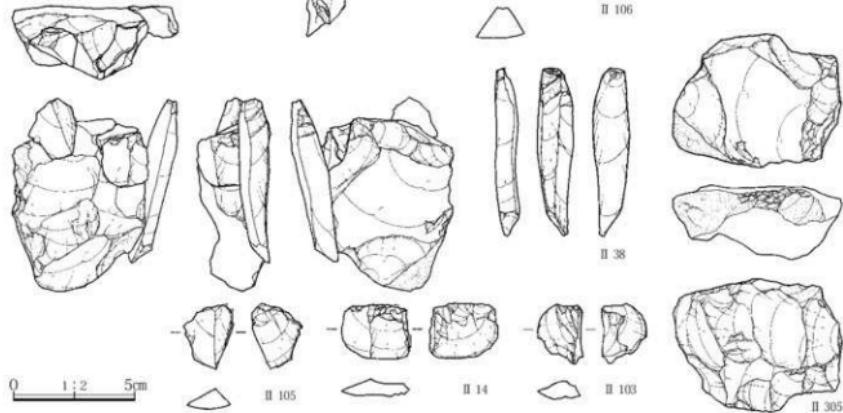
第74図 上泉武田遺跡 第3文化層 母岩別資料・接合資料(6)

0 1 2 5cm  
1:2

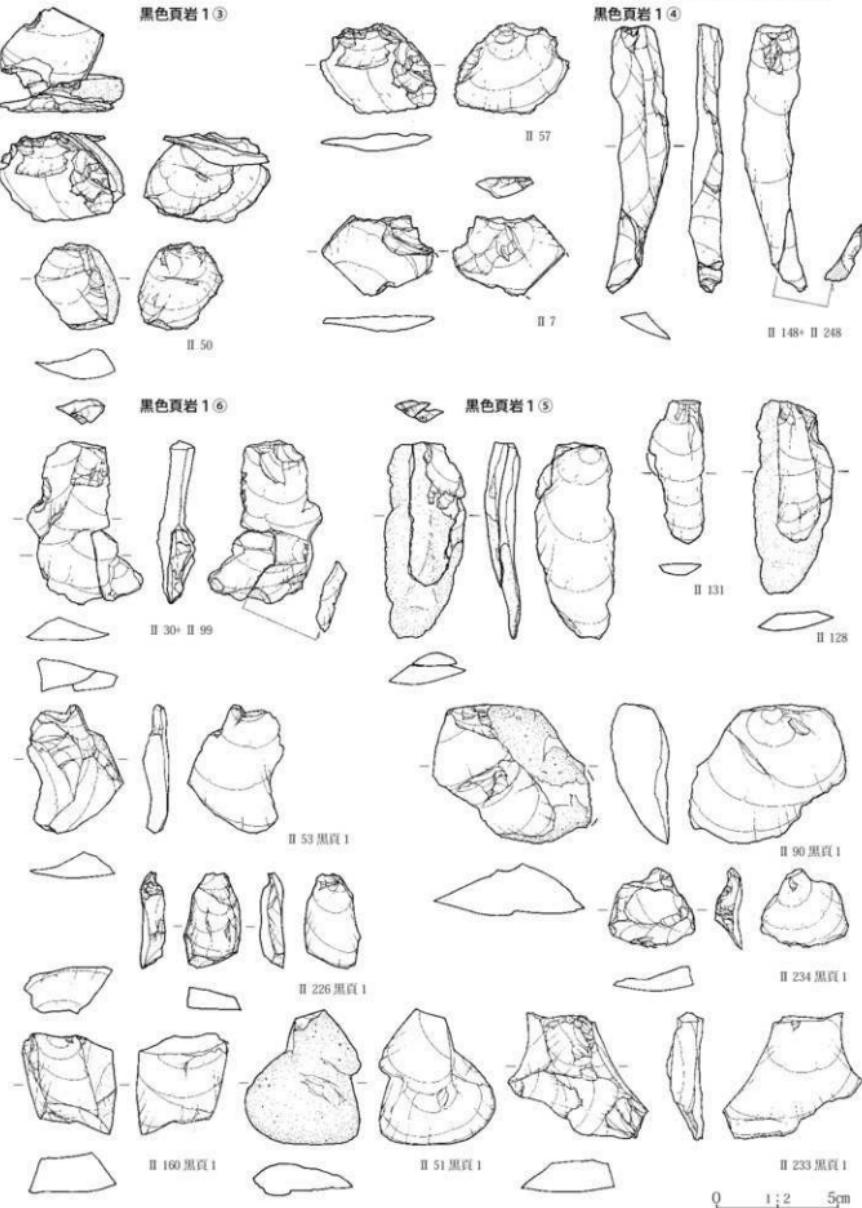
黒色頁岩 ①



黒色頁岩 ②



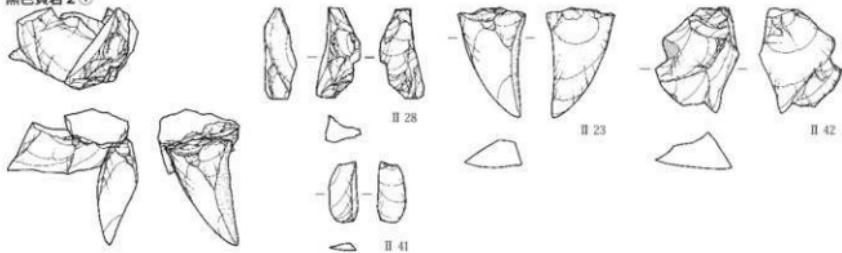
第75図 上泉武田遺跡 第3文化層 母岩別資料・接合資料(7)



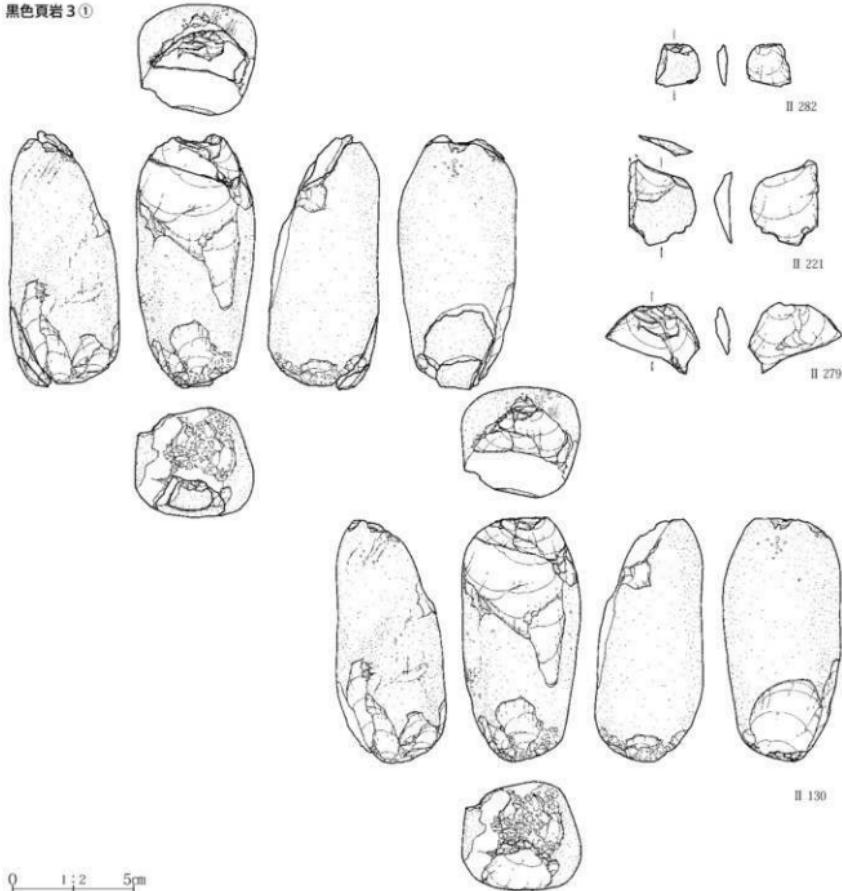
第76図 上泉武田遺跡 第3文化層 母岩別資料・接合資料(8)

第3章 各遺跡の遺構・遺物

黒色頁岩2①

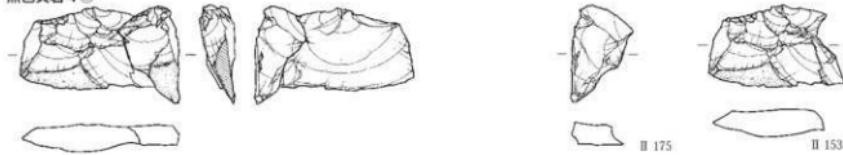


黒色頁岩3①

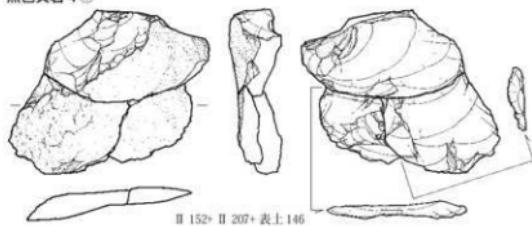


第77図 上泉武田遺跡 第3文化層 母岩別資料・接合資料(9)

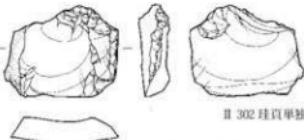
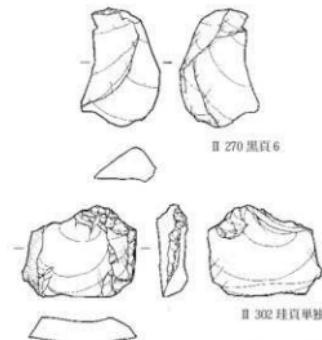
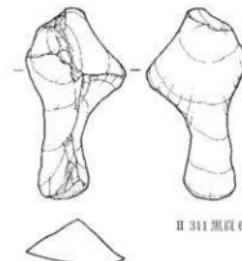
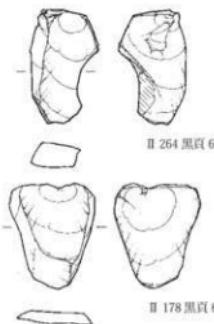
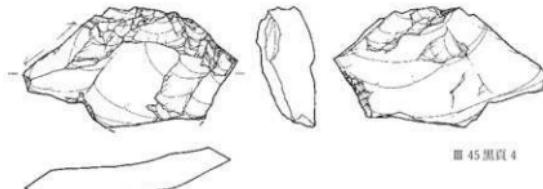
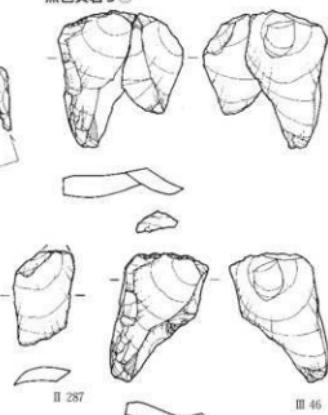
黒色頁岩 4②



黒色頁岩 4①

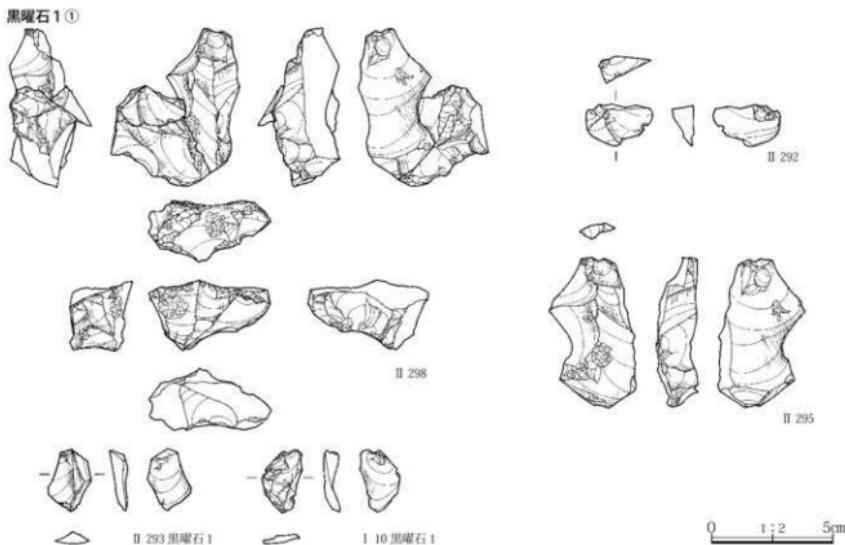


黒色頁岩 5①



0 1:2 5cm

第78図 上泉武田遺跡 第3文化層 母岩別資料・接合資料(10)



第79図 上泉武田遺跡 第3文化層 母岩別資料・接合資料(11)

## (8)石材の分布(第83図)

黒色安山岩については2号ブロックに集中、同一母岩が他のブロックに分布する。同様な傾向は黒色頁岩にもあり、7号ブロックに密に分布、周辺ブロックに少量が分布した。このほか、黒曜石が9号ブロックに集中した。

## (9)接合資料の分布(第84～86図)

接合資料が多いのは2号ブロックと7号ブロックである。接合資料は同一ブロック内で完結している事例が多いものの、ブロック間をまたぐ資料が、2号ブロックと3号ブロック、2号ブロックと5号ブロック、3号ブロックと5号ブロックと6号ブロック、4号ブロックと5号ブロック、6号ブロックと7号ブロックと8号ブロックのそれぞれの間で接合する。

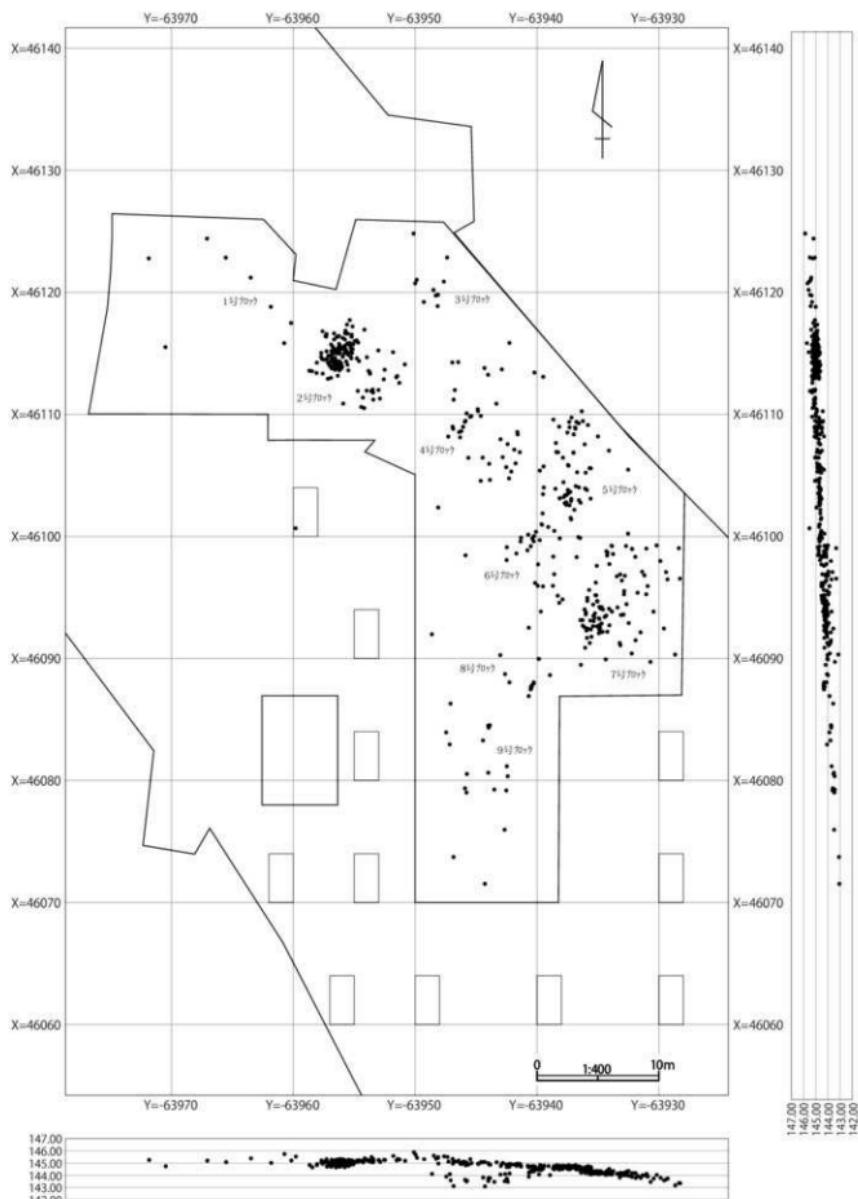
出土層位や石器組成、主要な石器の様子から、群馬II期前半期と考えられる。

## 6 その他(第87図, PL.72・73)

結晶片岩類は、第3文化層で26点確認されている。第6ブロックのすぐ北西に位置する雲母石英片岩1点を除いて、雲母石英片岩18点と黒色片岩7点は、第6ブロックの南西、第8ブロックの北西に集中して分布する。

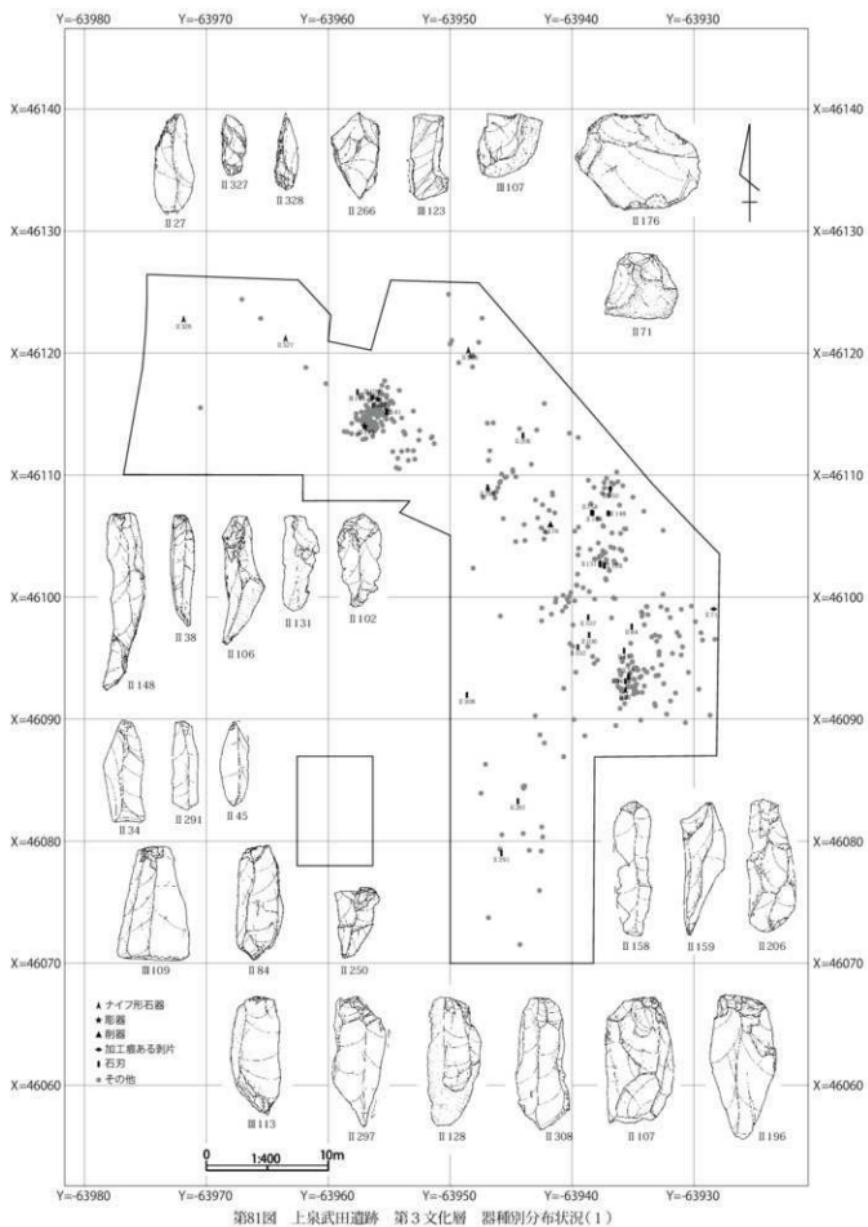
雲母石英片岩 II171、III2、III6、III7、III8、III9、III10、III11、III12、III13、III16、III17、III122、J17-128、II9-129、J1-130、1サン4、1サン7、1サン8。

黒色片岩 III3、III5、III14、III15、1サン3、1サン5、1サン6



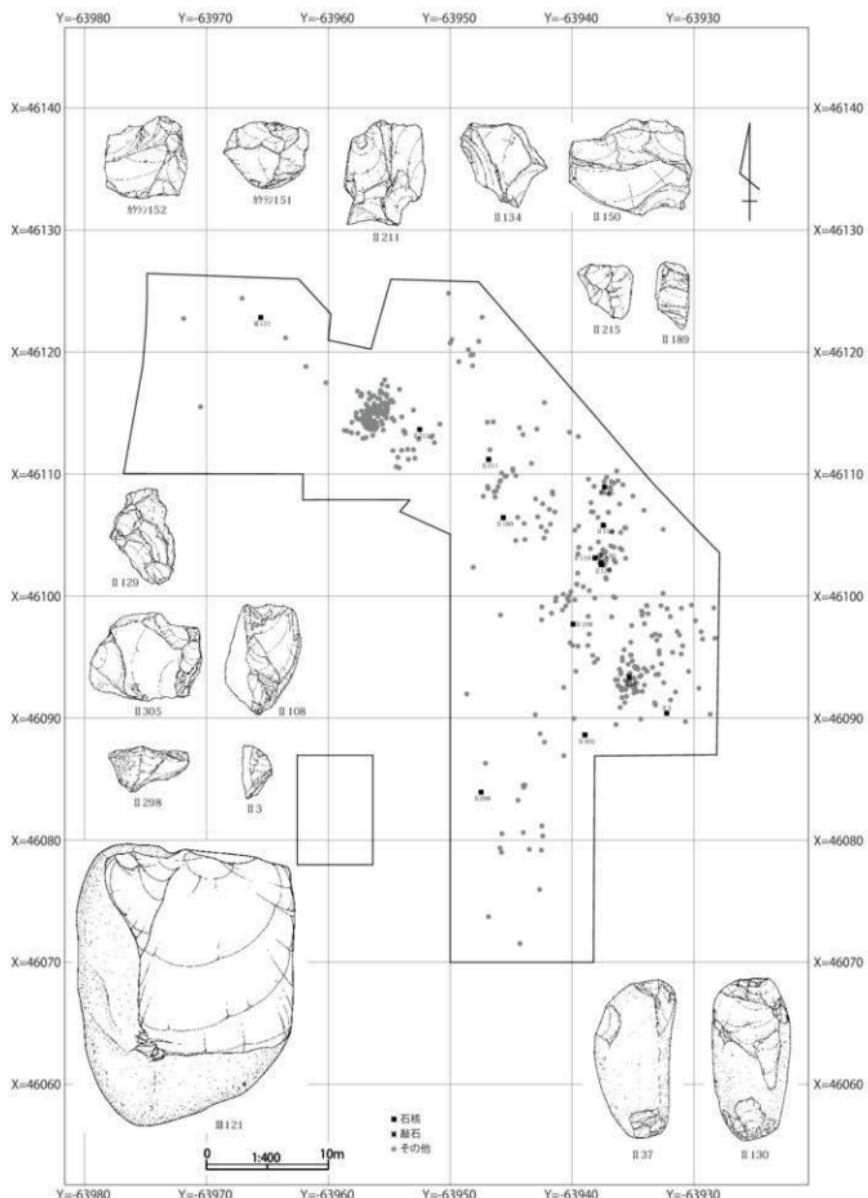
第80図 上泉武田遺跡 第3文化層 石器分布・垂直分布状況

第3章 各遺跡の遺構・遺物

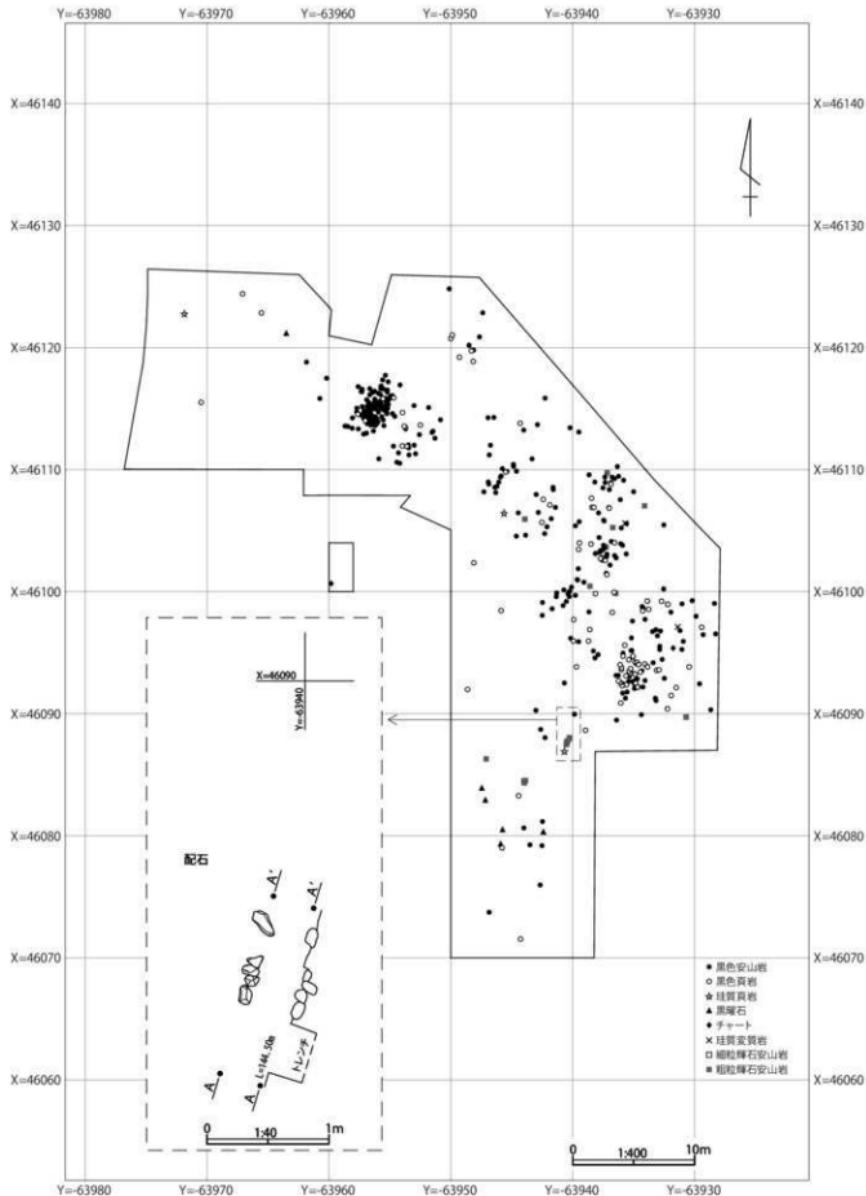


第81図 上泉武田遺跡 第3文化層 器種別分布状況(1)

第3節 上泉武田遺跡

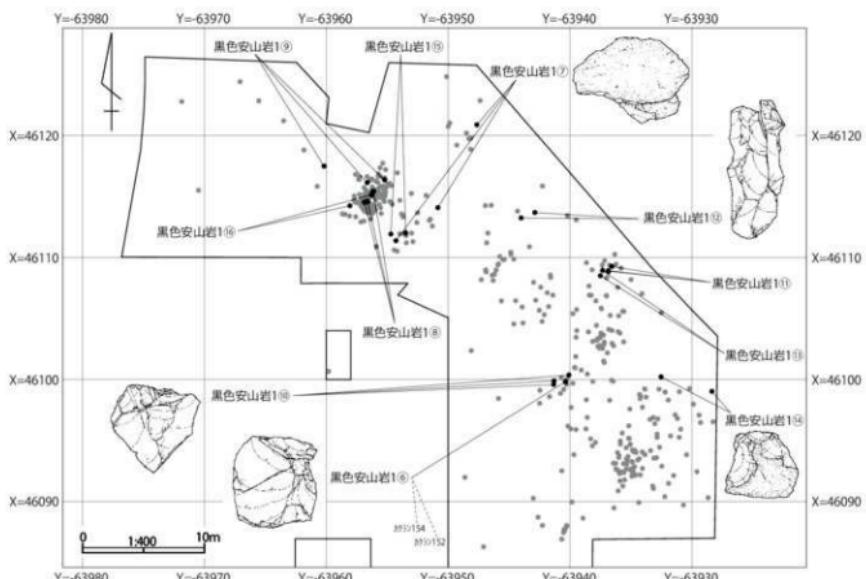
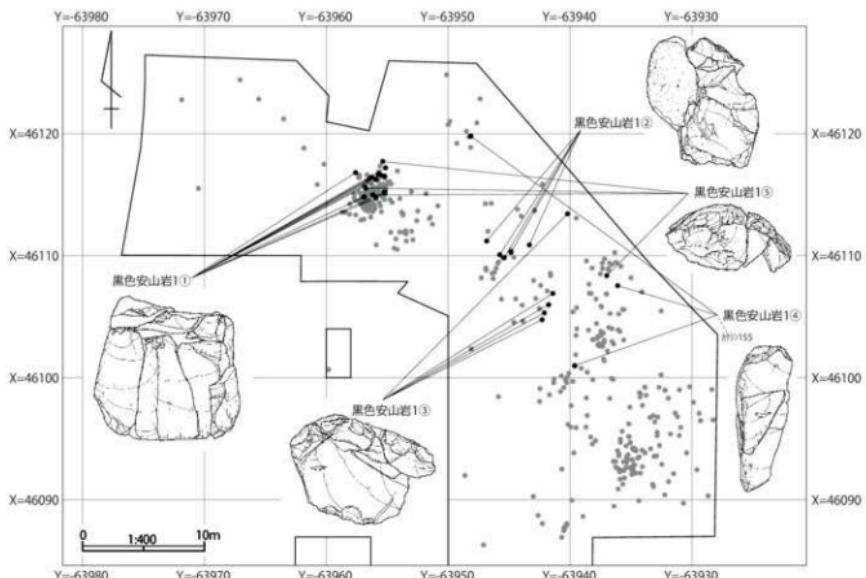


第3章 各遺跡の遺構・遺物



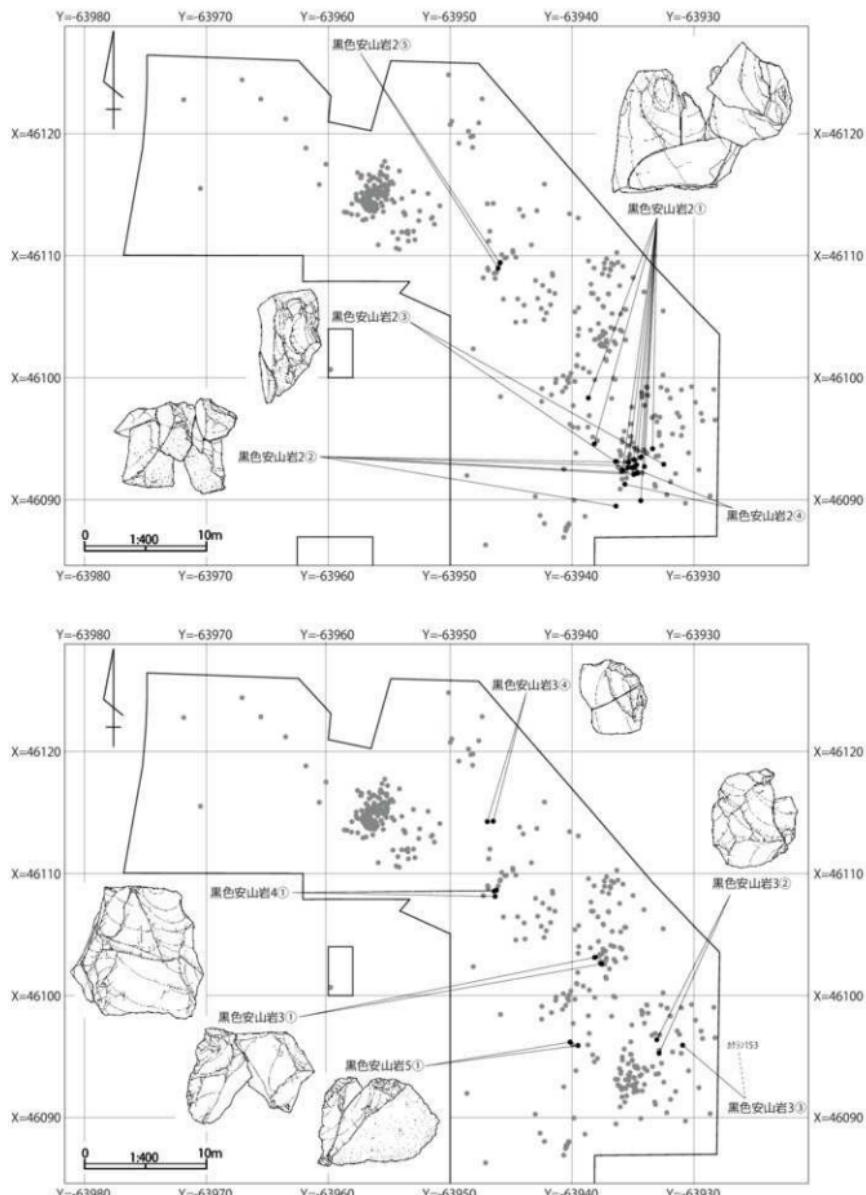
第83図 上泉武田遺跡 第3文化層 石材別分布・配石状況

第3節 上泉武田遺跡



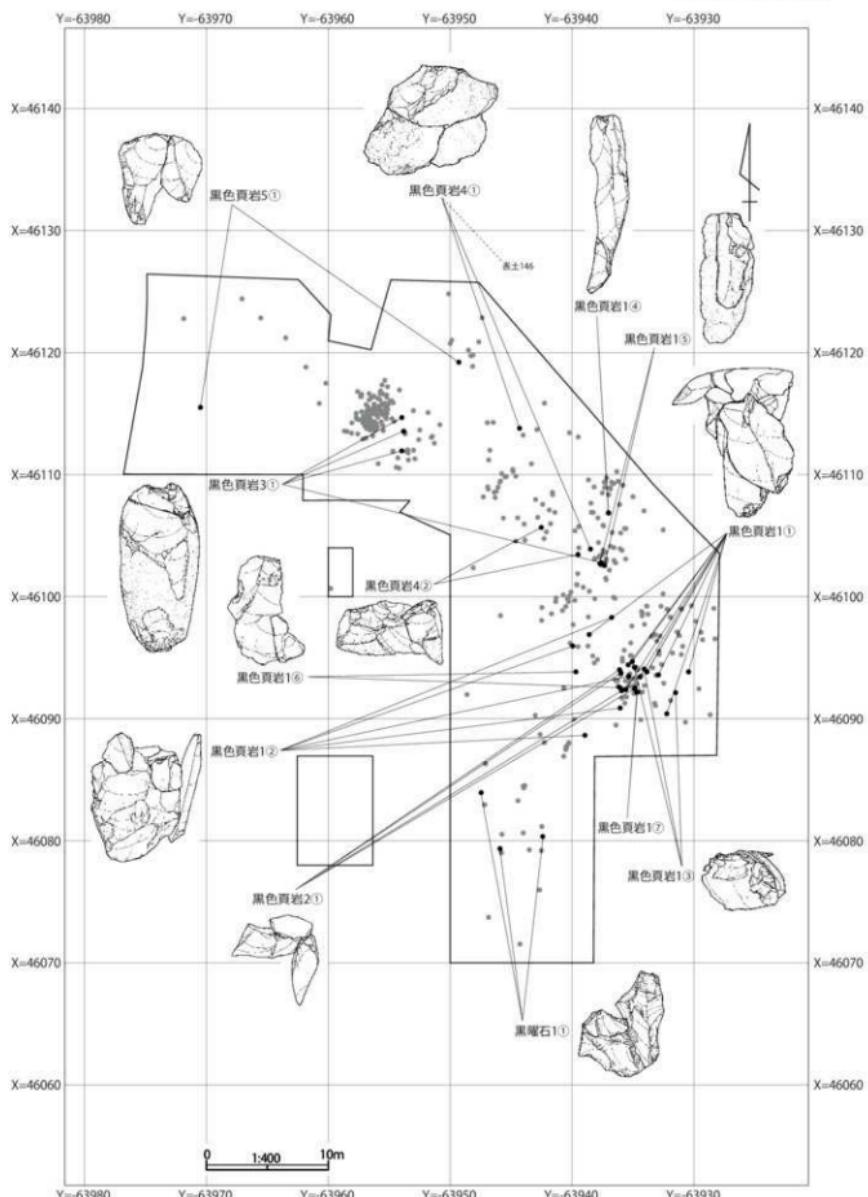
第84図 上泉武田遺跡 第3文化層 接合資料の分布状況(1)

第3章 各遺跡の遺構・遺物

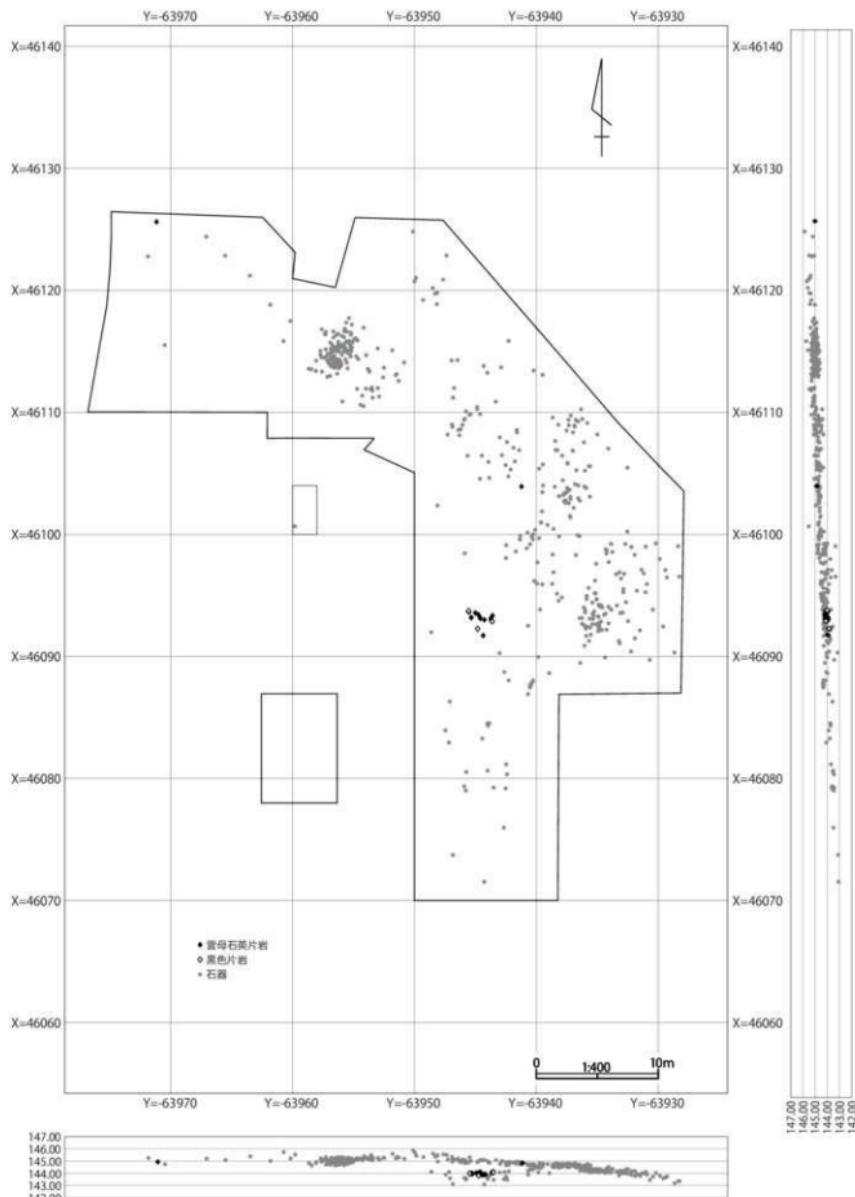


第85図 土泉武田遺跡 第3文化層 接合資料の分布状況(2)

第3節 上泉武田遺跡



第86図 上泉武田遺跡 第3文化層 接合資料の分布状況(3)



第87図 上泉武田遺跡 第3文化層 結晶片岩の分布状況

## 第4節 五代砂留遺跡群

### 1 遺跡の概要

五代砂留遺跡群(JK55)は、五代川と天神川に挟まれた南北に細長い台地上に位置する。石器群は6地点で確認されている。このうち集中度の高い地点が3ヶ所にあり、特に調査区西の台地縁辺(拡張5区)に集中分布した。残る2地点は調査区東の台地縁辺(拡張5区)と台地中央付近(拡張3区)にあり、それぞれ単独の石器ブロックとして確認されている。

### 2 調査の経過

五代砂留遺跡群では、平成19年度の発掘調査でトレンチから遺物の存在が確認された地点を順次拡張したために、拡張1区(33区)、拡張3区(32区)、拡張5区(21区)、拡張6区(34区)、拡張7区(33・34区)と呼称し、さらに複数の遺物が出土した拡張7区を第1地点、拡張3区を第2地点、拡張5区を第3地点と呼称した。調査地点が多いことから、出土した石器の登録番号で「拡張」を「K」と表記した。つまり、「拡張1区」は「K1」となり、注記も同様である。

このうちの5ヶ所に遺物の出土地点があり、それぞれの遺物の出土層位は拡張6区と拡張3区が浅間大窪沢第1軽石(As-Ok1)下位、拡張1区が浅間板暮褐色輕石(As-BP)の下位、拡張5区と拡張7区が暗色帶中であった。

なお、本遺跡の旧石器時代の構造・遺物に関する記載は下記に報告されているが、本報告を最終内容とする。

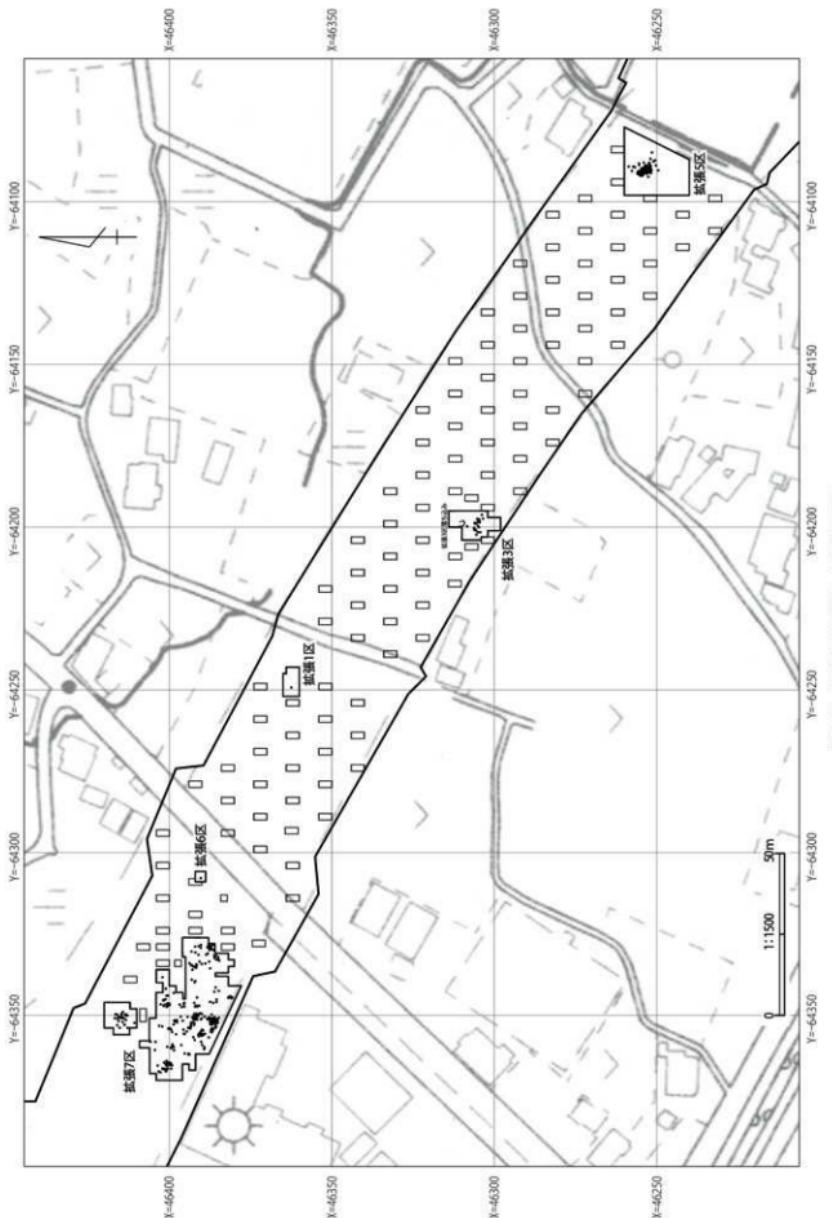
①『年報』27(平成19年度事業概要) 2008 財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団

②『財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団』WEB 19年11月～20年2月、3月

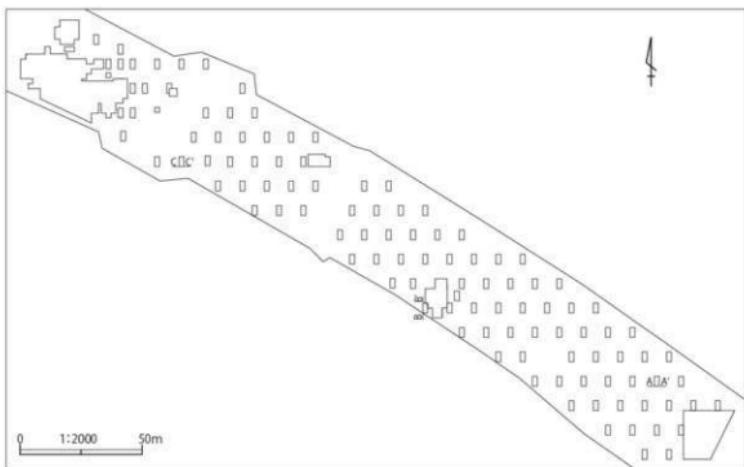
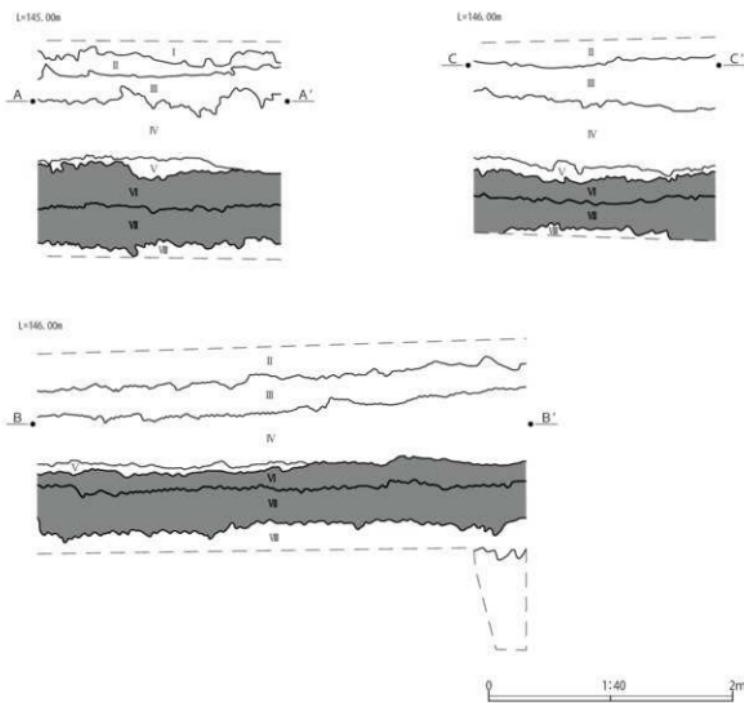
第88図は、上武道路が通過する赤城山南東麓のローム台地の基本土層であるが、本遺跡で確認されているのは、このうちのⅠ層～X層である。



第88図 五代砂留遺跡群の文化層



第89圖 五代砂留遺跡群 石器分布狀況



第90圖 五代砂留遺跡群 土層堆積狀況

### 3 第1文化層

第1文化層は、拡張6区と拡張3区で検出された。

#### <第6拡張区>(第89・92図)

### (1) 出土層位

基本土層のⅢ層を中心にⅣ層にかけて出土した。テフラとの関係では浅間板鼻黄色輕石(As-YP、約13,000年前)より下位で、浅間大窪沢第1輕石(As-Ok1、約17,000年前)までの間である。

## (2) 檢出遺構

石器の出土以外には、明確な遺構は検出されなかつた。

### (3) 出土遺物

第1文化層の石器は、槍先形尖頭器1点のみである。

槍先形尖頭器(第91図、K6-1、PL32)先端側両辺に素材面を残す他、平坦剥離を加えて石器を作出する。縱長剥片の打面側を尖頭器基部側に用い、周辺加工して器体を完成させている。先端側右辺は表裏面ともそのまま素材のエッジが残されているように図示されているが、背面側のエッジにはトリミング様の薄い剥離痕が連続している。尖頭器基部側の右辺は加工途中の破損であり、石器先端中央に縱位の衝撃剥離痕がある。この石器は原産地分析の結果、星ヶ塔産と想定された(第5章第3節参照)。

<第3拡張区>(第89・95~98図、Pl.31-4)

### (1) 出土層位

基本土層のⅢ層を中心にしてⅣ層にかけて出土している。テフラとの関係では浅間板鼻黄色軽石(As-YP、約13,000年前)より下位で、浅間大窪沢第1軽石(As-0k1、約17,000年前)から浅間板鼻褐色軽石(As-BP、約19,000～24,000年前)までの間である。

### (2) 检出遗漏

石器の集中地点のすぐ北側で、落ち込みを1ヶ所検出した。(第93図、PL.31-3) 残念ながら、存在を確認できた時点では、深堀トレンチによって北側半分が掘削されてしまっていた。本来の掘り込み面ははっきりしないが、実際に確認できたのはIV層上面であることから、群馬IV期に想定される。

### (3) 出土遺物

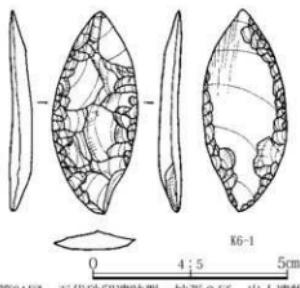
出土した石器の総点数は22点で、内訳はナイフ形石器2点(9.1%)、楔形石器1点(4.5%)、加工痕ある剥片1点(4.5%)、剥片15点(68.3%)、碎片2点(9.1%)、石核1点(4.5%)である。石器の主な石材は黒曜石が14点(63.6%)と多く、残りは黒色安山岩8点(36.4%)である(第13表参照)。黒曜石は原産地分析の結果、小深沢産と想定された(第5章第3節参照)。

次に、出土した石器を種類ごとに見ていくこととする。

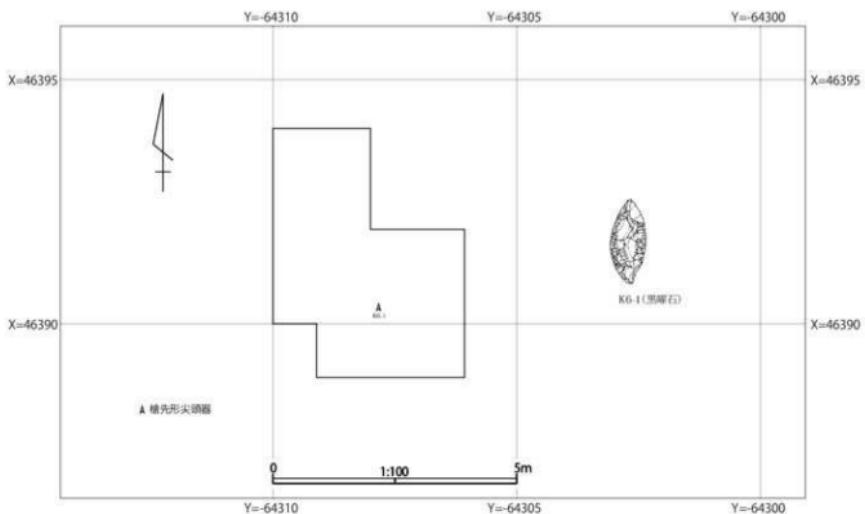
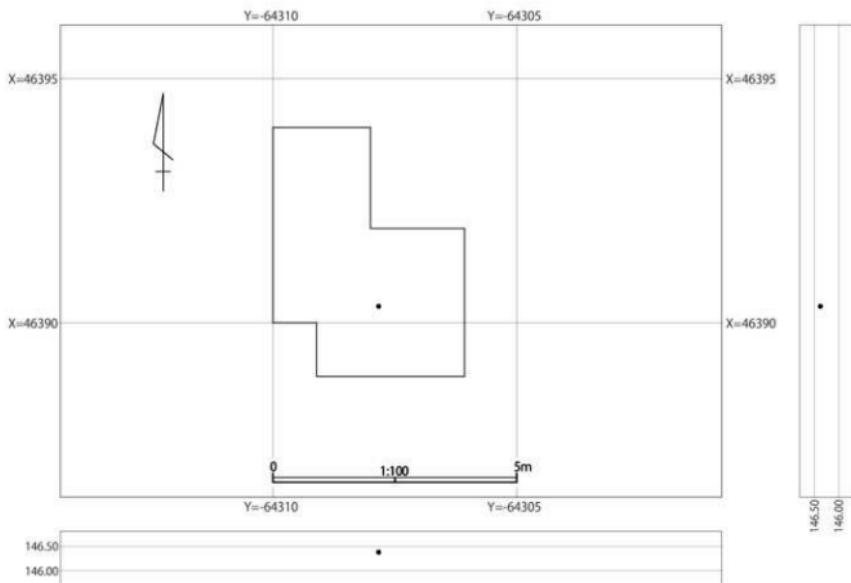
**ナイフ形石器**(第95図、K3-7・K3-6、PL.32)総数2点が出土している。K3-7は横長剥片を素材とし、一側縁の先端部寄りと、もう一側縁の基部寄りに裏面からそれぞれ鋭角な調整を施している。形状は斜刃状である。石材は黒曜石である。K3-6は横長剥片を素材とし、一側縁の先端部寄りと、もう一側縁の基部寄りに裏面からそれぞれ鋭角な調整を施している。形状は斜刃状である。石材は黒曜石である。

楔形石器(第95図、K3-28、PL.32)1点が出土している。原石面を打面とする石刃、あるいは縦長剥片を折断した頭部部分であり、その両側縁に細かな調整を表裏面に加えている。石材は墨晶石である。

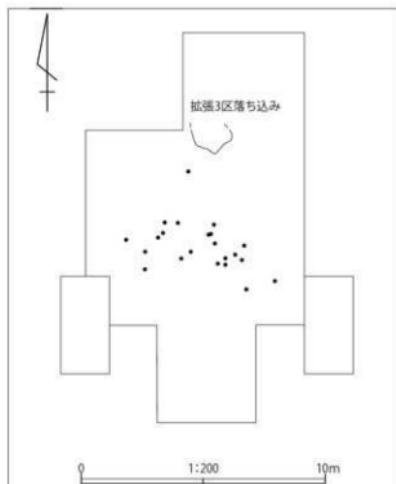
加工痕ある剥片(第94図、K3-15、PL.32)1点が出土している。肉厚な縦長剥片を素材とし、一側縁に加工を加えている。石材は黒色安山岩である。



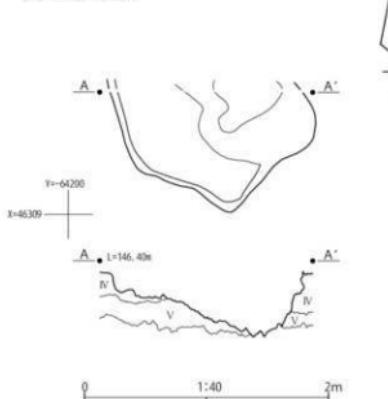
第91圖 五代砂留遺跡群 挖掘長區 出土遺物



第92図 五代砂留遺跡群 拡張6区 石器分布・垂直分布・器種別分布状況



拡張3区落ち込み



第93図 五代砂留遺跡群 拡張3区落ち込み

石核(第94図、K3-19、PL.32)1点が出土している。ほぼ立方体の全面に剥離痕が残されており、小形の剥片類を剥ぎ取った最終形態と考えられる。石材は黒曜石である。

この他に、多数の剥片や碎片が出土しているが、図化・資料化しているのは主に接合資料に含まれる資料だけである(第94図)。石材は黒曜石を中心とし、黒色安山岩である。

#### (4)母岩別資料・接合資料(第94図、PL.32)

23点中、接合資料が3例9点を占める。

黒曜石1(第94図、PL.32)出土点数14点のうち、接合資料は3例9点(64.3%)が確認されている。

黒曜石1-①(第94図、PL.32)原石面を打面とする。柱状礫・角稜部の接合資料。楔形石器1点と石核1点、剥片3点の計5点からなる。K3-28(楔形石器)→K3-26(剥片)→K3-17(剥片)+K3-22(剥片)→K3-19(石核)

黒曜石1-②(第94図、PL.32)横長剥片を素材とし、剥離の際、打点への衝撃で縦方向に折断した剥片の資料である。

K3-2(剥片)+K3-12(剥片)

黒曜石1-③(第94図、PL.32)原石面を打面とし、剥離の際、打点への衝撃で縦方向に折断した剥片の資料である。

K3-21(剥片)→K3-8(剥片)

黒曜石1(第94図、PL.32)単独資料では、ナイフ形石器2点、剥片2点、碎片1点の計5点である。K3-6(ナイフ形石器)、K3-7(ナイフ形石器)、K3-13(剥片)、K3-20(剥片)、K3-14(碎片)

黒色安山岩(第94図、PL.32)加工痕ある剥片1点、剥片7点の計8点がある。

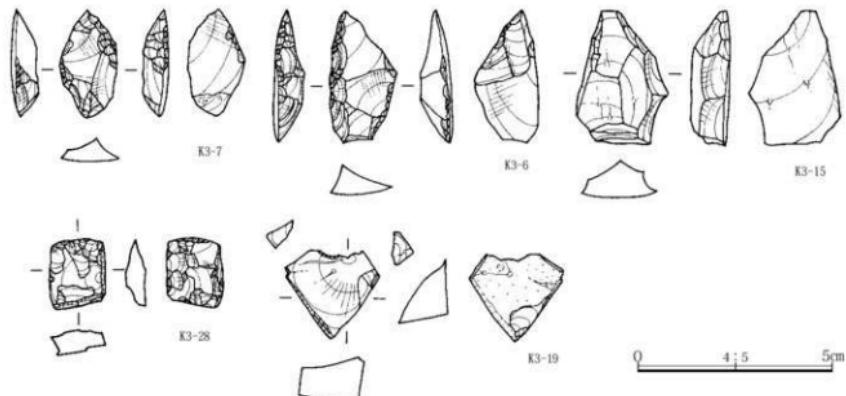
黒色安山岩7(第94図、PL.32)加工痕ある剥片1点、剥片2点がある。K3-10(剥片)、K3-15(加工痕ある剥片)、K3-18(剥片)

黒色安山岩8 剥片2点がある。K3-16(剥片)、K3-24(剥片)

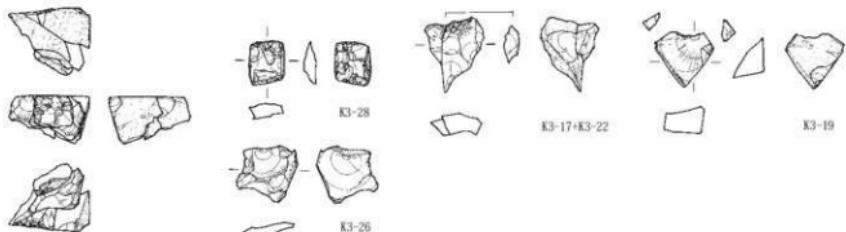
黒色安山岩には分類不能な剥片3点がある。K3-11(剥片)、K3-23(剥片)、K3-25(剥片)

第13表 五代砂留遺跡群 第1文化層 拡張3・6区組成表

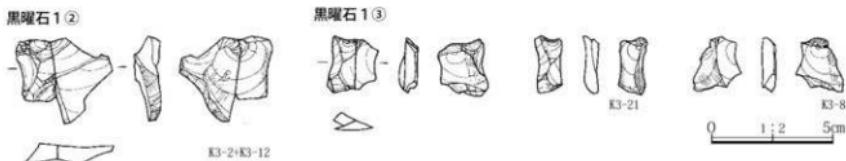
	槍先形尖頭器	ナイフ	楔形石器	加工痕	石核	剥片	碎片	総計
黒色安山岩				1		6	1	8
黒曜石	1	2	1		1	9	1	15
総計	1	2	1	1	1	15	2	23



## 黒曜石①



## 黒曜石②



第94図 五代砂留遺跡群 拡張3区 出土遺物

## (5) 剥片剥離技術

柱状礫を素材とする石核を用い、原石面から小型剥片を連続剥離する。石核消費の最終段階に相当する接合資料である。

## (6) 分布状況(第95図)

長軸約6m、短軸約4mの範囲に、やや疎らに分布する。

## (7) 石器の分布(第96図)

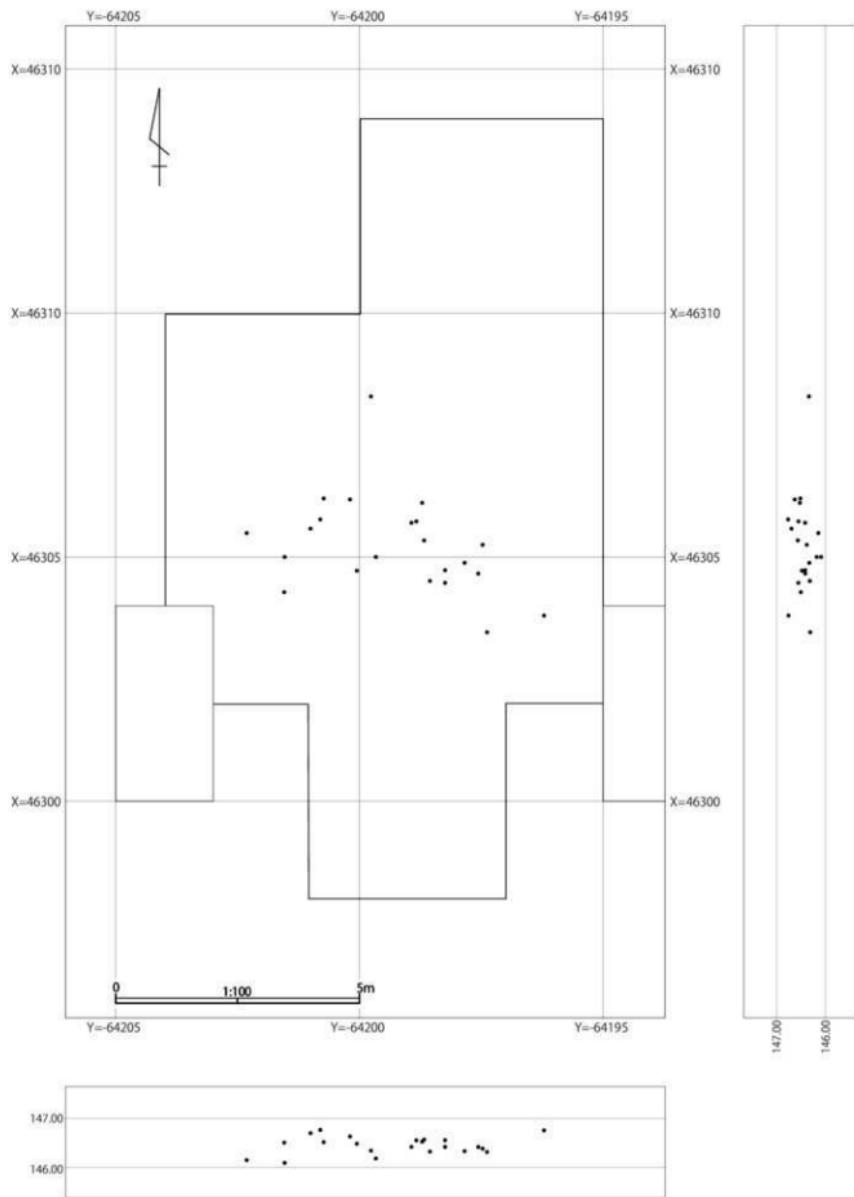
ナイフ形石器や楔形石器などの主要な利器が多く、分布も周縁に偏在する。

## (8) 石材の分布(第97図)

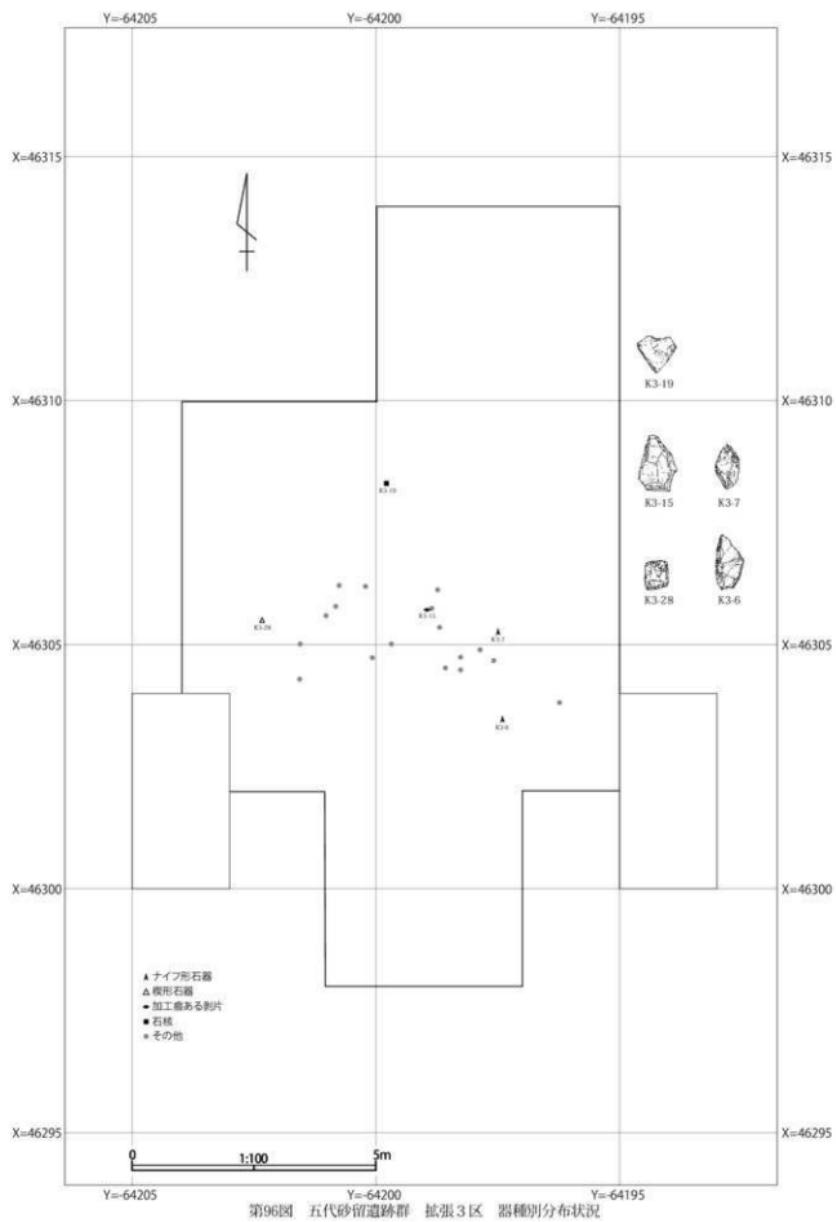
黒曜石・黒色安山岩とも散漫に分布しており、特に分布傾向は指摘できない。

## (9) 接合資料の分布(第98図)

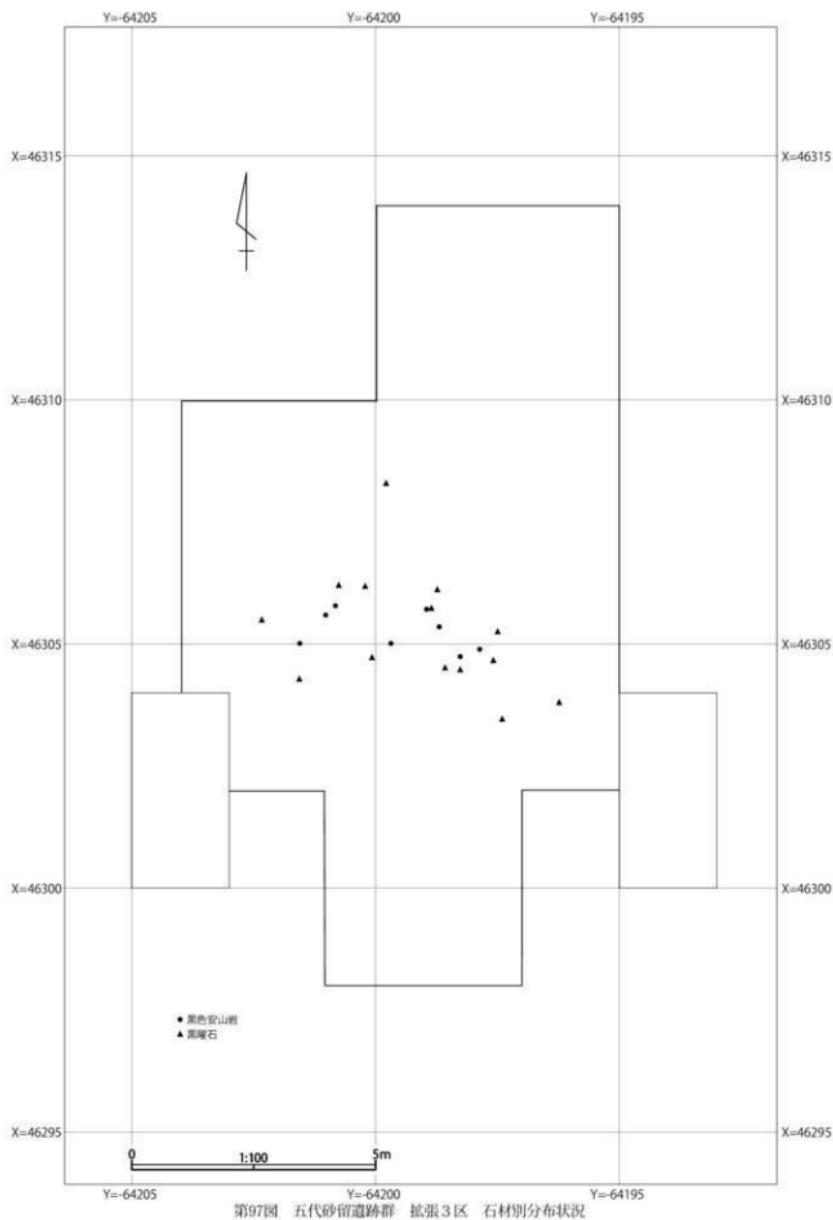
接合剥片類の分布は散漫で、現状で特に剥離地点等を想定することはできない。出土層位や石器組成などから、群馬IV期と想定される。

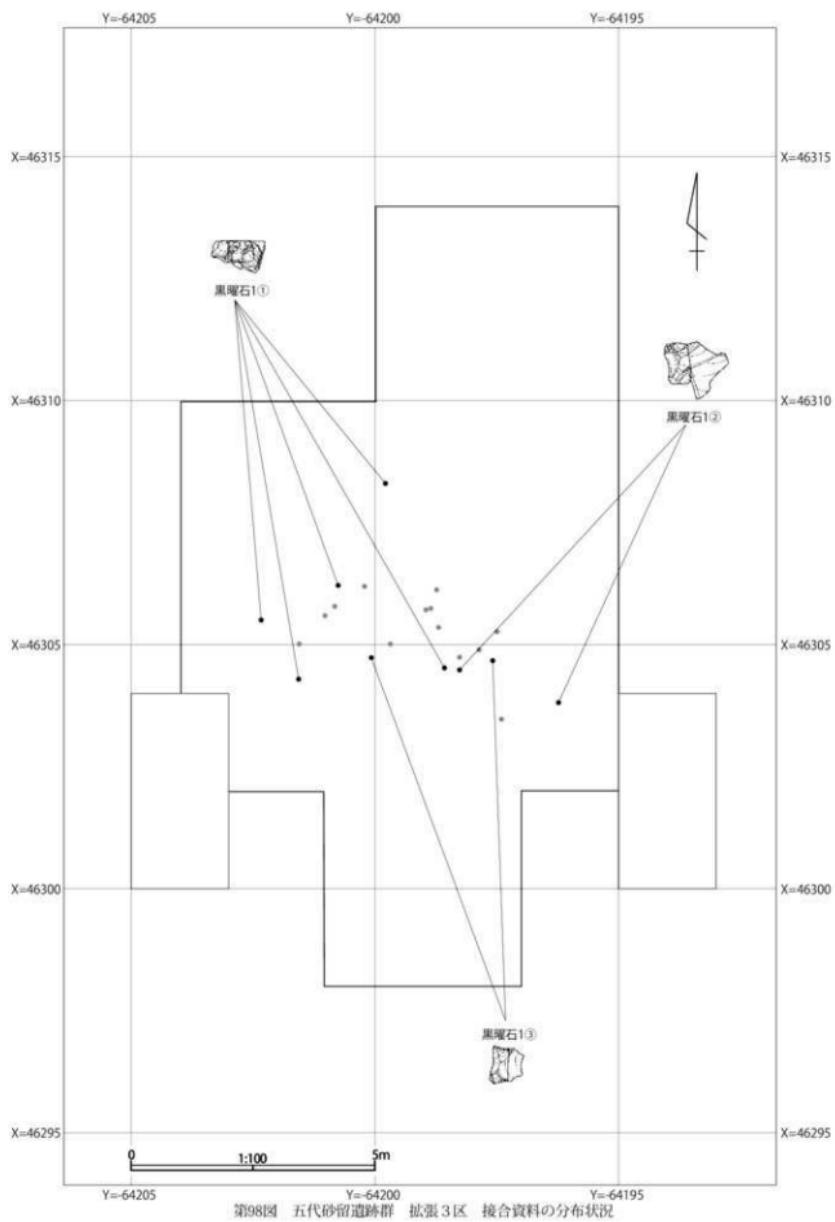


第95図 五代砂留遺跡群 拡張3区 石器分布・垂直分布状況



第96図 五代砂留遺跡群 挖張3区 器種別分布状況





第98図 五代砂留遺跡群 抜張3区 接合資料の分布状況

## 4 第2文化層

## &lt;拡張1区(33区)&gt;(第89・99図)

## (1)出土層位

基本土層のV層を中心にIV層からVI層にかけて出土している。テフラとの関係では浅間板鼻褐色軽石(As-BP、約19,000～24,000年前)より下位で、暗色帶(AT、約28,000年前)までの間である。

## (2)検出遺構

石器の出土以外には、明確な遺構は検出されなかった。

## (3)出土遺物

出土した石器の総点数は1点である。内訳は剥片1点(100%)で、石材は黒色安山岩である(第14表参照)。

## (4)母岩別資料・接合資料

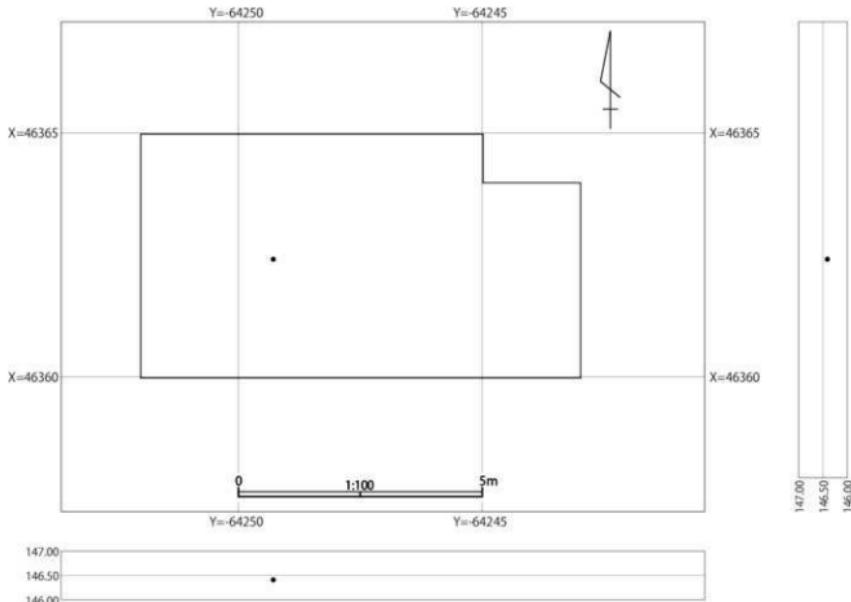
拡張1区からは確認されなかった。

## (5)分布状況(第99図)

剥片のみ1点(KI-1)の単独出土である。図化はしていない。出土層位から、群馬Ⅲ期に位置付けられる。

第14表 五代砂留遺跡群 第2文化層 拡張1区組成表

	剥片	総計
黒色安山岩	1	1
總計	1	1
總計	1	4



第99図 五代砂留遺跡群 拡張1区 石器分布・垂直分布状況

## 5 第3文化層

拡張5区(第1地点)と拡張7区(第3地点)の2ヶ所からの出土している。

<拡張5区>(第89・104～106図、PL.31-5・6)

### (1)出土層位

基本土層のVI層を中心にVII層にかけて出土している。テフラとの関係ではAT下位で、暗色帶中である。時期は群馬編年のII期が想定される。

### (2)検出遺構

石器の出土以外には、明確な遺構は検出されなかった。

### (3)出土遺物

第3文化層の石器群は総計124点があり、内訳は石器5点(4.1%)、剥片99点(79.8%)、碎片19点(15.3%)、礫片1点(0.8%)である。石器の器種は、加工痕ある剥片1点(0.8%)、石核4点(3.3%)、剥片99点(80.5%)、碎片19点(15.4%)である。石器の石材は全て黒色安山岩123点(100%)であり、礫片の石材は砂岩1点(100%)である(第15表参照)。

次に、出土した石器を種類ごとに見ていくこととする。

**加工痕ある剥片**(第100図、K5-94、PL.32)や大型の不定形な剥片の一縁の一部にやや大きな加工痕が認められる。

石材は黒色安山岩である。

**石核**(第100図、K5-87・K5-93・K5-96・K5-108、PL.32)4点が出土している。K5-87は裏面の一部に原石面を残す分割礫を素材とし、表面の周縁から中心に向かって連続して剥片剥離する。石材は黒色安山岩である。K5-93は裏面に原石面を残す分割礫を素材とし、表面の周縁から中心に向かって連続して剥片剥離する。石材は黒色安山岩である。K5-96は分割礫、あるいは大形の剥片を素材とし、表裏面の周縁から中心に向かって連続して剥片剥離する。

石材は黒色安山岩である。K5-108はK5-93と同様に裏面に原石面を残す分割礫を素材とし、表面の周縁から中心に向かって連続して剥片剥離する。石材は黒色安山岩である。

この他に、多数の剥片や碎片が出土しているが、図化・資料化しているのは主に接合資料に含まれる資料だけである。(第101～103図、PL.33・34)

第15表 五代砂留遺跡群 第3文化層 拡張5区組成表

	加工痕	石核	剥片	碎片	礫片	総計
黒色安山岩	1	4	99	19	1	123
砂岩					1	1
総計	1	4	99	19	1	124

(4)母岩別資料・接合資料(第101～103図、PL.33・34)

黒色安山岩は、出土点数123点があり、このうち接合資料は8例60点が確認されている。

黒色安山岩9(第101・102図、PL.33)出土点数35点のうち、接合資料は3例29点である。

黒色安山岩9-①(第101図、PL.33)計25点が接合した。個体K5-91(剥片)→K5-88(剥片)→

個体AK5-25(剥片)→K5-37(剥片)→K5-28(剥片)→K5-65(剥片)→K5-34(剥片)→K5-10(剥片)→K5-120(剥片)→K5-70(剥片)→K5-93(石核)→K5-108(石核)→K5-62(剥片)+K5-95(剥片)

K5-69(剥片)→K5-86(剥片)+K5-122(剥片)→(K5-93石核) K5-110(剥片)→K5-26(剥片)→K5-20(剥片)→(K5-93石核) K5-77(剥片)+K5-64(剥片)→K5-58(剥片)+K5-23(剥片)→K5-63(剥片)→(K5-108石核)

黒色安山岩9-②(第102図、PL.33)剥片の折断資料である。K5-45a(剥片)+K5-38(剥片)

黒色安山岩9-③(第102図、PL.33)剥片の折断資料である。K5-17(剥片)+K5-39(剥片)

黒色安山岩9の非接合資料には剥片6点がある。K5-3、K5-40、K5-44、K5-48、K5-85、K5-106

黒色安山岩10(第102・103図、PL.33・34)出土点数25点のうち、接合資料は3例16点である。

黒色安山岩10-①(第102図、PL.33)石核1点と剥片10点の計11点が接合した。K5-18(剥片)→K5-24(剥片)→K5-87(石核)→K5-13(剥片)→K5-19(剥片)→K5-31(剥片)→K5-46(剥片)→K5-112(剥片)→K5-29(剥片)→K5-53(剥片)+K5-79(剥片)

黒色安山岩10-②(第103図、PL.34)剥片の折断資料である。K5-6(剥片)+K5-8(剥片)+K5-90(剥片)

黒色安山岩10-③(第103図、PL.34)剥片の折断資料である。K5-100(剥片)+K5-119(剥片)

黒色安山岩10の非接合資料には剥片9点がある。K5-11、K5-12、K5-50、K5-51、K5-52、K5-102、K5-109、K5-116、K5-117

黒色安山岩11(第103図、PL.34)出土点数22点のうち、接合資料は2例15点がある。

黒色安山岩11-①(第103図、PL.34)石核1点と剥片12点の計13点からなる接合資料。

K5-61→K5-113

↓

K5-4→K5-59→K5-30→K5-27→K5-5→K5-16→K5-32→K5-96(石核)

↑

K5-76→K5-41→K5-1

黒色安山岩11-②(第103図、PL.34)剥片2点接合した。K5-14→K5-21

黒色安山岩11(第100図、PL.32)の非接合資料には、加工痕ある剥片1点、剥片6点の計7点がある。K5-15、K5-35、K5-67、K5-75、K5-82、K5-94(加工痕ある剥片)、K5-111

#### (5) 剥片剥離技術

接合資料や石核の数は少ないものの、裏面に原石面を残す分割礫を素材とし、表裏面の周縁から中心に向かって連続して剥片剥離する技術が中心であり、主要な石材は黒色安山岩である。これは群馬Ⅰ期からⅡ期にかけての特徴的な剥片剥離技術であり、石器組成などからみてもおそらくは群馬Ⅱ期に相当すると考えられる。

#### (6) 分布状況(第104図)

拡張5区の文化層は80点の石器からなる。石器分布は長軸9m・短軸6mの範囲に収まる。集中性の高い範囲は長軸5m・短軸3mほどで、東側に散漫に分布する傾向がある。石核類が集中部の中央付近に分布している。

#### (7) 石器の分布(第105図)

利器としての主要な石器は少なく、数少ない加工痕ある剥片(第100図、K5-94)が中心からやや北寄りにまとまって位置する。

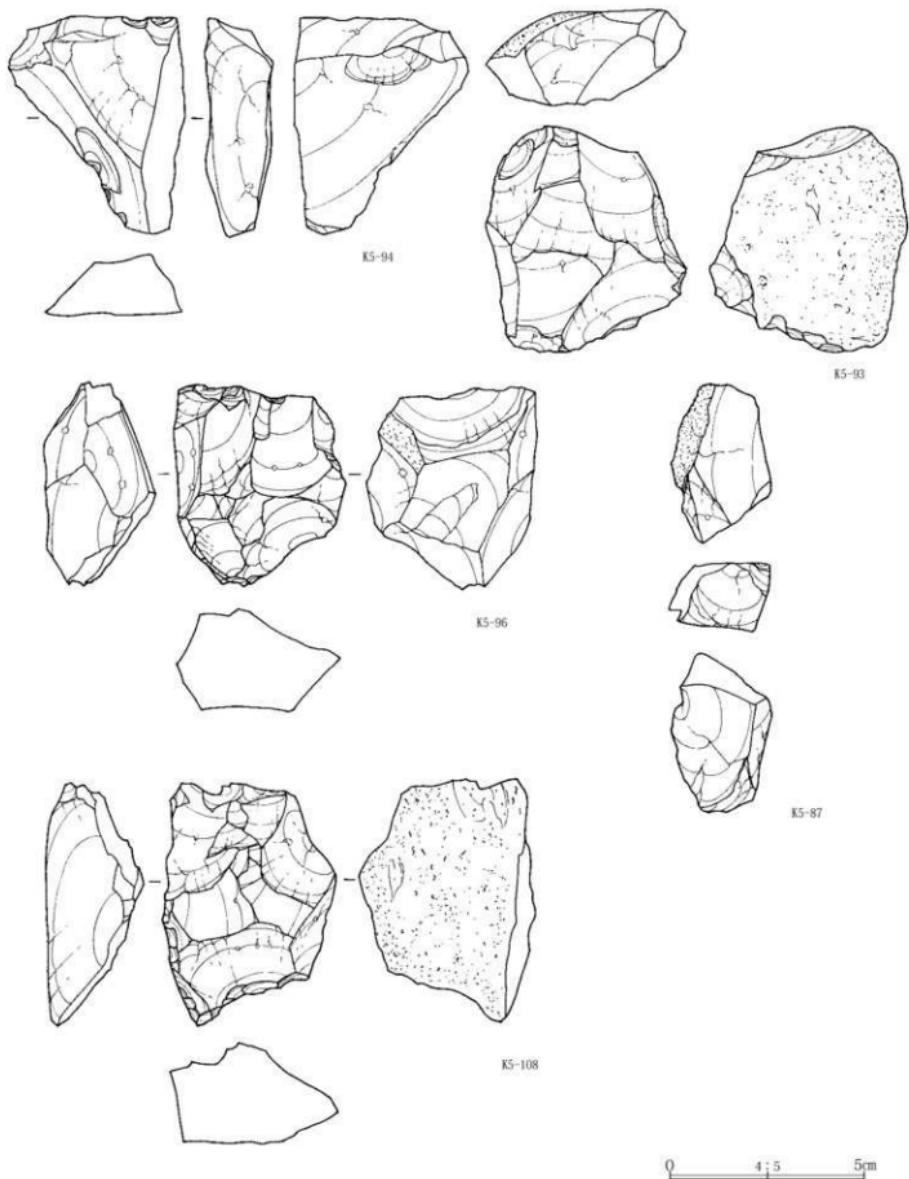
#### (8) 石材の分布(第105図)

黒色安山岩が主体に全域に広がっており、砂岩が北端に位置する。

#### (9) 接合資料の分布(第106図)

同一母岩と考えられる黒色安山岩の接合資料の8例60点を中心に、ブロック全体にほぼ分布している。

出土層位や石器組成などから、群馬Ⅱ期に位置付けられる。

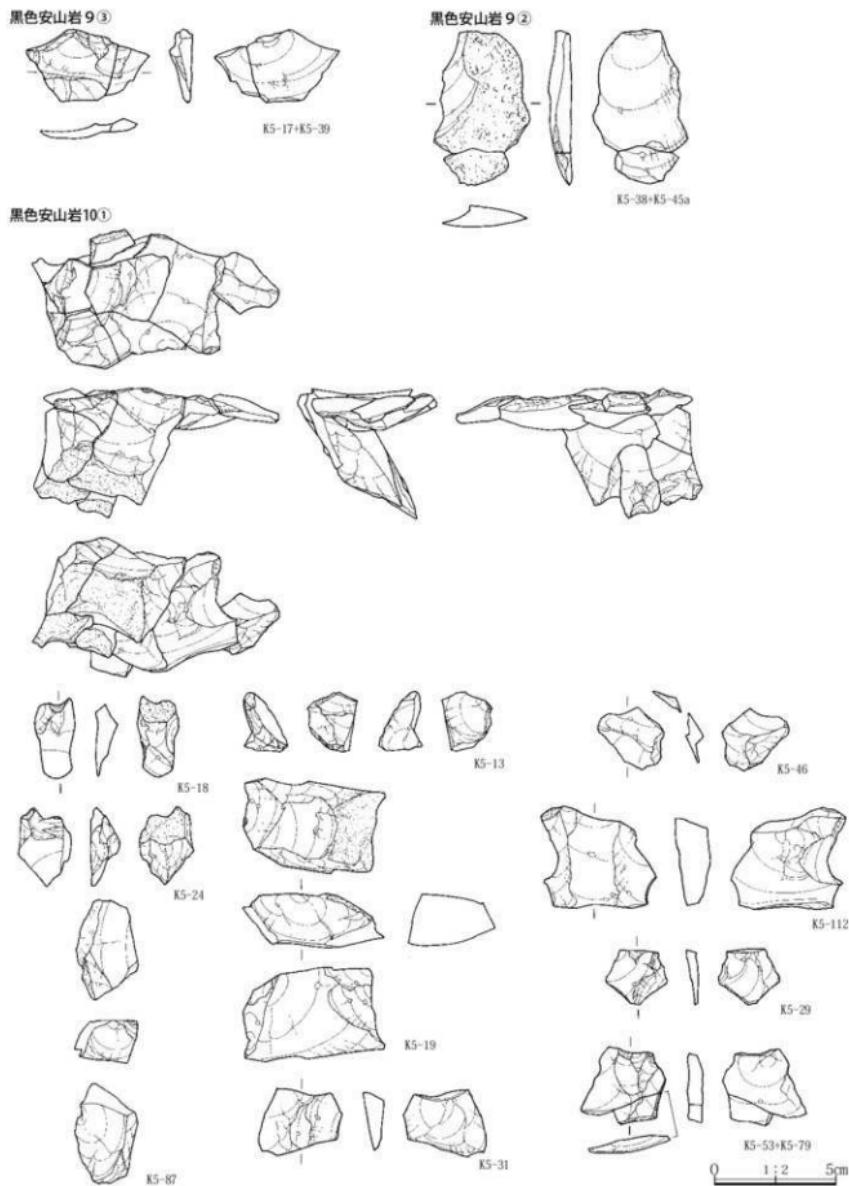


第100圖 五代砂留遺跡群 括張 5 区 出土遺物

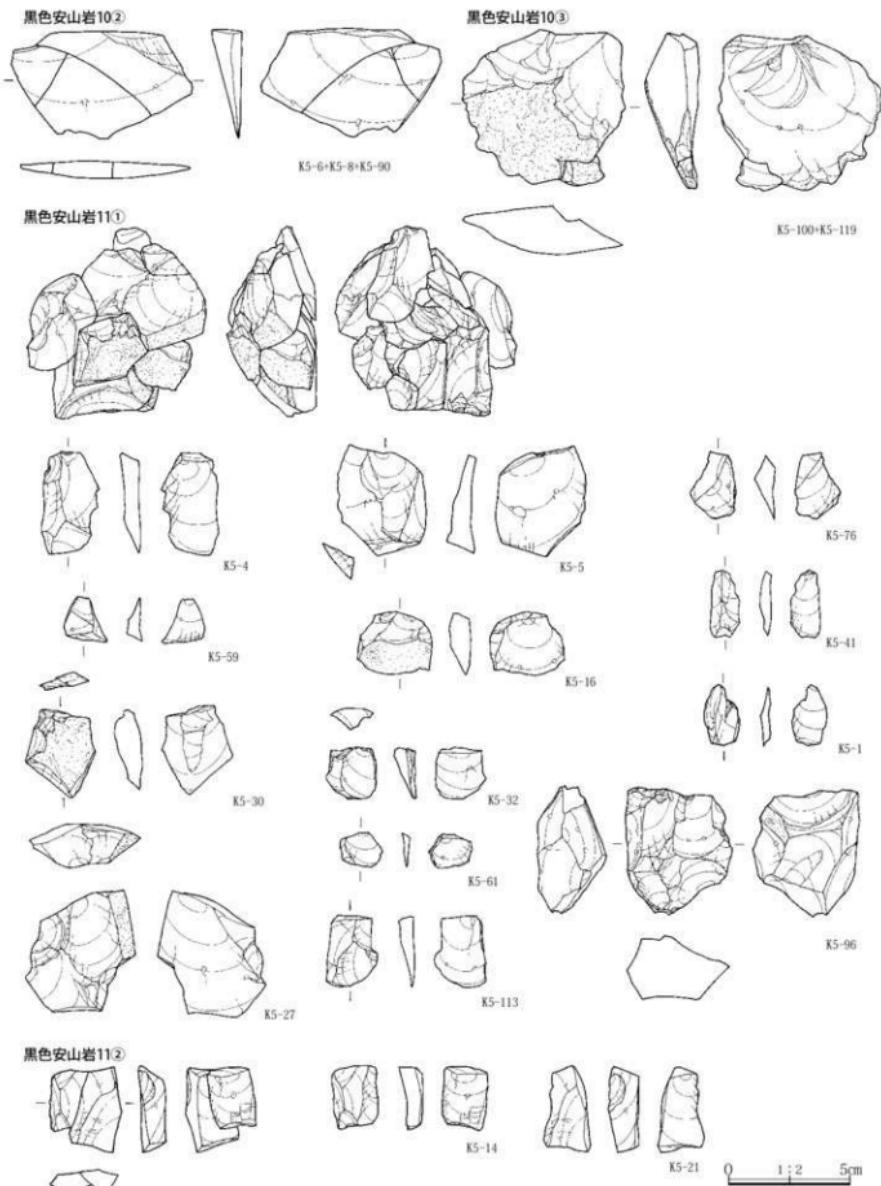
第3章 各遺跡の遺構・遺物  
黒色安山岩9①



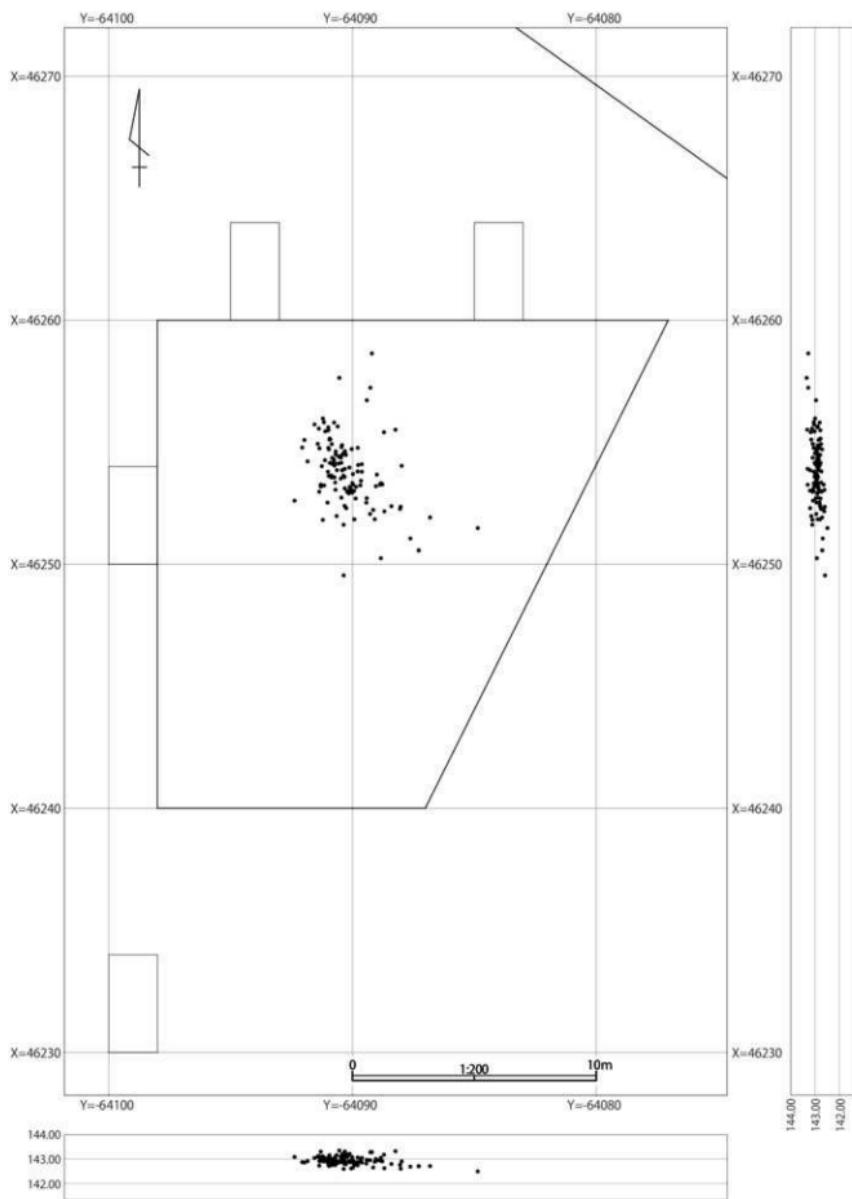
第101図 五代砂留遺跡群 拡張5区 母岩別資料・接合資料(1)



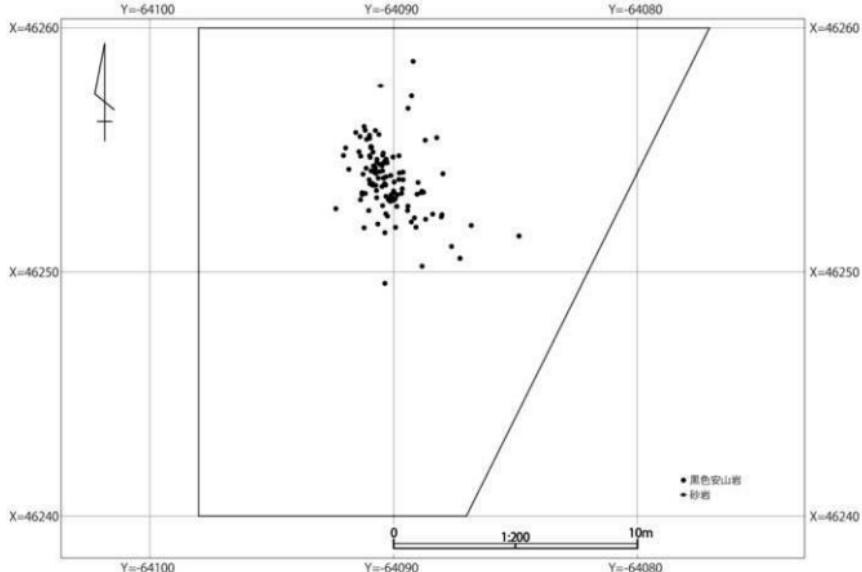
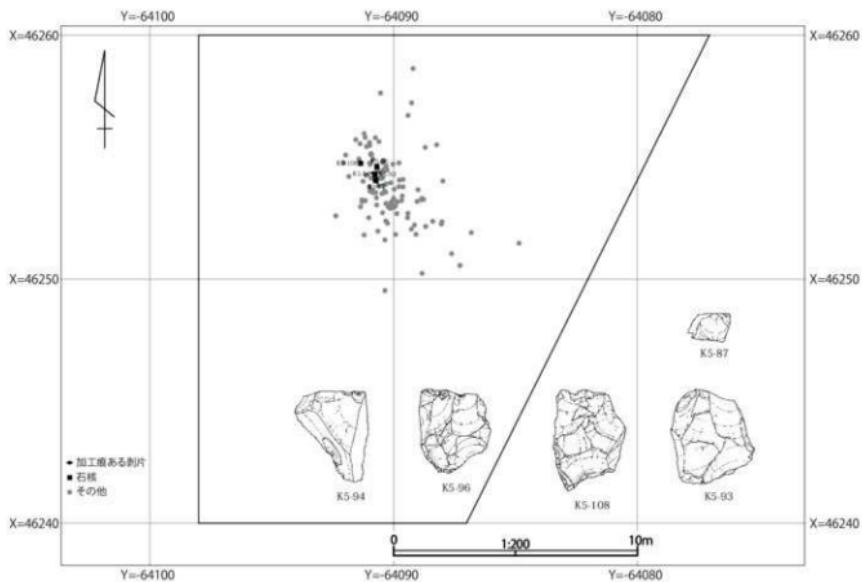
第102圖 五代砂留遺跡群 拆張5區 母岩別資料・接合資料(2)



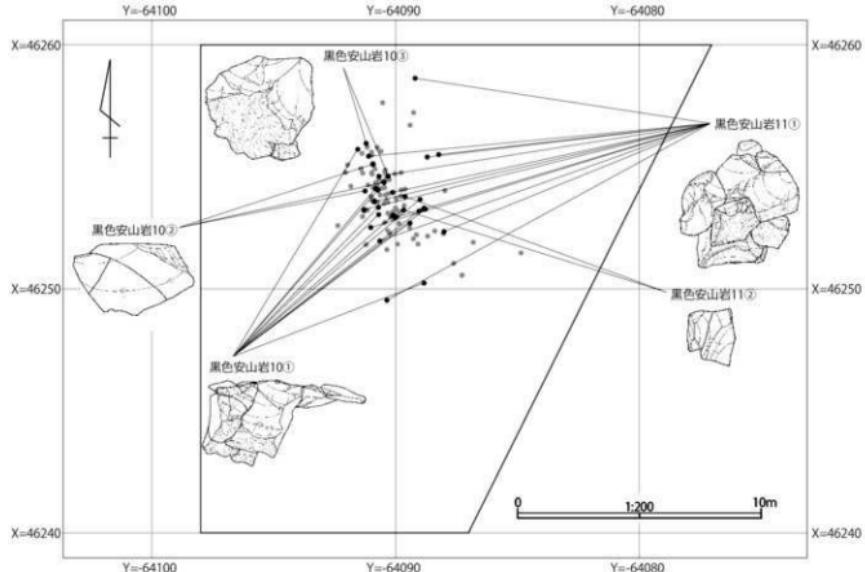
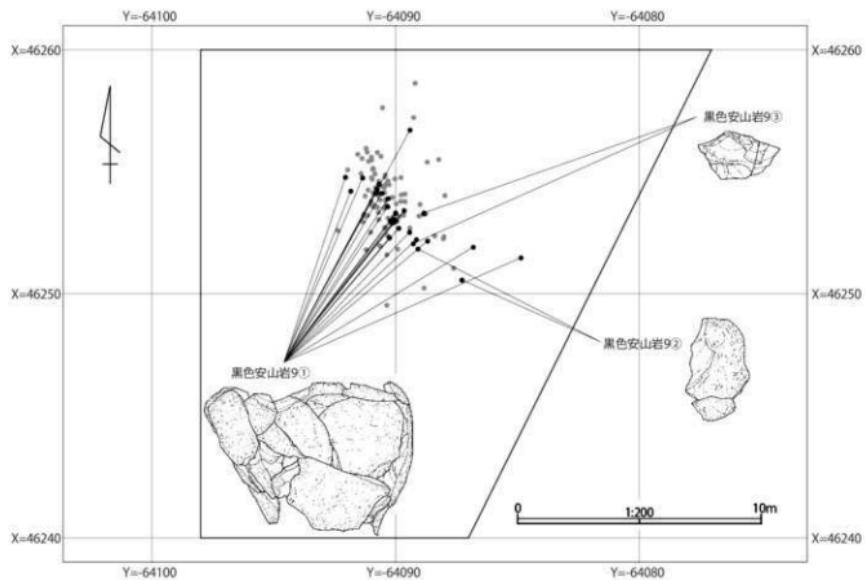
第103図 五代砂留遺跡群 拡張5区 母岩別資料・接合資料(3)



第104図 五代砂留遺跡群 拡張5区 石器分布・垂直分布状況



第105図 五代砂留遺跡群 拡張5区 器種別分布・石材別分布状況



第106図 五代砂留遺跡群 拡張5区 接合資料の分布状況

## &lt;7拡張区&gt;(第89・130～138図、PL.31-7・8)

## (1)出土層位

基本土層のVI層を中心にVII層にかけて出土している。テフラとの関係ではAT下位で、暗色帶中である。

## (2)検出遺構

石器の出土以外には、明確な遺構は検出されなかった。

## (3)出土遺物

第3文化層の石器群として329点の石器片類が出土した。内訳は石器88点(26.8%)、剥片174点(52.9%)、碎片8点(2.4%)、礫・礫片・礫類59点(17.9%)である。石器の器種は、彫器1点(0.4%)、削器4点(1.5%)、楔形石器2点(0.7%)、石刃5点(1.9%)、加工痕ある剥片14点(5.2%)、使用痕ある剥片9点(3.3%)、石核36点(13.3%)、敲石7点(2.6%)、台石9点(3.3%)、礫器1点(0.4%)、剥片174点(64.4%)、碎片8点(3.0%)である。主な石器の石材は、チャートが73点(26.9%)、黒色安山岩が116点(42.8%)と多く、黒色頁岩26点(9.6%)、珪質頁岩24点(8.9%)、碧玉6点(2.2%)、ホルンフェルス23点(8.4%)、溶結凝灰岩1点(0.4%)、粗粒輝石安山岩1点(0.4%)、砂岩1点(0.4%)などである。礫・礫片・礫類の石材は、黒色頁岩1点(1.7%)、珪質頁岩5点(8.6%)、ホルンフェルス10点(17.2%)、ディサイト1点(1.7%)、溶結凝灰岩2点(3.5%)、輝綠凝灰岩1点(1.7%)、珪質變質岩2点(3.5%)、砂岩12点(20.7%)、粗粒輝石安山岩19点(32.7%)、雲母石英片岩3点(5.2%)、黒色片岩2点(3.5%)である(第16表参照)。

次に、出土した石器を種類ごとに見ていくこととする。

**彫器**(第107図、K7-4、PL.34)や幅広の石刃を素材に、一側縁の打面の端から極状剥離を加えて彫刻刀面を作り出している。石材はチャートである。

**削器**(第107図、K7-13・K7-42・K7-45・K7-254、PL.34)総数4点が出土している。K7-45は石刃を素材とし、ほぼ真ん中で表面側から折断して基部側を利用し、一側縁に加工を加えている。石材は珪質頁岩である。K7-13は石刃を素材として、一側縁の表面の一部と裏面の打点寄りの部分に加工を加えている。石材は黒色安山岩である。K7-42は縦長剥片を素材に、一側縁の裏面に加工を加えている。石材は黒色安山岩である。K7-254は原石面を打面とする幅広の剥片の裏面の打点寄りの部分に加工を加えている。石材はチャートである。

**楔形石器**(第107図、K7-75・K7-203、PL.34)2点が出土している。K7-203はほぼ真ん中で折断した石刃の基部側の両端に調整を加えている。石材は珪質頁岩である。K7-75は縦長剥片、あるいは石刃の先端部分に加工を加えている。あるいは、剥片を1枚だけ剥離しただけの石核かもしれない。石材は黒色安山岩である。

**加工痕ある剥片**(第107～109図、K7-12・K7-22・K7-44・K7-62・K7-126・K7-149・K7-151・K7-163・K7-236・K7-283・K7-285・K7-288・K7-289、PL.34・35)14点が出土している。K7-236は剥片の裏面の周縁に加工を施している。石材は黒色安山岩である。K7-149+K7-151は剥離時の衝撃で折断したと考えられる剥片先端の裏面側両側縁から粗く加工している。石材は黒色安山岩である。K7-288は先端部分に原石面を残す剥片の一側縁に裏面側から加工を加えている。石材は珪質頁岩である。K7-44は表面の一部に原石面を残す横長剥片の一側縁に裏面側から加工を僅かに加えている。石材はチャートである。K7-163は小形の剥片の先端部に加工を僅かに加えている。石材は黒色頁岩である。K7-289は先端部分と打面部寄りの一側縁と原石面を残す剥片の一側縁に裏面側から加工を加えている。石材はチャートである。K7-285はやや大形の剥片の両側縁の一部に部分的に加工を加えている。石材はホルンフェルスである。K7-62は先端部分に原石面を残す縦長の剥片の一側縁の一部に部分的に加工を加えている。石材はチャートである。K7-12は一側縁に原石面を残す剥片の裏面側から加工を加えている。石材はチャートである。K7-22は表面に原石面を残す大形の剥片を素材とし、一側縁に裏面側から加工を僅かに加えている。石材は黒色安山岩である。K7-283は表面に原石面を残すやや大形の剥片の両側縁の一部に加工を加えている。石材はホルンフェルスである。

**使用痕ある剥片**(第110図、K7-2・K7-23・K7-33・K7-38・K7-146・K7-182・K7-201・K7-269・K7-287、PL.36) 9点が出土している。K7-287は横長の剥片の一側縁に僅かに使用痕が認められる。石材はチャートである。K7-146は石刃の一側縁に使用痕が認められる。石材はチャートである。K7-2は表面の一部に原石面が残る縱長の剥片で、一側縁に僅かに使用痕が認められる。石材はチャートである。K7-182+K7-201は表面の一縁に原石面が残る石刃で、一側縁に使用痕が認められる。石材は珪質頁岩である。K7-269は小形の剥片で、一側縁に使用痕が認められる。石材は碧玉である。K7-23は縱長の剥片で、裏面の両側縁に使用痕が認められる。石材は珪質頁岩である。K7-33は表面に原石面が残る縱長の剥片で、一側縁に使用痕が認められる。石材はチャートである。K7-38は表面の一部に原石面を残す剥片の一側縁に細かな使用痕が認められる。石材は珪質頁岩である。

**石刃**(第111図、K7-194・K7-196・K7-220・K7-234・K7-247、PL.36・37) 5点が出土している。K7-247+K7-234は折断で3つに分かれた細長い石刃である。石材はチャートである。K7-220は表面の一部に原石面が残る。石材は碧玉である。

K7-196は小さな打面で、石材はチャートである。K7-247は打面が小さく表面の一部に原石面が残る。石材は黒色頁岩である。

**石核**(第111～119・124図、K7-34・K7-47・K7-49・K7-55・K7-56・K7-58・K7-63・K7-79・K7-84・K7-97・K7-109・K7-127・K7-128・K7-131・K7-135・K7-145・K7-172・K7-187・K7-190・K7-199・K7-217・K7-246・K7-248・K7-250・K7-251・K7-255・K7-259・K7-272・K7-274・K7-282・K7-284・K7-291・K7-292・K7-316・K7-327・K7-335、PL.37～41・44) 36点が出土している。K7-84は裏面に原石面が残る分割礫を素材に、裏面側の周縁から中心に向けて剥片を剥離し、次に表面でも同様の作業を行うことで円盤状の形状となる。石材は黒色安山岩である。K7-58は立方体に近く、石材はチャートである。K7-274は表面に原石面が残る分割礫を素材に、表裏面側の周縁から中心に向けて剥片を剥離している。石材はチャートである。K7-190は側面に原石面が残る剥片を素材に、原石面を打面として剥片を剥離している。石材はチャートである。K7-335は分割礫を素材に、裏面の周縁から中心に向けて剥片を剥離している。石材は黒色安山岩である。K7-259は側面に原石面が残る剥片を素材に、両端を打面として剥片を剥離している。石材はチャートである。K7-109は側面に原石面が残る剥片を素材に、両端から剥片を剥離している。石材は珪質頁岩である。K7-97は裏面に原石面が残る分割礫を素材に、原石面を打面に剥片を剥離している。石材は黒色安山岩である。K7-79は裏面に原石面を残す剥片の側縁から剥片を剥離している。石材は黒色安山岩である。K7-272は側面に原石面が残る分割礫を素材に、表裏面の周縁から中心に向けて剥片を剥離している。石材はチャートである。K7-187は剥片の剥離面を打面として、90°打面転位を繰り返しながら剥片を剥離している。石材は黒色安山岩である。K7-63は側面に原石面が残る剥片を素材に、一端から剥片を剥離している。石材は黒色安山岩である。K7-56は側面に原石面が残る剥片を素材に、両端から剥片を剥離している。石材は碧玉である。K7-282は裏面に原石面が残る分割礫を素材に、原石面を打面に剥片を剥離している。石材は黒色安山岩である。K7-255は側面に原石面を残す分割礫の分割面や剥離面を打面として、打面転位をしながら剥片を剥離している。石材は珪質頁岩である。K7-34は裏面に原石面を残す分割礫の周縁から中心に向かって剥片を剥離している。石材はチャートである。K7-217は原石面が残る分割礫を素材に、原石面を打面にして連続して剥片を剥離している。石材はチャートである。K7-145は裏面に原石面が残る分割礫を素材に、表裏面の周縁から中心に向けて剥片を剥離している。石材はチャートである。K7-248は分割礫を素材に、表裏面の周縁から中心に向けて剥片を剥離している。石材はチャートである。K7-47は裏面の一部に原石面を残す大形の剥片の一縁から剥片を剥離している。石材は黒色頁岩である。K7-131は分割礫を素材に、表裏面の周縁から中心に向けて剥片を剥離している。石材は黒色安山岩である。K7-284は分割礫を素材に表裏面の周縁から中心に向けて剥片を剥離している。石材は黒色安山岩である。K7-128は裏面に原石面が残る分割礫を素材に、裏面側の周縁から中心に向けて剥片を剥離している。石材は黒色安山岩である。K7-291は分割礫、あるいは剥片の両端から剥片を剥離している。石材は珪質頁岩である。K7-55は側面に原石面が残る剥片を素材に両端から剥片を剥離している。石材はチャートである。K7-246は裏面に原石面が残る分割礫を素材に、表面の一縁から剥片を剥離している。石材はホルンフェルスである。K7-127は裏面に原石面を残す分割礫で、原石面を打面に表面の中央に向かって周縁から剥片を剥離している。石材は黒色安山岩である。K7-292は剥片の表裏面の周縁から中央

に向かって周縁から剥片を剥離している。石材は黒色安山岩である。K7-49は立方体の剥片の剥離面を打面にして、90°の打面転位を数回繰り返して、剥片を剥離している。石材はチャートである。K7-250は亜角礫の一端に剥離を加えて打面を作り出し、剥片を剥離している。石材はホルンフェルスである。K7-172は側面に原石面を残し、表裏面の周縁から中心に向けて剥片を剥離している。石材は黒色頁岩である。K7-199は底面に原石面が残る分割礫を素材に、分割面を打面に剥片を剥離し、さらに90°打面転位をしている。石材は黒色安山岩である。K7-327は長方体の亜角礫を素材に、原石面を打面に一端から連続して剥片を剥離している。石材はチャートである。K7-251は長方体の亜角礫を素材に、原石面を打面に一端から連続して剥片を剥離している。石材は珪質頁岩である。K7-135は剥片を素材に、表面から数枚の剥片を剥離している。石材は黒色安山岩である。K7-316（非実測）は分割礫を素材に、原石面を打面に小さな剥片を数枚剥離している。石材は珪質頁岩である。

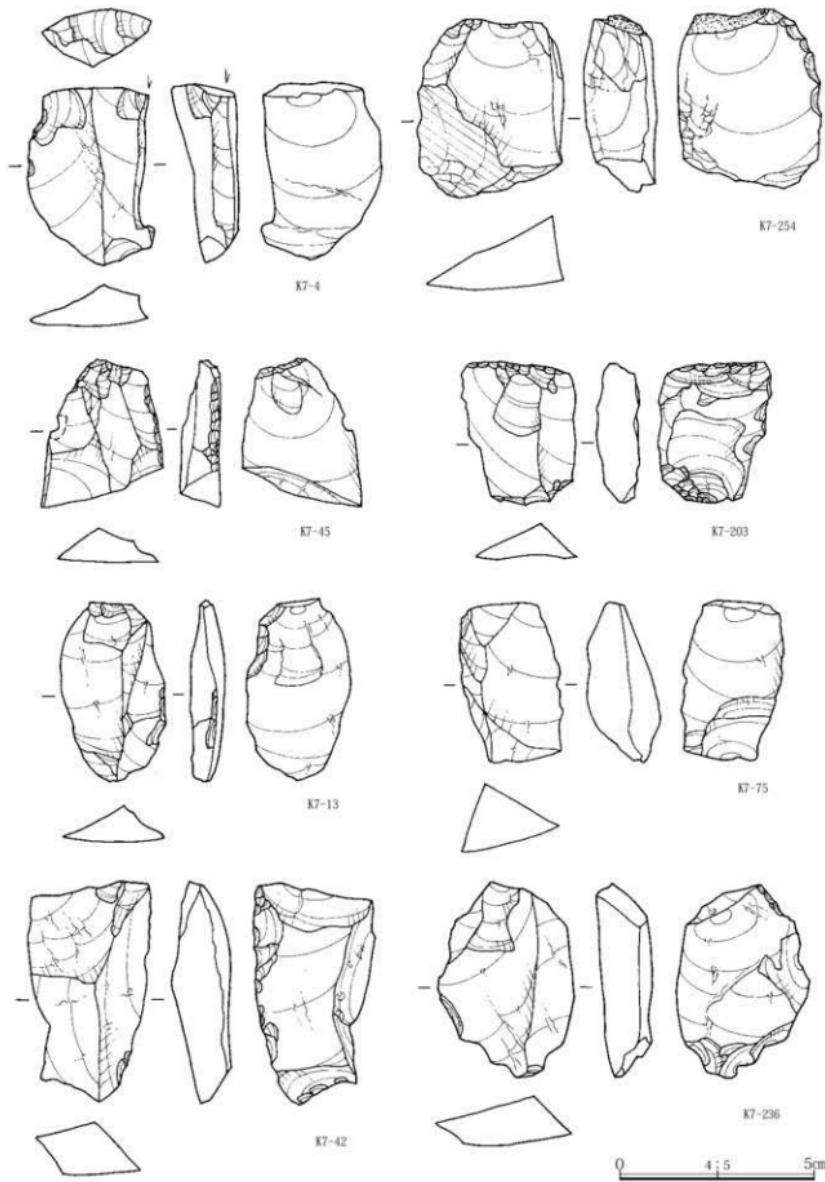
**敲石**（第120・121図、K7-24・K7-39・K7-59・K7-173・K7-200・K7-204・K7-239、PL.41・42）7点が出土している。K7-200は小形の亜角礫で、一端に敲打痕が残る。石材はホルンフェルスである。K7-59は小形の亜角礫で、一端に僅かに敲打痕と剥離痕が残る。石材は溶結凝灰岩である。K7-204は亜角礫で、両端に敲打痕が残る。石材はホルンフェルスである。K7-39は亜角礫で、一端に僅かな敲打痕と剥離痕が残る。石材は黒色頁岩である。K7-173は亜角礫で、一端に敲打痕と剥離痕が残る。石材はホルンフェルスである。K7-24は亜角礫で、一端に敲打痕と剥離痕、側縁に剥離痕が残る。石材はホルンフェルスである。

**台石**（第120・121図、K7-43・K7-65・K7-90・K7-119・K7-211・K7-260・K7-261・K7-262・K7-328、PL.41・42）9点が出土しているが、その内の4点を資料化した。K7-65は扁平な楕円礫で、一端と側縁に敲打痕と剥離痕が残ることから敲石の可能性もあるが、その形状から台石とした。石材はホルンフェルスである。K7-211は楕円礫で表面に線状痕が残る。石材は粗粒輝石安山岩である。K7-262は楕円礫で、表面のほぼ中央に敲打痕が残る。石材はホルンフェルスである。K7-328は五角形の亜角礫の一端に敲打痕と剥離痕が残ることから敲石の可能性もあるが、その形状から台石とした。石材はホルンフェルスである。残りの4点は記載だけとする。K7-43は扁平な楕円礫で、原石面の風化による劣化が激しく、一部で表面が剥がれている。石材はホルンフェルスである。K7-90は亜角礫で、原石面の風化による劣化が激しく、一部で表面が剥がれているうえに、いくつにも細かく破碎している。石材はホルンフェルスである。K7-119は扁平な円礫で、原石面の風化による劣化が激しく、一部で表面が剥がれているうえに、いくつにも細かく破碎している。石材はホルンフェルスである。K7-260+K7-261は棒状の亜角礫であるが、二つに折れているうえに、原石面の風化による劣化が激しい。一部に剥離痕が残る。石材はホルンフェルスである。

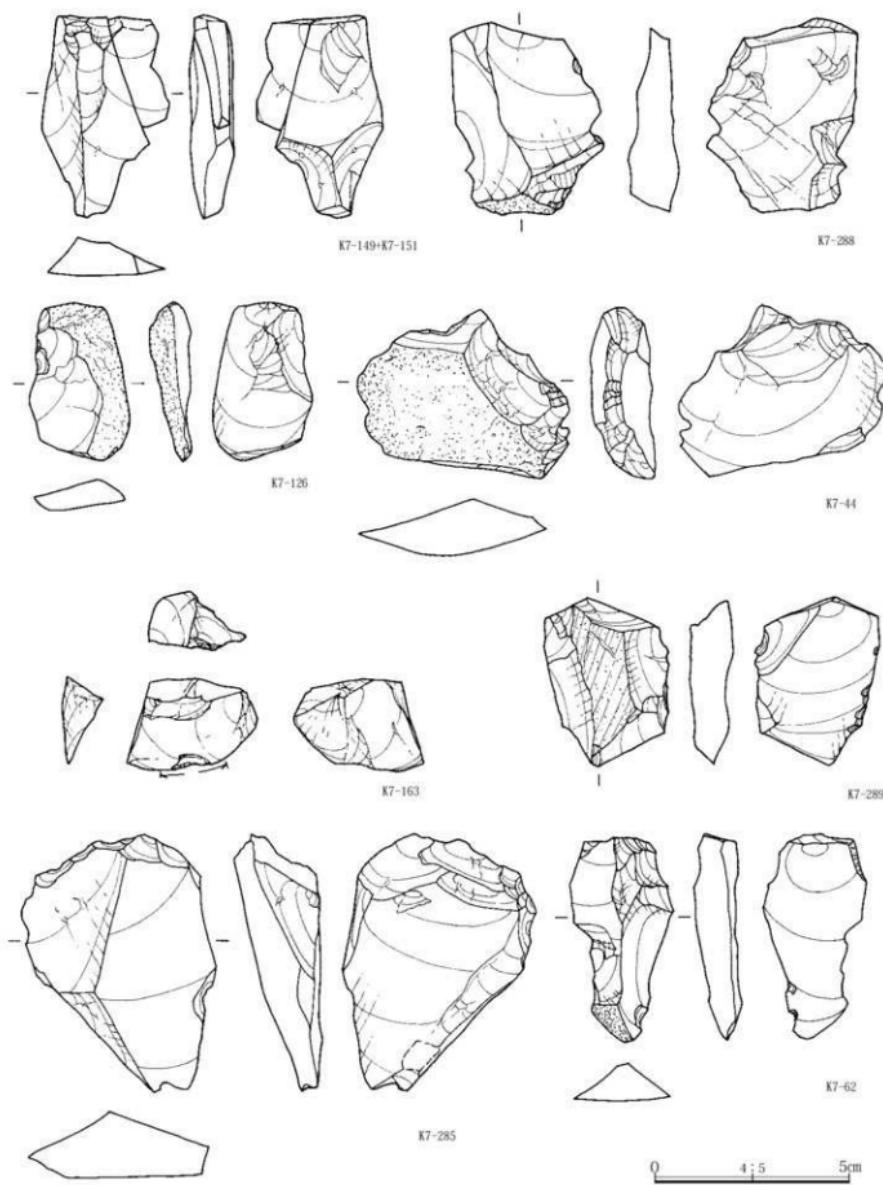
**礫器**（第122図、K7-35、PL.43）1点出土している。ほぼ正方体の亜角礫を素材に、一端の角に表裏面への剥離痕が多数、もう一方の角には敲打痕が多数残ることから敲石の可能性もあるが、その大きさから礫器とした。石材は砂岩である。この他に、多数の剥片や碎片が出土しているが、図化・資料化しているのは主に接合資料に含まれる資料だけである。（第123～129図、PL.43～46）

第16表 五代砂留遺跡群 第3文化層 拡張7区組成表

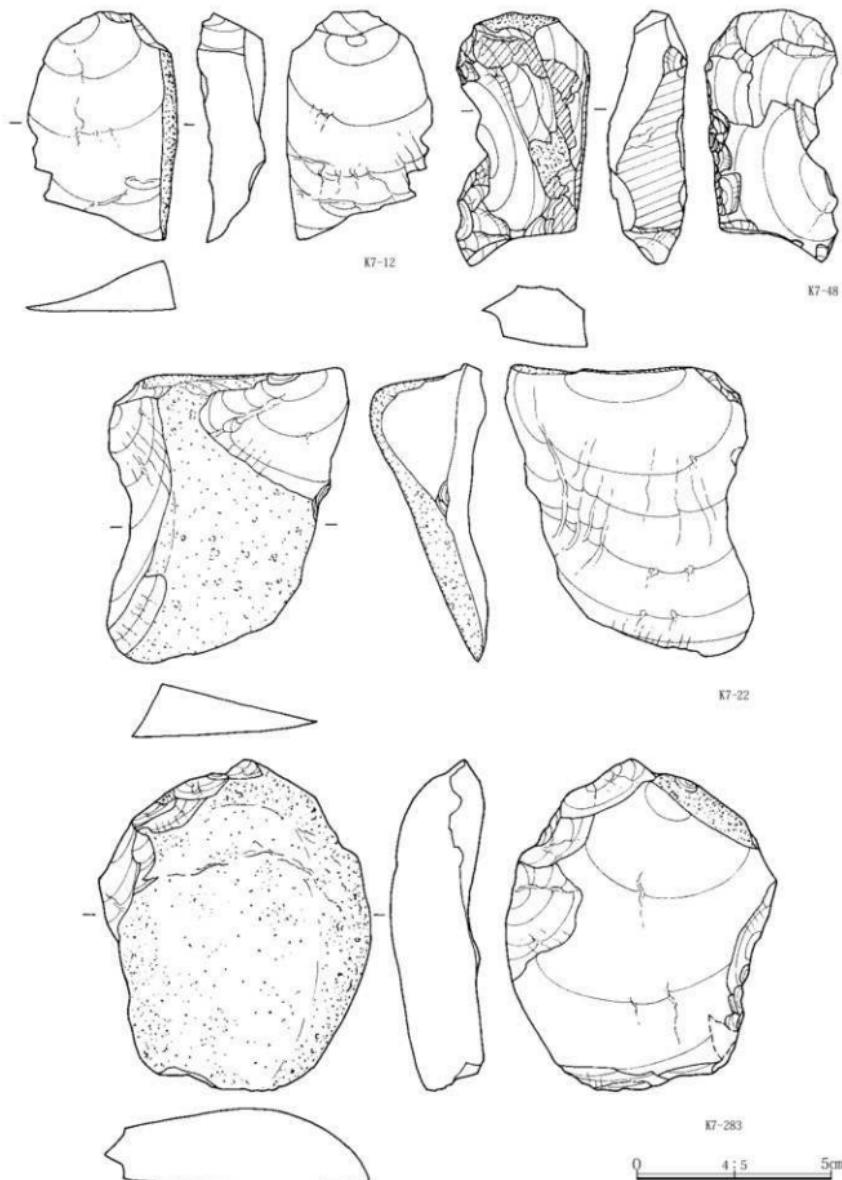
	彫器	削器	楔形石器	加工痕	使用痕	石刃	石核	蔽石	台石	剥片	碎片	礫器	礫	礫片	礫類	総計
黒色安山岩		2	1	4			14			88	7					116
黒色頁岩				1		1	2	2		20			1			27
珪質頁岩	1	1	1	1	4		5			13	1	2	3			31
チャート	1	1		6	4	3	12			44						71
碧玉					1	1	1			3						6
ホルンフェルス			2			2	4	8	6			8	3			33
ディサイト								1				1				1
溶結凝灰岩								1				1	1			3
輝緑凝灰岩													1			1
珪質変質岩													2			2
砂岩												1	8	4		13
粗粒輝石安山岩									1			6	13			20
雲母石英片岩														3	3	
黒色片岩													2		2	
総計	1	4	2	14	9	5	36	7	9	174	8	1	26	28	5	329



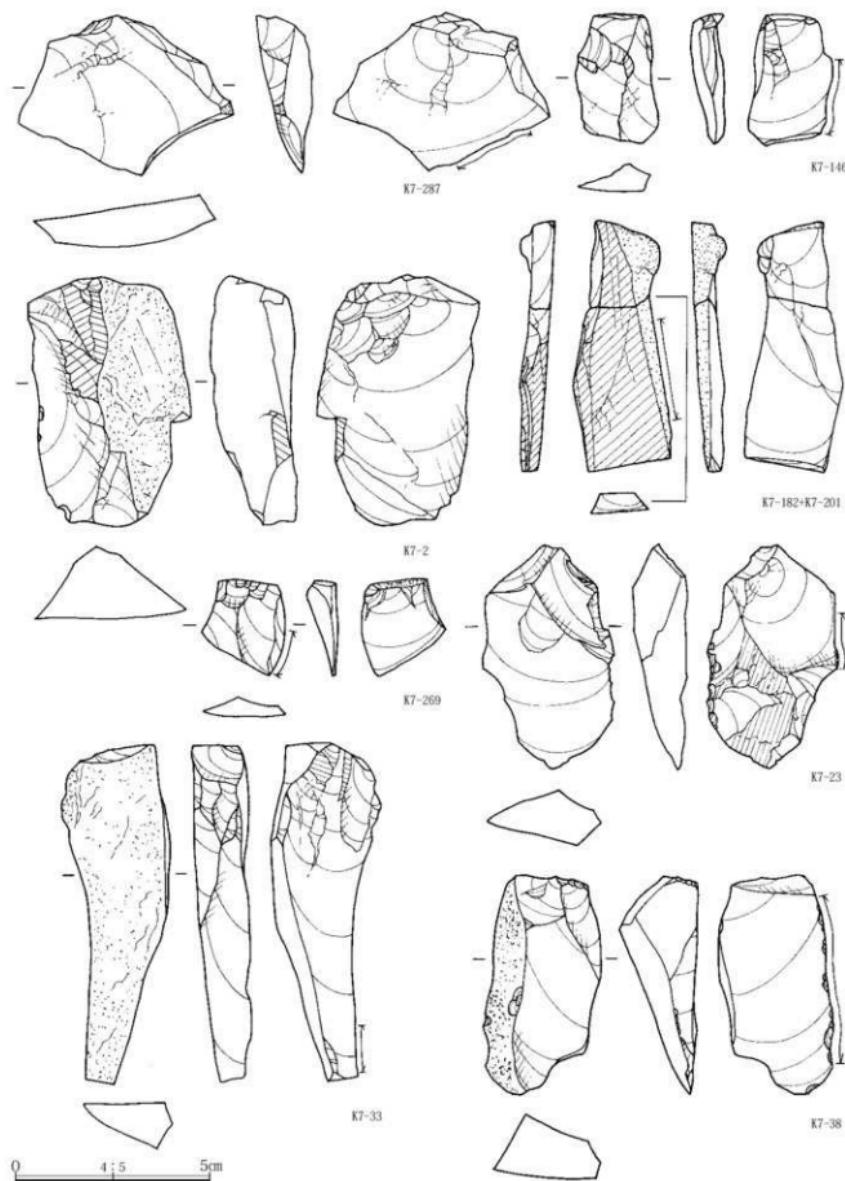
第107圖 五代砂留遺跡群 拭張7區 出土遺物(1)



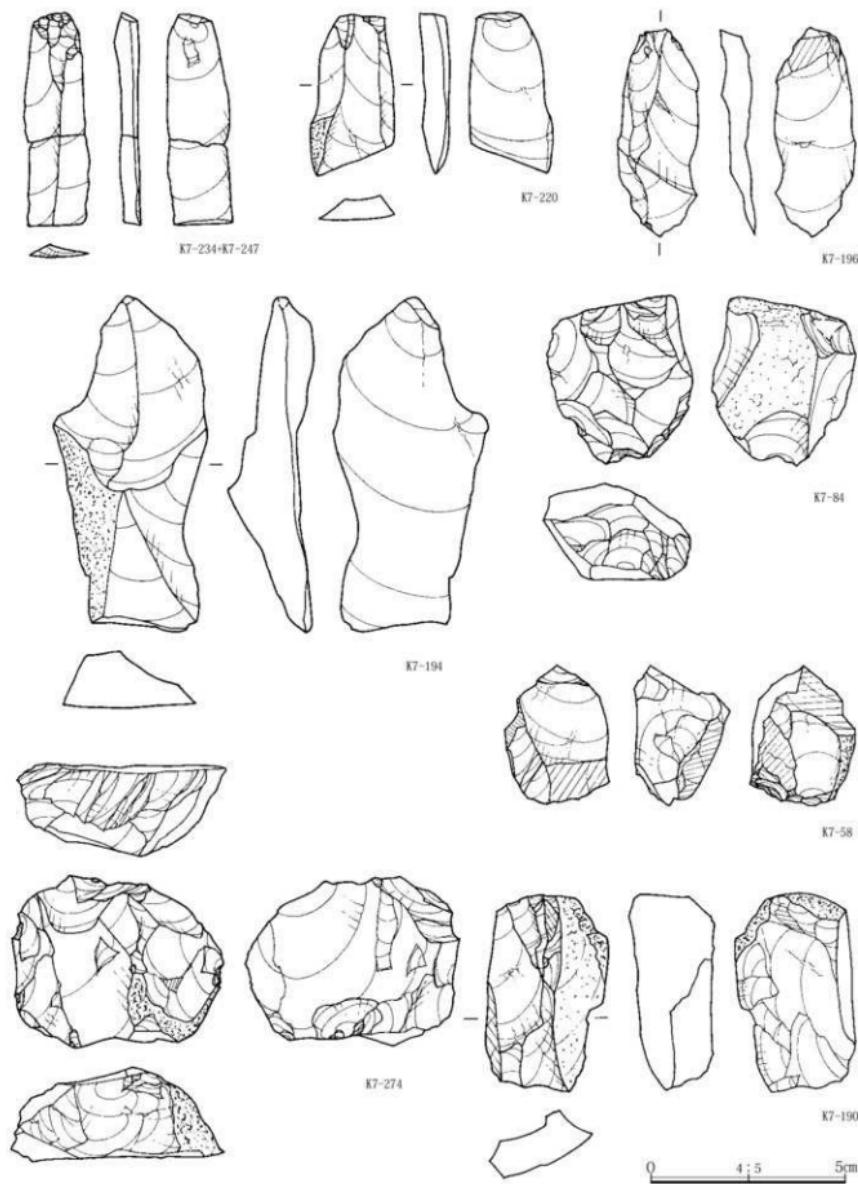
第108図 五代砂留遺跡群 拭張7区 出土遺物(2)



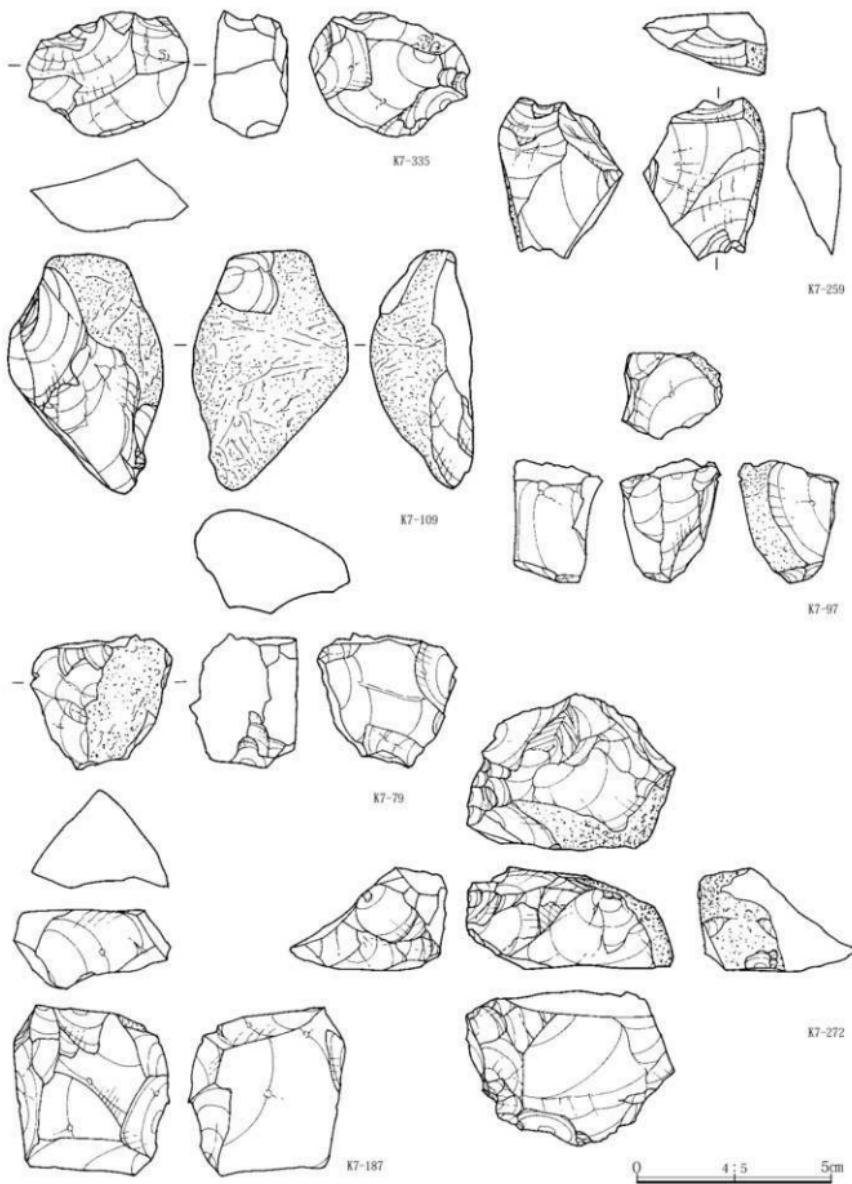
第109圖 五代砂留遺跡群 拭張7區 出土遺物(3)



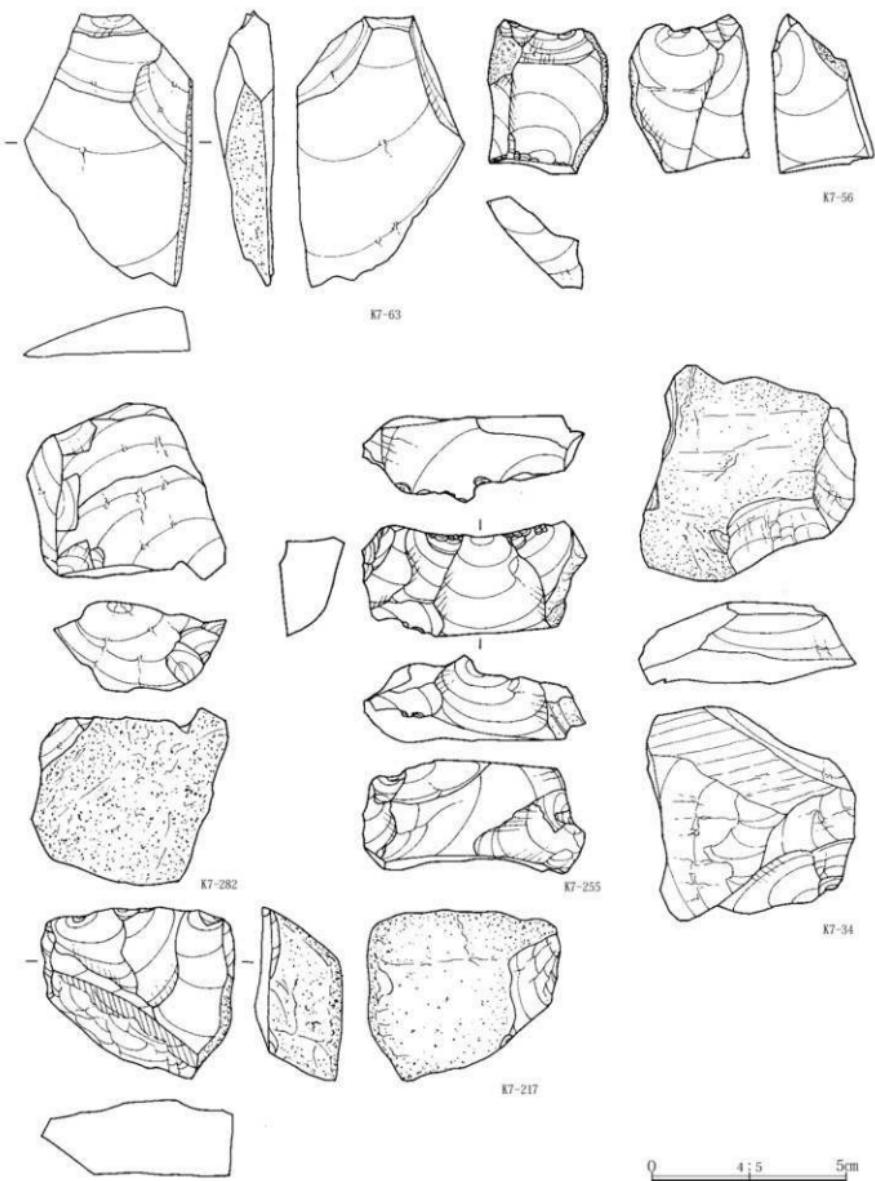
第110図 五代砂留遺跡群 拭張7区 出土遺物(4)



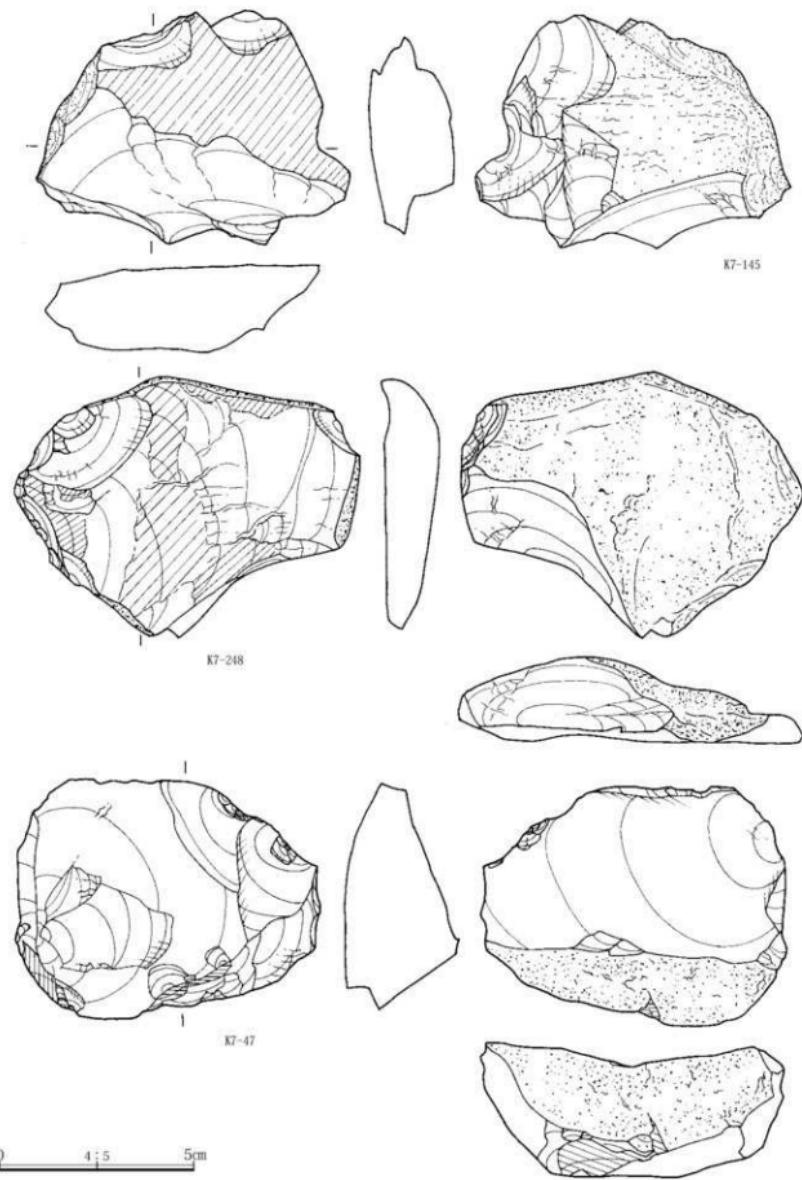
第111圖 五代砂留遺跡群 拭張7區 出土遺物(5)



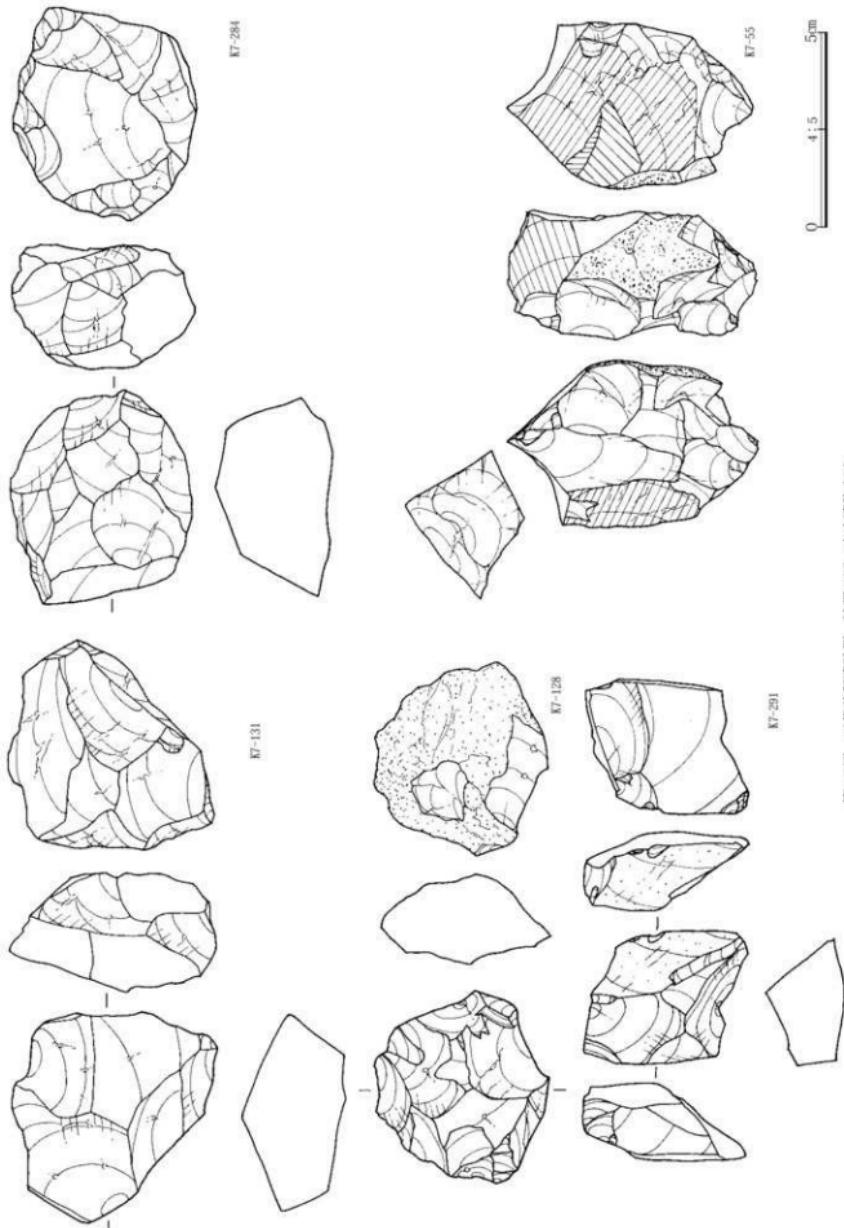
第112図 五代砂留遺跡群 拭張7区 出土遺物(6)



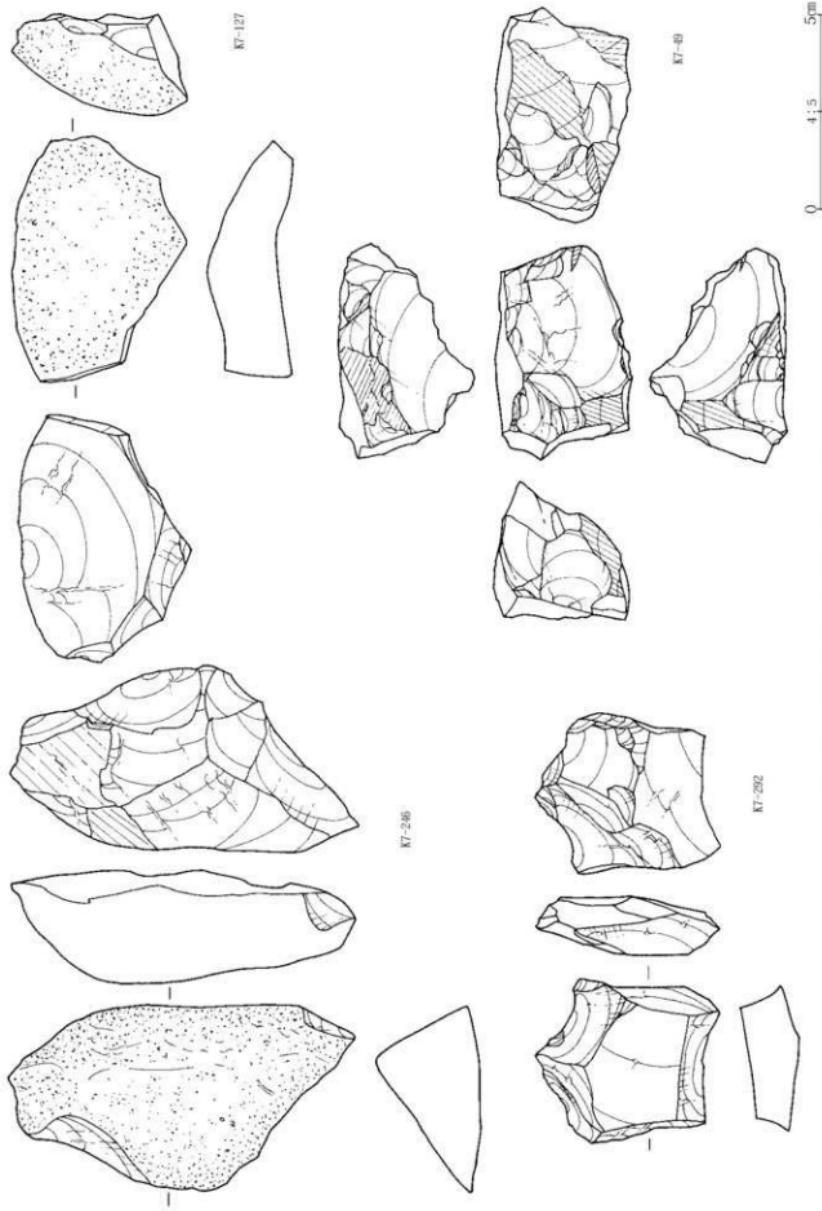
第113圖 五代砂留遺跡群 拭張7區 出土遺物(7)



第114図 五代沙留遺跡群 拭張7区 出土遺物(8)



第115圖 五代砂留遺跡群 埔張7區 出土遺物(9)

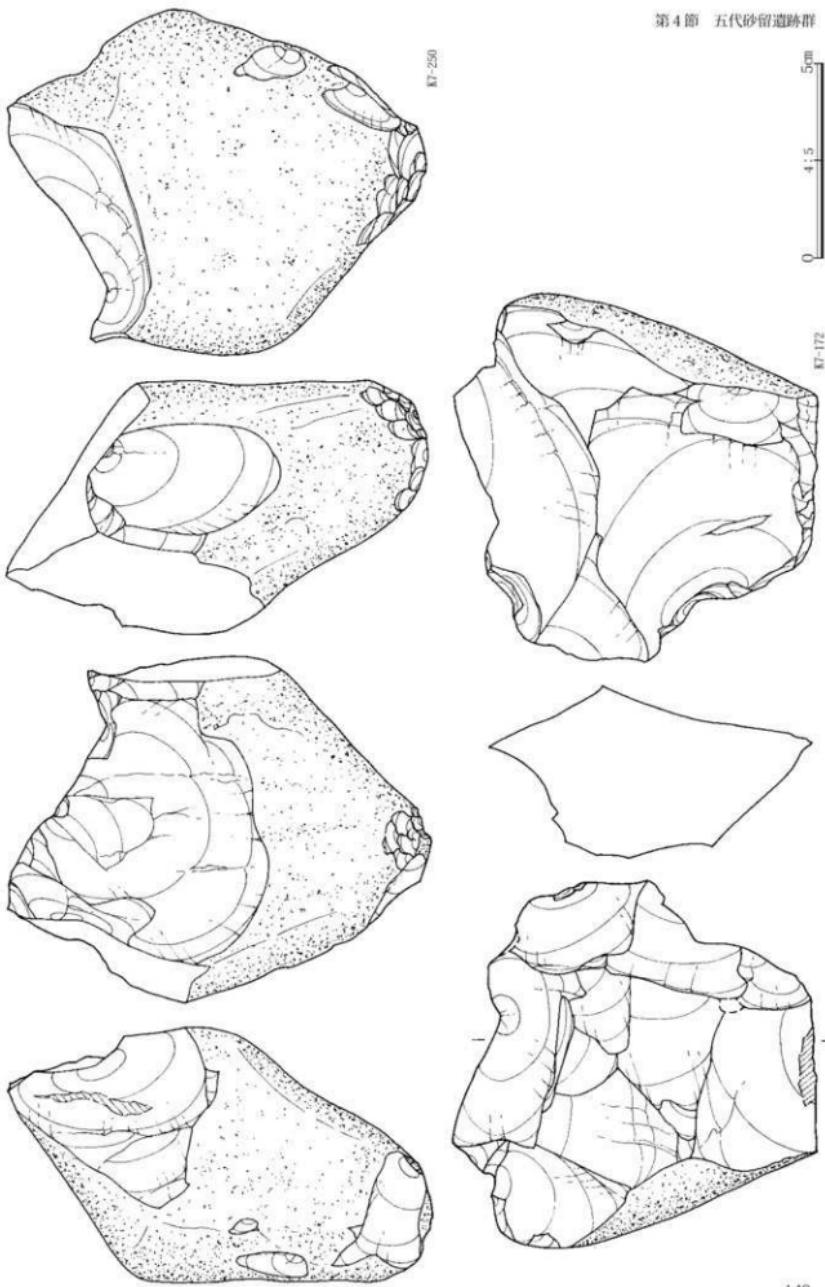


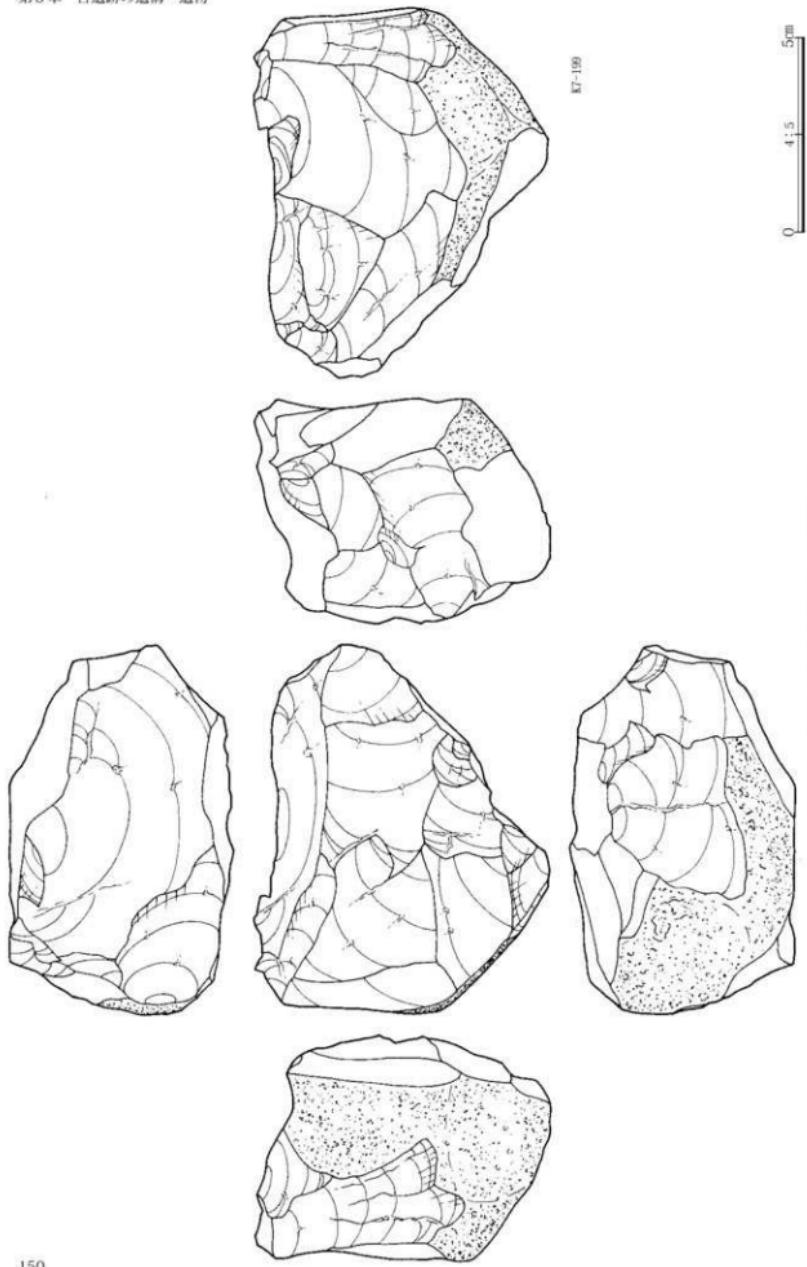
第116図 五代妙留遺跡群 坑張7区 出土遺物(10)

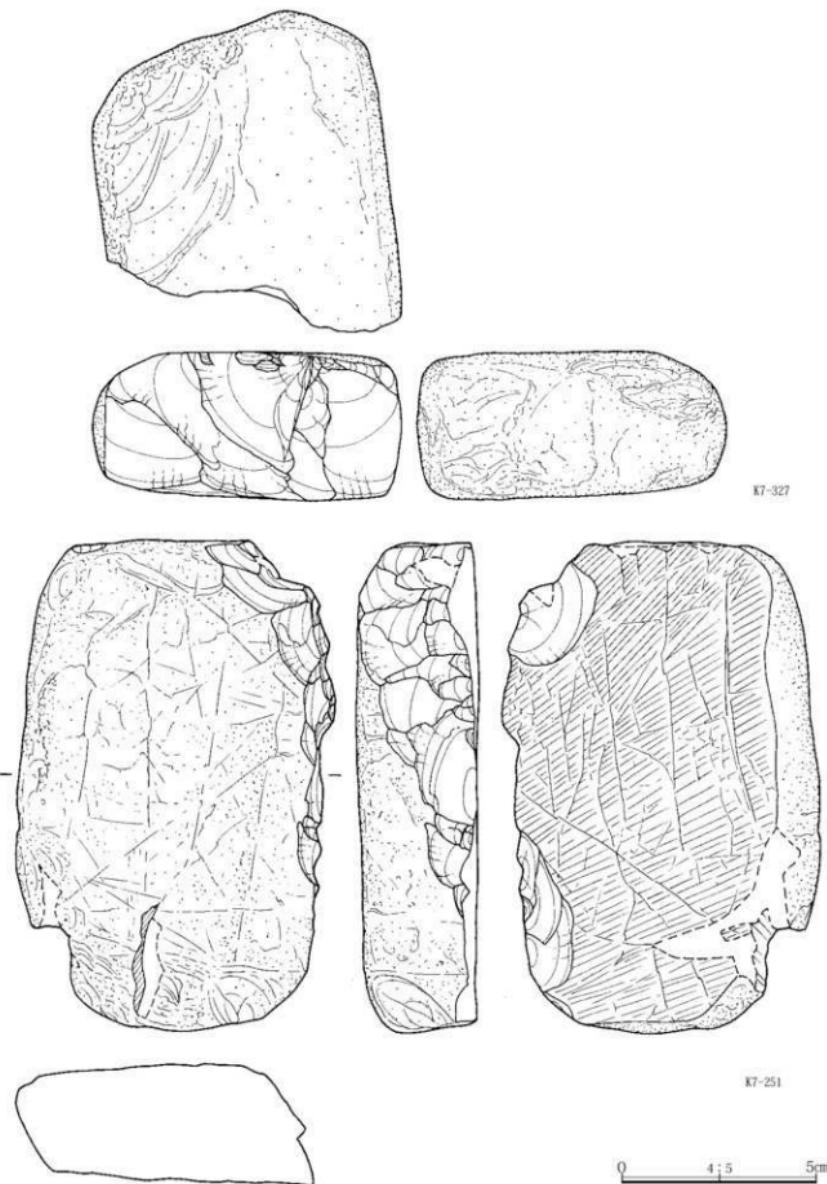
KT-259  
0 4 5 5cm

KT-172

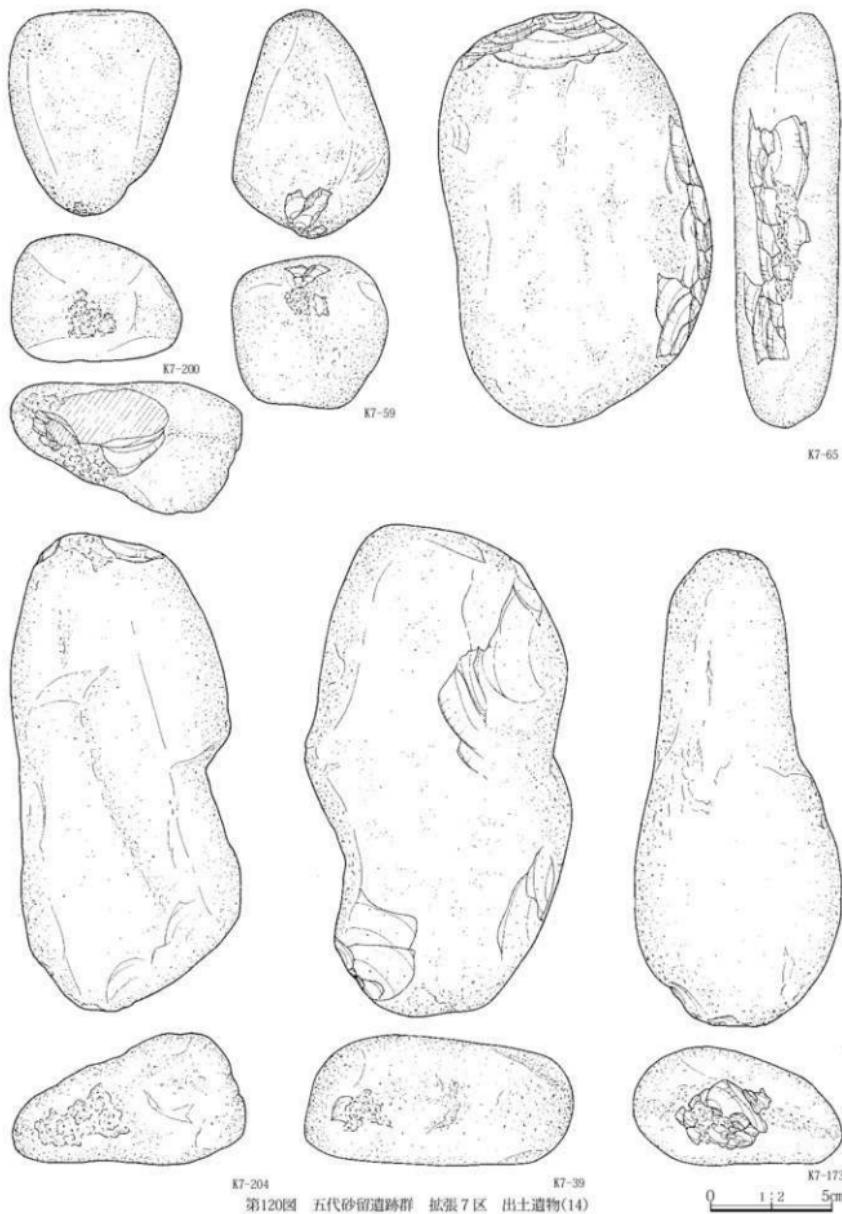
第117圖 五代砂留遺跡群 埔張7區 出土遺物(1)





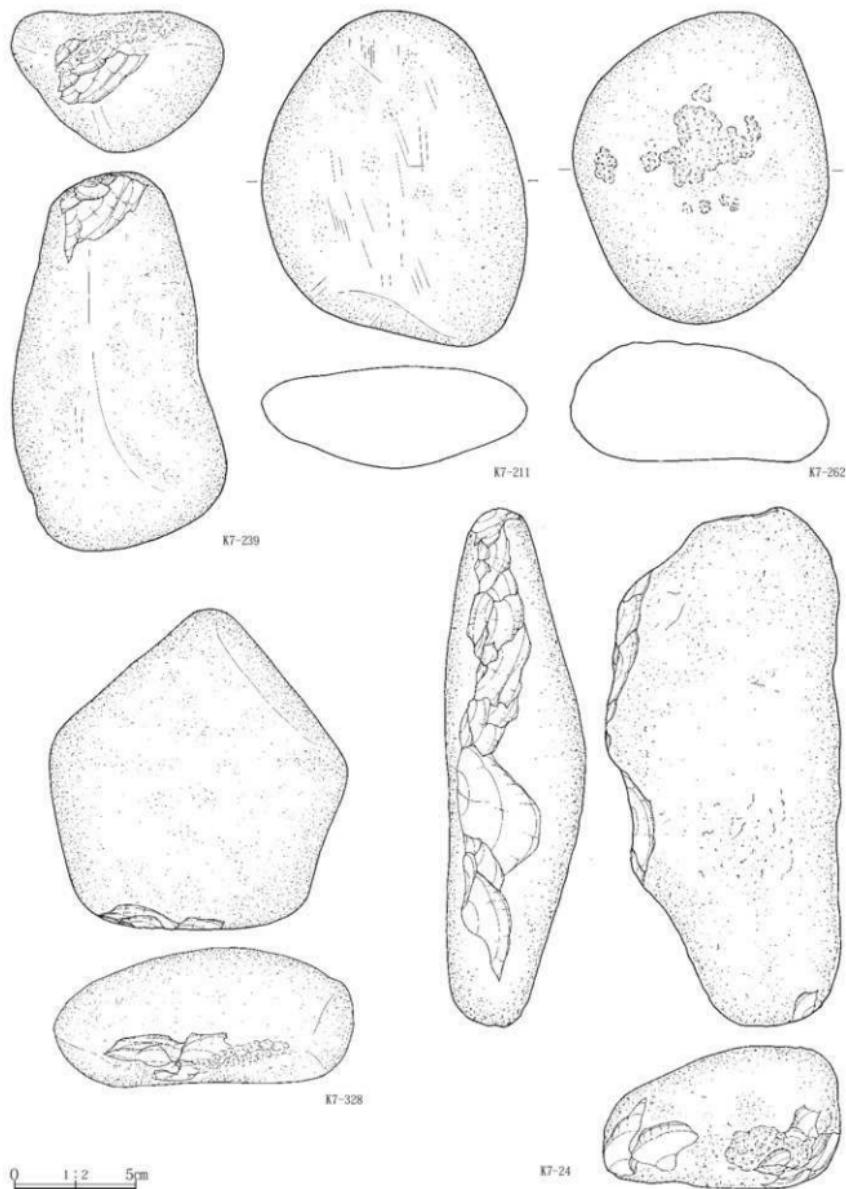


第119圖 五代砂留遺跡群 拭張7區 出土遺物(13)

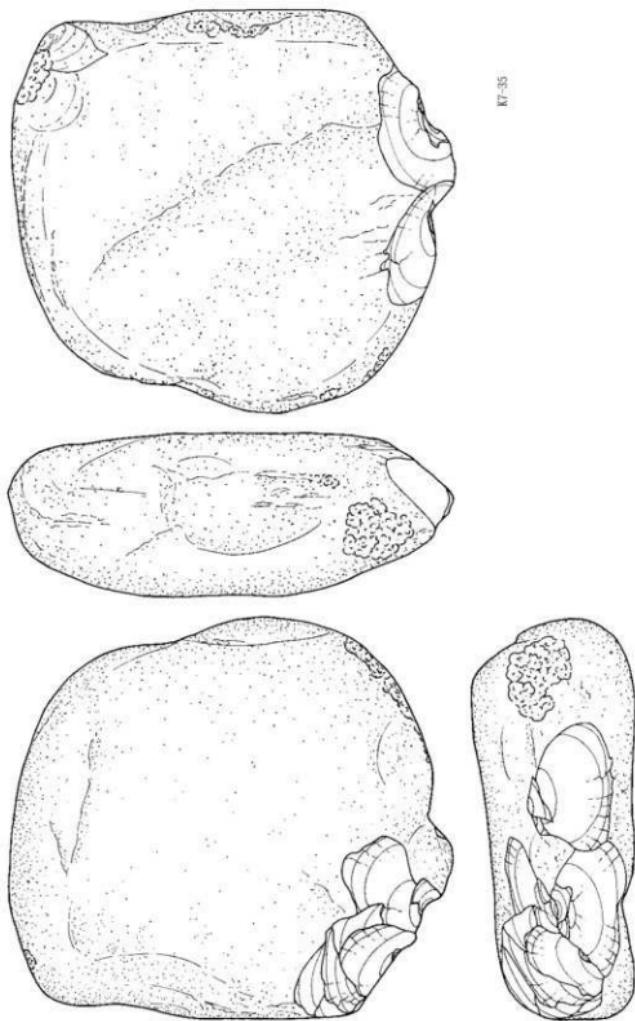


第120図 五代砂留遺跡群 拡張7区 出土遺物(14)

0 1 2 5cm



第121圖 五代砂留遺跡群 拭張7区 出土遺物(15)



第122図 五代砂留遺跡群 批張7区 出土遺物(16)

0 4 5 5cm

## (4)母岩別資料・接合資料(第123～129図、PL.43～46)

黒色安山岩は116点が出土した。このうち、接合資料は13例40点がある。

黒色安山岩1-①(第123図、PL.43)折断資料1例を含む剥片8点の接合資料である。K7-237+K7-241→K7-219→K7-240→K7-222→K7-216→K7-224→K7-221

黒色安山岩1-②(第123図、PL.43)石核1点と剥片5点の計6点が接合した。K7-110(剥片)→K7-100(剥片)→K7-92(剥片)→K7-124(剥片)→K7-93(剥片)→K7-97(石核)

黒色安山岩1-③(第123図、PL.43)石核1点と剥片3点の計4点が接合した。K7-102(剥片)→K7-108(剥片)→K7-99(剥片)→K7-128(石核)

黒色安山岩1-④(第124図、PL.43)石核1点と剥片2点の計3点が接合した。K7-191(剥片)→K7-186(剥片)→K7-187(石核)

黒色安山岩1-⑤(第124図、PL.43)石核1点と剥片1点の計2点が接合した。K7-105(剥片)→K7-84(石核)

黒色安山岩1-⑥(第124図、PL.44)加工痕ある剥片の折断資料である。K7-149+K7-151

黒色安山岩1-⑦(第124図、PL.43)剥片2点の接合資料である。K7-74→K7-111

黒色安山岩1-⑧(第124図、PL.44)剥片の折断資料である。K7-121+K7-115

黒色安山岩1(第107・112・113・116図、PL.34・37・39)には非接合資料として、石核3点、加工痕ある剥片1点、剥片21点の計25点がある。K7-57、K7-63(石核)、K7-73、K7-80、K7-83、K7-87、K7-88、K7-95、K7-114、K7-116、K7-118、K7-123、K7-125、K7-127(石核)、K7-153、K7-164、K7-183、K7-185、K7-188、K7-227、K7-229、K7-230、K7-235、K7-236(加工痕ある剥片)、K7-335(石核)

黒色安山岩2-①(第124図、PL.44)剥片の折断資料である。K7-154+K7-67

黒色安山岩2-②(第124図、PL.44)楔形石器と剥片の接合資料。K7-101(剥片)→K7-75(楔形石器)

黒色安山岩2(第112図、PL.37)には非接合資料として、石核1点がある。K7-79(石核)

黒色安山岩3-①(第124図、PL.44)石核と剥片の計2点が接合した。K7-281(剥片)→K7-282(石核)

黒色安山岩3-②(第124図、PL.44)剥片の折断資料である。K7-342+K7-311

黒色安山岩3(第118図、PL.40)には非接合資料として、石核1点、剥片6点がある。K7-11、K7-130、K7-133、K7-134、K7-199(石核)、K7-205、K7-326

黒色安山岩4-①(第124図、PL.44)石核1点と剥片2点の計3点からなる接合資料である。K7-135(石核)+K7-142(剥片)+K7-141(剥片)

黒色安山岩5(第107・116図、PL.34・39)には非接合資料として、削器1点、石核1点、剥片6点の計8点がある。K7-42(削器)、K7-52、K7-76、K7-85、K7-150、K7-275、K7-292(石核)、K7-307

黒色安山岩6(第115図、PL.39)には非接合資料として、石核2点、剥片4点の計6点がある。K7-131(石核)、K7-136、K7-223、K7-232、K7-284(石核)、K7-309

黒色安山岩(第107・109図、PL.34・35)単独母岩として、削器1点、加工痕ある剥片1点、剥片2点の計4点がある。K7-13(削器)、K7-22(加工痕ある剥片)、K7-158、K7-233

黒色安山岩には分類不能な剥片18点、碎片7点、計25点がある。

黒色頁岩には、接合資料3例12点、非接合資料12点がある。黒色頁岩1の色調は灰白7/1(Hue10Y)。やや風化している。黒色頁岩1-①(第125・126図、PL.44)礫の分割面か、あるいは打面作成面を打面として、連続して縱志向の剥片を数枚剥離し、その剥片剥離面を打面として90°転位して、さらに連続剥離する。石核1点と剥片7点の計8点からなる接合資料である。K7-180(剥片)→K7-245(剥片)+K7-168(剥片)→

K7-174(剥片)→K7-171(剥片)→K7-172(石核)

K7-176(剥片)→K7-178(剥片)→

### 第3章 各遺跡の遺構・遺物

黒色頁岩 1-② 剥片 2点の接合資料である。K7-175→K7-179 非実測

黒色頁岩 1-③ 剥片 2点の接合資料である。K7-155→K7-161 非実測

黒色頁岩 1 (第108図、PL.35)には非接合資料として、加工痕ある剥片 1点と剥片 3点がある。K7-163 (加工痕ある剥片)、K7-165、K7-167、K7-181

黒色頁岩 (第111・114・126図、PL.37・38・44)単独母岩として、石刃 1点、石核 1点、剥片 2点がある。K7-20、K7-47 (石核)、K7-194 (石刃)、K7-207

黒色頁岩には分類不能な剥片 4点がある。

珪質頁岩は、24点が出土した。このうち、接合資料は 2例 4点である。

珪質頁岩 1-①(第110図、PL.36)使用痕ある剥片の折断資料である。K7-182+K7-201

珪質頁岩 2-①(第126図、PL.44)剥片 2点の接合資料である。K7-159→K7-202

珪質頁岩 3 の非接合資料には、剥片 2点がある。K7-25、K7-28

珪質頁岩 4 の非接合資料は、石核 2点、加工痕ある剥片 1点、剥片 6点の計 9点がある。K7-5、K7-77、K7-78、K7-96、K7-98、K7-109 (石核)、K7-117、K7-126 (加工痕ある剥片)、K7-251 (石核)

珪質頁岩 (第110・107・113・115図、PL.36・34・38・39)単独母岩として、削器 1点、楔形石器 1点、使用痕ある剥片 2点、石核 2点、剥片 1点の計 7点がある。K7-23 (使用痕ある剥片)、K7-38 (使用痕ある剥片)、K7-45 (削器)、K7-203 (楔形石器)、K7-255 (石核)、K7-291 (石核)、K7-303 (剥片)

珪質頁岩には分類不能とした石核 1点、碎片 1点がある。K7-316 (石核)、K7-331 (碎片)

碧玉 1 (第113図、PL.38)非接合資料として、石核 1点と剥片 2点がある。K7-56 (石核)、K7-60、K7-258

碧玉 2 (第110図、PL.36)非接合資料として、使用痕ある剥片 1点と剥片 1点がある。K7-267、K7-269 (使用痕ある剥片)

碧玉 (第111図、PL.36)単独母岩として石刃 1点がある。K7-220

チャートは、計73点があり、接合資料10例41点と非接合資料32点からなる。

チャート 1-①(第126図、PL.45)石核 1点と剥片10点の計11点からなる接合資料である。K7-343 (剥片)→K7-324 (剥片)→K7-317 (剥片)→K7-312 (剥片)→K7-330 (剥片)→K7-313 (剥片)+K7-322 (剥片)→K7-329 (剥片)→K7-323 (剥片)→K7-314 (剥片)→K7-327 (石核)

チャート 1 には非接合資料として剥片 2点がある。K7-319、K7-324

チャート 2-①(第127図、PL.45)石核 1点と剥片 6点の計 7点からなる接合資料である。K7-143 (剥片)→K7-132 (剥片)→K7-129 (剥片)→K7-144 (剥片)→K7-137 (剥片)→K7-166 (剥片)→K7-145 (石核)

チャート 3-①(第127図、PL.45)石核 1点と剥片 3点からなる接合資料である。K7-69 (剥片)→K7-16 (剥片)→K7-27 (剥片)→K7-49 (石核)

チャート 3-②(第128図、PL.45)石核 2点と剥片 2点からなる接合資料である。K7-58 (石核)→K7-156 (剥片)→K7-19 (剥片)→K7-55 (石核)

チャート 3 (第107・108・110図、PL.34～36)には非接合資料として、削器 1点、加工痕ある剥片 1点、使用痕ある剥片 3点、剥片 2点の計 7点がある。K7-2 (使用痕ある剥片)、K7-15 (剥片)、K7-33 (使用痕ある剥片)、K7-44 (加工痕ある剥片)、K7-254 (削器)、K7-264 (剥片)、K7-287 (使用痕ある剥片)

チャート 4-①(第128図、PL.46)石核 2点と剥片 3点の計 5点からなる接合資料である。K7-272 (石核)→K7-271 (剥片)→K7-273 (剥片)→K7-270 (剥片)→K7-274 (石核)

チャート 4 (第111・113図、PL.36・38)には非接合資料として、石刃 1点、石核 1点、剥片 2点がある。K7-37 (剥片)、K7-196 (石刃)、K7-217 (石核)、K7-276 (剥片)

チャート 5-①(第129図、PL.46)剥片 2点の接合資料である。K7-71+K7-70

チャート 5 (第107・109図、PL.34・35)には非接合資料として、彫器 1点(K7-4)と加工痕ある剥片 1点(K7-12)がある。

チャート6-①(第129図、PL.46)石核1点と剥片1点からなる接合資料である。K7-34(石核)+K7-41(剥片)

チャート6(第108図、PL.35)には非接合資料として、加工痕ある剥片1点と剥片3点の計4点がある。K7-8(剥片)、K7-62(加工痕ある剥片)、K7-148(剥片)、K7-160(剥片)

チャート7-①(第128図、PL.46)剥片2点の接合資料である。K7-6→K7-10

チャート7には非接合資料として、剥片1点がある。K7-9

チャート8-①(第128図、PL.46)加工痕ある剥片2点の接合資料である。K7-289→K7-288

チャート9-①(第111図、PL.36)石刃の折断資料である。K7-247+K7-234

チャート10(第109・114図、PL.35・38)には非接合資料として、加工痕ある剥片1点、石核1点、剥片4点である。K7-21(剥片)、K7-26(剥片)、K7-29(剥片)、K7-40(剥片)、K7-48(加工痕ある剥片)、K7-248(石核)

チャート11には非接合資料として剥片2点がある。K7-31、K7-32

チャート(第110～112図、PL.36・37)単独母岩として、使用痕ある剥片1点、石核2点がある。K7-146(使用痕ある剥片)、K7-190(石核)、K7-259(石核)

ホルンフェルスI-①(第129図、PL.46)石核1点、剥片2点からなる接合資料である。K7-206(剥片)→K7-249(剥片)→K7-250(石核)

ホルンフェルス(第108・109・116・117図、PL.35・36・39・40)には単独資料として、石核2点、加工痕ある剥片2点、剥片6点の計10点がある。K7-206(剥片)、K7-246(石核)、K7-249(剥片)、K7-250(石核)、K7-277(剥片)、K7-278(剥片)、K7-280(剥片)、K7-283(加工痕ある剥片)、K7-285(加工痕ある剥片)、K7-305(剥片)

#### (5) 剥片剥離技術

分割縫を素材に、裏面側原石面の周辺から中心に向けて幅広剥片を剥離する。この技法では、剥離される石刃や剥片の表面や側面の一部に原石面が残る割合が高い。また、石核も裏面に原石面が残る分割縫を素材とすることから、原石面がしっかりと残り、表裏面の周縁から中心に向かう剥片剥離が多く認められる。この傾向は出土している石核や剥片などの石器からも窺える。

#### (6) 分布状況(第130・219図)

拡張7区の西には北東-南西方向に延びる浅い谷があり、石器群の分布域は北西側で弱く傾斜(第165図の垂直分布を参照)していた。現状で、石器分布は東西約40m・南北約30mに分布しているが、実際は掘削深度の関係で段階的に調査されており、さらに南側に広がることが確実である。石器ブロック16が認定されているが、ブロック間の境界は明瞭ではない。2・3号ブロック間および9・12号ブロック間に空白域があるように見える。

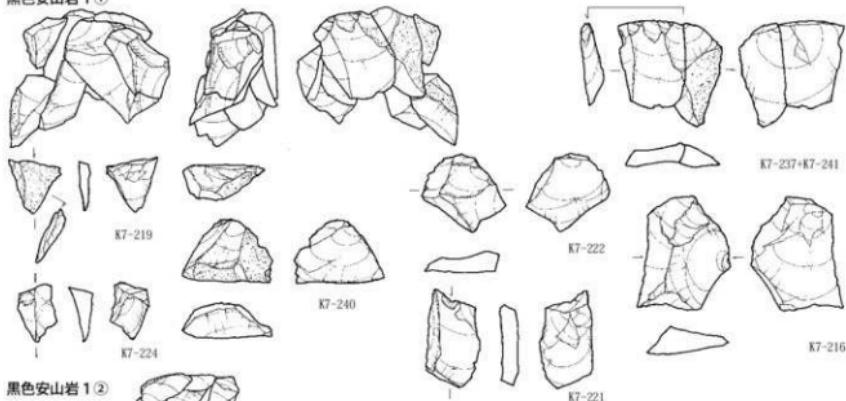
#### (7) 石器の分布(第131～134図)

ナイフ形石器などの主要な石器はあまりないものの、器種別にみると彫器が14号ブロックから、削器が13号ブロックと14号ブロックと15号ブロック、加工痕ある剥片や石刃などは大部分のブロックから出土している。石器製作に関係する石核については9点も分布する7号ブロックをはじめとして、1・2・3・4・5・6・8・10・11・12・13・15・16号の大部分のブロックで出土している。また、敲石は15号ブロックの2点を筆頭に、2・5・6・8・13号の各ブロックに分布する。台石も4号ブロックの3点を筆頭に、7号ブロックの2点、13号ブロックに分布する。

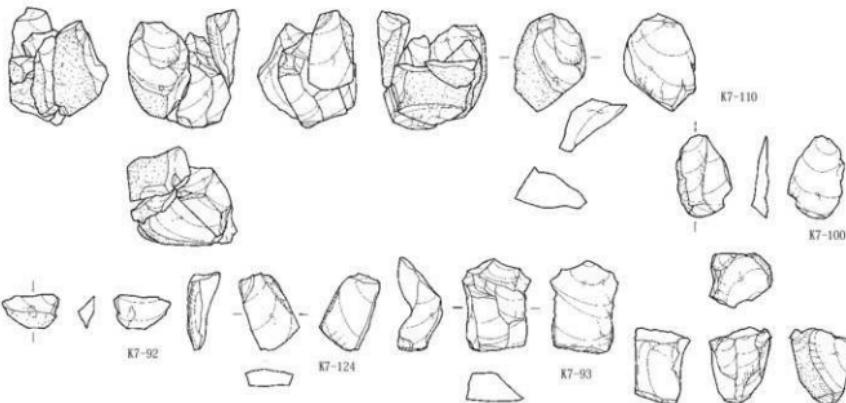
#### (8) 石材の分布(第135図)

石材構成が多様で、遍在性の指摘は難しい。黒色安山岩が7・8号ブロックに、黒色頁岩が6号ブロックに、チャートは1・8号ブロックに集中する傾向が指摘できる程度である。その他、珪質頁岩が1号ブロックにあるほか、7号ブロックの北側と14号ブロック周辺に偏在するようである。

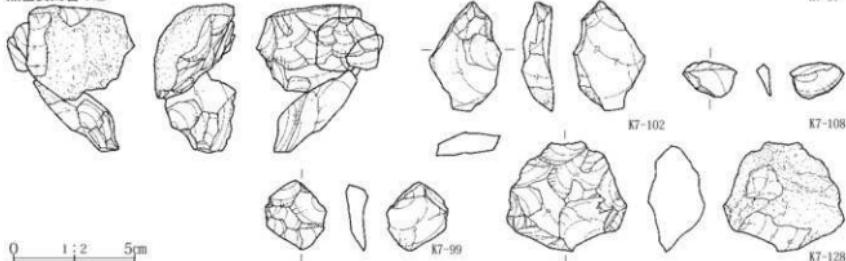
第3章 各遺跡の遺構・遺物  
黒色安山岩 1①



黒色安山岩 1②

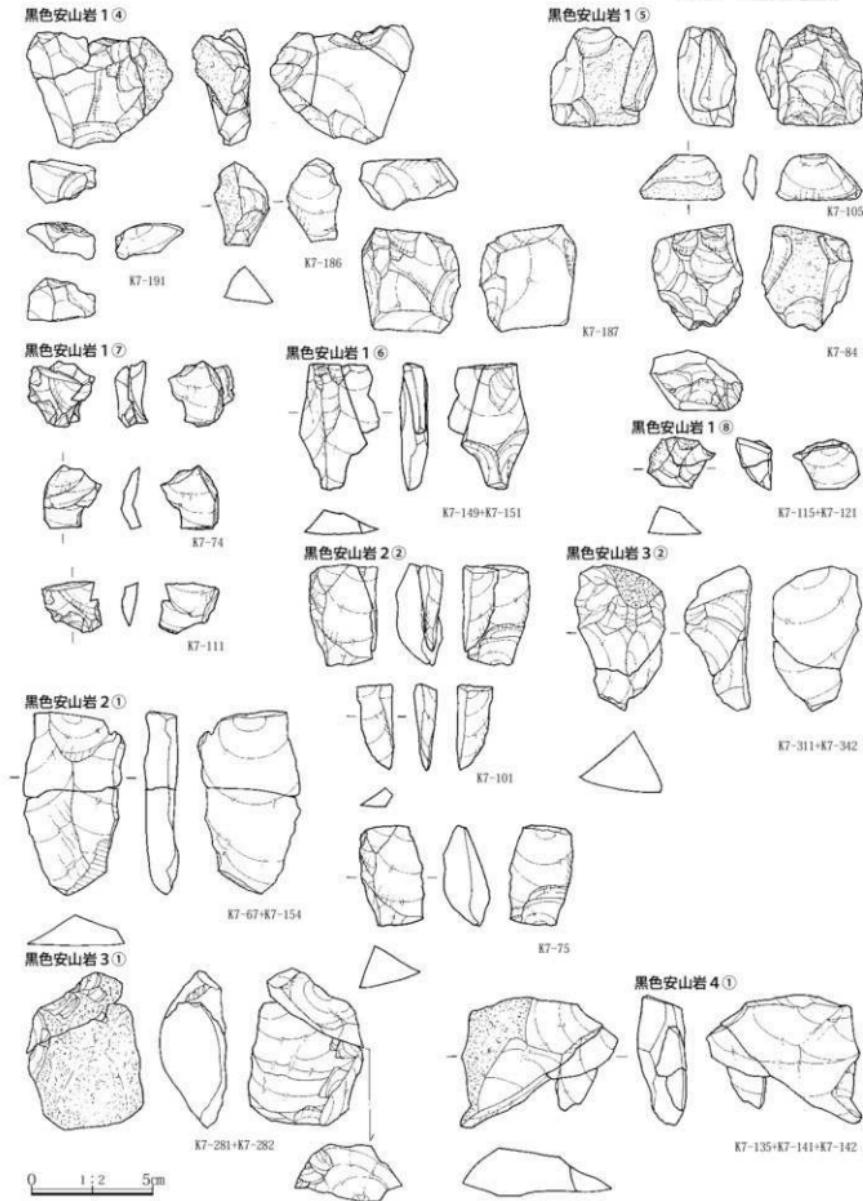


黒色安山岩 1③

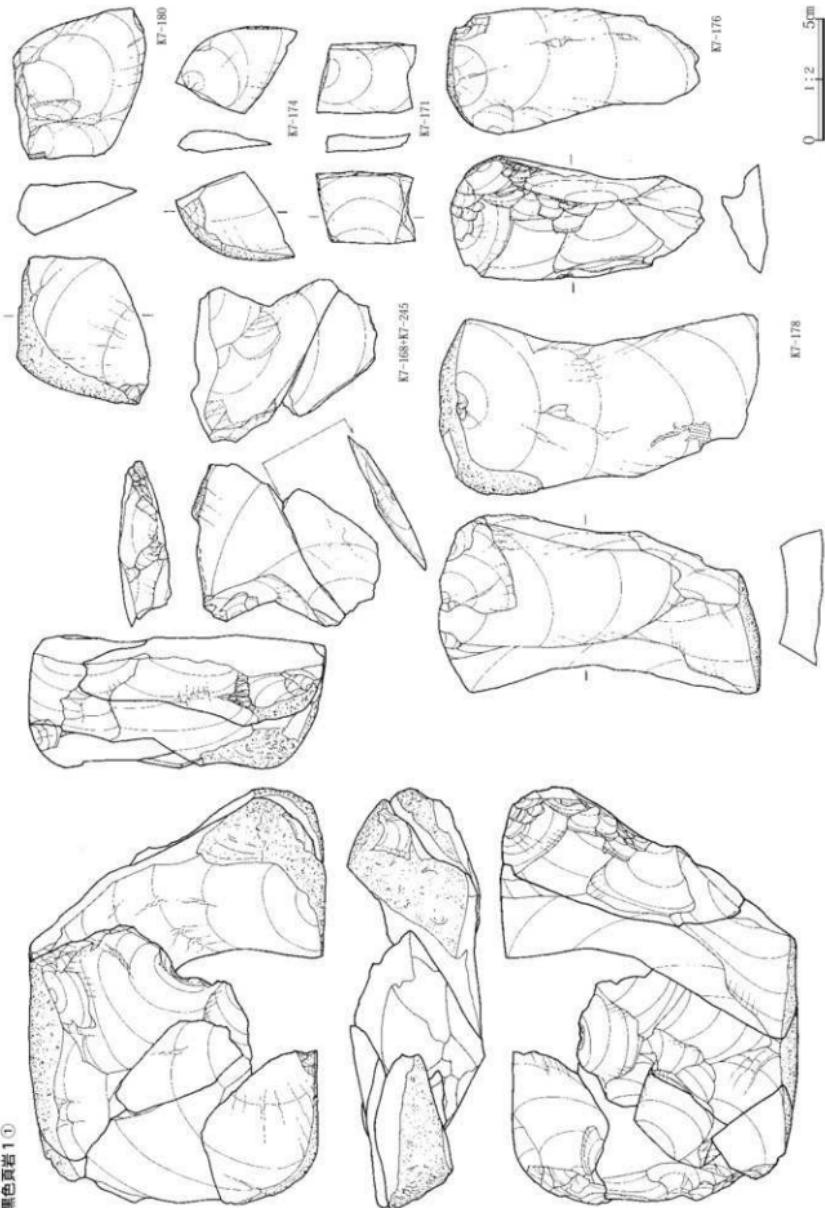


0 1:2 5mm

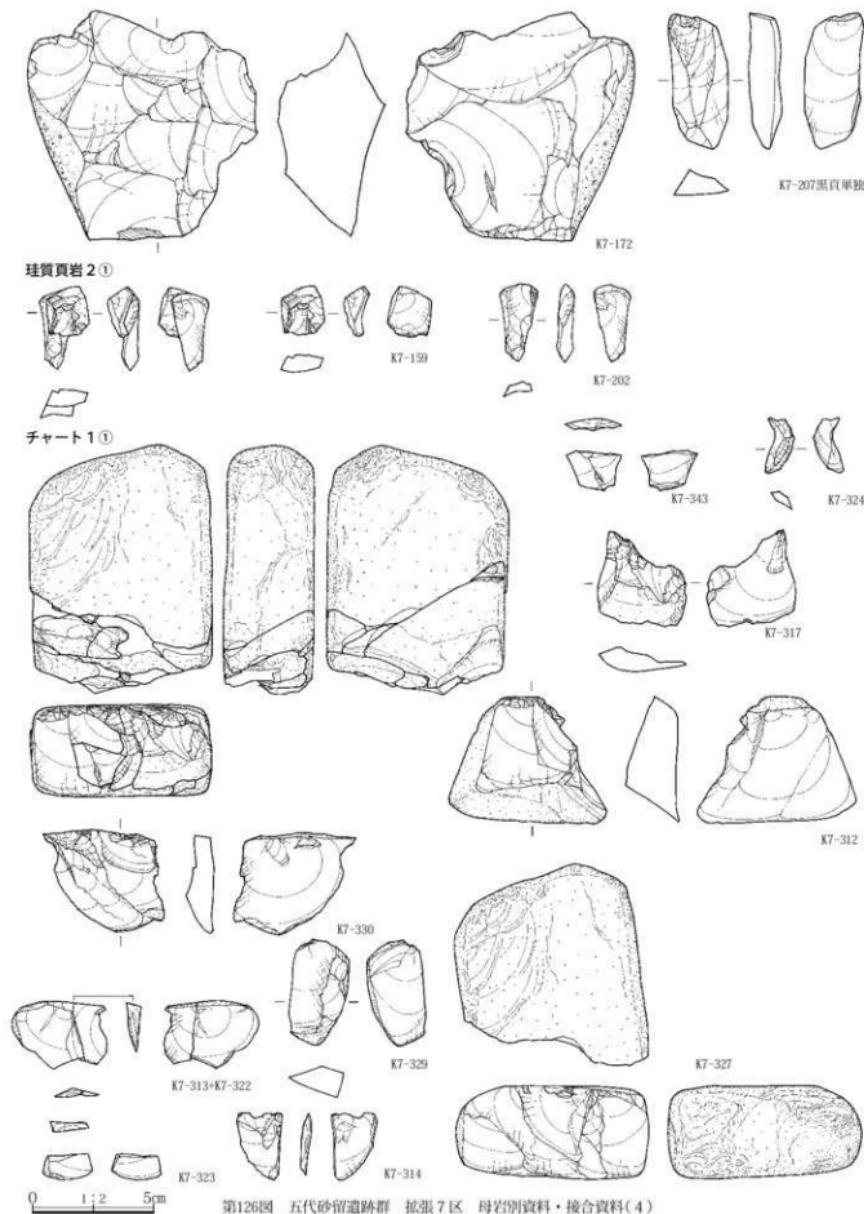
第123図 五代砂留遺跡群 拡張7区 母岩別資料・接合資料(1)



第124圖 五代砂留遺跡群 拡張7区 母岩別資料・接合資料(2)



黒色頁岩1①



第126図 五代砂留遺跡群 拡張7区 母岩別資料・接合資料(4)

チャート2①

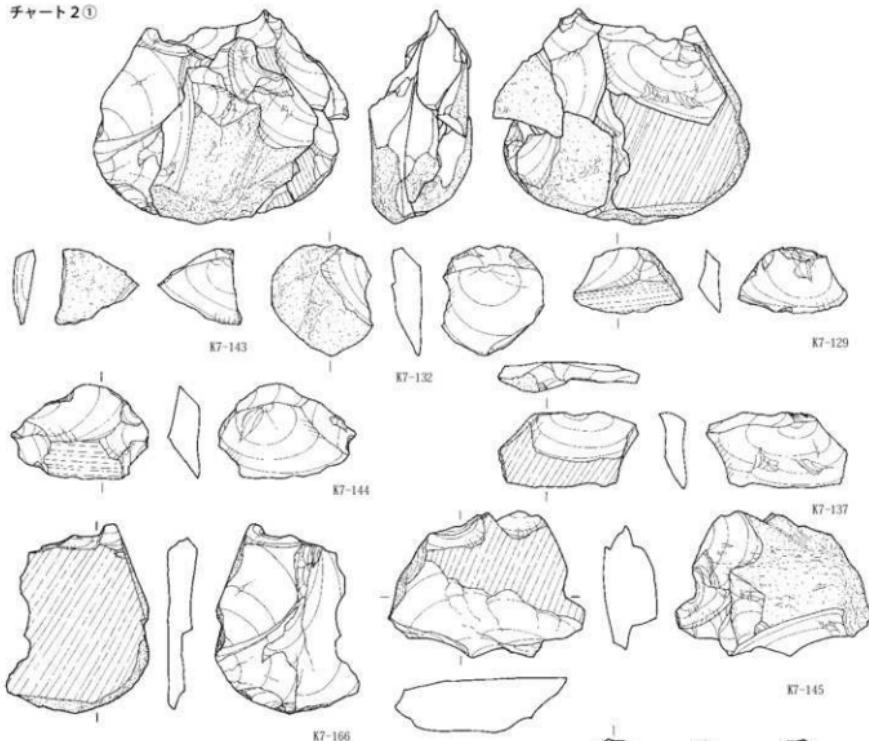
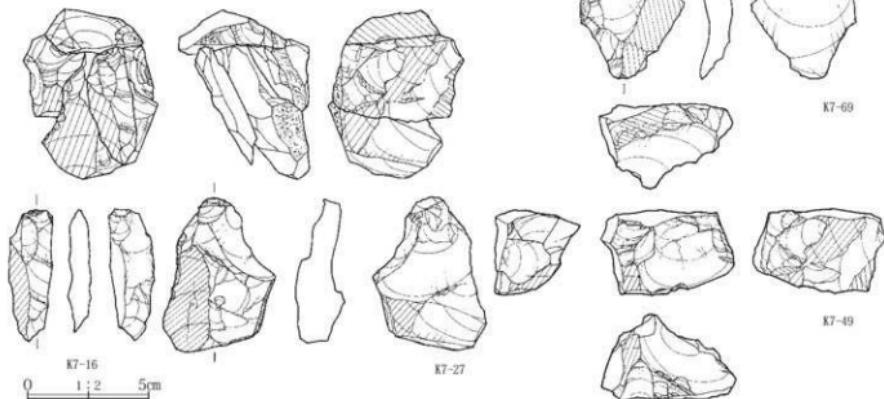


チャート3①



第127図 五代砂留遺跡群 拡張7区 母岩別資料・接合資料(5)

第4節 五代砂留遺跡群

チャート3②

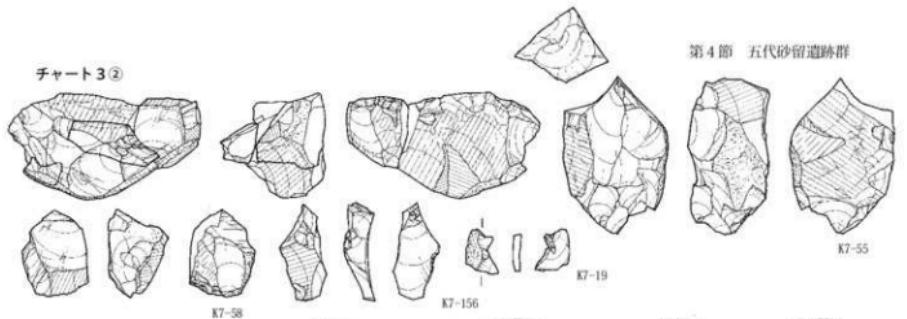


チャート4①

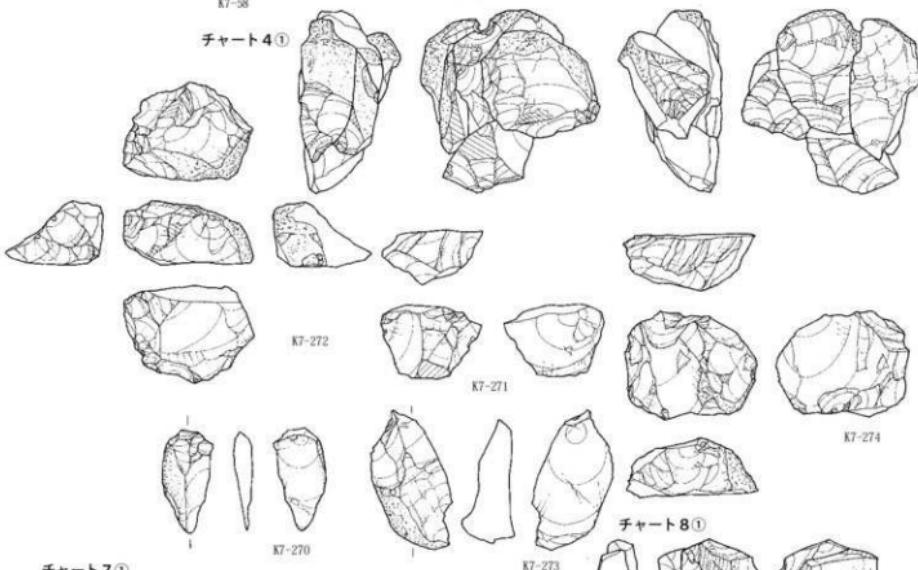
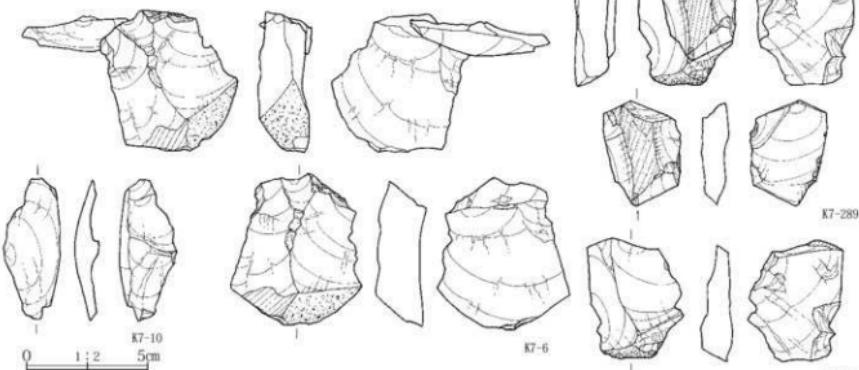
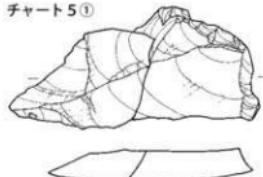


チャート7①



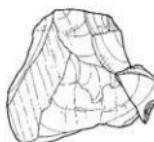
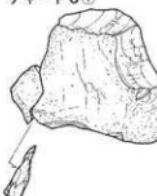
第128図 五代砂留遺跡群 拡張7区 母岩別資料・接合資料(6)

チャート5①



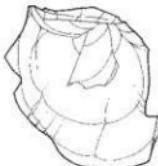
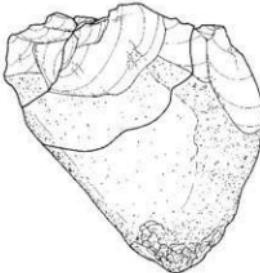
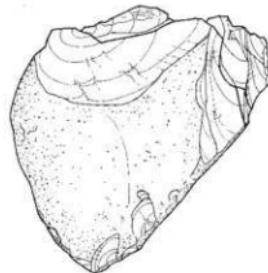
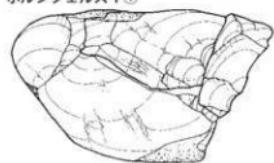
K7-70+K7-71

チャート6①



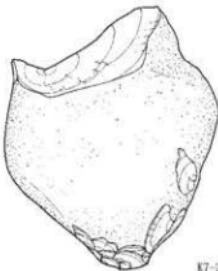
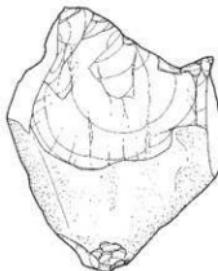
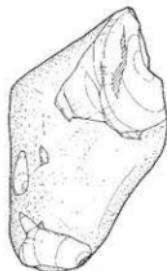
K7-34+K7-41

ホルンフェルス1①



K7-206

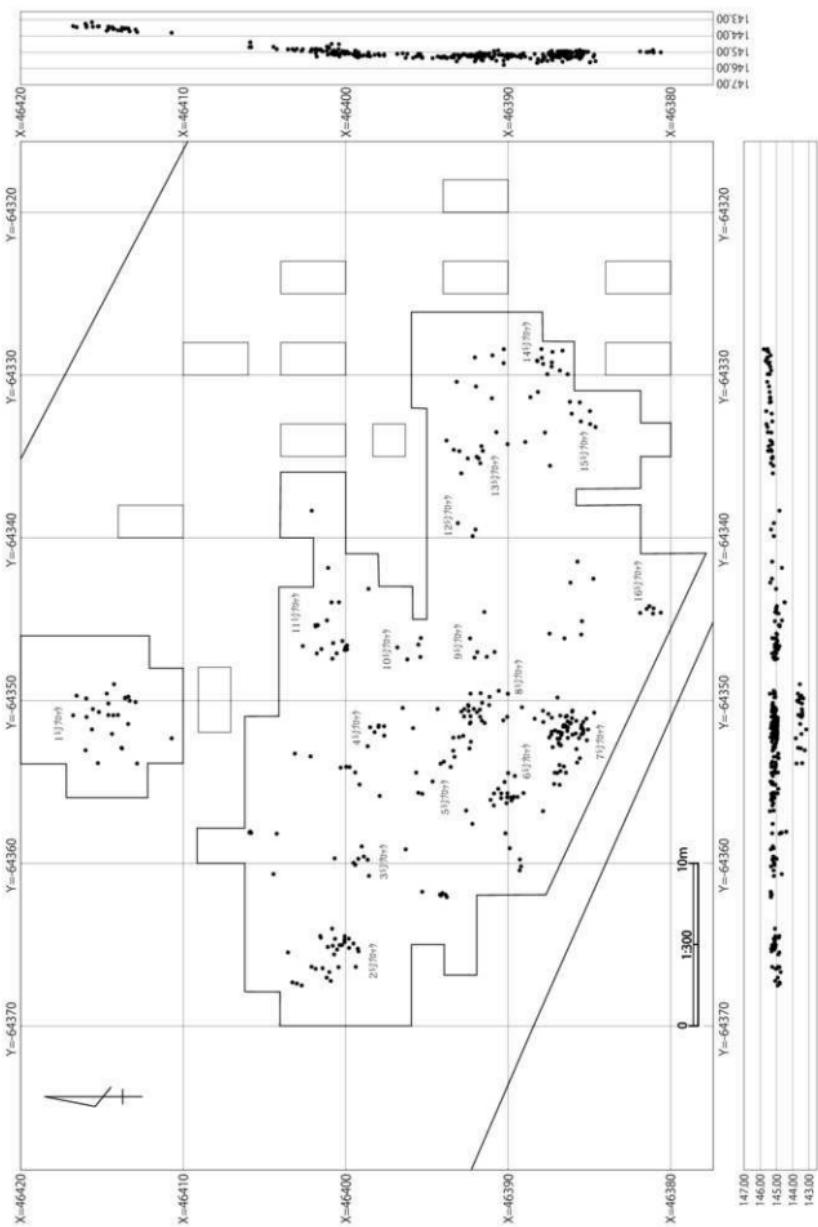
K7-249



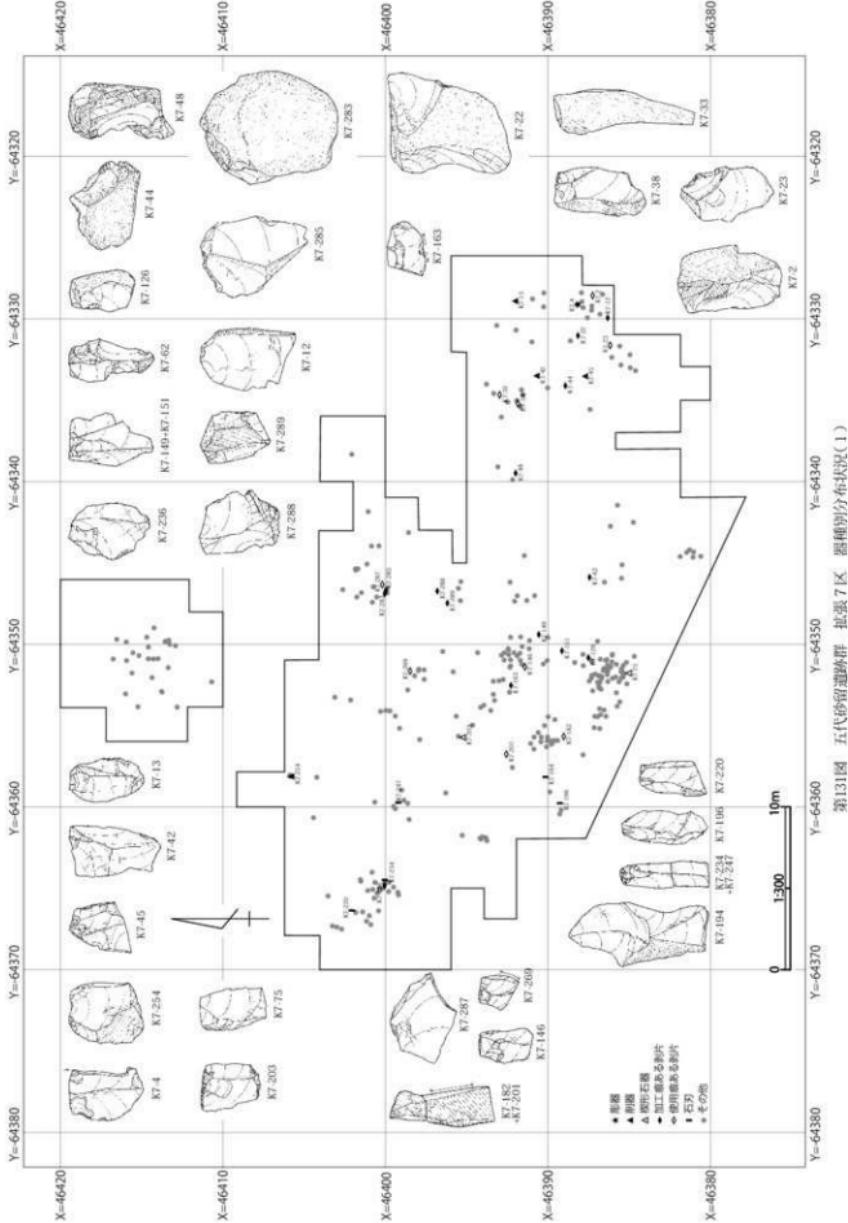
K7-250

0 1:2 5mm

第129図 五代砂留遺跡群 拡張7区 母岩別資料・接合資料(7)



第130圖 五代砂留遺跡群 拖張7區 石器分布・垂直分布狀況



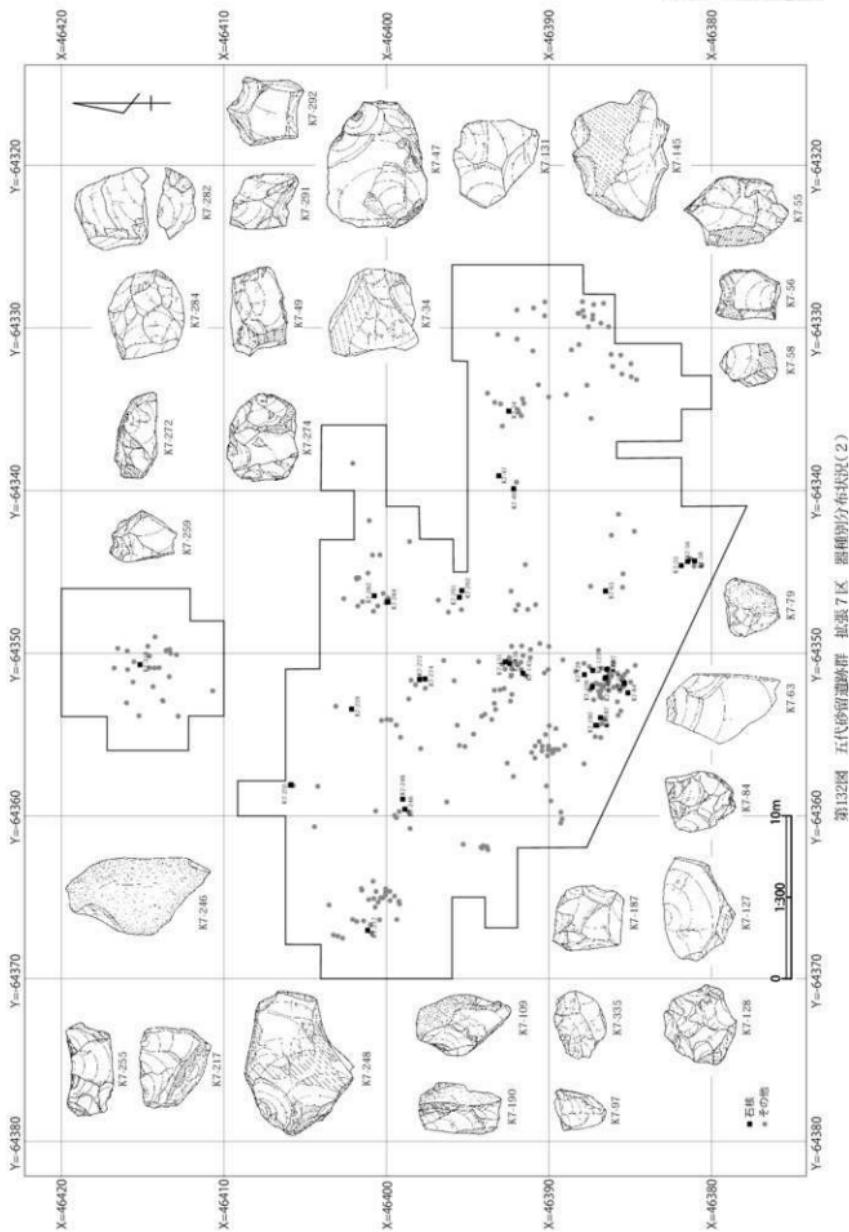
第131図 五代砂留道跡群 扩張7区 器種別分布状況(1)

Y=64340 Y=64350 Y=64360 Y=64370 Y=64380

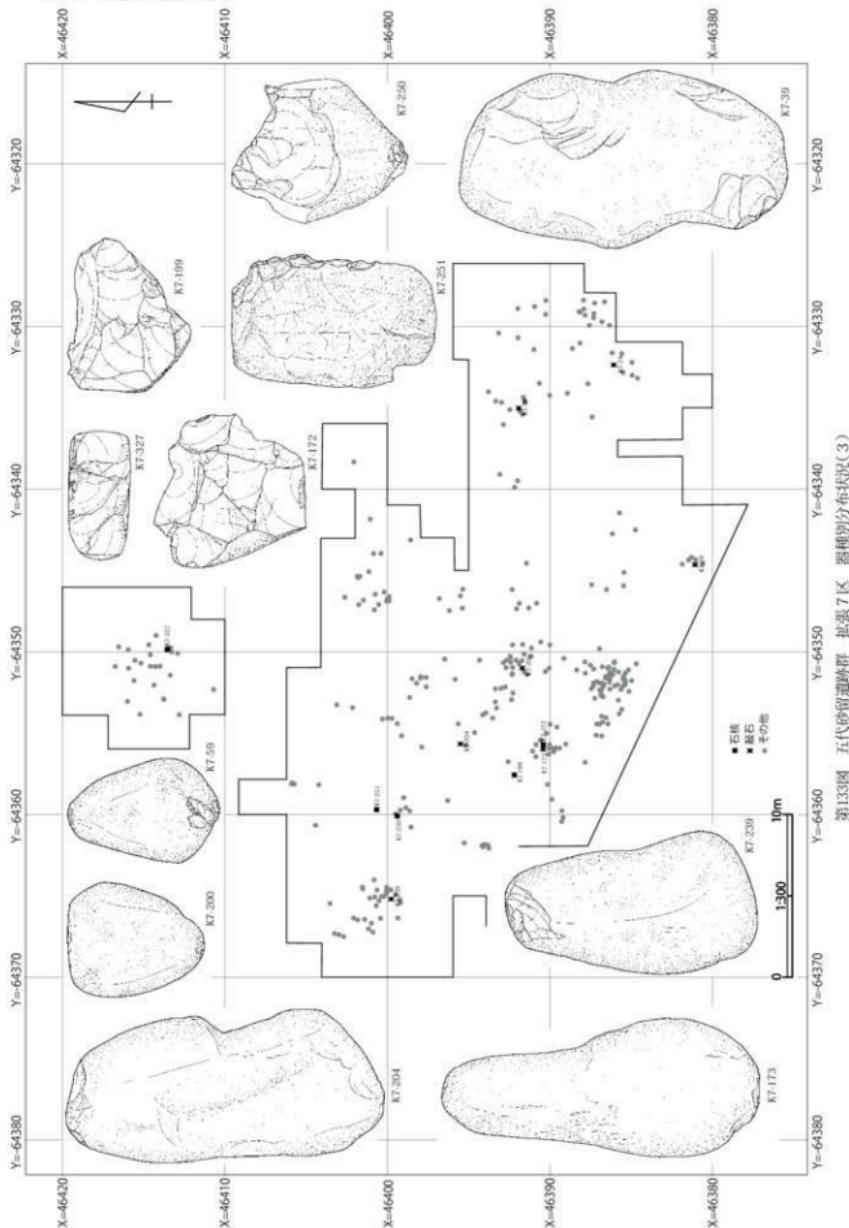
Y=64320

Y=64330

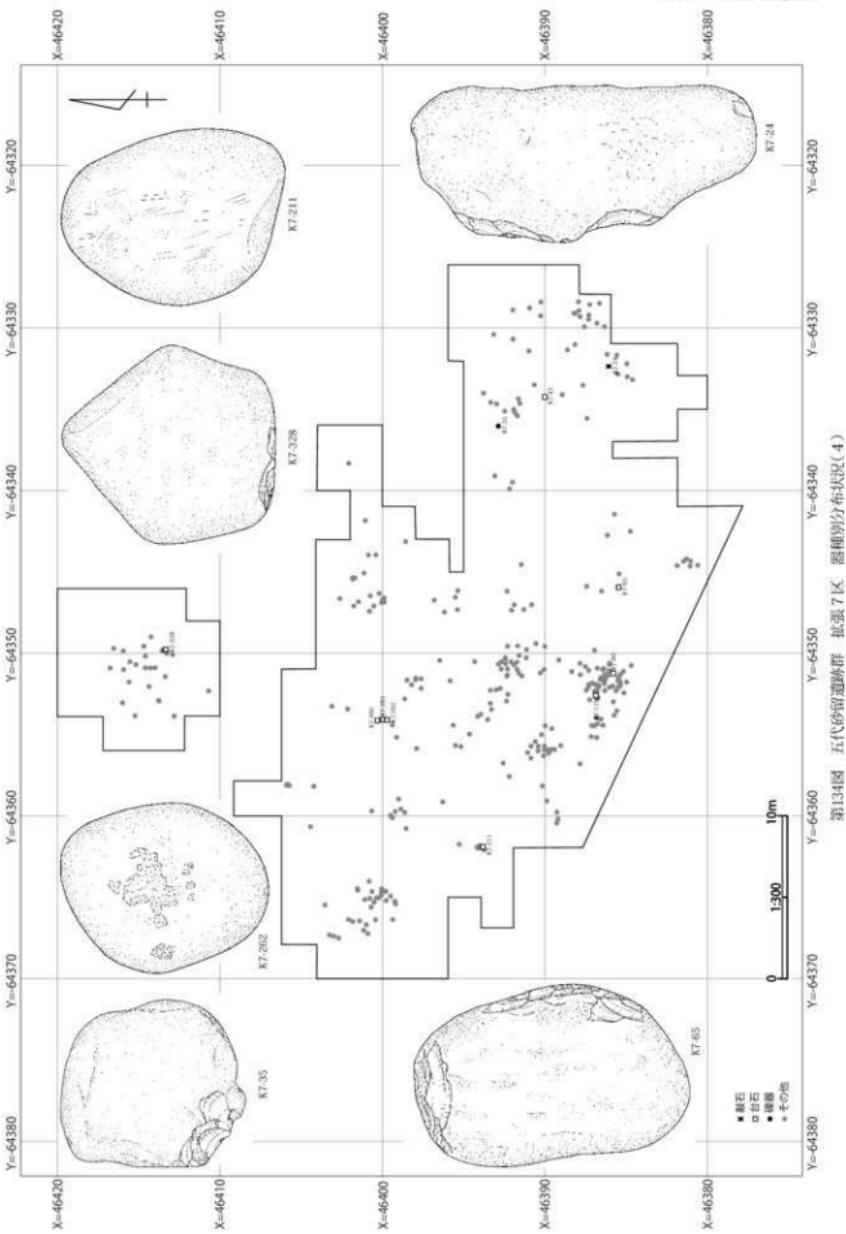
Y=64340



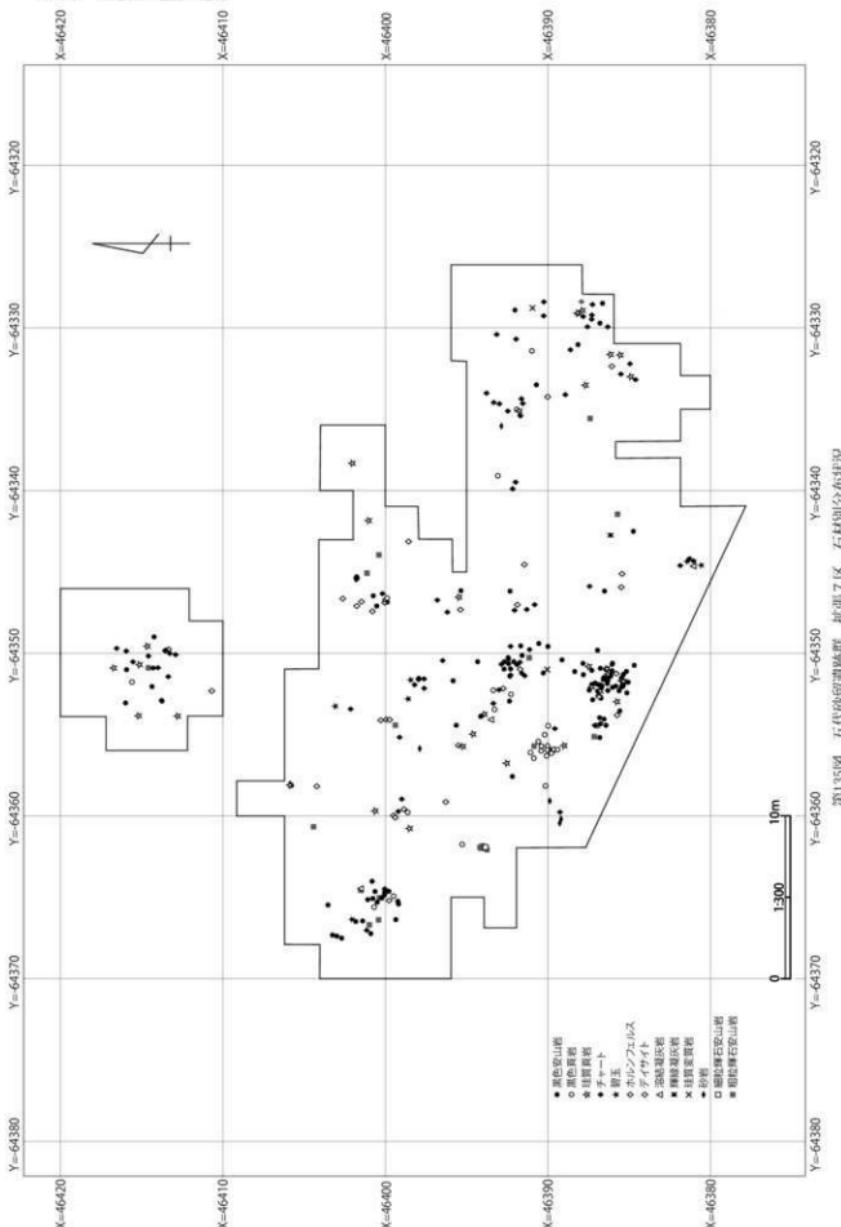
第132図 五代砂留遺跡群 批張7区 器種別分布状況(2)

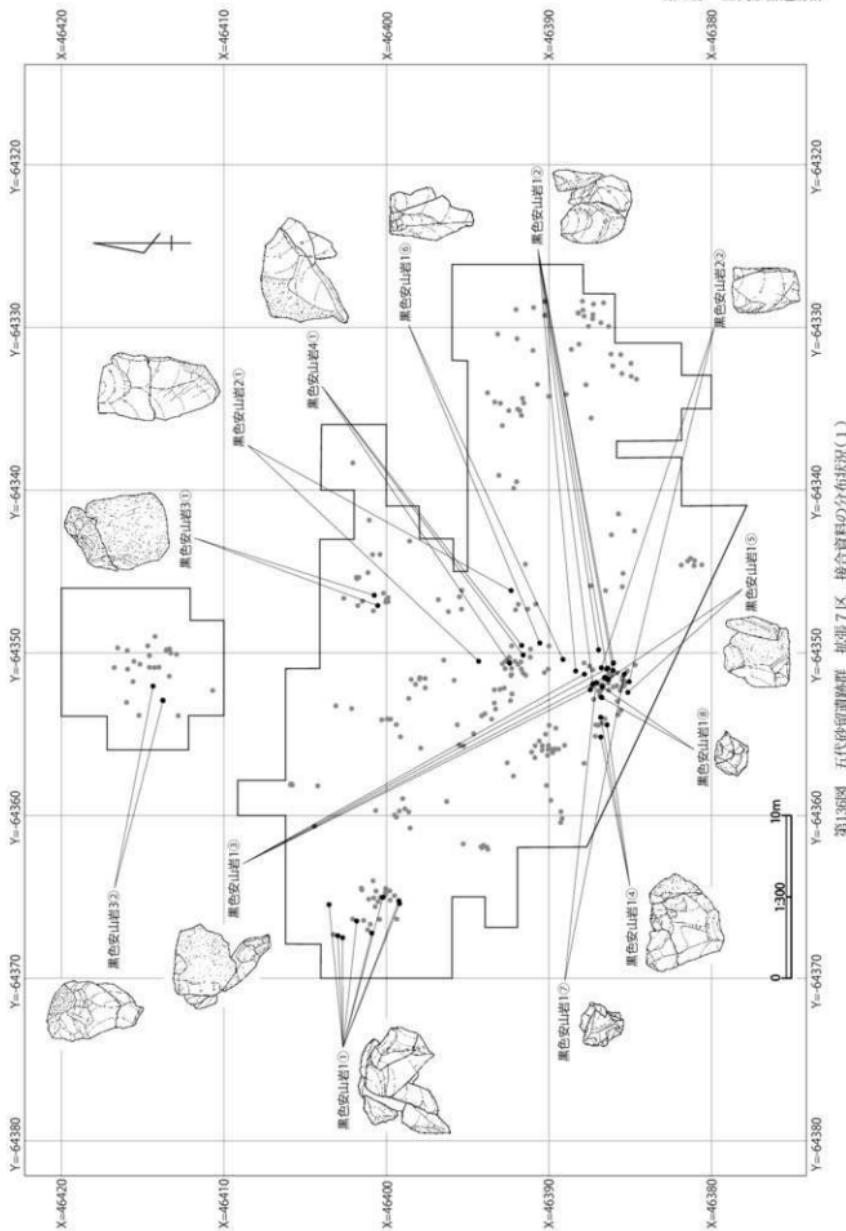


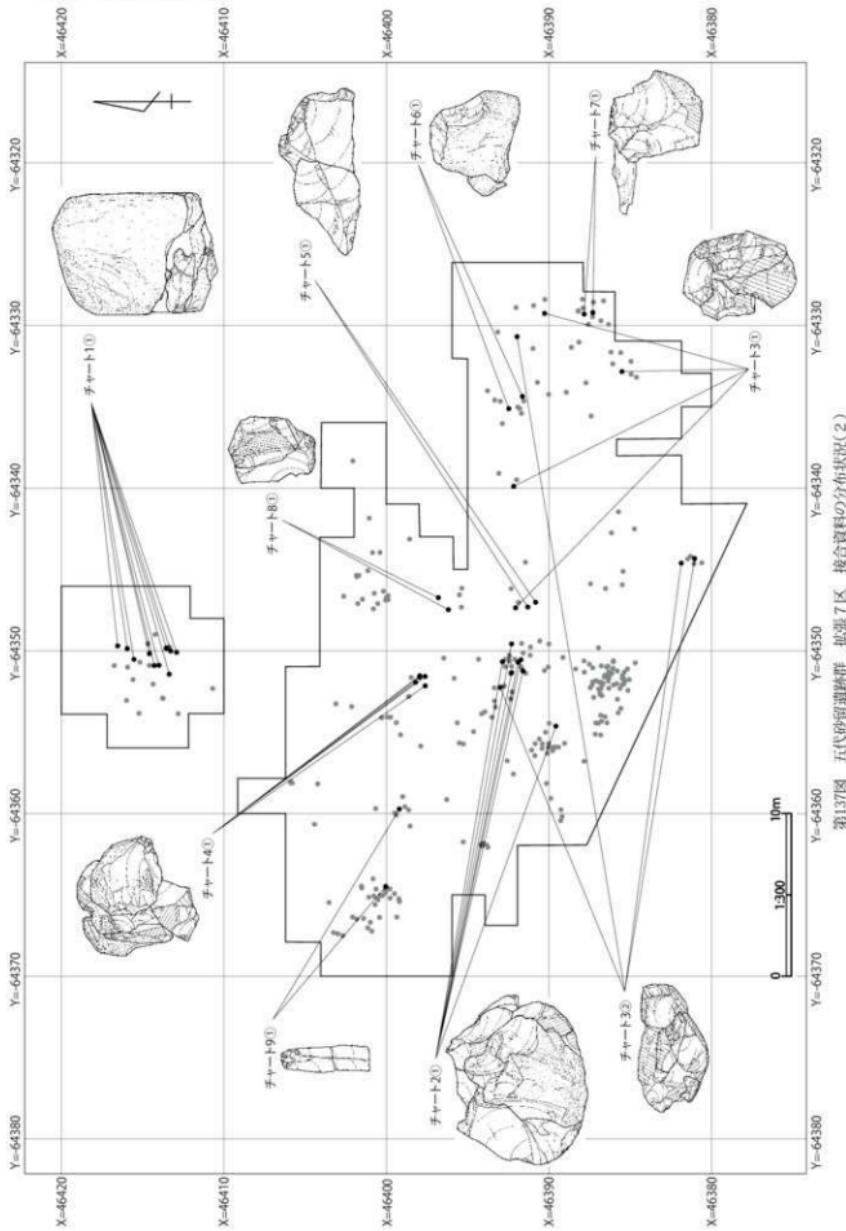
第133図 五代砂留道跡群 拡張7区 器種別分布状況(3)

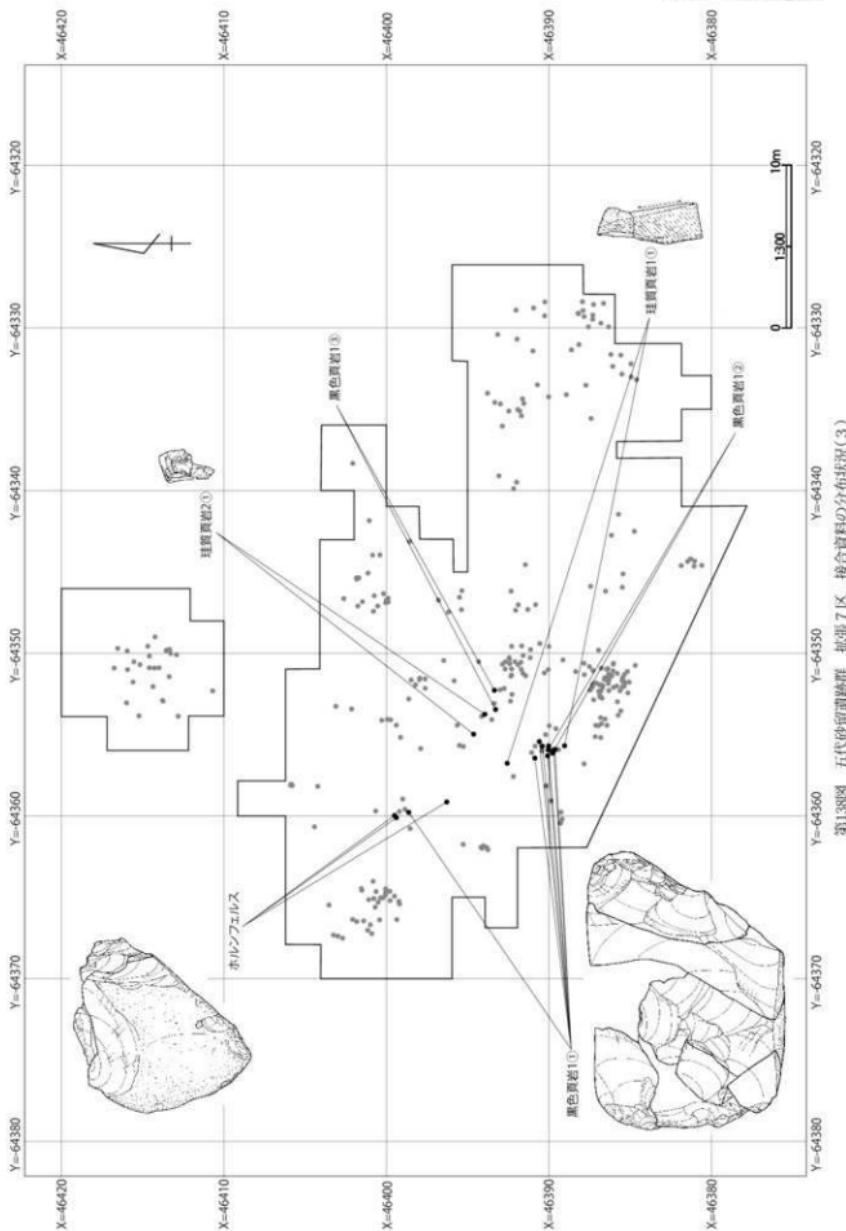


$y = -64350$   $y = -64340$  路群 扩张 7X 铅酸型分布图(4)







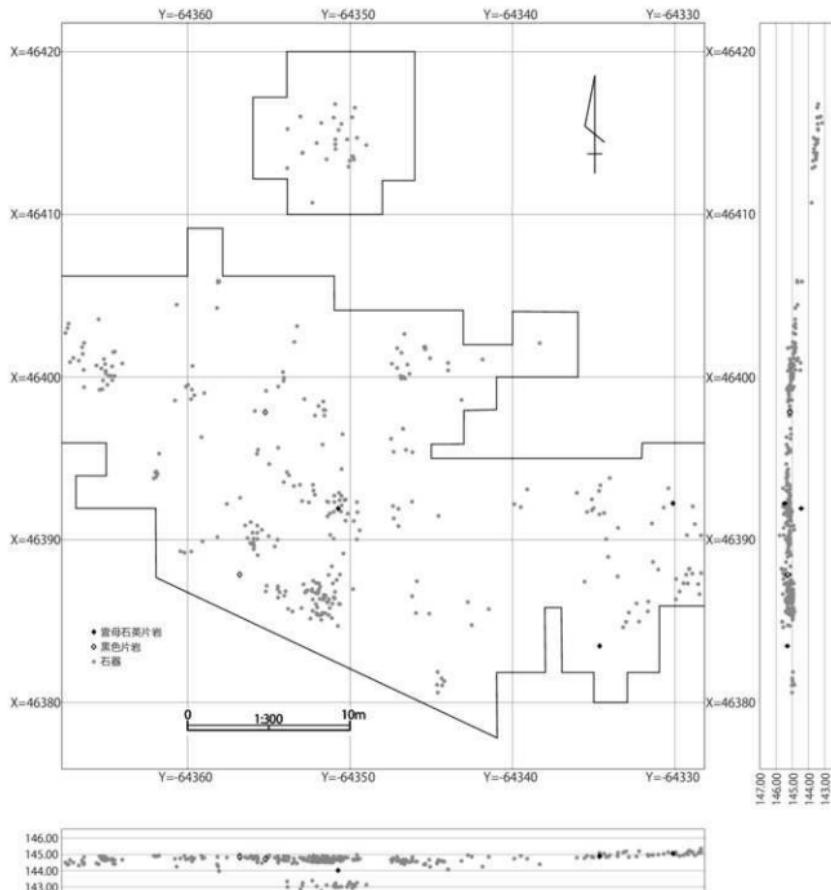


## (9) 接合資料の分布(第136～138図)

接合資料は事例も点数もあまり多くはなく、大部分の資料が個々のブロック内で完結する。チャートだけが唯一、ブロック間をまたぐ形で分布しており、2号ブロックと3号ブロック、6号ブロックと8号ブロック、8号ブロックと13号ブロックと16号ブロック、9号ブロックと12号ブロックと15号ブロックの各1例ずつである。出土層位や石器組成などから、群馬Ⅱ期と想定される。

## その他(第139図)

結晶片岩類は、雲母石英片岩3点(K7-18、K7-30、K7-300)、黒色片岩2点(K7-266、K7-340)だけの分布である。



第139図 五代砂留遺跡群 拡張7区 結晶片岩の分布状況

## 第5節 芳賀東部団地遺跡

### 1 遺跡の概要

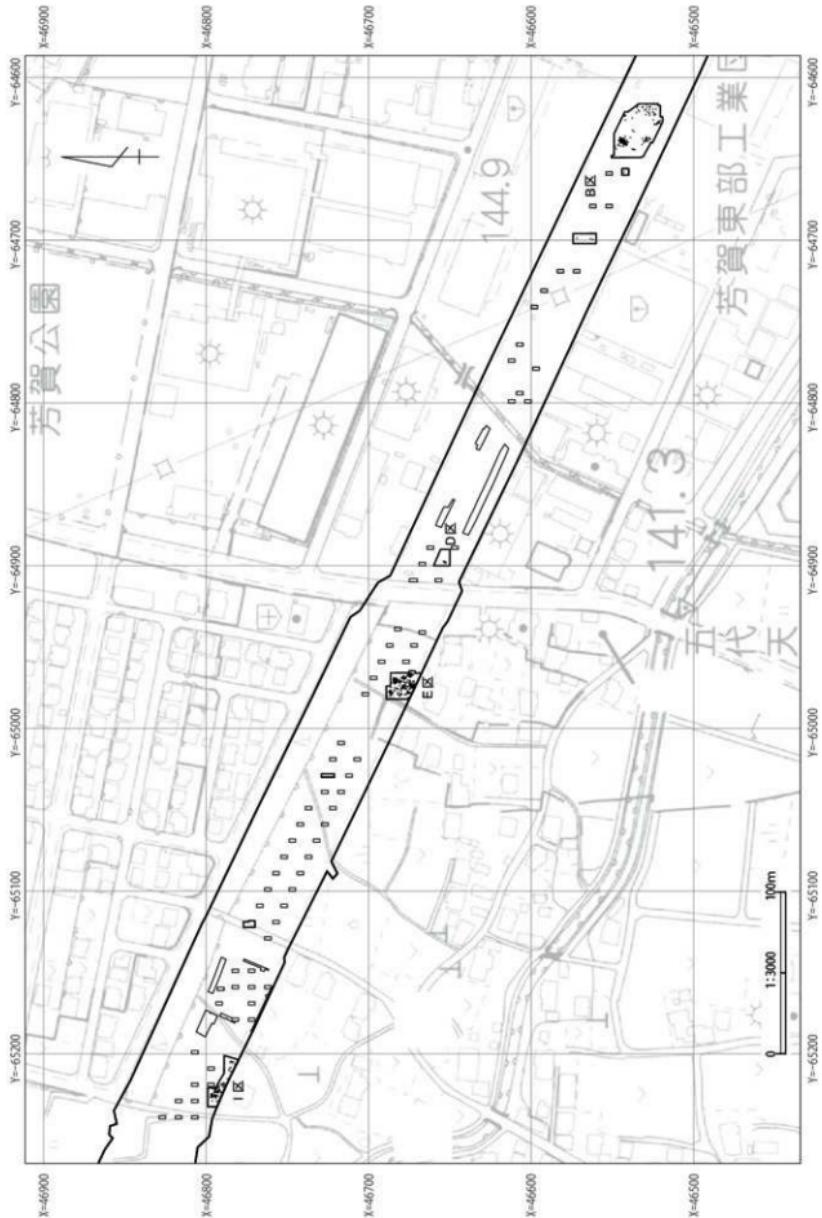
芳賀東部団地遺跡（JK56）は、赤城山南麓の小河川により開析されたローム台地上（標高145～147m）に立地する。旧石器時代の石器分布は6地点（B・D・E・F・G・I区）で確認されているが、本遺跡東側を五代川が、西側を金丸川が南流するほか、遺跡内のC・D区の境には天神川が流れる開析谷があり、本来的には2遺跡として理解すべきものと考えている。また、五代川一天神川間（A～C区）の台地には鉄塔があり、この鉄塔の両側には若干の起伏があり、B区環状ブロック群として一括報告されている西側の石器分布（Y=-64700）は50mほど離れた、深い凹部の対岸にあることから、別地点の文化層としてとらえるべきかもしれない。これと似た地形がE・F区の間にあり、この深い凹部の東にE区石器群は分布したことになる。現状で、この深い谷には湧水等は見られないが、藤沢川から延びる谷に続いている。

### 2 調査の経過

遺跡地の両側は造成が済んでおり、遺跡地だけが高く掘り残されていた。また、遺跡地は工業団地の駐車スペースとして利用、A区では厚さ4mを超える盛り土が、鉄塔東のC区でも2mを超える盛り土があり、また、D区西側の天神川による開析する谷も盛り土されていることが判明した。加えて、削平地点も多く、B区では駐車スペースにロームが直接露出するほどであった。このため、厚く盛り土されていたA区では沖積地の水田跡の存在確認も困難であった。こうしたローム層の削平地点はB区以外にもあり、礫群が確認されたD区でも未調査区域が生じる結果となった。上述したとおり、遺跡地は工業団地造成により高く掘り残された結果、掘削面が下がる旧石器調査では両側の安全勾配を見る必要上、未調査区域が拡大することによって石器分布が明らかにできない地点（B区環状ブロック群の南北両端）もあつた。発掘調査は遺跡東端のA区から開始、途中2地点に調査が分かれ、天神川以東のA～C区とそれより西（E～I区）を並行させ、調査を終えた。

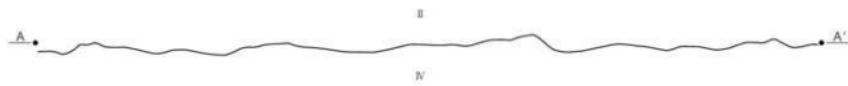


第140図 芳賀東部団地遺跡の文化層

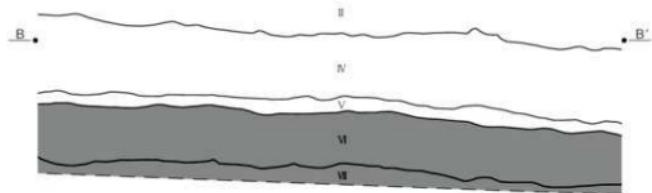


第141図 芳賀東部工地区 石器分布状況

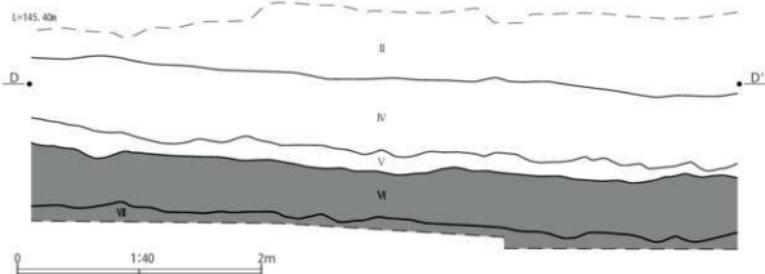
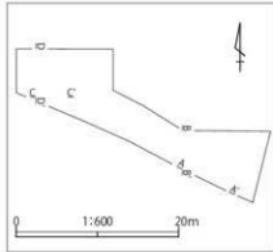
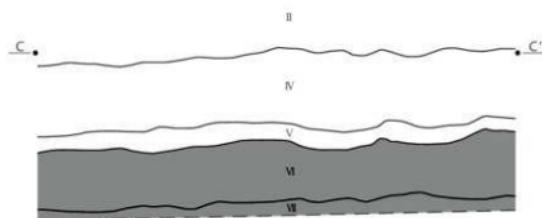
L=145.40m



L=145.40m

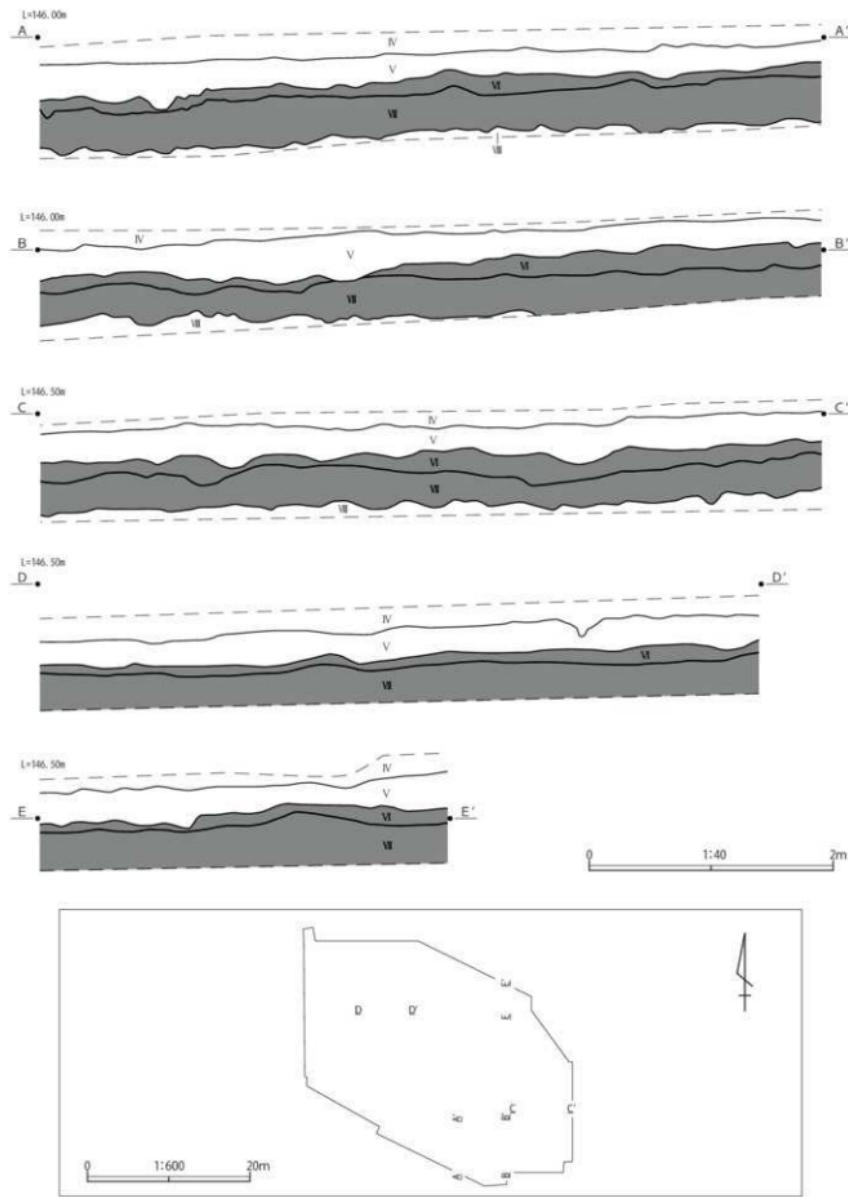


L=145.40m

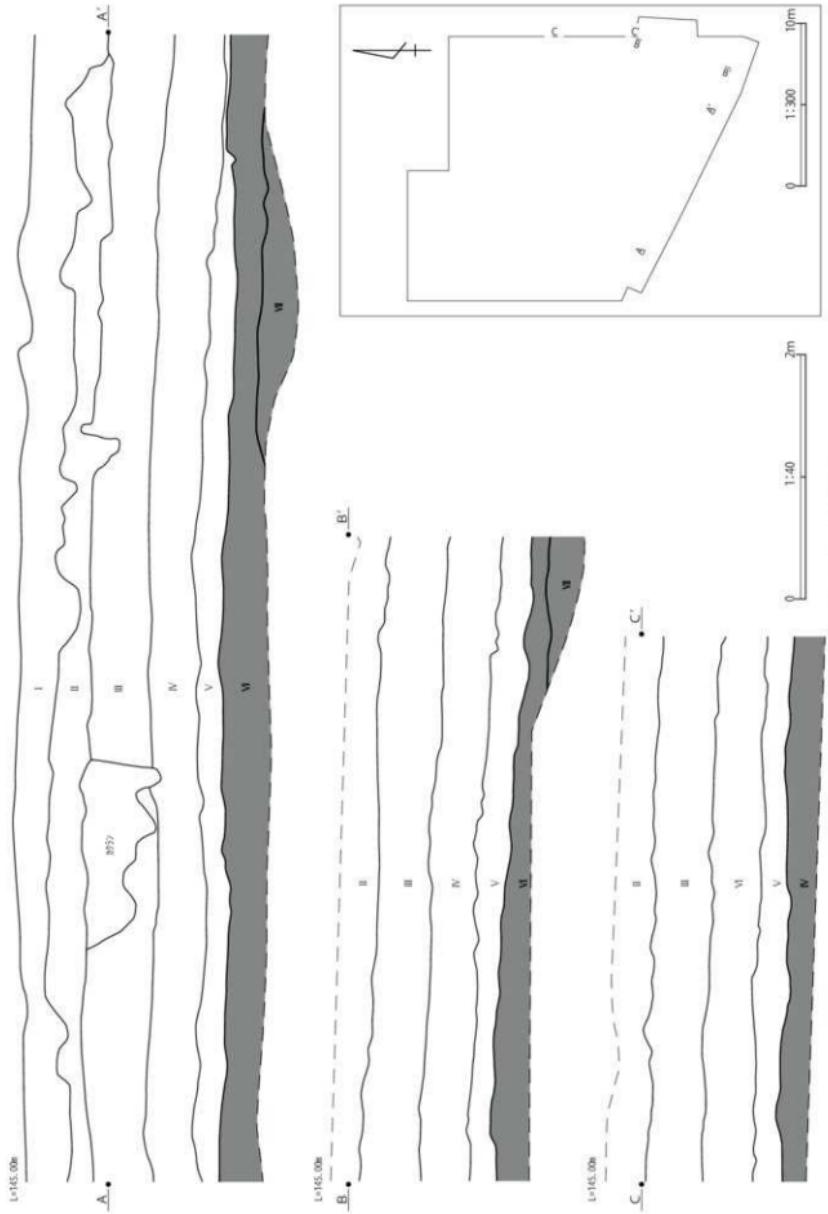


第142図 芳賀東部団地遺跡 I区 土層堆積状況

第3章 各遺跡の遺構・遺物



第143図 芳賀東部田地遺跡 B区 土層堆積状況



第144図 芳賀東部団地遺跡 E区 土層堆積状況

本遺跡で最初に旧石器が確認されたのは、第1文化層としたD区の砾群である。台地東端B区の環状ブロック群である。これと並行して台地西側のC区でも試掘調査がおこなわれたが、C区では旧石器分布は確認されなかった。B地点とした調査区は東西150mと広域に及んだため、環状ブロックの確認された地点以外に石器が分布するのか否か、これを確認した。遺跡の概要として述べたとおり、台地内部には微妙な起伏があり、微高地状の地点に試掘トレンチを設定して、その確認に努めたところ、環状ブロック群の西側50mの地点で暗色帶中から石刃類が出土することが明らかになった。この地点を拡張してその分布広がりを確かめることとした。この地点では剥片類数点を確認して調査を終えた。B区環状ブロック群については周辺域に石器分布が広がることが確実視されていたが、安全対策上これを断念した。これ以後、旧石器調査遺跡地の西側に移り、D区でAs-BP直下の砾群を、E区で小型の環状ブロック群を検出した。翌年、遺跡地西端のH区・I区でAs-BP下で砾群を伴う石器ブロックが検出、全調査を終えた。

### 3 第1文化層

第1文化層の石器群は、D区とI区から出土した。

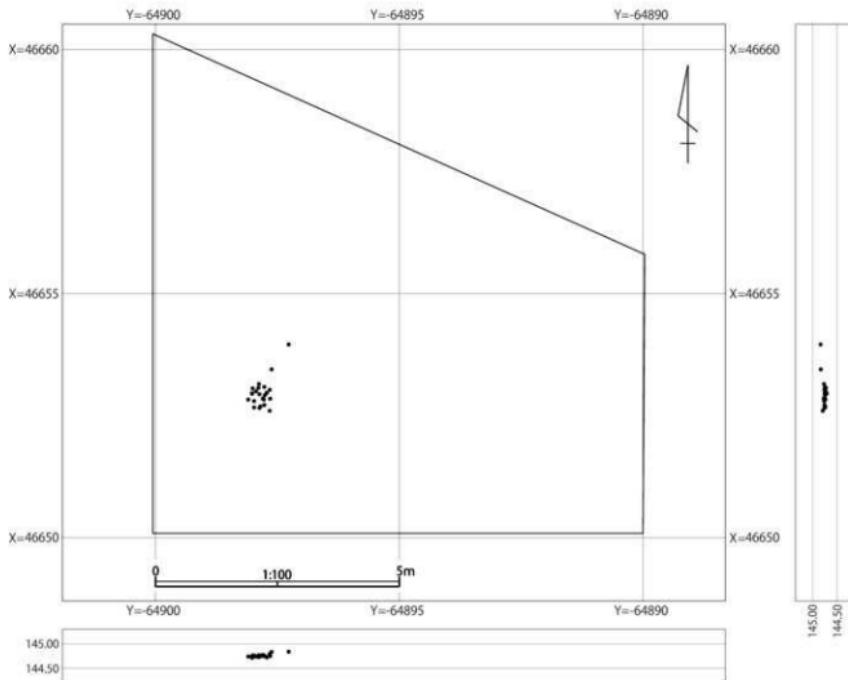
<D区> (第141・145・146図, PL.47-4~7)

(1) 出土層位

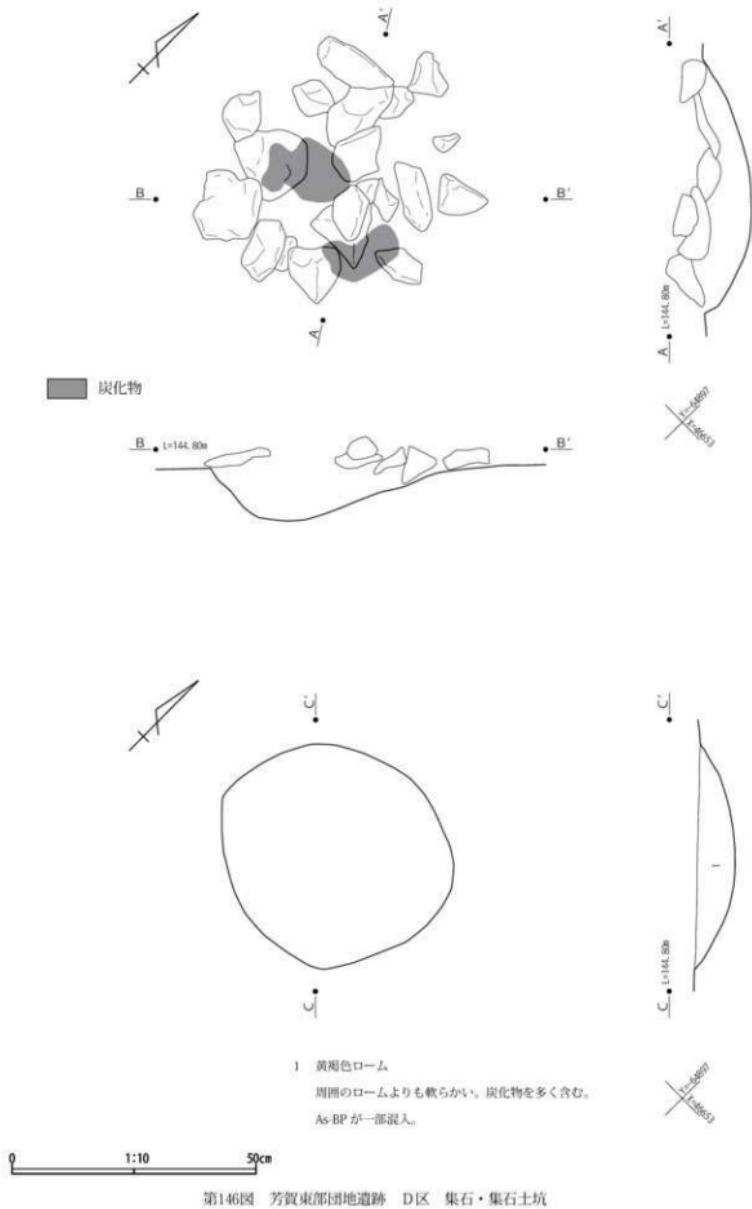
基本土層のV層である、浅間板鼻褐色輕石 (As-BP、約19,000 ~ 24,000年前) 直下から出土した (第140図)。

第17表 芳賀東部旧地遺跡 第1文化層 D区組成表

	塊	砾片	総計
粗粒輝石安山岩	1	23	24
総計	1	23	24



第145図 芳賀東部旧地遺跡 D区 砾分布・垂直分布状況



## (2) 検出遺構

IV層の浅間板鼻褐色軽石直下から礫群1ヶ所が検出された。礫群の集中性は高く、これから離れて北東側に数点の礫が分布しただけである。礫群内に炭化物・焼土を伴い、県内検出の礫群としては希な発見例となった。

礫群構成礫は、ほぼすべてが赤化していた。エレベーション図を作図したのち平面精査したところ、炭化物と焼土を作った円形プランが確認されたため、これを半裁調査した。土坑覆土にはAs-BPが含まれ、周辺より軟質であったとされている。土坑は長軸50cm・短軸44cm・深さ8cmを測り、皿状を呈していた。礫群構成礫は24点（約8kg、平均重量331.3g）があり、板状に剥がれているものが多い。破断面が新鮮であるものが多く、「使い回された」礫が使用されている可能性がある。

## (3) 出土遺物

石器などの遺物は1点も認められなかった。

時期は群馬編年のII期である。この礫群については、他の事例と比較した別稿で詳細を論じたい。

< I 区 > (第141・157～160図、PL.48-4・5)

## (1) 出土層位

基本土層のV層を中心にIV層からVI層にかけて出土している。テフラとの関係では浅間板鼻褐色軽石（As-BP、約19,000～24,000年前）の直下に出土したことがテフラ分析の結果明らかになった。

## (2) 検出遺構

礫群（第147図）が2ヶ所で検出されている。検出地点はI区の北東側で、北側より南側礫群（X=46795、Y=-65225）の集中性が高い。それぞれの構成礫は北側礫群が5点、南側礫群が14点で、このほか周辺域に3点の礫が散布していた。接合資料3が南側の礫群で確認されている以外、礫群間の接合はない。南北礫群の構成礫は7個体があり、破断面が新鮮であることから、構成礫は他の地点に持ち出されている、あるいは、持ち込まれている可能性が指摘できよう。石材はすべて粗粒輝石安山岩である。検出層位はAs-BPを含むIV層直下とされており、時期は群馬編年III期に相当する。接合資料は次の3例7点がある。礫1（I30+I31）、礫2（I32+I33）、礫3（I34+I28+I35）。

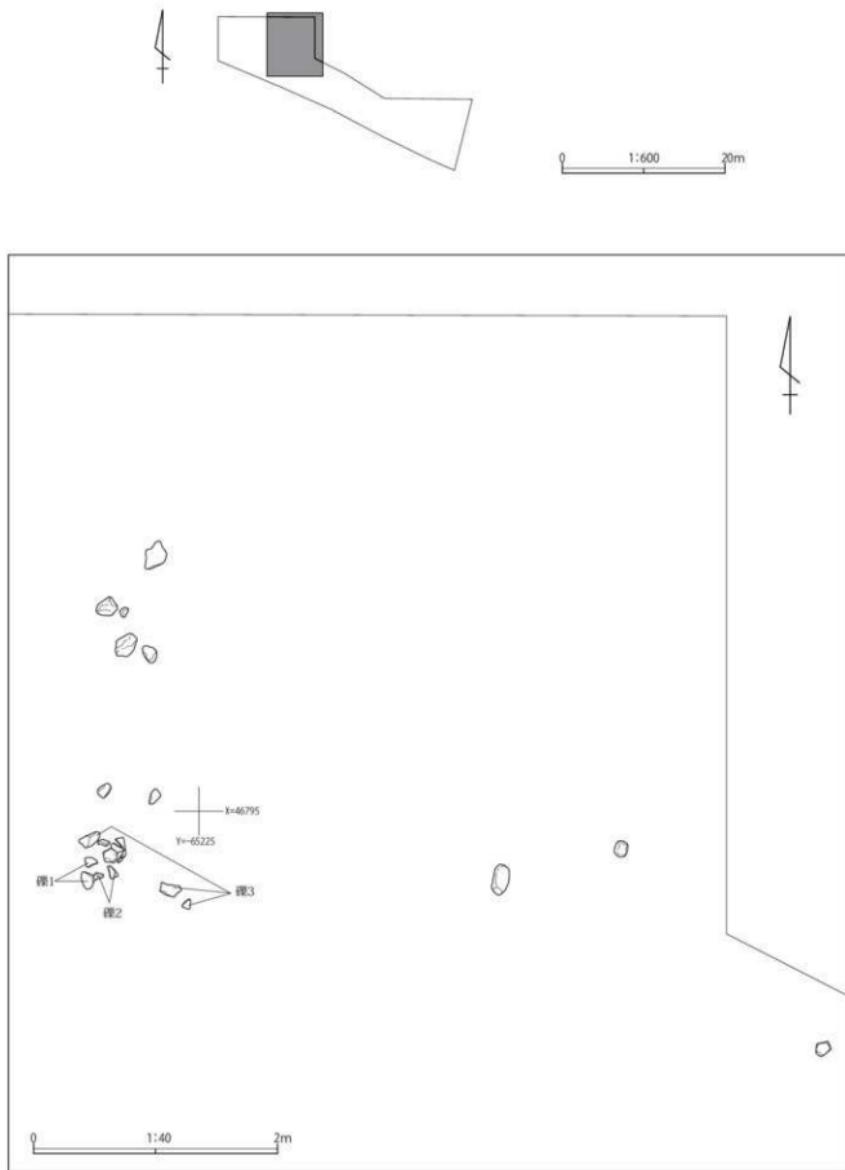
(3) 出土遺物 出土遺物の総点数は98点で、内訳は石器26点（26.5%）、剥片53点（54.1%）、礫・礫片19点（19.4%）である。石器の器種は、ナイフ形石器1点（1.3%）、削器3点（3.8%）、加工痕ある剥片3点（3.8%）、石刃11点（13.9%）、石核7点（8.8%）、台石1点（1.3%）、剥片53点（67.1%）である。石器の石材は、黒色安山岩45点（56.9%）、黒色頁岩32点（40.5%）、玉髓1点（1.3%）、粗粒輝石安山岩1点（1.3%）である。礫・礫片の石材は、19点すべて粗粒輝石安山岩である（第18表参照）。

次に、出土した石器を種類ごとに見ていくこととする。

**ナイフ形石器**（第148図、I38、PL.49）1点が出土している。一側縁に調整を施している。折断で一端を欠損しているが、あるいは基部と先端部が逆なのかもしれない。石材は黒色頁岩である。

**削器**（第148図、I42・I61・I102、PL.49）3点が出土している。I102は表面に原石面を残す大形の分割礫を素材に、打面付近の裏面に5回以上の剥離を加えて、打面及び打瘤を除去している。石材は黒色頁岩である。I61は大形の分割礫を素材に、一側縁の裏面に3回の剥離を加えている。石材は黒色頁岩である。I42は表面の一部に原石面を残す大形の剥片、あるいは分割礫を素材に、一側縁の裏面に3回の剥離を加えている。石材は黒色頁岩である。3点とも削器としては加工が大きく、可能性として2・3枚の小型剥片を剥離しただけの石核とすべきかもしれない。

**加工痕ある剥片**（第149図、I60・I62・I76、PL.49・50）3点が出土している。I62は大形の剥片を素材に、一側縁に加工を加えている。石材は黒色頁岩である。I76は原石面を打面とする大形の剥片を素材に、先端部に加工を加えている。石材は黒色安山岩である。I60は側面に原石面を持つ大形の剥片で、打面部分に加工を加えている。石材は黒色安山岩である。



第147図 芳賀東部团地遺跡 I区 碑分布状況

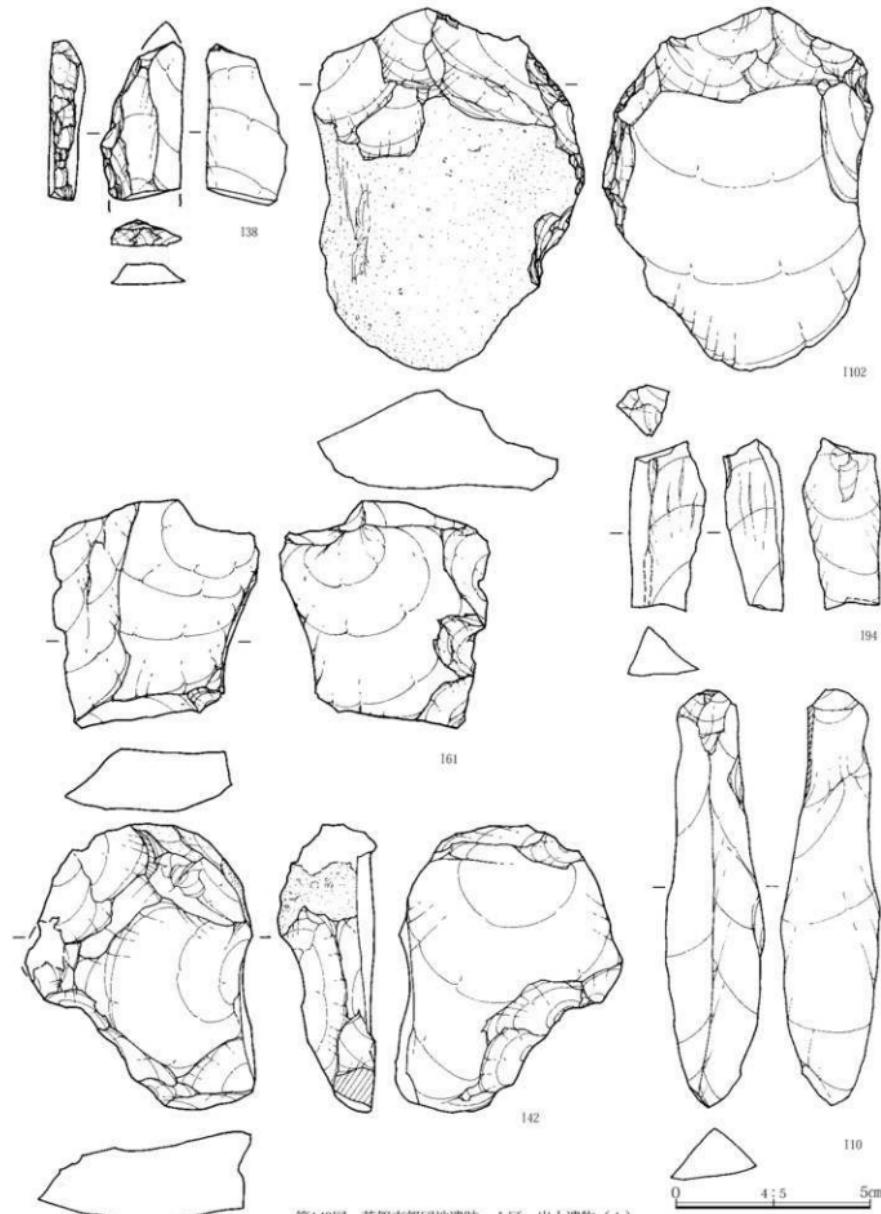
**石刃** (第148・149・150図、I10・146・151・153・172・173・177・182・185・194・195、PL.49・50・51) 11点が出土している。I94は表面的一面が180° 打面転位の剥離が残っている。先端部を欠損している。石材は黒色頁岩である。I10は左右対称の細長い資料である。石材は黒色頁岩である。I53は表面の片面に原石面を残す、やや幅広の資料である。石材は黒色安山岩である。I77は細長く、一側縁の一部に僅かな使用痕が残されている。石材は黒色安山岩である。I51は打面が大きな幅広の資料で、真ん中で折断され先端側を欠損している。わずか側縁に原石面が残っており、細かな加工も認められる。石材は黒色頁岩である。I85は幅広の資料で、折断され先端側を欠損している。石材は黒色頁岩である。I72は小さな打面の幅広の資料で、先端部に原石面を残す。表面的一面が180° 打面転位の剥離が残っている。石材は黒色頁岩である。I73は表面の先端部付近に原石面を残す。石材は黒色頁岩である。I82は台形の断面で、石材は黒色頁岩である。I95は小さな打面の幅広の資料で、先端部に原石面を残す。先端部からの180° 打面転位の剥離面が残っている。極状剥離に似ており、あるいは彫器かもしれない。石材は黒色頁岩である。I46(非実測)は打点が小さく、風化が激しい。

**石核** (第151・152図、I17・I41・I58・I81・I84・I93・I97、PL.51・52) 7点が出土している。I41は原石面が残る板状の剥片の分割面を打面として剥片剥離をして、打面を転位して繰り返す。石材は黒色頁岩である。I17は原石面が残る剥片の原石面や剥離面に打面を転位させて剥片剥離を繰り返す。石材は黒色安山岩である。I81は原石面が残る剥片の原石面や剥離面に打面を転位させて剥片剥離を繰り返す。石材は黒色頁岩である。I93は原石面が半分近く残る長軸8cm前後の楕円礫の一端を打ち欠いて打面を作り出し、縱長の剥片を数枚剥離し、その作業面を打面として90° 転位して剥片剥離を継続する。石材は黒色安山岩である。I97は原石面が2ヶ所に残る長軸5cm前後の分割した楕円礫の分割面を打面として縱長の剥片を数枚剥離し、その作業面を打面に90° 転位して剥片剥離を繰り返す。石材は黒色安山岩である。I84は原石面が半分近く残る長軸10cm前後の楕円礫の一端を打ち欠いて打面を作り出し、石材は黒色頁岩である。I58は板状の剥片の先端寄りの両側縁の表面から剥片を剥離している。石材は黒色頁岩である。

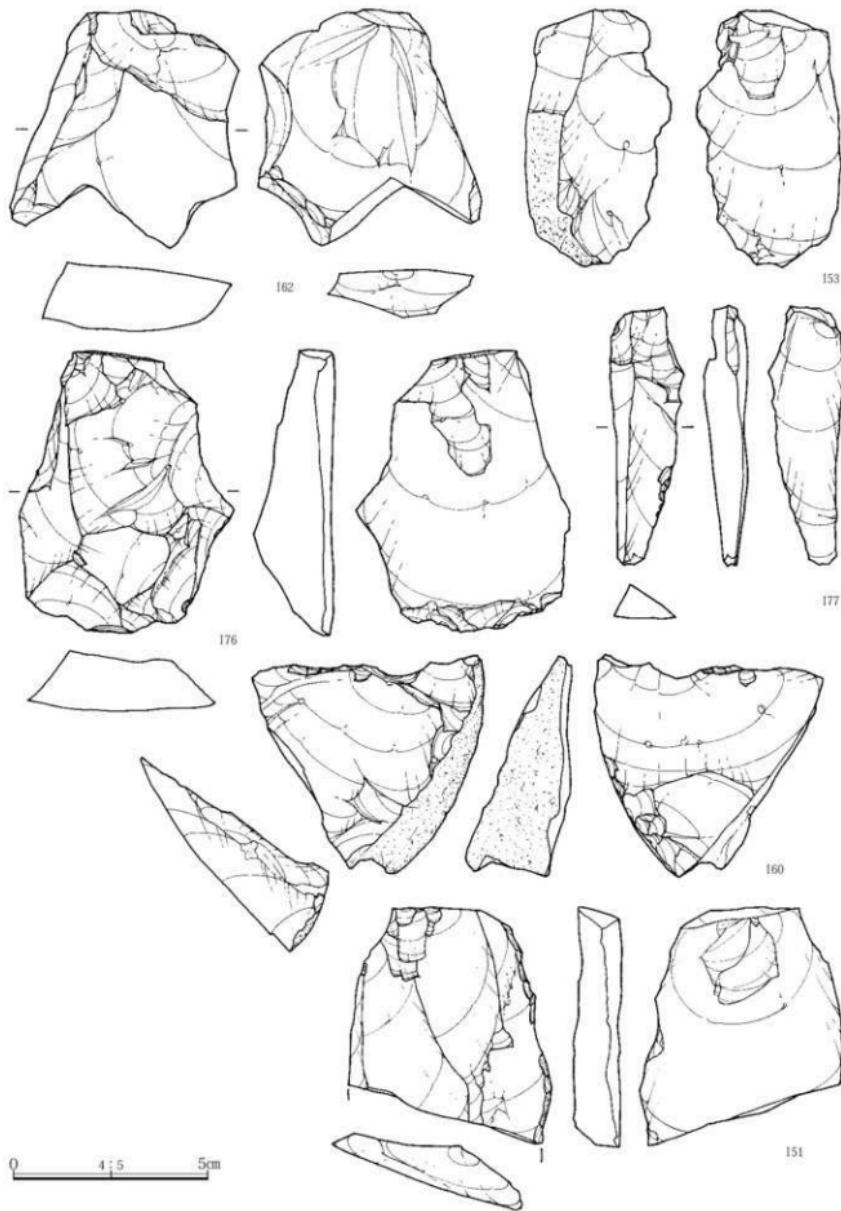
この他に、多数の剥片や碎片が出土しているが、図化・資料化しているのは主に接合資料に含まれる資料だけである。(第153～156図、PL.52・53)

第18表 芳賀東部田地遺跡 第1文化層 I区組成表

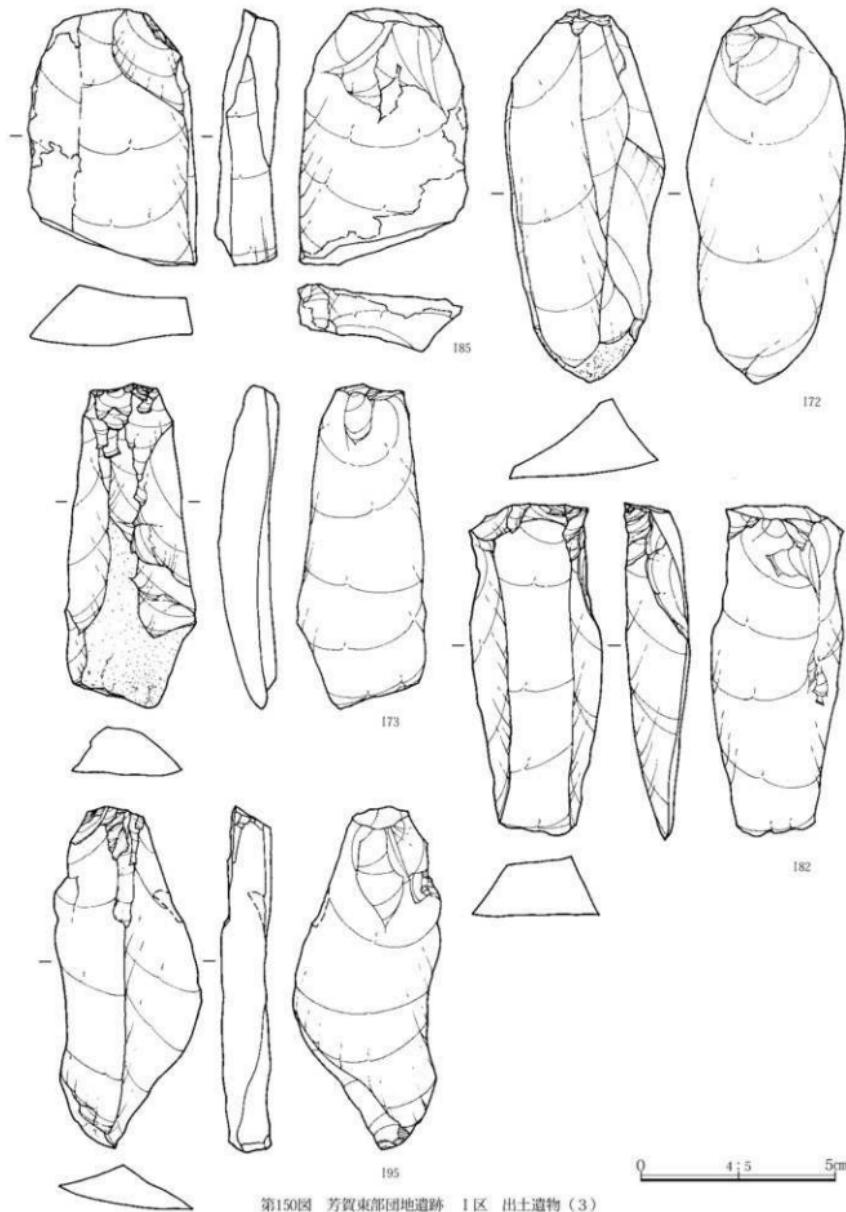
	ナイフ	削器	加工面	石刃	石核	台石	剥片	礫	礫片	総計
黒色安山岩				2	2		38			45
黒色頁岩	1	3	1	9	4		14			32
玉髓							1			1
剥離輝石安山岩							1		3	16
総計	1	3	3	11	7	1	53	3	16	98



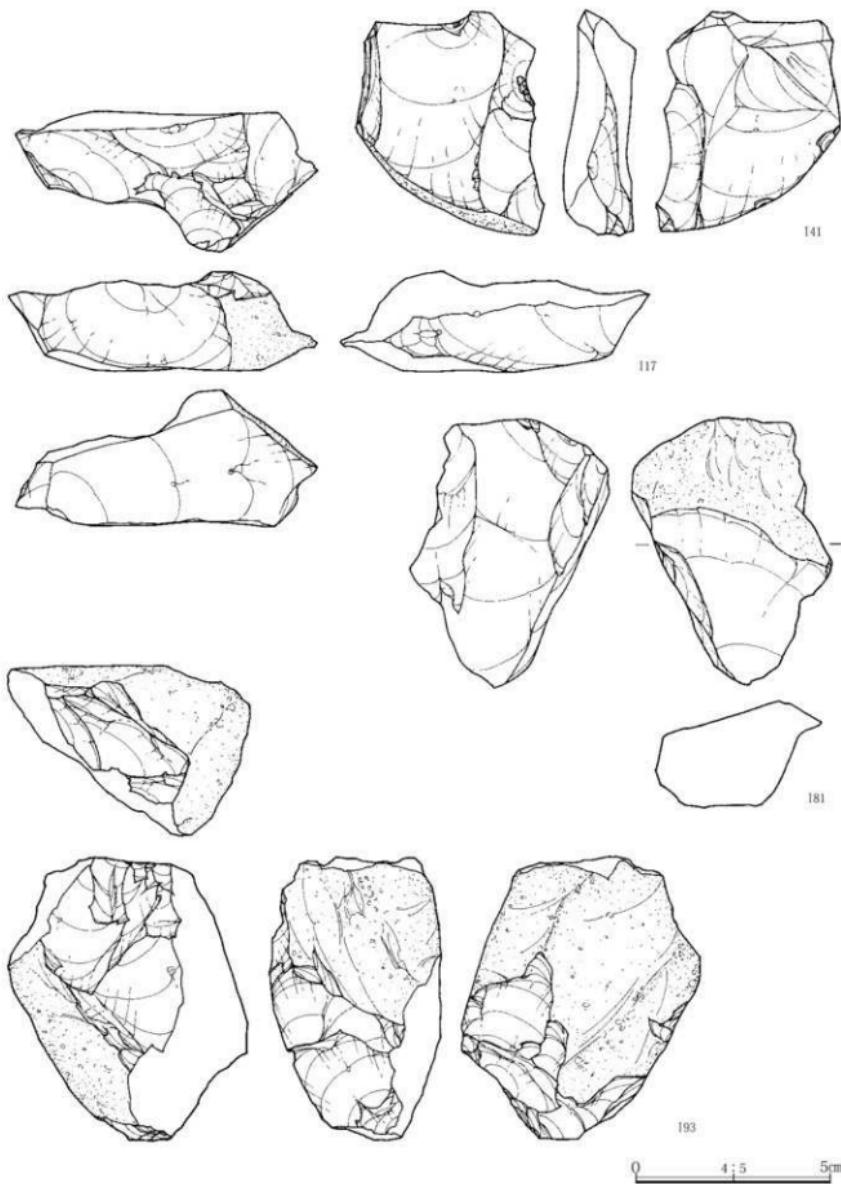
第148図 芳賀東部団地遺跡 I区 出土遺物 (1)



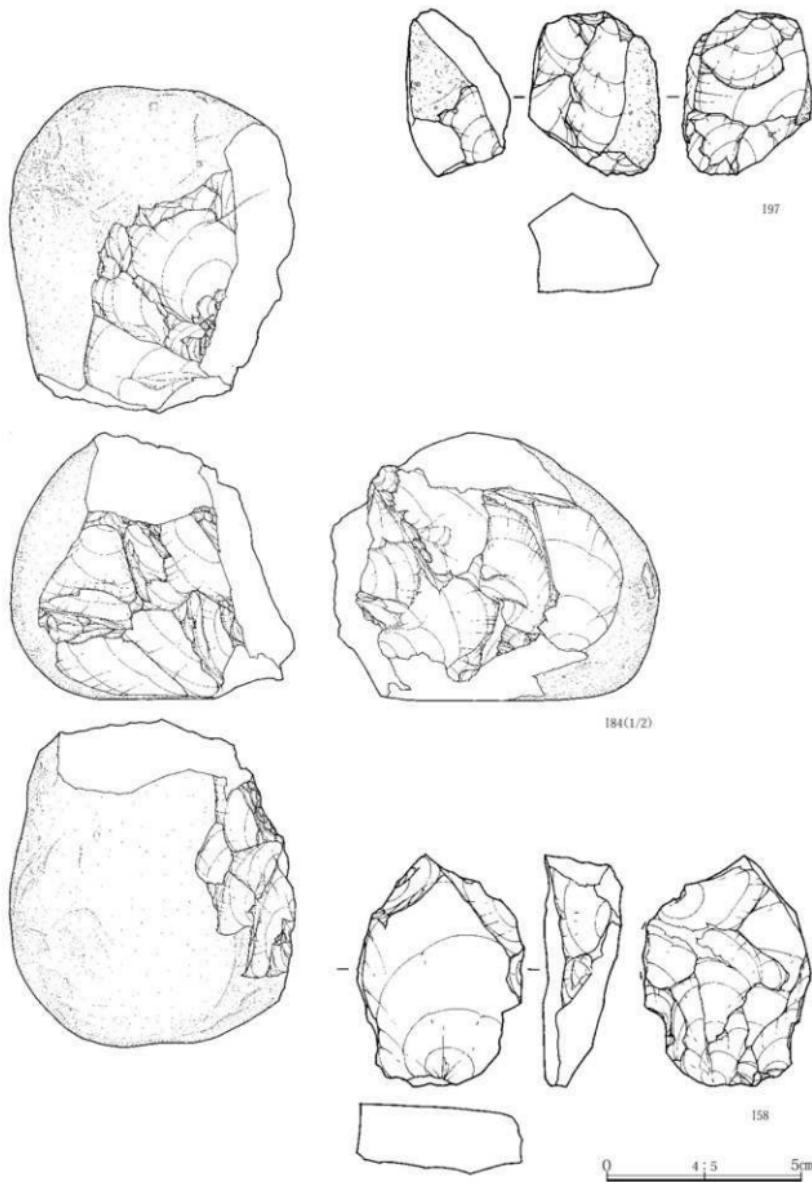
第149図 芳賀東部团地遺跡 1区 出土遺物 (2)



第150図 芳賀東部團地遺跡 I区 出土遺物 (3)



第151図 芳賀東部团地遺跡 Ⅰ区 出土遺物 (4)



第152図 芳賀東部団地遺跡 I区 出土遺物 (5)

(4) 母岩別資料・接合資料（第153～156図、PL.52・53）

黒色安山岩は45点が出土した。このうち、接合資料5例12点が得られた。

黒色安山岩14-①（第153図、PL.52）石刃1点と剥片1点の接合資料である。I53（石刃）→I56

黒色安山岩14（第149・154図、PL.50・52）同じ母岩の非接合資料は、加工痕ある剥片2点、剥片6点の計8点がある。

I2、I15、I47、I52、I60（加工痕ある剥片）、I74、I76（加工痕ある剥片）、I80

黒色安山岩15-①（第153図、PL.52）剥片2点の接合資料である。I18→I19

黒色安山岩15-② 剥片2点の接合資料である。I68→I66 非実測

黒色安山岩15 同じ母岩の非接合資料は、剥片9点がある。I12、I14、I40、I63、I64、I65、I79、I87、I88

黒色安山岩16-①（第153図、PL.52）3つの折断を含む剥片4点の接合資料。I9→I6+I8+I49

黒色安山岩16-②（第153図、PL.52）剥片2点の接合資料である。I89→I84

黒色安山岩16（第151・152・154図、PL.51・52）同じ母岩の非接合資料は、石核2点、剥片8点の計10点がある。I7、I17（石核）、I57、I59、I92、I96、I97（石核）、I98、I99、I100

黒色安山岩17（第149・154図、PL.50・52）同じ母岩の非接合資料は、石刃1点、剥片1点がある。I69、I77（石刃）

黒色安山岩には単独母岩として石核1点（第151図、PL.51）がある。I93

黒色安山岩には母岩分類不能な剥片2点がある。I70、I78

黒色頁岩は、32点が出土した。このうち、接合資料は4例8点がある。

黒色頁岩12-①（第155・156図、PL.53）石核1点と剥片1点の接合資料である。I75→I84（石核）

黒色頁岩13-①（第154図、PL.53）剥片2点の接合資料である。I54→I55

黒色頁岩13（第148図・PL.49）同じ母岩の非接合資料は、削器1点がある。I102

黒色頁岩14-①（第154図、PL.52）剥片の折断資料である。I39+I37

黒色頁岩14（第148・150・155図、PL.49・50・53）同じ母岩の非接合資料は、削器2点、石刃2点、剥片4点がある。I3、I4、I5、I42（削器）、I43、I46（石刃）、I61（削器）、I85（石刃）

黒色頁岩15-①（第154図、PL.53）石核1点と剥片1点の接合資料である。I48→I41（石核）

黒色頁岩15（第150図、PL.51）同じ母岩の非接合資料は、石刃1点がある。I95

黒色頁岩16（第149～151・155図、PL.49～51・53）同じ母岩の非接合資料は、石刃1点、加工痕ある剥片1点、石核1点、剥片1点の計4点がある。I16、I62（加工痕ある剥片）、I72（石刃）、I81（石核）

黒色頁岩17（第148図、PL.49）同じ母岩の非接合資料は、ナイフ形石器1点、石刃1点の計2点がある。I10（石刃）、I38（ナイフ形石器）

黒色頁岩18（第150図、PL.50・51）同じ母岩の非接合資料は、石刃2点がある。I73、I82

黒色頁岩19 同じ母岩の非接合資料は、剥片2点がある。I11、I13

黒色頁岩単独母岩（第148・149・152・155図、PL.49～51・53）として石核1点、石刃2点、剥片1点の計4点がある。I1、I51（石刃）、I58（石核）、I94（石刃）

玉髓（第155図、PL.53）剥片1点のみである。I71

(5) 剥片剥離技術

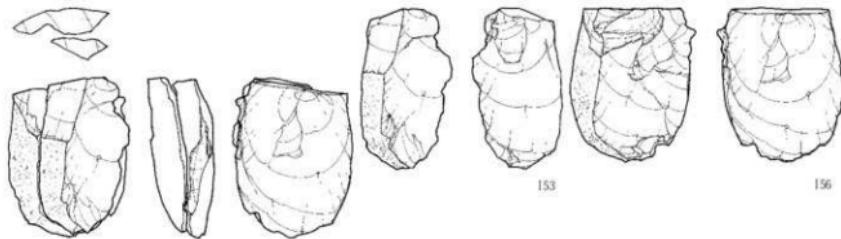
原石面が多く残る礫の一端を打ち欠いて作り出した打面から石刃や縦長剥片を剥離するなどの様子や打面調整されていない石刃の存在などから、群馬Ⅱ期と想定される。

(6) 分布状況（第157・220図）

分布は東と西に大きく分かれ、西側で数が多い。石器ブロックとして西側分布域で3ブロック（1～3号）を、東側分布域で3ブロック（4～6号）を認定した。6号ブロックは南側の調査区域外に分布が広がる可能性がある。

(7) 石器の分布（第158図）

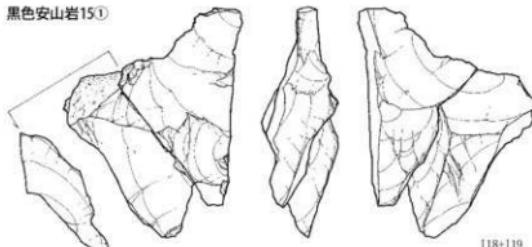
黒色安山岩14①



153

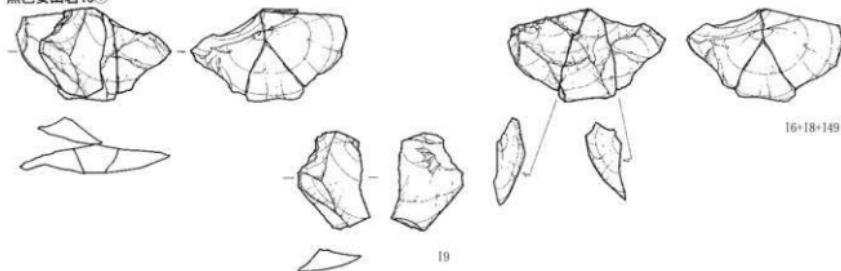
156

黒色安山岩15①



118+119

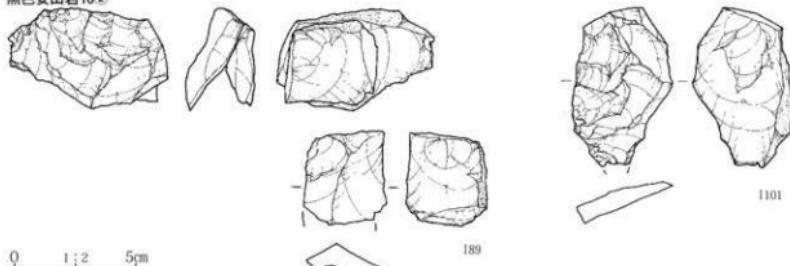
黒色安山岩16①



16+18+149

19

黒色安山岩16②

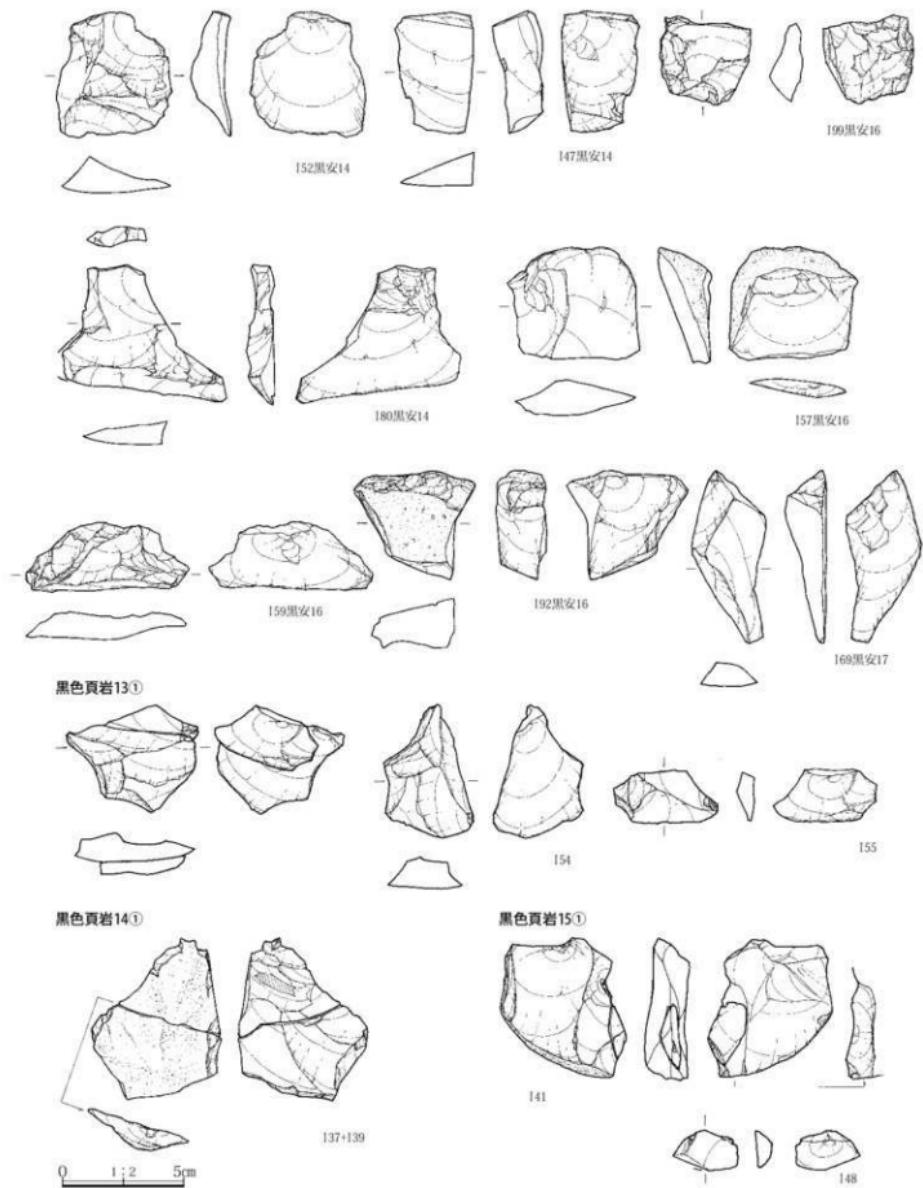


1101

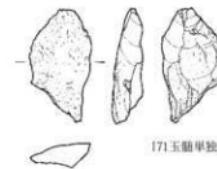
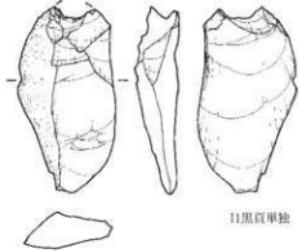
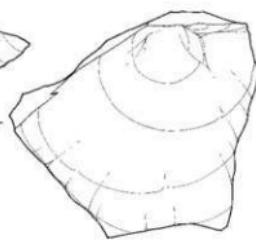
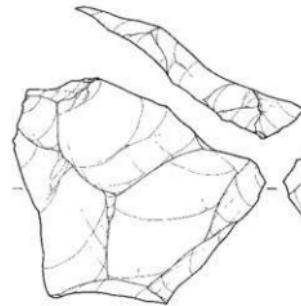
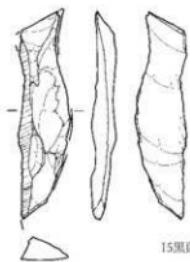
189

0 1:2 5cm

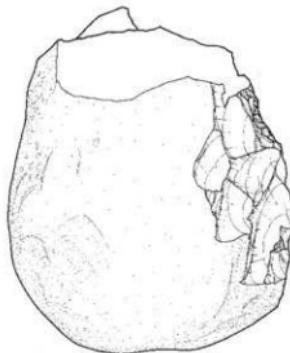
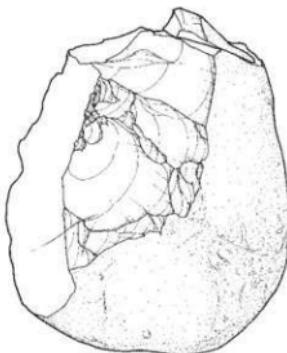
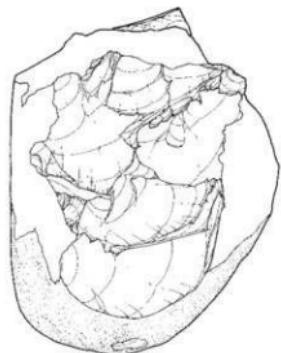
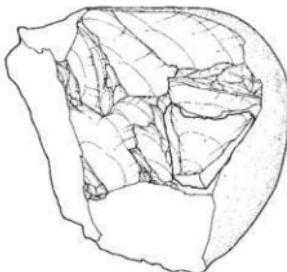
第153図 芳賀東部田地遺跡 I区 母岩別資料・接合資料(1)



第154図 芳賀東部团地遺跡 I区 母岩別資料・接合資料(2)

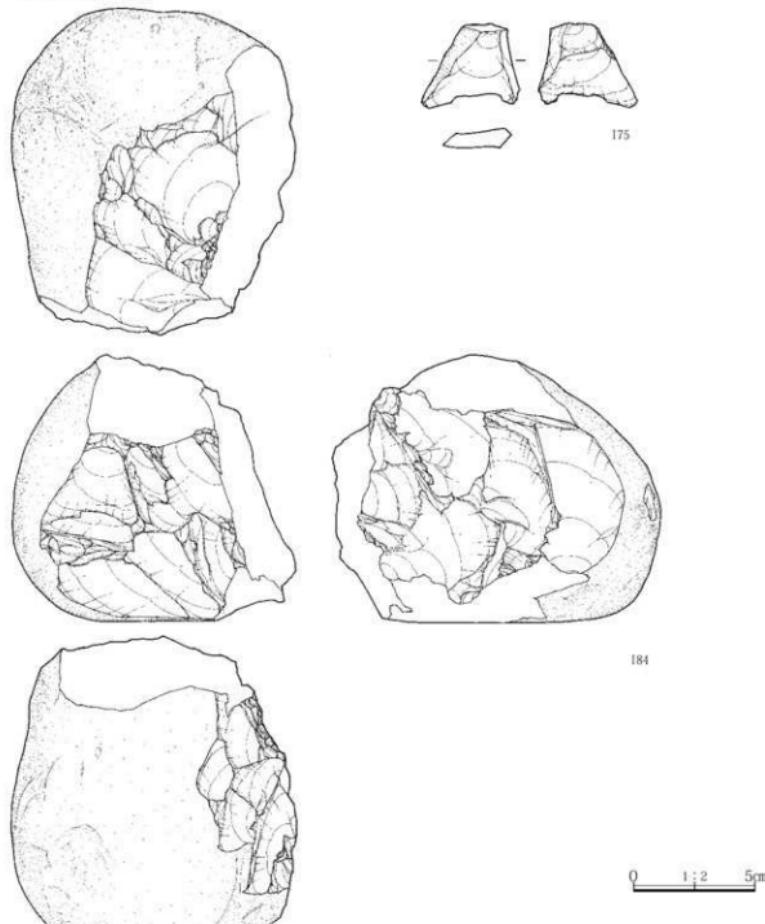


黒色頁岩12①



0 1 2 5cm

第155図 芳賀東部團地遺跡 I区 母岩別資料・接合資料 (3)



第156図 芳賀東部団地遺跡 I区 母岩別資料・接合資料(4)

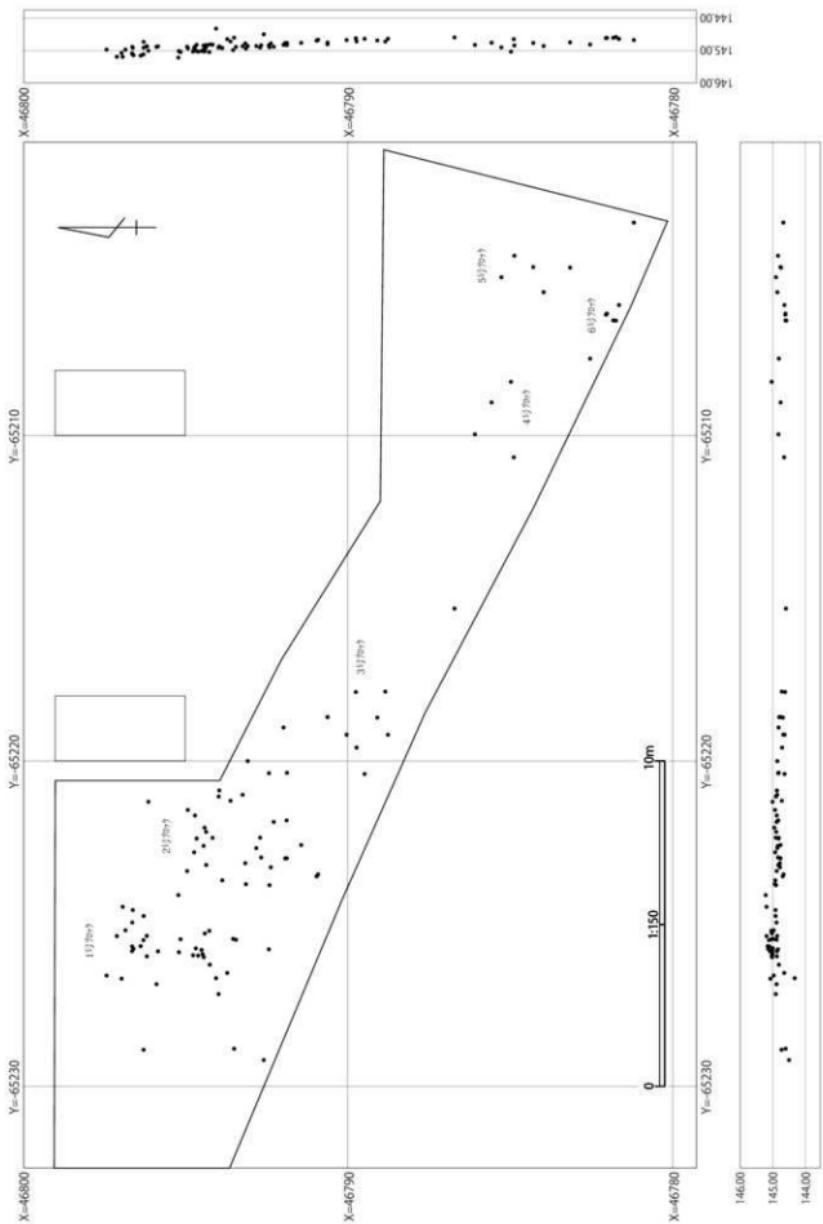
ナイフ形石器や削器、石刃などの主要な石器は西側分布域に集中しており、石器製作に関係する台石は西側分布域のほぼ中央にある2号ブロックから出土した。

#### (8) 石材の分布 (第159図)

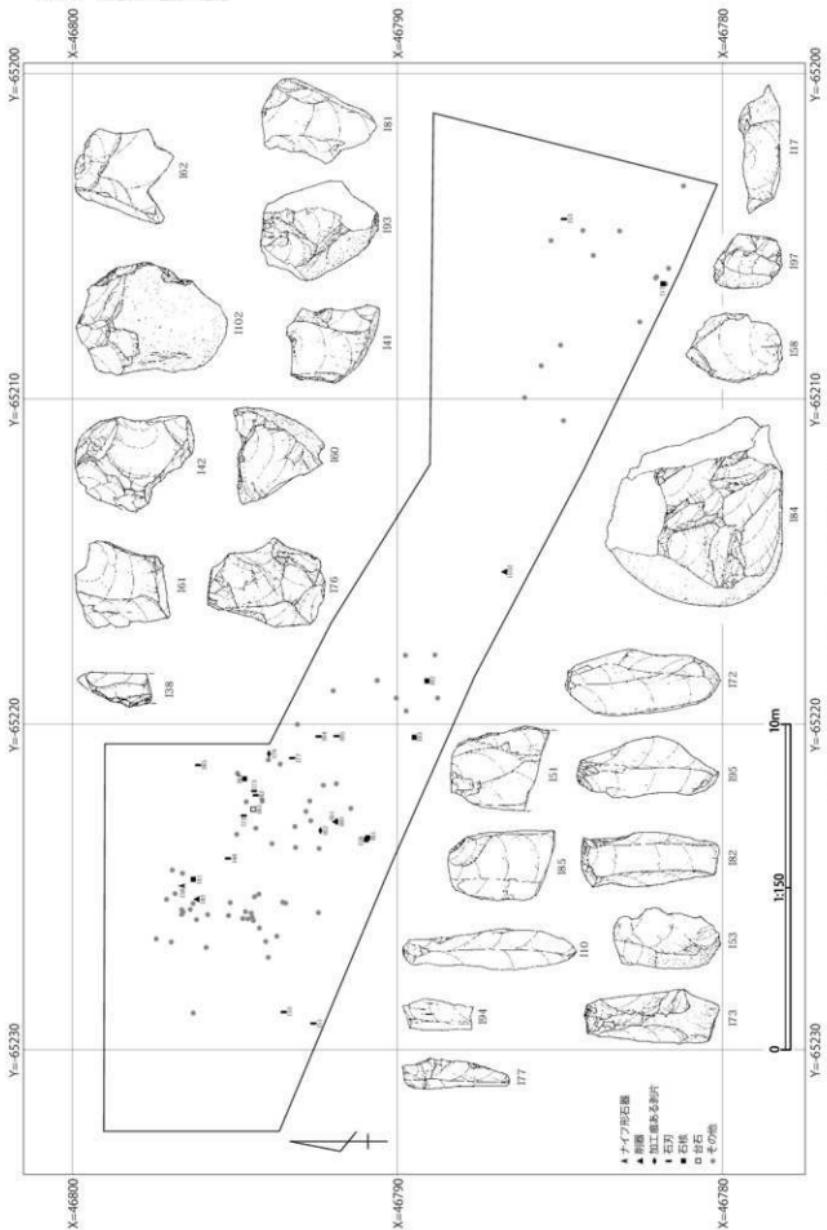
1号ブロックには礫群があり、南側礫群の南に黒色安山岩が、北側礫群周辺に黒色頁岩が分布する。これと同じ傾向が2号ブロックあり、同ブロック北に黒色頁岩、南に黒色安山岩が分布する。東側分布域は散漫で、少量の剥片生産が行われた程度に見える。

#### (9) 接合資料の分布 (第160図)

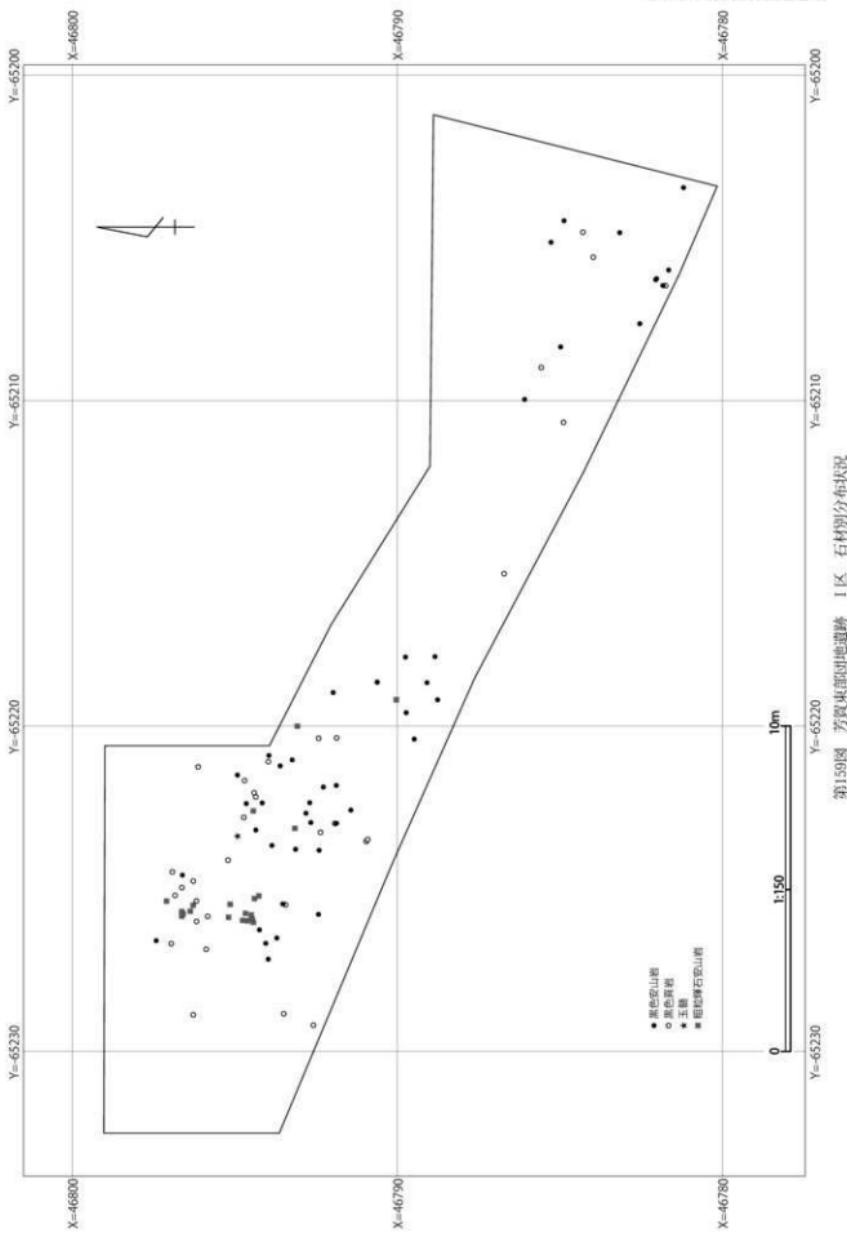
接合資料は黒色安山岩5例・黒色頁岩4例が確認されているが、いずれも部分的な剥片生産に止まる傾向が明らかである。接合資料の分布もブロック内に收まり、東西分布域間で接合するものはない。

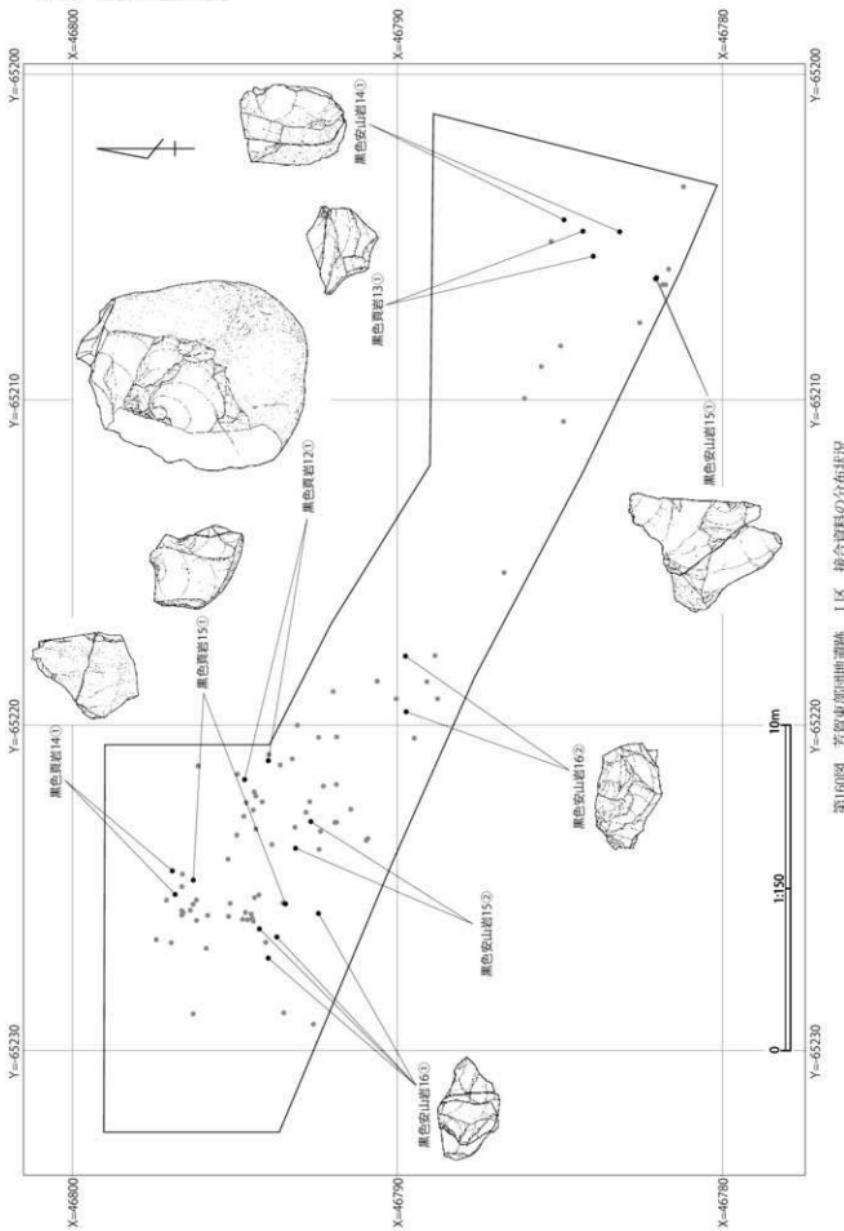


第157図 芳賀東部遺跡地図 1区 石器分布・垂直分布状況



第158圖 芳賀東部羽地遺跡 1區 器種別分布狀況





## 4 第2文化層

第2文化層の石器群は、B区とE区から出土した。

<B区>（第141・168～171図、PL.47-8・48-1）

### (1) 出土層位

基本土層VI・VII層の境界付近をピークとして出土した。石器出土層位からAT下位の石器群と思われる。

### (2) 検出遺構

遺構は検出されなかった。

### (3) 出土遺物

総点数は213点で、内訳は石器22点（10.3%）、剥片159点（74.7%）、碎片30点（14.1%）、礫・礫類は2点（0.9%）である。石器の器種は、局部磨製石斧1点（0.5%）、ナイフ形石器4点（1.9%）、彫器1点（0.5%）、石刃1点（0.5%）、加工痕ある剥片3点（1.4%）、使用痕ある剥片3点（1.4%）、石核7点（3.3%）、敲石2点（0.9%）、剥片159点（75.4%）、碎片30点（14.2%）である。石器の石材は黒色安山岩が162点（76.8%）と多く、黒色頁岩37点（17.5%）、黒曜石7点（3.3%）、碧玉2点（0.9%）、変玄武岩1点（0.5%）、細粒輝石安山岩2点（1.0%）などである。礫類の石材は粗粒輝石安山岩1点（50%）、雲母石英片岩1点（50%）である（第19表参照）。

次に、出土した石器を種類ごとに見ていくこととする。

**ナイフ形石器**（第161図、B114・B129・B135・B171、PL.54）総数4点が出土している。B114は打面が残る石刃素材で、一側縁に加工を施している。石材は黒色頁岩である。B129は打面が残る石刃素材で、一側縁に加工を施している。石材は碧玉である。B135は打面が残る石刃素材で、二側縁に加工を加えている。石材は黒色頁岩である。B171は打面が残る横長剥片素材で、二側縁に加工を加え、いわゆる台形状である。石材は黒曜石である。

**彫器**（第161図、B184、PL.53）B184は打面が残る横長の剥片が素材で、一端に数回の楕状剥離を施している。石材は黒曜石である。

**加工痕ある剥片**（第161図、B66・B115・B131、PL.54）総数3点が出土している。B131は先端部に原石面を残す小形の剥片の一側縁に加工を加えている。石材は黒曜石である。B66は表面に原石面を残す横長の剥片の一側縁の表裏面に加工を加えている。石材は黒色頁岩である。B115は原石面を打面とする横長の剥片で、一縁に加工を僅かに加えている。石材は黒色頁岩である。

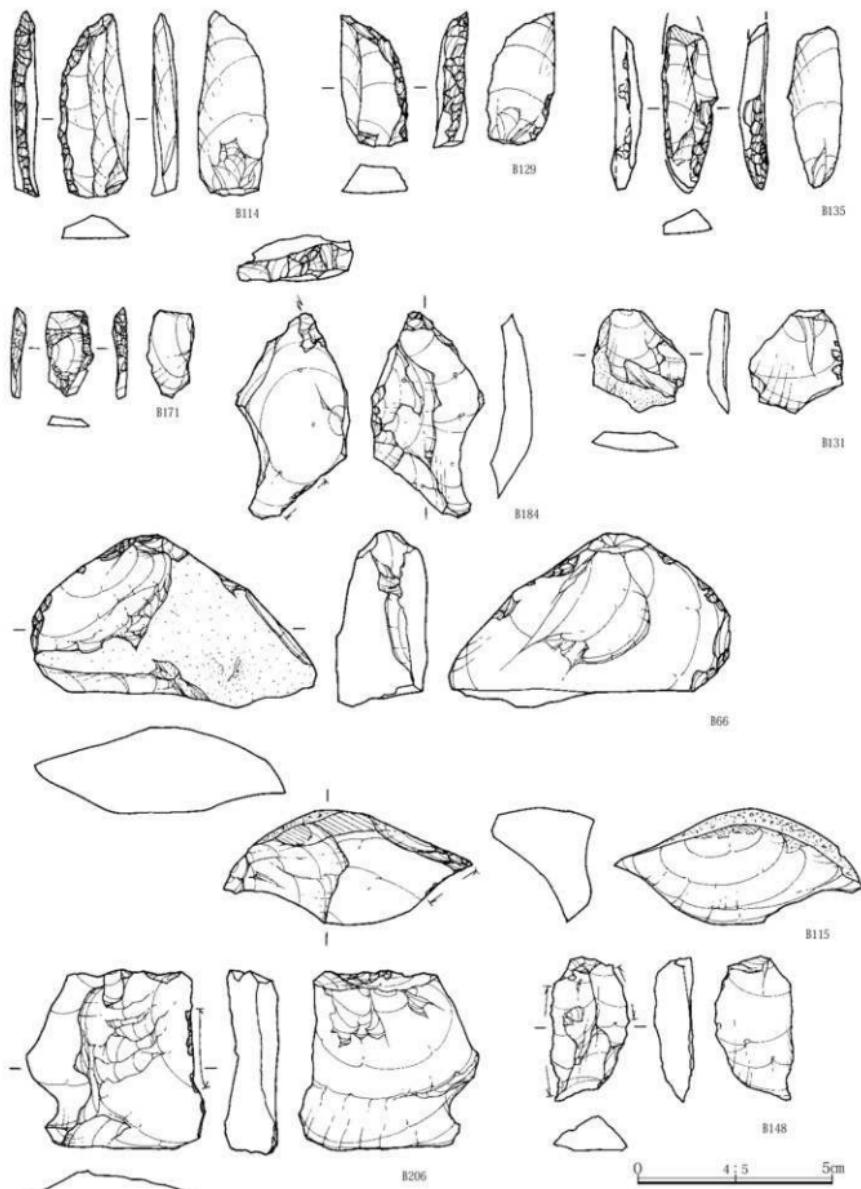
**使用痕ある剥片**（第161・162図、B116・B148・B206、PL.54）総数3点が出土している。B206は幅広の剥片で、一側縁に使用痕が認められる。石材は黒色頁岩である。B148は縱長の剥片で、両側縁に使用痕が認められる。石材は黒曜石である。B116は表面の一部に原石面を残す折断された縱長剥片で、一側縁に使用痕が認められる。石材は黒色頁岩である。

**石刃**（第162図、B2c、PL.54）1点が出土している。B2cは両側縁がほぼ平行であり、石材は黒色頁岩である。

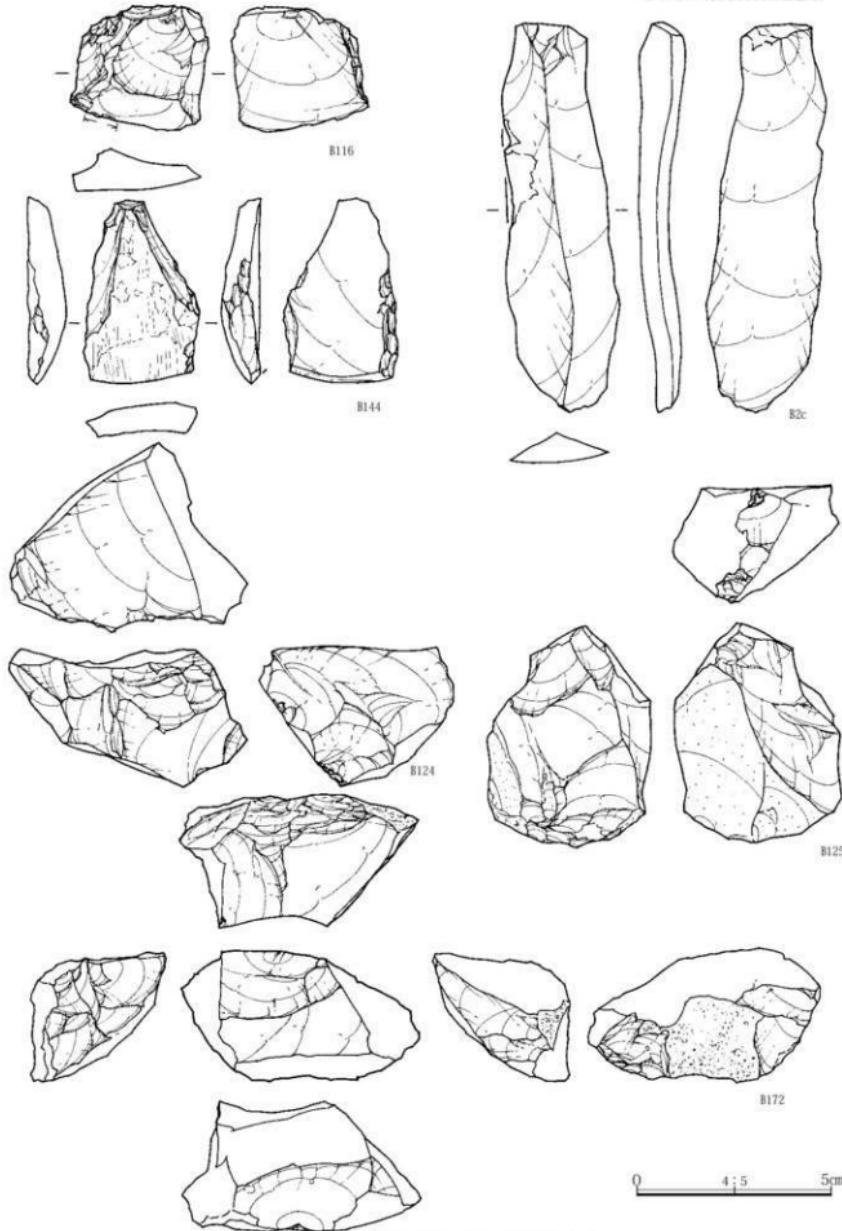
**局部磨製石斧**（第162図、B144、PL.54）1点出土している。頭部や側縁の様子、それにサイズなどから、破損後の再生品と考えられる。石材は変玄武岩である。

**石核**（第162・163図、B65・B110・B124・B125・B140・B172・B177、PL.55）総数7点が出土している。B124は厚手の板状の剥片の分割面や剥離面に打面を転位させて剥片剥離を繰り返す。石材は黒色頁岩である。B125は厚手の剥片の分割面や剥離面に打面を転位させて剥片剥離を繰り返す。石材は黒色頁岩である。B172は原石面を打面とし、横長の剥片を数枚剥離している。石材は黒色安山岩である。B65+B110は原石面が残る折断した剥片の両端から1、2枚の剥片を剥離している。石材は黒色安山岩である。B140は折断した剥片の一端から1、2枚の剥片を剥離している。石材は黒色安山岩である。B177は分割縫の分割面や剥離面に打面を転位させて剥片剥離を繰り返す。石材は黒色頁岩である。

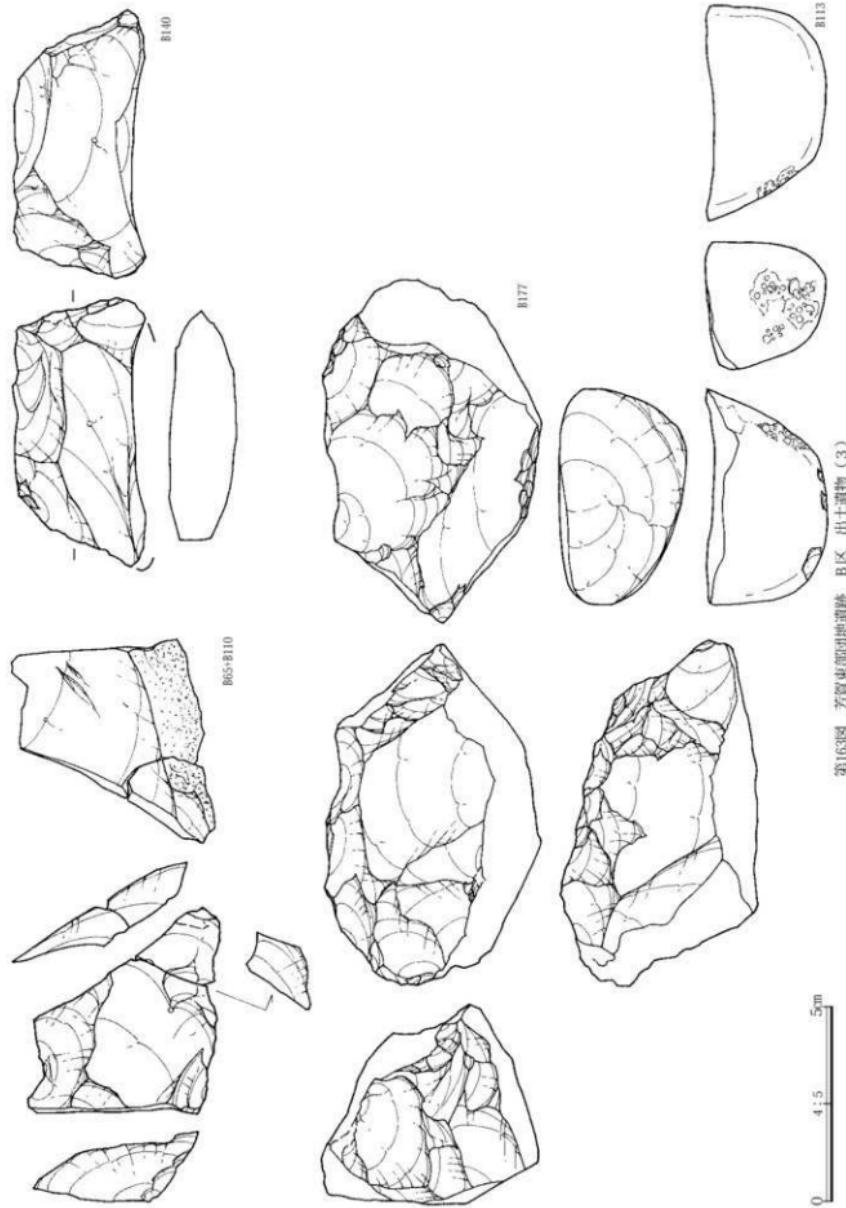
**敲石**（第163図、B113・B123、PL.55）2点出土している。欠損により敲打痕が残る一端部分（B113）と中間部分（B123非実測）しか残っていないが、やや扁平な楕円縫と推定される。石材は細粒輝石安山岩である。



第161図 芳賀東部团地遺跡 B区 出土遺物（1）



第162図 芳賀東部圃地遺跡 B区 出土遺物（2）



第163図 方圓東部遺跡地遺跡 B区 出土遺物（3）

第19表 芳賀東部圏地遺跡 第2文化層 B区組成表

	ナイフ	彫器	加工痕	使用痕	石片	局部磨製石斧	石核	敲石	剥片	碎片	礫	礫類	総計
黒色安山岩						4			128	30			162
黒色頁岩	2		2	2	1		3		27				37
黒雲母	1	1	1	1					3				7
碧玉	1								1				2
変玄武岩						1							1
細粒輝石安山岩								2					2
粗粒輝石安山岩										1			1
雲母石英片岩											1		1
総計	4	1	3	3	1		1	7	2	159	30	1	213

## (4) 母岩別資料・接合資料（第164～167図、PL.56・57）

黒色安山岩は164点があり、うち接合資料は9例62点がある。

黒色安山岩1 色調は灰6/1 (HuE7.5Y)、10～15cmの楕円礫である。原石面は皺が顕著である。

黒色安山岩1-①（第164・165図、PL.56）剥片31点の接合資料。礫を半分に分割後、それぞれ15～10cmの楕円礫を素材として、剥片剥離を繰り返し、さらに分割と折断が顕著である。

B33→B44→B9→B1+B8→B76→B74→B75→B18→B79→B91→B86→B11→B47→B41+B204→B98+B100+B202→B61→B14→B67→B20→B54→B78→B109→B23→B46→B43→B6+B84

黒色安山岩1-②（第165図、PL.56）剥片4点の接合資料である。B73→B70→B96+B198

黒色安山岩1-③ 剥片4点の接合資料である。B60+B80→B10→B5 非実測

黒色安山岩1-④ 剥片2点の接合資料である。B31+B185 非実測

黒色安山岩1 非接合資料として、剥片10点がある。B7、B29、B49、B53、B92、B104、B105、B107、B111、B165

黒色安山岩2 色調は灰5/1 (HuE7.5Y)、原石面は爪条痕が顕著だが、皺がやや少なめである。接合資料3例13点、

黒色安山岩2-①（第166図、PL.56）石核2点と剥片7点の接合資料である。B62+B196→B17→B110（石核）→B72+B58→B15→B87→B65（石核）

黒色安山岩2-② 剥片2点の接合資料である。B19→B102 非実測

黒色安山岩2-③ 剥片2点の折断資料である。B180+B181 非実測

黒色安山岩2 非接合資料として、剥片11点がある。B3、B40、B88、B93、B154、B155、B157、B159、B162、B183、B191

黒色安山岩3 風化が激しく、リング・フィッシャーなど剥離面が見づらく、自然面もトロトロしている。

黒色安山岩3-①（第166図、PL.56）石核1点と剥片5点の接合資料である。

B142→B143→B168→B173→B169→B172（石核）

黒色安山岩3-② 剥片2点の接合資料である。B152→B153 非実測

黒色安山岩3（第166図、PL.56）同じ母岩別資料としての非接合資料は、剥片17点がある。B2a、B13、B26、B37、B50、B69、B95、B97、B122、B138、B139、B145、B146、B149、B170、B186、B205

黒色安山岩4（第166図、PL.56）色調は灰オリーブ6/2 (HuE7.5Y)。剥片2点の非接合資料がある。B150、B179

黒色安山岩5（第163図、PL.55）色調は灰5/1 (HuE10Y) でかなり黒い。自然面はやや平滑で、爪条痕は少ない。非接合資料の敲石2点がある。B113、B123

黒色安山岩単独母岩（第163図、PL.55）としての非接合資料には石核1点、剥片1点がある。B3a、B140（石核）

黒色安山岩には分類不能な資料として剥片28点、碎片30点の計58点がある。

黒色頁岩は37点がある。このうち、接合資料は6例18点がある。

黒色頁岩1-①（第167図、PL.57）石核2点と剥片2点の接合資料である。B118→B121→B125（石核）→B124（石核）

黒色頁岩2-①（第167図、PL.57）加工痕ある剥片1点、使用痕ある剥片1点、剥片4点からなる接合資料である。

B119→B130+B117+B115（加工痕ある剥片）→B116（使用痕ある剥片）→187

黒色頁岩2-② 剥片2点の接合資料である。B120+B128 非実測

### 第3章 各遺跡の遺構・遺物

- 黒色頁岩2 同じ母岩別資料としての非接合資料に剥片1点がある。B126
- 黒色頁岩3-①(第167図、PL.57) 剥片の折断資料である。B25+B51
- 黒色頁岩3-② 剥片の折断資料である。B87+B57 非実測
- 黒色頁岩3-③ 剥片の折断資料である。B132+B133 非実測
- 黒色頁岩3 同じ母岩別資料の非接合資料には、加工痕ある剥片1点、剥片6点の計7点がある。B2、B30、B56、B63、B66(加工痕ある剥片)、B112、B134
- 黒色頁岩單独母岩(第161~163・167、PL.54・55・57)の非接合資料として、ナイフ形石器2点、使用痕ある剥片1点、石刃1点、石核1点、剥片3点の計8点がある。B1c(剥片)、B2c(石刃)、B114(ナイフ形石器)、B135(ナイフ形石器)、B161(剥片)、B175(剥片)、B177(石核)、B206(使用痕ある剥片)
- 黒色頁岩としての分類不能なものに剥片3点がある。B1a、B137、B167

黒曜石1は透明度が高い。斑状・筋状の模様を含む。剥片2点(第167図、PL.57)の非接合資料がある。B147、B174

黒曜石單独母岩(第161図、PL.54)として5点の剥片資料がある。B1b、B131、B148、B171、B184

碧玉1(第161・167、PL.54・57)ナイフ形石器1点と剥片1点がある。B127、B129(ナイフ形石器)

#### (5) 剥片剥離技術

他の同時期の遺跡と同様に、主に裏面に原石面を残す分割礫を素材とし、表面の周縁から中心に向かって連続して、縦長、あるいは横長や不定形な剥片の剥離をする技術を中心であり、主要な石材もやはり黒色安山岩である。これは群馬Ⅰ期からⅡ期にかけての特徴的な剥片剥離技術であり、出土層位や石器組成などからみて群馬Ⅰ期に相当すると考えられる。

#### (6) 分布状況(第168・221図)

長軸約36m、短軸約24mの範囲に橢円形に分布しており、時計回りに1号ブロックから6号ブロックまで6ヶ所の石器ブロックに分離した。その中で1号ブロックと4号ブロックと5号ブロックは集中が密だが、他の石器ブロックは点数も少なく、分布密度も疎である。その中ではやはり1号ブロックと5号ブロックが質・量ともに秀でているために、中心的な場の位置付けになるとと考えられる。

#### (7) 石器の分布(第169図)

主要な石器のうち、ナイフ形石器は南側の5号ブロックと6号ブロックに分布する一方、台形状をしたナイフ形石器や局部磨製石斧の刃部破片が東側の3号ブロックに分布した。彫器は1号ブロック、石核は1号ブロックと5号ブロックに、石器製作に関わる敲石は5号ブロックに分布することから、1号ブロックと5号ブロックは石器製作と居住、その他は居住に関係する場と考えられる。

全体に出土点数が少なく粗密があるが、石器組成で小形の台形状のナイフ形石器や局部磨製石斧の存在からも、中央部が空白部分となる、いわゆる「環状ブロック群」の範囲に含めたいと考える。

#### (8) 石材の分布(第170図)

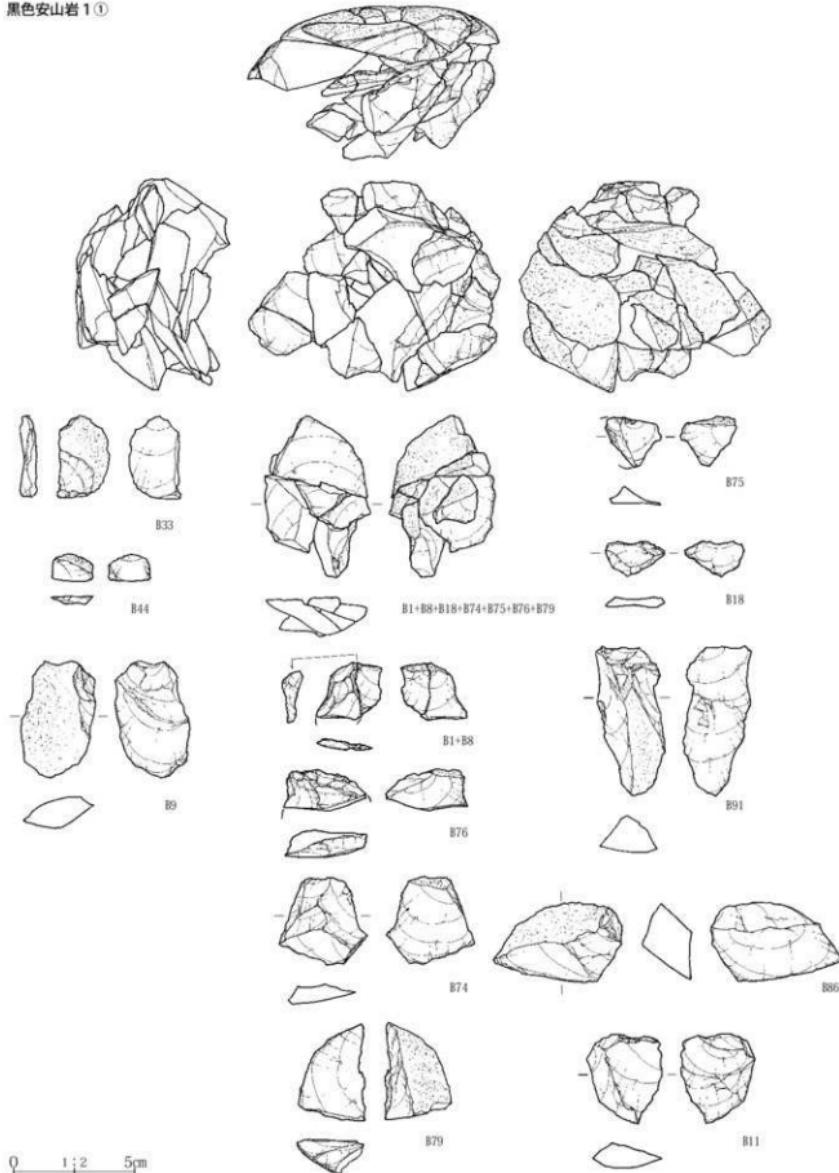
1~4号ブロックは黒色安山岩が主体であるが、5号ブロックと6号ブロックは黒色頁岩が主体である。特に、4号ブロックは黒色安山岩のみ、6号ブロックは黒色頁岩のみと極端である。

#### (9) 接合資料の分布(第171図)

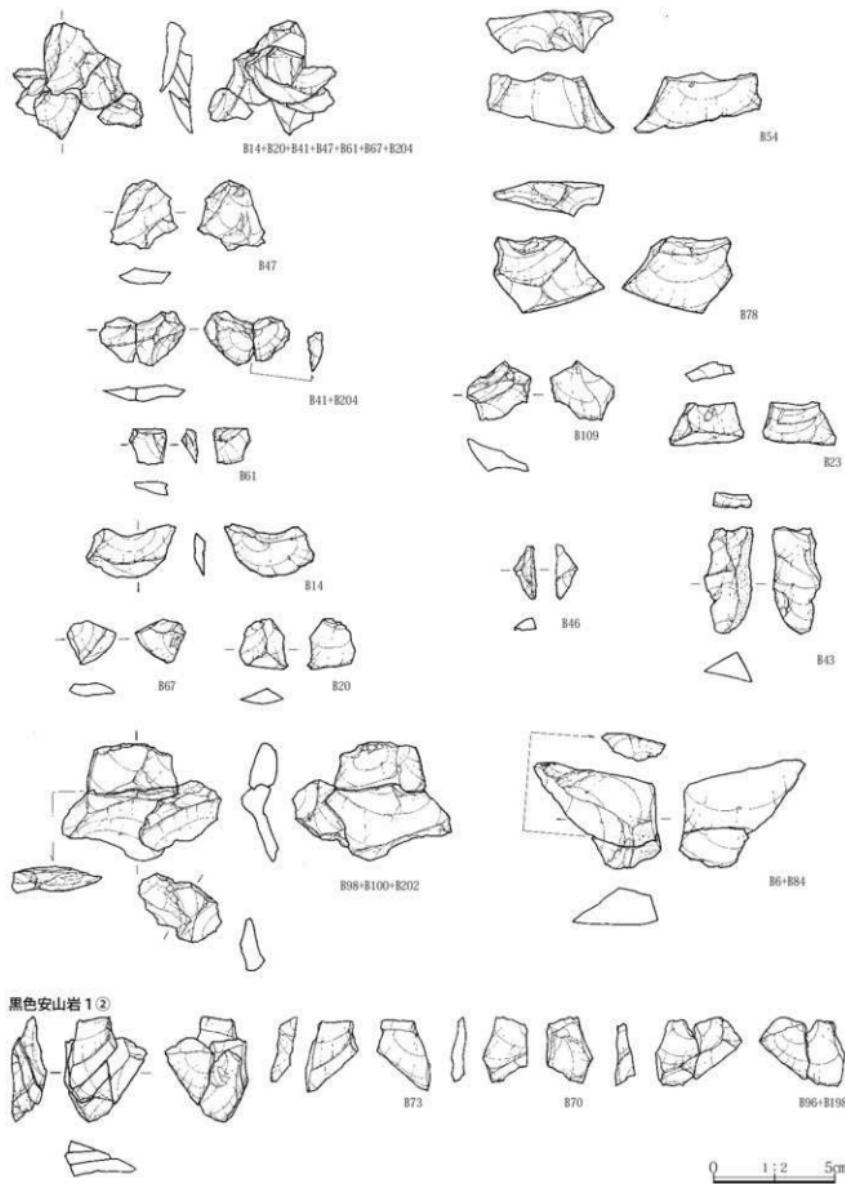
1号ブロック内が9例と最も多く、次に5号ブロックの3例、3号ブロックの2例、4号ブロックと6号ブロックの各1例の順である。さらに、敲石が5号ブロックに分布することから、石器製作の最終段階は5号ブロックであったと考えられる。そこで、1号ブロックとの間に接合関係が1例だけであることから、黒色安山岩と黒色頁岩の剥片剥離の場であった1号ブロックから5号ブロックへの制作の場の移動があり、5号ブロックでの黒色頁岩のみの剥片剥離が最後となったと考えられないだろうか。

なお、出土層位や石器組成、主要な石器の様子から、群馬Ⅰ期の前半期と考えられる。

黒色安山岩 ①

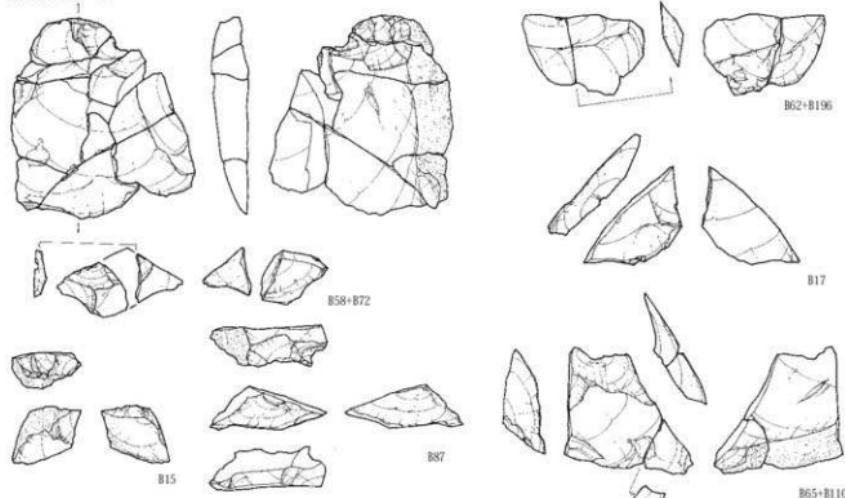


第164図 芳賀東部團地遺跡 B区 母岩別資料・接合資料(1)

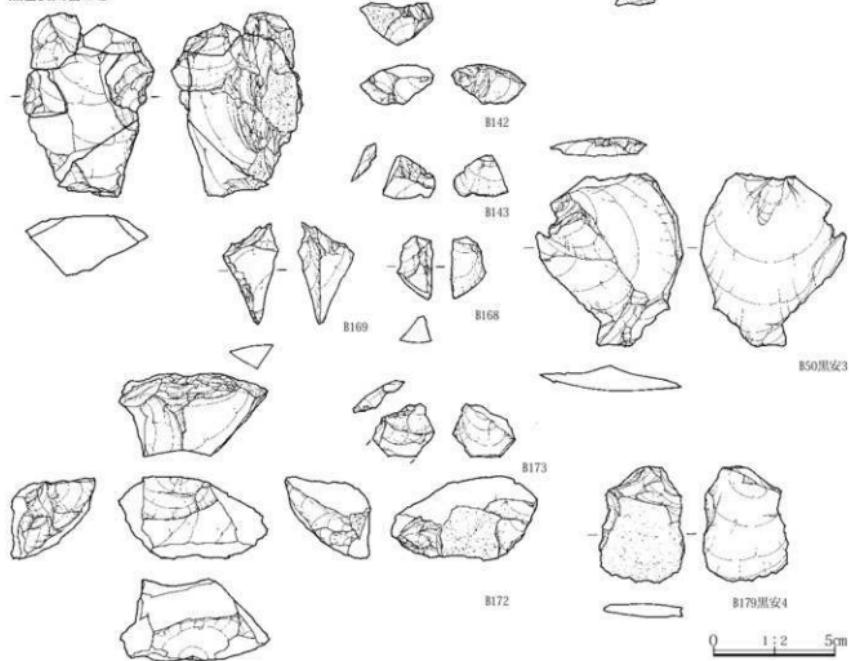


第165図 芳賀東部遺跡 B区 母岩別資料・接合資料(2)

## 黒色安山岩 2①



## 黒色安山岩 3①

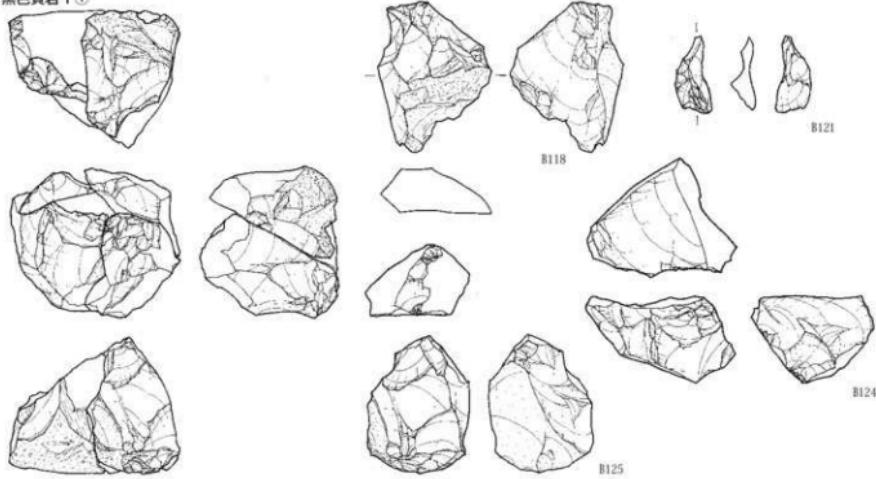


0 1:2 5cm

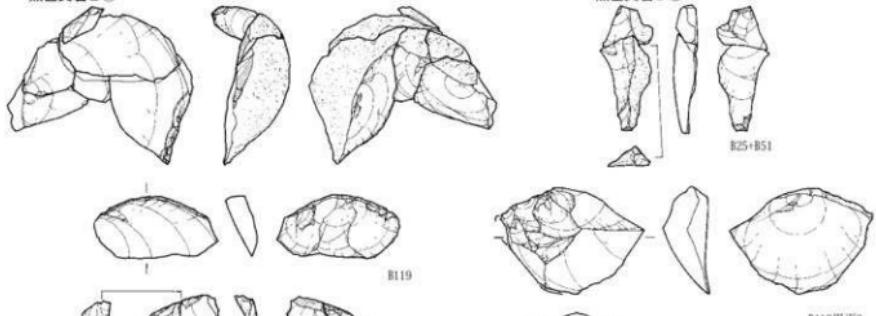
第166図 芳賀東部團地遺跡 B区 母岩別資料・接合資料（3）

第3章 各遺跡の遺構・遺物

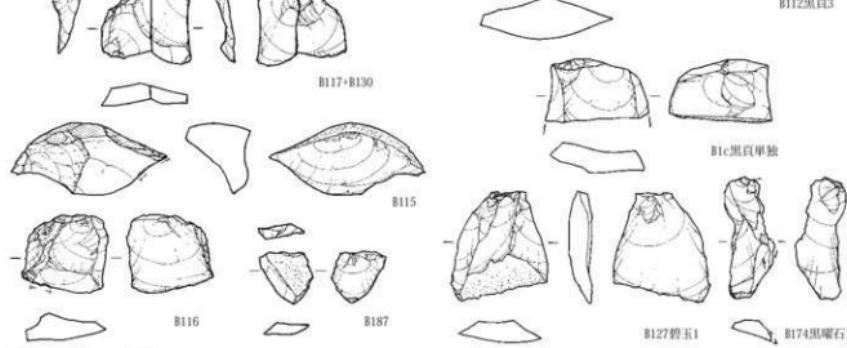
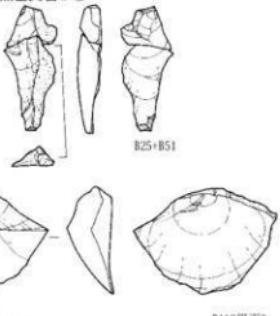
黒色頁岩 1 ①



黒色頁岩 2 ①

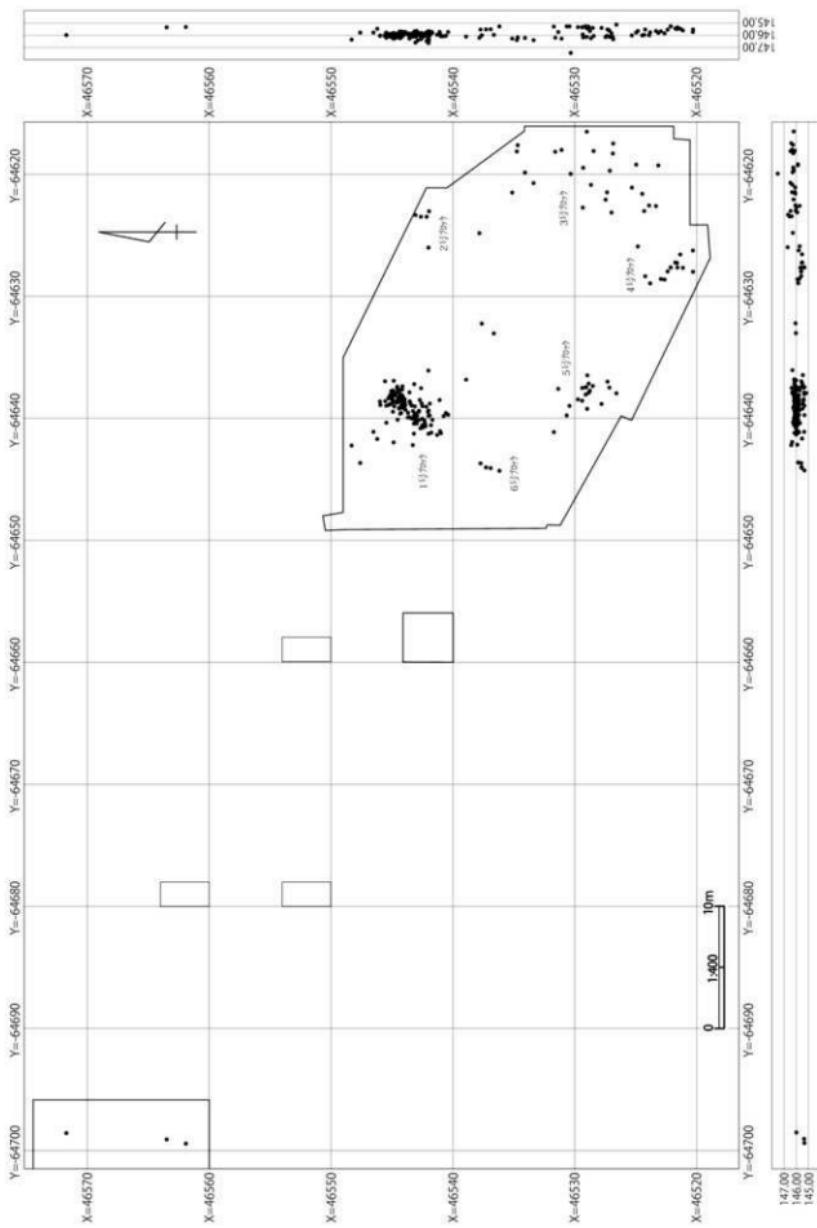


黒色頁岩 3 ①

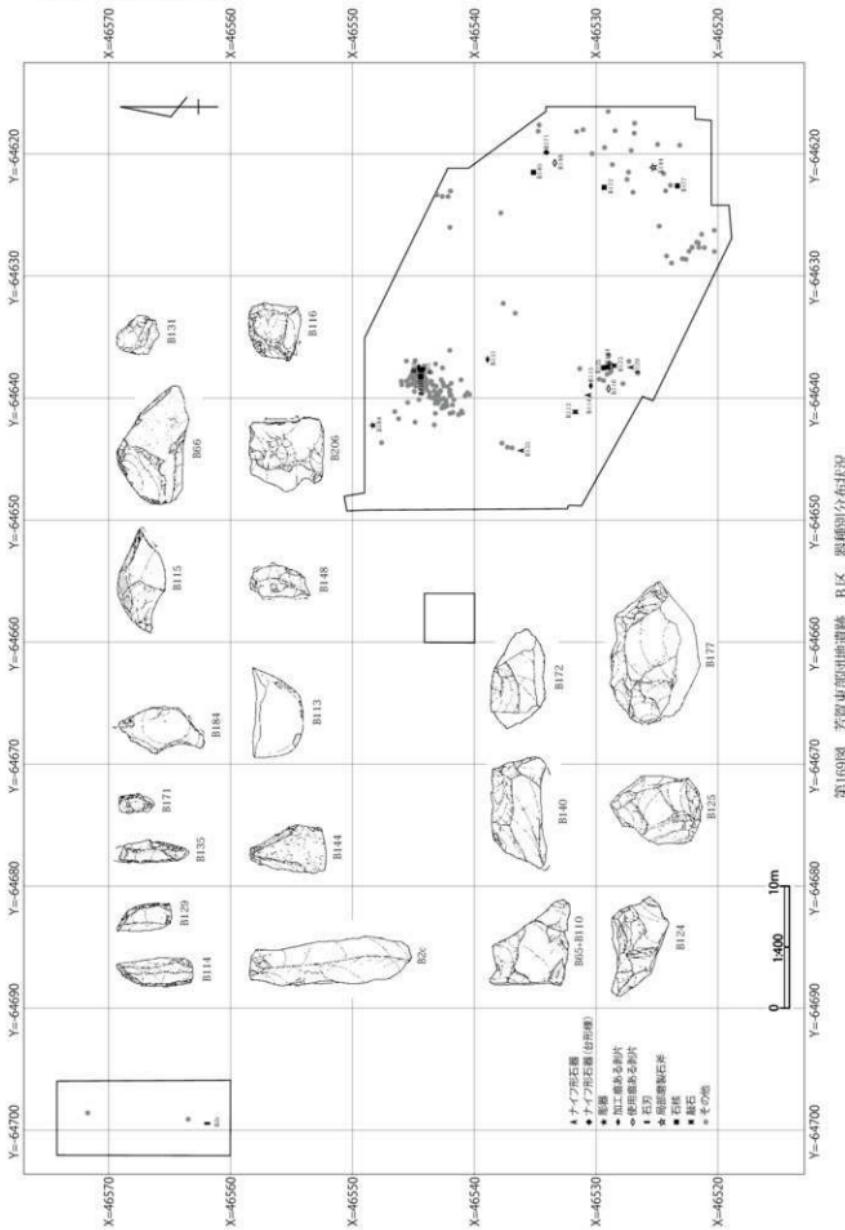


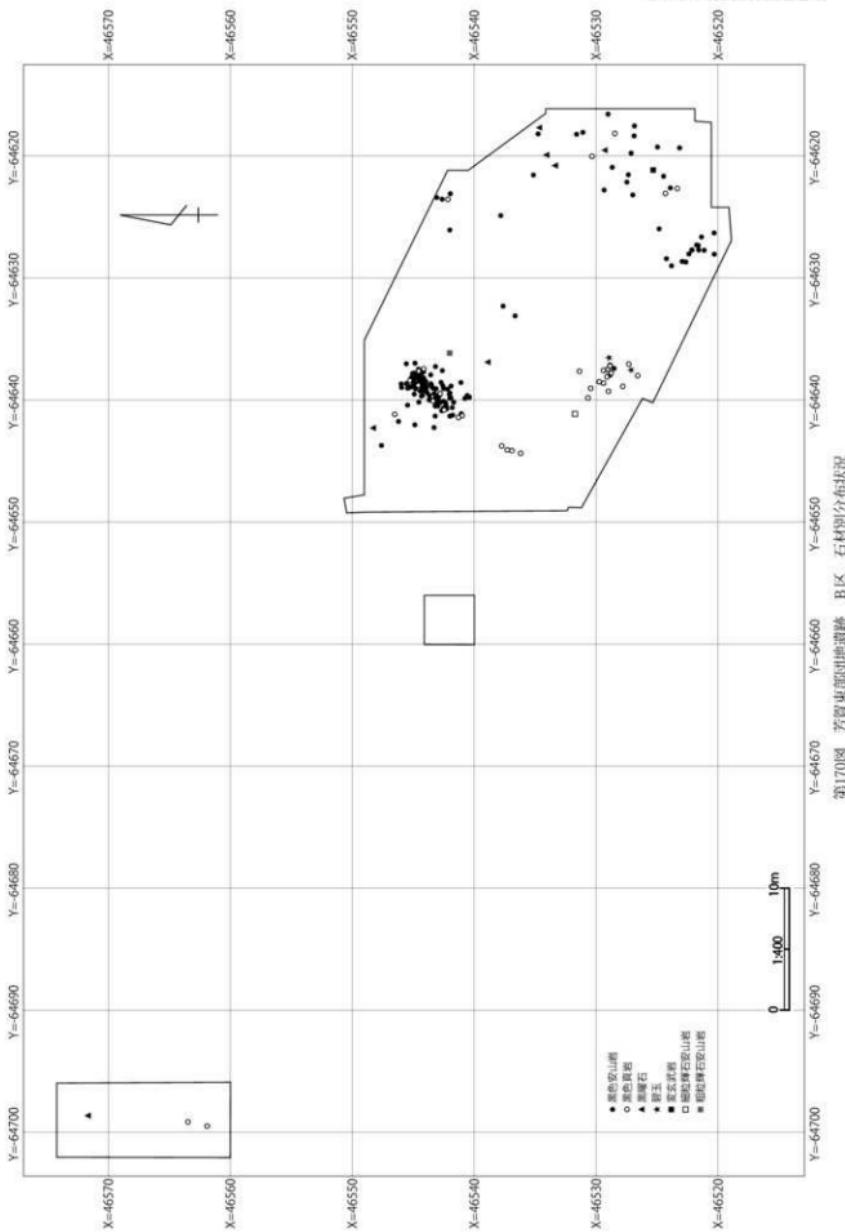
0 1:2 5cm

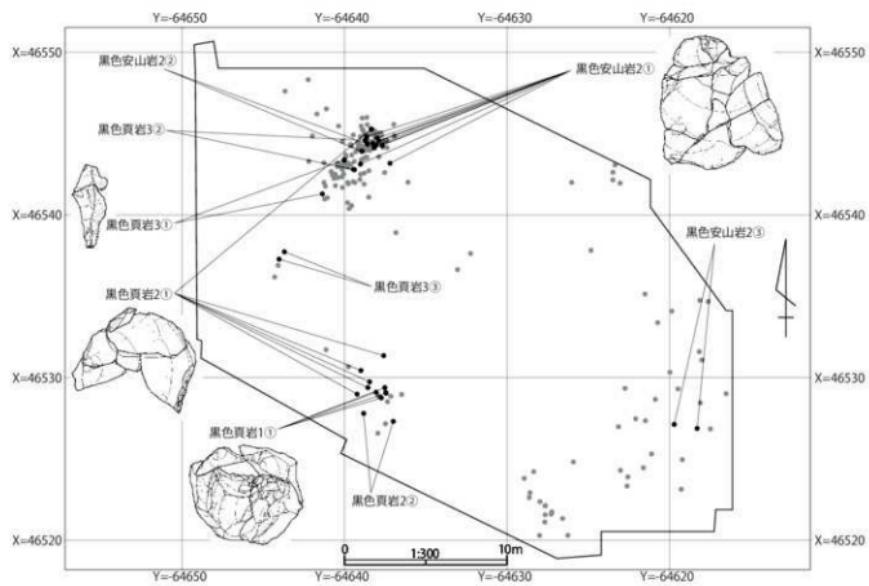
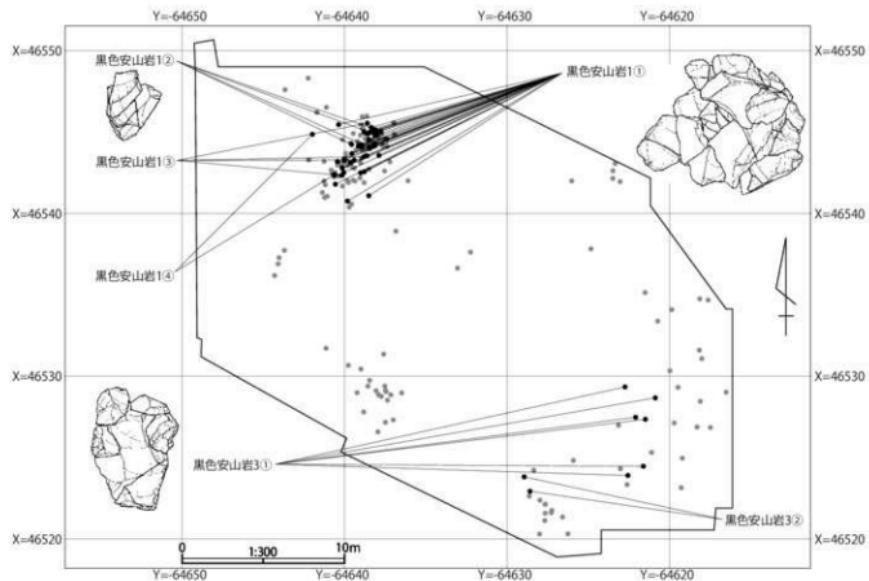
第167図 芳賀東部團地遺跡 B区 母岩別資料・接合資料(4)



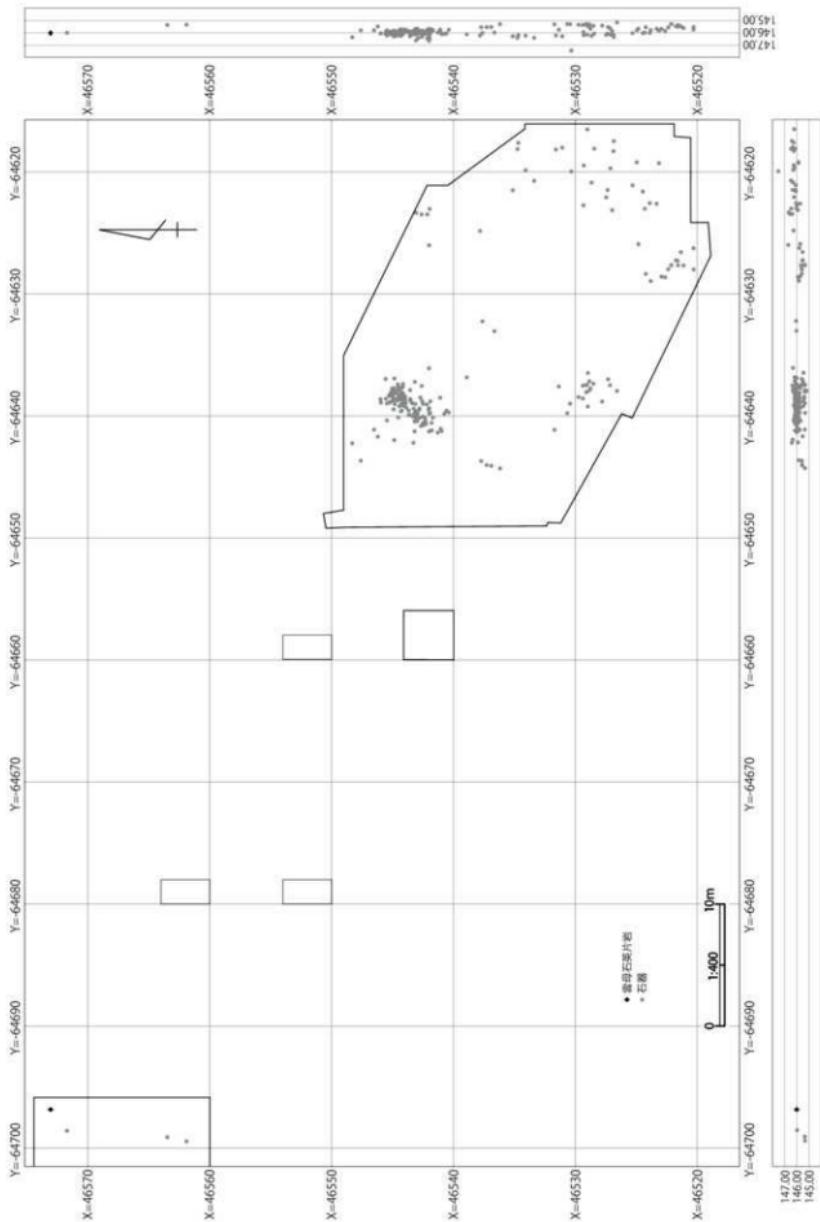
第168圖 芳賀東部園地遺跡 B區 石器分布・垂直分布狀況







第171図 芳賀東部団地遺跡 B区 接合資料の分布状況



第172図 芳賀東部圏地遺跡 B1区 純品片岩の分布状況

### 第3章 各遺跡の遺構・遺物

< E 区 > (第141・193 ~ 199図、PL.48-2・3)

#### (1) 出土層位

基本土層のV層を中心にIV層からVI層にかけて出土した。テフラとの関係では浅間板鼻黄色軽石 (As-YP、約13,000年前) より下位で、浅間大窪沢第1軽石 (As-OP1、約17,000年前) から浅間板鼻褐色軽石 (As-BP、約19,000 ~ 24,000年前) までの間である。

#### (2) 検出遺構

遺構は検出されなかった。

#### (3) 出土遺物

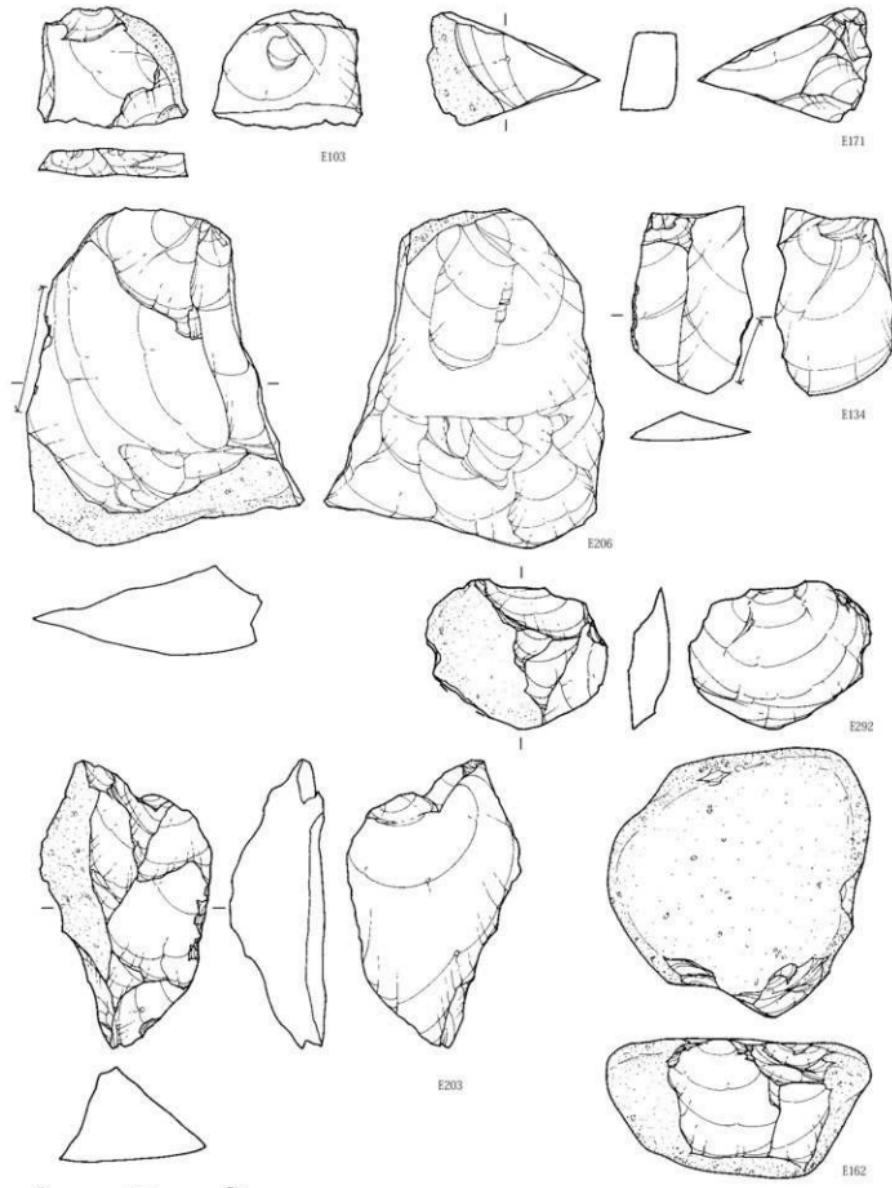
総点数は301点で、内訳は石器28点 (9.3%)、剥片260点 (86.4%)、碎片9点 (3.0%)、礫・礫片4点 (1.3%) である。石器の器種は、加工痕ある剥片5点 (1.7%)、使用痕ある剥片1点 (0.3%)、石核16点 (5.4%)、敲石5点 (1.7%)、台石1点 (0.3%)、剥片260点 (87.5%)、碎片9点 (3.1%) である。石器の石材は黒色安山岩が152点 (51.2%)、黒色頁岩が131点 (44.1%) と多く、珪質頁岩5点 (1.7%)、砂質頁岩3点 (1.0%)、チャート6点 (2.0%) などである。礫・礫片の石材は粗粒輝石安山岩1点 (25.0%)、溶結凝灰岩2点 (50.0%)、凝灰岩1点 (25.0%) などである (第20表参照)。

**加工痕ある剥片** (第173図、E103・E134・E171・E203・E292、PL.57・58) 総数5点が出土している。E103は一側縁に原石面を残す折断された縦長の剥片の一側縁の裏面側に僅かに加工が加えられている。石材は黒色頁岩である。E171は一側縁に原石面を残す折断された剥片の一側縁に加工が加えられている。石材は黒色安山岩である。E134は縦長剥片の両側縁に細かな加工が加えられている。石材は黒色頁岩である。E292は表面の一部に原石面が残る横長剥片の一側縁に僅かに加工が加えられている。石材は黒色頁岩である。E203は表面の一部に原石面を残す剥片の一側縁に加工が加えられている。石材は黒色安山岩である。

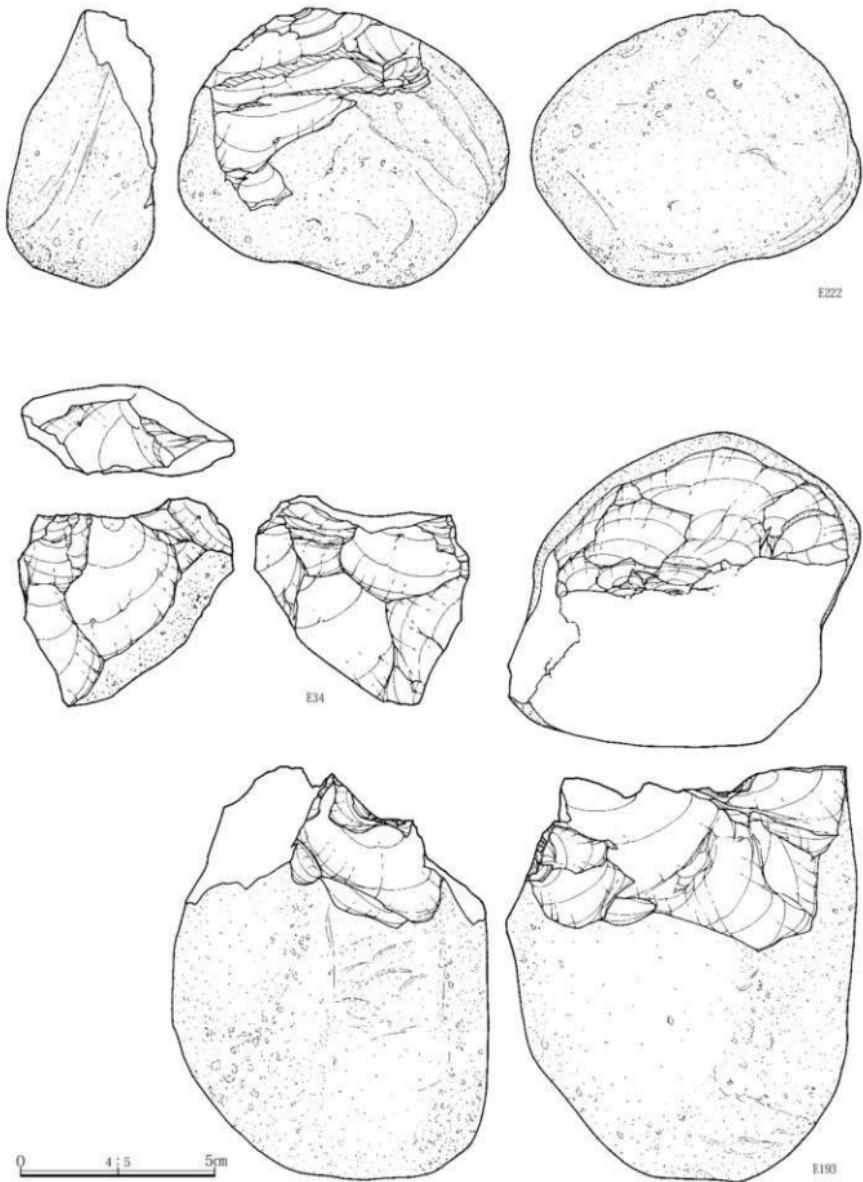
**使用痕ある剥片** (第170図、E206、PL.57) 1点が出土している。E206は原石面を打面とし、先端部に原石面を残す折断された大形の剥片の一側縁全体に細かな使用痕が認められる。石材は黒色頁岩である。

**石核** (第173 ~ 177図、E34・E36・E50・E71・E89・E132・E157・E158・E162・E170・E193・E194・E222・E245・E247・E302、PL.58 ~ 60) 16点が出土している。E162はやや扁平な楕円礫の一端から原石面を打面に2、3枚の剥片を剥離している。石材は黒色頁岩である。E222もやや扁平な楕円礫の一端から原石面を打面に2、3枚の剥片を剥離している。石材は黒色安山岩である。E34は表面の一部に原石面を残す大形の剥片を素材に、同一打面から裏面で剥片を剥離している。石材は黒色安山岩である。E193は大形の礫の一端を打ち欠いて打面を作り出し、長軸の底部に向かって剥片を剥離し、剥離面に90°転位して剥離する。石材は黒色頁岩である。E194は原石面が一部に残る分割礫で、原石面や分割面から剥片を剥離する。石材は黒色頁岩である。E157は原石面が裏面の一部に残る分割礫で、周縁から中心に向かって剥片を剥離している。石材はチャートである。E36は原石面が一部に残る分割礫で、打面を何度も転位して剥離している。石材は黒色安山岩である。E245は大形の楕円礫で、一端を打ち欠いて打面を作り出し、縦長の剥片を剥離するが、打面を180°転位して、もう一端からも剥離している。石材は黒色安山岩である。E71は原石面が一部に残る分割礫で、分割面を打面に剥離している。石材は黒色安山岩である。E50は原石面が裏面に残る分割礫で、周縁から中心に向かって剥片を剥離している。石材は黒色安山岩である。E89は原石面が一部に残る分割礫で、分割面や剥離面を打面に転位している。石材は珪質頁岩である。E158+E170は原石面が側面の一部に残る分割礫で、原石面や分割面を打面に剥離している。石材は黒色安山岩である。E247は原石面が一部に残る分割礫で、分割面や剥離面を打面に何度も転位している。石材は黒色頁岩である。E132は原石面が一部に残る分割礫で、分割面や剥離面を打面に転位している。石材は黒色安山岩である。E302は原石面が底面に残る分割礫で、剥離面を打面に転位している。石材は黒色安山岩である。

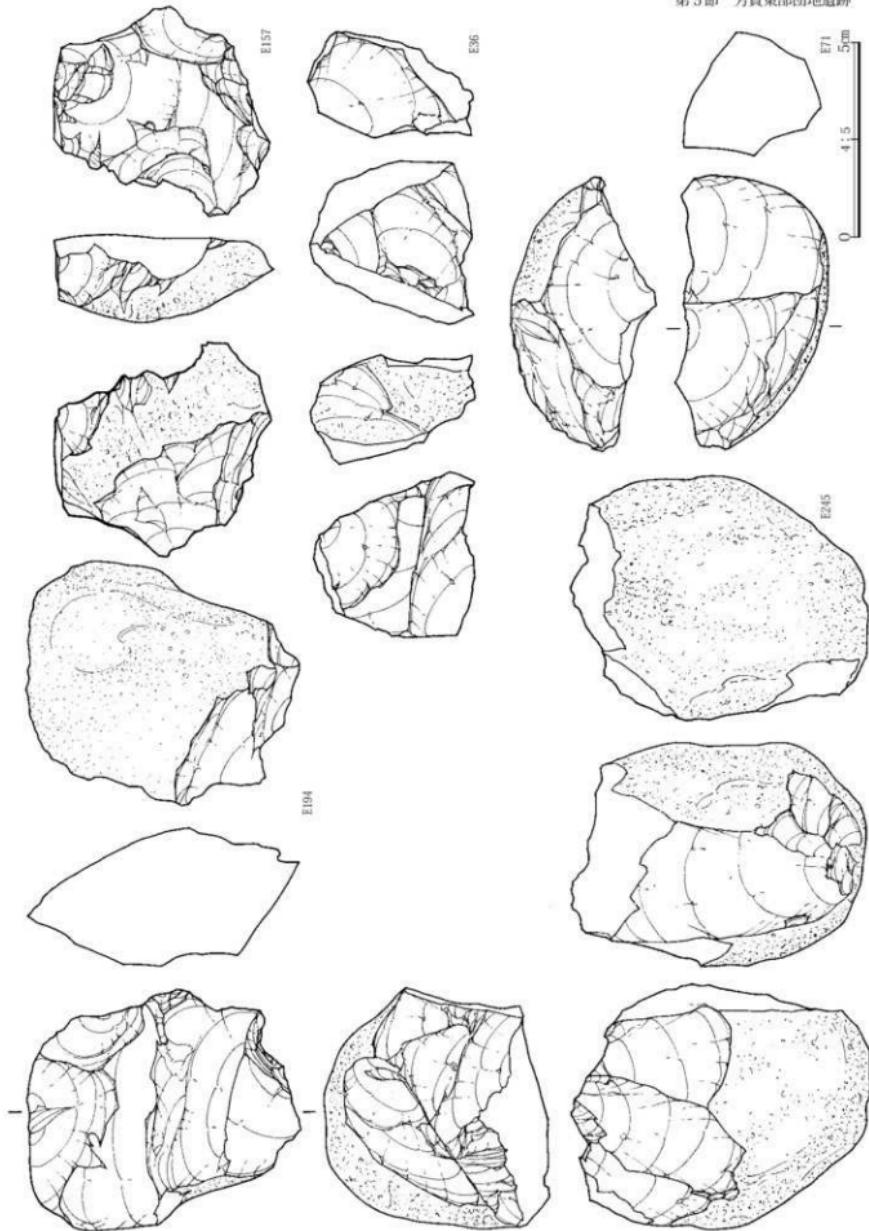
**台石** 1点が出土している (E55、非実測)。断面三角の亜角礫で、平坦な面を上にしたと考えられる。石材は黒色頁岩である。



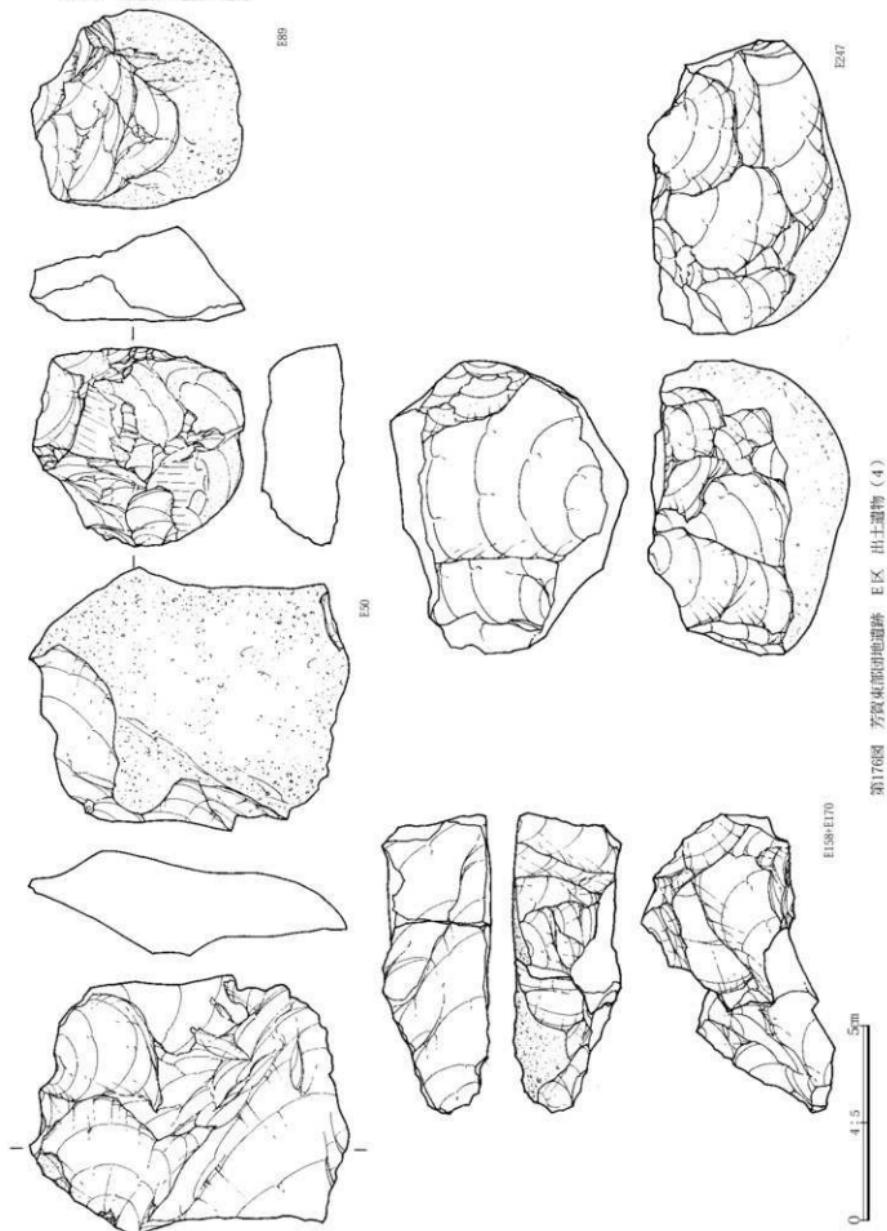
第173図 芳賀東部団地遺跡 E区 出土遺物(1)



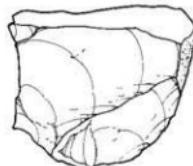
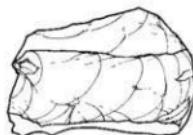
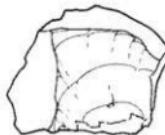
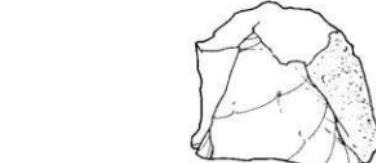
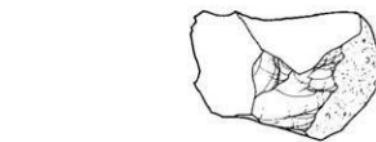
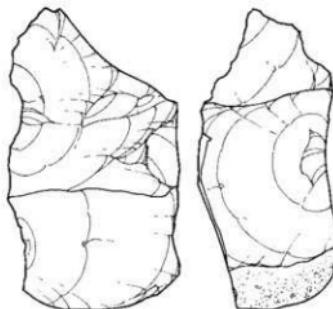
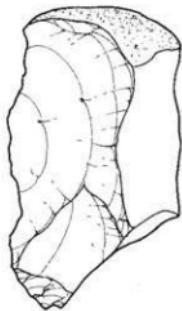
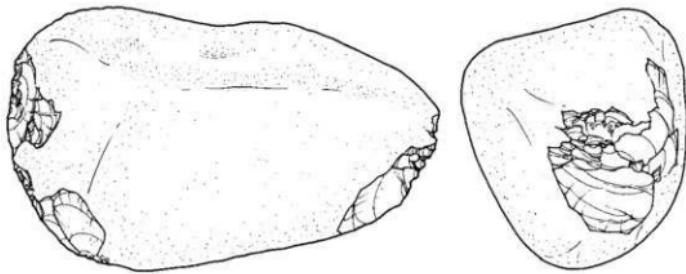
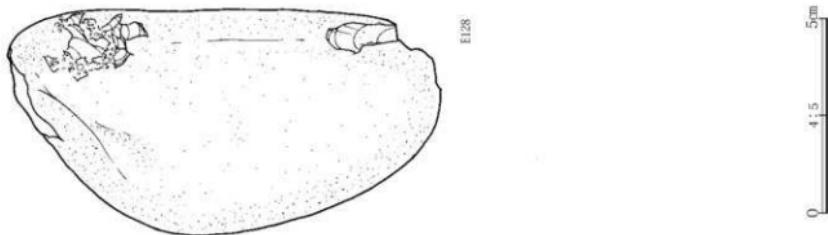
第174図 芳賀東部团地道路 E区 出土遺物（2）



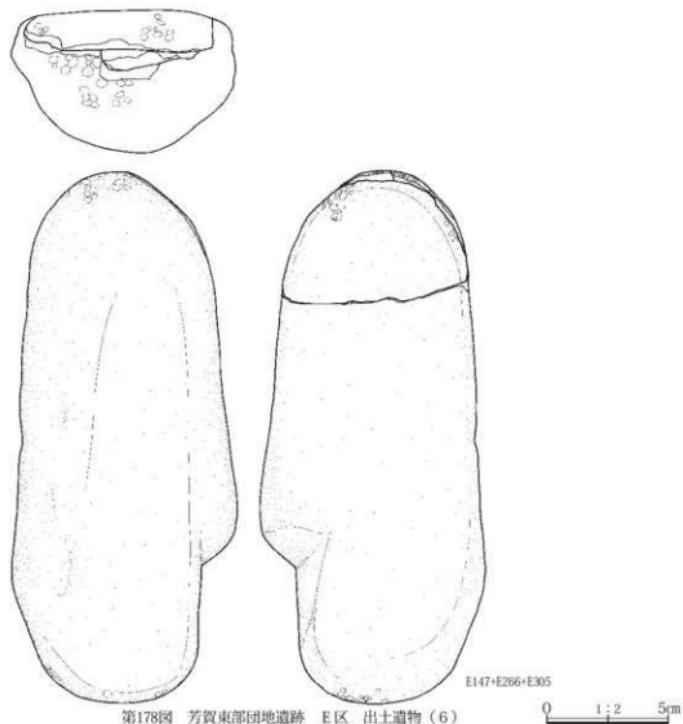
第175図 芳賀東部遺跡 E区 出土遺物(3)



第176図 芳賀東部出土地遺跡 E区 出土遺物(4)



第177図 芳賀東部田地遺跡 E区 出土遺物（5）



敲石（第177・178図、E109・E128・E147・E266・E305、PL.60・61）総数5点がある。E109+E128はやや太めの亜角礫の両端付近に敲打痕や敲打による剥離痕が残されている。石材は黒色頁岩である。E147+E266+E305は棒状礫の一端に敲打痕が少し残ると共に、敲打の衝撃で剥がれた剥片が接合している。石材は砂質頁岩である。

第20表 芳賀東部團地遺跡 第2文化層 E区組成表

	加工痕	使用痕	石核	敲石	台石	剥片	碎片	礫	礫片	总计
黒色安山岩	2		10			133	7			152
黒色頁岩	3	1	4	2	1	119	1			131
珪質頁岩			1			4				5
砂質頁岩				3						3
チャート			1			4	1			6
溶結凝灰岩								2	2	2
凝灰岩								1		1
粗粒輝石安山岩								1		1
統計	5	1	16	5	1	260	9	2	2	301

## (4) 母岩別資料・接合資料(第179～192図、PL.61～67)

黒色安山岩は152点が出土した。このうち、接合資料は20例97点がある。

黒色安山岩6(第179～181図、PL.61・62) 色調は灰6/1(HuE7.5Y)、自然面は皺が顕著。接合資料8例50点、非接合資料9点の計59点がある。

黒色安山岩6-①(第179図、PL.61) 10cm強の原石を二つ以上に分割し、それぞれで分割面や剥離面を打面に何度も転位している。石核3点、折断を含む剥片16点の計19点からなる接合資料である。

E35→E 57→ ↓

E47→E 32→E 246→E 37→E 39→E 25→E 33→E 50(石核)→E 63+E46→E 58→E56→E 31→E 34(石核)→E36(石核)  
○E248→ ↑ ← ○E64

黒色安山岩6-②(第180図、PL.62) 加工痕ある剥片1点、折断を含む剥片8点からなる接合資料である。

E166→E 272→E 172+E 171(加工痕ある剥片)+E163→E156+E306→E150→E169

黒色安山岩6-③(第180図、PL.62) 折断を含む剥片8点の接合資料である。E227+E217→E241+E187→E161+E231→E218+E216

黒色安山岩6-④(第180図、PL.62) 剥片3点の接合資料である。E65→E30→E249

黒色安山岩6-⑤(第181図、PL.62) 剥片4点の接合資料である。E152→E235+E240→E225

黒色安山岩6-⑥(第181図、PL.62) 折断を含む剥片3点の接合資料である。E229→E228+E219

黒色安山岩6-⑦(第181図、PL.62) 剥片の折断資料である。E179+E184

黒色安山岩6-⑧(第181図、PL.62) 剥片2点の接合資料である。E26→E49

黒色安山岩6 同じ母岩の非接合資料は、剥片9点がある。E27、E52、E59、E96、E149、E159、E164、E226、E273

黒色安山岩7-①(第182図、PL.63) 石核1点、剥片14点の計15点からなる接合資料である。

E300→E312→E269→E304→E260→E116+E153→E299→E270→E303→E110→E114→E301→E308→E302(石核)

黒色安山岩7-②(第182図、PL.62) 剥片の折断資料である。E190+E189

黒色安山岩8-①(第181図、PL.62) 10cm強の亜角礫の一端を剥離して、その剥離面を打面として継長の剥片を連続して剥離している。石核1点、剥片4点の折断を含む接合資料である。E125→E122→E108+E104→E132(石核)

黒色安山岩9-①(第183図、PL.63) 石核2点、剥片2点の計4点からなる接合資料である。E168→E307→E158(石核)→E170(石核)

黒色安山岩9-②(第183図、PL.63) 剥片3点の接合資料である。E83→E80→E88

黒色安山岩9-③ 剥片の折断資料である。E175+E180 非尖測

黒色安山岩9-④(第183図、PL.63) 剥片の折断資料である。E98+E200

黒色安山岩9-⑤(第183図、PL.63) 剥片2点の接合資料である。E276→E97

黒色安山岩9(第173・183図、PL.58・63) 同じ母岩の非接合資料として加工痕ある剥片1点、剥片12点がある。E5、E70、E74、E79、E90、E91、E174、E176、E178、E183、E198、E203(加工痕ある剥片)、E281

黒色安山岩10-①(第184図、PL.63) 石核1点、剥片3点の計4点からなる接合資料である。E67→E72→E78→E71(石核)

黒色安山岩11-①(第184図、PL.64) 剥片4点の接合資料である。E197→E192→E199→E213

黒色安山岩11 同じ母岩の非接合資料は、剥片1点がある。E201

黒色安山岩12-①(第184図、PL.64) 石核1点、剥片1点の計2点からなる接合資料である。E19→E245(石核)

黒色安山岩13-①(第184図、PL.64) 剥片2点の接合資料である。E29→E28

黒色安山岩には単独母岩(第185図、PL.64)として、剥片5点が非接合資料である。E8、E45、E185、E222、E232

黒色安山岩には分類不能な剥片20点、碎片7点の計27点がある。

黒色頁岩(第185～92図、PL.64～67) 131点が出土した。このうち、接合資料13例98点がある。

### 第3章 各遺跡の遺構・遺物

黒色頁岩 4-① (第187図、PL.65) 10~15cm強の亜角礫の一端を剥離して、その剥離面を打面として剥片を連続して剥離している。石核2点、剥片10点の折断を含む計12点からなる接合資料である。E194 (石核) →E204→E207→E206→E208+E211→E195→E244→E210→E209→E214→E193 (石核)

黒色頁岩 5-① (第188図、PL.66) 二つに分割された2個体の接合資料で、折断を含む加工痕ある剥片2点と剥片17点の計19点からなる接合資料である。

個体 AE259→E130→E107+E103 (加工痕ある剥片) + E136→E134 (加工痕ある剥片) →E256→E126→E140→E145→E124→E129+E127+E137→

個体 BE143→E133+E139+E135→E265

黒色頁岩 6-① (第189図、PL.66) 石核1点と剥片10点の計11点が接合した。E6→E3→E18→E23→E2→E24+E53+E38→E1→E13→E247 (石核)

黒色頁岩 6 同じ母岩の非接合資料として剥片4点がある。E15、E20、E41、E181

黒色頁岩 7-① (第185・186図、PL.64・65) 加工痕ある剥片1点、剥片21点の計22点が接合した。E284→E277→E253→E310→E278→E81→E101→E254→E285+E315→E92→E290→E294→E297→E292 (加工痕ある剥片) →E283→E313→E279→E280→E291→E293+E282

黒色頁岩 8 (第190・191図、PL.66・67) 色調は灰6/1 (HuE7.5Y)、原石面は皺が顕著。接合資料の6例27点、非接合資料6点の計33点がある。

黒色頁岩 8-① (第190図、PL.66) 10cm強の亜角礫の一端から原石面を打面として剥片を連続して剥離している。大型の幅広剥片12点が接合した。E141+E144→E287+E196→E75+E251+E252→E309→E295+E100

黒色頁岩 8-② (第190図、PL.67) 折断を含む剥片4点の接合資料である。E148b→E68+E230→E69

黒色頁岩 8-③ (第191図、PL.67) 折断を含む剥片4点の接合資料である。E131→E111→E117+E142

黒色頁岩 8-④ (第190図、PL.67) 剥片3点の接合資料である。E119→E257→E148a

黒色頁岩 8-⑤ 剥片2点の接合資料である。E115→E263 非実測

黒色頁岩 8-⑥ 剥片2点の接合資料である。E121→E123 非実測

黒色頁岩 8 同じ母岩の非接合資料として剥片6点がある。E118、E138、E177、E212、E258、E261

黒色頁岩 9-① (第191図、PL.67) 剥片3点の接合資料である。E16→E17→E14

黒色頁岩 10-① (第192図、PL.67) 皺石の欠損事例である。E109 (皺石) →E128 (皺石)

黒色頁岩 11-① (第192図、PL.67) 剥片の折断資料である。E66+E250

黒色頁岩の單独母岩 (第192図、PL.67) には、非接合資料として石核1点、剥片3点の計4点がある。E162 (石核)、E191、E224、E262

黒色頁岩には分類不能な剥片17点、碎片1点の計18点がある。

珪質頁岩は、1例3点を含む5点である。

珪質頁岩 1-① (第192図、PL.67) 剥片3点の接合資料である。E73→E77→E87

珪質頁岩の單独母岩 (第176・192図、PL.60・67) には非接合資料として石核1点、剥片1点がある。E89 (石核)、E274

砂質頁岩-① (第178図、PL.61) 皺石の欠損事例である。E147 (皺石) →E266 (皺石) →E305 (皺石)

チャート 1-① (第192図、PL.67) 1例3点で、石核1点と剥片2点からなる接合資料である。E154→E167→E157 (石核)

#### (5) 剥片剥離技術

他の遺跡やB区と同様に、主に裏面に原石面を残す分割礫を素材とし、表面の周縁から中心に向かって連続して縱長や横長、それに不定形な剥片の剥離をする技術が中心であり、主要な石材は黒色安山岩である。これは群馬Ⅰ期からⅡ期にかけての特徴的な剥片剥離技術であり、石器組成などからみてもおそらくは群馬Ⅰ期に相当すると考えられる。

## (6) 分布状況（第193・222図）

石器群は、長軸20m・短軸15mの範囲に分布していた。やや歪んでいるが、いわゆる「環状ブロック群」として捉えることができる。環状部に7ブロックを、その内側に3ブロックを認定した。石器群が出土した地点の西側にはAs-B(浅間B軽石)が堆積する谷頭があり、この谷の西側斜面に石器群が分布したことが明らかである。おおむね、石器の分布は捉えることができたとされるが、もう少し広く周辺域が試掘されていれば、より的確に分布状況が掴めたというべきで、特に、路線外に近い南側ブロックが路線外に広がる可能性も否定できない。

## (7) 石器の分布（第194図）

主要な石器は少ないが、石器製作に関わる器種は2号ブロックと3号ブロック、それに5号ブロックと6号ブロックが多く、分布の中での北東と南西の場所に相対するように位置している。逆に、加工痕ある剥片などは1号ブロックと2号ブロック、5号ブロックと6号ブロックにやや集中している。のことから、分布の範囲の北東と南西が主に石器製作の場であり、北西と南東が居住の場と推定され、北側と南側をそれぞれ占地する形での二つの集団が結合したとも考えられる。

## (8) 石材の分布（第195図）

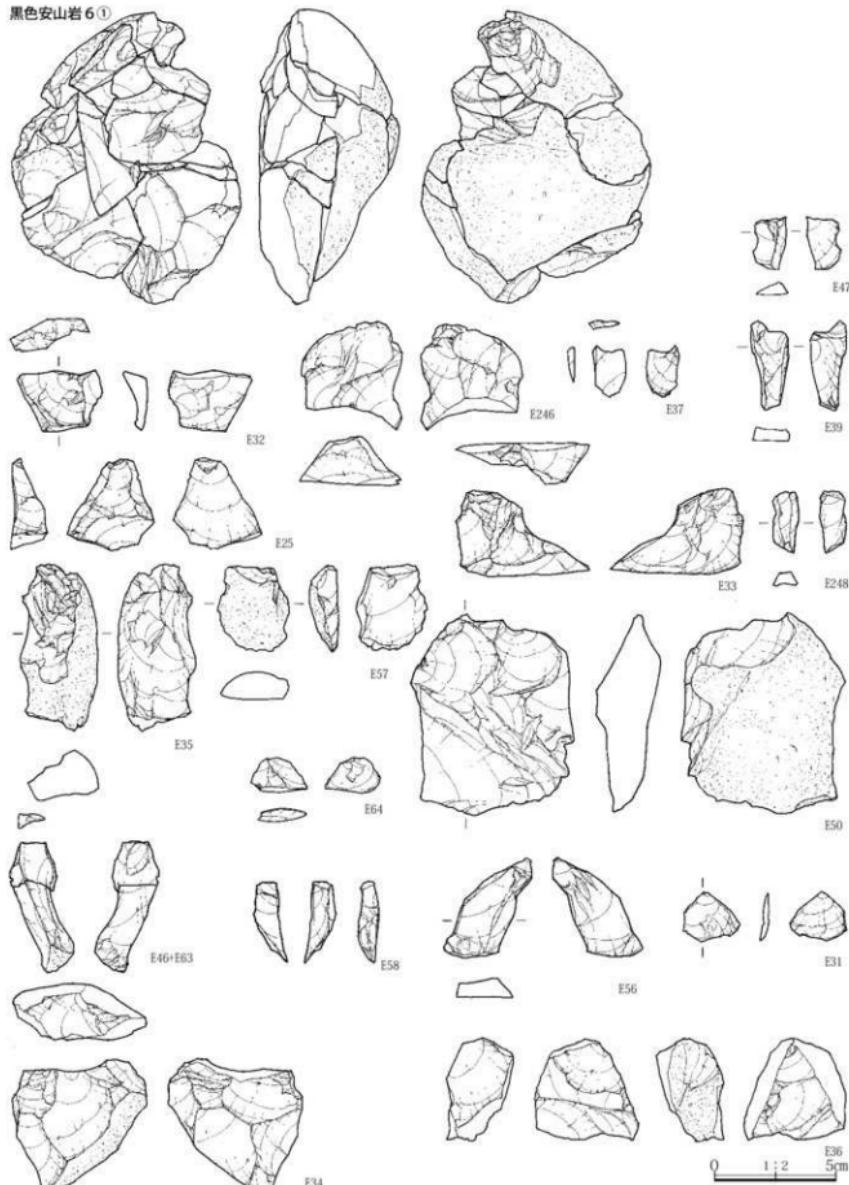
黒色頁岩は1・2・4・5ブロックで分布、接合状態から見て母岩単位で消費したことが確実である。これに対し、黒色安山岩は母岩単位の剥離が1・3・5号ブロック（母岩7・8・10・11・12）に集中した以外、北東側2号ブロック・中央9号ブロック・南西側6号ブロックで母岩6を共有剥離したほか、母岩9を北東側・南西側ブロックで共有している。珪質頁岩やチャートなど少數石材も北東側・南西側ブロックに集中する傾向がある。

## (9) 接合資料の分布（第196～199図）

多くは同一ブロック内で接合が完結するが、黒色安山岩では1号ブロックと8号ブロック、1号ブロックと10号ブロック、2号ブロックと3号ブロック、4号ブロックと10号ブロック、6号ブロックと9号ブロックなどで、黒色頁岩では1号ブロックと8号ブロック、2号ブロックと5号ブロック、3号ブロックと4号ブロックなどでブロック間接合が確認されている。ほぼすべてのブロックで剥片剥離作業が行われているが、中央ブロックの接合資料が礫表皮を大きく残しているものが多く、ブロックの機能を考える際の留意事項として注意しておきたい。

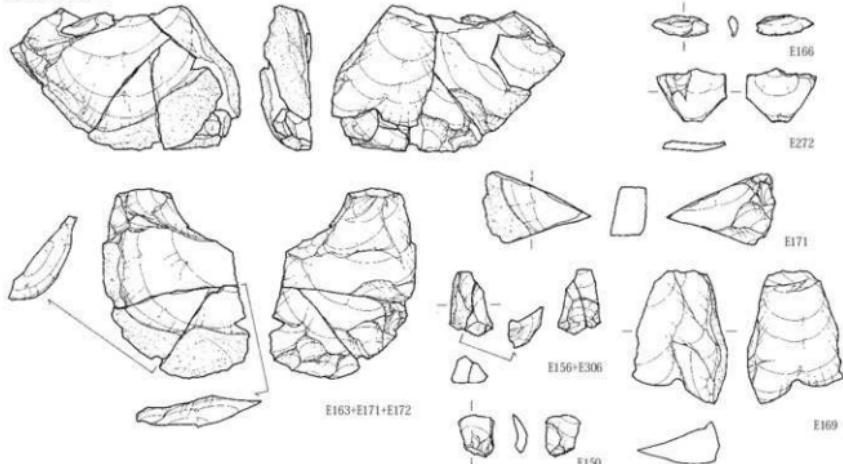
以上の点からB区と同様に、出土層位や石器組成、主要な石器の様子から、群馬Ⅰ期の前半期と考えられる。また、粗密の差もあるが、E区もB区と同様に、いわゆる「環状ブロック群」の範疇に含めたいと考える。

黒色安山岩 6①

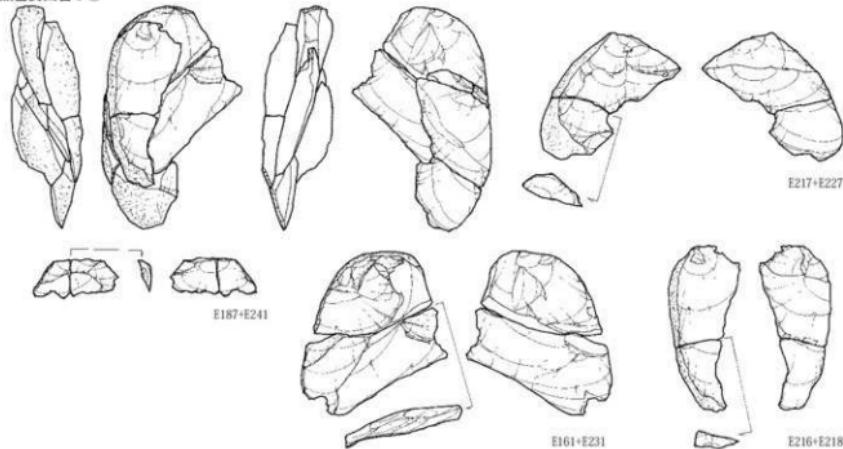


第179図 芳賀東部团地遺跡 E区 母岩別資料・接合資料(1)

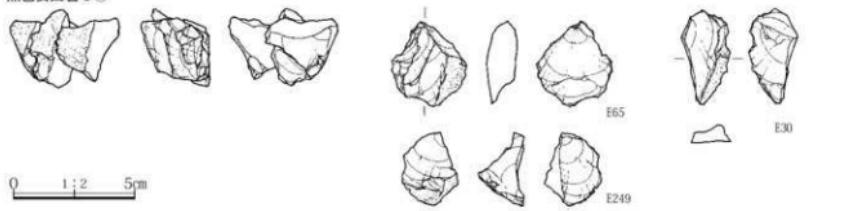
## 黒色安山岩 6②



## 黒色安山岩 6③

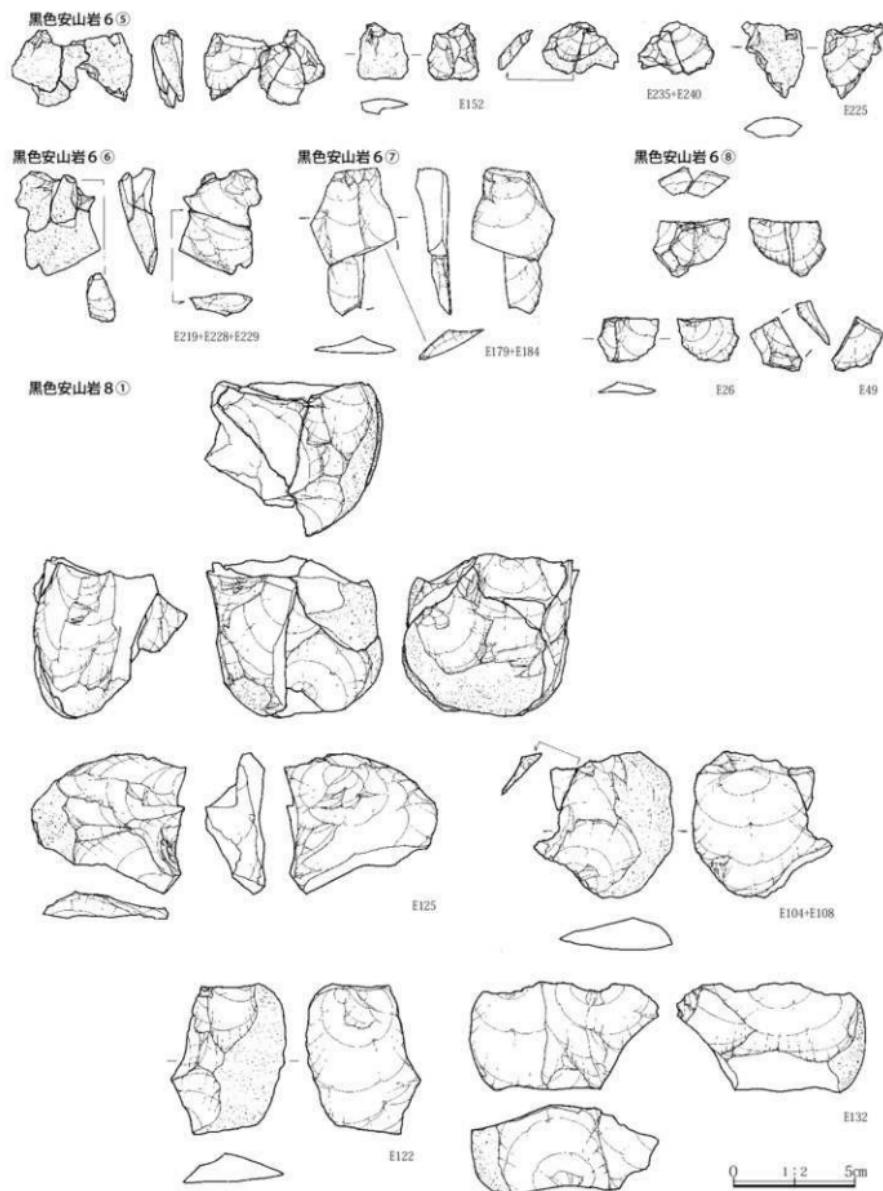


## 黒色安山岩 6④



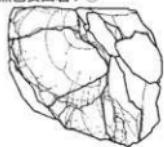
0 1:2 5cm

第180図 芳賀東部団地遺跡 E区 母岩別資料・接合資料(2)

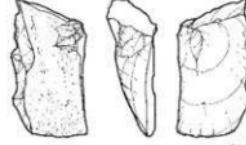
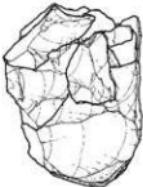
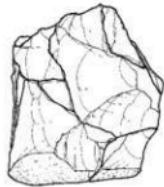


第181図 芳賀東部团地遺跡 E区 母岩別資料・接合資料(3)

## 黒色安山岩7①



E189-E190



E110



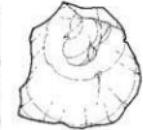
E312



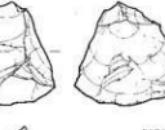
E299



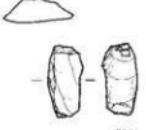
E114



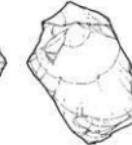
E269



E270



E301



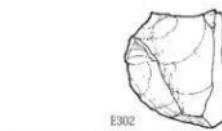
E304



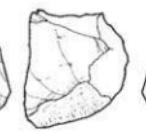
E303



E308



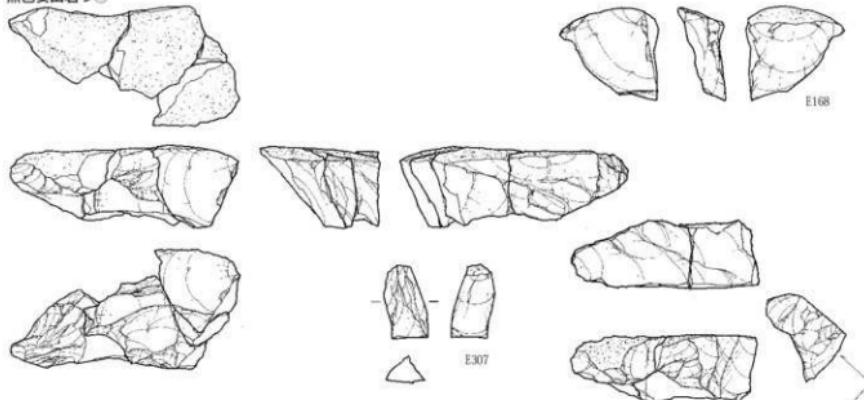
E302



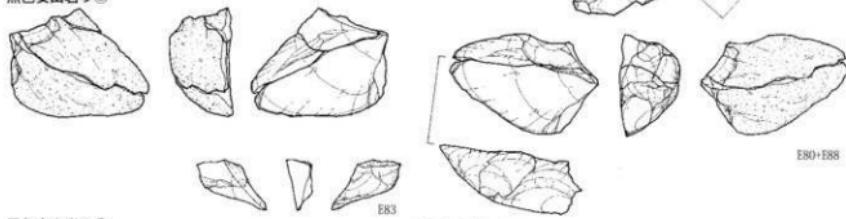
第182図 芳賀東部田地遺跡 E区 母岩別資料・接合資料(4)

0 1:2 5cm

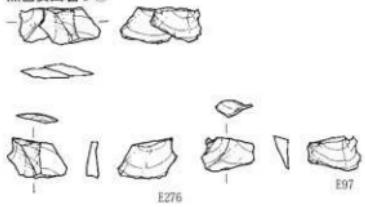
第3章 各遺跡の遺構・遺物  
黒色安山岩9①



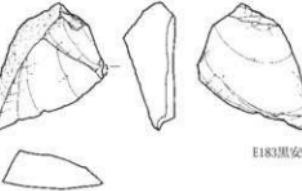
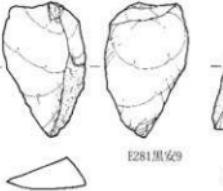
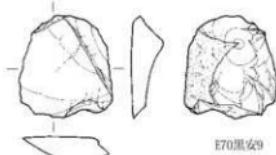
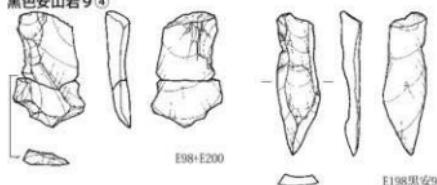
黒色安山岩9②



黒色安山岩9③



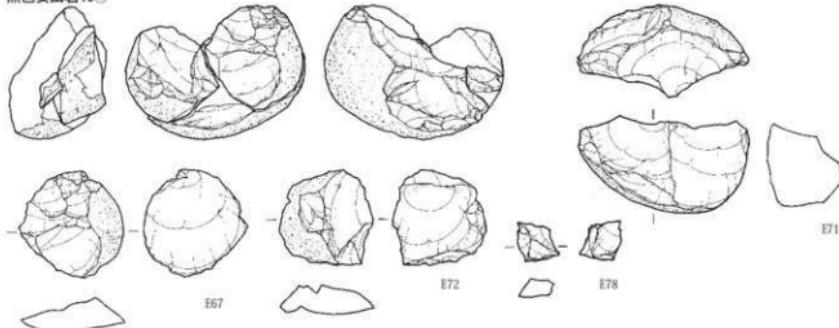
黒色安山岩9④



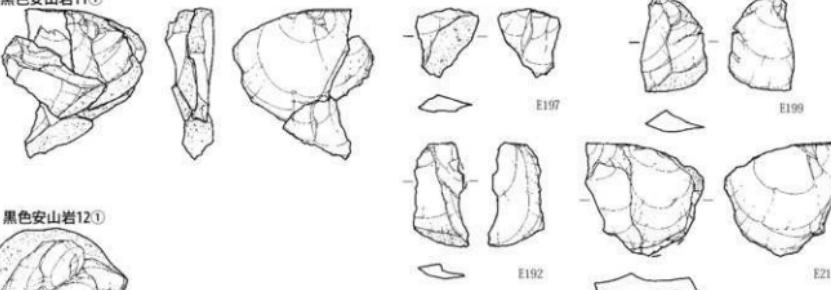
0 1:2 5cm

第183図 芳賀東部旧地遺跡 E区 母岩別資料・接合資料(5)

黒色安山岩10①



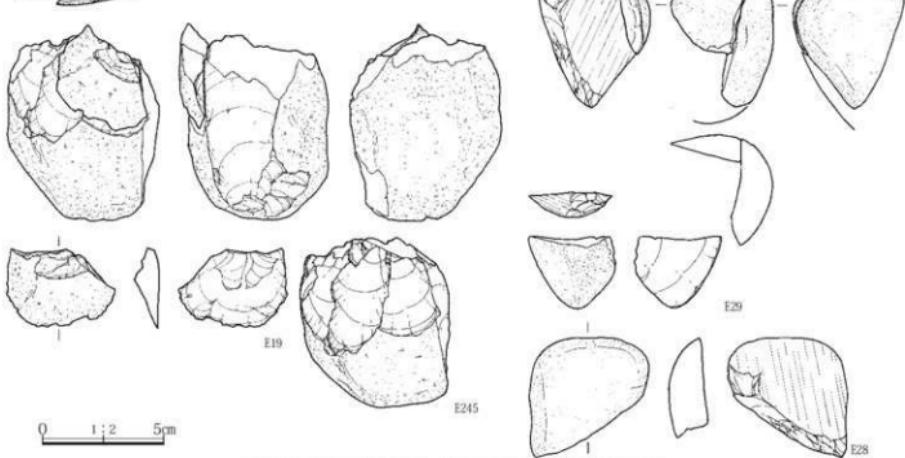
黒色安山岩11①



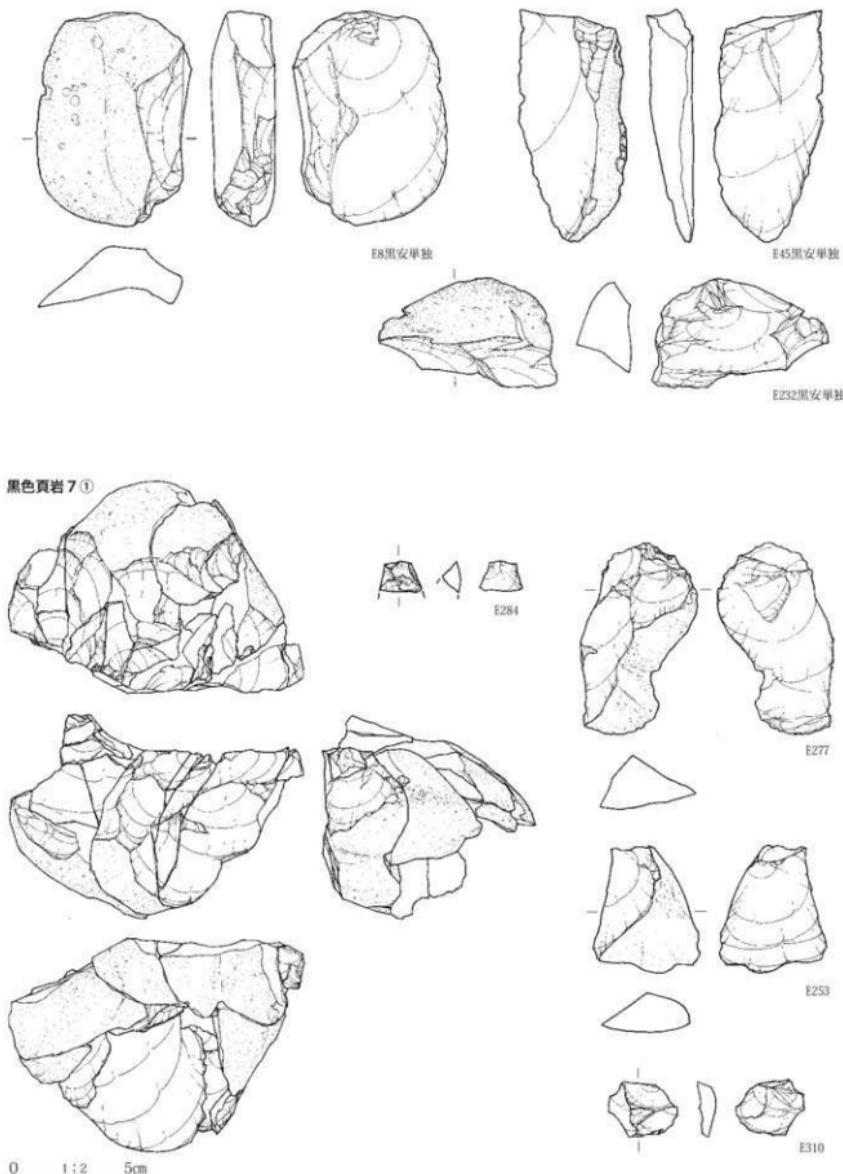
黒色安山岩12①



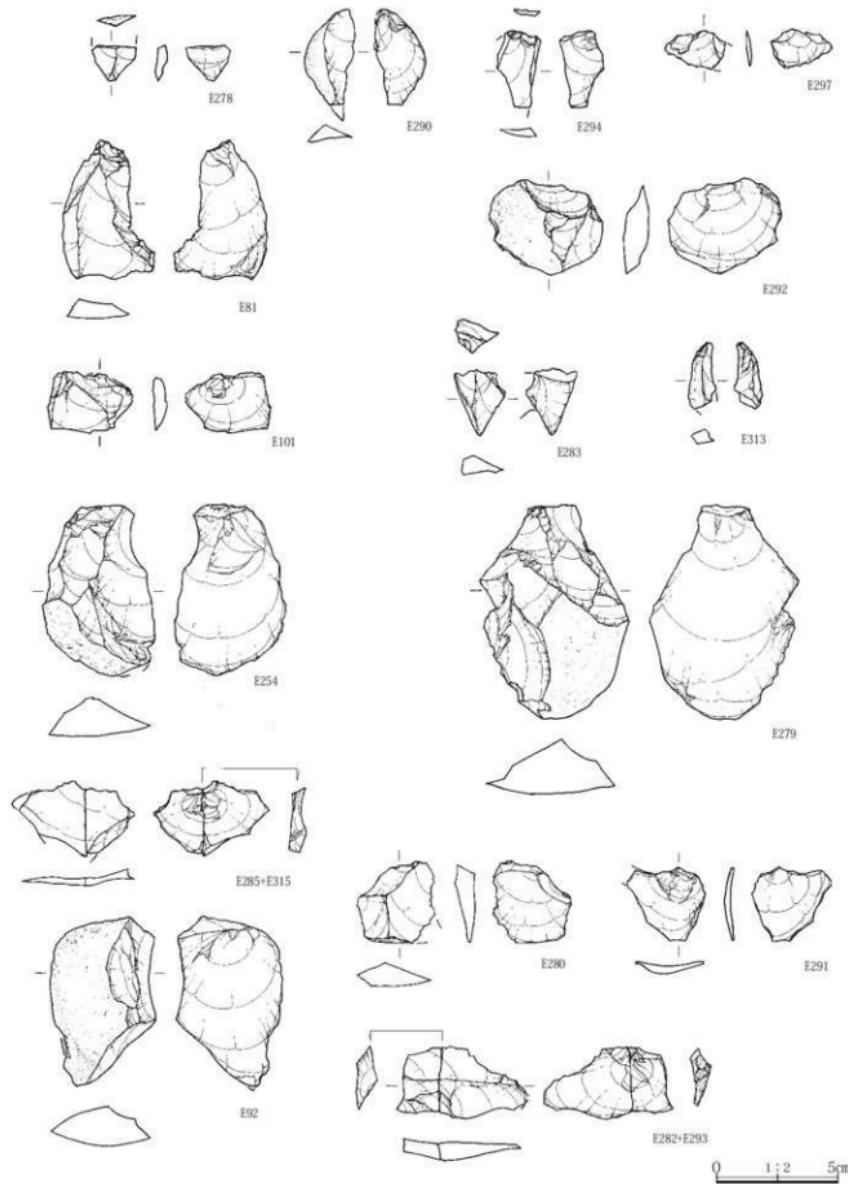
黒色安山岩13①



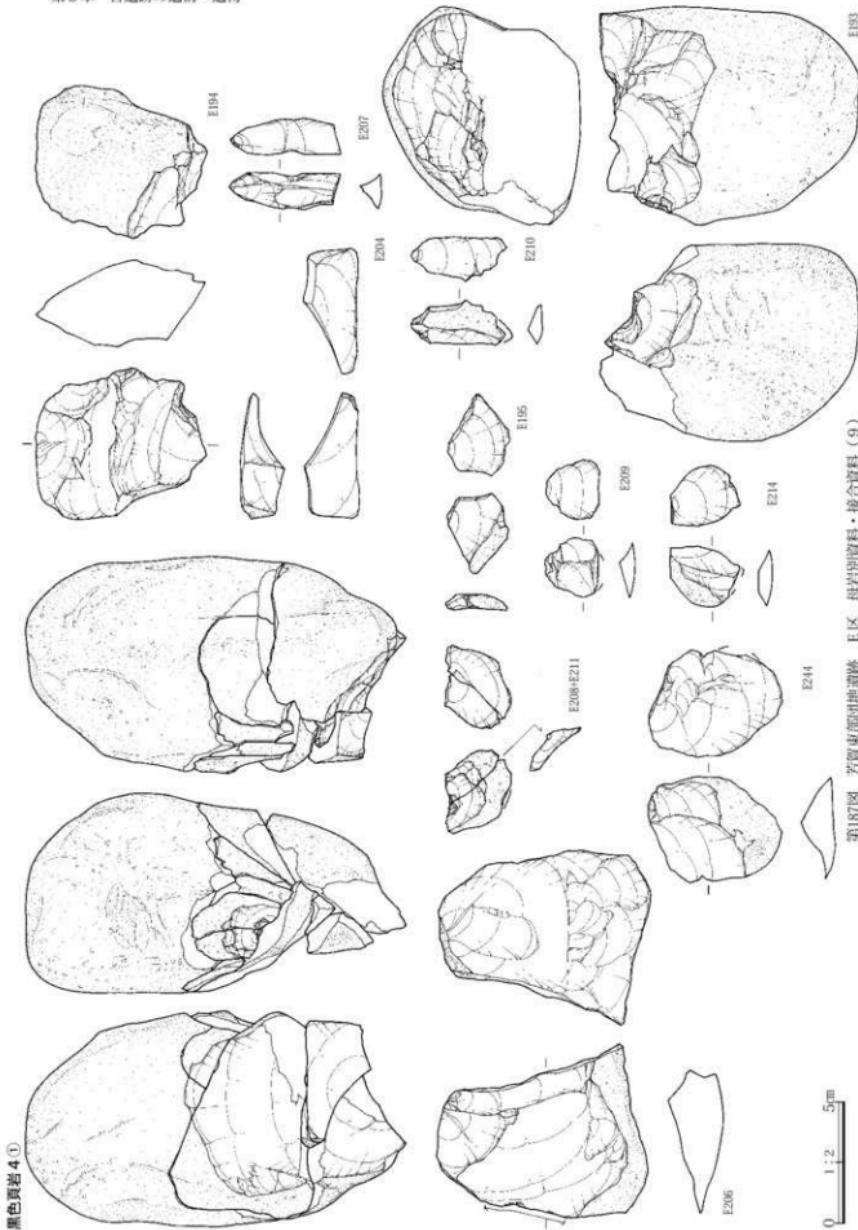
第184図 芳賀東部團地遺跡 E区 母岩別資料・接合資料（6）



第185図 芳賀東部團地遺跡 E区 母岩別資料・接合資料(7)



第186図 芳賀東部團地遺跡 E区 母岩別資料・接合資料(8)



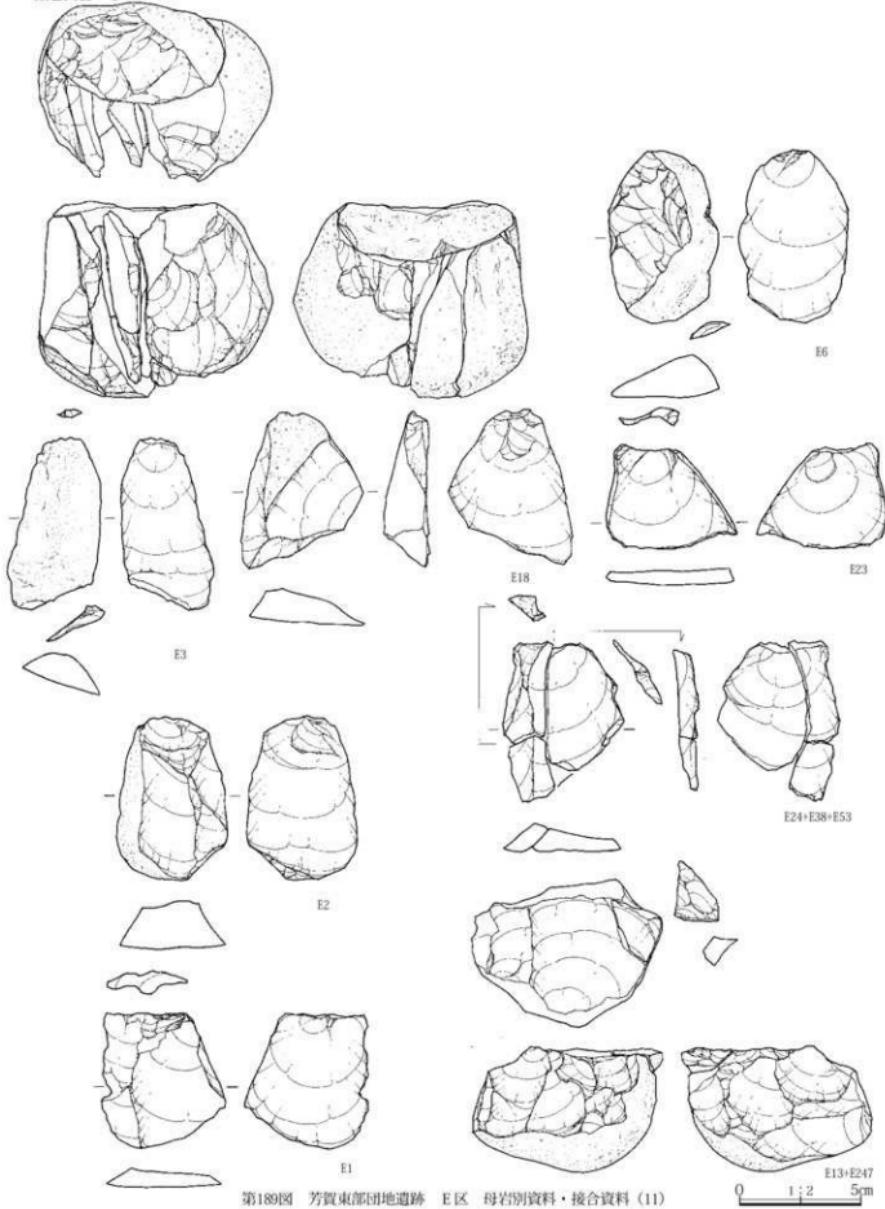
第187図 芳賀東側地遺跡 E区 母岩別資料・複合資料(9)

黑色頁岩5①



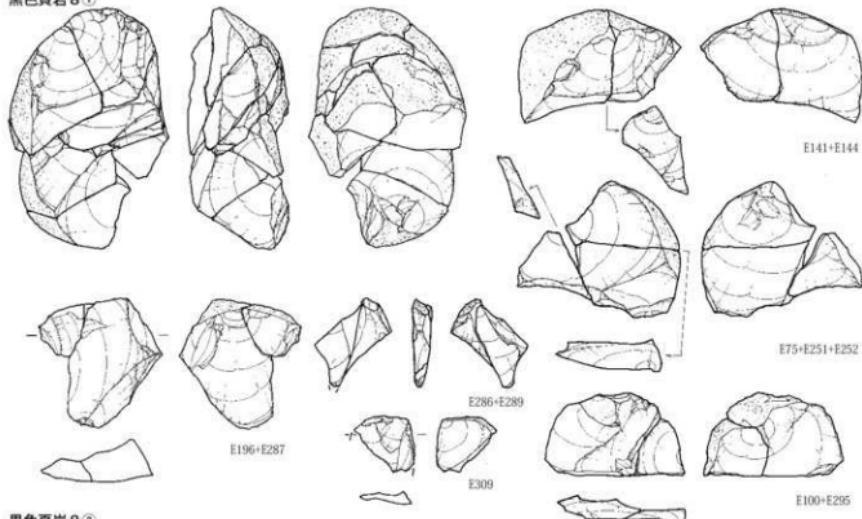
第188図 芳賀東部團地遺跡 E区 母岩別資料・接合資料(10)

0 1:2 5cm

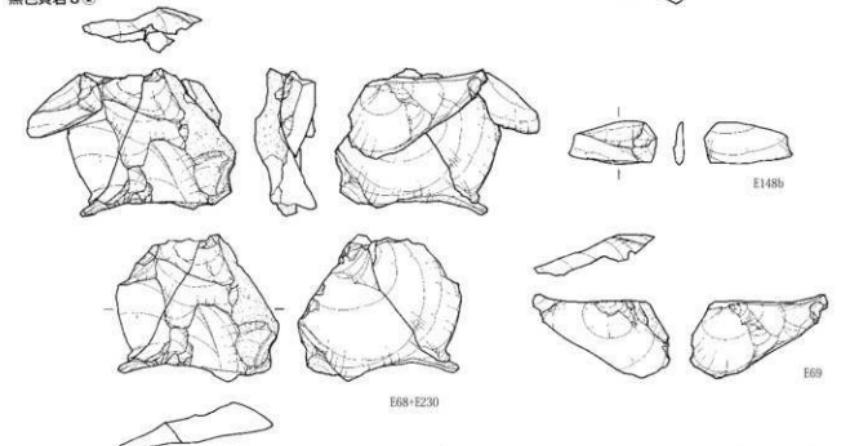


第189図 芳賀東部住地遺跡 E区 母岩別資料・接合資料(11)

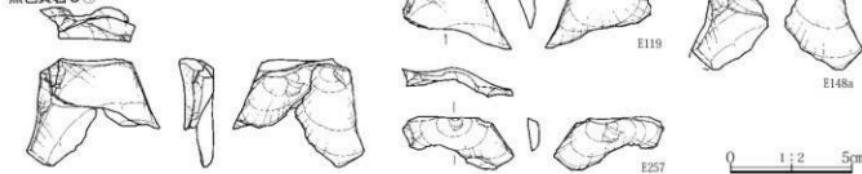
## 黑色頁岩8①



## 黑色頁岩8②



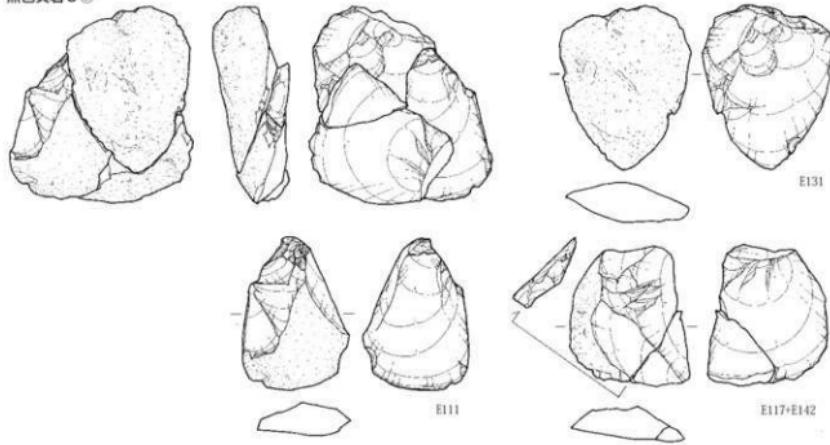
## 黑色頁岩8④



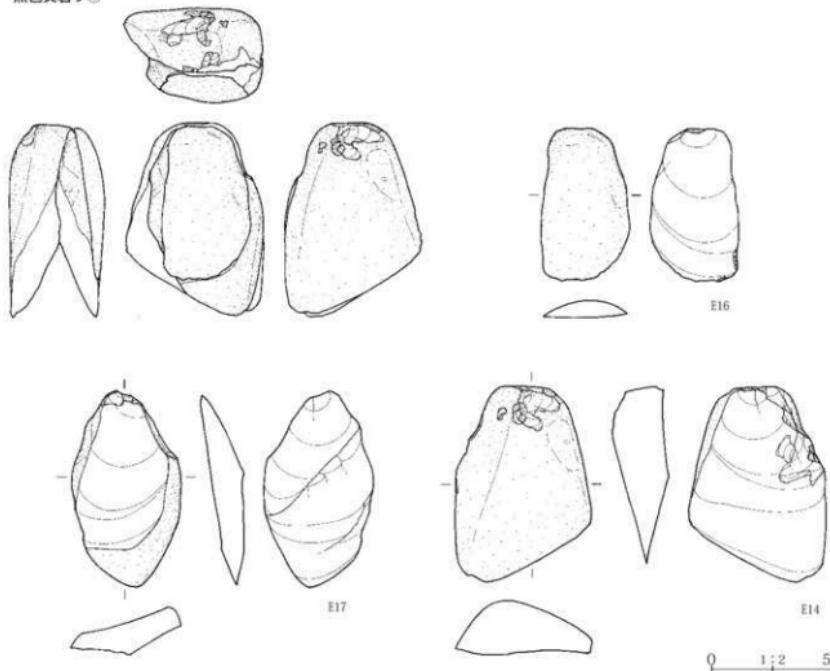
0 1:2 5cm

第190図 芳賀東部團地遺跡 E区 母岩別資料・接合資料(12)

第3章 各遺跡の遺構・遺物  
黒色頁岩8③

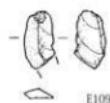


黒色頁岩9①



第191図 芳賀東部團地遺跡 E区 母岩別資料・接合資料(13)

黒色頁岩10①

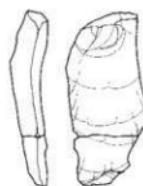
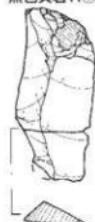


E109

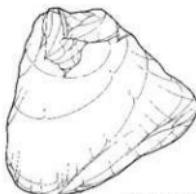
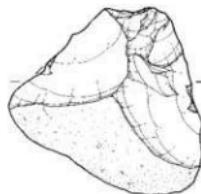
E128



黒色頁岩11①

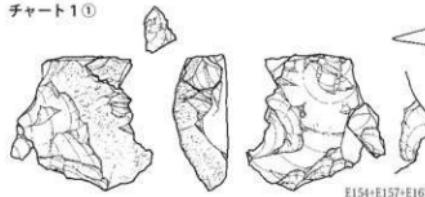


E66+E250

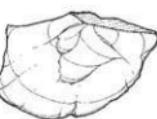
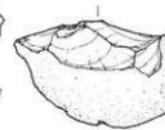


E224黒頁單独

チャート1①



E154+E157+E167

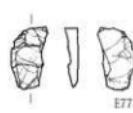


E262黒頁單独

珪質頁岩1①



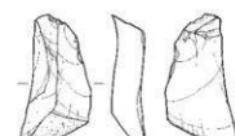
E73



E77



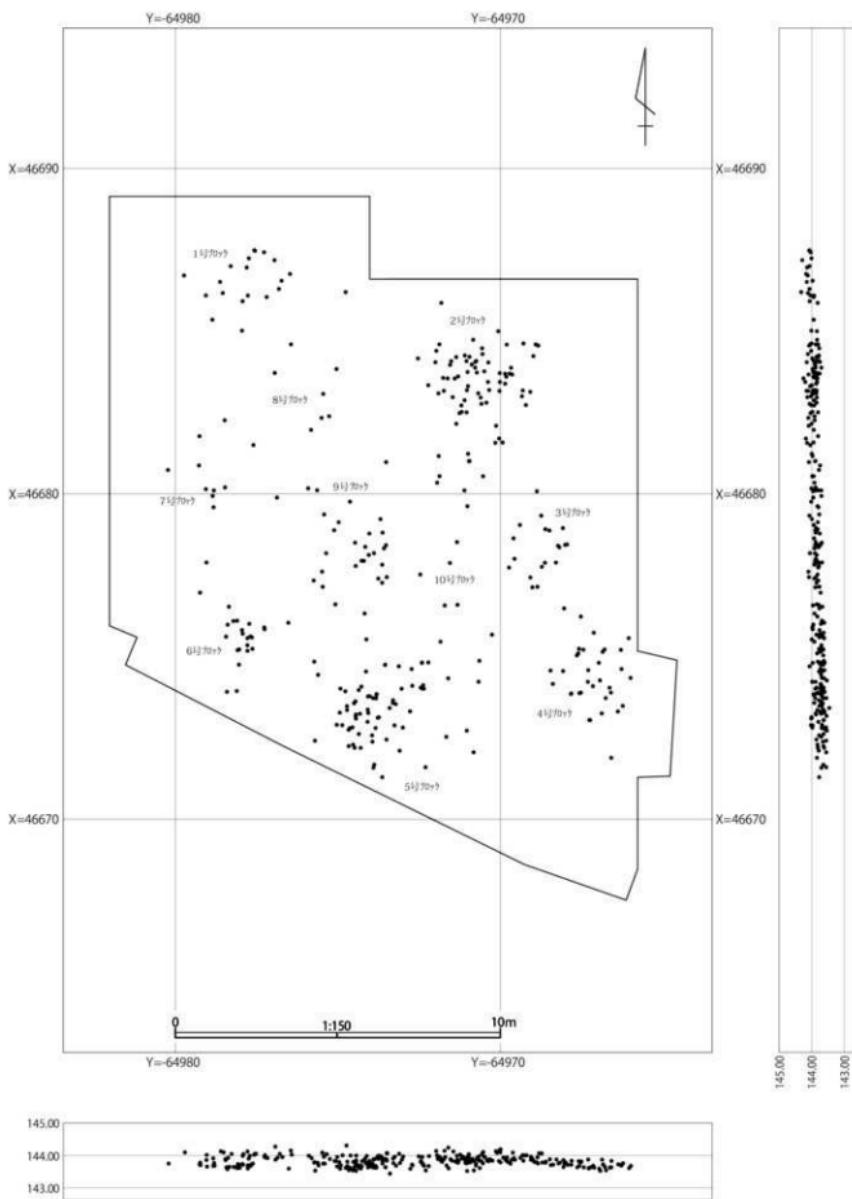
E87



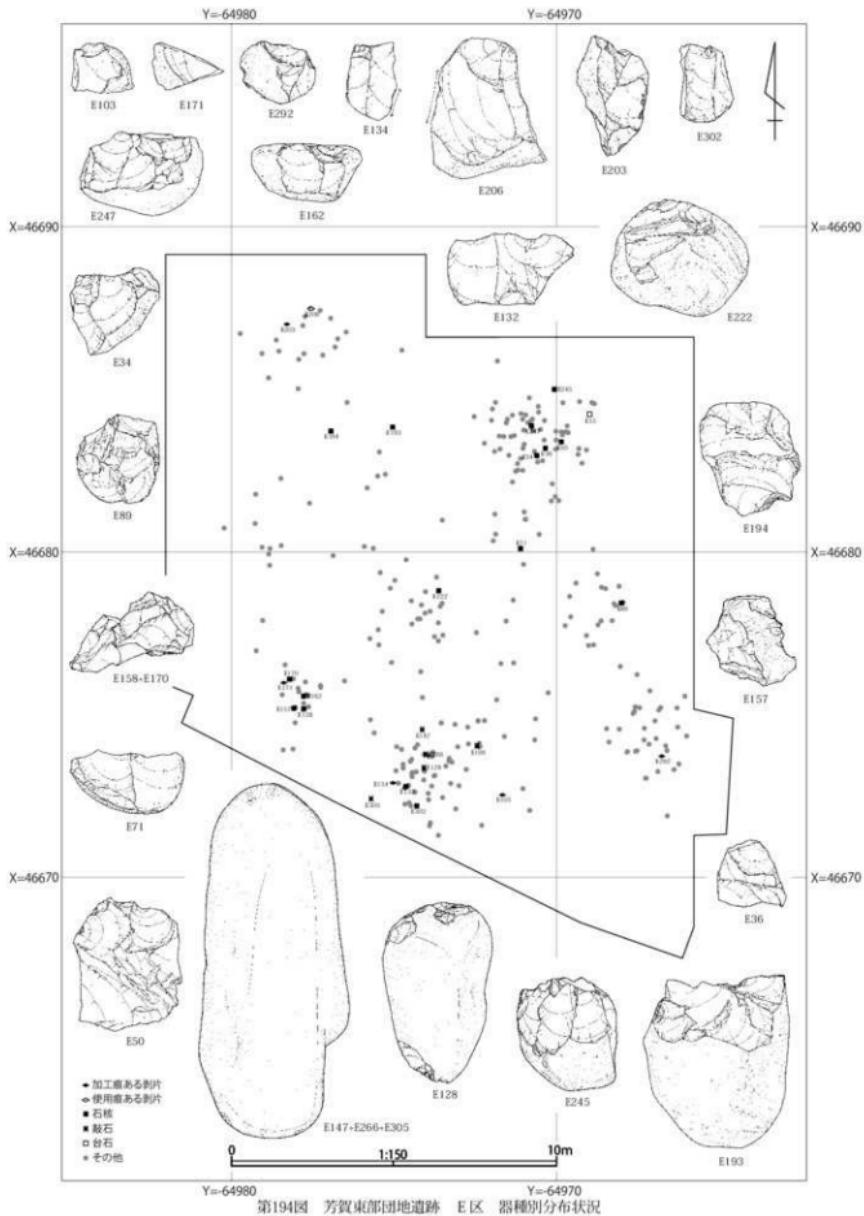
E274珪頁單独

0 1:2 5cm

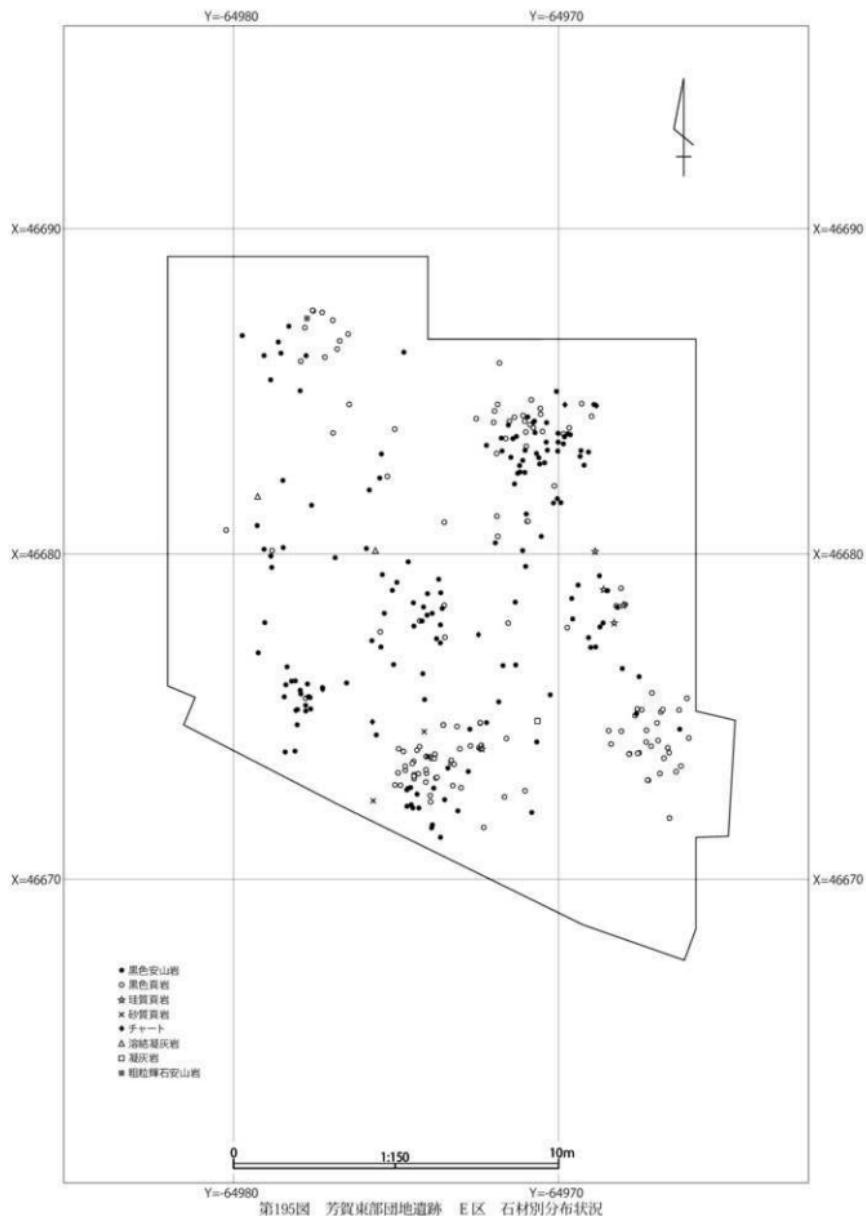
第192図 芳賀東部團地遺跡 E区 母岩別資料・接合資料(14)

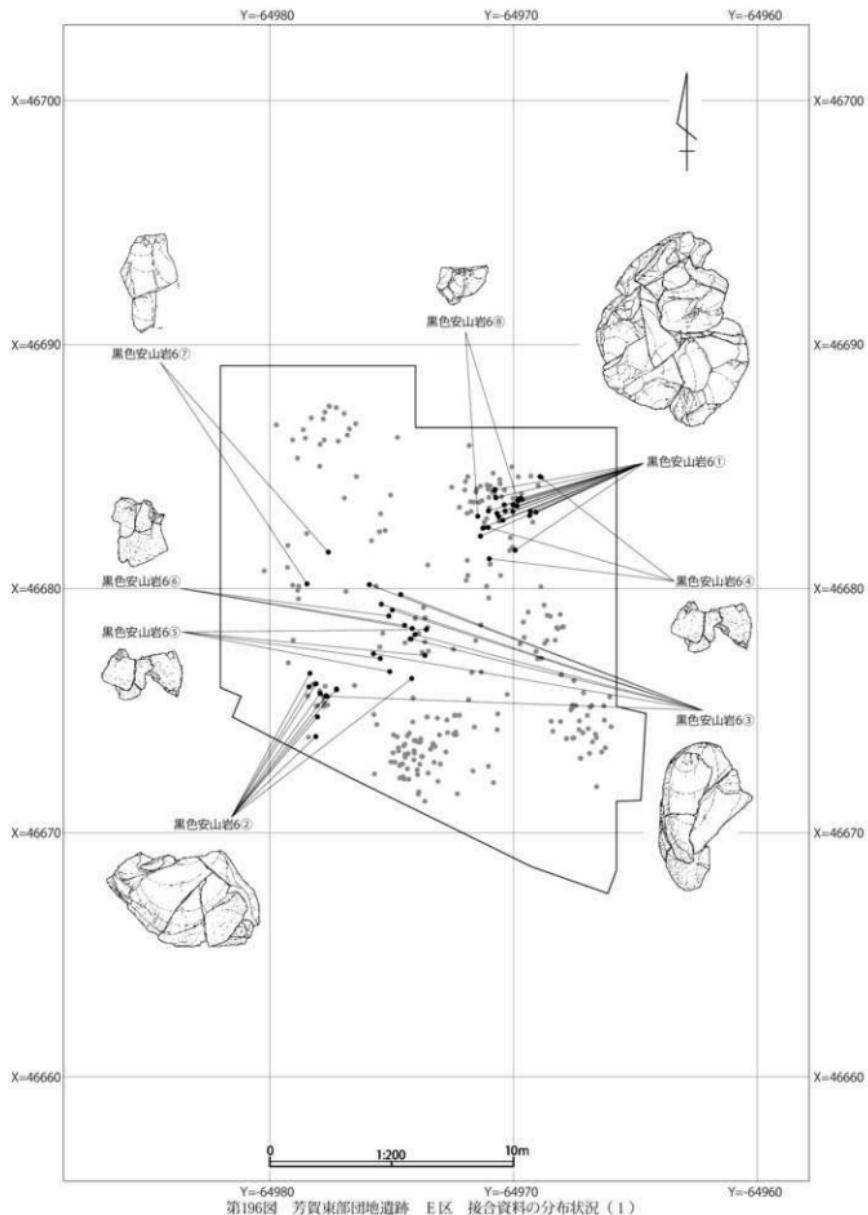


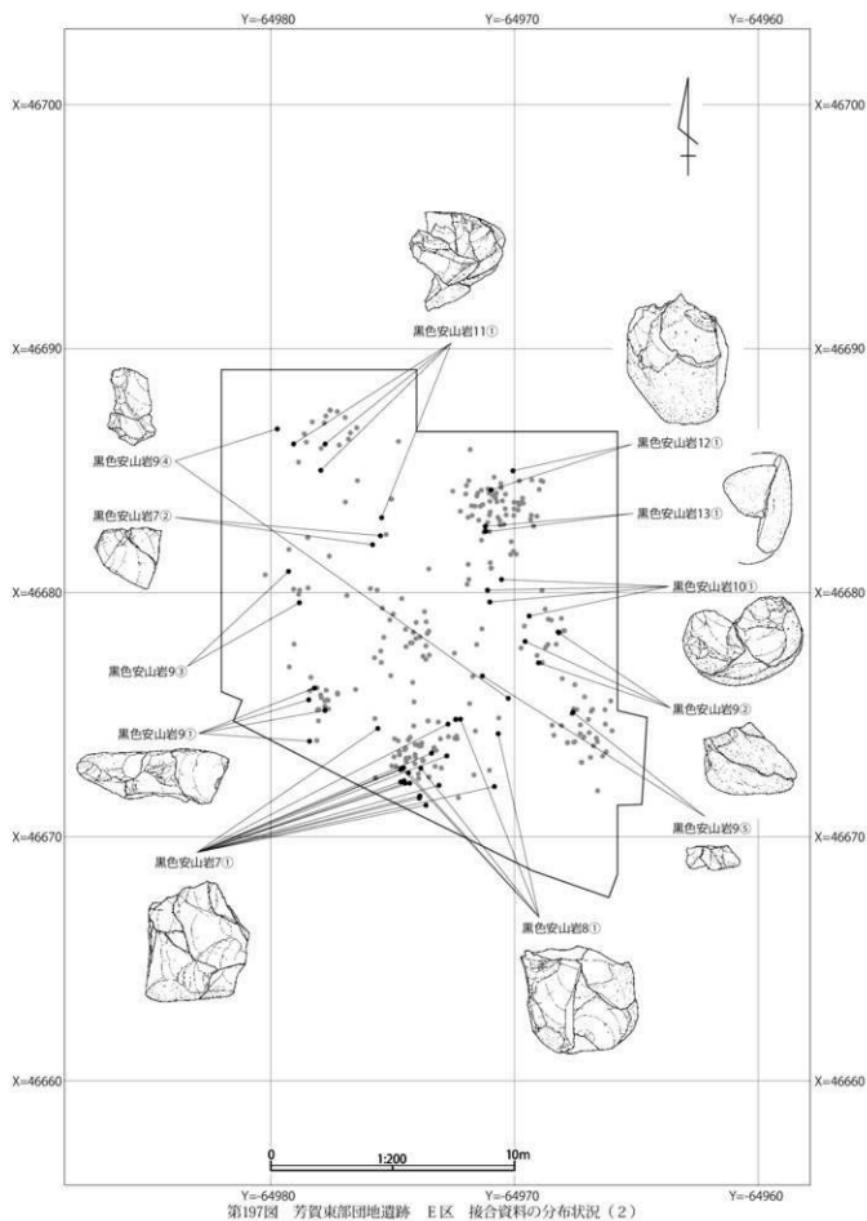
### 第193図 芳賀東部團地遺跡 E区 石器分布・垂直分布状況

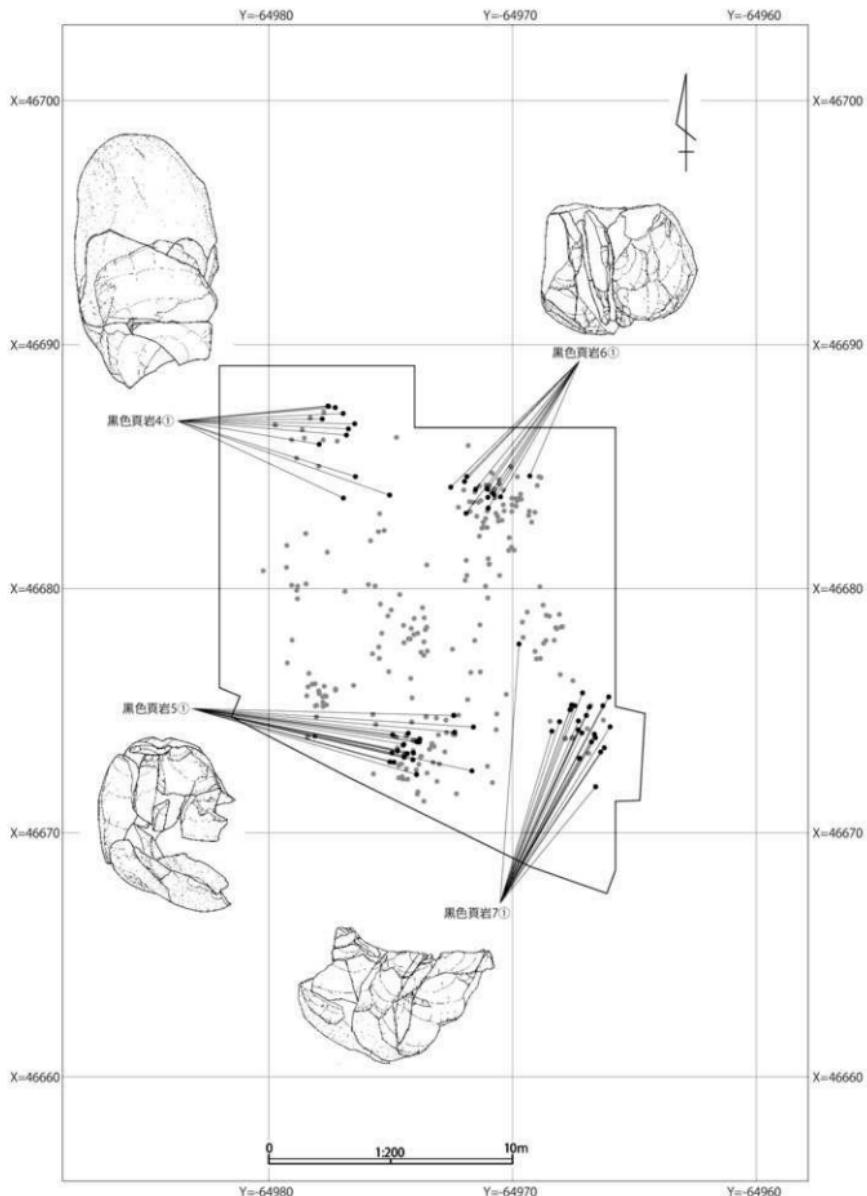


第194図 芳賀東部田地遺跡 E区 器種別分布状況

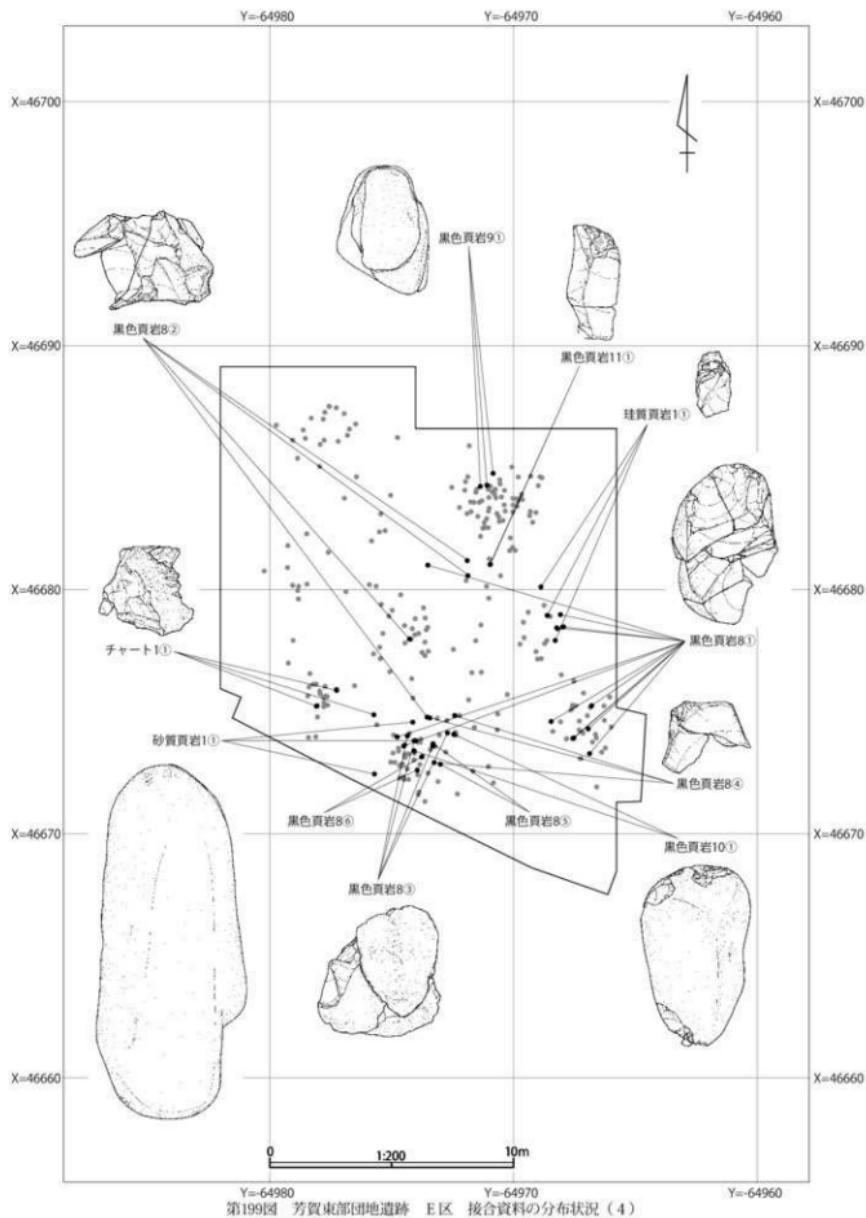








第198図 芳賀東部団地遺跡 E区 接合資料の分布状況（3）



第199図 芳賀東部團地遺跡 E区 接合資料の分布状況（4）

## 第6節 脊城遺跡

### 1 遺跡の概要

脊城遺跡(JK57)は赤城山南麓の細長いローム台地上にあり、東を金丸川、西を藤沢川が流れ、標高は約145～147mである。周囲は畑で南東に緩やかに傾斜しており、すぐ北には前橋市立芳賀小学校が位置する。

旧石器石器群の有無を確認するため、調査区内に16ヶ所の試掘トレンチ( $2 \times 5$ m)を設定した。試掘調査の結果、2ヶ所に剥片類が出土したため、これを拡張調査した。それぞれの出土層位はAs-Okiを含む黄褐色硬質ローム層(Ⅲ層)及び暗色帶下部(Ⅶ層)から榛名八崎軽石上位の硬質ローム層(Ⅸ層)までで、前者について第1文化層の石器群として報告、後者については片岩類の出土であり、データのみ記載した。

第1文化層とした石器群は調査地の中央付近(Y=-65410)にあり、約450m<sup>2</sup>に分布することが確認されている。石器の出土地点は西側台地縁辺から80mの位置にあり、予想以上に台地の内側にあるというが率直な印象だが、台地には微妙な地形の凸凹があり、第1文化層とした石器群はY=-65400付近から入り込んだ凹部の南東側緩斜面に分布することが判明した。出土した石器は約80点で、黒曜石主体の石器群である。主な出土石器としては小形ナイフ形石器がある。県内旧石器遺跡では、これまでこの種の石器は少なく、単位的石器群として石器群の変遷を知る上で貴重な発見となった。

データのみ記載した片岩類の出土地点は、東側台地縁辺に近い地点(Y=-65370)で、地形が弱く南側に傾斜する地点であった。出土層位は先に述べたとおりで、暗色帶下部から榛名八崎軽石上の硬質ローム層で、片岩のみが出土する。出土点数は40点があり、調査時点では第2文化層とされていたが、本報告では参考資料として収録した。その点については、第6章で詳細に検討しており、参照していただきたい。

第200図には、上武道路が通過する赤城山南麓の基本土層を図示した。本遺跡ではI層～X層が確認されているが、II・III層については分離できるような堆積状況なく、V層についても堆積が確認できない地点もあった。それより以下のロームについては確認されていない。

### 2 調査の経過

31号住居跡の掘り方調査中に、ソフトローム層(I層)から小形ナイフ形石器が出土した。このため、同住居の調査終了後、石器出土地点の周辺域に試掘トレンチを設定して、石器群の有無を確認した。その結果、I層下部からIII層にかけて剥片類が出土することが判明、調査範囲を広げ石器分布域の確認に努めた。

石器分布は31号住居を取り囲んでいるように見えるが、住居構築時に石器包含層が壊されているのは明らかであり、発掘で得られたデータは石器群の全貌でないことを踏まえる必要がある。

なお、本遺跡の旧石器時代の遺構・遺物に関する記載は下記に報告されているが、本報告を最終内容とする。

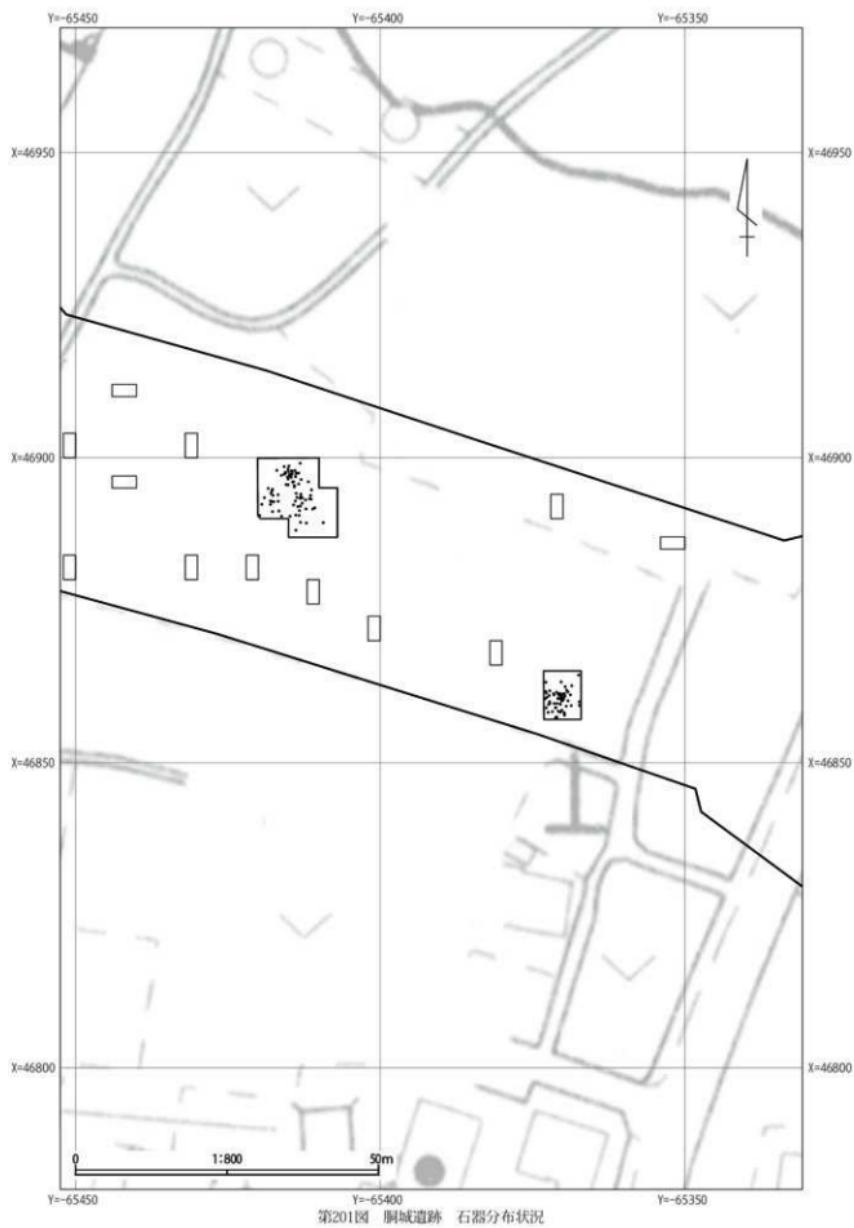
①『年報』27(平成19年度事業概要) 2008、28(平成20年度事業概要) 2009 財團法人群馬県埋蔵文化財調査事業団

②『財團法人群馬県埋蔵文化財調査事業団』WEB 20年6月

第1文化層 |

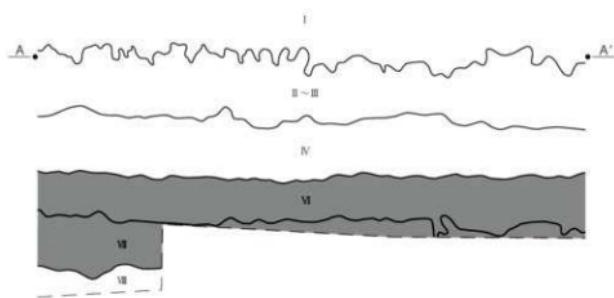
上武道路遺跡群 基本層序(ローム台地)	
V V	表土層
	I a 黒褐色土
	I b 暗褐色土
	II 黄褐色ローム (As-YP 含む)
	III a 黄褐色ローム (As-Sr・Oki 含む)
	III b 黄褐色ローム
	IV a 黄褐色ローム (As-BP 中・上位含む)
	IV b 黄褐色ローム (As-BP 含む)
.....	V 褐色ローム (AT・As-MP 含む)
	VI 暗褐色ローム (暗色帶上部)
	VII 暗褐色ローム (暗色帶下部)
	VIII 黄褐色ローム
	IX 黄褐色ローム
	X Hr-HP
	XI 暗褐色ローム
	XII 暗褐色ローム
	XIII 黄褐色ローム (北橋加賀含む)
	XIV 黄褐色ローム
	XV 大火灰碎層

第200図 脊城遺跡の文化層

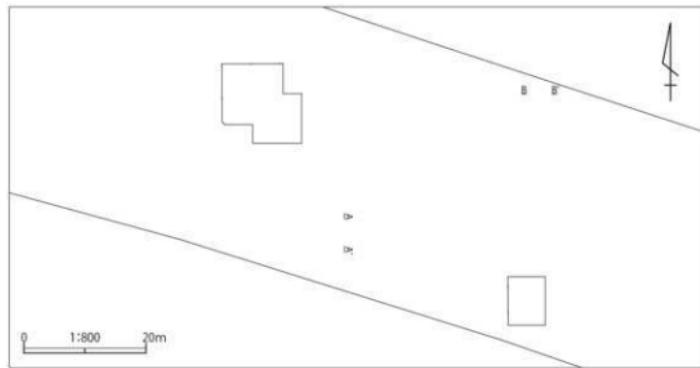
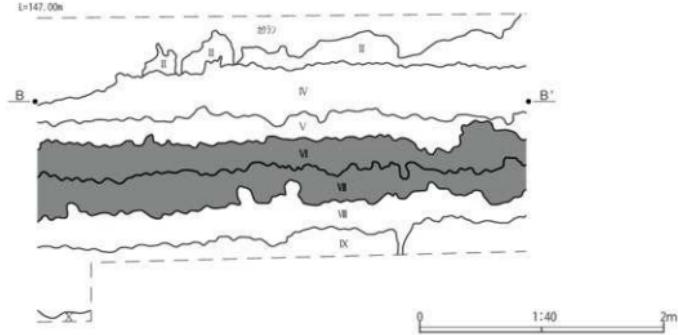


第201図 脇城遺跡 石器分布状況

L=146.00m



L=147.00m



第202図 脊城遺跡 土層堆積状況

### 3 第1文化層

本遺跡で第1文化層とした石器群は、台地縁辺から80mほど内側に入り込んだ台地中央で1ヶ所が確認されている。石器群が出土した地点の地形の要素および組成面の不完全さ等については上述したとおりである。

#### (1) 出土層位

基本土層のⅢ層を中心にⅡ層からⅣ層にかけて出土している。テフラとの関係では浅間板鼻黄色軽石(As-YP、約13,000年前)より下位で、浅間大庭沢第1軽石(As-OP1、約17,000年前)より上位である。

#### (2) 検出遺構

石器の出土以外には、明確な遺構は検出されなかった。

#### (3) 出土遺物

第1文化層とした石器群の総点数は79点で、内訳は石器38点(48.1%)、剥片22点(27.8%)、碎片12点(15.2%)、礫・礫片7点(8.9%)である。主な石器には、ナイフ形石器9点(12.5%)、彫器1点(1.4%)、削器6点(8.3%)、加工痕ある剥片2点(2.8%)、使用痕ある剥片2点(2.8%)、石刃17点(23.6%)、台石1点(1.4%)など器種構成は豊富である。このほか剥片22点(30.5%)、碎片12点(16.7%)が出土した。石器石材は、黒曜石53点(73.6%)が最も多く、チャート9点(12.5%)、黒色安山岩5点(6.9%)、黒色頁岩2点(2.8%)、碧玉2点(2.8%)、粗粒輝石安山岩1点(1.4%)と続く(第21表参照)。出土した黒曜石については36点を原産地分析しているが、すべて小深沢産と同定(第5章 第3節参照)されている。

礫・礫片は7点が出土した。分布域北に4点が、南に3点があり、いずれも粗粒輝石安山岩である。このうち、板状・大型礫(長さ25cm・幅20cm・厚さ11cm・重さ4644g)が北側分布域に、梢円礫(長さ9.2cm・幅6.5cm・厚さ4.0cm・重さ347g)が西側分布域に出土している。

石器群は小形の黒曜石製のナイフ形石器を主体とすることから、群馬編年のⅣ期の前半、いわゆる砂川型石刃技法を多用する時期と考えられる。

次に、出土した石器を種類ごとに見ていくこととする。

**ナイフ形石器**(第203図、1・12・13・24・26・54・60・71・73、PL.69) 9点が出土している。71は縱長剥片を素材とし、一側縁に調整を施しており、剥片剥離の際の打面を残している。石材は黒色安山岩である。73は先端部側に打面が存在した石刃を素材とし、基部及び先端部の調整を施し、さらに裏面の基部寄りの部分に平坦剥離を施している。石材は黒曜石である。12は表面側的一面に原石面を残し、小さな打面を残す石刃を素材とし、基部と先端部に調整を施している。石材は黒曜石である。13は表面側の先端部分的一面に原石面を残し、基部調整により打面を除去した縱長剥片を素材とし、石材は黒色安山岩である。26は小さな打面を残す縱長剥片を素材とし、基部に調整を施している。先端部を欠損している。石材は黒曜石である。54は打面を残す縱長剥片を素材とし、二側縁に調整を施している。先端部を僅かに欠損している。石材は黒曜石である。1は表面側的一面に原石面を残し、小さな打面を残す縱長剥片を素材とし、一側縁に調整を施している。先端部を欠損している。石材は黒曜石である。24は打面を残す縱長剥片を素材とし、一側縁と基部に調整を施している。先端部を僅かに欠損している。石材は黒曜石である。60は石刃を素材に、一側縁の先端部に調整を施し、石材は碧玉である。

**彫器**(第203図、52、PL.69) 1点が出土している。縱長剥片を素材とし、打面側を折り取っている。また、一側縁には細かな調整を施している。石材は黒曜石である。

**削器**(第203図、28・42・44・55・64・72、PL.69) 6点が出土している。55は打面を残す縱長剥片を素材とし、一側縁に抉入状の細かな調整を施している。表面側の片側一面すべてと打面の一部に原石面を残していることから、角柱、あるいはサイコロ状の形状の原石と考えられる。石材は黒曜石である。44は表面側的一面に原石面を残す縱長剥片を素材とし、打面を残して先端部を折り取っている。一側縁に大きな調整を施している。石材は黒曜石である。28は打面を残す

石刃を素材とし、先端部を折り取っている。両側縁の表裏面に調整を施している。石材は黒曜石である。42は先端部に原石面を残し、打面部を折り取って除去した縱長剥片を素材とし、一側縁の表裏面に小さな調整を施している。石材は黒曜石である。72は打面部を折り取って除去した縱長剥片を素材とし、一側縁の一部に小さな調整を施している。

石材は黒曜石である。64は表面側の一面に原石面を残し、打面部を残す縱長剥片を素材とし、一側縁の表裏面に大きな調整を施している。石材は黒曜石である。

**加工痕ある剥片**(第203図、31・68、PL.69) 2点が出土している。31は剥離面調整が認められる横長の剥片を素材とし、一側縁と下縁に調整を加えている。石材は黒曜石である。68は小形の剥片を素材とし、基部側の一側縁に調整を加え打面を除去している。石材は黒曜石である。

**使用痕ある剥片**(第204・205図、58・59、PL.69・70) 2点が出土している。58は小形の剥片で一側縁に使用痕が認められる。石材は黒曜石である。59は表面側的一面が原石面の縱長剥片を素材とし、石材は黒曜石である。

**石刃**(第204図、3・4・11・15・16・17・23・27・29・33・35・36・38・49・63・65・75、PL.69) 17点が出土している。15+29は表面側的一面が原石面の幅が細い石刃で、小さな打面をもち、一側縁に使用痕が認められる。石材は黒曜石である。33+35は背面側全体に原石面を残す中形石刃の接合資料である。角礫稜部を取り込んだ原石消費の初期段階で剥離されたもので、打面部が折り取られている。折断されたのち、35の裏面側に細部加工が施されている。石材は黒曜石である。17+38は表面が幅の狭い剥離面一面だけで、残りはすべて原石面の石刃である。石材は黒曜石である。65は剥離面の調整を多数施されている石刃で、小さな打面をもつ。石材は黒曜石である。4は小さな打面をもつ幅が細い石刃で、先端部を欠損している。石材は黒曜石である。63は打面部と先端部を欠損している。石材は黒曜石である。75は表面から折られており、両側縁に使用痕が認められる。石材は黒曜石である。16は小さな打面をもつ幅が細い石刃で、小さな打面をもち、一側縁に加工痕、もう一側縁に使用痕が認められる。先端部を欠損している。石材は黒曜石である。23は小さな打面をもつ石刃で、先端部部分に原石面が残る。石材は黒曜石である。27は打面が残る石刃で、石材は黒曜石である。36は表面側的一面が原石面の幅が細い石刃で、一側縁に使用痕が認められる。石材は黒曜石である。3は小さな打面をもつ石刃で、両側縁に使用痕が認められる。石材は黒曜石である。49は表面側の先端部分の一面が原石面の幅が細い石刃で、小さな打面をもち、両側縁に使用痕が認められる。石材は黒曜石である。11は表面全面に原石面を残し、小さな打面を残す素材であり、一側縁に調整を施している。石材は黒曜石である。接合資料の石刃も石材はすべて黒曜石である。

第21表 脅城遺跡 第1文化層 組成表

	ナイフ	彫器	削器	加工痕	使用痕	石刃	台石	剥片	碎片	確	礫片	総計
黒色安山岩	2								3			5
黒色頁岩									2			2
黒曜石	6	1	6	2	2	17		14	5			53
チャート								5	4			9
碧玉	1							1				2
粗粒輝石安山岩										2	5	8
総計	9	1	6	2	2	17	1	22	12	2	5	79



第203図 胸城遺跡 出土遺物(1)



第204圖 脊城遺跡 出土遺物(2)

(4)母岩別資料・接合資料(第205・206図、PL.70)

接合資料は、10例29点がある。礫片類を除いた72点が接合対象となり、29点が接合(接合率は40.3%)した。接合資料は黒曜石が圧倒的に多く8例25点があり、集中的に母岩消費したことが分かる。黒曜石以外の接合資料にはチャートの接合例が2例あるのみである。

黒曜石・チャートは母岩レベルでは1個体と見做されることになるが、黒色安山岩・黒色頁岩・碧玉は接合関係がないものの、いずれも不定形剥片類であることが注意されよう。

黒曜石1(第204・205図、PL.69・70)石質はやや半透明ながら、透明度は高い。斑状・筋状の模様を含む。同じ母岩別資料が53点で、そのうち8例25点が接合した。

黒曜石1-①(第205図、PL.70)ナイフ形石器1点と削器1点、石刃2点(うち1点は折断)、剥片3点(うち2点は折断)の計7点からなる接合資料である。剥離は同一の打面から順次行われ、さらに打面転移をしている。24(ナイフ形石器)→打面転移→○→27(石刃)→42(削器)→14(剥片)→30(剥片)+51(剥片:折断)→23(石刃)

黒曜石1-②(第205図、PL.70)削器1点、石刃3点(うち2点は折断)の計4点からなる接合資料である。剥離は同一の打面から順次行われて、さらに打面転移をして、連続して石刃を剥ぎ取っている。65(石刃)→15(石刃)+29(石刃:折断)→○→打面転移→○→64(削器)

黒曜石1-③(第205図、PL.70)ナイフ形石器1点と石刃2点(折断)の計3点からなる接合資料である。剥離は同一の打面から順次行われている。33(石刃)+35(石刃:折断)→12(ナイフ形石器)

黒曜石1-④(第205図、PL.70)使用痕ある剥片1点、剥片2点からなる接合資料である。剥離は同一の打面から順次行われ、さらに打面転移をしている。58(使用痕ある剥片)→2(剥片)→打面転移→43(剥片)

黒曜石1-⑤(第205図、PL.70)削器1点、石刃1点の計2点の連続した剥離による接合資料である。剥離は同一の打面から順次行われている。…○→28(削器:折断)→75(石刃:折断)

黒曜石1-⑥(第204図、PL.69)石刃2点による接合資料である。17(石刃)+38(石刃)

黒曜石1-⑦(第205図、PL.70)削器2点の接合で、剥離は同一の打面から連続して行われている。…○→44(削器)→55(削器)

黒曜石1-⑧(第205図、PL.70)剥離時に縦位破損した剥片2点の接合資料である。…○→48(剥片)+66(剥片)

黒曜石1とした母岩別資料には非接合資料28点がある。その内訳はナイフ形石器4点、彫器1点、削器1点、加工痕ある剥片2点、石刃8点、剥片8点、碎片4点である。

チャート1の色調はオリーブ灰(Hue10Y4/2)、自然面は概して平滑である。母岩の形状及び大きさは復元できない。同じ母岩別資料7点があり、そのうち2例4点が接合した。

チャート1-①(第206図、PL.69)2点の接合資料である。74(剥片)→○…○→77(剥片)

チャート1-②(第206図、PL.69)剥離時に縦位破損した剥片2点の接合資料である。46(剥片)+21(剥片)

チャート1の母岩別資料には非接合資料として剥片3点がある。

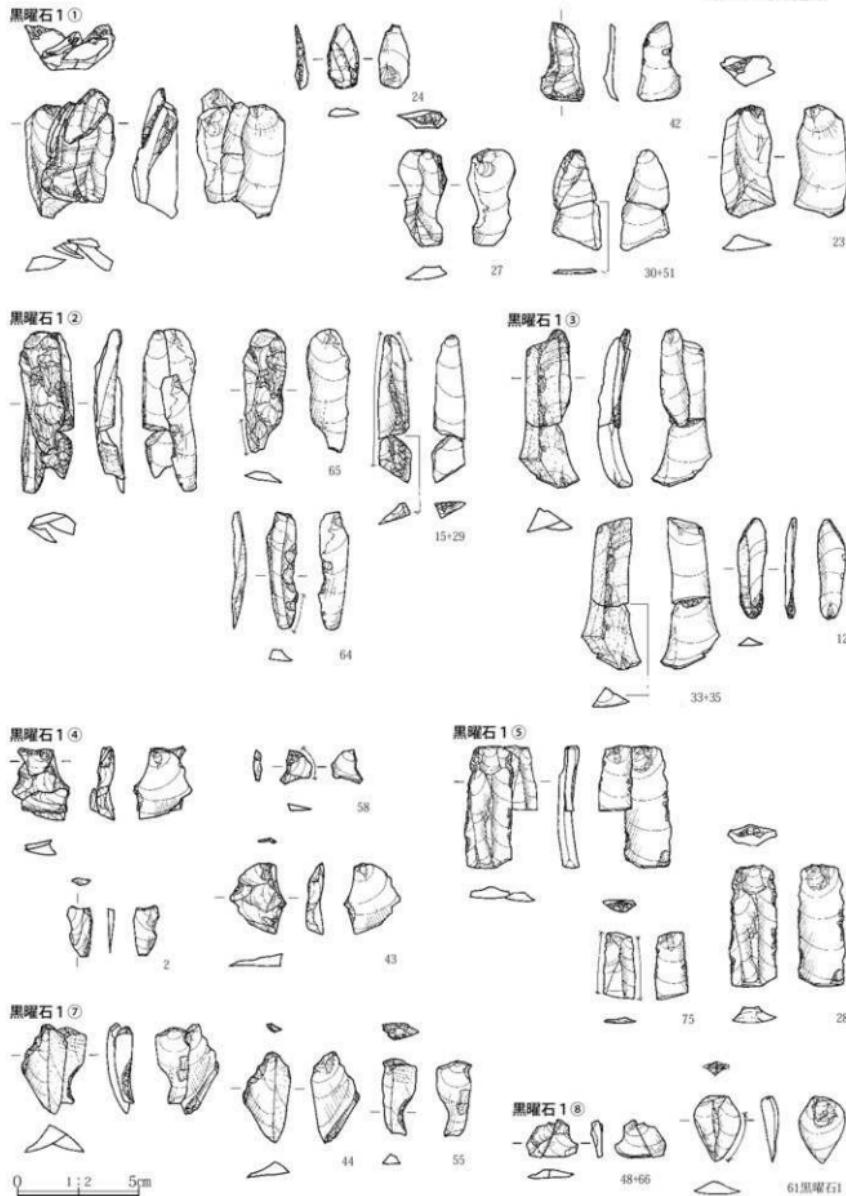
碧石1(第206図、PL.70)色調は暗赤色(Hue7.5R3/4)を呈し、自然面は平滑である。ナイフ形石器(60)と剥片(50)がある。

黒色頁岩(第206図、PL.70)非接合資料2点があり、いずれも剥片(22・57)である。

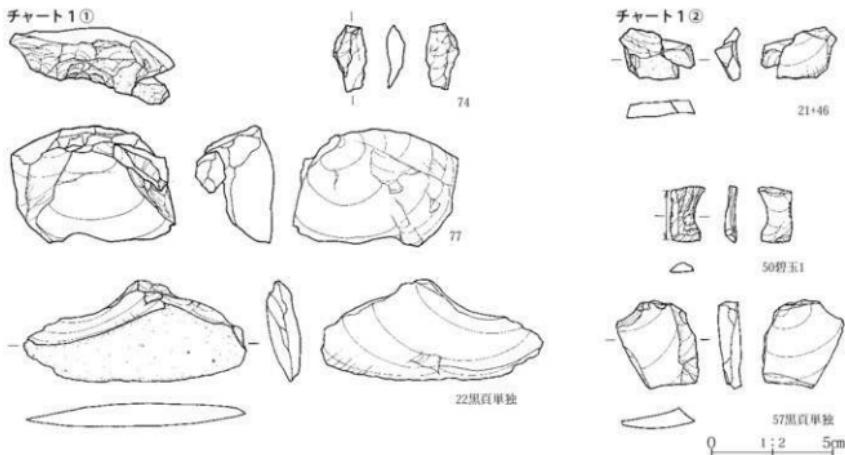
黒色安山岩(第203図、PL.69)非接合資料は、ナイフ形石器2点(13・71)と碎片3点がある。

(5)剥片剥離技術

本遺跡での剥片剥離技術は、前述したように砂川型石刃技法、すなわち同一打面からの連続した剥片剥離と、剥離の手詰まりに対処した頻繁な打面転位が特徴である。特に、黒曜石の接合資料から打面再生剥片の剥離による打面再生や、90°の打面転位により剥片剥離方向の変換が図られているのが顕著であるが、剥片に残る背面側・剥離面構成や石核の様子から、打面の位置を180°転位させるような両極打法は用いられていない。これは、黒曜石の小さな原石のサイズに規制されたものなのかもしれない。



第205図 脊城遺跡 母岩別資料・接合資料(1)



第206図 脊城遺跡 母岩別資料・接合資料(2)

## (6) 分布状況(第207図、PL.68-2・3)

第1文化層とした石器群の分布域には、その北東側で古代住居2棟が重複しており、石器分布が完全でないことは明らかである。ここではやや空白部のある調査区南西の地点と、それより東の地点に大別して捉えておきたいが、北側の地点にチャートが遍在しており、見た通り3ブロックが認定できるかもしれない。石器群の確認が遅れ、周辺部の拡張が不十分であることを前提に理解する必要がある。

現状で石器群は径10mほどの範囲に分布、北側に粗粒輝石安山岩製の礫(台石様の大型礫を含む)が集中することや、チャート製の剥片類が集中しており、これが場の機能差ということになる可能性がある。

## (7) 石器の分布(第208図)

各石器分布域の器種組成は均質であり、とくに大きな差は見られない。各ブロックの差異を指摘するとすれば、北側ブロックに剥片類が多く分布することであり、少なくともこの地点で剥片生産が行われただろうことが想定される程度である。同地点には、台石様の厚い板状礫(長さ25cm・幅20cm・厚さ11cm・重さ4644g・未掲載、打痕等は見られない)があり、剥片生産の場としての可能性を支持している。南側ブロックについては剥片類が量的に少ないにもかかわらず、接合資料が多い点が気になるところである。素直に取れば北側ブロックで剥離したものを南側ブロックに持ち出しているということになるだろうが、同ブロックは古代住居2棟と重複しているため、判然としない。西側分布域には敲石様の楕円礫(347g・未掲載、打痕なし)が1点のみ出土した。

## (8) 石材の分布(第209図)

剥片系石器としての石材は黒曜石をはじめとする5種類(第21表)ということになる。礫類に多い粗粒輝石安山岩を含め石材分布としての傾向性を指摘するとすれば、チャート・粗粒輝石安山岩が北側ブロックに偏在することが明らかである。その他の石材は各ブロックに特に遍在する傾向ではなく、碧玉(南側・西側ブロックに各1点)や黒色頁岩(北側・南側ブロックに各1点)など、出土量の少ない石材がブロック間にあるという傾向がある。

前述したように、本文化層は黒曜石が主体を占める石器群であり、これらの石器は原産地分析の結果、すべてが小深沢産と同定された(第5章第3節参照)。

## (9) 接合資料の分布(第210図)

接合資料は10例29点がある。接合資料は各ブロックとも確認されているが、南側ブロックに多く分布する傾向がある。

内訳は、黒曜石8例25点・チャート2例4点であり、黒曜石製剝片類の接合が圧倒的に多い。打面調整剝片の可能性が高い黒曜石1④を除いた黒曜石1(①・②・③・⑤)は石刃剥離関連の接合資料であり、北側ブロックを除く各ブロックに分布、その遍在性が明らかである。チャートには2例の接合資料2例4点があり、4点中3点が南側ブロックに分布した。接合資料は2例とも同一母岩であり、石核作業面を側縁に取り込んだ厚い大型剝片と小片が接合するものあり、これより後の剥離は別地点で行われたということだろう。

本遺跡で出土した黒曜石は礫状の模様が特徴的で、高さ10cm弱の原石1個体を消費しているものと考えているが、先に述べたとおり、黒曜石製剝片類は北側の1号ブロックに多く分布した。このことから、この地点に主たる剥離地点が想定されるのであるが、接合資料は北側ブロックより南側ブロックに多く分布するという事実を踏まえ、場の機能分析は行われるべきであると考えている。常識的には、北側ブロックで剥離された石刃類が周辺ブロックに持ち出されたということになるが、チャート製剝片類のそれは南側ブロックが剥離地点であることを示唆した。石器群は古代集落により包含層が壊されており、条件的に制約されていることを認識する必要がある。

#### 4 その他(第211図、PL.68・73・74)

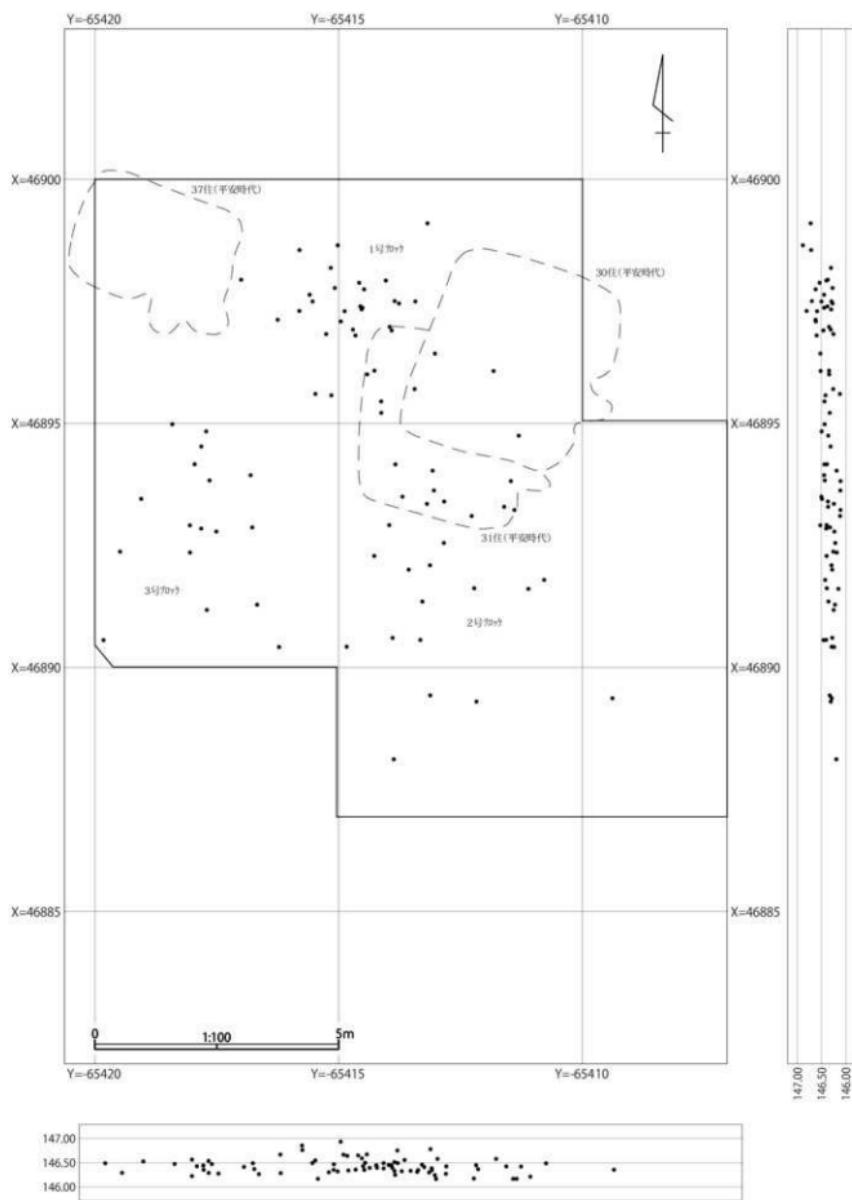
本遺跡では旧石器時代石器群の有無を確認するため、上面の遺構調査終了後、試掘調査が東側の台地縁辺に近い部分から行われた。試掘調査を開始してまもなく、台地縁辺から20mほど入り込んだ地点(N・0-12・13グリッド)で片岩類が出土することが判明した。当時は、まだローム層中の片岩類が特に問題とされておらず、片岩片のみ出土する場合は拡張調査し、分布域が絞られたところでそれを取り上げる方針が取られた。

この地点で取り上げた礫・礫片類は計61点であり、その出土層位は暗色帶下部(VII層)から榛名八崎軽石層上位の褐色硬質ローム層(X層)とされている。礫・礫片には片岩類(雲母石英片岩28点・45.9%、黒色片岩10点・16.4%、緑色片岩2点・3.3%、結晶片岩様岩石1点・1.6%)以外に、粗粒輝石安山岩・溶結凝灰岩・チャート・珪質変質岩・砂岩・珪質頁岩・石英があるとされた(第22表を参照)。本遺跡では各種礫片類が網羅的にサンプリングされている確証はないが、おむねローム層中の礫構成を示しているものと考えている。これについては、第6章で詳述する予定である。片岩類はX=46860・Y=-65370付近に集中分布した。片岩類3種(雲母石英片岩・黒色片岩・緑色片岩)の分布は雲母石英片岩の分布が広く、その分布域の中に黒色片岩がスポット的にあり、緑色片岩は調査区南に偏在するように見える。その他の石材についても、概ね分布域は重なりそうである。片岩類の出土状態について垂直方向に10cmに区切り検討したところ、片岩類はレベル的に80cmの幅があり、最上位から50cm下位に出土量のピークがあるようで、このピークの上位より下位の出土量が多く、全体としては下彫れ感のある曲線となることが判明した。これについてこれ以上コメントするデータは得られていないが、榛名八崎軽石層下の片岩類の動向が気になる。今後の課題としておきたい。

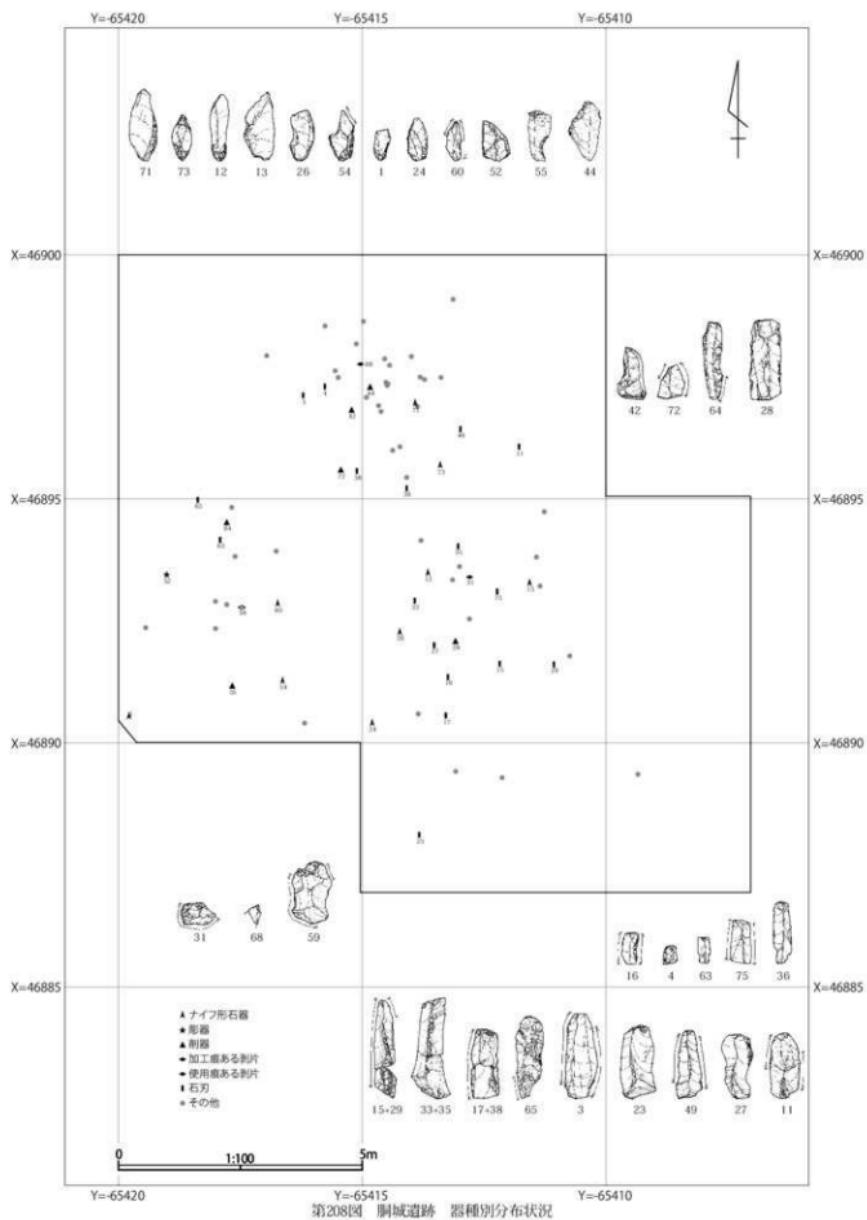
本遺跡の調査面積は50m<sup>2</sup>弱だったので、片岩類はm<sup>2</sup>あたり1.27点が出土したことになるが、試掘調査は200m<sup>2</sup>であるので、正確にはm<sup>2</sup>あたり0.3点が出土したことになる。この数値は試掘面積が増えるほど下がる性格のものであり、目安となるだけであるが、上武旧石器遺跡群(1)(2)掲載の12遺跡から得られたデータによれば、片岩類が旧石器に伴う遺跡では片岩密度(点数/面積)は1,000m<sup>2</sup>で10点に満たない遺跡が圧倒的に多く、片岩類が集中した富田宮下遺跡が1,000m<sup>2</sup>あたり42.8点と突出している。本遺跡の片岩密度は1,000m<sup>2</sup>あたり61点となり、富田宮下遺跡に匹敵する数値が得られたことになるが、片岩類の形態的属性から言えば、石器製作の枠内では理解できないことだけは明らかで、人為的であるとするならば、別の觀点から説明されるべきものだろう。

第22表 脇城遺跡 矿類・自然石組成表

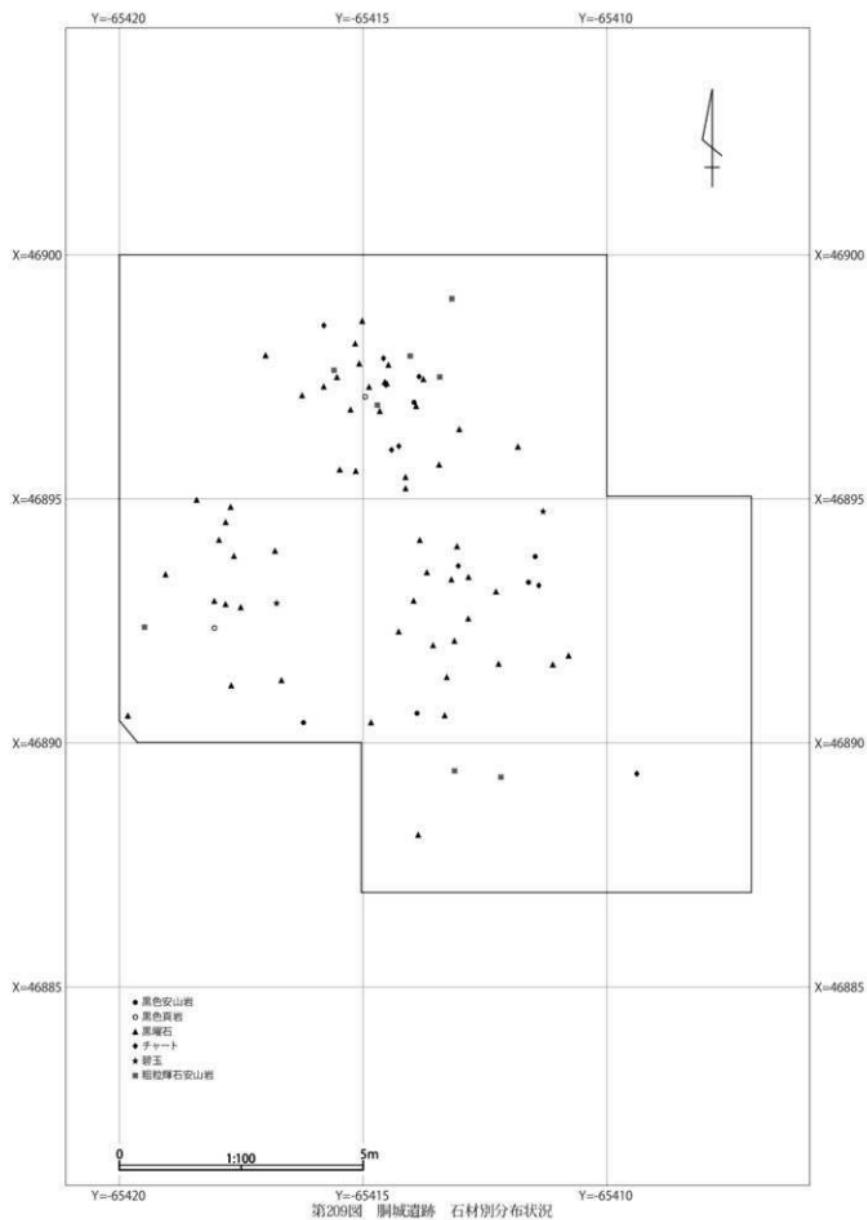
礫類	自然石	総計
雲母石英片岩	28	28
黒色片岩	10	10
緑色片岩	2	2
結晶片岩様岩石	1	1
チャート	2	2
珪質頁岩	1	1
石英	1	1
溶結凝灰岩	4	4
粗粒輝石安山岩	8	8
珪質變質岩	2	2
砂岩	2	2
総計	40	61

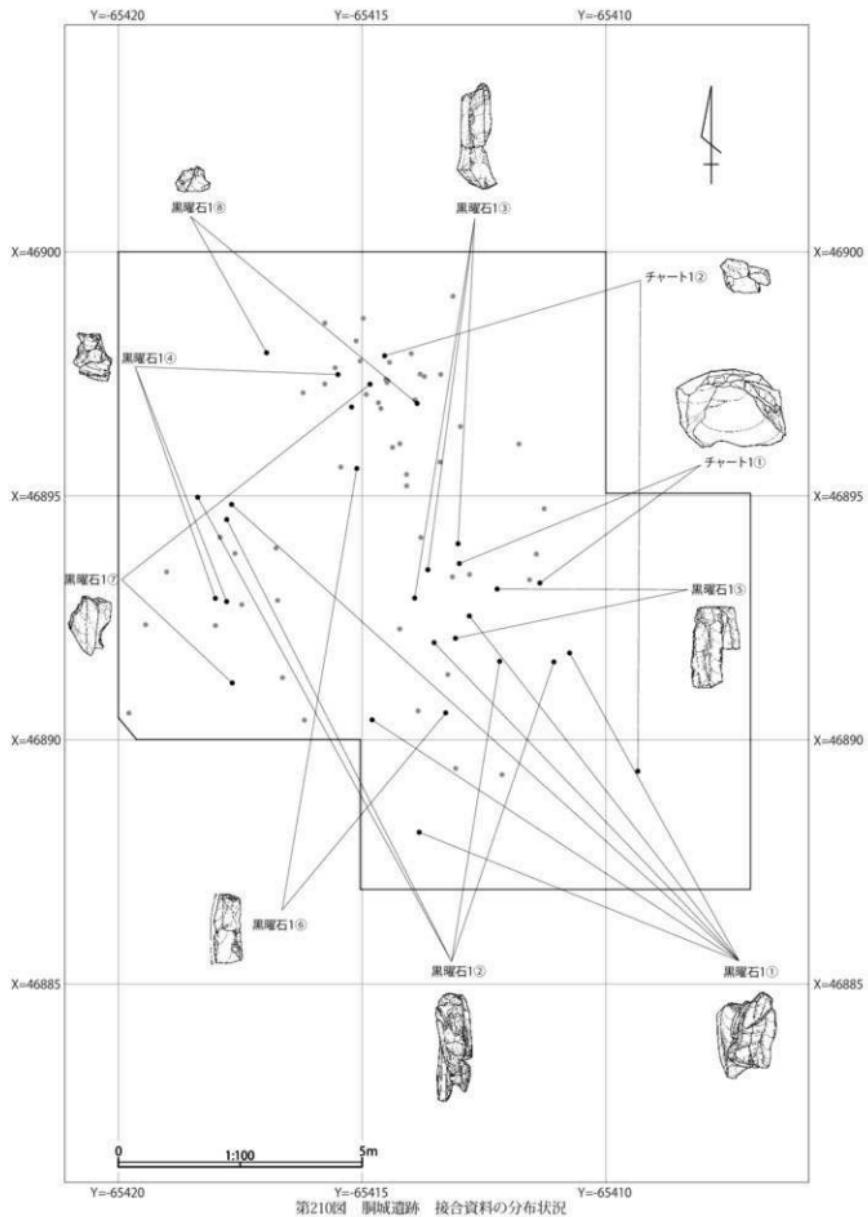


第207図 脇城遺跡 石器分布・垂直分布状況

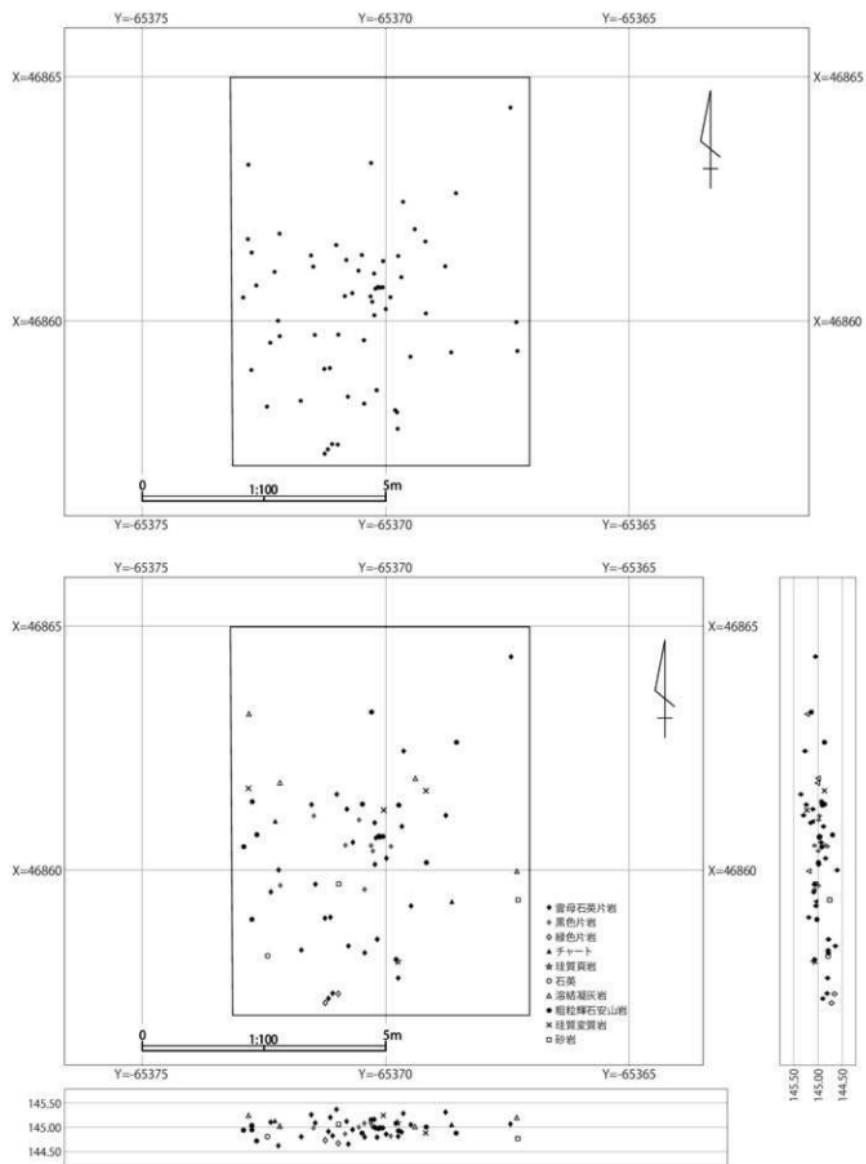


第208図 脇城遺跡 器種別分布状況





第210図 脊城遺跡 接合資料の分布状況



第211図 脊城遺跡 碑分布・石材別分布状況

## 上武道路・旧石器遺跡群 遺物一覧表

## 凡例

- 1 本一覧表は、上泉唐ノ堀遺跡・上泉新田塚遺跡群・上泉武田遺跡・五代砂留遺跡群・芳賀東部畠地遺跡・胴城遺跡の6遺跡の出土遺物の計測一覧である。
- 2 番号は取り上げ番号であり、実際の遺物にも注記されている。
- 3 器種名は分類基準の名称のままである。
- 4 器種名の項目で、自然石、自然石(岩片)、礫、礫片とあるのは下記のことである。  
自然石 本来、地層中に含まれているもの  
礫 別の場所から持ち込まれたもの  
自然石(岩片) 自然石の欠損品  
礫片 矸の欠損
- 5 石材名は、すべて鑑定の名称のままである。
- 6 長さと幅と厚さは、少数第2位を四捨五入し、mm単位で表した。
- 7 重量は、少数第2位を四捨五入し、g 単位で表した。
- 8 備考欄に薄片試料とあるのは、結晶片岩類のプレパラート
- 9 層位は出土時の観察記録であるが、すべての資料が把握されてはいない。
- 10 文化層の欄が抜けているものは、主にトレンチ内での単独出土で、土層の対比が出来なかったものである。
- 11 図の欄の数値は、掲載図版番号である。
- 12 PLの欄の数値は、掲載写真図版番号である

第23表 出土石器一覧表

遺跡	番号	器種名	石材名	長さ	幅	厚さ	重量	備考	層位	文化層	300標	Y300標	Z300標	図	PL
上泉唐ノ堀	X1-1	扇形刮削石斧	黒色直刃	111	81	19	59.0		扇形帯	3	45,683,500	63,620,162	131,141	14	8
上泉唐ノ堀	X1-2	扇形刮削石斧	黒色直刃	52	70	14	226.0		扇形帯	3	45,684,177	63,626,447	131,082	14	8
上泉唐ノ堀	X1-3	礫片	和田輝石安山岩	37	30	12	9.0	自然石?	扇形帯	3	45,681,329	63,641,226	131,406		
上泉唐ノ堀	X1-4	石片	碧玉	65	49	13	25.1		扇形帯	3	45,683,576	63,637,799	131,266	13	7
上泉唐ノ堀	X1-5	石片	碧玉	44	21	4	3.3		扇形帯	3	45,684,982	63,636,584	131,239	14	7
上泉唐ノ堀	X1-6	石片	碧玉	26	47	6	5.8		扇形帯	2	45,682,967	63,638,221	130,982	23	12
上泉唐ノ堀	X1-7	礫片	滑石粘灰岩	52	23	11	9.0	自然石?	扇形帯	2	45,684,827	63,640,633	131,109		
上泉唐ノ堀	X1-8	自然石	滑石粘灰岩	21	13	3	1.8		扇形帯	2	45,685,141	63,642,547	131,214		71
上泉唐ノ堀	X1-9	自然石	滑石粘灰岩	12	12	5	1.1		扇形帯	2	45,683,764	63,642,009	131,074		
上泉唐ノ堀	X1-10	自然石	滑石粘灰岩	47	31	12	21.1	薄片試料	扇形帯	3	45,681,819	63,642,786	131,004		71
上泉唐ノ堀	X1-11	自然石	滑石粘灰岩	31	25	18	9.1		扇形帯	3	45,680,112	63,636,140	131,116		
上泉唐ノ堀	X1-12	自然石	砂鉄	29	25	11	8.3		扇形帯	3	45,681,274	63,636,549	131,100		
上泉唐ノ堀	X1-13	自然石	柱状変質岩	25	20	12	8.3		扇形帯	3	45,681,496	63,637,024	130,828		
上泉唐ノ堀	X1-14	自然石	和田輝石安山岩	29	22	8	5.3		扇形帯	3	45,682,094	63,635,590	131,037		
上泉唐ノ堀	X1-15	自然石	柱状変質岩	19	10	6	1.7		扇形帯	3	45,683,158	63,635,452	131,077		
上泉唐ノ堀	X1-16	自然石	和田輝石安山岩	16	12	6	0.9		扇形帯	3	45,682,952	63,636,234	130,850		
上泉唐ノ堀	X1-17	自然石	和田輝石安山岩	14	10	7	0.9		扇形帯	3	45,682,636	63,636,884	130,818		
上泉唐ノ堀	X1-18	自然石	柱状変質岩	27	13	11	4.5		扇形帯	3	45,683,073	63,636,653	131,214		
上泉唐ノ堀	X1-19	自然石	和田輝石安山岩	40	31	19	36.7		扇形帯	3	45,683,758	63,636,561	131,813		
上泉唐ノ堀	X1-20	礫片	和田輝石安山岩	32	25	14	8.5	自然石?	扇形帯	3	45,684,810	63,636,887	130,823		
上泉唐ノ堀	X1-21	自然石	和田輝石安山岩	24	20	18	9.3		扇形帯	3	45,686,043	63,635,245	130,973		
上泉唐ノ堀	X1-22	自然石	柱状変質岩	42	28	18	21.7		扇形帯	3	45,686,760	63,636,190	130,822		
上泉唐ノ堀	X1-23	自然石	和田輝石安山岩	23	20	11	4.9		扇形帯	3	45,685,746	63,637,672	131,096		
上泉唐ノ堀	X1-24	礫	和田輝石安山岩	68	58	29	88.6		扇形帯	3	45,685,333	63,636,408	130,961		
上泉唐ノ堀	X1-25	自然石	和田輝石安山岩	36	30	18	24.3		扇形帯	3	45,685,082	63,636,773	130,848		
上泉唐ノ堀	X1-26	自然石	69石	23	13	4	19.6		扇形帯	3	45,684,927	63,636,986	130,866		
上泉唐ノ堀	X1-27	自然石	和田輝石安山岩	26	22	10	1.7		扇形帯	3	45,683,844	63,637,729	131,104		
上泉唐ノ堀	X1-28	自然石	ホルンフェルス	25	22	9	7.6		扇形帯	3	45,683,254	63,637,744	131,043		
上泉唐ノ堀	X1-29	自然石	滑石粘灰岩	25	22	9	5.0		扇形帯	3	45,682,001	63,637,762	131,111		
上泉唐ノ堀	X1-30	自然石	柱状変質岩	21	14	10	2.9		扇形帯	3	45,680,333	63,640,787	130,862		
上泉唐ノ堀	X1-31	自然石	和田輝石安山岩	21	16	10	3.3		扇形帯	3	45,681,999	63,640,657	131,050		
上泉唐ノ堀	X1-32	自然石	和田輝石安山岩	24	19	11	3.7		扇形帯	3	45,683,376	63,640,446	130,909		
上泉唐ノ堀	X1-33	自然石	滑石粘灰岩	22	16	15	4.1		扇形帯	3	45,684,317	63,639,798	130,965		
上泉唐ノ堀	X1-34	自然石	和田輝石安山岩	23	18	9	3.0		扇形帯	3	45,684,435	63,640,157	130,925		
上泉唐ノ堀	X1-35	自然石	和田輝石安山岩	14	14	7	0.9		扇形帯	3	45,685,144	63,639,946	130,975		
上泉唐ノ堀	X1-36	自然石	柱状変質岩	22	29	13	6.5		扇形帯	3	45,685,028	63,640,429	131,139		
上泉唐ノ堀	X1-37	自然石	和田輝石安山岩	60	34	14	32.7	扇形帯	3	45,685,263	63,641,093	131,032			
上泉唐ノ堀	X1-38	自然石	滑石粘灰岩	21	20	11	3.2		扇形帯	3	45,685,707	63,640,927	131,046		
上泉唐ノ堀	X1-39	自然石	和田輝石安山岩	38	20	6	4.0		扇形帯	3	45,685,596	63,640,428	131,172		
上泉唐ノ堀	X1-40	自然石	和田輝石安山岩	60	40	14	45.2	扇形帯	3	45,685,638	63,640,177	130,887			
上泉唐ノ堀	X1-41	自然石	滑石粘灰岩	13	11	12	1.1		扇形帯	3	45,687,447	63,639,993	131,031		
上泉唐ノ堀	X1-42	自然石	滑石粘灰岩	24	20	11	7.3		扇形帯	3	45,687,362	63,641,040	131,030		

## 遺物一覧表

遺跡	番号	器種名	石材名	長さ	幅	厚さ	重量	備考	部位	文様類	X座標	Y座標	Z座標	回	P.L.
上島房ノ屋	K1-43	自然石	和歌舞石安山岩	28	17	6.5			前面部		45,87,578	-63,641,532	130,863		
上島房ノ屋	K1-44	自然石	桂賀貞買石	23	21	8	5.6		前面部		45,87,780	-63,642,793	131,059		
上島房ノ屋	K1-45	自然石	和歌舞石安山岩	18	12	5	1.1		前面部		45,87,530	-63,642,824	130,980		
上島房ノ屋	K1-46	自然石	和歌舞石安山岩	46	15	11	8.3		前面部		45,86,028	-63,641,432	130,987		
上島房ノ屋	K1-47	自然石	桂賀貞買石	34	25	28	25.2		前面部		45,85,845	-63,642,171	130,906		
上島房ノ屋	K1-48	自然石	桂賀貞買石	37	26	32	14.7	円彫	前面部		45,85,825	-63,642,598	131,103		
上島房ノ屋	K1-49	自然石	砂岩	47	40	23	60.3		前面部		45,85,525	-63,642,459	130,878		
上島房ノ屋	K1-50	自然石	頁岩	29	25	19	20.4	円彫	前面部		45,85,263	-63,642,549	131,117		
上島房ノ屋	K1-51	自然石	和歌舞石安山岩	19	17	8	2.0		前面部		45,84,938	-63,641,379	131,032		
上島房ノ屋	K1-52	自然石	和歌舞石安山岩	34	33	29	34.8		前面部		45,84,613	-63,641,363	131,025		
上島房ノ屋	K1-53	自然石	砂岩	31	22	13	7.6		前面部		45,84,545	-63,641,060	130,853		
上島房ノ屋	K1-54	自然石	桂賀貞買石	19	15	9	3.1		前面部		45,83,905	-63,641,464	130,896		
上島房ノ屋	K1-55	自然石	桂賀貞買石	18	16	8	3.0		前面部		45,84,349	-63,641,926	130,997		
上島房ノ屋	K1-56	自然石	和歌舞石安山岩	19	17	15	3.9		前面部		45,84,549	-63,642,130	130,933		
上島房ノ屋	K1-57	自然石	和歌舞石安山岩	30	36	18	45.0		前面部		45,84,779	-63,642,160	130,974		
上島房ノ屋	K1-58	自然石	桂賀貞買石	27	17	7	2.7		前面部		45,84,170	-63,642,884	130,958		
上島房ノ屋	K1-59	自然石	桂賀貞買石	31	20	8	6.8		前面部		45,83,890	-63,642,783	131,001		
上島房ノ屋	K1-60	自然石	和歌舞石安山岩	25	12	9	2.7		前面部		45,82,458	-63,642,321	131,096		
上島房ノ屋	K1-61	自然石	桂賀貞買石	21	14	10	2.7		前面部		45,81,885	-63,642,562	131,060		
上島房ノ屋	K1-62	自然石	桂賀貞買石	21	17	5	2.4		前面部		45,81,260	-63,642,871	131,030		
上島房ノ屋	K1-63	自然石	和歌舞石安山岩	28	25	15	10.5		前面部		45,80,928	-63,643,316	131,035		
上島房ノ屋	K1-64	自然石	和歌舞石安山岩	32	18	18	13.2		前面部		45,81,738	-63,644,622	130,887		
上島房ノ屋	K1-65	自然石	桂賀貞買石	28	22	16	6.0		前面部		45,82,897	-63,641,825	130,868		
上島房ノ屋	K1-66	自然石	和歌舞石安山岩	30	22	13	6.8		前面部		45,83,614	-63,643,587	130,916		
上島房ノ屋	K1-67	自然石	和歌舞石安山岩	32	26	19	17.5		前面部		なし	なし	なし		
上島房ノ屋	K1-68	自然石	桂賀貞買石	51	42	34	86.8		前面部		なし	なし	なし		
上島房ノ屋	K2-1	陶片	黒色安山岩	32	33	16	12.4		前面部		45,515,708	-63,629,350	131,869	20	11
上島房ノ屋	K2-2	陶片	黒色安山岩	24	25	10	3.8		前面部		45,515,992	-63,628,684	131,900	20	11
上島房ノ屋	K2-3	火番													
上島房ノ屋	K2-4	陶片	黒色安山岩	35	31	12	11.5		前面部		45,519,989	-63,626,448	131,700	20	11
上島房ノ屋	K2-5	陶片	黑色安山岩	17	20	8	2.2		前面部		45,513,455	-63,629,296	131,662		
上島房ノ屋	K2-6	陶片	黑色安山岩	18	19	7	2.4		前面部		45,514,271	-63,620,157	131,720	20	11
上島房ノ屋	K2-7	陶片	黑色安山岩	15	11	4	0.6		前面部		45,515,866	-63,630,715	131,724		
上島房ノ屋	K2-8	陶片	黑色安山岩	16	23	11	3.1		前面部		45,515,341	-63,631,201	131,863		
上島房ノ屋	K2-9	碎片	黑色安山岩	10	13	3	0.5		前面部		45,514,245	-63,631,464	131,731		
上島房ノ屋	K2-10	陶片	黑色安山岩	9	12	4	0.5		前面部		45,512,027	-63,631,238	131,699		
上島房ノ屋	K2-11	陶片	黑色安山岩	18	11	4	0.6		前面部		45,515,230	-63,632,070	131,781		
上島房ノ屋	K2-12	陶片	黑色安山岩	30	30	13	7.2		前面部		45,515,161	-63,632,311	131,648	22	12
上島房ノ屋	K2-13	陶片	黑色安山岩	31	14	8	2.3		前面部		45,514,424	-63,632,320	131,752		
上島房ノ屋	K2-14	加工面ある陶片	黑色安山岩	32	45	16	15.3		前面部		45,514,677	-63,632,698	131,662	13 + 20	7 + 11
上島房ノ屋	K2-15	自然石(浮石)	和歌舞石安山岩	12	9	3	0.4		前面部		45,515,810	-63,633,519	131,742		
上島房ノ屋	K2-16	陶片	黑色安山岩	13	8	6	0.7		前面部		45,514,640	-63,633,289	131,674	20	11
上島房ノ屋	K2-17	陶片	黑色安山岩	33	14	4	1.6		前面部		45,512,767	-63,632,986	131,788		
上島房ノ屋	K2-18	陶片	黑色安山岩	22	15	13	6.5		前面部		45,512,918	-63,633,229	131,691		
上島房ノ屋	K2-19	陶片	黑色安山岩	19	14	7	2.3		前面部		45,512,059	-63,632,291	131,770	20	11
上島房ノ屋	K2-20	陶片	黑色安山岩	17	25	8	2.9		前面部		45,511,963	-63,633,273	131,635		
上島房ノ屋	K2-21	陶片	黑色安山岩	16	20	5	1.5		前面部		45,513,446	-63,634,141	131,817		
上島房ノ屋	K2-22	陶片	黑色安山岩	21	22	7	3.5		前面部		45,513,066	-63,630,215	131,598		
上島房ノ屋	K2-23	陶片	黑色安山岩	17	16	4	1.0		前面部		45,512,756	-63,633,953	131,555		
上島房ノ屋	K2-24	陶片	黑色安山岩	27	13	5	1.4		前面部		45,510,979	-63,634,333	131,697		
上島房ノ屋	K2-25	自然石	御影石黄片岩	37	40	24	33.2		前面部		45,517,043	-63,635,791	131,729	21	
上島房ノ屋	K2-26	陶片	黑色安山岩	17	19	5	1.4		前面部		45,515,690	-63,635,669	131,662		
上島房ノ屋	K2-27	ナメ形石墨	御影石	30	17	8	3.2	ベン先形	前面部		45,513,159	-63,631,947	131,625	13	7
上島房ノ屋	K2-28	石片	鷹瓦	86	20	6	8.4		前面部		45,512,566	-63,630,300	131,553	14	7
上島房ノ屋	K2-29	陶片	黒色安山岩	25	29	7	5.4		前面部		45,512,181	-63,630,569	131,606	18	10
上島房ノ屋	K2-30	陶片	黒色安山岩	46	18	12	6.6		前面部		45,511,908	-63,630,038	131,523		
上島房ノ屋	K2-31	陶片	黒色安山岩	22	16	7	1.8		前面部		45,513,080	-63,630,273	131,605	23	12
上島房ノ屋	K2-32	陶片	黒色安山岩	20	41	8	5.1		前面部		45,512,568	-63,638,473	131,564	18	10
上島房ノ屋	K2-33	陶片	黒色安山岩	14	8	3	0.5		前面部		45,512,890	-63,639,088	131,756		
上島房ノ屋	K2-34	陶片	黒色安山岩	12	15	4	0.6		前面部		45,512,485	-63,639,430	131,641		
上島房ノ屋	K2-35	陶片	黒色安山岩	27	34	10	7.9		前面部		45,512,090	-63,639,490	131,632		
上島房ノ屋	K2-36	火番													
上島房ノ屋	K2-37	陶片	黒色安山岩	35	26	5	5.0		前面部		45,514,216	-63,640,162	131,769	18	10
上島房ノ屋	K2-38	陶片	黒色安山岩	12	21	3	0.6		前面部		45,513,961	-63,640,294	131,844		
上島房ノ屋	K2-39	ナイフ形石墨	黒色安山岩	39	18	9	5.2	ベン先形	前面部		45,513,586	-63,640,413	131,700	13	7
上島房ノ屋	K2-40	陶片	黒色安山岩	11	15	4	0.7		前面部		45,512,455	-63,640,129	131,693		
上島房ノ屋	K2-41	陶片	黒色安山岩	23	20	7	3.1		前面部		45,511,221	-63,640,643	131,879		
上島房ノ屋	K2-42	陶片	黒色安山岩	19	12	8	0.7		前面部		45,511,315	-63,640,940	131,880		
上島房ノ屋	K2-43	陶片	黒色安山岩	37	23	4	3.9		前面部		45,515,514	-63,641,400	131,733		
上島房ノ屋	K2-44	陶片	黒色安山岩	9	11	5	0.6		前面部		45,514,671	-63,641,446	131,776		
上島房ノ屋	K2-45	陶片	ナイフ形石墨	35	26	7	4.3	ベン先形	前面部		45,514,616	-63,641,065	131,679	13	7
上島房ノ屋	K2-46	陶片	黒色安山岩	41	37	12	15.6		前面部		45,514,120	-63,640,800	131,675	21	12
上島房ノ屋	K2-47	陶片	黒色安山岩	23	10	6	1.1		前面部		45,514,084	-63,641,292	131,722		
上島房ノ屋	K2-48	陶片	黒色安山岩	10	12	2	0.3		前面部		45,514,369	-63,641,984	131,877		
上島房ノ屋	K2-49	陶片	黒色安山岩	12	18	3	0.8		前面部		45,515,214	-63,642,130	131,720		
上島房ノ屋	K2-50	陶片	黒色安山岩	25	15	4	1.1		前面部		45,515,763	-63,642,318	131,736		
上島房ノ屋	K2-51	陶片	黒色安山岩	29	14	7	2.3		前面部		45,517,290	-63,642,320	131,769		
上島房ノ屋	K2-52	陶片	黒色安山岩	36	16	10	4.7		前面部		45,518,007	-63,643,449	131,801	22	12
上島房ノ屋	K2-53	陶片	黒色安山岩	26	22	5	3.0		前面部		45,517,004	-63,643,274	131,745		
上島房ノ屋	K2-54	陶片	黒色安山岩	16	9	4	0.4		前面部		45,515,711	-63,643,215	131,754		
上島房ノ屋	K2-55	陶片	黒色安山岩	42	20	9	5.9		前面部		45,515,087	-63,643,373	131,841		

遺跡	番号	器種名	石名	段さ	幅	厚さ	重量	備考	部位	文系類	3D座標	Y座標	標高	P.L.	
上島房ノ原	K2-26	削片	黒色安山岩	40	22	8	5.7		褐色帶	3	45,316,515	-63,641,106	131,770	20	11
上島房ノ原	K2-27	削片	黒色安山岩	18	10	4	0.4		褐色帶	3	45,315,477	-63,641,272	131,752		
上島房ノ原	K2-28	削片	黒色安山岩	12	8	5	0.4		褐色帶	3	45,314,992	-63,641,269	131,855		
上島房ノ原	K2-29	削片	黒色安山岩	15	24	4	1.0		褐色帶	3	45,314,556	-63,641,571	131,882		
上島房ノ原	K2-30	削片	黒色安山岩	18	21	5	1.8		褐色帶	3	45,318,841	-63,641,601	131,937		
上島房ノ原	K2-31	削片	黒色安山岩	25	30	7	4.1		褐色帶	3	45,318,345	-63,641,776	131,821	20	12
上島房ノ原	K2-32	削片	黒色安山岩	32	21	13	4.9		褐色帶	3	45,318,578	-63,645,169	131,839	23	12
上島房ノ原	K2-33	削片	黒色安山岩	23	15	4	0.9		褐色帶	3	45,318,803	-63,645,267	131,852		
上島房ノ原	K2-34	削片	黒色安山岩	35	41	10	14.9		褐色帶	3	45,318,309	-63,645,457	131,861	22	12
上島房ノ原	K2-35	石核	黒色安山岩	37	30	24	13.6		褐色帶	3	45,317,680	-63,647,511	131,899	17 + 22	9 + 12
上島房ノ原	K2-36	削片	黒色安山岩	18	25	6	2.1		褐色帶	3	45,317,063	-63,647,530	131,899		
上島房ノ原	K2-37	削片	黒色安山岩	20	19	6	1.6		褐色帶	3	45,316,280	-63,647,344	131,931		
上島房ノ原	K2-38	削片	黒色安山岩	21	16	7	1.7		褐色帶	3	45,315,368	-63,647,158	131,803		
上島房ノ原	K2-39	削片	黒色安山岩	30	22	9	5.5		褐色帶	3	45,317,102	-63,646,066	131,847		
上島房ノ原	K2-40	削片	黒色安山岩	27	34	4	3.1		褐色帶	3	45,317,769	-63,648,603	131,888	22	12
上島房ノ原	K2-41	削片	黒色安山岩	20	27	5	1.9		褐色帶	3	45,317,951	-63,651,165	131,960		
上島房ノ原	K2-42	自然石	和田輝石安山岩	32	24	15	11.8		褐色帶	3	なし	なし	なし		
上島房ノ原	K2-43	自然石	和田輝石安山岩	32	19	8	5.0		褐色帶	3	なし	なし	なし		
上島房ノ原	K2-44	自然石	和田輝石安山岩	27	27	14	9.6		褐色帶	3	なし	なし	なし		
上島房ノ原	K2-45	自然石	和田輝石安山岩	25	24	15	10.4		褐色帶	3	なし	なし	なし		
上島房ノ原	K2-46	自然石	和田輝石安山岩	27	18	12	6.1		褐色帶	3	なし	なし	なし		
上島房ノ原	K2-47	自然石	和田輝石安山岩	31	28	25	16.2		褐色帶	3	なし	なし	なし		
上島房ノ原	K3-1	削片	黒色安山岩	31	26	11	7.5		褐色帶	3	45,313,131	-63,650,551	132,247	22	12
上島房ノ原	K3-2	削片	白色頁岩	28	32	10	6.4		褐色帶	3	45,313,149	-63,638,369	132,193		
上島房ノ原	K3-3	自然石	和田輝石安山岩	27	15	12	4.3		褐色帶	3	45,315,393	-63,637,303	132,362		
上島房ノ原	K3-4	自然石	和田輝石安山岩	23	22	12	7.1		褐色帶	3	45,315,555	-63,638,583	132,349		
上島房ノ原	K3-5	自然石	和田輝石安山岩	20	16	12	5.9		褐色帶	3	45,315,686	-63,639,452	132,441		
上島房ノ原	K3-6	自然石	ダイサツゴウラス	15	12	10	1.6		褐色帶	3	45,314,304	-63,640,058	132,247		
上島房ノ原	K3-7	自然石	和田輝石安山岩	19	10	10	1.3		褐色帶	3	45,314,914	-63,639,796	132,366		
上島房ノ原	K3-8	自然石	和田輝石安山岩	20	15	14	5.8		褐色帶	3	45,313,082	-63,640,088	132,182		
上島房ノ原	K3-9	自然石	和田輝石安山岩	19	12	7	1.7		褐色帶	3	45,313,106	-63,640,961	132,261		
上島房ノ原	K3-10	自然石	和田輝石安山岩	13	11	6	0.9		褐色帶	3	45,312,860	-63,649,666	132,240		
上島房ノ原	K3-11	自然石	和田輝石安山岩	17	10	7	1.1		褐色帶	3	45,312,998	-63,641,995	132,275		
上島房ノ原	K3-12	自然石	和田輝石安山岩	30	26	13	6.0		褐色帶	3	45,311,073	-63,640,193	132,206		
上島房ノ原	K3-13	自然石	和田輝石安山岩	13	12	9	1.1		褐色帶	3	45,311,314	-63,640,882	132,193		
上島房ノ原	K3-14	自然石	和田輝石安山岩	19	17	13	4.5		褐色帶	3	45,311,094	-63,640,473	132,135		
上島房ノ原	K3-15	自然石	和田輝石安山岩	25	20	19	11.3		褐色帶	3	45,310,877	-63,640,552	132,158		
上島房ノ原	K3-16	自然石	和田輝石安山岩	13	11	6	0.9		褐色帶	3	45,313,306	-63,636,817	132,177		
上島房ノ原	K3-17	自然石	和田輝石安山岩	10	9	6	0.7		褐色帶	3	45,313,398	-63,636,915	132,180		
上島房ノ原	K3-18	自然石	和田輝石安山岩	14	11	9	1.5		褐色帶	3	45,313,202	-63,637,298	132,158		
上島房ノ原	K3-19	自然石	和田輝石安山岩	13	11	11	1.8		褐色帶	3	45,313,107	-63,637,106	132,158		
上島房ノ原	K3-20	自然石	和田輝石安山岩	24	15	7	2.1		褐色帶	3	45,312,509	-63,637,214	132,370		
上島房ノ原	K3-21	自然石	和田輝石安山岩	20	14	6	1.6		褐色帶	3	45,311,904	-63,636,464	132,108		
上島房ノ原	K3-22	自然石	和田輝石安山岩	16	13	9	2.1		褐色帶	3	45,311,497	-63,636,163	132,132		
上島房ノ原	K3-23	自然石	和田輝石安山岩	14	10	5	0.4		褐色帶	3	45,311,699	-63,636,762	132,065		
上島房ノ原	K3-24	自然石	和田輝石安山岩	25	22	12	6.2		褐色帶	3	45,311,394	-63,637,774	132,101		
上島房ノ原	K3-25	自然石	和田輝石安山岩	115	86	65	410.0		褐色帶	3	45,315,565	-63,632,365	131,190		
上島房ノ原	K3-26	石核	黒色安山岩	12	8	6	0.5		褐色帶	3	45,314,643	-63,628,117	131,328		
上島房ノ原	K3-27	石核	黒色安山岩	54	33	13	19.2		褐色帶	3	45,313,831	-63,628,809	130,395	13	7
上島房ノ原	K3-28	石核	黒色安山岩	69	76	30	154.8		褐色帶	3	45,315,448	-63,628,043	131,466	16	9
上島房ノ原	K3-29	石核	黒色安山岩	42	38	11	12.9		褐色帶	3	45,314,965	-63,628,318	131,541	22	12
上島房ノ原	K3-30	石核	黒色安山岩	59	54	19	35.5		褐色帶	3	45,315,108	-63,625,669	131,433	16 + 20	9 + 11
上島房ノ原	K3-31	石核	和田輝石安山岩	23	18	8	2.9		褐色帶	3	45,313,284	-63,631,762	131,429	13	7
上島房ノ原	K3-32	削片	黒色安山岩	19	14	4	1.1		褐色帶	3	45,312,971	-63,631,718	131,291	22	12
上島房ノ原	K3-33	削片	黒色安山岩	16	15	4	0.9		褐色帶	3	45,315,225	-63,630,433	131,505		
上島房ノ原	K3-34	削片	黒色安山岩	14	12	4	0.5		褐色帶	3	45,314,670	-63,632,679	131,540		
上島房ノ原	K3-35	削片	黒色安山岩	82	44	13	37.6		褐色帶	3	45,313,284	-63,631,762	131,429		
上島房ノ原	K3-36	削片	黒色安山岩	40	29	12	10.7		褐色帶	3	45,312,971	-63,631,718	131,291		
上島房ノ原	K3-37	削片	黒色安山岩	23	26	10	3.8		褐色帶	3	45,312,433	-63,631,499	131,333		
上島房ノ原	K3-38	削片	黒色安山岩	28	41	13	14.1		褐色帶	3	45,312,278	-63,631,497	131,298		
上島房ノ原	K3-39	石核	黒色安山岩	62	44	20	59.0		褐色帶	3	45,312,169	-63,632,696	131,386	16	9
上島房ノ原	K3-40	削片	黒色安山岩	61	38	15	24.6		褐色帶	3	45,311,866	-63,632,390	131,438		
上島房ノ原	K3-41	削片	黒色安山岩	16	11	1	0.2		褐色帶	3	45,313,614	-63,634,289	131,529		
上島房ノ原	K3-42	削片	黒色安山岩	8	8	1	0.1		褐色帶	3	45,312,979	-63,635,861	131,334		
上島房ノ原	K3-43	削片	黒色安山岩	20	17	7	2.1		褐色帶	3	45,312,924	-63,631,154	131,269		
上島房ノ原	K3-44	削片	黒色安山岩	9	20	7	2.0		褐色帶	3	45,311,042	-63,633,219	131,435		
上島房ノ原	K3-45	削片	黒色安山岩	25	19	6	3.2		褐色帶	3	45,315,106	-63,635,273	131,565	71	
上島房ノ原	K3-46	削片	黒色安山岩	30	22	20	21.5		褐色帶	3	45,314,163	-63,635,811	131,091		
上島房ノ原	K3-47	削片	黒色安山岩	11	15	4	0.6		褐色帶	3	45,313,763	-63,625,272	131,471		
上島房ノ原	K3-48	自然石	チートル	26	18	16	9.0		褐色帶	3	45,316,086	-63,638,052	131,447		
上島房ノ原	K3-49	削片	黒色安山岩	7	17	3	0.5		褐色帶	3	45,313,825	-63,637,231	131,427		
上島房ノ原	K3-50	削片	黒色安山岩	15	19	4	0.6		褐色帶	3	45,313,448	-63,637,526	131,522	23	12
上島房ノ原	K3-51	削片	黒色安山岩	21	36	9	4.0		褐色帶	3	45,313,162	-63,636,919	131,455	23	12
上島房ノ原	K3-52	削片	黒色安山岩	63	43	18	33.9		褐色帶	3	45,313,073	-63,637,066	131,257	13	7
上島房ノ原	K3-53	削片	黒色安山岩	32	32	9	7.9		褐色帶	3	45,313,096	-63,637,935	131,392	18	10
上島房ノ原	K4-30	削片	黒色安山岩	5	7	1	0.1		褐色帶	3	45,312,650	-63,637,775	131,418		
上島房ノ原	K4-31	削片	黒色安山岩	20	17	3	0.6		褐色帶	3	45,312,617	-63,636,376	131,411		
上島房ノ原	K4-32	削片	白雲母頁岩	56	19	5	4.1		褐色帶	3	45,312,601	-63,636,700	131,388	14	7
上島房ノ原	K4-33	削片	黒色安山岩	8	15	4	0.3		褐色帶	3	45,312,494	-63,636,829	131,444		
上島房ノ原	K4-34	削片	黒色安山岩	8	18	4	0.9		褐色帶	3	45,312,174	-63,635,786	131,262		
上島房ノ原	K4-35	削片	黒色安山岩	10	12	4	0.5		褐色帶	3	45,311,896	-63,636,649	131,359		

## 遺物一覧表

遺跡	番号	器種名	石材名	段さ	幅	厚さ	重量	備考	柄位	文様類	X座標	Y座標	埋植	回	P.L.
上島房ノ瀬	4-36	鉗片	黒色安山岩	6	5	2	0.1		舶色帯		45,511,773	-63,657,120	131,443		
上島房ノ瀬	4-37	鉗片	黒色安山岩	22	28	7	3.7		舶色帯		45,511,434	-63,655,869	131,473		
上島房ノ瀬	4-38	鉗片	黒色安山岩	7	10	3	0.3		舶色帯		45,511,497	-63,655,334	131,469		
上島房ノ瀬	4-39	鉗片	黒色安山岩	10	4	2	0.1		舶色帯		45,511,809	-63,651,869	131,071		
上島房ノ瀬	4-40	石核	黒色安山岩	82	72	25	145.9		舶色帯		45,510,651	-63,655,129	131,292	15	9
上島房ノ瀬	4-41	鉗片	黒色安山岩	16	14	6	0.8		舶色帯		45,510,713	-63,655,863	131,381		
上島房ノ瀬	4-42	鉗片	黒色安山岩	42	34	10	13.3		舶色帯		45,511,169	-63,656,774	131,344	22	12
上島房ノ瀬	4-43	鉗片	黒色安山岩	27	39	9	10.0		舶色帯		45,511,066	-63,657,036	131,105	22	12
上島房ノ瀬	4-44	鉗片	黒色安山岩	9	8	2	0.2		舶色帯		45,510,710	-63,656,414	131,392		
上島房ノ瀬	4-45	自然石	和利輝石安山岩	27	22	15	11.4		舶色帯		45,510,982	-63,656,662	131,049		
上島房ノ瀬	4-46	鉗片	黒色安山岩	16	16	6	1.1		舶色帯		45,510,254	-63,656,533	131,365		
上島房ノ瀬	4-47	鉗片	和利輝石安山岩	65	41	31	95.6		舶色帯		45,509,964	-63,657,190	131,310	17	10
上島房ノ瀬	4-48	鉗片	黒色安山岩	14	23	7	1.5		舶色帯		45,509,761	-63,656,306	131,128		
上島房ノ瀬	4-49	鉗片	黒色安山岩	8	7	2	0.1		舶色帯		45,511,636	-63,657,713	131,425		
上島房ノ瀬	4-50	鉗片	黒色安山岩	11	18	4	0.5		舶色帯		45,512,997	-63,656,428	131,406		
上島房ノ瀬	4-51	自然石	黒色片岩	16	8	7	1.4		舶色帯		45,515,931	-63,656,558	131,588	73	
上島房ノ瀬	4-52	鉗片	黒色安山岩	22	17	4	1.5		舶色帯		45,516,375	-63,640,488	131,468		
上島房ノ瀬	4-53	鉗片	黒色安山岩	59	58	24	51.6		舶色帯		45,515,286	-63,640,592	131,539	18	10
上島房ノ瀬	4-54	鉗片	黒色安山岩	34	16	8	3.8		舶色帯		45,514,063	-63,640,781	131,440	19	11
上島房ノ瀬	4-55	自然石	和利輝石安山岩	11	12	7	0.7		舶色帯		45,513,458	-63,658,399	131,473		
上島房ノ瀬	4-56	鉗片	黒色安山岩	41	48	11	23.2		舶色帯		45,513,566	-63,656,543	131,508	18	10
上島房ノ瀬	4-57	鉗片	黒色安山岩	24	13	3	0.9		舶色帯		45,513,138	-63,656,392	131,455		
上島房ノ瀬	4-58	鉗片	黒色安山岩	11	5	2	0.1		舶色帯		45,513,278	-63,656,785	131,456		
上島房ノ瀬	4-59	鉗片	黒色安山岩	23	30	13	7.8		舶色帯		45,512,927	-63,653,839	131,424	18	10
上島房ノ瀬	4-60	鉗片	黒色安山岩	9	12	2	0.2		舶色帯		45,512,966	-63,640,037	131,375		
上島房ノ瀬	4-61	鉗片	黒色安山岩	15	11	3	0.5		舶色帯		45,513,190	-63,640,101	101,532		
上島房ノ瀬	4-62	鉗片	黒色安山岩	9	5	4	0.2		舶色帯		45,513,363	-63,650,900	131,405		
上島房ノ瀬	4-63	鉗片	黒色安山岩	9	7	3	0.3		舶色帯		45,513,736	-63,656,981	131,487		
上島房ノ瀬	4-64	鉗片	黒色安山岩	51	45	12	21.6		舶色帯		45,513,734	-63,640,308	131,521	18	10
上島房ノ瀬	4-65	鉗片	黒色安山岩	7	5	2	0.1		舶色帯		45,514,025	-63,640,615	131,497		
上島房ノ瀬	4-66	鉗片	黒色安山岩	23	13	4	0.7		舶色帯		45,514,069	-63,640,776	131,450		
上島房ノ瀬	4-67	鉗片	黒色安山岩	53	65	17	47.6		舶色帯		45,513,820	-63,640,815	131,463	18	10
上島房ノ瀬	4-68	鉗片	黒色安山岩	9	4	2	0.1		舶色帯		45,513,791	-63,640,957	131,517		
上島房ノ瀬	4-69	鉗片	黒色安山岩	51	31	12	15.2		舶色帯		45,513,798	-63,641,169	131,587	18	10
上島房ノ瀬	4-70	鉗片	黒色安山岩	11	19	3	0.9		舶色帯		45,513,528	-63,640,581	131,406		
上島房ノ瀬	4-71	鉗片	黒色安山岩	8	4	2	0.1		舶色帯		45,513,419	-63,641,010	131,498		
上島房ノ瀬	4-72	鉗片	黒色安山岩	14	15	5	0.8		舶色帯		45,513,494	-63,641,261	130,590		
上島房ノ瀬	4-73	鉗片	黒色安山岩	14	4	4	0.2		舶色帯		45,513,553	-63,641,441	131,649		
上島房ノ瀬	4-74	ナガヒコ形石器	黒輝石	15	24	5	1.5	台形彫	舶色帯		45,513,819	-63,641,808	131,628	13	7
上島房ノ瀬	4-75	鉗片	黒色安山岩	9	5	3	0.1		舶色帯		45,513,382	-63,641,835	131,411		
上島房ノ瀬	4-76	鉗片	黒色安山岩	22	9	7	1.0		舶色帯		45,513,194	-63,641,655	131,484		
上島房ノ瀬	4-77	鉗片	黒色安山岩	19	10	4	0.6		舶色帯		45,512,952	-63,641,593	131,430		
上島房ノ瀬	4-78	鉗片	黒色安山岩	12	13	6	0.6		舶色帯		45,513,232	-63,641,435	131,461		
上島房ノ瀬	4-79	鉗片	黒色安山岩	5	6	2	0.1		舶色帯		45,513,097	-63,641,258	131,534		
上島房ノ瀬	4-80	鉗片	黒色安山岩	78	44	18	90.0		舶色帯		45,513,222	-63,641,099	130,484	22	12
上島房ノ瀬	4-81	鉗片	黒色安山岩	5	4	1	0.1		舶色帯		45,513,175	-63,641,055	131,491		
上島房ノ瀬	4-82	鉗片	黒色安山岩	11	11	3	0.2		舶色帯		45,512,797	-63,641,111	131,646		
上島房ノ瀬	4-83	鉗片	黒色安山岩	13	7	4	0.2		舶色帯		45,512,628	-63,640,815	131,410		
上島房ノ瀬	4-84	鉗片	黒色安山岩	9	12	3	0.3		舶色帯		45,512,067	-63,640,474	131,496		
上島房ノ瀬	4-85	鉗片	黒色安山岩	5	2	2	0.1		舶色帯		45,511,952	-63,640,317	131,474		
上島房ノ瀬	4-86	自然石	ホルンブリム	5	6	3	0.1		舶色帯		45,511,718	-63,640,144	131,477		
上島房ノ瀬	4-87	鉗片	黒色安山岩	20	15	6	1.1		舶色帯		45,511,191	-63,640,572	131,504		
上島房ノ瀬	4-88	鉗片	和利輝石安山岩	72	64	41	261.0		舶色帯		45,511,047	-63,642,060	131,494	17	10
上島房ノ瀬	4-89	自然石	和利輝石安山岩	38	29	22	26.7		舶色帯		45,510,940	-63,641,351	131,315		
上島房ノ瀬	4-90	鉗片	黒色安山岩	17	27	13	24.9		舶色帯		45,510,138	-63,652,850	131,502	15	8
上島房ノ瀬	4-91	鉗片	黒色安山岩	18	10	3	0.6		舶色帯		45,511,034	-63,641,033	131,542		
上島房ノ瀬	4-92	鉗片	黒色安山岩	38	43	13	20.7		舶色帯		45,512,418	-63,641,593	131,517	18	10
上島房ノ瀬	4-93	鉗片	黒色安山岩	31	29	12	5.7		舶色帯		45,512,534	-63,642,303	131,681	18	10
上島房ノ瀬	4-94	鉗片	黒色安山岩	10	19	5	0.9		舶色帯		45,512,417	-63,642,993	131,765		
上島房ノ瀬	4-95	鉗片	黒色安山岩	18	15	6	1.2		舶色帯		45,512,818	-63,642,193	131,499	19	11
上島房ノ瀬	4-96	鉗片	黒色安山岩	11	7	3	0.2		舶色帯		45,513,047	-63,642,060	131,431		
上島房ノ瀬	4-97	鉗片	黒色安山岩	8	6	3	0.1		舶色帯		45,513,254	-63,642,339	131,658		
上島房ノ瀬	4-98	自然石	黒色片岩	15	11	4	0.8		舶色帯		45,513,407	-63,642,598	131,510	71	
上島房ノ瀬	4-99	鉗片	黒色安山岩	12	10	3	0.4		舶色帯		45,513,090	-63,642,923	131,526		
上島房ノ瀬	4-100	鉗片	黒色安山岩	47	44	21	41.2		舶色帯		45,514,429	-63,642,142	131,494	19	11
上島房ノ瀬	4-101	鉗片	黒色安山岩	13	24	7	1.8		舶色帯		45,515,447	-63,641,541	131,436	19	11
上島房ノ瀬	4-102	鉗片	黒色安山岩	58	43	16	39.9		舶色帯		45,514,421	-63,641,915	131,525	21	12
上島房ノ瀬	4-115	鉗片	黒色安山岩	62	36	22	47.8		舶色帯		45,516,882	-63,641,320	131,493	19	11
上島房ノ瀬	4-104	鉗片	黒色安山岩	52	45	29	38.2		舶色帯		45,514,256	-63,641,514	131,589	21	12
上島房ノ瀬	4-105	鉗片	黒色安山岩	22	24	7	3.7		舶色帯		45,515,163	-63,641,540	131,666	19	11
上島房ノ瀬	4-106	鉗片	黒色安山岩	58	74	24	85.0		舶色帯		45,514,338	-63,642,448	131,517	19	11
上島房ノ瀬	4-107	鉗片	黒色安山岩	7	9	2	0.1		舶色帯		45,515,645	-63,642,228	131,515		
上島房ノ瀬	4-108	鉗片	黒色安山岩	57	40	17	36.2		舶色帯		45,515,310	-63,642,633	131,618	21	12
上島房ノ瀬	4-109	鉗片	黒色安山岩	7	9	2	0.1		舶色帯		45,515,009	-63,642,410	131,356		
上島房ノ瀬	4-110	鉗片	黒色安山岩	7	16	5	0.5		舶色帯		45,514,967	-63,642,587	131,480		
上島房ノ瀬	4-111	石核	黒色石	54	26	11	12.2	費脛彫繩	舶色帯		45,516,390	-63,642,534	131,581	14	7
上島房ノ瀬	4-112	鉗片	黒色安山岩	15	16	7	1.3		舶色帯		45,516,327	-63,642,403	131,494		
上島房ノ瀬	4-113	鉗片	黒色安山岩	19	21	3	1.1		舶色帯		45,516,661	-63,642,230	131,632	21	12
上島房ノ瀬	4-114	ナガヒコ形石器	黒色安山岩	48	21	16	12.3		舶色帯		45,516,618	-63,642,602	131,490	13・21	7・12
上島房ノ瀬	4-103	鉗片	黒色安山岩	43	49	19	36.0		舶色帯		45,514,314	-63,641,629	131,521	19	11
上島房ノ瀬	4-116	自然石	和利輝石安山岩	30	25	20	11.8		舶色帯		45,517,906	-63,642,233	131,472		

遺跡	番号	器種名	石材名	段さ	幅	厚さ	重量	備考	部位	文様類	X座標	Y座標	図	P	L
上毛店ノ庭	K4-117	鉗片	黒色安山岩	20	14	6	1.4		細色帶	3	45,518,459	-63,643,189	131,643	19	11
上毛店ノ庭	K4-118	鉗片	黒色安山岩	16	17	4	0.9		細色帶	3	45,517,679	-63,643,755	131,732		
上毛店ノ庭	K4-119	鉗片	黒色安山岩	28	47	10	11.2		細色帶	3	45,518,894	-63,644,624	131,759	20	11
上毛店ノ庭	K4-120	チケブ形石器	黒色安山岩	28	19	10	4.5	台形標	細色帶	3	45,518,331	-63,644,756	131,727	13・19	7・11
上毛店ノ庭	K4-121	鉗片	黒色安山岩	13	7	2	0.1		細色帶	3	45,518,343	-63,644,764	131,727		
上毛店ノ庭	K4-122	鉗片	黒色安山岩	17	17	6	1.3		細色帶	3	45,516,918	-63,644,811	131,685	22	12
上毛店ノ庭	K4-123	鉗片	黒色安山岩	19	13	4	0.5		細色帶	3	45,516,644	-63,644,904	131,726		
上毛店ノ庭	K4-124	鉗片	黒色安山岩	27	22	5	2.3		細色帶	3	45,516,434	-63,644,124	131,707	19	11
上毛店ノ庭	K4-125	鉗片	黒色安山岩	33	16	9	3.1	鐵磁鉗跡	細色帶	3	45,516,300	-63,645,031	131,629		
上毛店ノ庭	K4-126	鉗片	黒色安山岩	15	17	2	0.4		細色帶	3	45,516,210	-63,645,254	131,664		
上毛店ノ庭	K4-127	鉗片	黒色安山岩	13	13	3	0.3		細色帶	3	45,516,816	-63,644,548	131,758		
上毛店ノ庭	K4-128	鉗片	黒色安山岩	33	30	5	4.1		細色帶	3	45,515,726	-63,644,866	131,522	22	12
上毛店ノ庭	K4-129	鉗片	黒色安山岩	21	12	9	1.6		細色帶	3	45,514,986	-63,644,197	131,561		
上毛店ノ庭	K4-130	鉗片	黒色安山岩	27	33	15	13.4		細色帶	3	45,515,038	-63,645,538	131,584	19	11
上毛店ノ庭	K4-131	自然石(判定)	相輪舞石安山岩	12	8	4	0.3		細色帶	3	45,514,441	-63,645,591	131,548		
上毛店ノ庭	K4-132	鉗片	黒色安山岩	39	59	21	41.0		細色帶	3	45,515,294	-63,646,381	131,660	19	11
上毛店ノ庭	K4-133	鉗片	黒色安山岩	8	13	3	0.2		細色帶	3	45,515,953	-63,646,599	131,578		
上毛店ノ庭	K4-134	鉗片	黒色安山岩	9	5	3	0.1		細色帶	3	45,516,272	-63,646,614	131,559		
上毛店ノ庭	K4-135	鉗片	黒色安山岩	25	39	9	5.4		細色帶	3	45,516,612	-63,645,938	131,663	19	11
上毛店ノ庭	K4-136	鉗片	黒色安山岩	46	57	15	24.8		細色帶	3	45,517,045	-63,646,842	131,670	20	11
上毛店ノ庭	K4-137	鉗片	黒色安山岩	18	11	5	0.8		細色帶	3	45,517,118	-63,641,034	131,722		
上毛店ノ庭	K4-138	鉗片	黒色安山岩	23	27	10	3.5		細色帶	3	45,517,608	-63,641,142	131,716		
上毛店ノ庭	K4-139	鉗片	黒色安山岩	12	14	4	0.5		細色帶	3	45,517,335	-63,646,892	131,535		
上毛店ノ庭	K4-140	鉗片	黒色安山岩	75	41	24	50.5		細色帶	3	45,517,963	-63,646,299	131,672	22	12
上毛店ノ庭	K4-141	鉗片	黒色安山岩	28	20	5	2.4		細色帶	3	45,517,673	-63,645,612	131,533	20	12
上毛店ノ庭	K4-142	鉗片	黒色安山岩	18	13	4	0.8		細色帶	3	45,518,292	-63,645,551	131,762		
上毛店ノ庭	K4-143	鉗片	黒色安山岩	16	14	5	1.1		細色帶	3	45,518,280	-63,646,110	131,797	20	11
上毛店ノ庭	K4-144	鉗片	黒色安山岩	22	20	8	2.4		細色帶	3	45,518,168	-63,646,604	131,783		
上毛店ノ庭	K4-145	鉗片	黒色安山岩	14	16	3	0.8		細色帶	3	45,518,735	-63,646,195	131,432	20	11
上毛店ノ庭	K4-146	鉗片	黒色安山岩	7	16	3	0.3		細色帶	3	45,519,043	-63,646,351	131,526		
上毛店ノ庭	K4-147	鉗片	黒色安山岩	22	15	5	1.5		細色帶	3	45,519,521	-63,645,583	131,376	22	12
上毛店ノ庭	K4-148	鉗片	黒色安山岩	10	14	2	2.2		細色帶	3	45,520,373	-63,645,066	131,794		
上毛店ノ庭	K4-149	鉗片	黒色安山岩	16	15	3	1.0		細色帶	3	45,510,998	-63,645,658	131,654		
上毛店ノ庭	K4-150	鉗片	相輪舞石安山岩	51	48	27	85.9		細色帶	3	45,522,052	-63,647,718	131,416		
上毛店ノ庭	K4-151	自然石	螺旋舞石安山岩	20	19	5	2.4		細色帶	3	45,526,352	-63,646,862	131,523		
上毛店ノ庭	K4-152	鉗片	黒色安山岩	10	19	3	0.5		細色帶	3	45,533,866	-63,647,010	131,664		
上毛店ノ庭	K4-153	鉗片	黒色安山岩	31	24	9	4.5		細色帶	3	45,542,427	-63,639,669	131,017	23	12
上毛店ノ庭	K4-154	自然石	相輪舞石安山岩	28	26	6	5.8		細色帶	3	45,543,483	-63,638,874	131,872		
上毛店ノ庭	K4-155	自然石	相輪舞石安山岩	47	43	28	58.4		細色帶	3	45,538,201	-63,633,414	132,110		
上毛店ノ庭	K4-156	鉗片	相輪舞石安山岩	97	71	27	205.1		細色帶	3	45,537,411	-63,633,931	131,635		
上毛店ノ庭	K4-157	自然石	黒色花崗岩	30	17	9	5.5		細色帶	3	45,536,306	-63,633,424	131,614	71	
上毛店ノ庭	K4-158	鉗片	黒色安山岩	36	20	7	4.6		細色帶	3	45,532,629	-63,633,545	131,769		
上毛店ノ庭	K4-159	鉗片	黒色安山岩	34	29	7	6.5	鐵磁鉗跡	細色帶	3	45,532,259	-63,632,596	131,958	23	12
上毛店ノ庭	K4-160	鉗片	黒色安山岩	58	33	15	32.5		細色帶	3	45,530,993	-63,632,779	131,896	22	12
上毛店ノ庭	K4-161	鉗片	ダイサイト	65	35	13	26.5		細色帶	3	45,531,019	-63,632,232	131,943	23	12
上毛店ノ庭	K4-162	鉗片	滑苔灰岩	61	33	23	36.5		細色帶	3	45,530,851	-63,631,680	131,833		
上毛店ノ庭	K4-163	鉗片	ダイサイト	49	33	9	12.5		細色帶	3	45,530,168	-63,632,084	131,778	23	12
上毛店ノ庭	K4-164	石核	黒色安山岩	54	48	43	83.6		細色帶	3	45,528,472	-63,631,255	131,714	16・18	9・10
上毛店ノ庭	K4-165	自然石	日月食観音	38	26	9	9.9		細色帶	3	45,529,241	-63,632,222	131,471		
上毛店ノ庭	K4-166	鉗片	黒色安山岩	48	62	14	36.5		細色帶	3	45,525,431	-63,635,499	131,561		
上毛店ノ庭	K4-167	鉗片	黒色安山岩	18	21	8	2.6		細色帶	3	45,525,440	-63,634,373	131,532	23	12
上毛店ノ庭	K4-168	石核	黒色安山岩	37	44	14	16.6		細色帶	3	45,525,295	-63,632,125	131,653	16	9
上毛店ノ庭	K4-169	鉗片	黒色安山岩	61	54	23	58.0		細色帶	3	45,526,349	-63,629,669	131,721	21	12
上毛店ノ庭	K4-170	鉗片	滑苔灰岩	25	21	9	5.0		細色帶	3	45,525,345	-63,621,711	131,633		
上毛店ノ庭	K4-171	鉗片	黒色安山岩	30	29	11	9.3		細色帶	3	45,525,440	-63,621,394	131,770	23	12
上毛店ノ庭	K4-172	鉗片	黒色安山岩	35	42	14	17.8		細色帶	3	45,525,407	-63,620,894	131,793	22	12
上毛店ノ庭	K4-173	自然石	輝石	16	10	4	0.9		細色帶	3	45,522,391	-63,628,132	131,426		
上毛店ノ庭	K4-174	鉗片	黒色安山岩	15	25	11	2.6		細色帶	3	45,515,277	-63,630,678	131,182		
上毛店ノ庭	K4-175	鉗片	黒色安山岩	24	11	4	1.0		細色帶	3	45,514,695	-63,632,680	131,233		
上毛店ノ庭	K4-176	自然石	相輪舞石安山岩	20	12	5	1.0		細色帶	3	45,513,043	-63,637,699	131,251		
上毛店ノ庭	K4-177	鉗片	碧玉	59	41	18	42.4		細色帶	3	45,512,428	-63,636,900	131,331	23	12
上毛店ノ庭	K4-178	鉗片	黒色安山岩	16	7	6	0.6		細色帶	3	45,512,078	-63,640,362	131,213		
上毛店ノ庭	K4-179	鉗片	黒色安山岩	45	30	16	15.2		細色帶	3	45,513,836	-63,640,920	131,490	22	12
上毛店ノ庭	K4-180	鉗片	黒色安山岩	13	21	4	0.9		細色帶	3	45,513,682	-63,641,260	131,472		
上毛店ノ庭	K4-181	鉗片	黒色安山岩	18	12	5	0.9		細色帶	3	45,512,300	-63,640,978	131,369		
上毛店ノ庭	K4-182	鉗片	黒色安山岩	7	11	3	0.2		細色帶	3	45,512,871	-63,641,088	131,426		
上毛店ノ庭	K4-183	鉗片	黒色安山岩	42	50	16	34.1		細色帶	3	45,513,109	-63,641,304	131,505	18	10
上毛店ノ庭	K4-184	鉗片	黒色安山岩	18	10	3	0.5		細色帶	3	45,514,773	-63,641,706	131,377		
上毛店ノ庭	K4-185	鉗片	黒色安山岩	7	8	2	0.1		細色帶	3	45,513,402	-63,641,758	131,290		
上毛店ノ庭	K4-186	鉗片	黒色安山岩	3	8	2	0.1		細色帶	3	45,513,036	-63,642,074	131,423		
上毛店ノ庭	K4-187	鉗片	黒色安山岩	12	14	3	0.4		細色帶	3	45,512,491	-63,642,654	131,507		
上毛店ノ庭	K4-188	鉗片	黒色安山岩	13	13	5	0.6		細色帶	3	45,516,189	-63,645,239	131,608	22	12
上毛店ノ庭	K4-189	鉗片	滑苔灰岩	67	62	46	281.0		細色帶	3	45,507,879	-63,639,337	131,394		
上毛店ノ庭	K4-190	自然石	日月食観音	19	14	9	3.5		細色帶	3	45,507,893	-63,640,521	131,266		
上毛店ノ庭	K4-191	自然石	日月食観音	37	31	14	15.9		細色帶	3	45,507,706	-63,639,045	131,129		
上毛店ノ庭	K4-192	自然石	ホルンフェルズ	24	19	16	9.8		細色帶	3	45,507,982	-63,637,570	131,119		
上毛店ノ庭	K4-193	自然石	相輪舞石安山岩	40	38	24	45.8		細色帶	3	45,509,594	-63,638,427	131,086		
上毛店ノ庭	K4-194	自然石	相輪舞石安山岩	17	14	5	1.7		細色帶	3	45,509,853	-63,637,191	131,164		
上毛店ノ庭	K4-195	自然石	相輪舞石安山岩	43	14	9	36.3		細色帶	3	なし	なし	なし		
上毛店ノ庭	K4-196	自然石	相輪舞石安山岩	26	27	18	10.2		細色帶	3	なし	なし	なし		
上毛店ノ庭	K4-197	鉗片	黒色安山岩	24	28	9	6.4		細色帶	3	なし	なし	なし		

## 遺物一覧表

遺跡	番号	器種名	石材名	段さ	幅	厚さ	備考	前位	文化層	X座標	Y座標	Z座標	回	P.L.	
上泉ノ原	K5-1	自然石	和田舞石安山岩	47	35	23	55.4	円彫	褐色帶	45,310,218	63,634,125	130.973			
上泉ノ原	K5-2	自然石	和田舞石安山岩	28	25	17	14.4	褐色帶	褐色帶	45,309,845	63,634,115	130.925			
上泉ノ原	K5-3	自然石	和田舞石安山岩	42	35	25	45.5	褐色帶	褐色帶	45,309,648	63,634,182	130.970			
上泉ノ原	K5-4	自然石	和田舞石安山岩	82	37	21	44.0	黒円彫	褐色帶	45,308,762	63,634,122	131.037			
上泉ノ原	K5-5	自然石	和田舞石安山岩	54	38	28	28.7	黒円彫	褐色帶	45,309,836	63,635,076	131.051			
上泉ノ原	K5-6	自然石	和田舞石安山岩	45	38	16	60.0	円彫	褐色帶	45,309,349	63,634,954	131.074			
上泉ノ原	K5-7	自然石	和田舞石安山岩	50	50	22	80.4	褐色帶	褐色帶	45,309,006	63,634,833	130.903			
上泉ノ原	K5-8	自然石	和田舞石安山岩	41	36	25	48.0	円彫	褐色帶	45,309,925	63,635,659	130.924			
上泉ノ原	K5-9	自然石	和田舞石安山岩	85	47	41	20.2	黒円彫	褐色帶	45,309,636	63,635,711	130.933			
上泉ノ原	K5-10	自然石	和田舞石安山岩	63	40	31	59.3	円彫	褐色帶	45,309,444	63,635,874	130.891			
上泉ノ原	K5-11	自然石	和田舞石安山岩	72	57	32	148.5	円彫	褐色帶	45,309,429	63,635,750	130.976			
上泉ノ原	K5-12	自然石	和田舞石安山岩	25	25	17	10.8	円彫	褐色帶	45,309,449	63,635,441	130.887			
上泉ノ原	K5-13	自然石	桂圓夷質	21	15	13	4.6	褐色帶	褐色帶	45,309,341	63,635,829	130.869			
上泉ノ原	K5-14	自然石	和田舞石安山岩	71	55	27	182.3	円彫	褐色帶	45,309,162	63,635,156	130.999			
上泉ノ原	K5-15	自然石	和田舞石安山岩	52	30	24	46.4	円彫	褐色帶	45,309,009	63,635,422	130.999			
上泉ノ原	K5-16	自然石	和田舞石安山岩	57	39	15	44.6	円彫	褐色帶	45,309,023	63,635,541	130.979			
上泉ノ原	K5-17	自然石	和田舞石安山岩	67	43	36	138.5	円彫	褐色帶	45,308,675	63,635,753	131.055			
上泉ノ原	K5-18	自然石	和田舞石安山岩	28	18	14	7.2	円彫	褐色帶	45,309,009	63,635,962	130.888			
上泉ノ原	K5-19	自然石	和田舞石安山岩	66	59	34	207.6	円彫	褐色帶	45,309,108	63,634,154	130.915			
上泉ノ原	K5-20	自然石	和田舞石安山岩	40	30	21	37.5	円彫	褐色帶	45,308,746	63,635,158	131.013			
上泉ノ原	K5-21	鐵	和田舞石安山岩	102	52	35	229.0	單円彫	褐色帶	45,308,428	63,635,728	130.936			
上泉ノ原	K5-22	自然石	和田舞石安山岩	40	30	19	26.6	褐色帶	褐色帶	45,309,317	63,637,427	130.913			
上泉ノ原	K5-23	自然石	和田舞石安山岩	42	34	24	43.0	圓彫	褐色帶	45,309,824	63,636,248	130.989			
上泉ノ原	K5-24	自然石	和田舞石安山岩	52	43	28	89.5	單円彫	褐色帶	45,309,987	63,635,805	130.915			
上泉ノ原	K5-25	自然石	和田舞石安山岩	55	57	22	96.0	褐色帶	褐色帶	45,310,268	63,636,413	130.928			
上泉ノ原	K5-26	襖片		53	22	22	26.9	褐色帶	褐色帶	45,310,130	63,636,802	130.923			
上泉ノ原	K5-27	鉄	剪口	30	34	13	13.8	褐色帶	褐色帶	45,308,440	63,635,521	131.003	23	12	
上泉ノ原	K5-28	自然石	和田舞石安山岩	44	32	18	24.7	單円彫	褐色帶	45,309,050	63,635,438	130.917			
上泉ノ原	K5-29	自然石	和田舞石安山岩	49	37	21	51.9	褐色帶	褐色帶	45,310,046	63,636,396	130.841			
上泉ノ原	K6-1	襖片		22	27	4	2.6		褐色帶	45,361,800	63,629,430	134.311			
上泉ノ原	K6-2	自然石 (削作)	デザインガラス				0.7	スコロア	褐色帶	45,362,280	63,678,800	134.270			
上泉ノ原	K6-3	自然石 (削作)	デザインガラス	16	10	7	1.1	スコロア	褐色帶	45,362,830	63,679,430	134.321			
上泉ノ原	K6-4	自然石 (削作)	デザインガラス	5	4	2	0.3	スコロア	褐色帶	45,360,480	63,680,130	134.490			
上泉ノ原	K6-5	自然石 (削作)	デザインガラス	6	4	2	0.3	スコロア	褐色帶	45,360,600	63,680,410	134.460			
上泉ノ原	K6-6	自然石 (削作)	デザインガラス	7	6	4	0.2	スコロア	褐色帶	45,360,725	63,680,560	134.515			
上泉ノ原	K6-7	自然石 (削作)	和田舞石安山岩	3	2	1	2.8	スコロア	褐色帶	45,360,620	63,681,400	134.513			
上泉ノ原	K6-8	自然石 (削作)	デザインガラス	5	4	3	0.1	スコロア	褐色帶	45,361,140	63,681,940	134.554			
上泉ノ原	K6-9	鉄	黑豆煎斗	12	11	3	0.4		褐色帶	45,361,370	63,681,930	134.549			
上泉ノ原	K6-10	自然石 (削作)	和田舞石安山岩	8	4	3	0.1		褐色帶	45,361,960	63,680,100	134.404			
上泉ノ原	K6-11	自然石 (削作)	和田舞石安山岩	9	8	3	0.2		褐色帶	45,362,810	63,680,540	134.513			
上泉ノ原	K6-12	自然石 (削作)	和田舞石安山岩	10	5	4	0.2		褐色帶	45,362,890	63,681,260	134.530			
上泉ノ原	K6-13	自然石 (削作)	和田舞石安山岩	7	6	3	0.1		褐色帶	45,363,300	63,680,460	134.471			
上泉ノ原	K7-1	自然石 (削作)	和田舞石安山岩	12	11	4	0.5	ks-økl	褐色帶	45,325,100	63,678,750	133.262			
上泉ノ原	K7-2	自然石	舞闘夷灰岩	12	8	3	0.3	ks-økl	褐色帶	45,325,580	63,677,690	133.260			
上泉ノ原	K7-3	自然石	和田舞石安山岩	9	8	5	0.3	ks-økl	褐色帶	1	なし	なし	なし		
上泉ノ原	K7-4	自然石	和田舞石安山岩	12	9	2	0.1	ks-økl	褐色帶	1	なし	なし	なし		
上泉ノ原	K7-5	自然石	和田舞石安山岩	9	6	3	0.3	ks-økl	褐色帶	1	なし	なし	なし		
上泉ノ原	K7-6	自然石	安山岩	14	13	5	1.0	ks-økl	褐色帶	1	45,328,740	63,680,050	133.377		
上泉ノ原	K7-7	動片	黒豆煎斗	9	2	2	0.1	ks-økl	褐色帶	1	45,328,710	63,680,630	133.494		
上泉ノ原	K7-8	自然石	和田舞石安山岩	12	8	5	0.3	ks-økl	褐色帶	1	なし	なし	なし		
上泉ノ原	K7-9	自然石	和田舞石安山岩	21	16	7	2.2	ks-økl	褐色帶	1	なし	なし	なし		
上泉ノ原	K7-10	自然石 (削作)	デザインガラス	11	10	5	0.5	スコロア	褐色帶	1	なし	なし	なし		
上泉ノ原	K7-11	自然石 (削作)	デザインガラス	11	9	7	0.6	スコロア	褐色帶	1	なし	なし	なし		
上泉ノ原	K7-12	自然石	和田舞石安山岩	15	11	4	0.5	ks-økl	褐色帶	1	なし	なし	なし		
上泉ノ原	K7-13	自然石	和田舞石安山岩	20	12	5	1.3	ks-økl	褐色帶	1	なし	なし	なし		
上泉ノ原	K7-14	自然石	和田舞石安山岩	12	10	2	0.3	ks-økl	褐色帶	1	なし	なし	なし		
上泉ノ原	K7-15	自然石	和田舞石安山岩	9	7	4	0.3	ks-økl	褐色帶	1	なし	なし	なし		
上泉ノ原	K7-16	自然石	和田舞石安山岩	9	7	4	0.3	ks-økl	褐色帶	不明	45,331,050	63,675,130	132,485	71	
上泉ノ原	K7-17	自然石	碧螺英岩	24	11	5	1.4	不明	褐色帶	45,330,990	63,675,700	132,045	71		
上泉ノ原	K7-18	自然石	碧螺英岩	24	11	5	1.4	不明	褐色帶	45,330,700	63,675,700	132,045	71		
上泉ノ原	K7-19	自然石	碧螺英岩	103	62	40	225.0	不明	褐色帶	45,331,780	63,676,800	133,313	11	7	
上泉ノ原	K7-20	自然石	碧螺英岩	64	45	21	56.3	不明	褐色帶	45,331,780	63,676,800	133,313	11	7	
上泉ノ原	K7-21	自然石	碧螺英岩	40	25	13	15.9	薄片試料	褐色帶	45,331,780	63,676,800	133,313	11	7	
上泉ノ原	K7-22	自然石	碧螺英岩	21	18	13	6.5	不明	褐色帶	45,331,780	63,676,800	133,313	11	7	
上泉ノ原	K7-23	自然石	碧螺英岩	9	9	2	0.3	不明	褐色帶	45,331,780	63,676,800	133,313	11	7	
上泉ノ原	K7-24	自然石	碧螺英岩	38	32	27	38.8	不明	褐色帶	45,331,780	63,676,800	133,313	11	7	
上泉ノ原	K7-25	自然石	碧螺英岩	35	25	9	15.4	薄片試料	褐色帶	45,331,780	63,676,800	133,313	11	7	
上泉ノ原	K7-26	自然石	碧螺英岩	24	11	9	6.4	不明	褐色帶	45,331,780	63,676,800	133,313	11	7	
上泉ノ原	K7-27	自然石	碧螺英岩	36	17	9	6.4	不明	褐色帶	45,331,780	63,676,800	133,313	11	7	
上泉ノ原	K7-28	自然石	碧螺英岩	43	35	15	34.6	不明	褐色帶	45,331,780	63,676,800	133,313	11	7	
上泉ノ原	K7-29	自然石	碧螺英岩	29	34	21	33.5	不明	褐色帶	45,331,780	63,676,800	133,313	11	7	
上泉ノ原	K7-30	自然石	碧螺英岩	24	18	10	6.1	不明	褐色帶	45,331,780	63,676,800	133,313	11	7	
上泉ノ原	K7-31	自然石	桂圓夷質	24	20	6	3.7	不明	褐色帶	45,331,780	63,676,800	133,313	11	7	
上泉ノ原	K7-32	自然石	桂圓夷質	36	26	11	13.4	不明	褐色帶	45,331,780	63,676,800	133,313	11	7	
上泉ノ原	K7-33	自然石	桂圓夷質	20	22	10	4.2	不明	褐色帶	45,331,780	63,676,800	133,313	11	7	
上泉ノ原	K7-34	自然石	桂圓夷質	28	28	18	11.3	不明	褐色帶	45,331,780	63,676,800	133,313	11	7	
上泉ノ原	K7-35	自然石	桂圓夷質	28	22	11	7.3	不明	褐色帶	45,331,780	63,676,800	133,313	11	7	
上泉ノ原	K7-36	自然石	桂圓夷質	20	15	14	6.0	不明	褐色帶	45,331,780	63,676,800	133,313	11	7	
上泉ノ原	K7-37	自然石	黑豆煎斗	20	20	7	4.5	不明	褐色帶	45,331,780	63,676,800	133,313	11	7	
上泉ノ原	K7-38	自然石	和田舞石安山岩	25	21	16	9.7	不明	褐色帶	45,331,780	63,676,800	133,313	11	7	
上泉ノ原	K7-39	自然石	和田舞石安山岩	26	23	8	6.2	不明	褐色帶	45,331,780	63,676,800	133,313	11	7	
上泉ノ原	K7-40	自然石	和田舞石安山岩	20	18	12	4.5	不明	褐色帶	45,331,780	63,676,800	133,313	11	7	

遺物一覧表

遺跡/層	番号	器種名	石材名	段さ	幅	厚さ	重量	備考	耐位	文化期	X沖標	Y沖標	Z沖標	回	P.L.
上皇庭/層	SFC-22	自然石	珪質灰岩	20	18	9	5.8	不明	なし	なし	なし	なし	なし		
上皇庭/層	SFC-23	自然石	粗粒輝石安山岩	21	14	9	2.8	不明	なし	なし	なし	なし	なし		
上皇庭/層	SFC-24	自然石	粗粒輝石安山岩	29	19	17	10.6	不明	なし	なし	なし	なし	なし		
上皇庭/層	SFC-25	自然石	粗粒輝石質岩	35	30	29	43.1	不明	なし	なし	なし	なし	なし		
上皇庭/層	SFC-26	自然石	珪質灰岩	25	22	12	7.1	不明	なし	なし	なし	なし	なし		
上皇庭/層	SFC-27	自然石	粗粒輝石安山岩	32	36	16	20.1	不明	なし	なし	なし	なし	なし		
上皇庭/層	SFC-28	自然石	粗粒輝石安山岩	47	32	13	15.8	不明	なし	なし	なし	なし	なし		
上皇庭/層	SFC-29	自然石	粗粒輝石質岩	25	16	17	10.2	不明	なし	なし	なし	なし	なし		
上皇庭/層	SFC-30	自然石	粗粒輝石安山岩	36	33	22	21.0	不明	なし	なし	なし	なし	なし		
上皇庭/層	SFC-31	自然石	珪質灰岩	39	34	11	22.0	不明	なし	なし	なし	なし	なし		
上皇庭/層	SFC-32	神石	黑色安山岩	15	24	5	1.8	不明	なし	なし	なし	なし	なし		
上皇庭/層	SFC-33	自然石	珪質灰岩	37	20	12	12.7	不明	なし	なし	なし	なし	なし		
上皇庭/層	SFC-34	自然石	珪質灰岩	20	16	15	4.9	不明	なし	なし	なし	なし	なし		
上皇庭/層	SFC-35	自然石	粗粒輝石安山岩	37	48	25	101.0	不明	なし	なし	なし	なし	なし		
上皇庭/層	SFC-36	礫石	粗粒輝石安山岩	72	55	42	234.4	5740-1c	不明	なし	なし	なし	なし	17	10
上皇庭/層	SFC-37	表-1	自然石	粗粒輝石安山岩	52	33	30	57.0	褐色帶表	不明	なし	なし	なし		
上皇新田層	K-1	石片	黑曜岩	49	25	7	5.7	?	?	45.812,190	63,308,630	136,634	33	14	
上皇新田層	K-2	石片	黑曜岩	35	27	4	4.1	?	?	45.814,460	63,308,630	139,390			
上皇新田層	K-2a	自然石(片持)	デサイタガラス	4	3	2	0.1	Noとは別	なし	なし	なし	なし			
上皇新田層	K-2b	自然石(片持)	デサイタガラス	7	5	2	0.1	21で取り上げ	なし	なし	なし	なし			
上皇新田層	K-2c	自然石(片持)	デサイタガラス	8	7	3	0.2	31で取り上げ	なし	なし	なし	なし			
上皇新田層	K-3	欠番													
上皇新田層	K-3-2	鉗子	黒色頁岩	15	29	4	1.7	ks-ek1	2	45,771,030	63,790,920	136,902			
上皇新田層	K-3-3	鉗子	黒色頁岩	25	13	3	0.9	ks-ek1	2	45,771,830	63,790,030	138,710			
上皇新田層	K-3-4	鉗子	黒色頁岩	57	40	12	18.3	ks-ek1	2	45,771,730	63,790,200	136,650	36	14	
上皇新田層	K-3-5	鉗子	黒色頁岩	39	24	7	5.0	ks-ek1	2	45,771,660	63,790,150	138,559	36	14	
上皇新田層	K-3-6	使用痕ある鉗子	黒色頁岩	48	26	7	8.8	ks-ek1	2	45,773,130	63,790,260	136,917	36	14	
上皇新田層	K-3-7	鉗子	黒色頁岩	27	26	2	4.7	ks-ek1	2	45,773,640	63,790,610	136,750			
上皇新田層	K-3-8	鉗子	黒色頁岩	25	40	5	9.3	ks-ek1	2	45,773,430	63,790,700	136,513			
上皇新田層	K-3-9	鉗子	黒色頁岩	80	55	17	51.8	ks-ek1	2	45,774,420	63,790,390	136,889	36	14	
上皇新田層	K-3-10	鉗子	黒色頁岩	21	15	4	1.6	ks-ek1	2	45,771,910	63,791,190	136,816			
上皇新田層	K-3-11	鉗子	チャート	29	15	7	2.8	ks-ek1	2	45,772,490	63,791,300	136,741	36	14	
上皇新田層	K-3-12	砂片	黒色頁岩	30	10	2	0.2	ks-ek1	2	45,772,620	63,791,400	136,785			
上皇新田層	K-3-13	鉗子	黒色頁岩	12	23	7	2.0	ks-ek1	2	45,773,280	63,791,560	136,815			
上皇新田層	K-3-14	鉗子	黒色頁岩	15	15	2	0.6	ks-ek1	2	45,773,920	63,791,380	136,832			
上皇新田層	K-3-15	鉗子	黒色頁岩	25	20	8	2.7	ks-ek1	2	45,773,920	63,791,550	136,827			
上皇新田層	K-3-16	鉗子	黒色頁岩	46	33	10	13.1	飼料瓶あり	ks-ek1	2	45,774,700	63,791,580	136,925	36	14
上皇新田層	K-3-17	加工工具ある鉗子	チャート	19	14	4	0.9	ks-ek1	2	45,774,340	63,791,800	136,867	36	14	
上皇新田層	K-3-18	使用痕ある鉗子	黒色頁岩	59	42	10	19.4	ks-ek1	2	45,774,570	63,791,550	136,850	36	14	
上皇新田層	K-3-19	鉗子	チャート	19	16	4	1.3	櫛形刃部?	ks-ek1	2	45,774,980	63,791,960	136,846		
上皇新田層	K-3-20	砂片	黒色安山岩	11	7	1	0.1	ks-ek1	2	45,776,280	63,796,550	138,852			
上皇新田層	K-3-21	欠番													
上皇新田層	K-3-22	砂片	黒色安山岩	8	7	2	0.1	ks-ek1	2	45,777,500	63,797,700	138,512			
上皇新田層	K-3-23	欠番													
上皇新田層	K-3-24	欠番													
上皇新田層	K-3-25	砂片	黒色頁岩	9	25	2	0.5	ks-ek1	2	45,782,040	63,797,590	139,075			
上皇新田層	K-3-26	加工工具ある鉗子	黒色頁岩	23	47	9	10.8	ks-ek1	2	45,781,830	63,797,200	138,704	36	14	
上皇新田層	K-3-27	砂片	黒色頁岩	33	18	4	2.2	ks-ek1	2	45,781,790	63,796,390	138,858			
上皇新田層	K-3-28	砂片	黒色頁岩	29	41	9	9.0	ks-ek1	2	45,780,950	63,795,390	136,874	36	14	
上皇新田層	K-3-29	砂片	黒色頁岩	40	43	8	10.8	ks-ek1	2	45,782,290	63,795,980	136,761	36	14	
上皇新田層	K-3-30	砂片	黒色頁岩	44	56	6	9.1	火はね?	ks-ek1	2	45,782,140	63,800,690	136,637		
上皇新田層	K-3-31	大穴													
上皇新田層	K-3-32	石片	黒色頁岩	60	35	10	20.0	ks-ek1	2	45,780,680	63,790,190	136,500	36	14	
上皇新田層	K-3-33	鉗子	黒色頁岩	19	30	5	2.1	ks-ek1	2	45,774,620	63,791,590	136,580			
上皇新田層	K-3-34	鉗子	黒色頁岩	14	19	6	1.2	ks-ek1	2	45,772,620	63,791,450	136,691			
上皇新田層	K-3-35	鉗子	チャート	30	37	9	9.0	鉛色帯	3	45,770,340	63,791,790	136,027	45	16	
上皇新田層	K-3-36	鉗子	珪質灰岩	51	25	7	7.3	鉛色帯	3	45,772,600	63,790,560	136,054	45	16	
上皇新田層	K-3-37	鉗子	チャート	22	15	6	1.9	鉛色帯	3	45,772,440	63,792,510	136,073	45	16	
上皇新田層	K-3-38	鉗子	チャート	31	25	7	5.9	鉛色帯	3	45,773,380	63,791,180	136,218	40	14	
上皇新田層	K-3-39	鉗子	チャート	31	32	12	9.3	鉛色帯	3	45,774,030	63,791,690	136,149	41	15	
上皇新田層	K-3-40	砂片	チャート	7	6	1	0.1	鉛色帯	3	45,775,830	63,796,980	137,997			
上皇新田層	K-3-41	鉗子	チャート	6	6	1	0.3	鉛色帯	3	45,775,280	63,800,220	138,078			
上皇新田層	K-3-42	鉗子	チャート	23	16	7	1.8	鉛色帯	3	45,775,190	63,801,000	なし			
上皇新田層	K-3-43	砂片	チャート	7	12	3	0.3	鉛色帯	3	45,776,550	63,800,710	138,097			
上皇新田層	K-3-44	鉗子	チャート	35	12	7	2.6	鉛色帯	3	45,776,740	63,800,190	138,080	40	14	
上皇新田層	K-3-45	鉗子	チャート	27	17	9	3.7	鉛色帯	3	45,776,830	63,800,300	138,151	45	16	
上皇新田層	K-3-46	鉗子	チャート	20	10	3	0.6	鉛色帯	3	45,777,020	63,801,320	137,999			
上皇新田層	K-3-47	砂片	自然石	3	4	1	0.1	木柵	5	なし	なし	なし			
上皇新田層	K-3-48	自然石	頁岩	5	5	1	0.1	鉛色帯	3	45,777,220	63,800,860	136,128			
上皇新田層	K-3-49	砂片	チャート	11	15	2	0.2	鉛色帯	3	45,777,690	63,800,420	136,123			
上皇新田層	K-3-50	砂片	チャート	12	8	2	0.2	鉛色帯	3	45,777,460	63,799,730	138,076			
上皇新田層	K-3-51	砂片	チャート	35	14	8	3.2	鉛色帯	3	45,777,740	63,799,800	138,190			
上皇新田層	K-3-52	砂片	チャート	17	18	8	2.1	鉛色帯	3	45,778,390	63,800,370	138,058			
上皇新田層	K-3-53	砂片	自然石(岩片)	8	7	1	0.1	鉛色帯	3	45,778,820	63,799,010	138,142			
上皇新田層	K-3-54	砂片	粗粒輝石安山岩	44	39	13	22.7	鉛色帯	3	45,775,630	63,791,630	136,149			
上皇新田層	K-3-55	鉗子	チャート	22	24	6	2.6	鉛色帯	3	45,774,500	63,791,010	137,998	45	16	
上皇新田層	K-3-56	鉗子	チャート	40	19	11	7.6	鉛色帯	3	45,771,140	63,798,220	136,084	45	16	
上皇新田層	K-3-57	鉗子	チャート	37	38	11	14.0	鉛色帯	3	45,770,880	63,799,380	137,863	45	16	
上皇新田層	K-3-58	鉗子	珪質灰岩	58	53	15	47.4	自然石?	3	45,773,300	63,792,530	137,884			
上皇新田層	K-3-59	鉗子	チャート	25	29	11	5.6	鉛色帯	3	45,770,220	63,791,810	137,765	45	16	
上皇新田層	K-3-60	砂片	珪質灰岩	89	54	34	224.4	R/V?	鉛色帯	3	45,772,350	63,798,160	137,717	42	15

## 遺物一覧表

遺跡	番号	器種名	石材名	段さ	幅	厚さ	重量	備考	部位	文様類	X座標	Y座標	Z座標	回	P.L.
上皇新山塚	K3-2-27	自然石(片持)	桂木灰質岩	33	28	21	16.8		褐色帶	3	45,772,370	63,798,320	137,656		
上皇新山塚	K3-2-28	削片	チャート	25	13	5	1.6		褐色帶	3	45,774,710	63,801,560	137,932		
上皇新山塚	K3-2-29	加工麻原ある削片	チャート	15	9	5	0.6		褐色帶	3	45,776,220	63,800,680	137,935	40	14
上皇新山塚	K3-2-30	削片	黒色頁岩	10	22	4	0.6		褐色帶	3	45,778,260	63,802,920	138,386		
上皇新山塚	K3-2-31	削片	黒色頁岩	10	8	1	0.1		褐色帶	3	45,778,940	63,801,540	138,016		
上皇新山塚	K4-1	自然石(片持)	安山岩	10	9	4	0.3		ks-ekl	2	45,814,270	63,802,620	139,734		
上皇新山塚	K4-2	削片	黒色安山岩	12	23	4	1.3		ks-ekl	2	45,827,380	63,796,270	140,000		
上皇新山塚	K4-3	自然石	黒色岩	34	16	4	2.5		hs-ekl	2	45,827,840	63,795,800	140,082		71
上皇新山塚	K4-4	削片	黒色頁岩	18	26	3	1.6		hs-ekl	2	45,829,250	63,794,370	140,144		
上皇新山塚	K4-5	削片	黒色頁岩	19	10	1	0.1		hs-ekl	2	45,829,710	63,794,430	140,050		
上皇新山塚	K4-6	削片	黒色頁岩	16	18	2	0.9		hs-ekl	2	45,829,920	63,796,830	139,920		
上皇新山塚	K4-7	大矢													
上皇新山塚	K4-8	削片	黒色頁岩	16	16	3	0.8		ks-ekl	2	45,831,810	63,793,230	139,979		
上皇新山塚	K4-9	削片	チャート	21	10	1	1.0		ks-ekl	2	45,836,840	63,790,360	139,975		
上皇新山塚	K4-10	削片	黒色頁岩	29	13	6	2.4	横文石留?	ks-ekl	2	45,836,690	63,791,310	139,980		
上皇新山塚	K4-11	削片	チャート	13	28	9	3.0		ks-ekl	2	45,837,040	63,791,980	139,965		
上皇新山塚	K4-12	削片	黒色頁岩	17	15	5	1.2		ks-ekl	2	45,838,670	63,793,190	139,904		
上皇新山塚	K4-13	自然石(片持)	ディザイナタグラス	6	4	2	0.1			なし	なし	なし			
上皇新山塚	K4-14	自然石(片持)	安山岩	11	1	3	0.3		ks-ekl	2	45,841,030	63,792,010	140,247		
上皇新山塚	K4-15	削片	黒色頁岩	13	16	2	0.4		ks-ekl	2	45,846,870	63,791,900	140,313		
上皇新山塚	K4-16	削片	黒色安山岩	23	28	4	3.0		ks-ekl	2	45,850,080	63,791,820	140,142		
上皇新山塚	K4-17	削片	黒色安山岩	24	20	7	2.7		褐色帶	3	45,828,630	63,790,450	138,994		
上皇新山塚	K4-18	削片	黒色安山岩	21	21	4	1.4		褐色帶	3	45,828,630	63,790,450	138,994		
上皇新山塚	K4-19	削片	粗粒輝石安山岩	47	30	20	3.8		褐色帶	3	45,830,540	63,795,090	139,068		
上皇新山塚	K4-20	削片	黒色頁岩	29	16	8	3.5		褐色帶	3	45,837,980	63,792,700	139,322		
上皇新山塚	K4-21	削片	ホルンフェルス	67	60	33	150.6		褐色帶	3	45,837,630	63,791,060	139,136		
上皇新山塚	K4-22	削片	黒色頁岩	62	30	12	23.0		褐色帶	3	45,838,430	63,791,250	139,048	40	15
上皇新山塚	K4-23	削片	黒色頁岩	40	25	7	7.6		褐色帶	3	45,837,720	63,791,450	139,301		
上皇新山塚	K4-24	削片	黒色頁岩	39	39	17	20.3		褐色帶	3	45,838,740	63,790,720	139,364	41 + 43	15 + 16
上皇新山塚	K4-25	削片	黒色頁岩	13	15	3	0.8		褐色帶	3	45,842,740	63,790,990	139,225	44	16
上皇新山塚	K4-26	削片	黒色頁岩	49	54	12	24.9		褐色帶	3	45,844,390	63,793,250	139,284	44	16
上皇新山塚	K4-27	削片	黒色岩	28	12	7	2.7		褐色帶	3	45,841,360	63,791,210	139,723	71	
上皇新山塚	K4-28	削片	黒色頁岩	50	42	9	32.5		褐色帶	3	45,847,340	63,801,260	139,416	40	19
上皇新山塚	K4-29	削片	黒色安山岩	41	45	25	39.3		褐色帶	3	45,847,300	63,801,120	139,267	41 + 43	15 + 16
上皇新山塚	K4-30	削片	黒色安山岩	18	13	8	1.3		褐色帶	3	45,847,080	63,800,470	139,322	43	16
上皇新山塚	K4-31	削片	黒色安山岩	17	15	3	1.1		褐色帶	3	45,847,520	63,800,530	139,390	43	16
上皇新山塚	K4-32	削片	黒色頁岩	51	43	13	36.9		褐色帶	3	45,847,700	63,801,060	139,309	40	15
上皇新山塚	K4-33	削片	黒色安山岩	43	37	23	31.2		褐色帶	3	45,847,880	63,801,590	139,283	41 + 43	15 + 16
上皇新山塚	K4-34	削片	黒色頁岩	75	84	26	186.0	横彫刻面	褐色帶	3	45,848,140	63,800,820	139,305	44	16
上皇新山塚	K4-35	削片	黒色安山岩	12	14	5	0.6		褐色帶	3	45,848,500	63,800,520	139,478	43	16
上皇新山塚	K4-36	削片	黒色頁岩	50	62	17	39.8	横彫刻面	褐色帶	3	45,848,770	63,800,510	139,400	44	16
上皇新山塚	K4-37	削片	黒色頁岩	31	25	11	7.8	横彫刻面?	褐色帶	3	45,851,200	63,796,510	139,500	43	16
上皇新山塚	K4-38	削片	黒色安山岩	4	2	1	0.1		褐色帶	3	45,851,390	63,796,130	139,561		
上皇新山塚	K4-39	削片	黒色安山岩	37	27	14	11.2		褐色帶	3	45,851,500	63,796,890	139,414	43	16
上皇新山塚	K4-40	削片	黒色安山岩	44	29	14	15.9		褐色帶	3	45,851,430	63,790,180	139,761	43	16
上皇新山塚	K4-41	削片	黒色安山岩	14	16	4	6.7		褐色帶	3	45,851,500	63,795,590	139,455	43	16
上皇新山塚	K4-42	削片	黒色頁岩	32	20	10	4.2		褐色帶	3	45,851,990	63,796,130	139,673	43	16
上皇新山塚	K4-43	削片	黒色頁岩	21	25	6	2.9		褐色帶	3	45,852,080	63,795,840	139,584		
上皇新山塚	K4-44	削片	黒色安山岩	54	38	17	36.2		褐色帶	3	45,852,200	63,796,130	139,539	43	16
上皇新山塚	K4-45	削片	黒色頁岩	35	49	15	40.5		褐色帶	3	45,852,210	63,796,190	139,425	40	14
上皇新山塚	K4-46	削片	黒色頁岩	23	29	12	2.7		褐色帶	3	45,852,450	63,796,220	139,387		
上皇新山塚	K4-47	削片	黒色安山岩	18	21	10	2.7		褐色帶	3	45,852,710	63,796,220	139,642	43	16
上皇新山塚	K4-48	削片	黒色頁岩	20	20	7	4.4		褐色帶	3	45,853,000	63,796,150	139,527		
上皇新山塚	K4-49	削片	黒色安山岩	35	46	16	30.4		褐色帶	3	45,852,440	63,796,130	139,576	41 + 43	15 + 16
上皇新山塚	K4-50	削片	自然石(片持)	5	5	2	0.1			なし	なし	なし			
上皇新山塚	K4-51	削片	粗粒輝石安山岩	16	10	2	0.3		褐色帶	3	45,851,970	63,796,580	139,458		
上皇新山塚	K4-52	削片	黒色頁岩	35	75	26	58.1		褐色帶	3	45,851,840	63,796,780	139,458	41	15
上皇新山塚	K4-53	削片	黒色安山岩	33	40	11	12.3		褐色帶	3	45,851,860	63,792,220	139,712	43	16
上皇新山塚	K4-54	削片	黒色安山岩	37	31	11	13.3		褐色帶	3	45,851,980	63,797,440	139,584	43	16
上皇新山塚	K4-55	削片	黒色安山岩	20	19	8	2.2		褐色帶	3	45,852,080	63,798,130	139,711	43	16
上皇新山塚	K4-56	削片	黒色頁岩	23	13	7	2.0		褐色帶	3	45,852,060	63,798,370	139,644		
上皇新山塚	K4-57	削片	黒色安山岩	7	6	2	0.1		褐色帶	3	45,852,380	63,792,220	139,562		
上皇新山塚	K4-58	削片	黒色頁岩	36	36	25	27.6		褐色帶	3	45,853,060	63,797,400	139,590	41 + 43	15 + 16
上皇新山塚	K4-59	削片	黒色安山岩	34	17	10	7.5		褐色帶	3	45,854,000	63,796,760	139,315	41 + 43	15 + 16
上皇新山塚	K4-60	削片	黒色安山岩	21	19	7	2.9		褐色帶	3	45,853,490	63,796,000	139,459	43	16
上皇新山塚	K4-61	削片	黒色頁岩	31	12	9	3.9		褐色帶	3	45,854,140	63,798,740	139,198	71	
上皇新山塚	K4-62	削片	黒色安山岩	27	41	13	10.8		褐色帶	3	45,853,810	63,799,130	139,684	43	16
上皇新山塚	K4-63	削片	黒色頁岩	45	35	23	31.9		褐色帶	3	45,854,180	63,799,490	139,147	71	
上皇新山塚	K4-64	削片	黒色安山岩	58	36	18	27.6		褐色帶	3	45,854,600	63,796,360	139,637	44	16
上皇新山塚	K4-65	削片	黒色頁岩	63	34	10	13.4		褐色帶	3	45,856,390	63,795,360	139,658	40	15
上皇新山塚	K4-66	削片	黒色頁岩	58	14	6	4.0		褐色帶	3	45,857,940	63,795,180	139,743	40	14
上皇新山塚	K4-67	削片	黒色頁岩	35	38	11	12.1		褐色帶	3	45,858,260	63,795,420	139,714	44	16
上皇新山塚	K4-68	削片	黒色頁岩	47	58	14	40.3		褐色帶	3	45,858,630	63,795,390	139,708	44	16
上皇新山塚	K4-69	削片	黒色頁岩	63	18	12	17.4		褐色帶	3	45,858,980	63,795,790	139,660	40	14
上皇新山塚	K4-70	削片	黒色頁岩	14	15	9	1.6		褐色帶	3	45,859,520	63,795,270	139,582		

遺物一覧表

遺跡	番号	部種名	石材名	段さ	幅	厚さ	重量	備考	耐候	文化層	X座標	Y座標	Z座標	回	P.L.	
上島新田塚	E-2-60	鉄片	黒色頁岩	22	21	9	3.7		耐候帶	3	45,858,180	63,794,750	139,807			
上島新田塚	E-2-61	鉄片	黒色頁岩	25	38	8	9.1		耐候帶	3	45,867,570	63,794,760	139,775	44	16	
上島新田塚	E-2-62	自然石	珪質灰岩質	18	15	7	26.5									
上島新田塚	E-2-63	鉄片	和田輝石安山岩	295	215	110	75.0	大型天然石								
上島新田塚	E-2-64	自然石	雲母英安岩質	47	22	9	14.1		耐候帶	3	45,862,920	63,793,430	139,674		71	
上島新田塚	E-2-65	鉄片	黒色頁岩	36	47	12	19.8		耐候帶	3	なし	なし	なし			
上島新田塚	E-3	自然石 (浮游)	ダイサイトガラス	10	8	5	0.4									
上島新田塚	7961	鉄片	珪質灰岩質	26	29	5	5.0									
上島新田塚	7962	鉄片	珪質灰岩質	7	6	1	0.1									
上島新田塚	1号遺-1	自然石 (浮游)	チタサイトガラス	30	15	5	1.8	1号遺闕土	Ⅲ弱	1	なし	なし	なし	33	14	
上島武田	1	縫合	和田輝石安山岩	156	100	82	1400.0		Ⅲ～Ⅳ弱	3	45,087,496	63,940,528	144,330			
上島武田	12	縫合	和田輝石安山岩	123	106	87	1400.0	赤化		3	45,087,601	63,940,456	144,339			
上島武田	13	縫合	和田輝石安山岩	181	130	81	1960.0	赤化		3	45,087,686	63,940,563	144,276			
上島武田	14	縫合	和田輝石安山岩	134	85	56	800.0	扁平半角彎		3	45,087,778	63,940,400	144,354			
上島武田	15	縫合	和田輝石安山岩	211	138	101	3060.0	兩面		3	45,087,959	63,940,272	144,340			
上島武田	16	欠片														
上島武田	17	縫合	黒色頁岩	26	20	7	4.2			3	46,111,914	63,953,603	145,480			
上島武田	18	鉄片	黒色安山岩	31	34	10	12.0			3	46,115,090	63,951,816	145,576			
上島武田	19	縫合	黒色安山岩	25	29	9	5.9			3	46,110,887	63,955,907	145,174			
上島武田	10	鉄片	黒色頁岩	21	22	3	1.4			3	46,082,953	63,947,166	144,079	79	29	
上島武田	11	縫合	黒色安山岩	15	41	7	4.5			3	46,111,789	63,953,455	145,302			
上島武田	12	縫合	和田輝石安山岩	-	-	-	1000.0	複数に分布		3	46,088,029	63,940,244	145,305			
上島武田	13	縫合	チタサイト	18	22	7	1.8			3	46,100,630	63,939,809	145,523			
上島武田	14	縫合	和田輝石安山岩	10	7	3	0.2			2	46,120,622	63,963,806	145,966			
上島武田	15	自然石	和田輝石安山岩	6	6	3	0.1			2	46,120,730	63,964,676	145,994			
上島武田	16	縫合	黒色安山岩	15	11	3	0.5			2	46,120,988	63,964,472	145,915			
上島武田	17	鉄片	黒色頁岩	9	7	1	0.1			2	46,120,144	63,961,832	145,954			
上島武田	18	縫合	黒色安山岩	21	19	4	1.9			2	46,120,165	63,965,680	145,752			
上島武田	19	鉄片	黒色頁岩	25	22	4	1.8			2	46,120,650	63,966,296	146,059			
上島武田	20	縫合	黒色安山岩	43	39	6	15.2			2	46,121,254	63,966,285	146,055	37	20	
上島武田	21	縫合	黒色頁岩	71	48	14	49.2			2	46,120,411	63,961,156	145,894			
上島武田	22	自然石 (浮游)	安山岩	9	6	2	0.1			2	46,122,194	63,965,512	145,973			
上島武田	23	神片	黒色安山岩	9	6	3	0.3			2	46,120,411	63,968,156	145,900			
上島武田	24	縫合	黒色安山岩	21	33	7	5.6			2	46,118,619	63,966,992	145,660			
上島武田	25	縫合	黒色安山岩	26	13	5	1.7			2	46,119,592	63,965,847	146,020			
上島武田	26	縫合	黒色頁岩	16	10	6	0.6			2	46,119,247	63,964,593	145,920			
上島武田	27	右肩	黒色頁岩	16	7	1	0.2	小形右肩		2	46,119,116	63,964,295	145,930	37	20	
上島武田	28	自然石 (浮游)	安山岩	10	8	5	0.5			2	46,118,802	63,964,227	145,940			
上島武田	29	縫合	黒色安山岩	25	25	6	3.6			2	46,117,872	63,964,603	145,940			
上島武田	30	縫合	黒色安山岩	14	9	5	0.6			2	46,118,834	63,962,742	145,890			
上島武田	31	縫合	黒色安山岩	7	5	3	0.1			2	46,118,431	63,962,596	146,000			
上島武田	32	自然石 (浮游)	安山岩	9	6	2	0.1			2	46,118,107	63,962,952	145,990			
上島武田	33	縫合	黒色安山岩	17	15	3	0.7			2	46,117,574	63,963,145	146,010			
上島武田	34	自然石 (浮游)	安山岩	9	6	3	0.3			2	46,117,559	63,961,478	145,950			
上島武田	35	自然石 (浮游)	安山岩	12	10	2	0.3			2	46,116,747	63,961,132	146,000			
上島武田	36	縫合	黒色安山岩	11	9	2	0.2			3	46,115,833	63,966,747	145,730			
上島武田	37	自然石 (浮游)	安山岩	8	7	3	0.1			2	46,116,881	63,957,114	145,910			
上島武田	38	縫合	黒色安山岩	30	43	7	8.7			2	46,114,463	63,964,630	145,800			
上島武田	39	自然石 (浮游)	安山岩	14	12	5	1.2			2	46,113,760	63,967,715	145,750			
上島武田	40	縫合	黒色安山岩	21	34	10	5.4			2	46,120,988	63,965,898	145,430			
上島武田	41	縫合	黒色安山岩	21	10	4	6.9			2	46,115,847	63,972,230	145,725	58	20	
上島武田	42	縫合	黒色安山岩	14	13	3	6.6			2	46,116,456	63,972,273	145,800			
上島武田	43	神片	黒色安山岩	7	10	2	0.2			2	46,117,537	63,972,196	145,630			
上島武田	44	縫合	黒色安山岩	9	10	1	0.2			2	46,117,836	63,972,392	145,708			
上島武田	45	縫合	黒色安山岩	23	13	2	0.9			2	46,118,078	63,972,915	145,710	58	20	
上島武田	46	右肩	チタサイト	42	23	8	8.6			2	46,118,152	63,974,644	145,664	57	20	
上島武田	47	自然石 (浮游)	安山岩	9	8	2	0.2			2	46,118,643	63,974,939	145,537			
上島武田	48	縫合	滑石凝灰岩	175	157	96	350.0	褐色付着物			2	46,119,508	63,974,611	145,650		
上島武田	49	右肩	黒色頁岩	41	17	5	2.5	黒斑剥離		2	46,119,648	63,973,874	145,957	57	20	
上島武田	50	自然石	安山岩	9	5	2	0.1			2	46,120,084	63,974,090	145,633			
上島武田	51	縫合	黒色頁岩	15	8	2	0.3			2	46,119,053	63,973,297	145,619			
上島武田	52	縫合	黒色安山岩	7	6	1	0.1			2	46,118,367	63,973,000	145,563			
上島武田	53	縫合	黒色安山岩	16	15	1	0.4			2	46,118,852	63,972,215	145,613			
上島武田	54	右肩	黒色安山岩	30	18	2	1.8			2	46,119,592	63,972,644	145,591	57	20	
上島武田	55	縫合	黒色安山岩	49	28	8	9.4			2	46,119,596	63,972,967	145,721	58	20	
上島武田	56	縫合	和田輝石安山岩	151	125	41	750.0			2	46,119,675	63,972,940	145,709			
上島武田	57	縫合	和田輝石安山岩	77	57	34	120.0			2	46,119,804	63,973,142	145,718			
上島武田	58	縫合	和田輝石安山岩	81	54	27	100.7			2	46,119,895	63,973,175	145,682			
上島武田	59	自然石	輝石凝灰岩	9	5	4	0.3			2	46,120,151	63,973,355	145,791			
上島武田	60	右肩	黒色頁岩	29	27	7	9.6			2	46,120,322	63,972,475	145,832	57	20	
上島武田	61	右肩	黒色頁岩	98	73	45	520.0			2	46,120,793	63,972,159	145,761	57	20	
上島武田	62	右肩	黒色安山岩	33	30	7	6.3			2	46,121,218	63,974,513	145,999	57	20	
上島武田	63	右肩	黒色安山岩	25	19	2	1.3			2	46,119,554	63,973,150	145,598	57	20	
上島武田	64	縫合	黒色安山岩	26	25	8	6.6			2	46,109,477	63,936,602	144,197	73	27	
上島武田	65	縫合	黒色頁岩	17	22	3	1.5			2	46,109,926	63,934,362	144,010	72	26	
上島武田	66	右肩	黒色頁岩	29	28	16	12.6			3	46,109,403	63,932,729	143,832	66 + 7	23 + 28	
上島武田	67	縫合	和田輝石安山岩	49	33	8	4.4	加工痕?		3	46,109,717	63,930,696	143,436			
上島武田	68	縫合	黒色安山岩	42	23	10	9.0			3	46,109,318	63,928,672	143,157	27		
上島武田	69	縫合	黒色頁岩	33	45	7	7.9			3	46,109,490	63,929,994	143,761	26		
上島武田	70	縫合	黒色頁岩	25	13	7	2.9			3	46,109,488	63,931,918	143,760			

## 遺物一覧表

種類	番号	器種名	石材名	段さ	幅	厚さ	重量	備考	耐位	文系類	3D座標	X座標	Y座標	周	P.L.
I-9-武山II	B 9	鉗片	黒色安山岩	24	16	3	1.8	B 116(複合)	3	46,091,080	-63,933,161	143,935			
I-9-武山II	B 10	鉗片	黒色安山岩	23	7	2	0.5		3	46,091,266	-63,933,221	143,803			
I-9-武山II	B 11	矢箟													
I-9-武山II	B 12	自然石	桂葉貞石	27	18	9	4.1		3	46,091,341	-63,933,049	144,098			
I-9-武山II	B 13	鉗片	黒色安山岩	30	17	8	4.7		3	46,091,273	-63,935,672	144,068			
I-9-武山II	B 14	鉗片	黒色貞石	28	20	7	5.0		3	46,090,879	-63,936,053	144,288	75	28	
I-9-武山II	B 15	鉗片	黒色安山岩	33	20	12	6.9		3	46,091,687	-63,935,905	144,130			
I-9-武山II	B 16	鉗片	黒色安山岩	35	25	9	7.9		3	46,091,782	-63,935,533	144,074			
I-9-武山II	B 17	鉗片	黒色安山岩	34	43	8	13.4		3	46,092,065	-63,934,829	144,071	73	27	
I-9-武山II	B 18	鉗片	黒色貞石	21	42	14	14.2		3	46,092,174	-63,934,648	144,195			
I-9-武山II	B 19	鉗片	黒色安山岩	29	16	6	3.5		3	46,092,190	-63,934,234	144,153			
I-9-武山II	B 20	鉗片	黒色安山岩	42	25	11	8.5		3	46,092,713	-63,931,066	144,047	72	26	
I-9-武山II	B 21	鉗片	黒色安山岩	58	15	15	34.9		3	46,092,860	-63,931,791	144,151	72	26	
I-9-武山II	B 22	鉗片	黒色安山岩	40	31	10	13.6		3	46,092,779	-63,934,867	144,107	73	27	
I-9-武山II	B 23	鉗片	黒色貞石	45	26	11	11.1		3	46,092,086	-63,934,834	144,157	77	29	
I-9-武山II	B 24	鉗片	黒色安山岩	28	13	4	1.4		3	46,092,367	-63,934,901	144,186			
I-9-武山II	B 25	鉗片	黒色安山岩	33	14	8	4.2		3	46,092,636	-63,935,093	144,128			
I-9-武山II	B 26	鉗片	黒色安山岩	30	22	12	7.8		3	46,092,642	-63,935,415	144,258	72	26	
I-9-武山II	B 27	ナイフ形石器	黒色貞石	61	25	6	9.9		3	46,092,375	-63,935,593	144,190	62+75	20+28	
I-9-武山II	B 28	鉗片	黒色貞石	37	17	11	6.5		3	46,092,288	-63,935,936	144,304	77	29	
I-9-武山II	B 29	鉗片	黒色安山岩	47	24	10	11.3		3	46,092,441	-63,935,854	144,246	72	26	
I-9-武山II	B 30	鉗片	黒色貞石	33	23	9	5.0		3	46,092,531	-63,936,090	144,263	70	28	
I-9-武山II	B 31	鉗片	黒色貞石	20	22	5	2.6		3	46,092,683	-63,936,280	144,332			
I-9-武山II	B 32	鉗片	黒色安山岩	63	37	20	50.1		3	46,093,157	-63,936,439	144,272	73	27	
I-9-武山II	B 33	鉗片	黒色安山岩	17	10	5	0.9		3	46,093,197	-63,936,264	144,266			
I-9-武山II	B 34	石刃	黒色貞石	64	25	7	14.7		3	46,093,162	-63,935,625	144,221	65	22	
I-9-武山II	B 35	鉗片	黒色安山岩	53	34	11	24.6		3	46,093,052	-63,935,350	144,207	73	27	
I-9-武山II	B 36	鉗片	黒色安山岩	58	21	13	12.5		3	46,093,286	-63,934,972	144,251	72	26	
I-9-武山II	B 37	細石核	細石核(石刃)	98	51	29	190.6	東引櫻	3	46,093,349	-63,935,295	144,222	68	24	
I-9-武山II	B 38	石刃	黒色貞石	68	16	7	9.6		3	46,093,081	-63,935,374	144,312	63+75	21+28	
I-9-武山II	B 39	鉗片	黒色貞石	21	16	2	1.1		3	46,093,691	-63,935,253	144,119			
I-9-武山II	B 40	鉗片	黒色貞石	22	13	6	1.2		3	46,093,669	-63,936,063	144,172			
I-9-武山II	B 41	鉗片	黒色貞石	25	12	2	1.2		3	46,093,772	-63,935,990	144,335	77	29	
I-9-武山II	B 42	鉗片	黒色貞石	43	32	14	18.0		3	46,094,015	-63,936,103	144,245	77	29	
I-9-武山II	B 43	鉗片	黒色貞石	7	22	6	1.8		3	46,094,712	-63,935,871	144,397			
I-9-武山II	B 44	鉗片	黒色安山岩	18	23	4	1.6		3	46,094,961	-63,935,873	144,296			
I-9-武山II	B 45	石刃	黒色貞石	52	18	7	5.5		3	46,095,610	-63,935,721	144,348	65	22	
I-9-武山II	B 46	鉗片	黒色安山岩	12	18	5	1.1		3	46,096,212	-63,935,181	144,290			
I-9-武山II	B 47	鉗片	黒色安山岩	30	17	3	1.8		3	46,096,173	-63,935,143	144,335			
I-9-武山II	B 48	鉗片	黒色貞石	41	35	11	13.7		3	46,094,415	-63,935,399	144,266	75	28	
I-9-武山II	B 49	鉗片	黒色貞石	62	40	12	28.0		3	46,094,664	-63,935,068	144,262	75	28	
I-9-武山II	B 50	鉗片	黒色貞石	34	35	10	14.5		3	46,094,222	-63,934,890	144,263	76	28	
I-9-武山II	B 51	鉗片	黒色貞石	56	48	15	35.2		3	46,094,202	-63,934,694	144,220	76	29	
I-9-武山II	B 52	自然石	チートル	12	8	0	0.9		3	46,094,223	-63,934,587	144,178			
I-9-武山II	B 53	鉗片	黒色貞石	50	38	10	13.5		3	46,094,014	-63,934,590	144,140	76	28	
I-9-武山II	B 54	鉗片	黒色安山岩	23	14	11	4.6		3	46,094,062	-63,934,787	144,318			
I-9-武山II	B 55	鉗片	黒色貞石	47	46	7	17.1		3	46,093,809	-63,934,448	144,162	75	28	
I-9-武山II	B 56	鉗片	黒色安山岩	32	64	12	21.6		3	46,093,512	-63,934,521	144,109	72	26	
I-9-武山II	B 57	鉗片	黒色貞石	37	47	6	30.6		3	46,094,053	-63,934,090	144,113	76	28	
I-9-武山II	B 58	鉗片	黒色貞石	22	16	6	2.9		3	46,093,854	-63,933,863	144,169	75	28	
I-9-武山II	B 59	鉗片	黒色安山岩	41	38	11	13.6		3	46,094,172	-63,933,296	144,111	72	26	
I-9-武山II	B 60	鉗片	黒色安山岩	38	17	4	3.1		3	46,094,486	-63,932,659	143,981			
I-9-武山II	B 61	鉗片	黒色貞石	15	19	1	0.3		3	46,093,598	-63,933,115	143,998			
I-9-武山II	B 62	鉗片	黒色貞石	45	34	12	19.0		3	46,093,596	-63,932,997	144,006	75	28	
I-9-武山II	B 63	自然石	細石核(石刃)	9	7	5	0.5		3	46,093,459	-63,932,645	143,890			
I-9-武山II	B 64	鉗片	黒色安山岩	32	13	9	2.5		3	46,092,900	-63,932,476	143,940	73	27	
I-9-武山II	B 65	鉗片	黒色貞石	19	28	4	2.9		3	46,093,838	-63,930,300	143,707	75	28	
I-9-武山II	B 66	鉗片	黒色安山岩	21	22	4	2.0		3	46,096,541	-63,928,273	143,323			
I-9-武山II	B 67	自然石	細石核(石刃)	21	12	6	1.2		3	46,096,330	-63,929,098	143,694			
I-9-武山II	B 68	鉗片	黒色安山岩	28	22	6	2.8		3	46,096,476	-63,929,293	143,716			
I-9-武山II	B 69	鉗片	黒色貞石	22	18	5	1.7		3	46,097,079	-63,929,413	143,635			
I-9-武山II	B 70	自然石	細石核(石刃)	23	12	8	2.3		3	46,097,853	-63,928,488	143,674			
I-9-武山II	B 71	加工麻痺の鉗片	黒色安山岩	42	45	23	37.4		3	46,099,036	-63,928,365	143,332	62+71	20+26	
I-9-武山II	B 72	鉗片	黒色安山岩	31	10	5	2.0		3	46,097,983	-63,928,878	143,762			
I-9-武山II	B 73	目皿	桂葉貞石	55	41	28	59.6		3	46,097,164	-63,931,373	143,970			
I-9-武山II	B 74	砂片	黒色安山岩	9	8	1	0.1		3	46,096,811	-63,931,193	143,981			
I-9-武山II	B 75	鉗片	黒色安山岩	49	24	9	13.2		3	46,095,906	-63,930,927	143,872			
I-9-武山II	B 76	鉗片	黒色安山岩	15	11	5	1.3		3	46,095,362	-63,931,039	143,949			
I-9-武山II	B 77	チートル		23	11	5	1.2		3	46,096,381	-63,931,757	143,920			
I-9-武山II	B 78	鉗片	黒色安山岩	30	16	9	4.3		3	46,099,259	-63,932,869	143,982	73	27	
I-9-武山II	B 79	鉗片	黒色安山岩	17	15	5	1.3		3	46,096,525	-63,932,852	144,070			
I-9-武山II	B 80	鉗片	黒色安山岩	59	45	16	43.6		3	46,096,385	-63,932,648	144,163	73	27	
I-9-武山II	B 81	鉗片	黒色安山岩	14	10	2	0.4		3	46,096,775	-63,932,798	144,195			
I-9-武山II	B 82	鉗片	黒色安山岩	16	9	6	0.7		3	46,096,886	-63,933,175	144,180			
I-9-武山II	B 83	鉗片	黒色安山岩	26	16	11	4.3		3	46,096,732	-63,933,450	144,111			
I-9-武山II	B 84	石刃	黒色安山岩	70	28	9	23.5		3	46,097,585	-63,935,094	144,322	64	21	
I-9-武山II	B 85	鉗片	黒色安山岩	17	18	5	1.3		3	46,097,732	-63,934,065	144,146			
I-9-武山II	B 86	鉗片	黒色貞石	35	16	3	2.4		3	46,098,435	-63,934,254	144,177			
I-9-武山II	B 87	鉗片	黒色安山岩	18	15	7	1.8		3	46,098,661	-63,934,215	144,190			
I-9-武山II	B 88	鉗片	黒色安山岩	17	13	5	1.1		3	46,098,780	-63,934,304	144,332			
I-9-武山II	B 89	砂片		13	7	3	0.3		3	46,099,215	-63,931,851	144,298			

遺物一覽表

遺跡	番号	部種名	石材名	段さ	幅	厚さ	重さ	備考	耐位	文化層	X座標	Y座標	標高	P.L.
上・武田山	B90	鉄片	黒色頁岩	58	64	22	66.7		3	46,098,557	-63,933,764	144,333	70	28
上・武田山	B91	鉄片	黒色頁岩	22	15	5	1.7		3	46,099,215	-63,932,703	144,262	70	28
上・武田山	B92	鉄片	黒色頁岩	25	17	6	2.5		3	46,098,972	-63,932,211	144,156		
上・武田山	B93	鉄片	黒色安山岩	27	24	8	6.4		3	46,098,321	-63,931,940	144,163		
上・武田山	B94	鉄片	黒色安山岩	14	19	6	1.7		3	46,099,002	-63,931,027	144,090		
上・武田山	B95	鉄片	黒色安山岩	31	13	8	2.0		3	46,099,263	-63,930,196	144,005		
上・武田山	B96	鉄片	黒色安山岩	28	66	8	12.6		3	46,094,565	-63,938,177	144,446	72	26
上・武田山	B97	鉄片	黒色安山岩	17	27	12	5.2		3	46,094,841	-63,937,912	144,498		
上・武田山	B98	鉄片	黒色安山岩	32	20	5	3.1		3	46,095,140	-63,938,305	144,531		
上・武田山	B99	鉄片	黒色頁岩	64	38	14	23.1		3	46,099,843	-63,939,688	144,411	70	28
上・武田山	B100	自然石	砂岩	43	27	12	9.6		3	46,090,416	-63,940,814	144,441		
上・武田山	B101	鉄片	黒色頁岩	10	17	4	0.6		3	46,095,953	-63,936,697	144,531		
上・武田山	B102	石片	黒色安山岩	57	26	8	10.3		3	46,095,963	-63,939,512	144,531	63 + 74	21 + 27
上・武田山	B103	鉄片	黒色頁岩	17	23	10	3.1		3	46,095,956	-63,939,944	144,436	75	26
上・武田山	B104	鉄片	黒色安山岩	56	65	13	40.9		3	46,096,182	-63,940,752	144,527	74	27
上・武田山	B105	鉄片	黒色頁岩	25	20	8	3.4		3	46,098,303	-63,936,752	144,462	75	28
上・武田山	B106	石片	黒色頁岩	80	26	13	18.2		3	46,096,899	-63,936,594	144,472	64 + 75	22 + 28
上・武田山	B107	石片	黒色安山岩	76	41	27	9.7		3	46,098,342	-63,936,663	144,546	64 + 72	22 + 26
上・武田山	B108	石核	黒色頁岩	68	45	42	11.7		3	46,097,711	-63,936,913	144,543	66	23
上・武田山	B109	鉄片	黒色安山岩	30	21	4	3.7		3	46,099,198	-63,940,515	144,694	72	26
上・武田山	B110	鉄片	黒色安山岩	40	21	10	7.5		3	46,098,863	-63,940,781	144,753		
上・武田山	B111	鉄片	黒色安山岩	35	23	5	4.1		3	46,098,600	-63,941,698	144,760		
上・武田山	B112	鉄片	黒色安山岩	32	48	10	11.2		3	46,098,038	-63,942,477	144,652	72	26
上・武田山	B113	鉄片	黒色安山岩	29	21	5	3.3		3	46,099,114	-63,942,477	144,815		
上・武田山	B114	鉄片	黒色安山岩	20	14	4	1.2		3	46,100,229	-63,935,533	144,298	71	26
上・武田山	B115	鉄片	黒色安山岩	18	13	6	1.1		3	46,105,869	-63,932,522	144,334		
上・武田山	B116	鉄片	黒色安山岩	58	81	23	95.3		3	46,100,186	-63,960,721	144,649	72	26
上・武田山	B117	鉄片	黒色安山岩	52	53	12	25.0		3	46,100,350	-63,960,093	144,570	71	26
上・武田山	B118	鉄片	黒色安山岩	22	16	4	1.4		3	46,101,883	-63,959,541	144,631		
上・武田山	B119	鉄片	黒色安山岩	24	15	6	1.7		3	46,100,655	-63,926,896	144,730		
上・武田山	B120	鉄片	黒色安山岩	33	36	80	11.5		3	46,100,772	-63,939,080	144,733		
上・武田山	B121	鉄片	和田輝石安山岩	39	42	13	43.9		3	46,100,449	-63,936,566	144,544		
上・武田山	B122	鉄片	黒色頁岩	11	14	4	0.6		3	46,101,396	-63,931,199	144,391		
上・武田山	B123	鉄片	黒色安山岩	28	36	7	6.8		3	46,101,518	-63,937,241	144,554	71	26
上・武田山	B124	鉄片	黒色安山岩	24	10	8	1.9		3	46,102,182	-63,936,597	144,624		
上・武田山	B125	鉄片	黒色安山岩	54	37	14	24.8		3	46,102,765	-63,936,431	144,645		
上・武田山	B126	鉄片	黒色安山岩	12	14	4	0.6		3	46,102,960	-63,936,568	144,642		
上・武田山	B127	鉄片	黒色安山岩	20	28	9	3.0		3	46,103,062	-63,935,695	144,534		
上・武田山	B128	石片	黒色頁岩	79	32	8	20.5		3	46,102,557	-63,937,331	144,763	64 + 76	21 + 28
上・武田山	B129	石核	黒色安山岩	36	58	21	37.1		3	46,102,981	-63,937,664	144,714	60 + 73	22 + 27
上・武田山	B130	礫石	黒色頁岩	101	47	42	299.0		3	46,102,792	-63,937,664	144,714	68 + 77	24 + 29
上・武田山	B131	石片	黒色頁岩	58	22	6	7.3		3	46,102,719	-63,937,722	144,724	63 + 76	21 + 28
上・武田山	B132	鉄片	黒色安山岩	15	28	5	1.7		3	46,102,898	-63,937,210	144,683		
上・武田山	B133	鉄片	黒色安山岩	25	27	5	2.5		3	46,103,074	-63,937,192	144,579		
上・武田山	B134	石核	黒色安山岩	41	60	22	33.5		3	46,103,132	-63,938,112	144,712	60 + 73	23 + 27
上・武田山	B135	鉄片	黒色安山岩	41	49	13	36.6		3	46,103,338	-63,937,738	144,693		
上・武田山	B136	鉄片	黒色安山岩	20	33	9	4.9		3	46,103,562	-63,937,449	144,774		
上・武田山	B137	鉄片	黒色安山岩	7	5	1	0.1		3	46,103,965	-63,935,470	144,616		
上・武田山	B138	鉄片	和田輝石安山岩	61	38	17	37.1		3	46,103,654	-63,932,262	144,680		
上・武田山	B139	鉄片	黒色安山岩	14	11	4	0.4		3	46,104,116	-63,936,824	144,735		
上・武田山	B140	鉄片	黒色頁岩	25	25	5	2.0		3	46,104,013	-63,936,559	144,694		
上・武田山	B141	鉄片	黒色安山岩	17	32	4	2.0		3	46,103,925	-63,936,651	144,612		
上・武田山	B142	鉄片	黒色安山岩	29	16	8	3.0		3	46,103,863	-63,935,608	144,608		
上・武田山	B143	鉄片	黒色安山岩	13	20	16	3.4		3	46,105,230	-63,936,012	144,555		
上・武田山	B144	鉄片	月光兔頁岩	39	24	12	16.1		3	46,105,599	-63,935,448	144,516		
上・武田山	B145	鉄片	黒色安山岩	30	53	12	13.1		3	46,105,582	-63,935,585	144,647		
上・武田山	B146	鉄片	和田輝石安山岩	20	12	7	1.5		3	46,107,032	-63,934,112	144,502		
上・武田山	B147	鉄片	黒色安山岩	52	34	16	28.2		3	46,107,543	-63,936,094	144,635	70	25
上・武田山	B148	鉄片	黒色頁岩	100	22	10	20.9		3	46,106,875	-63,937,419	144,640	63 + 76	21 + 28
上・武田山	B149	鉄片	和田輝石安山岩	45	27	17	21.6		3	46,105,256	-63,936,755	144,648		
上・武田山	B150	石核	黒色頁岩	59	75	20	11.8		3	46,105,795	-63,937,419	144,581	67	23
上・武田山	B151	鉄片	黒色安山岩	32	42	38	37.5		3	46,104,436	-63,937,806	144,729		
上・武田山	B152	鉄片	黒色頁岩	30	46	19	21.6		3	46,103,903	-63,938,491	144,671	78	29
上・武田山	B153	鉄片	黒色頁岩	34	55	11	20.0		3	46,103,663	-63,939,508	144,743	78	29
上・武田山	B154	鉄片	黒色頁岩	32	18	13	7.0		3	46,104,064	-63,939,446	144,754		
上・武田山	B155	鉄片	黒色安山岩	27	41	8	7.8		3	46,105,395	-63,939,170	144,806		
上・武田山	B156	鉄片	黒色安山岩	22	20	4	1.2		3	46,105,734	-63,938,463	144,748		
上・武田山	B157	鉄片	黒色安山岩	32	42	15	16.0		3	46,106,452	-63,937,828	144,760		
上・武田山	B158	石片	黒色頁岩	83	23	7	12.7		3	46,106,913	-63,938,415	144,781	64	21
上・武田山	B159	石片	黒色頁岩	81	29	10	20.3		3	46,106,904	-63,938,266	144,726	64	22
上・武田山	B160	鉄片	黒色頁岩	44	36	19	30.7		3	46,107,689	-63,938,451	144,757	76	29
上・武田山	B161	鉄片	黒色安山岩	9	7	1	0.8		3	46,109,130	-63,935,823	144,724		
上・武田山	B162	鉄片	黒色安山岩	31	29	8	4.6		3	46,109,263	-63,936,578	144,704		
上・武田山	B163	鉄片	和田輝石安山岩	28	27	5	4.3		3	46,109,740	-63,937,170	144,743		
上・武田山	B164a	鉄片	黒色安山岩	31	28	10	6.0		3	46,108,923	-63,936,871	144,794		
上・武田山	B164b	鉄片	黒色安山岩	26	21	8	4.0		3	46,108,925	-63,936,871	144,794		
上・武田山	B165	鉄片	黒色安山岩	23	31	6	4.6		3	46,108,363	-63,936,990	144,659	70	25
上・武田山	B166	石核	黒色安山岩	29	58	18	27.9		3	46,108,944	-63,937,334	144,501		
上・武田山	B167	自然石	和田輝石安山岩	14	12	3	0.5		3	46,108,424	-63,937,572	144,682		
上・武田山	B168	鉄片	黒色安山岩	30	41	8	7.9		3	46,108,989	-63,938,189	144,757	71	26
上・武田山	B169	鉄片	黒色安山岩	28	29	8	4.5		3	46,109,575	-63,938,654	144,715		

## 遺物一覧表

遺跡	番号	器種名	石材名	段数	幅	厚さ	重量	備考	耐位	文部省	SPH	年月	年月	回	P.L.
I-8武山	B 170	鉗片	黒色安山岩	47	21	9	9.3		3	46,103,415	-63,907,556	144,693			
I-8武山	B 171	自然石	雲母石英岩質	17	12	4	0.8		3	46,101,903	-63,941,216	144,799			72
I-8武山	B 172	鉗片	黒色安山岩	17	33	3	2.0		3	46,104,755	-63,942,296	144,670	70		25
I-8武山	B 173	自然石	和田輝石安山岩	39	26	12	8.9		3	46,103,123	-63,942,228	144,813			
I-8武山	B 174	鉗片	黒色安山岩	21	37	6	3.6		3	46,105,314	-63,942,112	144,807	70		25
I-8武山	B 175	鉗片	黒色頁岩	40	24	13	9.9		3	46,105,674	-63,942,528	144,875	78		29
I-8武山	B 176	鉗片	黒色安山岩	60	78	12	14.4		3	46,105,981	-63,941,762	144,895	62+70	21+25	
I-8武山	B 177	鉗片	黒色安山岩	26	33	6	4.4		3	46,106,965	-63,941,415	144,910	70		25
I-8武山	B 178	鉗片	黒色頁岩	43	35	5	10.1		3	46,107,330	-63,940,966	144,866	78		29
I-8武山	B 179	自然石	砂岩	38	20	10	10.7		3	46,108,330	-63,940,866	144,866			
I-8武山	B 180	鉗片	黒色安山岩	29	24	5	3.8		3	46,108,553	-63,941,612	144,933			
I-8武山	B 181	鉗片	黒色安山岩	10	12	3	0.3		3	46,108,364	-63,941,589	144,890			
I-8武山	B 182	鉗片	黒色頁岩	23	23	5	2.3		3	46,107,365	-63,942,414	144,791			
I-8武山	B 183	鉗片	黒色安山岩	14	13	3	0.6		3	46,107,963	-63,942,993	144,745			
I-8武山	B 184	鉗片	黒色安山岩	21	20	2	0.8		3	46,106,494	-63,942,821	144,998			
I-8武山	B 185	鉗片	黒色安山岩	9	20	1	0.2		3	46,104,632	-63,945,865	144,852			
I-8武山	B 186	鉗片	黒色安山岩	15	22	4	1.5		3	46,104,557	-63,941,621	144,669			
I-8武山	B 187	礫	和田輝石安山岩	138	130	88	1800.0		3	46,105,944	-63,943,990	144,855			
I-8武山	B 188	鉗片	黒色安山岩	15	14	2	0.5		3	46,106,459	-63,941,464	144,059			
I-8武山	B 189	石核	珪藻石	41	22	17	15.6		3	46,102,368	-63,940,898	144,947			
I-8武山	B 190	鉗片	黒色頁岩	15	15	3	0.7		3	46,108,120	-63,948,314	144,936	74		27
I-8武山	B 191	鉗片	黒色安山岩	67	53	15	37.8		3	46,108,621	-63,941,215	144,914	74		27
I-8武山	B 192	鉗片	黒色安山岩	81	75	20	108.1		3	46,108,555	-63,946,391	144,058	74		27
I-8武山	B 193	鉗片	黒色安山岩	33	20	11	7.2		3	46,108,179	-63,941,287	145,107	72		26
I-8武山	B 194	鉗片	黒色安山岩	38	18	6	3.2		3	46,108,817	-63,946,886	144,064			
I-8武山	B 195	鉗片	黒色安山岩	28	19	4	2.2		3	46,108,998	-63,946,959	144,944	63		22
I-8武山	B 196	石片	黒色安山岩	89	41	15	43.0		3	46,108,972	-63,966,066	145,102			
I-8武山	B 197	鉗片	黒色安山岩	16	19	4	1.0		3	46,109,475	-63,945,870	145,065			
I-8武山	B 198	鉗片	黒色安山岩	31	18	5	2.7		3	46,109,805	-63,945,698	145,306			
I-8武山	B 199	鉗片	黒色頁岩	29	19	4	1.6		3	46,110,083	-63,945,774	144,988	69		25
I-8武山	B 200	鉗片	黒色安山岩	42	37	13	14.8		3	46,109,470	-63,941,613	145,036			
I-8武山	B 201	鉗片	黒色安山岩	23	12	7	1.3		3	46,110,271	-63,941,847	144,904	69		25
I-8武山	B 202	鉗片	黒色安山岩	36	57	25	45.1		3	46,110,428	-63,941,864	144,936			
I-8武山	B 203	石片	黒色安山岩	9	10	4	0.3		3	46,110,381	-63,943,236	145,055	69		25
I-8武山	B 204	鉗片	黒色安山岩	20	19	6	1.8		3	46,112,093	-63,943,510	145,013			
I-8武山	B 205	自然石	輝葉岩	12	12	7	1.0		3	46,113,244	-63,944,018	144,974	63+71	21+26	
I-8武山	B 206	石片	黒色安山岩	82	30	14	34.7		3	46,113,801	-63,941,314	145,073	78		29
I-8武山	B 207	鉗片	黒色頁岩	39	64	18	44.8		3	46,114,281	-63,946,467	145,189	73		27
I-8武山	B 208	鉗片	黒色安山岩	29	37	10	11.1		3	46,114,253	-63,946,950	145,327	73		27
I-8武山	B 209	鉗片	黒色安山岩	24	39	7	5.8		3	46,111,997	-63,946,743	145,103	74		27
I-8武山	B 210	鉗片	黒色安山岩	62	48	12	37.7		3	46,111,207	-63,946,842	145,055	68+69	23+25	
I-8武山	B 211	石核	黒色安山岩	55	75	28	93.9		3	46,111,141	-63,951,464	145,321			
I-8武山	B 212	鉗片	黒色安山岩	20	22	5	2.2		3	46,113,044	-63,951,544	145,212	72		26
I-8武山	B 213	鉗片	黒色安山岩	43	42	11	9.1		3	46,112,578	-63,951,363	145,296			
I-8武山	B 214	鉗片	黒色安山岩	22	16	3	1.1		3	46,113,660	-63,952,502	145,243	67		23
I-8武山	B 215	石核	黒色頁岩	32	34	14	12.8		3	46,112,869	-63,952,155	145,259			
I-8武山	B 216	鉗片	黒色安山岩	18	20	9	2.5		3	46,111,997	-63,952,007	145,224			
I-8武山	B 217	鉗片	黒色安山岩	29	18	13	4.0		3	46,111,206	-63,951,435	145,162			
I-8武山	B 218	鉗片	黒色安山岩	16	8	5	0.5		3	46,111,259	-63,951,188	145,263	74		27
I-8武山	B 219	鉗片	黒色安山岩	50	31	9	10.8		3	46,110,609	-63,954,626	145,173			
I-8武山	B 220	鉗片	黒色安山岩	7	10	3	0.2		3	46,111,947	-63,953,979	145,273	77		29
I-8武山	B 221	鉗片	黒色頁岩	30	32	6	5.7		3	46,109,217	-63,938,674	144,175			
I-8武山	B 222	鉗片	黒色安山岩	14	28	9	3.2		3	46,092,185	-63,956,126	144,166	73		27
I-8武山	B 223	鉗片	黒色安山岩	37	29	9	10.9		3	46,093,238	-63,954,188	144,210			
I-8武山	B 224	鉗片	黒色頁岩	18	7	4	0.5		3	46,093,836	-63,933,857	144,060	75		28
I-8武山	B 225	鉗片	黒色頁岩	43	42	11	16.1		3	46,095,053	-63,941,808	144,091			
I-8武山	B 226	鉗片	黒色頁岩	34	30	9	8.7		3	46,095,179	-63,935,054	144,135			
I-8武山	B 227	鉗片	黒色頁岩	37	35	10	11.1		3	46,095,237	-63,935,888	144,244			
I-8武山	B 228	自然石	チート	16	13	4	0.8		3	46,095,865	-63,936,465	144,491			
I-8武山	B 229	鉗片	黒色安山岩	7	11	5	0.3		3	46,099,944	-63,936,603	144,566	76		29
I-8武山	B 230	鉗片	黒色頁岩	6	16	2	0.3		3	46,099,334	-63,938,139	144,564	76		29
I-8武山	B 231	鉗片	黒色頁岩	34	26	5	4.4		3	46,099,696	-63,939,771	144,652			
I-8武山	B 232	鉗片	和田輝石安山岩	61	51	39	130.1		3	46,099,663	-63,940,279	144,581			
I-8武山	B 233	鉗片	黒色頁岩	49	58	12	28.5		3	46,099,663	-63,939,632	144,672	70		25
I-8武山	B 234	鉗片	黒色頁岩	34	35	7	7.8		3	46,100,022	-63,940,260	144,576			
I-8武山	B 235	鉗片	黒色安山岩	10	10	2	0.2		3	46,099,822	-63,940,395	144,732	70		25
I-8武山	B 236	鉗片	黒色安山岩	9	20	2	0.3		3	46,099,657	-63,940,474	144,675			
I-8武山	B 237	鉗片	黒色安山岩	16	14	5	0.6		3	46,099,983	-63,941,348	144,706	71		26
I-8武山	B 238	鉗片	黒色安山岩	19	37	3	2.1		3	46,099,857	-63,941,657	144,687			
I-8武山	B 239	自然石	未確認/複合	11	5	8	0.2		3	46,099,853	-63,941,353	144,709	71		26
I-8武山	B 240	鉗片	黒色安山岩	22	25	4	1.7		3	46,100,994	-63,939,632	144,672	70		25
I-8武山	B 241	鉗片	黒色安山岩	17	21	5	1.4		3	46,103,125	-63,938,139	144,659			
I-8武山	B 242	鉗片	黒色安山岩	36	35	13	9.7		3	46,103,228	-63,937,785	144,605			
I-8武山	B 243	鉗片	黒色安山岩	18	7	3	0.4		3	46,103,365	-63,937,789	144,674			
I-8武山	B 244	鉗片	黒色安山岩	13	15	3	0.5		3	46,103,365	-63,937,789	144,674			
I-8武山	B 245	鉗片	黒色安山岩	8	12	1	0.1		3	46,103,365	-63,937,789	144,674			
I-8武山	B 246	鉗片	黒色安山岩	9	4	3	0.1		3	46,103,534	-63,937,433	144,781			
I-8武山	B 247	鉗片	黒色安山岩	26	12	11	1.6		3	46,105,857	-63,937,657	144,687			
I-8武山	B 248	鉗片	黒色頁岩	35	15	18	2.1		3	46,106,852	-63,937,003	144,656	63+76	21+28	
I-8武山	B 249	鉗片	黒色安山岩	67	68	9	24.6		3	46,108,507	-63,935,512	144,504			
I-8武山	B 250	石片	黒色頁岩	44	27	8	6.9		3	46,108,821	-63,936,890	144,500	64		22

遺物一覽表

遺跡	番号	器種名	石材名	段数	幅	厚さ	重量	備考	耐位	文化層	X座標	Y座標	Z座標	回	P.L.
I-鬼武山II	B251	削片	黒色安山岩	48	32	12	15.7		3	46,109,847	-63,945,396	144,983	69	25	
I-鬼武山II	B252	削片	黒色安山岩	20	16	4	0.9		3	46,109,390	-63,945,927	144,934			
I-鬼武山II	B253	削片	黒色安山岩	65	27	28	30.2		3	なし	なし	なし	74	27	
I-鬼武山II	B254	削片	黒色安山岩	33	27	7	6.2		3	46,108,191	-63,935,000	144,326			
I-鬼武山II	B255	削片	黒色安山岩	12	17	3	0.5		3	46,109,452	-63,936,234	144,401			
I-鬼武山II	B256	削片	黒色安山岩	20	19	4	1.5		3	46,110,257	-63,936,332	144,429			
I-鬼武山II	B257	削片	黒色安山岩	25	35	6	4.5		3	46,109,384	-63,936,771	144,472			
I-鬼武山II	B258	削片	黒色安山岩	28	54	8	7.1		3	46,109,382	-63,937,360	144,468			
I-鬼武山II	B259	削片	黒色安山岩	12	20	2	0.7		3	46,113,082	-63,939,493	144,725			
I-鬼武山II	B260	削片	黒色安山岩	15	25	6	2.5		3	46,113,430	-63,940,216	145,715	70	25	
I-鬼武山II	B261	削片	黒色安山岩	35	46	9	14.4		3	46,115,854	-63,942,269	144,917	71	26	
I-鬼武山II	B262	削片	黒色安山岩	58	16	12	8.1		3	46,113,690	-63,942,891	144,924	71	26	
I-鬼武山II	B263	削片	黒色頁岩	13	24	14	1.3		3	46,118,872	-63,945,161	145,414			
I-鬼武山II	B264	削片	黒色頁岩	66	28	11	14.5		3	46,119,740	-63,948,173	145,348	78	29	
I-鬼武山II	B265	削片	黒色安山岩	42	27	12	10.7		3	46,119,790	-63,948,134	145,473	70	25	
I-鬼武山II	B266	ナイフ形石器	黒色安山岩	34	46	10	17.0		3	46,120,261	-63,948,498	145,593	62	20	
I-鬼武山II	B267	削片	黒色安山岩	19	37	9	4.4		3	46,120,879	-63,947,651	145,538	71	26	
I-鬼武山II	B268	削片	黒色安山岩	41	55	14	22.1	B269の接合	3	46,122,856	-63,947,379	145,496	71	26	
I-鬼武山II	B269	リブリッジ	骨器	-	-	-	-		3	なし	なし	なし			
I-鬼武山II	B270	骨器	黒色頁岩	47	31	12	18.6		3	46,120,742	-63,945,997	145,679	78	29	
I-鬼武山II	B271	骨器	黒色頁岩	50	49	8	23.2		3	46,121,025	-63,948,876	145,416			
I-鬼武山II	B272	骨器	黒色安山岩	8	10	1	0.1		3	46,124,818	-63,930,131	145,869			
I-鬼武山II	B273	削片	黒色安山岩	44	68	20	64.7		3	46,114,089	-63,930,848	145,179	71	26	
I-鬼武山II	B274	削片	黒色安山岩	9	19	5	0.9		3	46,111,290	-63,952,894	145,082			
I-鬼武山II	B275	削片	黒色安山岩	25	10	4	1.2		3	46,111,373	-63,954,291	145,054	71	26	
I-鬼武山II	B276	削片	黒色安山岩	26	15	15	6.7		3	46,111,924	-63,954,706	145,084			
I-鬼武山II	B277	削片	黒色安山岩	29	35	6	8.0		3	46,112,036	-63,953,482	145,051			
I-鬼武山II	B278	削片	黒色頁岩	20	11	4	0.9		3	46,113,453	-63,953,725	145,193			
I-鬼武山II	B279	削片	黒色頁岩	28	37	6	4.8		3	46,113,963	-63,953,837	145,166	77	29	
I-鬼武山II	B280	砂粒	黒色安山岩	10	9	1	0.1		3	46,114,369	-63,954,603	145,213			
I-鬼武山II	B281	削片	黒色安山岩	22	20	2	1.0		3	46,114,592	-63,954,784	145,208			
I-鬼武山II	B282	削片	黒色頁岩	18	17	4	1.5		3	46,114,682	-63,953,964	145,214	77	29	
I-鬼武山II	B283	砂粒	黒色安山岩	6	9	2	0.1		3	46,115,243	-63,953,618	145,243			
I-鬼武山II	B284	削片	黒色安山岩	29	28	6	4.5		3	46,116,066	-63,954,865	145,180			
I-鬼武山II	B285	削片	黒色頁岩	38	28	6	8.6		3	46,115,388	-63,954,683	145,173			
I-鬼武山II	B286	削片	黒色安山岩	18	12	6	1.0		3	46,116,940	-63,954,170	145,375			
I-鬼武山II	B287	削片	黒色頁岩	40	23	6	7.7		3	46,119,212	-63,949,292	145,309	78	29	
I-鬼武山II	B288	削片	黒色安山岩	5	17	3	0.3		3	46,113,330	-63,953,703	145,103			
I-鬼武山II	B289	削片	黒色安山岩	20	15	7	2.0		3	46,079,187	-63,942,524	143,626			
I-鬼武山II	B290	砂粒	黒色安山岩	6	12	2	0.2		3	46,079,254	-63,943,569	143,443			
I-鬼武山II	B291	石片	黒色頁岩	54	16	6	5.7		3	46,079,010	-63,945,791	143,479	65	22	
I-鬼武山II	B292	石片	黒色石	18	27	10	3.1		3	46,079,354	-63,945,912	143,610	79	29	
I-鬼武山II	B293	石片	黒色石	24	16	6	1.7		3	46,080,531	-63,945,756	143,545	79	29	
I-鬼武山II	B294	石片	黒色安山岩	18	16	3	1.1		3	46,080,636	-63,944,007	143,512			
I-鬼武山II	B295	石片	黒色石	61	34	13	26.5		3	46,080,348	-63,942,407	143,455	79	29	
I-鬼武山II	B296	石片	黒色安山岩	17	18	3	0.9		3	46,081,164	-63,942,478	143,702			
I-鬼武山II	B297	石片	黒色頁岩	81	32	12	26.3		3	46,083,278	-63,944,433	143,796	63	21	
I-鬼武山II	B298	石片	黒色石	29	48	17	25.3		3	46,083,942	-63,947,457	143,881	66 • 79	23 • 29	
I-鬼武山II	B299	石片	和田麻石(砂岩)	113	77	32	240.0		3	46,084,522	-63,947,874	143,752			
I-鬼武山II	B300	削片	和田麻石(砂岩)	160	107	60	1650.0		3	46,084,489	-63,944,005	143,734			
I-鬼武山II	B301	削片	和田麻石(砂岩)	53	38	15	25.1		3	46,084,333	-63,945,973	143,739			
I-鬼武山II	B302	削片	枝葉頁岩	37	46	10	23.2		3	46,086,938	-63,945,653	145,369	78	29	
I-鬼武山II	B303	削片	黒色安山岩	35	40	13	14.7		3	46,088,042	-63,942,588	144,134	73	27	
I-鬼武山II	B304	削片	黒色安山岩	44	45	20	29.5		3	46,088,716	-63,942,625	144,086	74	27	
I-鬼武山II	B305	石核	黒色頁岩	53	70	28	103.5		3	46,088,632	-63,939,848	144,096	67 • 75	24 • 28	
I-鬼武山II	B306	削片	黒色安山岩	78	74	21	140.0		3	46,089,956	-63,939,848	144,054	73	27	
I-鬼武山II	B307	削片	黒色安山岩	54	39	13	27.4		3	46,090,272	-63,943,037	144,044	74	27	
I-鬼武山II	B308	石片	黒色頁岩	82	34	6	20.4		3	46,091,982	-63,948,626	144,098	65	22	
I-鬼武山II	B309	削片	黒色安山岩	50	44	12	26.0		3	46,092,517	-63,940,680	144,199	73	27	
I-鬼武山II	B310	削片	黒色頁岩	30	50	4	8.2		3	46,098,449	-63,945,872	144,805	78	29	
I-鬼武山II	B311	削片	黒色頁岩	77	40	21	44.2		3	46,071,531	-63,941,278	143,075	78	29	
I-鬼武山II	B312	削片	黒色安山岩	60	80	16	83.6		3	46,073,729	-63,948,555	143,103	72	26	
I-鬼武山II	B313	削片	黒色安山岩	28	25	8	5.9		3	46,075,963	-63,942,663	143,497	73	27	
I-鬼武山II	B314	削片	黒色安山岩	16	20	3	1.7		3	46,113,160	-63,956,531	141,214			
I-鬼武山II	B315	削片	黒色安山岩	24	26	3	2.3		3	46,113,606	-63,955,489	145,262			
I-鬼武山II	B316	削片	黒色安山岩	31	17	8	4.7		3	46,114,720	-63,953,299	145,303	69	25	
I-鬼武山II	B317	削片	黒色安山岩	34	22	3	4.9		3	46,114,640	-63,956,576	145,223	71	26	
I-鬼武山II	B318	削片	黒色安山岩	14	8	5	0.7		3	46,115,034	-63,957,711	145,309			
I-鬼武山II	B319	削片	黒色安山岩	19	33	7	4.8		3	46,115,190	-63,956,877	145,261			
I-鬼武山II	B320	削片	黒色安山岩	30	28	6	9.3		3	46,115,010	-63,956,361	145,262			
I-鬼武山II	B321	削片	黒色安山岩	18	22	3	1.3		3	46,115,298	-63,956,439	145,265			
I-鬼武山II	B322	削片	黒色安山岩	25	16	8	3.4		3	46,115,681	-63,956,208	145,316			
I-鬼武山II	B323	削片	黒色安山岩	9	11	1	0.2		3	46,115,309	-63,956,169	145,253			
I-鬼武山II	B324	削片	黒色安山岩	14	16	3	0.6		3	46,115,746	-63,955,844	145,244			
I-鬼武山II	B325	削片	黒色安山岩	5	10	1	0.1		3	46,116,384	-63,957,299	145,309			
I-鬼武山II	B326	削片	黒色安山岩	21	25	4	2.3		3	46,117,491	-63,960,189	145,204			
I-鬼武山II	B327	ナイフ形石器	黒色石	37	15	7	4.4	崩れ?	3	46,121,207	-63,963,501	143,380	62	20	
I-鬼武山II	B328	ナイフ形石器	桂葉石	44	14	8	5.1		3	46,122,783	-63,971,863	145,252	62	20	
I-鬼武山II	B329	石	和田麻石(砂岩)	100	52	40	200.0		3	46,086,297	-63,947,097	145,572			
I-鬼武山II	B330	自然石	雲母英石片	29	21	8	7.5		3	46,091,717	-63,944,369	143,866	72		
I-鬼武山II	B331	自然石	黒色石片	17	8	4	0.7		3	46,092,262	-63,944,828	143,781	72		

## 遺物一覽表

遺跡	番号	器種名	石材名	段さ	幅	厚さ	重量	備考	前位	文化層	X座標	Y座標	層位	回	P.L.
I-9-武田III	II4	自然石	桂木彥質岩	29	23	9	7.6		EP下	3	46,092,385	-63,941,182	143,944		
I-9-武田III	II5	自然石	黒色片岩	21	8	4	1.0		EP下	3	46,092,873	-63,943,616	144,050	72	
I-9-武田III	II6	自然石	青碧石英片岩	40	37	17	27.2		EP下	3	46,092,958	-63,943,705	144,034	72	
I-9-武田III	II7	自然石	青碧石英片岩	68	23	18	46.1	薄片試料	EP下	3	46,093,106	-63,943,754	144,028	72	
I-9-武田III	II8	自然石	青碧石英片岩	43	26	10	40.1		EP下	3	46,093,353	-63,943,551	144,068	72	
I-9-武田III	II9	自然石	青碧石英片岩	40	24	11	12.9		EP下	3	46,093,008	-63,941,266	143,879	72	
I-9-武田III	II10	自然石	青碧石英片岩	48	32	10	23.2		EP下	3	46,093,262	-63,941,656	144,049		
I-9-武田III	II11	自然石	青碧石英片岩	53	32	10	24.6		EP下	3	46,093,445	-63,941,770	144,034	72	
I-9-武田III	II12	自然石	青碧石英片岩	112	46	15	109.3	薄片試料	EP下	3	46,093,568	-63,945,810	143,993	72	
I-9-武田III	II13	自然石	青碧石英片岩	41	21	12	15.1		EP下	3	46,093,262	-63,945,353	143,973	72	
I-9-武田III	II14	自然石	黑色片岩	24	7	5	1.0		EP下	3	46,093,673	-63,945,551	143,948	72	
I-9-武田III	II15	自然石	黑色片岩	29	11	4	1.7		EP下	3	46,093,725	-63,945,555	143,965	72	
I-9-武田III	II16	自然石	青碧石英片岩	21	10	4	1.3		EP下	3	46,093,114	-63,941,599	143,877	72	
I-9-武田III	II17	自然石	青碧石英片岩	32	12	5	3.2		EP下	3	46,093,175	-63,945	143,898	72	
I-9-武田III	II18	自然石	白片	13	10	3	0.6		EP下	3	46,113,039	-63,958,148	144,939		
I-9-武田III	II19	砂片	黑色安山岩	9	9	2	0.3		EP下	3	46,113,340	-63,957	144,986		
I-9-武田III	II20	砂片	黑色安山岩	4	2	1	0.1		EP下	3	46,112,990	-63,956,912	145,030		
I-9-武田III	II21	砂片	黑色安山岩	7	5	3	0.1		EP下	3	46,113,612	-63,956	217,034		
I-9-武田III	II22	砂片	黑色安山岩	6	15	2	0.2		EP下	3	46,113,645	-63,956,569	145,095		
I-9-武田III	II23	砂片	黑色安山岩	11	10	3	0.4		EP下	3	46,113,979	-63,956,761	145,074		
I-9-武田III	II24	砂片	黑色安山岩	27	20	5	2.7		EP下	3	46,114,227	-63,951,157	145,044		
I-9-武田III	II25	砂片	黑色安山岩	22	23	3	1.8		EP下	3	46,114,303	-63,956	594,145,005		
I-9-武田III	II26	砂片	黑色安山岩	9	6	1	0.1		EP下	3	46,114,332	-63,956,178	145,054		
I-9-武田III	II27	砂片	黑色安山岩	11	7	2	0.3		EP下	3	46,114,363	-63,956	144,969		
I-9-武田III	II28	砂片	黑色安山岩	20	15	2	0.8		EP下	3	46,114,074	-63,955,553	145,061		
I-9-武田III	II29	砂片	黑色安山岩	5	7	1	0.1		EP下	3	46,114,344	-63,955	662,145,166		
I-9-武田III	II30	砂片	黑色安山岩	23	23	8	3.3		EP下	3	46,114,532	-63,956,860	145,124		
I-9-武田III	II31	砂片	黑色安山岩	14	7	5	0.6		EP下	3	46,114,554	-63,957	227,039		
I-9-武田III	II32	砂片	黑色安山岩	27	15	7	2.0		EP下	3	46,114,489	-63,957,431	145,092		
I-9-武田III	II33	砂片	黑色安山岩	9	5	2	0.1		EP下	3	46,114,710	-63,957,218	145,066		
I-9-武田III	II34	砂片	黑色安山岩	9	4	2	0.1		EP下	3	46,114,921	-63,956,819	145,198		
I-9-武田III	II35	砂片	黑色安山岩	19	21	4	2.0		EP下	3	46,115,422	-63,956,335	145,221		
I-9-武田III	II36	砂片	黑色安山岩	6	12	1	0.1		EP下	3	46,115,061	-63,955,712	145,158		
I-9-武田III	II37	砂片	黑色安山岩	6	4	1	0.1		EP下	3	46,115,363	-63,955,825	145,169		
I-9-武田III	II38	砂片	黑色安山岩	24	15	4	1.3		EP下	3	46,115,213	-63,955,733	145,191		
I-9-武田III	II39	砂片	黑色安山岩	11	12	3	0.4		EP下	3	46,115,220	-63,955,627	145,096		
I-9-武田III	II40	砂片	黑色安山岩	17	4	1	0.2		EP下	3	46,115,021	-63,955	181,145,205		
I-9-武田III	II41	石片	黑色安山岩	67	37	16	38.2		EP下	3	46,115,197	-63,955,722	145,053	69	25
I-9-武田III	II42	砂片	黑色安山岩	7	3	1	0.1		EP下	3	46,115,450	-63,955	279,145,204		
I-9-武田III	II43	砂片	黑色安山岩	27	17	5	2.1		EP下	3	46,116,523	-63,955	228,145,161	69	25
I-9-武田III	II44	砂片	黑色安山岩	14	23	6	1.6		EP下	3	46,116,587	-63,957	274,145,141		
I-9-武田III	II45	砂片	黑色片岩	48	86	21	68.6		EP下	3	46,124,407	-63,961,084	145,195	78	29
I-9-武田III	II46	砂片	黑色片岩	52	36	11	20.2		EP下	3	46,115,512	-63,970,491	144,734	78	29
I-9-武田III	II47	砂片	黑色安山岩	5	12	2	0.1		EP下	3	46,114,334	-63,955	449,144,984		
I-9-武田III	II48	砂片	黑色安山岩	13	25	3	1.1		EP下	3	46,114,598	-63,956	601,145,013		
I-9-武田III	II49	砂片	黑色安山岩	52	34	12	17.0		EP下	3	46,115,146	-63,956,285	145,094		
I-9-武田III	II50	砂片	黑色安山岩	7	3	1	0.1		EP下	3	46,115,612	-63,956	228,145,187		
I-9-武田III	II51	砂片	黑色安山岩	8	18	6	0.5		EP下	3	46,115,313	-63,956	197,145,048		
I-9-武田III	II52	砂片	黑色安山岩	5	5	1	0.1		EP下	3	46,115,395	-63,955	856,145,102		
I-9-武田III	II53	砂片	黑色安山岩	8	5	1	0.1		EP下	3	46,115,342	-63,955	127,145,089		
I-9-武田III	II54	砂片	黑色安山岩	15	27	5	1.6		EP下	3	46,115,849	-63,955	351,145,102		
I-9-武田III	II55	砂片	黑色安山岩	10	8	1	0.1		EP下	3	46,116,004	-63,954	959,145,002		
I-9-武田III	II56	自然石	青碧石英片岩	11	8	5	0.4		EP下	3	46,110,941	-63,955	285,144,766		
I-9-武田III	II57	砂片	黑色安山岩	9	5	3	0.1		EP下	3	46,112,986	-63,952	162,144,745		
I-9-武田III	II58	砂片	黑色安山岩	15	15	1	0.4		EP下	3	46,113,395	-63,955	603,144,828		
I-9-武田III	II59	砂片	黑色安山岩	22	17	3	1.7		EP下	3	46,113,530	-63,958	460,144,643		
I-9-武田III	II60	砂片	黑色安山岩	11	21	9	1.4		EP下	3	46,113,572	-63,958,685	144,828		
I-9-武田III	II61	自然石	青碧石英片岩	12	8	6	0.7		EP下	3	46,113,664	-63,958	656,144,766		
I-9-武田III	II62	砂片	黑色安山岩	28	13	5	2.6		EP下	3	46,114,241	-63,958	367,144,910		
I-9-武田III	II63	砂片	黑色片岩	21	23	4	2.7		EP下	3	46,114,330	-63,957	680,144,941		
I-9-武田III	II64	砂片	黑色安山岩	10	6	3	0.2		EP下	3	46,113,953	-63,956	956,144,925		
I-9-武田III	II65	砂片	黑色安山岩	36	12	5	2.2		EP下	3	46,113,767	-63,955	853,144,780		
I-9-武田III	II66	砂片	黑色安山岩	18	9	5	0.9		EP下	3	46,113,840	-63,956	717,144,809		
I-9-武田III	II67	砂片	黑色安山岩	14	7	1	0.1		EP下	3	46,114,332	-63,956	810,144,696		
I-9-武田III	II68	砂片	黑色安山岩	8	5	1	0.1		EP下	3	46,114,283	-63,956	686,144,919		
I-9-武田III	II69	砂片	黑色安山岩	10	15	3	0.5		EP下	3	46,114,283	-63,956	393,144,928		
I-9-武田III	II70	砂片	黑色安山岩	9	7	2	0.2		EP下	3	46,114,351	-63,956	349,144,930		
I-9-武田III	II71	砂片	黑色安山岩	6	3	1	0.1		EP下	3	46,114,271	-63,956	267,144,889		
I-9-武田III	II72	砂片	黑色安山岩	12	19	5	0.8		EP下	3	46,114,053	-63,956	516,144,634		
I-9-武田III	II73	砂片	黑色安山岩	4	2	1	0.1		EP下	3	46,114,037	-63,956	317,144,723		
I-9-武田III	II74	砂片	黑色安山岩	15	9	4	0.6		EP下	3	46,114,065	-63,956	209,144,742		
I-9-武田III	II75	砂片	黑色安山岩	3	8	1	0.1		EP下	3	46,113,828	-63,956	385,144,927		
I-9-武田III	II76	砂片	黑色安山岩	20	9	2	0.4		EP下	3	46,113,701	-63,956	158,144,909		
I-9-武田III	II77	砂片	黑色安山岩	22	41	7	6.0		EP下	3	46,113,766	-63,956	077,144,915		
I-9-武田III	II78	砂片	黑色安山岩	3	5	1	0.1		EP下	3	46,113,849	-63,956	267,144,931		
I-9-武田III	II79	砂片	黑色安山岩	17	12	11	2.6		EP下	3	46,113,910	-63,955	988,144,935		
I-9-武田III	II80	砂片	黑色安山岩	20	9	5	0.7		EP下	3	46,113,906	-63,955	610,144,834		
I-9-武田III	II81	砂片	黑色安山岩	8	11	1	0.1		EP下	3	46,114,588	-63,955	244,145,006		
I-9-武田III	II82	砂片	黑色安山岩	1	5	1	0.1		EP下	3	46,114,679	-63,955	273,144,996		
I-9-武田III	II83	砂片	黑色安山岩	27	22	4	3.0		EP下	3	46,114,882	-63,955	495,144,755		
I-9-武田III	II84	砂片	黑色安山岩	7	5	1	0.1		EP下	3	46,115,018	-63,955	454,144,815		

種類	番号	器種名	石材名	段さ	幅	厚さ	重量	備考	前位	文系類	3D座標	X座標	Y座標	Z座標	固	P.L.
上・武田山	III83	鉢片	黒色安山岩	15	14	4	0.6		BP下	3	46,115,002	-63,955,808	144,661			
上・武田山	III86	鉢片	黒色安山岩	34	19	11	5.7		BP下	3	46,114,980	-63,955,169	144,890	70	25	
上・武田山	III87	鉢片	黒色安山岩	7	8	2	0.2		BP下	3	46,114,991	-63,955,366	144,732			
上・武田山	III88	鉢片	黒色安山岩	3	5	1	0.1		BP下	3	46,115,028	-63,955,582	144,976			
上・武田山	III89	鉢片	黒色安山岩	18	26	6	2.3		BP下	3	46,114,818	-63,955,783	144,783	69	25	
上・武田山	III90	鉢片	黒色安山岩	10	8	3	0.3		BP下	3	46,114,818	-63,957,123	144,802			
上・武田山	III91	鉢片	黒色安山岩	7	3	1	0.1		BP下	3	46,115,166	-63,957,276	144,711			
上・武田山	III92	鉢片	黒色安山岩	7	4	2	0.1		BP下	3	46,115,728	-63,956,899	144,817			
上・武田山	III93	鉢片	黒色安山岩	19	20	9	3.3		BP下	3	46,115,544	-63,956,762	145,011	70	25	
上・武田山	III94a	鉢片	黒色安山岩	7	5	1	0.1		BP下	3	46,115,343	-63,956,665	144,874			
上・武田山	III94b	鉢片	黒色安山岩	8	5	1	0.1		BP下	3	46,115,343	-63,956,665	144,874			
上・武田山	III95	鉢片	黒色安山岩	11	6	2	0.2		BP下	3	46,115,355	-63,956,322	144,869			
上・武田山	III96	鉢片	黒色安山岩	77	33	17	34.1		BP下	3	46,115,423	-63,956,156	144,956			
上・武田山	III97	鉢片	黒色安山岩	11	4	1	0.1		BP下	3	46,115,500	-63,956,078	144,900			
上・武田山	III98	鉢片	黒色安山岩	7	3	1	0.1		BP下	3	46,115,432	-63,955,964	144,809			
上・武田山	III99	鉢片	黒色安山岩	12	13	2	0.3		BP下	3	46,115,458	-63,955,757	144,861			
上・武田山	III100	鉢片	黒色安山岩	6	10	2	0.2		BP下	3	46,115,628	-63,955,779	144,843			
上・武田山	III101	鉢片	黒色頁岩	25	33	6	5.4		BP下	3	46,115,819	-63,955,569	144,953			
上・武田山	III102	鉢片	黒色安山岩	7	4	1	0.1		BP下	3	46,115,669	-63,955,324	144,863			
上・武田山	III103	鉢片	黒色安山岩	6	7	1	0.1		BP下	3	46,115,732	-63,955,089	144,889			
上・武田山	III104	鉢片	黒色安山岩	4	4	1	0.1		BP下	3	46,115,778	-63,956,238	144,961			
上・武田山	III105	鉢片	黒色安山岩	23	30	10	4.9		BP下	3	46,116,348	-63,955,266	145,012			
上・武田山	III106	鉢片	黒色安山岩	9	5	4	0.1		BP下	3	46,116,130	-63,955,768	144,812			
上・武田山	III107	鉢片	黒色安山岩	42	35	13	22.8		BP下	3	46,116,257	-63,955,950	144,962	62	20・25	
上・武田山	III108	鉢片	黒色安山岩	32	44	15	20.4		BP下	3	46,116,432	-63,956,262	144,961	69	25	
上・武田山	III109	石片	黒色安山岩	71	44	11	35.1		打面削削面削	3	46,116,347	-63,956,174	144,932	63	19・25	
上・武田山	III110	石片	黒色安山岩	27	26	9	3.8		BP下	3	46,116,136	-63,956,648	144,858			
上・武田山	III111	石片	黒色安山岩	9	11	1	0.1		BP下	3	46,116,638	-63,956,652	144,902			
上・武田山	III112	石片	黒色安山岩	8	17	3	0.3		BP下	3	46,116,495	-63,957,359	145,056			
上・武田山	III113	石片	黒色安山岩	72	36	14	30.2		BP下	3	46,116,898	-63,957,403	145,052	64	19・25	
上・武田山	III114	鉢片	黒色安山岩	50	35	11	16.6		BP下	3	46,116,637	-63,955,734	145,030	69	25	
上・武田山	III115	鉢片	黒色安山岩	34	19	6	1.9		BP下	3	46,116,862	-63,955,718	144,879			
上・武田山	III116	鉢片	黒色安山岩	25	27	8	3.8		BP下	3	46,116,610	-63,955,527	145,073	69	25	
上・武田山	III117	鉢片	黒色安山岩	25	20	7	3.1		BP下	3	46,117,356	-63,955,154	144,891			
上・武田山	III118	鉢片	黒色安山岩	41	61	13	24.1		BP下	3	46,117,200	-63,955,141	145,074	69	25	
上・武田山	III119	鉢片	黒色安山岩	41	53	18	37.0		BP下	3	46,117,729	-63,955,372	145,070	70	25	
上・武田山	III120	鉢片	黒色安山岩	38	55	11	21.8		BP下	3	46,118,814	-63,961,840	145,009			
上・武田山	III121	石片	黒色頁岩	172	138	37	4390.0		BP下	3	46,122,841	-63,965,540	145,077	67	24	
上・武田山	III122	自然石	雲母石英片岩	22	12	5	1.8		BP下	3	46,125,628	-63,971,169	144,916	72		
上・武田山	III123	自然石	黒色頁岩	53	23	12	10.5		BP下	3	46,114,016	-63,957,016	144,846	62	20	
上・武田山	III124	鉢片	黒色安山岩	12	13	2	0.3		BP下	3	46,113,931	-63,956,173	144,699			
上・武田山	III125	鉢片	黒色安山岩	8	9	2	0.1		BP下	3	46,116,344	-63,956,429	144,909			
上・武田山	III126	鉢片	黒色安山岩	8	12	3	0.2		BP下	3	46,116,649	-63,955,175	145,002			
上・武田山	H-127	鉢片	黒色安山岩	23	12	3	0.8	不明		なし	なし	なし	なし			
上・武田山	J-128	自然石	雲母石英片岩	40	24	11	16.6	不明		なし	なし	なし	なし	なし	72	
上・武田山	J-129	自然石	雲母石英片岩	32	12	5	3.0	不明		なし	なし	なし	なし	なし	73	
上・武田山	J-130	自然石	雲母石英片岩	27	20	13	11.3	不明		なし	なし	なし	なし	なし	73	
上・武田山	H-131	鉢片	黒色頁岩	38	27	16	3.4	不明		なし	なし	なし	なし	なし	78	
上・武田山	H-132	鉢片	黒色頁岩	47	84	11	51.9	不明		なし	なし	なし	なし	なし	78	
上・武田山	H-133	鉢片	黒色頁岩	34	56	7	11.7	不明		なし	なし	なし	なし	なし	78	
上・武田山	H-134	鉢片	黒色頁岩	50	31	11	16.7	不明		なし	なし	なし	なし	なし	78	
上・武田山	H-135	鉢片	黒色頁岩	31	34	10	10.2	不明		なし	なし	なし	なし	なし	78	
上・武田山	H-136	鉢片	黒色頁岩	30	35	12	11.5	不明		なし	なし	なし	なし	なし	78	
上・武田山	H-137	鉢片	黒色頁岩	31	27	7	5.7	不明		なし	なし	なし	なし	なし	78	
上・武田山	H-138	鉢片	黒色頁岩	29	23	2	1.7	不明		なし	なし	なし	なし	なし	78	
上・武田山	H-139	鉢片	黒色頁岩	11	27	2	1.0	不明		なし	なし	なし	なし	なし	78	
上・武田山	H-140	鉢片	黒色安山岩	13	20	7	1.4	不明		なし	なし	なし	なし	なし	78	
上・武田山	H-141	鉢片	黒色安山岩	29	18	6	4.3	不明		なし	なし	なし	なし	なし	78	
上・武田山	H-142	鉢片	黒色安山岩	41	50	22	45.7	不明		なし	なし	なし	なし	なし	66	
上・武田山	H-143	石片	黒色安山岩	51	51	14	44.4	不明		なし	なし	なし	なし	なし	66・70	
上・武田山	H-144	鉢片	黒色安山岩	35	49	7	12.1	不明		なし	なし	なし	なし	なし	66・70	
上・武田山	H-145	鉢片	黒色安山岩	41	32	11	9.4	不明		なし	なし	なし	なし	なし	70	
上・武田山	H-146	鉢片	黒色頁岩	52	27	14	29.4	不明		なし	なし	なし	なし	なし	70	
上・武田山	H-147	鉢片	黒色頁岩	44	17	4	3.4	不明		なし	なし	なし	なし	なし	70	
上・武田山	H-148	鉢片	黒色頁岩	40	19	11	10.8	不明		なし	なし	なし	なし	なし	70	
上・武田山	H-149	鉢片	黒色頁岩	55	31	20	36.5	不明		なし	なし	なし	なし	なし	70	
上・武田山	H-150	鉢片	黒色頁岩	10	13	3	0.5	不明		なし	なし	なし	なし	なし	72	
上・武田山	H-151	鉢片	黒色頁岩	6	9	2	0.1	不明		なし	なし	なし	なし	なし	72	
上・武田山	H-152	鉢片	黒色頁岩	62	18	9	9.3	不明		なし	なし	なし	なし	なし	72	
上・武田山	H-153	鉢片	黒色頁岩	52	27	14	29.4	不明		なし	なし	なし	なし	なし	72	
上・武田山	H-154	鉢片	黒色頁岩	44	17	4	3.4	不明		なし	なし	なし	なし	なし	72	
上・武田山	H-155	鉢片	黒色頁岩	22	26	5	2.7	不明		なし	なし	なし	なし	なし	72	
上・武田山	H-156	鉢片	黒色頁岩	43	18	9	8.3	不明		なし	なし	なし	なし	なし	72	
上・武田山	H-157	鉢片	黒色頁岩	43	60	12	32.1	不明		なし	なし	なし	なし	なし	72	
上・武田山	H-158	鉢片	黒色頁岩	27	21	6	3.5	不明		なし	なし	なし	なし	なし	72	
上・武田山	H-159	鉢片	黒色頁岩	10	13	3	0.5	不明		なし	なし	なし	なし	なし	72	
上・武田山	H-160	鉢片	黒色頁岩	6	9	2	0.1	不明		なし	なし	なし	なし	なし	72	
上・武田山	H-161	鉢片	黒色頁岩	42	15	8	2.0	不明		なし	なし	なし	なし	なし	72	
上・武田山	K-1	自然石	和歌舞石英片岩	34	26	7	4.9	不明		ks-0k1	1	46,305,900	-64,190,330	146,418		
五代鉄削	K-2	自然石	黒色頁岩	5	3	1	0.1	不明		ks-0k1	1	46,303,810	-64,190,230	146,756	94	32
五代鉄削	K-3	自然石 (黄片)	白石片岩	13	8	3	0.3	不明		ks-0k1	1	46,306,710	-64,191,270	146,604		
五代鉄削	K-4	自然石 (黄片)	白石片岩	14	10	5	0.7	不明		ks-0k1	1	46,305,140	-64,191,090	146,395		
五代鉄削	K-5	自然石 (黄片)	白石片岩					不明		ks-0k1	1	46,304,220	-64,191,160	146,530		

## 遺物一覧表

遺物	番号	器種名	石材名	段さ	幅	厚さ	重量	備考	位相	文様類	X座標	Y座標	Z座標	回	P
五代鉢	K-6	ナイフ形石器	黒色安山岩	34	18	8	3.1		Ay-0k1		46,303,470	-64,197,400	145,312	94	32
五代鉢	K-7	ナイフ形石器	黒色安山岩	27	15	6	2.0		Ay-0k1		46,305,260	-64,197,490	145,382	94	32
五代鉢	K-8	鉢片	黒色安山岩	23	19	5	1.5		Ay-0k1		46,304,670	-64,197,590	145,414	94	32
五代鉢	K-9	自然石(羽片)	安山岩	11	10	5	0.6		Ay-0k1		46,306,080	-64,197,860	146,605		
五代鉢	K-10	鉢片	黒色安山岩	37	30	11	12.7		Ay-0k1		46,304,890	-64,197,860	146,330		
五代鉢	K-11	鉢片	黒色安山岩	11	9	3	0.3		Ay-0k1		46,304,740	-64,198,260	146,415		
五代鉢	K-12	鉢片	黒色安山岩	26	16	8	3.3		Ay-0k1		46,304,480	-64,198,260	146,555	94	32
五代鉢	K-13	鉢片	黒色安山岩	20	22	3	0.8		Ay-0k1		46,306,120	-64,198,730	146,534		
五代鉢	K-14	鉢片	黒色安山岩	5	10	1	0.1		Ay-0k1		46,305,740	-64,198,850	146,552		
五代鉢	K-15	加工石底の鉢片	黒色安山岩	36	25	10	8.6		Ay-0k1		46,305,710	-64,198,990	146,416	94	32
五代鉢	K-16	鉢片	黒色安山岩	39	29	17	20.8		Ay-0k1		46,305,250	-64,198,460	146,566		
五代鉢	K-17	鉢片	黒色安山岩	11	16	6	0.6		Ay-0k1		46,304,520	-64,198,570	146,320	94	32
五代鉢	K-18	鉢片	黒色安山岩	18	18	5	1.5		Ay-0k1		46,305,010	-64,199,680	146,190		
五代鉢	K-19	石片	黒色安山岩	22	23	10	4.6		Ay-0k1		46,308,300	-64,199,780	146,338	94	32
五代鉢	K-20	鉢片	黒色安山岩	12	15	4	0.6		Ay-0k1		46,306,190	-64,200,210	146,630		
五代鉢	K-21	鉢片	黒色安山岩	23	10	5	1.1		Ay-0k1		46,304,730	-64,200,070	146,482	94	32
五代鉢	K-22	鉢片	黒色安山岩	16	32	8	3.1		Ay-0k1		46,306,210	-64,200,750	146,514	94	32
五代鉢	K-23	鉢片	黒色安山岩	18	13	3	0.6	▼片?	Ay-0k1		46,305,780	-64,200,180	146,765		
五代鉢	K-24	鉢片	黒色安山岩	19	29	6	2.9		Ay-0k1		46,305,590	-64,201,020	146,698		
五代鉢	K-25	鉢片	黒色安山岩	18	9	6	0.8		Ay-0k1		46,305,010	-64,201,560	146,090		
五代鉢	K-26	鉢片	黒色安山岩	23	25	4	2.2		Ay-0k1		46,304,290	-64,201,560	146,504	94	32
五代鉢	K-27	自然石(羽片)	安山岩	12	10	4	0.5		Ay-0k1		46,306,580	-64,202,480	146,484		
五代鉢	K-28	柳形石器	黒色安山岩	17	15	6	1.6		Ay-0k1		46,305,500	-64,202,330	146,145	94	32
五代鉢	K-29	自然石(羽片)	安山岩	12	9	5	0.6		Ay-0k1		46,304,700	-64,202,560	146,660		
五代鉢	K-30	鳥先形尖頭器	黒色安山岩	52	21	5	5.6		Ay-0k1		46,300,330	-64,307,830	146,377	91	32
五代鉢	K-31	鉢片	黒色安山岩	16	22	4	1.1		▼P~AT		46,362,430	-64,281,300	146,410		
五代鉢	K-32	自然石	セマコ	24	39	18	22.2		▼P~AT		46,361,700	-64,265,540	147,071		
五代鉢	K-33	鉢片	黒色安山岩	25	14	4	1.4		細面筒		46,258,625	-64,082,152	143,280	93	34
五代鉢	K-34	鉢片	砂岩	20	18	8	2.8	全面磨化?	細面筒		46,257,623	-64,090,539	143,345		
五代鉢	K-35	鉢片	黒色安山岩	21	46	13	47.2		細面筒		46,257,210	-64,080,265	143,280		
五代鉢	K-36	鉢片	黒色安山岩	43	28	8	7.2		細面筒		46,255,490	-64,086,236	143,320	103	34
五代鉢	K-37	鉢片	黒色安山岩	39	47	11	14.7		細面筒		46,255,395	-64,086,705	143,175	103	34
五代鉢	K-38	鉢片	黒色安山岩	25	21	6	2.7		細面筒		46,255,095	-64,090,942	143,155	103	34
五代鉢	K-39	鉢片	黒色安山岩	8	15	5	0.6		細面筒		46,254,751	-64,089,783	143,060		
五代鉢	K-40	鉢片	黒色安山岩	47	34	6	9.3		細面筒		46,254,351	-64,090,478	143,100	103	34
五代鉢	K-41	鉢片	黒色安山岩	18	9	7	0.9		細面筒		46,254,140	-64,090,455	143,010		
五代鉢	K-42	鉢片	黒色安山岩	37	41	15	17.3		細面筒		46,253,895	-64,090,312	143,105	101	33
五代鉢	K-43	鉢片	黒色安山岩	24	23	4	1.0		細面筒		46,253,837	-64,090,414	143,200		
五代鉢	K-44	鉢片	黒色安山岩	18	40	10	7.9	二次加工?	細面筒		46,254,019	-64,087,581	142,900		
五代鉢	K-45	鉢片	黒色安山岩	24	20	17	6.8		細面筒		46,253,660	-64,089,101	142,945	102	33
五代鉢	K-46	鉢片	黒色安山岩	26	19	9	4.9		細面筒		46,253,778	-64,089,614	143,045	103	34
五代鉢	K-47	鉢片	黒色安山岩	29	51	9	15.8		細面筒		46,231,778	-64,091,005	143,045		
五代鉢	K-48	鉢片	黒色安山岩	26	30	8	7.6		細面筒		46,233,574	-64,090,877	143,015	103	34
五代鉢	K-49	鉢片	黒色安山岩	31	38	5	6.8		細面筒		46,231,306	-64,088,836	143,050	102	33
五代鉢	K-50	鉢片	黒色安山岩	32	22	12	6.9		細面筒		46,233,260	-64,088,776	142,905	102	33
五代鉢	K-51	鉢片	黒色安山岩	32	17	9	4.0		細面筒		46,253,182	-64,089,640	143,005	101	33
五代鉢	K-52	鉢片	黒色安山岩	60	45	22	9.1		細面筒		46,253,600	-64,089,640	143,102	102	33
五代鉢	K-53	鉢片	黒色安山岩	32	23	9	5.2		細面筒		46,253,407	-64,089,600	142,955	101	33
五代鉢	K-54	鉢片	黒色安山岩	23	36	10	7.7		細面筒		46,253,219	-64,089,675	142,915	103	34
五代鉢	K-55	鉢片	黒色安山岩	19	15	3	0.6		細面筒		46,253,615	-64,090,369	142,955		
五代鉢	K-56	鉢片	黒色安山岩	17	22	5	1.6		細面筒		46,252,986	-64,090,613	143,075	101	33
五代鉢	K-57	鉢片	黒色安山岩	32	22	12	6.9		細面筒		46,253,063	-64,090,113	143,210	102	33
五代鉢	K-58	鉢片	黒色安山岩	48	22	17	21.5		細面筒		46,252,865	-64,090,195	143,120	101	33
五代鉢	K-59	鉢片	黒色安山岩	36	17	11	4.5		細面筒		46,252,996	-64,090,718	145,095	101	33
五代鉢	K-60	鉢片	黒色安山岩	43	56	17	38.2		細面筒		46,252,928	-64,090,442	143,885	103	34
五代鉢	K-61	鉢片	黒色安山岩	20	31	5	3.3	2D(削除)	細面筒		46,252,800	-64,091,442	141,910	101	33
五代鉢	K-62	鉢片	黒色安山岩	19	15	3	0.6		細面筒		46,253,037	-64,090,696	143,100	102	33
五代鉢	K-63	鉢片	黒色安山岩	23	25	5	3.0		細面筒		46,253,242	-64,091,300	143,300	103	34
五代鉢	K-64	鉢片	黒色安山岩	17	22	5	1.6		細面筒		46,252,986	-64,089,416	142,965	102	33
五代鉢	K-65	鉢片	黒色安山岩	28	32	8	6.4		細面筒		46,252,512	-64,091,024	142,935	103	34
五代鉢	K-66	鉢片	黒色安山岩	21	20	9	2.9		細面筒		46,252,990	-64,092,375	143,085		
五代鉢	K-67	鉢片	黒色安山岩	10	13	4	0.5		細面筒		46,251,904	-64,086,817	142,710	101	33
五代鉢	K-68	鉢片	黒色安山岩	39	24	10	7.2		細面筒		46,252,256	-64,089,066	142,760		
五代鉢	K-69	鉢片	黒色安山岩	12	21	2	0.7		細面筒		46,252,366	-64,088,401	142,750		
五代鉢	K-70	鉢片	黒色安山岩	14	14	3	0.5		細面筒		46,252,284	-64,090,255	143,200	101	33
五代鉢	K-71	鉢片	黒色安山岩	23	25	14	5.8		細面筒		46,251,831	-64,089,084	142,886	102	33
五代鉢	K-72	鉢片	黒色安山岩	52	40	10	18.3		細面筒		46,252,948	-64,089,270	142,950	102	33
五代鉢	K-73	鉢片	黒色安山岩	14	23	4	1.1		細面筒		46,251,825	-64,089,923	142,800		
五代鉢	K-74	鉢片	黒色安山岩	26	32	8	5.5		細面筒		46,251,960	-64,090,600	143,155	103	34
五代鉢	K-75	鉢片	黒色安山岩	28	13	6	1.5		細面筒		46,251,864	-64,091,215	143,110		
五代鉢	K-76	鉢片	黒色安山岩	8	11	4	0.3		細面筒		46,251,694	-64,090,362	143,115		
五代鉢	K-77	鉢片	黒色安山岩	8	15	5	0.5		細面筒		46,251,041	-64,087,624	142,685		
五代鉢	K-78	鉢片	黒色安山岩	21	26	7	3.2		細面筒		46,250,555	-64,087,280	142,705	102	33
五代鉢	K-79	鉢片	黒色安山岩	17	27	5	2.2		細面筒		46,250,233	-64,088,835	142,925	102	33
五代鉢	K-80	鉢片	黒色安山岩	14	7	2	0.2		細面筒		46,250,248	-64,089,817	142,945		
五代鉢	K-81	鉢片	黒色安山岩	31	20	7	3.6		細面筒		46,250,409	-64,090,817	142,990	102	33
五代鉢	K-82	鉢片	黒色安山岩	6	7	3	0.1		細面筒		46,253,248	-64,089,745	142,945		
五代鉢	K-83	鉢片	黒色安山岩	22	29	5	2.9		細面筒		46,253,619	-64,090,867	143,110		
五代鉢	K-84	鉢片	黒色安山岩	12	12	4	0.4		細面筒		46,253,547	-64,090,863	142,995		
五代鉢	K-85	鉢片	黒色安山岩	13	15	3	0.5		細面筒		46,253,170	-64,091,299	143,035		
五代鉢	K-86	鉢片	黒色安山岩	22	14	6	1.0		細面筒		46,254,536	-64,090,365	143,005		
五代鉢	K-87	鉢片	黒色安山岩	20	14	4	0.8		細面筒		46,254,134	-64,090,738	143,012		
五代鉢	K-88	鉢片	黒色安山岩	31	30	7	6.8		細面筒		46,254,097	-64,090,817	142,990	102	33

遺跡	番号	器種名	石材名	段さ	幅	厚さ	重量	備考	部位	文様類	詳細	堆標	回	P.L.	
五代砂留	K5-34	鉗片	黒色安山岩	8	13	2	0.2		船形帯	3	46,253,228	-64,091,299	142,570		
五代砂留	K5-55	鉗片	黒色安山岩	5	10	2	0.1		船形帯	3	46,252,715	-64,090,455	142,887		
五代砂留	K5-56	鉗片	黒色安山岩	14	9	1	0.2		船形帯	3	46,253,682	-64,089,590	142,933		
五代砂留	K5-57	鉗片	黒色安山岩	8	12	3	0.2		船形帯	3	46,255,543	-64,091,380	143,123		
五代砂留	K5-58	鉗片	黒色安山岩	29	16	6	2.1		船形帯	3	46,251,469	-64,084,854	142,492	301	33
五代砂留	K5-59	鉗片	黒色安山岩	18	18	6	1.4		船形帯	3	46,249,330	-64,090,360	142,593	103	34
五代砂留	K5-60	鉗片	黒色安山岩	8	4	2	0.1		船形帯	3	46,254,205	-64,090,052	142,927		
五代砂留	K5-61	鉗片	黒色安山岩	15	18	4	1.1		船形帯	3	46,252,342	-64,088,030	142,902	103	34
五代砂留	K5-62	鉗片	黒色安山岩	12	23	11	3.3		船形帯	3	46,252,155	-64,088,689	142,822	101	33
五代砂留	K5-63	鉗片	黒色安山岩	29	30	8	3.8		船形帯	3	46,252,213	-64,089,149	142,654	101	33
五代砂留	K5-64	鉗片	黒色安山岩	17	15	7	1.7		船形帯	3	46,252,512	-64,089,430	142,811	101	33
五代砂留	K5-65	鉗片	黒色安山岩	50	35	15	20.4		船形帯	3	46,252,681	-64,089,879	142,778	101	33
五代砂留	K5-66	鉗片	黒色安山岩	9	9	3	0.4		船形帯	3	46,252,378	-64,090,324	142,794		
五代砂留	K5-67	鉗片	黒色安山岩	41	44	19	22.7		船形帯	3	46,252,991	-64,089,935	142,775		
五代砂留	K5-68	鉗片	黒色安山岩	12	9	3	0.5		船形帯	3	46,253,158	-64,089,850	142,865		
五代砂留	K5-69	鉗片	黒色安山岩	29	17	6	1.8		船形帯	3	46,253,031	-64,090,051	142,615	101	33
五代砂留	K5-70	鉗片	黒色安山岩	55	23	20	3.0		船形帯	3	46,253,310	-64,090,003	142,385	101	33
五代砂留	K5-71	鉗片	黒色安山岩	10	3	2	0.1		船形帯	3	46,253,155	-64,090,110	142,871		
五代砂留	K5-72	鉗片	黒色安山岩	5	7	2	0.1		船形帯	3	46,253,096	-64,090,318	142,872		
五代砂留	K5-73	鉗片	黒色安山岩	10	7	6	0.3		船形帯	3	46,253,788	-64,088,788	142,741		
五代砂留	K5-74	鉗片	黒色安山岩	7	16	3	0.4		船形帯	3	46,254,084	-64,088,615	142,850		
五代砂留	K5-75	鉗片	黒色安山岩	11	20	4	0.6		船形帯	3	46,254,054	-64,088,768	142,860		
五代砂留	K5-76	鉗片	黒色安山岩	26	19	10	3.2		船形帯	3	46,253,948	-64,088,126	142,877	103	34
五代砂留	K5-77	鉗片	黒色安山岩	18	14	6	1.2		船形帯	3	46,253,559	-64,090,327	142,885	101	33
五代砂留	K5-78	鉗片	黒色安山岩	9	4	2	0.1		船形帯	3	46,253,490	-64,090,479	142,909		
五代砂留	K5-79	鉗片	黒色安山岩	11	20	7	1.8		船形帯	3	46,253,334	-64,090,707	142,753	102	33
五代砂留	K5-80	鉗片	黒色安山岩	9	14	4	0.4		船形帯	3	46,252,952	-64,091,362	142,728		
五代砂留	K5-81	鉗片	黒色安山岩	10	18	4	0.5		船形帯	3	46,253,215	-64,091,852	142,906		
五代砂留	K5-82	鉗片	黒色安山岩	32	9	10	2.4		船形帯	3	46,253,668	-64,090,974	143,905		
五代砂留	K5-83	鉗片	黒色安山岩	11	10	1	0.2		船形帯	3	46,253,545	-64,090,738	142,892		
五代砂留	K5-84	鉗片	黒色安山岩	15	10	6	0.7		船形帯	3	46,253,844	-64,090,424	142,890		
五代砂留	K5-85	鉗片	黒色安山岩	41	30	15	18.4	曲面刻線帯	船形帯	3	46,253,841	-64,090,637	142,824		
五代砂留	K5-86	鉗片	黒色安山岩	23	25	6	2.5		船形帯	3	46,254,111	-64,090,573	142,864	101	33
五代砂留	K5-87	石柱	黒色安山岩	25	41	17	17.5		船形帯	3	46,254,034	-64,090,735	142,815	100+102	33+33
五代砂留	K5-88	鉗片	黒色安山岩	69	20	15	35.2		船形帯	3	46,254,133	-64,090,798	142,774	101	33
五代砂留	K5-89	鉗片	黒色安山岩	12	12	8	0.7		船形帯	3	46,254,139	-64,090,926	142,940		
五代砂留	K5-90	鉗片	黒色安山岩	66	34	13	16.8		船形帯	3	46,254,004	-64,091,257	142,917	103	34
五代砂留	K5-91	鉗片	黒色安山岩	36	25	11	8.0		船形帯	3	46,254,202	-64,091,841	142,912	101	33
五代砂留	K5-92	鉗片	黒色安山岩	12	13	5	0.3		船形帯	3	46,254,249	-64,091,191	142,910		
五代砂留	K5-93	石柱	黒色安山岩	51	56	25	78.7		船形帯	3	46,254,281	-64,090,759	142,846	100+101	32+33
五代砂留	K5-94	加工前ある鉗片	黒色安山岩	60	45	18	38.4		船形帯	3	46,254,342	-64,090,832	142,895	100	32
五代砂留	K5-95	鉗片	黒色安山岩	46	65	16	38.4		船形帯	3	46,254,483	-64,090,687	142,860	101	33
五代砂留	K5-96	石柱	黒色安山岩	52	48	29	60.4		船形帯	3	46,254,611	-64,090,688	142,956	100+103	32+34
五代砂留	K5-97	鉗片	黒色安山岩	14	8	2	0.2		船形帯	3	46,254,400	-64,090,558	142,863		
五代砂留	K5-98	鉗片	黒色安山岩	12	13	2	0.3		船形帯	3	46,254,438	-64,090,448	142,883		
五代砂留	K5-99	鉗片	黒色安山岩	6	8	3	0.1		船形帯	3	46,254,467	-64,090,270	142,792		
五代砂留	K5-100	鉗片	黒色安山岩	13	19	6	1.9		船形帯	3	46,254,610	-64,090,307	142,905	103	34
五代砂留	K5-101	鉗片	黒色安山岩	6	4	2	0.1		船形帯	3	46,254,781	-64,090,449	142,879		
五代砂留	K5-102	鉗片	黒色安山岩	10	18	8	1.5		船形帯	3	46,254,866	-64,090,428	142,885		
五代砂留	K5-103	鉗片	黒色安山岩	10	9	2	0.2		船形帯	3	46,254,694	-64,090,965	142,713		
五代砂留	K5-104	鉗片	黒色安山岩	4	5	1	0.1		船形帯	3	46,254,792	-64,090,867	142,818		
五代砂留	K5-105	鉗片	黒色安山岩	12	16	3	0.4		船形帯	3	46,254,900	-64,090,849	142,753		
五代砂留	K5-106	鉗片	黒色安山岩	23	12	5	1.3		船形帯	3	46,255,102	-64,090,967	142,800		
五代砂留	K5-107a	鉗片	黒色安山岩	11	8	2	0.3		船形帯	3	46,255,133	-64,090,832	142,781		
五代砂留	K5-107b	鉗片	黒色安山岩	8	4	1	0.1		船形帯	3	46,255,133	-64,090,781	142,781		
五代砂留	K5-108	石柱	黒色安山岩	62	45	24	66.2		船形帯	3	46,254,740	-64,091,355	142,913	100+101	32+33
五代砂留	K5-109	鉗片	黒色安山岩	45	45	9	10.4		船形帯	3	46,254,920	-64,091,424	141,101		
五代砂留	K5-110	鉗片	黒色安山岩	34	16	9	4.7		船形帯	3	46,254,768	-64,092,061	142,872	101	33
五代砂留	K5-111	鉗片	黒色安山岩	42	38	12	12.6		船形帯	3	46,255,078	-64,091,971	142,857		
五代砂留	K5-112	鉗片	黒色安山岩	49	40	14	24.2		船形帯	3	46,255,713	-64,091,556	143,040	102	33
五代砂留	K5-113	鉗片	黒色安山岩	29	20	7	3.1		船形帯	3	46,255,430	-64,091,113	143,019	103	34
五代砂留	K5-114	鉗片	黒色安山岩	6	15	3	0.3		船形帯	3	46,255,475	-64,090,988	142,783		
五代砂留	K5-115	鉗片	黒色安山岩	9	16	2	0.2		船形帯	3	46,255,595	-64,090,993	142,895		
五代砂留	K5-116	鉗片	黒色安山岩	21	26	14	5.9		船形帯	3	46,255,630	-64,090,606	142,889		
五代砂留	K5-117	鉗片	黒色安山岩	11	17	5	1.1		船形帯	3	46,255,791	-64,090,753	142,810		
五代砂留	K5-118	鉗片	黒色安山岩	6	10	2	0.1		船形帯	3	46,255,802	-64,091,171	143,053		
五代砂留	K5-119	鉗片	黒色安山岩	66	67	24	29.8		船形帯	3	46,255,958	-64,091,213	142,908	103	34
五代砂留	K5-120	鉗片	黒色安山岩	44	35	10	10.8		船形帯	3	46,256,704	-64,093,411	142,961	101	33
五代砂留	K5-121	鉗片	黒色安山岩	19	7	4	0.3		船形帯	3	46,256,245	-64,089,976	142,648		
五代砂留	K5-122	鉗片	黒色安山岩	30	25	8	4.6		船形帯	3	46,257,936	-64,028,390	145,551		
五代砂留	K7-1	鉗片	デザイド	42	19	12	8.5		船形帯	3	46,387,936	-64,028,390	145,551		
五代砂留	K7-2	使用痕ある鉗片	チャート	64	41	22	35.5		船形帯	3	46,387,257	-64,328,566	145,687	110	36
五代砂留	K7-3	鉗片	黒色安山岩	22	12	6	1.3	灰色面	船形帯	3	46,386,629	-64,328,489	145,519		
五代砂留	K7-4	鉗片	チャート	46	33	15	21.2		船形帯	3	46,388,182	-64,329,133	145,639	107	34
五代砂留	K7-5	鉗片	珪質頁岩	29	23	14	7.6		船形帯	3	46,387,909	-64,329,195	145,547		
五代砂留	K7-6	鉗片	チャート	24	57	10	11.0		船形帯	3	46,387,834	-64,325,305	145,472	128	46
五代砂留	K7-7	自然石	質	21	12	10	1.7	鉗片?	船形帯	3	46,388,537	-64,300,017	145,699		
五代砂留	K7-8	鉗片	チャート	38	40	7	10.6		船形帯	3	46,387,570	-64,325,934	145,535		
五代砂留	K7-9	鉗片	チャート	65	25	18	26.2		船形帯	3	46,387,310	-64,325,472	145,379		
五代砂留	K7-10	鉗片	チャート	61	53	19	60.8	鉛錫鉱	船形帯	3	46,387,298	-64,325,211	145,420	128	46
五代砂留	K7-11	鉗片	鉛錫鉱	28	17	7	2.8	k7-3C同じ	船形帯	3	46,386,903	-64,329,711	145,328		

## 遺物一覧表

遺跡	番号	器種名	石材名	段さ	幅	重量	備考	部位	文様類	X座標	Y座標	P.L.			
五代砂留	K-12	加工ある鉢片	チャート	57	39	30.5		褐色帶	3	46,386,322	-64,329,937	145,419	09	35	
五代砂留	K-13	削器	黒色安山岩	40	29	12	13.2	褐色帶	3	46,392,032	-64,328,906	145,562	07	34	
五代砂留	K-14	鉢片	珪藻貝質岩	43	40	35	35.8	褐色帶	3	46,390,948	-64,328,778	145,358			
五代砂留	K-15	鉢片	チャート	28	22	13	5.6	褐色帶	3	46,390,251	-64,329,260	145,777			
五代砂留	K-16	鉢片	チャート	54	18	9	9.5	褐色帶	3	46,390,265	-64,329,260	145,153	127	45	
五代砂留	K-17	鉢片	チャート	17	9	4	0.6	褐色帶	3	46,393,151	-64,330,495	145,562			
五代砂留	K-18	自然石	碧玉ねだり岩	16	7	3	17.7	褐色帶	3	46,392,240	-64,330,132	145,479		73	
五代砂留	K-19	削り	チャート	16	15	4	0.8	褐色帶	3	46,391,963	-64,330,691	145,450	128	45	
五代砂留	K-20	削り	黒色頁岩	40	27	11	11.9	褐色帶	3	46,390,985	-64,331,416	145,390			
五代砂留	K-21	削り	チャート	28	23	8	5.6	裏面の縦溝		3	46,388,616	-64,331,349	145,381		
五代砂留	K-22	加工痕ある鉢片	黒色安山岩	68	92	28	94.7	褐色帶	3	46,388,153	-64,331,629	145,411	109	35	
五代砂留	K-23	使用痕ある鉢片	珪藻貝質岩	56	34	14	18.5	褐色帶	3	46,386,184	-64,331,637	145,339	110	36	
五代砂留	K-24	礫石	ホルンフェルス	210	100	57	161.0	褐色帶	3	46,386,072	-64,330,395	145,291	121	42	
五代砂留	K-25	鉢片	珪藻貝質岩	37	19	9	3.2	褐色帶	3	46,385,578	-64,331,671	145,405			
五代砂留	K-26	削り	チャート	23	22	6	2.4	褐色帶	3	46,384,951	-64,332,208	145,621			
五代砂留	K-27	削り	チャート	61	48	22	47.3	腹側剥離痕		3	46,385,508	-64,332,838	145,255	127	45
五代砂留	K-28	削り	珪藻貝質岩	30	32	10	7.5	褐色帶	3	46,384,936	-64,333,005	145,610			
五代砂留	K-29	削り	チャート	16	24	4	1.7	褐色帶	3	46,384,610	-64,333,183	145,549			
五代砂留	K-30	自然石	碧玉ねだり岩	27	21	13	6.4	褐色帶	3	46,383,471	-64,330,637	145,300		73	
五代砂留	K-31	削り	チャート	15	43	13	7.3	褐色帶	3	46,393,778	-64,330,012	145,373			
五代砂留	K-32	削り	チャート	61	37	11	30.4	褐色帶	3	46,393,334	-64,331,585	145,332			
五代砂留	K-33	使用痕ある鉢片	チャート	93	27	22	34.7	褐色帶	3	46,392,988	-64,330,668	145,292	110	36	
五代砂留	K-34	石核	チャート	54	54	18	60.3	褐色帶	3	46,392,430	-64,331,114	145,252	113 ~ 129	38 ~ 46	
五代砂留	K-35	礫石	砂岩	115	104	42	726.0	褐色帶	3	46,392,865	-64,330,033	145,218	122	43	
五代砂留	K-36	自然石	白雲石	27	15	14	8.0	褐色帶	3	46,391,658	-64,330,805	145,301			
五代砂留	K-37	削り	チャート	26	36	10	6.9	褐色帶	3	46,391,696	-64,330,499	145,343			
五代砂留	K-38	使用痕ある鉢片	珪藻貝質岩	56	32	18	25.3	褐色帶	3	46,391,796	-64,331,113	145,288	110	36	
五代砂留	K-39	削り	黒色頁岩	205	108	51	1802.0	串円彌		3	46,381,928	-64,330,656	145,232	120	42
五代砂留	K-40	削片	チャート	25	30	14	11.9	褐色帶	3	46,391,545	-64,331,646	145,511			
五代砂留	K-41	削片	チャート	22	17	7	1.9	褐色帶	3	46,391,630	-64,330,386	145,467	129	46	
五代砂留	K-42	削片	黒色安山岩	58	32	18	28.3	褐色帶	3	46,386,710	-64,333,590	145,524	89	34	
五代砂留	K-43	石核	ホルンフェルス	178	196	49	1756.0	褐色帶	3	46,380,028	-64,331,231	145,263			
五代砂留	K-44	加工痕ある鉢片	チャート	42	96	96	35.6	褐色帶	3	46,388,900	-64,331,196	145,274	108	35	
五代砂留	K-45	削器	珪藻貝質岩	36	22	11	10.6	褐色帶	3	46,387,724	-64,333,526	145,308	107	34	
五代砂留	K-46	礫石	和田輝石安山岩	55	40	24	42.4	褐色帶	3	46,387,405	-64,333,566	145,191			
五代砂留	K-47	石核	黑色頁岩	82	64	34	135.7	褐色帶	3	46,393,080	-64,330,092	145,158	114	38	
五代砂留	K-48	加工痕ある鉢片	チャート	35	65	20	45.4	褐色帶	3	46,391,961	-64,330,483	145,329	109	35	
五代砂留	K-49	石核	チャート	36	53	36	62.2	褐色帶	3	46,392,172	-64,330,887	145,161	116 ~ 127	39 ~ 45	
五代砂留	K-50	削片	和田輝石安山岩	22	22	9	3.9	褐色帶	3	46,385,720	-64,341,456	145,260			
五代砂留	K-51	礫片	輝葉隕石灰岩	44	21	17	16.6	褐色帶	3	46,386,152	-64,342,745	145,377			
五代砂留	K-52	削り	黒色安山岩	28	34	10	9.0	褐色帶	3	46,384,740	-64,342,595	145,275			
五代砂留	K-53	自然石	砂岩	27	20	9	6.0	褐色帶	3	46,381,803	-64,342,861	145,972			
五代砂留	K-54	自然石	和田輝石安山岩	36	30	18	18.4	褐色帶	3	46,381,654	-64,342,972	145,320			
五代砂留	K-55	石核	チャート	63	43	33	97.6	褐色帶	3	46,381,858	-64,341,607	145,960	115 ~ 129	39 ~ 45	
五代砂留	K-56	石核	碧玉	39	32	25	28.8	褐色帶	3	46,381,661	-64,341,356	145,998	113	38	
五代砂留	K-57	削り	黒色安山岩	37	28	17	17.5	褐色帶	3	46,381,289	-64,341,195	145,976			
五代砂留	K-58	石核	チャート	36	27	26	22.5	褐色帶	3	46,381,033	-64,341,328	145,021	111 ~ 128	37 ~ 45	
五代砂留	K-59	削り	滑面底灰岩	86	63	52	67.0	串円彌		3	46,381,070	-64,341,644	145,868	120	41
五代砂留	K-60	削り	碧玉	42	37	14	19.4	褐色帶	3	46,380,983	-64,341,993	145,005			
五代砂留	K-61	礫	ホルンフェルス	133	61	52	319.0	褐色帶	3	46,381,451	-64,341,552	145,074			
五代砂留	K-62	加工痕ある鉢片	チャート	53	27	12	12.7	褐色帶	3	46,387,040	-64,345,881	145,993	108	35	
五代砂留	K-63	石核	黒色安山岩	70	44	16	42.7	褐色帶	3	46,386,579	-64,346,174	145,008	113	37	
五代砂留	K-64	鉢片	ホルンフェルス	20	7	5	1.1	褐色帶	3	46,385,452	-64,345,178	145,093			
五代砂留	K-65	石核	白雲石	177	108	43	132.0	褐色帶	3	46,385,485	-64,345,939	145,963	120	41	
五代砂留	K-66	自然石	白雲石	23	17	12	7.0	垂円彌		3	46,382,541	-64,346,462	145,011		
五代砂留	K-67	削り	碧玉	43	39	22	22.9	褐色帶	3	46,382,328	-64,346,196	145,167	124	44	
五代砂留	K-68	礫石	ホルンフェルス	193	90	52	119.7	褐色帶	3	46,381,886	-64,347,089	145,092			
五代砂留	K-69	削片	チャート	52	42	14	24.8	褐色帶	3	46,382,052	-64,347,353	145,190	127	45	
五代砂留	K-70	削片	チャート	66	41	11	21.9	褐色帶	3	46,381,300	-64,347,105	145,117	129	46	
五代砂留	K-71	削片	チャート	47	54	15	41.2	褐色帶	3	46,380,820	-64,347,011	145,107	129	46	
五代砂留	K-72	削片	黒色安山岩	9	12	3	0.3	褐色帶	3	46,384,687	-64,350,780	145,156			
五代砂留	K-73	削片	黒色安山岩	12	22	7	1.6	褐色帶	3	46,385,171	-64,351,111	144,977			
五代砂留	K-74	削り	黒色安山岩	28	23	7	3.1	褐色帶	3	46,385,358	-64,351,305	144,943	124	43	
五代砂留	K-75	礫石	柳原石	41	20	22	18.5	褐色帶	3	46,385,063	-64,351,772	144,978	107 ~ 124	34 ~ 44	
五代砂留	K-76	削り	黒色安山岩	32	23	14	8.2	褐色帶	3	46,385,475	-64,351,511	145,313			
五代砂留	K-77	削り	碧玉	28	22	11	8.1	褐色帶	3	46,385,495	-64,351,688	145,092			
五代砂留	K-78	削り	碧玉	22	20	6	1.9	褐色帶	3	46,385,383	-64,351,724	144,998			
五代砂留	K-79	石核	黒色安山岩	28	37	29	32.1	褐色帶	3	46,385,352	-64,351,837	145,024	112	37	
五代砂留	K-80	削り	碧玉	36	25	8	6.3	褐色帶	3	46,386,360	-64,351,911	145,033			
五代砂留	K-81	削り	黒色安山岩	17	7	5	0.4	褐色帶	3	46,385,293	-64,351,987	145,159			
五代砂留	K-82	削り	黒色安山岩	16	7	4	0.3	褐色帶	3	46,385,378	-64,352,021	145,156			
五代砂留	K-83	削り	黒色安山岩	36	41	13	13.6	褐色帶	3	46,385,481	-64,352,678	145,057			
五代砂留	K-84	石核	黒色安山岩	44	30	28	39.4	褐色帶	3	46,385,143	-64,352,433	144,990	111 ~ 124	37 ~ 43	
五代砂留	K-85	削り	黒色安山岩	19	21	6	1.1	褐色帶	3	46,385,622	-64,352,301	145,269			
五代砂留	K-86	削片	珪藻貝質岩	10	7	5	0.3	褐色帶	3	46,385,786	-64,352,179	145,179			
五代砂留	K-87	削り	黒色安山岩	34	26	12	7.2	褐色帶	3	46,386,315	-64,352,290	144,953			
五代砂留	K-88	削り	黒色安山岩	33	15	9	2.5	褐色帶	3	46,386,029	-64,352,094	145,023			
五代砂留	K-89	削り	黒色安山岩	12	6	3	0.2	褐色帶	3	46,385,824	-64,352,017	145,287			
五代砂留	K-90	石核	ホルンフェルス	109	88	58	975.0	褐色帶	3	46,385,793	-64,351,241	144,917			
五代砂留	K-91	削片	黒色安山岩	14	9	4	0.4	褐色帶	3	46,386,046	-64,350,677	145,284			
五代砂留	K-92	削片	黒色安山岩	23	15	7	2.0	褐色帶	3	46,386,030	-64,350,611	145,027	123	43	

遺跡	番号	器種名	石材名	段さ	幅	厚さ	重量	備考	部位	文化層	X座標	Y座標	Z座標	固	P.L.	
五代砂留	K7-93	鉗片	黒色安山岩	40	31	18	14.9		細色帶	3	46,386,059	-64,351,075	145,014	123	43	
五代砂留	K7-94	鉗片	黒色安山岩	10	6	3	0.1		細色帶	3	46,386,131	-64,351,368	145,285			
五代砂留	K7-95	鉗片	黒色安山岩	22	21	6	3.1		細色帶	3	46,386,176	-64,351,373	145,255			
五代砂留	K7-96	鉗片	珪質頁岩	44	66	24	67.8		細色帶	3	46,386,325	-64,351,284	144,976			
五代砂留	K7-97	石核	黒色安山岩	30	26	23	19.3		細色帶	3	46,386,443	-64,350,984	145,302	112+123	37+43	
五代砂留	K7-98	鉗片	珪質頁岩	35	23	6	6.2		細色帶	3	46,386,494	-64,350,954	145,168			
五代砂留	K7-99	鉗片	黒色安山岩	27	26	11	5.5		細色帶	3	46,386,320	-64,350,945	145,148	123	43	
五代砂留	K7-100	鉗片	黒色安山岩	34	22	8	4.6		細色帶	3	46,386,948	-64,349,809	145,125	123	43	
五代砂留	K7-101	鉗片	黒色安山岩	36	15	10	3.4		細色帶	3	46,386,777	-64,350,919	145,123	124	44	
五代砂留	K7-102	鉗片	黒色安山岩	49	30	12	13.7		細色帶	3	46,386,573	-64,351,598	145,118	123	43	
五代砂留	K7-103	鉗片	黒色安山岩	17	11	3	0.4		細色帶	3	46,386,291	-64,351,469	145,138			
五代砂留	K7-104	鉗片	黒色安山岩	16	13	6	1.2		細色帶	3	46,386,496	-64,351,661	145,108			
五代砂留	K7-105	鉗片	黒色安山岩	20	34	6	3.6		細色帶	3	46,386,376	-64,351,630	144,967	124	43	
五代砂留	K7-106	鉗片	黒色安山岩	15	9	5	0.5		細色帶	3	46,386,312	-64,351,600	144,961			
五代砂留	K7-107	鉗片	黒色安山岩	12	10	3	0.4		細色帶	3	46,386,345	-64,351,866	140,943			
五代砂留	K7-108	鉗片	黒色安山岩	15	20	6	1.5		細色帶	3	46,387,437	-64,352,296	145,143	123	43	
五代砂留	K7-109	石核	珪質頁岩	46	49	24	54.0		細色帶	3	46,387,327	-64,352,076	145,025	112	37	
五代砂留	K7-110	鉗片	黒色安山岩	40	31	18	20.0		細色帶	3	46,387,302	-64,351,999	145,170	123	43	
五代砂留	K7-111	鉗片	黒色安山岩	27	25	8	3.4		細色帶	3	46,387,095	-64,351,830	145,183	124	43	
五代砂留	K7-112	鉗片	黒色安山岩	12	16	3	0.5		細色帶	3	46,386,794	-64,351,934	144,947			
五代砂留	K7-113	鉗片	黒色安山岩	11	9	3	0.3		細色帶	3	46,386,680	-64,351,981	144,941			
五代砂留	K7-114	鉗片	黒色安山岩	26	12	3	0.8		細色帶	3	46,386,708	-64,352,090	144,943	124	44	
五代砂留	K7-115	鉗片	黒色安山岩	21	19	4	4.7		細色帶	3	46,386,715	-64,352,109	144,949			
五代砂留	K7-116	鉗片	黒色安山岩	25	18	4	2.2		細色帶	3	46,386,830	-64,352,327	145,186			
五代砂留	K7-117	鉗片	珪質頁岩	27	24	8	6.1		細色帶	3	46,386,942	-64,352,332	144,953			
五代砂留	K7-118	鉗片	黒色安山岩	12	23	8	1.8		細色帶	3	46,386,874	-64,352,600	145,020			
五代砂留	K7-119	右石	ホルンフェルス	100	114	51	132.0		細色帶	3	46,387,820	-64,351,313	145,183	115+123	39+43	
五代砂留	K7-120	遺物	ホルンフェルス	-	-	0.9	0.9		細色帶	3	46,386,853	-64,352,682	145,078			
五代砂留	K7-121	鉗片	黒色安山岩	22	11	11	1.8		細色帶	3	46,386,753	-64,352,749	145,105	124	44	
五代砂留	K7-122	鉗片	黒色安山岩	14	12	4	0.6		細色帶	3	46,386,728	-64,352,254	145,111			
五代砂留	K7-123	鉗片	黒色安山岩	25	20	11	6.7		細色帶	3	46,387,246	-64,352,857	145,076			
五代砂留	K7-124	鉗片	黒色安山岩	34	20	12	7.5		細色帶	3	46,388,354	-64,351,117	145,113	123	43	
五代砂留	K7-125	鉗片	黒色安山岩	19	16	7	1.1		細色帶	3	46,387,842	-64,350,621	145,193			
五代砂留	K7-126	加工成ある鉗片	珪質頁岩	42	25	11	0.9		細色帶	3	46,387,510	-64,350,818	145,085	108	35	
五代砂留	K7-127	右石	黒色安山岩	47	62	26	57.6		細色帶	3	46,387,300	-64,351,409	144,914	116	39	
五代砂留	K7-128	石核	黒色安山岩	47	45	24	49.6		細色帶	3	46,387,820	-64,351,313	145,169	115+123	39+43	
五代砂留	K7-129	鉗片	チャート	28	43	10	10.8		細色帶	3	46,392,861	-64,350,672	145,190	127	45	
五代砂留	K7-130	鉗片	黒色安山岩	31	40	14	19.8		細色帶	3	46,392,697	-64,350,969	145,126			
五代砂留	K7-131	石核	黒色安山岩	56	47	24	78.0		細色帶	3	46,392,684	-64,350,523	145,147	115	39	
五代砂留	K7-132	鉗片	チャート	44	44	13	23.2		細色帶	3	46,392,299	-64,349,571	145,173	127	45	
五代砂留	K7-133	鉗片	黒色安山岩	43	34	9	11.8		細色帶	3	46,392,449	-64,350,269	145,249			
五代砂留	K7-134	鉗片	黒色安山岩	15	30	7	3.4		細色帶	3	46,392,429	-64,350,337	145,203			
五代砂留	K7-135	石核	黒色安山岩	71	42	21	51.4		細色帶	3	46,392,419	-64,350,637	145,183	124	44	
五代砂留	K7-136	鉗片	黒色安山岩	29	39	18	18.7		細色帶	3	46,392,300	-64,350,957	145,213			
五代砂留	K7-137	鉗片	チャート	31	48	10	16.7		細色帶	3	46,392,301	-64,351,333	145,158	127	45	
五代砂留	K7-138	鉗片	黒色安山岩	11	14	4	0.6		細色帶	3	46,392,340	-64,351,803	145,176			
五代砂留	K7-139	鉗片	黒色安山岩	15	18	4	1.1		細色帶	3	46,392,096	-64,350,513	145,240			
五代砂留	K7-140	火番														
五代砂留	K7-141	鉗片	黒色安山岩	29	14	6	1.3		細色帶	3	46,391,678	-64,346,544	145,086	124	44	
五代砂留	K7-142	鉗片	黒色安山岩	30	20	8	3.6		細色帶	3	46,391,588	-64,350,137	145,220	124	44	
五代砂留	K7-143	鉗片	チャート	32	34	9	6.0		細色帶	3	46,391,280	-64,349,549	145,015	127	45	
五代砂留	K7-144	鉗片	チャート	39	55	13	25.5		細色帶	3	46,391,886	-64,350,799	145,202	127	45	
五代砂留	K7-145	石核	チャート	63	78	22	89.7		細色帶	3	46,391,002	-64,351,294	145,086	114+127	38+45	
五代砂留	K7-146	使用痕のある鉗片	チャート	33	21	9	5.6		細色帶	3	46,391,428	-64,351,795	145,281	110	36	
五代砂留	K7-147	鉗片	和鶴舞石安山岩	17	23	6	2.1		細色帶	3	46,391,154	-64,350,269	145,235			
五代砂留	K7-148	鉗片	チャート	43	28	8	9.8		細色帶	3	46,391,134	-64,349,768	145,063			
五代砂留	K7-149	鉗片	加工成ある鉗片	黒色安山岩	30	12	8	2.1		細色帶	3	46,390,363	-64,349,388	145,161	108+124	34+44
五代砂留	K7-150	鉗片	黒色安山岩	18	32	9	3.6		細色帶	3	46,390,002	-64,349,597	145,397			
五代砂留	K7-151	鉗片	黒色安山岩	52	28	11	15.9		細色帶	3	46,389,137	-64,350,748	145,252	108+124	34+44	
五代砂留	K7-152	鉗片	珪質頁岩	27	41	11	13.4	全面赤化	細色帶	3	46,390,048	-64,350,999	145,124			
五代砂留	K7-153	鉗片	黒色安山岩	18	25	9	2.9		細色帶	3	46,390,284	-64,351,211	145,170			
五代砂留	K7-154	鉗片	黒色安山岩	38	40	14	21.7		細色帶	3	46,394,327	-64,350,515	145,262	124	44	
五代砂留	K7-155	鉗片	黒色頁岩	47	22	39	7.2		細色帶	3	46,393,360	-64,352,274	145,178			
五代砂留	K7-156	鉗片	チャート	40	20	11	6.4		細色帶	3	46,393,009	-64,352,324	145,361	128	45	
五代砂留	K7-157	鉗片	ホルンフェルス	132	95	50	827.0		細色帶	3	46,392,750	-64,352,163	145,128			
五代砂留	K7-158	鉗片	黒色安山岩	34	20	10	5.4		細色帶	3	46,394,143	-64,352,774	145,307			
五代砂留	K7-159	鉗片	珪質頁岩	20	17	9	3.0		細色帶	3	46,393,943	-64,351,748	145,252	126	44	
五代砂留	K7-160	鉗片	チャート	53	40	6	20.4		細色帶	3	46,393,363	-64,351,680	145,228			
五代砂留	K7-161	鉗片	黒色頁岩	24	41	5	5.3		細色帶	3	46,393,286	-64,351,453	145,159			
五代砂留	K7-162	鉗片	青面赤灰岩	34	42	14	23.4		細色帶	3	46,393,520	-64,354,674	145,307			
五代砂留	K7-163	加工成ある鉗片	黒色頁岩	23	36	13	9.3		細色帶	3	46,392,278	-64,352,526	145,275	108	35	
五代砂留	K7-164	鉗片	黒色安山岩	59	67	21	66.7		細色帶	3	46,392,364	-64,352,809	145,197			
五代砂留	K7-165	鉗片	黒色頁岩	18	15	2	0.7		細色帶	3	46,389,986	-64,354,654	145,227			
五代砂留	K7-166	鉗片	チャート	68	66	16	37.9		細色帶	3	46,389,574	-64,354,630	145,225	127	45	
五代砂留	K7-167	鉗片	黒色頁岩	27	20	6	2.6		細色帶	3	46,390,206	-64,355,000	145,245			
五代砂留	K7-168	鉗片	黒色頁岩	29	54	9	12.3		細色帶	3	46,390,595	-64,355,422	144,884	125	44	
五代砂留	K7-169	鉗片	和鶴舞石安山岩	81	46	31	104.0	全面赤化	細色帶	3	46,390,853	-64,355,704	144,923			
五代砂留	K7-170	鉗片	黒色頁岩	22	9	2	0.3		細色帶	3	46,391,064	-64,350,191	145,327			
五代砂留	K7-171	鉗片	黒色頁岩	29	41	7	11.3		細色帶	3	46,390,866	-64,350,444	145,245	125	44	
五代砂留	K7-172	石核	黒色頁岩	90	99	54	386.0		細色帶	3	46,390,403	-64,355,705	145,169	117+126	40+44	
五代砂留	K7-173	鉗片	黒色頁岩	197	84	48	1002.0		細色帶	3	46,390,418	-64,355,993	145,142	120	42	

## 遺物一覧表

遺跡	番号	器種名	石材名	段さ	幅	厚さ	重量	備考	柄位	文様類	X座標	Y座標	Z座標	P	
五代砂留	K7-174	圓片	黒色頁岩	41	37	15	20.9		褐色帶	3	46,390,028	-64,355,095	145,144	125	44
五代砂留	K7-175	圓片	黒色頁岩	48	41	9	17.3		褐色帶	3	46,390,048	-64,355,935	145,275		
五代砂留	K7-176	圓片	黒色頁岩	104	51	22	94.0	大型石器	褐色帶	3	46,390,085	-64,356,000	145,187	125	44
五代砂留	K7-177	圓片	ホルンフェルス	-	-	44.0	4.0	鉋鋸	褐色帶	3	46,389,807	-64,355,944	145,139		
五代砂留	K7-178	圓片	黒色頁岩	133	73	32	314.0	大型石器	褐色帶	3	46,389,707	-64,356,000	145,170	125	44
五代砂留	K7-179	圓片	黒色頁岩	26	28	9	54.9		褐色帶	3	46,389,782	-64,356,138	145,271		
五代砂留	K7-180	圓片	黒色頁岩	54	59	22	58.9		褐色帶	3	46,389,631	-64,355,935	145,170	125	44
五代砂留	K7-181	圓片	黒色頁岩	44	41	12	16.1		褐色帶	3	46,389,401	-64,355,918	145,266		
五代砂留	K7-182	使用ある圓片	桂葉頁岩	63	24	6	8.3		褐色帶	3	46,389,037	-64,355,680	145,067	110	36
五代砂留	K7-183	圓片	黒色安山岩	15	22	4	1.0		褐色帶	3	46,385,576	-64,355,539	145,865		
五代砂留	K7-184	圓片	ホルンフェルス	-	-	25.8	鉋鋸		褐色帶	3	46,385,749	-64,355,806	145,043		
五代砂留	K7-185	圓片	黒色安山岩	38	41	12	18.2		褐色帶	3	46,386,549	-64,354,647	145,244		
五代砂留	K7-186	圓片	黒色安山岩	25	22	20	9.7		褐色帶	3	46,386,430	-64,354,625	145,046	124	43
五代砂留	K7-187	石核	黒色安山岩	44	45	21	39.6		褐色帶	3	46,386,821	-64,355,990	145,027	112・124	37・43
五代砂留	K7-188	石核	黒色安山岩	43	52	10	21.7		褐色帶	3	46,386,760	-64,354,326	145,104		
五代砂留	K7-189	圓片	和田輝石安山岩	35	17	8	2.9		褐色帶	3	46,386,959	-64,354,447	145,306		
五代砂留	K7-190	石核	チート	30	51	21	32.4	赤色チャート	褐色帶	3	46,387,119	-64,354,428	145,275	111	37
五代砂留	K7-191	圓片	黒色安山岩	13	29	12	5.5		褐色帶	3	46,386,813	-64,355,176	145,059	124	43
五代砂留	K7-192	圓片	和田輝石安山岩	23	17	12	5.5		褐色帶	3	46,387,153	-64,355,123	145,277		
五代砂留	K7-193	欠矢													
五代砂留	K7-194	(石)	黒色頁岩	87	40	21	43.8		褐色帶	3	46,390,151	-64,350,153	145,261	111	37
五代砂留	K7-195	圓片	笠原	112	85	64	301.0		褐色帶	3	46,389,885	-64,350,072	145,175		
五代砂留	K7-196	(石)	チート	53	21	11	8.1		褐色帶	3	46,389,259	-64,350,763	145,245	111	36
五代砂留	K7-197	圓片	砂岩	30	14	11	5.5		褐色帶	3	46,389,194	-64,300,189	145,332		
五代砂留	K7-198	圓片	砂岩	33	25	16	18.3		褐色帶	3	46,389,228	-64,300,434	145,175		
五代砂留	K7-199	石核	黒色安山岩	62	94	68	49.0		褐色帶	3	46,392,180	-64,351,571	145,227	118	40
五代砂留	K7-200	石核	ホルンフェルス	87	71	50	426.0		褐色帶	3	46,391,706	-64,350,992	145,028	120	41
五代砂留	K7-201	石核	和田輝石安山岩	23	18	6	3.5		褐色帶	3	46,392,560	-64,356,758	145,171	110	36
五代砂留	K7-202	圓片	桂葉頁岩	29	30	7	2.3		褐色帶	3	46,394,636	-64,354,968	145,361	126	44
五代砂留	K7-203	圓片	桂葉頁岩	26	30	11	10.1		褐色帶	3	46,395,268	-64,355,725	145,317	107	34
五代砂留	K7-204	圓片	ホルンフェルス	196	96	53	223.0		褐色帶	3	46,396,512	-64,355,659	145,208	126	42
五代砂留	K7-205	石核	黒色安山岩	41	38	11	19.6		褐色帶	3	46,395,642	-64,354,421	145,259		
五代砂留	K7-206	圓片	ホルンフェルス	26	54	18	21.0		褐色帶	3	46,396,290	-64,359,138	145,344	129	46
五代砂留	K7-207	圓片	黒色頁岩	56	25	13	21.2		褐色帶	3	46,395,275	-64,361,745	145,348	126	44
五代砂留	K7-208	圓片	和田輝石安山岩	98	78	32	260.0	■彌	褐色帶	3	46,394,181	-64,361,919	145,296		
五代砂留	K7-209	圓片	和田輝石安山岩	64	41	18	40.1		褐色帶	3	46,394,032	-64,361,834	145,328		
五代砂留	K7-210	圓片	和田輝石安山岩	119	110	39	371.0	■彌	褐色帶	3	46,394,121	-64,361,977	145,325		
五代砂留	K7-211	石核	和田輝石安山岩	138	108	43	945.0	磨削痕?	褐色帶	3	46,393,843	-64,361,925	145,303	121	42
五代砂留	K7-212	圓片	和田輝石安山岩	73	60	23	97.0		褐色帶	3	46,393,758	-64,362,071	145,334		
五代砂留	K7-213	圓片	黒色安山岩	16	11	7	1.1		褐色帶	3	46,399,363	-64,366,364	145,259		
五代砂留	K7-214	圓片	和田輝石安山岩	80	62	46	279.0	■彌、口彌	褐色帶	3	46,400,424	-64,366,382	144,808		
五代砂留	K7-215	圓片	和田輝石安山岩	59	55	16	54.2	全面彫	褐色帶	3	46,400,991	-64,366,682	144,741		
五代砂留	K7-216	圓片	黒色安山岩	47	42	13	18.0		褐色帶	3	46,400,903	-64,367,226	145,073	123	43
五代砂留	K7-217	石核	チート	45	49	22	55.6		褐色帶	3	46,401,152	-64,367,623	145,917	113	38
五代砂留	K7-218	圓片	黒色安山岩	11	10	2	0.2		褐色帶	3	46,401,405	-64,366,443	144,944		
五代砂留	K7-219	圓片	黒色安山岩	22	22	6	2.1		褐色帶	3	46,401,828	-64,369,452	145,045	123	43
五代砂留	K7-220	石核	鉢	43	21	8	6.8		褐色帶	3	46,402,086	-64,366,337	145,187	111	36
五代砂留	K7-221	圓片	黒色安山岩	43	22	10	7.6		褐色帶	3	46,402,694	-64,362,505	145,918	123	43
五代砂留	K7-222	圓片	黒色安山岩	27	32	10	7.4		褐色帶	3	46,402,961	-64,361,383	145,793	123	43
五代砂留	K7-223	圓片	黒色安山岩	20	28	6	2.6		褐色帶	3	46,403,261	-64,362,316	145,810		
五代砂留	K7-224	圓片	黒色安山岩	15	23	10	2.0		褐色帶	3	46,403,538	-64,362,495	145,819	123	43
五代砂留	K7-225	圓片	和田輝石安山岩	57	54	33	116.6	兜形、口彌	褐色帶	3	46,401,517	-64,364,566	144,847		
五代砂留	K7-226	圓片	和田輝石安山岩	45	35	27	49.0	兜形、口彌	褐色帶	3	46,401,543	-64,364,653	144,826		
五代砂留	K7-227	圓片	黒色安山岩	34	29	11	11.3		褐色帶	3	46,401,086	-64,362,138	145,151		
五代砂留	K7-228	圓片	黒色頁岩	37	17	13	9.5		褐色帶	3	46,400,696	-64,365,066	144,883		
五代砂留	K7-229	圓片	黒色安山岩	23	22	6	3.0		褐色帶	3	46,400,511	-64,365,298	145,137		
五代砂留	K7-230	圓片	黒色安山岩	31	15	14	7.3		褐色帶	3	46,400,775	-64,365,066	145,139		
五代砂留	K7-231	圓片	チート	36	16	10	7.7		褐色帶	3	46,400,364	-64,365,035	145,260		
五代砂留	K7-232	圓片	黒色安山岩	24	38	18	15.2		褐色帶	3	46,400,641	-64,364,641	145,159		
五代砂留	K7-233	圓片	黒色安山岩	51	43	11	18.8		褐色帶	3	46,400,818	-64,364,013	145,089		
五代砂留	K7-234	圓片	チート	24	16	5	2.2		褐色帶	3	46,400,048	-64,364,690	145,073	111	36
五代砂留	K7-235	圓片	黒色安山岩	6	24	6	1.4		褐色帶	3	46,400,052	-64,364,694	144,083		
五代砂留	K7-236	加工ある圓片	黒色安山岩	47	36	14	23.7		褐色帶	3	46,400,050	-64,364,840	145,111	107	34
五代砂留	K7-237	圓片	和田輝石安山岩	36	27	12	12.2		褐色帶	3	46,400,217	-64,365,028	145,036	123	43
五代砂留	K7-238	圓片	黒色安山岩	6	11	3	0.2		褐色帶	3	46,399,791	-64,364,630	145,081		
五代砂留	K7-239	圓片	ホルンフェルス	154	86	96	915.0		褐色帶	3	46,399,773	-64,365,073	145,076	121	42
五代砂留	K7-240	圓片	黒色安山岩	33	32	14	15.1		褐色帶	3	46,399,195	-64,365,808	145,298	123	43
五代砂留	K7-241	圓片	ホルンフェルス	42	18	8	5.6		褐色帶	3	46,399,233	-64,365,241	145,316	123	43
五代砂留	K7-242	圓片	黒色頁岩	17	16	4	1.1		褐色帶	3	46,399,565	-64,364,626	145,132		
五代砂留	K7-243	圓片	自然石	6	14	6	1.2		褐色帶	3	46,398,944	-64,363,740	145,280		
五代砂留	K7-244	圓片	桂葉頁岩	119	111	57	988.0		褐色帶	3	46,398,546	-64,360,768	145,153		
五代砂留	K7-245	圓片	黒色頁岩	60	69	19	52.8		褐色帶	3	46,398,629	-64,359,777	145,229	125	44
五代砂留	K7-246	圓片	ホルンフェルス	52	76	30	115.5		褐色帶	3	46,398,863	-64,359,582	145,190	116	39
五代砂留	K7-247	石核	チート	34	17	7	3.6		褐色帶	3	46,399,209	-64,360,724	144,992	111	36
五代砂留	K7-248	圓片	チート	80	75	22	112.3		褐色帶	3	46,398,996	-64,356,241	145,219	114	38
五代砂留	K7-249	石核	ホルンフェルス	65	66	19	66.5		褐色帶	3	46,399,500	-64,359,967	145,151	129	46
五代砂留	K7-250	石核	ホルンフェルス	85	93	74	395.0		褐色帶	3	46,399,391	-64,360,097	145,117	111	40・46
五代砂留	K7-251	石核	桂葉頁岩	128	79	31	540.0		褐色帶	3	46,400,662	-64,359,693	145,042	119	41
五代砂留	K7-252	圓片	和田輝石安山岩	65	41	19	48.2		褐色帶	3	46,404,427	-64,360,666	144,672		
五代砂留	K7-253	圓片	ホルンフェルス	78	60	51	298.0		褐色帶	3	46,404,227	-64,358,176	144,807		
五代砂留	K7-254	削器	チート	46	37	17	33.6		褐色帶	3	46,405,790	-64,358,128	144,684	107	34

地點	番号	部種名	石材名	段さ	幅	厚さ	重さ	備考	部位	文化層	X座標	Y座標	Z座標	回	P.L.
五代砂留	K7-255	石柄	桂實白岩	57	30	24	33.3		褐色帶	3	46,405,904	-64,358,806	141,691	113	38
五代砂留	K7-256	礫片	砂岩	46	19	11	9.7		褐色帶	3	46,405,859	-64,358,052	144,393		
五代砂留	K7-257	礫片	砂岩	44	18	10	6.7		褐色帶	3	46,405,852	-64,358,061	144,402		
五代砂留	K7-258	礫片	砂玉	27	35	7	4.1		褐色帶	3	46,403,114	-64,353,255	144,876		
五代砂留	K7-259	石柄	チート	42	34	14	18.8		褐色帶	3	46,402,144	-64,353,426	144,957	112	37
五代砂留	K7-260	石柄	ホルンフェルス	79	74	39	461.0	k-7-261と複合	褐色帶	3	46,400,290	-64,354,119	145,957		
五代砂留	K7-261	石柄	ホルンフェルス	142	74	36	303.0	k-7-262と複合	褐色帶	3	46,399,951	-64,354,068	145,981		
五代砂留	K7-262	石柄	ホルンフェルス	129	105	49	959.0	古墳時代	褐色帶	3	46,399,742	-64,354,083	145,073	121	42
五代砂留	K7-263	礫	粗粒輝石安山岩	81	57	25	152.8	編平円溝	褐色帶	3	46,399,395	-64,354,414	144,899		
五代砂留	K7-264	砂岩	チート	37	21	14	7.8		褐色帶	3	46,399,133	-64,355,169	145,169		
五代砂留	K7-265	礫	砂岩	77	56	51	236.0	磨耗痕?	褐色帶	3	46,397,881	-64,355,856	145,156		
五代砂留	K7-266	自然石	黒色安山岩	66	26	13	18.7		褐色帶	3	46,397,836	-64,355,223	145,142		73
五代砂留	K7-267	砂岩	砂玉	21	12	6	1.0		褐色帶	3	46,398,628	-64,354,864	145,156		
五代砂留	K7-268	自然石	チート	26	23	15	10.1	亜角礫	褐色帶	3	46,399,164	-64,352,291	145,238		
五代砂留	K7-269	使用瓶ある鉄削	砂玉	24	22	8	3.4		褐色帶	3	46,398,478	-64,351,639	145,258		
五代砂留	K7-270	鉄削	チート	42	21	11	8.7		褐色帶	3	46,398,207	-64,351,934	145,165	128	46
五代砂留	K7-271	鉄削	チート	31	42	21	22.3		褐色帶	3	46,397,614	-64,352,151	145,202	128	46
五代砂留	K7-272	石柄	チート	29	56	39	53.7		褐色帶	3	46,397,965	-64,351,698	145,172	112 • 128 • 37 • 46	
五代砂留	K7-273	鉄削	チート	56	33	25	31.7		褐色帶	3	46,397,947	-64,351,530	145,154	128	46
五代砂留	K7-274	石柄	チート	49	54	25	67.3		褐色帶	3	46,397,620	-64,351,753	145,137	111 • 128 • 37 • 46	
五代砂留	K7-275	鉄削	黒色安山岩	17	20	6	1.4		褐色帶	3	46,395,836	-64,351,688	145,344		
五代砂留	K7-276	鉄削	チート	24	26	6	3.6		褐色帶	3	46,396,474	-64,350,447	145,070		
五代砂留	K7-277	鉄削	ホルンフェルス	29	66	11	19.3		褐色帶	3	46,402,625	-64,340,643	144,811		
五代砂留	K7-278	鉄削	ホルンフェルス	36	44	15	14.7		褐色帶	3	46,401,761	-64,345,095	145,265		
五代砂留	K7-279	礫片	ホルンフェルス	59	36	23	44.4		褐色帶	3	46,401,478	-64,340,829	144,886		
五代砂留	K7-280	鉄削	ホルンフェルス	25	38	9	11.4		褐色帶	3	46,400,963	-64,342,418	144,951		
五代砂留	K7-281	鉄削	黒色安山岩	38	37	18	19.8		褐色帶	3	46,400,532	-64,341,094	145,010	124	44
五代砂留	K7-282	鉄削	ホルンフェルス	29	49	48	65.0		褐色帶	3	46,400,750	-64,346,360	145,009	113 • 128 • 37 • 44	
五代砂留	K7-283	加工ある鉄削	ホルンフェルス	82	20	26	165.0		褐色帶	3	46,400,043	-64,346,882	144,953	306	36
五代砂留	K7-284	石柄	桂實白岩	51	47	26	95.0		褐色帶	3	46,399,896	-64,346,650	145,119	39	
五代砂留	K7-285	加工ある鉄削	ホルンフェルス	67	47	20	56.0		褐色帶	3	46,399,990	-64,346,705	144,994	198	38
五代砂留	K7-286	礫	黒色安山岩	112	35	51	460.0	柳状切削痕	褐色帶	3	46,399,898	-64,346,608	144,958		
五代砂留	K7-287	使用瓶ある鉄削	チート	41	35	12	22.0		褐色帶	3	46,400,185	-64,346,335	145,196	110	36
五代砂留	K7-288	加工ある鉄削	チート	50	38	14	25.9		褐色帶	3	46,406,803	-64,340,730	143,103	108 • 128 • 38 • 46	
五代砂留	K7-289	加工ある鉄削	チート	43	33	12	17.0		褐色帶	3	46,396,188	-64,347,468	145,101	108 • 128 • 35 • 46	
五代砂留	K7-290	礫片	ホルンフェルス	162	109	58	1320.0	完形、扁平圓	褐色帶	3	46,395,386	-64,347,318	145,113		
五代砂留	K7-291	石柄	桂實白岩	39	40	20	27.3		褐色帶	3	46,395,508	-64,346,556	145,197	115	39
五代砂留	K7-292	石柄	桂實白岩	47	46	15	28.8		褐色帶	3	46,395,357	-64,346,152	145,253	116	39
五代砂留	K7-293	礫	砂岩	112	90	50	60.0		褐色帶	3	46,401,825	-64,345,440	144,797		
五代砂留	K7-294	礫	砂岩	—	—	—	—	計削り痕	粉砂	3	46,401,850	-64,345,368	144,815		
五代砂留	K7-295	礫	砂岩	—	—	—	—	—	粉砂	3	46,401,798	-64,345,328	144,802		
五代砂留	K7-296	礫	砂岩	—	—	—	—	—	粉砂	3	46,401,760	-64,345,369	144,823		
五代砂留	K7-297	礫	砂岩	—	—	—	—	—	粉砂	3	46,401,713	-64,345,363	144,834		
五代砂留	K7-298	礫	砂岩	—	—	—	—	計削り痕	粉砂	3	46,401,696	-64,345,366	144,832		
五代砂留	K7-299	礫片	粗粒輝石安山岩	54	42	18	41.9		褐色帶	3	46,401,136	-64,345,671	144,658		
五代砂留	K7-300	自然石	桂實白岩	53	35	27	56.1		褐色帶	3	46,400,851	-64,343,961	144,485		
五代砂留	K7-301	鉄削	粗粒輝石安山岩	42	21	24	32.9	白色石?	褐色帶	3	46,400,299	-64,345,955	144,503		
五代砂留	K7-302	鉄削	ホルンフェルス	156	109	35	906.0		褐色帶	3	46,398,577	-64,341,131	145,019		
五代砂留	K7-303	鉄削	桂實白岩	27	23	8	8.1		褐色帶	3	46,401,061	-64,341,843	144,663		
五代砂留	K7-304	鉄削	桂實白岩	75	27	22	52.8	柳状切削痕	褐色帶	3	46,402,071	-64,340,325	144,811		
五代砂留	K7-305	鉄削	ホルンフェルス	31	25	10	10.0		褐色帶	3	46,410,081	-64,352,314	145,806		
五代砂留	K7-306	鉄削	桂實白岩	59	31	13	11.8	白色石?	褐色帶	3	46,412,823	-64,353,862	145,762		
五代砂留	K7-307	鉄削	黒色安山岩	24	27	14	6.1		褐色帶	3	46,413,779	-64,352,961	145,668		
五代砂留	K7-308	鉄削	桂實白岩	25	12	8	1.9		褐色帶	3	46,415,238	-64,352,842	145,415		
五代砂留	K7-309	鉄削	黒色安山岩	15	17	6	1.1		褐色帶	3	46,415,993	-64,353,049	145,251		
五代砂留	K7-310	鉄削	黒色安山岩	40	20	22	19.0	熟成石?	褐色帶	3	46,415,598	-64,351,769	145,165		
五代砂留	K7-311	鉄削	黒色安山岩	44	38	29	38.5		褐色帶	3	46,414,364	-64,350,066	145,460	124	44
五代砂留	K7-312	鉄削	チート	51	65	22	63.5		褐色帶	3	46,413,368	-64,351,435	145,535	126	45
五代砂留	K7-313	鉄削	チート	28	29	8	5.6		褐色帶	3	46,413,997	-64,350,896	145,631	126	45
五代砂留	K7-314	鉄削	チート	27	19	5	2.3		褐色帶	3	46,414,283	-64,350,963	145,579	126	45
五代砂留	K7-315	礫片	粗粒輝石安山岩	36	25	16	11.2	白色石?	褐色帶	3	46,414,589	-64,350,891	145,576		
五代砂留	K7-316	石柄	桂實白岩	24	30	25	18.6	熟成石?	褐色帶	3	46,415,167	-64,350,698	145,407		
五代砂留	K7-317	鉄削	チート	37	35	9	9.4		褐色帶	3	46,415,540	-64,350,523	145,434	126	45
五代砂留	K7-318	鉄削	黒色安山岩	16	17	5	0.9		褐色帶	3	46,415,931	-64,351,004	144,460		
五代砂留	K7-319	鉄削	チート	15	15	4	0.6		褐色帶	3	46,416,756	-64,350,905	145,398		
五代砂留	K7-320	自然石	輝葉凝灰岩	24	22	12	8.7	風化?	褐色帶	3	46,418,086	-64,350,927	143,048		
五代砂留	K7-321	自然石	輝葉凝灰岩	24	12	9	1.6		褐色帶	3	46,416,457	-64,350,082	143,378		
五代砂留	K7-322	鉄削	チート	26	15	6	1.7		褐色帶	3	46,416,540	-64,349,667	143,459	126	45
五代砂留	K7-323	鉄削	チート	20	11	4	0.9		褐色帶	3	46,415,950	-64,349,858	143,348	126	45
五代砂留	K7-324	鉄削	チート	23	11	6	1.3		褐色帶	3	46,414,387	-64,350,173	143,406	126	45
五代砂留	K7-325	鉄削	チート	16	21	6	1.9		褐色帶	3	46,414,687	-64,349,965	143,678		
五代砂留	K7-326	鉄削	チート	14	32	12	5.7		褐色帶	3	46,414,238	-64,348,992	143,557		
五代砂留	K7-327	石柄	チート	38	72	83	380.0		褐色帶	3	46,413,532	-64,349,847	143,555	119 • 128 • 41 • 45	
五代砂留	K7-328	石柄	ホルンフェルス	133	123	55	1106.0	扁平圓	褐色帶	3	46,413,356	-64,349,737	143,557	121	42
五代砂留	K7-329	鉄削	チート	43	22	15	13.0		褐色帶	3	46,413,277	-64,340,300	143,717	126	45
五代砂留	K7-330	鉄削	チート	41	49	12	21.3		褐色帶	3	46,412,915	-64,340,088	143,604	126	45
五代砂留	K7-331	鉄削	桂實白岩	7	6	2	0.1		褐色帶	3	46,388,210	-64,349,000	143,656		
五代砂留	K7-332	自然石	泥岩	16	16	8	2.4		褐色帶	3	46,385,482	-64,351,965	143,058		
五代砂留	K7-333	自然石	泥岩	12	7	5	0.6		褐色帶	3	46,385,462	-64,351,551	143,058		
五代砂留	K7-334	礫片	黒色安山岩	13	5	3	0.2		褐色帶	3	46,386,152	-64,351,386	143,058		
五代砂留	K7-335	石柄	黒色安山岩	30	41	19	25.6		褐色帶	3	46,386,515	-64,351,498	143,901	112	37

## 遺物一覧表

遺跡	番号	器種名	石材名	段さ	幅	厚さ	重量	備考	位相	文化層	X座標	Y座標	Z座標	回	P.L.
五ヶ砂原	K7-329	鉗片	黒色安山岩	10	12	4	0.4		褐色帶	3	46,386,563	-64,351,800	145,016		
五ヶ砂原	K7-337	鉗片	黒色安山岩	9	9	3	0.3		褐色帶	3	46,386,367	-64,351,602	144,949		
五ヶ砂原	K7-338	鉗片	黒色安山岩	6	5	3	0.1		褐色帶	3	46,386,327	-64,351,646	144,958		
五ヶ砂原	K7-339	自然石	砂岩	17	12	10	2.5		褐色帶	3	46,386,738	-64,352,046	144,930		
五ヶ砂原	K7-340	自然石	黒色頁岩	18	11	6	1.6		褐色帶	3	46,387,860	-64,350,794	144,281	73	
五ヶ砂原	K7-341	自然石	黒色頁岩	19	9	6	1.3	穴形、小溝	褐色帶	3	46,305,442	-64,355,668	144,891		
五ヶ砂原	K7-342	鉗片	黒色安山岩	34	20	17	6.0		褐色帶	3	46,413,747	-64,352,935	143,493	124	44
五ヶ砂原	K7-343	鉗片	チャート	15	23	8	2.3		褐色帶	3	46,413,548	-64,349,812	143,522	126	45
五ヶ砂原	K7-344	鉗片	黒色安山岩	14	13	3	0.4		褐色帶	3	46,386,152	-64,351,409	144,960		
五ヶ砂原	K7-345	自然石	黒色頁岩	18	12	6	1.2		褐色帶	3	46,386,152	-64,351,409	144,960		
五ヶ砂原	K7-346	自然石	輝緑輝灰岩	9	8	5	0.4		褐色帶	3	46,386,152	-64,351,409	144,960		
五ヶ砂原	K7-347	自然石	輝緑輝灰岩	14	7	3	0.3		褐色帶	3	46,386,152	-64,351,409	144,960		
西青東原	11	鉗片	黒色頁岩	77	39	17	49.2		1	46,796,279	-65,226,876	144,731	155	53	
西青東原	12	鉗片	黒色安山岩	32	20	8	5.5		1	46,797,420	-65,226,596	144,970			
西青東原	13	鉗片	黒色頁岩	20	18	5	2.7		1	46,796,956	-65,226,692	145,073			
西青東原	14	鉗片	黒色頁岩	18	21	5	2.4		1	46,795,882	-65,226,861	144,383			
西青東原	15	鉗片	黒色頁岩	71	46	10	15.7		1	46,796,179	-65,226,009	144,873	155	53	
西青東原	16	鉗片	黒色安山岩	35	30	12	11.5		1	46,794,243	-65,226,263	144,811	153	52	
西青東原	17	鉗片	黒色安山岩	28	26	10	5.4		1	46,794,049	-65,226,677	144,325			
西青東原	18	鉗片	黒色安山岩	26	39	11	8.4		1	46,793,707	-65,226,514	144,648	153	52	
西青東原	19	鉗片	黒色安山岩	40	29	9	10.7		1	46,793,972	-65,221,166	144,905	153	52	
西青東原	100	石片	黒色頁岩	106	25	15	35.7		1	46,793,496	-65,228,844	144,604	148	49	
西青東原	111	鉗片	黒色頁岩	54	35	15	20.5		1	46,784,888	-65,210,669	144,650			
西青東原	112	鉗片	黒色安山岩	27	25	6	4.0		1	46,786,084	-65,209,963	144,826			
西青東原	113	鉗片	黒色頁岩	62	36	17	34.5		1	46,795,571	-65,208,984	144,758			
西青東原	114	鉗片	黒色安山岩	34	35	8	8.7		1	46,784,938	-65,208,350	145,032			
西青東原	115	鉗片	黒色安山岩	28	40	7	9.8		1	46,782,536	-65,207,627	144,813			
西青東原	116	鉗片	黒色頁岩	90	102	24	235.0		1	46,781,744	-65,206,470	144,582	155	53	
西青東原	117	石片	黒色安山岩	39	76	25	63.4		1	46,781,830	-65,206,464	144,607	151	51	
西青東原	118	鉗片	黒色安山岩	80	42	24	56.9		1	46,782,052	-65,206,296	144,616	153	52	
西青東原	119	鉗片	黒色安山岩	32	71	25	66.6		1	46,782,022	-65,206,255	144,609	153	52	
西青東原	120	鉗片	和田輝石安山岩	218	167	77	227.4	■円錐	1	46,797,101	-65,225,382	145,189			
西青東原	121	鉗片	和田輝石安山岩	75	49	23	85.6	■円錐	1	46,796,634	-65,225,701	145,105			
西青東原	122	鉗片	和田輝石安山岩	65	41	32	82.9	■円錐	1	46,796,590	-65,225,774	145,142			
西青東原	123	鉗片	和田輝石安山岩	163	144	69	1615.0	■円錐	1	46,796,634	-65,225,884	145,089			
西青東原	124	鉗片	和田輝石安山岩	217	155	58	1390.0	■円錐	1	46,796,371	-65,225,692	145,154			
西青東原	125	鉗片	和田輝石安山岩	138	129	28	147.0	■角錐	1	46,796,284	-65,225,568	145,117			
西青東原	126	鉗片	和田輝石安山岩	114	80	41	426.0	全面赤	1	46,795,193	-65,229,878	145,016			
西青東原	127	礫	和田輝石安山岩	125	95	65	79.0	全面赤	1	46,795,142	-65,225,480	145,045			
西青東原	128	鉗片	和田輝石安山岩	177	104	56	70.0	全面赤	1	46,794,738	-65,225,972	145,028			
西青東原	129	鉗片	和田輝石安山岩	181	172	49	126.0	全面赤	1	46,794,673	-65,225,759	145,000			
西青東原	130	鉗片	和田輝石安山岩	94	78	49	23.0	全面赤	1	46,794,602	-65,225,983	145,031			
西青東原	131	鉗片	和田輝石安山岩	127	105	44	57.8	全面赤	1	46,794,429	-65,226,032	145,018			
西青東原	132	鉗片	和田輝石安山岩	86	76	36	197.6	全面赤	1	46,794,464	-65,225,937	145,004			
西青東原	133	鉗片	和田輝石安山岩	120	64	48	269.0	全面赤	1	46,794,490	-65,225,807	145,009			
西青東原	134	鉗片	和田輝石安山岩	171	100	36	249.0		1	46,794,396	-65,225,302	145,025			
西青東原	135	鉗片	和田輝石安山岩	74	76	25	103.7		1	46,794,259	-65,225,222	145,045			
西青東原	136	自然石	石英	35	31	16	23.5	砧品片付箇面	1	46,798,049	-65,225,684	144,669			
西青東原	137	鉗片	黒色頁岩	52	37	12	26.9		1	46,796,838	-65,225,295	145,197	154	52	
西青東原	138	ナイフ形石器	黒色頁岩	41	20	8	8.6		1	46,796,628	-65,224,966	144,385	148	49	
西青東原	139	鉗片	黒色頁岩	35	43	11	13.6		1	46,796,923	-65,224,483	145,192	154	52	
西青東原	140	鉗片	黒色安山岩	23	31	6	4.3		1	46,796,413	-65,224,582	145,913			
西青東原	141	石核	黒色頁岩	56	45	16	48.8		1	46,796,275	-65,225,209	144,911	151	51	
西青東原	142	断面	黒色頁岩	75	57	23	99.3		1	46,796,183	-65,225,377	144,864	148	49	
西青東原	143	鉗片	黒色頁岩	17	21	10	3.9		1	46,795,836	-65,225,850	144,872			
西青東原	144	ガリガリ	蝶形	-	-	-	-	146ガリガリ	1	46,794	なし	なし	なし		
西青東原	145	ガリガリ	蝶形	-	-	-	-	146ガリガリ	1	46,794	なし	なし	なし		
西青東原	146	石片	黒色頁岩	53	32	4	8.6	144+145が縫合	1	46,795,280	-65,224,123	145,216			
西青東原	147	鉗片	黒色安山岩	50	31	16	29.0		1	46,793,525	-65,225,469	144,984	154	52	
西青東原	148	鉗片	黒色頁岩	15	25	5	1.8		1	46,793,437	-65,225,496	144,886	154	52	
西青東原	149	鉗片	黒色安山岩	27	32	11	6.6		1	46,792,426	-65,225,789	144,744	153	52	
西青東原	150	自然石	和田輝石安山岩	22	18	7	3.3		1	46,792,772	-65,226,480	144,555			
西青東原	151	石片	黒色頁岩	59	51	11	41.7	微細刻跡	1	46,792,982	-65,229,193	144,499	149	50	
西青東原	152	鉗片	黒色安山岩	50	49	12	22.7		1	46,785,271	-65,205,137	144,901	154	52	
西青東原	153	石片	黒色安山岩	64	38	10	26.1		1	46,784,871	-65,204,475	144,840	149	52	
西青東原	154	鉗片	黒色頁岩	47	44	12	19.1		1	46,784,290	-65,204,825	144,765	154	53	
西青東原	155	鉗片	黒色頁岩	21	42	6	6.8		1	46,783,971	-65,205,595	144,860	154	53	
西青東原	156	鉗片	黒色安山岩	61	50	15	58.8		1	46,783,157	-65,204,840	144,745	153	52	
西青東原	157	鉗片	黒色安山岩	31	49	19	46.1		1	46,781,652	-65,205,990	144,641	154	52	
西青東原	158	石核	黒色頁岩	59	42	18	54.6		1	46,790,956	-65,225,596	144,993	152	51	
西青東原	159	鉗片	黒色安山岩	28	66	10	23.2		1	46,791,431	-65,222,985	144,762	154	52	
西青東原	160	加工工具ある鉗片	黒色安山岩	65	57	19	62.1		1	46,791,872	-65,222,998	144,764	149	50	
西青東原	161	断面	黒色頁岩	60	53	21	69.6		1	46,791,923	-65,222,999	144,770	148	49	
西青東原	162	加工工具ある鉗片	黒色頁岩	62	65	20	70.6		1	46,792,365	-65,222,868	144,779	149	49	
西青東原	163	鉗片	黒色安山岩	22	19	5	2.8		1	46,792,497	-65,225,819	144,900			
西青東原	164	鉗片	黒色安山岩	19	16	3	1.1		1	46,792,694	-65,222,358	144,907			
西青東原	165	鉗片	黒色安山岩	60	26	8	10.3		1	46,792,812	-65,226,270	144,861			
西青東原	166	鉗片	黒色安山岩	32	26	4	3.6		1	46,792,662	-65,222,966	144,839			
西青東原	167	鉗片	和田輝石安山岩	32	25	10	30.3		1	46,793,151	-65,223,143	144,782			
西青東原	168	鉗片	黒色安山岩	19	17	3	1.1		1	46,793,131	-65,223,788	144,934			
西青東原	169	鉗片	黒色安山岩	71	31	16	22.4		1	46,793,859	-65,223,670	144,921	154	52	

方質東部	番号	器種名	石材名	段さ	幅	厚さ	重量	備考	耐位	文化層	測定層	堆標	固	P.L.	
方質東部	170	刮片	黒色安山岩	21	18	7	2.2			1	46,794,353	-65,221,196	144,829		
方質東部	171	刮片	玉純	45	24	10	11.8	玉純		1	46,794,941	-65,223,383	144,880	155	53
方質東部	172	石刃	黒色頁岩	94	41	18	72.9			1	46,794,725	-65,222,807	144,924	150	50
方質東部	173	石刃	黒色頁岩	83	33	12	39.7			1	46,794,494	-65,222,053	144,953	150	50
方質東部	174	刮片	黒色安山岩	28	18	6	2.7			1	46,794,918	-65,221,507	144,929		
方質東部	175	刮片	黒色頁岩	34	39	7	9.1			1	46,793,969	-65,221,095	144,902	156	53
方質東部	176	加工砾ある刮片	黒色安山岩	70	54	19	68.6			1	46,793,950	-65,220,902	144,872	149	50
方質東部	177	石刃	黒色安山岩	66	19	10	10.1	磨削跡		1	46,793,234	-65,221,041	144,866	149	50
方質東部	178	刮片	黒色安山岩	15	19	12	2.3			1	46,792,275	-65,221,876	144,883		
方質東部	179	刮片	黒色安山岩	29	17	6	3.9			1	46,791,877	-65,221,827	144,832		
方質東部	180	刮片	黒色安山岩	31	67	9	27.7			1	46,791,194	-65,203,457	144,676	154	52
方質東部	181	石核	黒色頁岩	69	54	34	111.0			1	46,790,969	-65,223,085	144,668	151	51
方質東部	182	石刃	黒色頁岩	85	33	15	52.0			1	46,794,355	-65,222,191	144,894	156	51
方質東部	183	石刃	白雲母輝石安山岩	254	136	101	945.0	李門謹		1	46,794,436	-65,222,125	144,846		
方質東部	184	石核	黒色頁岩	116	134	108	234.0			1	46,794,099	-65,221,626	144,877	132 + 156	52 + 53
方質東部	185	石刃	黒色頁岩	65	42	15	61.3			1	46,796,132	-65,221,255	144,006	150	50
方質東部	186	刮片	黒色安山岩	14	12	3	0.5			1	46,794,158	-65,222,364	144,818		
方質東部	187	刮片	黒色安山岩	15	18	6	1.7			1	46,794,648	-65,222,385	145,182		
方質東部	188	刮片	黒色安山岩	19	27	8	4.0			1	46,793,604	-65,221,225	145,721		
方質東部	189	刮片	黒色安山岩	36	33	11	36.2			1	46,789,728	-65,215,591	144,715	153	52
方質東部	190	礫	粗面輝石安山岩	126	100	67	915.0	耕利恵		1	46,793,078	-65,220,005	144,860		
方質東部	191	礫	粗面輝石安山岩	208	147	145	5635.0	李尚尚		1	46,790,038	-65,219,194	144,677		
方質東部	192	刮片	黒色安山岩	44	51	18	40.8			1	46,791,971	-65,219,972	144,823	154	52
方質東部	193	石核	黒色安山岩	73	62	31	83.4			1	46,789,680	-65,220,402	144,637	151	51
方質東部	194	石刃	黒色頁岩	42	19	14	11.7			1	46,792,422	-65,220,376	144,837	148	49
方質東部	195	石刃	黒色頁岩	86	37	11	33.2			1	46,791,867	-65,220,365	144,817	150	51
方質東部	196	刮片	黒色安山岩	21	24	5	2.4			1	46,788,842	-65,217,869	144,723		
方質東部	197	石核	黒色安山岩	33	42	25	39.9			1	46,789,088	-65,218,669	144,688	152	54
方質東部	198	刮片	黒色安山岩	52	35	25	44.5			1	46,790,620	-65,219,653	144,804		
方質東部	199	刮片	黒色安山岩	36	34	12	19.3			1	46,790,618	-65,219,653	144,754	154	52
方質東部	200	刮片	黒色安山岩	34	36	9	10.9			1	46,788,769	-65,219,195	144,836		
方質東部	201	刮片	黒色安山岩	61	44	11	30.6			1	46,789,749	-65,217,882	144,621	153	52
方質東部	202	砾	黒色頁岩	92	70	26	170.4			1	46,786,714	-65,215,317	144,396	148	49
方質東部	203	刮片	黑曜石	15	18	4	0.9			2	46,511,717	-64,099,579	145,986		
方質東部	204	自然石	雲母石英片岩	25	23	15	14.4			2	46,513,065	-64,096,864	146,012	73	
方質東部	205	刮片	黒色頁岩	25	42	10	16.8			2	46,563,480	-64,099,160	145,331	167	57
方質東部	206	石刃	黒色頁岩	100	29	11	26.9			2	46,561,912	-64,099,442	145,325	162	54
方質東部	207	刮片	黒色安山岩	26	24	8	2.8	V中		2	46,540,758	-64,039,815	146,078	164	56
方質東部	208	刮片	黒色頁岩	22	42	5	4.1	V上		2	46,540,979	-64,041,226	146,093		
方質東部	209	刮片	黒色安山岩	14	21	6	1.8	V上		2	46,540,570	-64,039,569	146,037		
方質東部	210	刮片	黒色安山岩	11	19	2	0.5	V中		2	46,542,509	-64,040,574	146,139		
方質東部	211	刮片	黒色安山岩	29	23	10	5.7	V下		2	46,542,339	-64,040,174	146,089		
方質東部	212	刮片	黒色安山岩	28	18	10	3.6	V中		2	46,542,512	-64,040,047	146,141	165	56
方質東部	213	刮片	黒色安山岩	26	19	7	3.7	V中		2	46,543,032	-64,040,182	146,114		
方質東部	214	刮片	黒色安山岩	22	11	7	1.7	V中		2	46,543,298	-64,040,602	146,119	164	56
方質東部	215	刮片	黒色安山岩	47	29	13	17.9	V下		2	46,543,111	-64,039,513	146,056	164	56
方質東部	216	刮片	黒色安山岩	20	21	6	1.7	V中		2	46,543,278	-64,038,495	146,098		
方質東部	217	刮片	黒色安山岩	37	31	9	30.4	V中		2	46,543,553	-64,038,667	146,096	164	56
方質東部	218	刮片	黒色安山岩	32	26	10	30.3	V上		2	46,542,010	-64,038,093	146,258		
方質東部	219	刮片	黒色安山岩	25	24	8	4.5	V上		2	46,542,607	-64,037,535	146,314		
方質東部	220	刮片	黒色安山岩	25	32	1	3.8	V中		2	46,543,965	-64,037,881	146,271	165	56
方質東部	221	刮片	黒色安山岩	31	31	14	7.8	V下		2	46,544,304	-64,038,631	146,236	166	56
方質東部	222	刮片	黒色安山岩	15	17	2	0.9	M		2	46,544,571	-64,038,875	146,147		
方質東部	223	刮片	黒色安山岩	53	25	10	12.0	V下		2	46,544,780	-64,037,997	146,216	166	56
方質東部	224	刮片	黒色安山岩	20	18	4	1.6	M		2	46,545,080	-64,038,400	146,147	164	56
方質東部	225	刮片	黒色安山岩	24	27	5	3.4	M		2	46,544,357	-64,038,609	146,122		
方質東部	226	刮片	黒色安山岩	21	19	5	1.7	M		2	46,544,537	-64,038,487	146,106	165	56
方質東部	227	刮片	黒色安山岩	21	8	5	0.7	V下		2	46,544,425	-64,039,180	146,193		
方質東部	228	刮片	黒色安山岩	20	16	2	0.7	M		2	46,544,812	-64,039,030	145,141		
方質東部	229	刮片	黒色安山岩	17	20	6	2.8	V上		2	46,545,462	-64,040,365	146,203	165	56
方質東部	230	刮片	黒色安山岩	9	9	2	0.2	V上		2	46,541,053	-64,041,061	145,887		
方質東部	231	刮片	黒色安山岩	18	20	7	2.0	V下		2	46,541,292	-64,041,363	146,960	167	57
方質東部	232	刮片	黒色安山岩	31	29	10	8.2	V上		2	46,541,765	-64,041,182	145,727		
方質東部	233	刮片	黒色安山岩	19	15	2	0.5	V上		2	46,541,996	-64,041,266	145,974		
方質東部	234	刮片	黒色安山岩	8	16	2	0.3	V上		2	46,543,197	-64,041,258	145,844		
方質東部	235	刮片	黒色安山岩	8	16	2	0.3	V中		2	46,542,663	-64,040,922	145,987		
方質東部	236	刮片	黒色安山岩	16	11	3	0.6	V上		2	46,542,462	-64,040,753	145,953		
方質東部	237	刮片	黒色安山岩	28	55	11	18.2	M		2	46,542,358	-64,040,630	146,022		
方質東部	238	刮片	黒色安山岩	28	13	10	5.4	V下		2	46,542,248	-64,040,649	145,886		
方質東部	239	刮片	黒色安山岩	15	9	3	0.4	V上		2	46,541,797	-64,040,562	145,833	164	56
方質東部	240	刮片	黒色安山岩	20	17	5	1.4	V上		2	46,540,386	-64,039,713	145,734		
方質東部	241	刮片	黒色安山岩	22	23	5	2.8	V中		2	46,541,089	-64,038,508	145,728	165	56
方質東部	242	刮片	黒色安山岩	15	12	3	0.7	V上		2	46,542,713	-64,038,500	145,894		
方質東部	243	刮片	黒色安山岩	42	21	12	10.2	V上		2	46,542,566	-64,039,781	145,809	165	56
方質東部	244	刮片	黒色安山岩	11	16	3	0.9	V上		2	46,542,300	-64,039,011	145,904	164	56

## 遺物一覧表

遺跡	番号	器種名	石材名	長さ	幅	厚さ	重量	備考	前位	文化期	3D座標	Y座標	Z座標	固	P.L.
万葉東部	B45	鉗片	黒色安山岩	17	12	2	0.7		VII上	2	46,542,290	-64,640,422	145,971		
万葉東部	B46	鉗片	黒色安山岩	22	9	4	0.7		VII中	2	46,543,199	-64,640,440	145,750	165	56
万葉東部	B47	鉗片	黒色安山岩	28	27	6	4.4		VII上	2	46,542,790	-64,640,441	145,835	165	56
万葉東部	B48	鉗片	黒色安山岩	18	10	5	1.0		VII上	2	46,542,933	-64,639,803	145,937		
万葉東部	B49	鉗片	黒色安山岩	18	27	5	2.6		VII上	2	46,543,108	-64,639,984	145,901		
万葉東部	B50	鉗片	黒色安山岩	70	58	10	40.5		VII上	2	46,543,191	-64,639,792	145,821	166	56
万葉東部	B51	鉗片	黒色頁岩	36	19	8	4.8		VII	2	46,543,375	-64,640,071	145,016	167	57
万葉東部	B52	鉗片	黒色安山岩	15	8	3	0.4		VII上	2	46,543,378	-64,639,916	145,860		
万葉東部	B53	鉗片	黒色安山岩	18	19	8	3.3		VII上	2	46,543,680	-64,639,931	145,913		
万葉東部	B54	鉗片	黒色安山岩	43	41	12	14.4		VII上	2	46,543,676	-64,639,556	145,946	165	56
万葉東部	B55	鉗片	黒色安山岩	12	6	1	0.1		VII中	2	46,543,880	-64,639,313	145,754		
万葉東部	B56	鉗片	黒色頁岩	27	30	8	6.0		VII上	2	46,542,821	-64,639,483	145,996		
万葉東部	B57	鉗片	黒色頁岩	23	16	9	3.0		VII上	2	46,542,782	-64,639,458	145,923		
万葉東部	B58	鉗片	黒色安山岩	19	20	5	1.6		VII中	2	46,543,122	-64,639,022	145,820	166	56
万葉東部	B59	鉗片	黒色安山岩	4	10	1	0.1		VII中	2	46,543,302	-64,639,960	145,918		
万葉東部	B60	鉗片	黒色安山岩	15	16	50	1.1		VII上	2	46,543,484	-64,638,935	145,939		
万葉東部	B61	鉗片	黒色安山岩	16	18	6	1.4		VII上	2	46,543,530	-64,638,616	145,972	165	56
万葉東部	B62	鉗片	黒色安山岩	30	34	7	6.8		VII下	2	46,543,173	-64,632,292	146,100	166	56
万葉東部	B63	鉗片	黒色頁岩	23	33	7	4.8		VII	2	46,544,137	-64,631,385	145,017		
万葉東部	B64	鉗片	黒色安山岩	10	16	3	0.4		VII上	2	46,544,157	-64,632,436	145,917		
万葉東部	B65	石核	黒色安山岩	52	40	14	35.0		VII上	2	46,544,292	-64,631,684	145,951	163+166	55+56
万葉東部	B66	加工石ある鉗片	黒色頁岩	44	71	20	22.3		VII上	2	46,544,555	-64,631,571	145,967	161	54
万葉東部	B67	鉗片	黒色安山岩	17	19	4	1.7		VII上	2	46,544,567	-64,631,413	145,966	165	56
万葉東部	B68	鉗片	黒色安山岩	5	7	1	0.1		VII上	2	46,544,830	-64,630,927	145,954		
万葉東部	B69	鉗片	黒色安山岩	27	37	2	6.5		VII	2	46,545,362	-64,630,968	146,077		
万葉東部	B70	鉗片	黒色安山岩	19	26	5	3.6		VII上	2	46,545,040	-64,632,763	146,075	165	56
万葉東部	B71	鉗片	黒色安山岩	9	11	1	0.1		VII中	2	46,544,900	-64,631,732	145,896		
万葉東部	B72	鉗片	黒色安山岩	22	24	6	3.4		VII	2	46,544,562	-64,631,483	146,146	166	56
万葉東部	B73	鉗片	黒色安山岩	27	21	6	3.5		VII上	2	46,544,821	-64,630,027	145,048	165	56
万葉東部	B74	鉗片	黒色安山岩	26	36	8	9.3		VII上	2	46,545,023	-64,631,962	146,043	164	56
万葉東部	B75	鉗片	黒色安山岩	21	19	9	2.2		VII上	2	46,544,970	-64,630,082	145,939	164	56
万葉東部	B76	鉗片	黒色安山岩	32	24	11	6.0		VII上	2	46,544,794	-64,630,144	145,981	164	56
万葉東部	B77	鉗片	黒色安山岩	6	11	6	0.7		VII中	2	46,545,171	-64,630,147	145,927		
万葉東部	B78	鉗片	黒色安山岩	31	45	12	16.3		VII上	2	46,545,282	-64,630,355	146,013	165	56
万葉東部	B79	鉗片	黒色安山岩	28	39	13	13.1		VII上	2	46,545,112	-64,630,160	145,934	164	56
万葉東部	B80	鉗片	黒色安山岩	11	17	4	0.8		VII上	2	46,545,547	-64,630,599	145,928		
万葉東部	B88	鉗片	黒色安山岩	11	9	1	0.2		VII上	2	46,545,986	-64,630,626	146,045		
万葉東部	B82	鉗片	黒色安山岩	15	8	4	0.4		VII上	2	46,545,956	-64,630,914	146,028		
万葉東部	B83	鉗片	黒色安山岩	10	7	1	0.1		VII中	2	46,545,460	-64,630,971	145,782		
万葉東部	B84	鉗片	黒色安山岩	50	35	16	18.7		VII	2	46,544,990	-64,630,392	146,021	165	56
万葉東部	B85	鉗片	黒色安山岩	14	19	1	0.5		VII中	2	46,545,010	-64,630,442	145,868		
万葉東部	B86	鉗片	黒色安山岩	33	55	17	29.2		VII	2	46,544,926	-64,630,544	146,024	164	56
万葉東部	B87	鉗片	黒色安山岩	18	46	12	12.1		VII上	2	46,544,791	-64,630,652	145,910	166	56
万葉東部	B88	鉗片	黒色安山岩	16	22	2	0.9		VII上	2	46,544,696	-64,630,695	145,947		
万葉東部	B89	鉗片	黒色頁岩	22	23	9	4.7		VII中	2	46,544,582	-64,630,734	145,879		
万葉東部	B90	鉗片	黒色安山岩	15	13	2	0.5		VII中	2	46,544,859	-64,630,657	145,813		
万葉東部	B91	鉗片	黒色安山岩	62	26	13	17.8		VII	2	46,545,003	-64,630,790	146,062	164	56
万葉東部	B92	鉗片	黒色安山岩	32	22	12	5.8		VII	2	46,545,233	-64,630,897	146,073		
万葉東部	B93	鉗片	黒色安山岩	18	25	4	1.8		VII	2	46,544,914	-64,630,442	145,866		
万葉東部	B94	鉗片	黒色安山岩	10	10	2	0.2		VII上	2	46,544,535	-64,641,120	145,871		
万葉東部	B95	鉗片	黒色安山岩	28	10	4	1.4		VII上	2	46,544,324	-64,630,622	146,023		
万葉東部	B96	鉗片	黒色安山岩	27	19	4	2.4		VII上	2	46,544,242	-64,630,963	146,028	165	56
万葉東部	B97	鉗片	黒色安山岩	28	42	7	9.9		VII上	2	46,544,301	-64,630,080	146,081		
万葉東部	B98	鉗片	黒色安山岩	37	23	9	8.3		VII上	2	46,544,154	-64,630,147	145,871	165	56
万葉東部	B99	鉗片	黒色安山岩	11	12	2	0.4		VII上	2	46,544,029	-64,630,922	145,922		
万葉東部	B100	鉗片	黒色安山岩	31	50	13	13.9		VII上	2	46,544,103	-64,630,941	145,937	165	56
万葉東部	B101	鉗片	黒色安山岩	14	15	3	0.5		VII上	2	46,544,097	-64,630,809	145,897		
万葉東部	B102	鉗片	黒色安山岩	17	16	3	0.9		VII中	2	46,543,908	-64,630,935	145,850		
万葉東部	B103	鉗片	黒色安山岩	14	22	6	1.8		VII上	2	46,544,009	-64,630,667	145,957		
万葉東部	B104	鉗片	黒色安山岩	16	28	8	3.6		VII	2	46,544,131	-64,630,493	146,071		
万葉東部	B105	鉗片	黒色安山岩	22	21	8	3.6		VII上	2	46,544,267	-64,630,555	145,925		
万葉東部	B106	鉗片	黒色安山岩	8	9	2	0.2		VII上	2	46,544,336	-64,630,514	145,967		
万葉東部	B107	鉗片	黒色安山岩	19	20	5	1.9		VII上	2	46,544,423	-64,630,519	145,971		
万葉東部	B108	鉗片	黒色安山岩	14	10	5	0.7		VII	2	46,544,180	-64,630,304	146,115		
万葉東部	B109	鉗片	黒色安山岩	19	26	9	4.6		VII	2	46,544,178	-64,630,184	146,022	165	56
万葉東部	B110	鉗片	黒色安山岩	20	22	11	5.6		VII上	2	46,544,390	-64,630,241	146,032	161+166	55+56
万葉東部	B111	鉗片	黒色安山岩	17	22	6	2.2		VII上	2	46,544,564	-64,630,272	145,911		
万葉東部	B112	鉗片	黒色頁岩	42	57	17	31.7		VII上	2	46,546,515	-64,641,114	145,778	167	57
万葉東部	B113	細石	細石舞石安山岩	34	54	31	73.8		VII上	2	46,531,713	-64,641,135	145,292	163	56
万葉東部	B114	ナイフ形石器	黒色頁岩	47	18	5	5.8		VII上	2	46,530,682	-64,630,765	145,273	161	54
万葉東部	B115	加工石ある鉗片	黒色頁岩	30	64	25	34.1		VII上	2	46,530,436	-64,630,968	145,279	161+167	54+57
万葉東部	B116	使用石ある鉗片	黒色頁岩	31	33	11	14.7		VII上	2	46,528,984	-64,630,226	145,623	167+167	54+57
万葉東部	B117	鉗片	黒色頁岩	35	17	10	6.2		VII上	2	46,529,388	-64,630,563	145,347	167	57
万葉東部	B118	鉗片	黒色頁岩	40	60	20	40.1		VII上	2	46,529,104	-64,630,654	145,283	167	57
万葉東部	B119	鉗片	黒色頁岩	27	50	12	13.0		VII上	2	46,529,740	-64,630,455	145,334	167	57
万葉東部	B120	鉗片	黒色頁岩	22	44	8	8.9		VII	2	46,527,803	-64,630,823	145,401		
万葉東部	B121	鉗片	黒色頁岩	29	20	10	3.1		VII上	2	46,528,757	-64,631,736	145,667	167	57
万葉東部	B122	鉗片	黒色安山岩	31	45	8	8.6		VII上	2	46,528,859	-64,631,999	145,299		
万葉東部	B123	細石	細石舞石安山岩	46	40	25	69.6	B113の隣片	VII上	2	46,528,519	-64,631,355	145,406		
万葉東部	B124	細石	黒色頁岩	50	55	34	81.3		VII上	2	46,529,045	-64,631,444	145,380	162+167	55+57
万葉東部	B125	細石	黒色頁岩	46	50	25	69.8		VII上	2	46,529,388	-64,631,519	145,348	162+167	55+57

地點	番号	器種名	石材名	段さ	幅	厚さ	重量	備考	前位	文化期	3D座標	X座標	Y座標	Z座標	固	P	L
方賣東部	B126	鉗片	黒色頁岩	25	13	6	1.7		VII上	2	46,528,853	-64,537,154	145,452				
方賣東部	B127	鉗片	碧玉	45	30	7	13.6		VII上	2	46,528,968	-64,536,682	145,399	167	57		
方賣東部	B128	鉗片	黒色頁岩	44	28	12	11.1		VII下	2	46,527,311	-64,536,997	145,525				
方賣東部	B129	ナイフ形石器	碧玉	35	17	6	4.9		VII上	2	46,527,160	-64,537,487	145,614	161	54		
方賣東部	B130	鉗片	黒色頁岩	30	21	11	6.6		VII上	2	46,531,352	-64,537,657	145,735	167	57		
方賣東部	B131	加工施ある鉗片	黒色頁岩	25	23	6	2.4	微細刻跡有	VII上	2	46,538,912	-64,536,836	145,113	161	54		
方賣東部	B132	鉗片	黒色頁岩	18	14	4	1.0		VII上	2	46,537,733	-64,543,700	145,533				
方賣東部	B133	鉗片	黒色頁岩	18	20	5	1.7		VII上	2	46,537,280	-64,541,028	145,523				
方賣東部	B134	鉗片	黒色頁岩	31	34	3	3.5		VII上	2	46,536,900	-64,541,085	145,512				
方賣東部	B135	ナイフ形石器	黒色頁岩	41	13	5	3.8		VII上	2	46,536,182	-64,541,303	145,290	161	54		
方賣東部	B136	鉗片	黒色安山岩	22	26	8	4.1		VII下	2	46,543,071	-64,623,350	145,603				
方賣東部	B137	鉗片	黒色頁岩	15	14	3	0.7		VII	2	46,542,151	-64,623,487	145,670				
方賣東部	B138	鉗片	黒色安山岩	35	42	10	16.5		VII上	2	46,541,955	-64,623,640	145,391				
方賣東部	B139	鉗片	黒色安山岩	25	22	8	3.6		VII上	2	46,542,623	-64,623,853	145,304				
方賣東部	B140	石核	黒色安山岩	33	68	18	45.7		VII上	2	46,535,137	-64,621,597	146,271	163	55		
方賣東部	B141	鉗片	黒色安山岩	11	15	2	0.4		VII上	2	46,526,983	-64,623,139	145,850				
方賣東部	B142	鉗片	黒色安山岩	24	24	13	6.7		VII上	2	46,527,469	-64,622,087	146,151	166	56		
方賣東部	B143	鉗片	黒色安山岩	17	21	5	1.5		VII	2	46,527,356	-64,621,485	145,050	156	56		
方賣東部	B144	扁平薄削石片	黒色武岩	47	29	6	13.6		VII上	2	46,525,313	-64,621,101	146,015	162	54		
方賣東部	B145	鉗片	黒色安山岩	30	14	7	3.4		VII下	2	46,542,000	-64,620,165	145,638				
方賣東部	B146	鉗片	黒色安山岩	21	27	10	4.9		VII上	2	46,534,751	-64,618,135	146,394				
方賣東部	B147	鉗片	黒色石	18	12	4	0.9		VII中	2	46,534,680	-64,617,623	145,189				
方賣東部	B148	使用痕ある鉗片	黒色石	37	20	8	5.6		VII下	2	46,531,381	-64,620,729	146,405	161	54		
方賣東部	B149	鉗片	黒色安山岩	25	35	6	6.0		VII	2	46,536,630	-64,633,048	145,971				
方賣東部	B150	鉗片	黒色安山岩	36	24	6	7.5		VII上	2	46,524,831	-64,625,919	145,653				
方賣東部	B151	鉗片	黒色安山岩	6	20	1	0.2		VII上	2	46,524,222	-64,626,360	145,530				
方賣東部	B152	鉗片	黒色安山岩	15	19	4	1.7		VII上	2	46,523,811	-64,629,944	145,761				
方賣東部	B153	鉗片	黒色安山岩	16	26	4	1.5		VII下	2	46,522,900	-64,628,595	145,675				
方賣東部	B154	鉗片	黒色安山岩	16	21	4	1.1		VII上	2	46,522,629	-64,629,632	145,840				
方賣東部	B155	鉗片	黒色安山岩	18	36	8	5.7		VII下	2	46,522,327	-64,627,660	145,264				
方賣東部	B156	鉗片	黒色安山岩	9	17	3	0.7		VII	2	46,521,759	-64,627,243	145,448				
方賣東部	B157	鉗片	黒色安山岩	42	56	20	21.5	石核?	VII	2	46,521,414	-64,627,278	145,487				
方賣東部	B158	鉗片	黒色安山岩	20	10	5	0.8		VII上	2	46,521,574	-64,626,648	145,362				
方賣東部	B159	鉗片	黒色安山岩	31	56	13	22.2		VII上	2	46,521,341	-64,626,590	145,682				
方賣東部	B160	鉗片	黒色安山岩	13	15	4	0.7		VII下	2	46,521,125	-64,627,672	145,904				
方賣東部	B161	鉗片	黒色頁岩	30	36	11	10.2		VII上	2	46,526,381	-64,637,949	145,136				
方賣東部	B162	鉗片	黒色安山岩	31	25	5	4.6		VII上	2	46,537,820	-64,624,832	146,210				
方賣東部	B163	鉗片	黒色安山岩	5	10	1	0.1		VII	2	46,522,380	-64,627,973	145,545				
方賣東部	B164	鉗片	黒色安山岩	10	7	2	0.2		VII下	2	46,522,128	-64,627,633	145,279				
方賣東部	B165	鉗片	黒色安山岩	15	30	3	1.4		VII	2	46,543,288	-64,641,199	145,865				
方賣東部	B166	鉗片	黒色安山岩	7	14	4	0.8		VII上	2	46,520,306	-64,626,254	145,727				
方賣東部	B167	鉗片	黒色頁岩	27	14	4	1.6		VII上	2	46,524,302	-64,623,020	145,971				
方賣東部	B168	鉗片	黒色安山岩	24	14	11	3.5		VII上	2	46,523,891	-64,622,564	145,995	166	56		
方賣東部	B169	鉗片	黒色安山岩	40	23	12	6.6		VII下	2	46,524,690	-64,621,609	146,009	166	56		
方賣東部	B170	鉗片	黒色安山岩	27	26	12	6.7		VII上	2	46,526,844	-64,617,483	146,334				
方賣東部	B171	ナイフ形石器	黒色石	21	12	6	0.9	白刃形	VII上	2	46,534,086	-64,603,863	145,221	161	54		
方賣東部	B172	石核	黒色安山岩	43	59	22	64.5		VII上	2	46,529,340	-64,622,737	145,934	162 + 166	55 + 56		
方賣東部	B173	鉗片	黒色安山岩	20	24	6	3.0		VII下	2	46,528,668	-64,620,873	146,248	166	56		
方賣東部	B174	鉗片	黒色石	47	24	5	5.4	部分刃有	VII	2	46,529,309	-64,610,474	146,173	167	57		
方賣東部	B175	鉗片	黒色頁岩	37	62	7	29.7		VII上	2	46,528,451	-64,610,100	146,055				
方賣東部	B176	鉗片	黒色安山岩	17	22	4	1.3		VII上	2	46,529,013	-64,610,516	146,139				
方賣東部	B177	石核	黒色頁岩	62	84	40	26.0		VII上	2	46,523,334	-64,622,612	145,654	163	55		
方賣東部	B178	鉗片	黒色安山岩	14	19	5	0.6		VII上	2	46,524,998	-64,619,713	145,781				
方賣東部	B179	鉗片	黒色安山岩	43	44	7	12.6		VII	2	46,523,140	-64,616,280	146,300	166	56		
方賣東部	B180	鉗片	黒色安山岩	25	16	6	2.9		VII下	2	46,527,123	-64,619,711	146,138				
方賣東部	B181	鉗片	黒色安山岩	14	25	4	1.2		VII下	2	46,526,874	-64,618,311	146,174				
方賣東部	B182	鉗片	黒色安山岩	10	14	1	0.2		VII下	2	46,520,296	-64,621,997	145,525				
方賣東部	B183	鉗片	黒色安山岩	22	29	6	2.6		VII	2	46,537,627	-64,632,284	146,002				
方賣東部	B184	鉗片	黒色石	29	52	8	11.3		VII	2	46,548,312	-64,642,232	145,358	161	54		
方賣東部	B185	鉗片	黒色安山岩	29	17	9	3.6		VII	2	46,544,965	-64,641,977	146,285				
方賣東部	B186	鉗片	黒色安山岩	31	38	9	8.2		VII下	2	46,547,605	-64,643,663	145,780				
方賣東部	B187	鉗片	黒色頁岩	20	21	5	2.8		VII中	2	46,545,284	-64,638,352	145,992	167	57		
方賣東部	B188	鉗片	黒色安山岩	17	6	4	0.4		VII中	2	46,543,148	-64,640,387	145,688				
方賣東部	B189	鉗片	黒色安山岩	17	15	3	1.0		VII上	2	46,529,113	-64,637,472	145,267				
方賣東部	B190	鉗片	黒色安山岩	8	3	1	0.1		VII上	2	46,545,198	-64,638,847	145,905				
方賣東部	B191	鉗片	黒色安山岩	38	21	11	5.7		VII	2	46,544,415	-64,630,200	146,160				
方賣東部	B192	鉗片	黒色安山岩	5	10	1	0.1		VII	2	46,543,006	-64,640,232	145,978				
方賣東部	B193	鉗片	黒色安山岩	17	8	6	1.2		VII上	2	46,542,783	-64,638,386	145,853				
方賣東部	B194	鉗片	黒色安山岩	5	8	1	0.1		VII下	2	46,544,169	-64,638,313	145,015				
方賣東部	B195	鉗片	黒色安山岩	8	11	3	0.3		VII下	2	46,541,991	-64,630,363	145,666				
方賣東部	B196	鉗片	黒色安山岩	23	33	6	4.4		VII中	2	46,544,125	-64,638,169	145,892	166	56		
方賣東部	B197	鉗片	黒色安山岩	10	15	2	0.3		VII下	2	46,543,953	-64,638,714	145,813				
方賣東部	B198	鉗片	黒色安山岩	20	26	7	3.9		VII下	2	46,544,056	-64,638,451	145,747	165	56		
方賣東部	B199	鉗片	黒色安山岩	11	18	7	1.3		VII下	2	46,543,952	-64,638,435	145,747				
方賣東部	B200	鉗片	黒色安山岩	12	14	2	0.4		VII下	2	46,542,971	-64,640,431	145,645				
方賣東部	B201	鉗片	黒色安山岩	10	13	5	0.5		VII上	2	46,544,112	-64,638,282	145,969				
方賣東部	B202	鉗片	黒色安山岩	22	36	10	7.4		VII下	2	46,544,222	-64,638,924	145,708	165	56		
方賣東部	B203	鉗片	黒色安山岩	22	21	6	2.1		VII下	2	46,544,393	-64,638,611	145,712				
方賣東部	B204	鉗片	黒色安山岩	15	18	6	1.5		VII下	2	46,544,261	-64,638,133	145,718	165	56		
方賣東部	B205	鉗片	黒色安山岩	30	23	5	3.7		VII下	2	46,546,209	-64,641,698	145,473				
方賣東部	B206	使用痕ある鉗片	黒色頁岩	45	44	11	26.7		2	なし	なし	なし	なし	なし	161	54	

遺物一覧表

地點	番号	器種名	石材名	長さ	幅	厚さ	重量	備考	部位	文様類	寸牌	年付	種類	固	P.L.	
万葉東部	B1a	鏡片	黒色頁岩	17	24	4	1.3				2	46,530,332	-64,619,973	147,449		
万葉東部	B2a	鏡片	黒色安山岩	31	24	7	5.2				2	46,531,081	-64,618,012	146,274		
万葉東部	B3a	鏡片	黒色安山岩	35	45	13	20.1				2	46,531,597	-64,618,164	146,205		
万葉東部	B4d	矢箟														
万葉東部	D1	鏡片	和歌磨石安山岩	99	74	20	208.4	全面赤化			1	46,652,830	-64,898,100	144,741		
万葉東部	D2	鏡片	和歌磨石安山岩	147	129	31	740.0	全面赤化			1	46,652,800	-64,897,980	144,764		
万葉東部	D3	鏡片	和歌磨石安山岩	152	138	44	634.0	全面赤化			1	46,652,670	-64,897,980	144,746		
万葉東部	D4	鏡片	和歌磨石安山岩	126	69	51	561.0	全面赤化			1	46,652,660	-64,897,870	144,761		
万葉東部	D5	鏡片	和歌磨石安山岩	129	85	65	760.0	全面赤化			1	46,652,720	-64,897,770	144,758		
万葉東部	D6	鏡片	和歌磨石安山岩	85	62	35	239.0	全面赤化			1	46,652,600	-64,897,850	144,745		
万葉東部	D7	鏡片	和歌磨石安山岩	98	82	32	221.0	全面赤化			1	46,652,850	-64,897,800	144,774		
万葉東部	D8	鏡片	和歌磨石安山岩	166	121	42	773.0	全面赤化			1	46,652,830	-64,897,790	144,755		
万葉東部	D9	鏡片	和歌磨石安山岩	85	70	34	207.1	全面赤化			1	46,652,920	-64,897,790	144,751		
万葉東部	D10	鏡片	和歌磨石安山岩	128	80	68	682.0	全面赤化			1	46,652,970	-64,897,720	144,725		
万葉東部	D11	鏡片	和歌磨石安山岩	92	69	31	149.2	全面赤化			1	46,653,030	-64,897,660	144,760		
万葉東部	D12	鏡片	和歌磨石安山岩	118	77	34	351.0	全面赤化			1	46,652,850	-64,897,650	144,750		
万葉東部	D13	鏡片	和歌磨石安山岩	174	87	33	330.0	全面赤化			1	46,653,060	-64,898,010	144,747		
万葉東部	D14	鏡片	和歌磨石安山岩	159	94	29	440.0	全面赤化			1	46,653,000	-64,897,940	144,742		
万葉東部	D15	鏡片	和歌磨石安山岩	106	83	22	179.4	全面赤化			1	46,652,960	-64,898,020	144,755		
万葉東部	D16	鏡片	和歌磨石安山岩	120	85	35	369.0	全面赤化			1	46,652,940	-64,897,890	144,740		
万葉東部	D17	鏡片	和歌磨石安山岩	99	55	31	159.7	全面赤化			1	46,653,070	-64,897,890	144,731		
万葉東部	D18	鏡片	和歌磨石安山岩	92	79	44	325.0	全面赤化			1	46,653,150	-64,897,880	144,769		
万葉東部	D19	鏡片	和歌磨石安山岩	81	69	52	296.0	全面赤化			1	46,653,090	-64,897,770	144,752		
万葉東部	D20	鏡片	和歌磨石安山岩	18	12	5	1.1	全面赤化			1	46,652,600	-64,897,660	144,795		
万葉東部	D21	鏡片	和歌磨石安山岩	22	21	4	1.6	全面赤化			1	46,653,430	-64,897,620	144,835		
万葉東部	D22	鏡片	和歌磨石安山岩	25	17	4	7.0	白色化なし			1	46,653,960	-64,897,270	144,840		
万葉東部	D23	鏡片	和歌磨石安山岩	65	54	38	109.9	全面赤化			1	46,652,950	-64,898,020	144,715		
万葉東部	D24	鏡片	和歌磨石安山岩	38	21	2	4.6			1	なし	なし	なし			
万葉東部	E1	鏡片	黒色頁岩	55	51	11	34.6		褐色帶	2	46,684,161	-64,973,534	143,985	189	66	
万葉東部	E2	鏡片	黒色頁岩	68	47	19	79.0		褐色帶	2	46,684,095	-64,971,876	143,877	199	66	
万葉東部	E3	鏡片	黒色頁岩	72	36	13	44.5		褐色帶	2	46,684,285	-64,971,971	144,017	189	66	
万葉東部	E4	鏡片	黒色頁岩	20	24	5	3.0		褐色帶	2	46,684,045	-64,971,999	144,151			
万葉東部	E5	鏡片	黒色安山岩	32	25	7	5.5		褐色帶	2	46,683,340	-64,972,219	143,993			
万葉東部	E6	鏡片	黒色頁岩	71	46	16	65.1		褐色帶	2	46,683,080	-64,971,906	143,308	189	66	
万葉東部	E7	鏡片	黒色安山岩	16	14	6	0.8		褐色帶	2	46,683,166	-64,971,739	144,157			
万葉東部	E8	鏡片	黒色安山岩	88	62	29	151.7		褐色帶	2	46,683,363	-64,971,763	143,899	185	64	
万葉東部	E9	鏡片	黒色頁岩	21	20	7	4.1		褐色帶	2	46,683,548	-64,971,623	144,253			
万葉東部	E10	鏡片	黒色安山岩	10	8	4	0.5		褐色帶	2	46,683,345	-64,971,491	143,924			
万葉東部	E11	鏡片	黒色安山岩	13	14	6	1.5		褐色帶	2	46,683,612	-64,971,299	143,854			
万葉東部	E12	鏡片	黒色安山岩	15	14	4	1.0		褐色帶	2	46,683,963	-64,971,596	145,389			
万葉東部	E13	鏡片	黒色頁岩	24	18	9	4.3		褐色帶	2	46,684,078	-64,971,512	143,855	189	66	
万葉東部	E14	鏡片	黒色頁岩	81	58	22	110.1	二次加工有り	褐色帶	2	46,684,203	-64,971,360	143,857	191	67	
万葉東部	E15	鏡片	黒色頁岩	26	19	2	2.8		褐色帶	2	46,685,868	-64,971,818	143,815			
万葉東部	E16	鏡片	黒色頁岩	63	36	6	17.9		褐色帶	2	46,684,736	-64,970,838	143,833	191	67	
万葉東部	E17	鏡片	黒色頁岩	74	48	14	32.4		褐色帶	2	46,684,252	-64,971,995	143,778	191	67	
万葉東部	E18	鏡片	黒色頁岩	66	48	14	49.2		褐色帶	2	46,684,081	-64,971,042	143,776	189	66	
万葉東部	E19	鏡片	黒色安山岩	32	45	8	80.7		褐色帶	2	46,684,212	-64,970,900	143,799	184	64	
万葉東部	E20	鏡片	黒色頁岩	13	17	4	1.0		褐色帶	2	46,684,298	-64,970,551	144,116			
万葉東部	E21	鏡片	黒色安山岩	6	15	4	0.9		褐色帶	2	46,684,083	-64,970,743	143,926			
万葉東部	E22	鏡片	黒色頁岩	19	7	2	0.4		褐色帶	2	46,683,975	-64,970,880	143,904			
万葉東部	E23	鏡片	黒色頁岩	41	55	7	23.4		褐色帶	2	46,683,743	-64,971,010	143,947	189	66	
万葉東部	E24	鏡片	黒色頁岩	52	38	9	29.5		褐色帶	2	46,683,311	-64,973,995	144,050	189	66	
万葉東部	E25	鏡片	黒色安山岩	36	36	11	12.8		褐色帶	2	46,683,185	-64,971,300	143,769	179	61	
万葉東部	E26	鏡片	黒色安山岩	18	26	8	2.6		褐色帶	2	46,682,971	-64,971,457	144,133	181	62	
万葉東部	E27	鏡片	黒色安山岩	39	50	15	27.4		褐色帶	2	46,682,876	-64,971,303	144,931			
万葉東部	E28	鏡片	黒色安山岩	48	49	16	46.9		褐色帶	2	46,682,717	-64,971,200	143,926	184	64	
万葉東部	E29	鏡片	黒色安山岩	29	35	9	9.1		褐色帶	2	46,682,482	-64,971,228	144,037	184	64	
万葉東部	E30	鏡片	黒色安山岩	37	19	8	7.2		褐色帶	2	46,682,508	-64,971,039	143,805	180	62	
万葉東部	E31	鏡片	黒色安山岩	20	23	3	1.5		褐色帶	2	46,682,153	-64,971,396	144,002	179	61	
万葉東部	E32	鏡片	黒色安山岩	26	34	9	7.1		褐色帶	2	46,682,766	-64,970,562	144,064	179	61	
万葉東部	E33	鏡片	黒色安山岩	34	39	12	16.4		褐色帶	2	46,682,984	-64,970,431	143,851	179	61	
万葉東部	E34	石核	黒色安山岩	47	54	20	62.9		褐色帶	2	46,682,969	-64,970,000	143,841	174 ~ 179	58 ~ 61	
万葉東部	E35	石核	黒色安山岩	34	65	19	44.8		褐色帶	2	46,683,090	-64,970,681	143,858	179	61	
万葉東部	E36	石核	黒色安山岩	42	48	25	42.2		褐色帶	2	46,683,191	-64,970,344	143,802	175 ~ 179	59 ~ 61	
万葉東部	E37	石核	黒色安山岩	13	21	3	0.8		褐色帶	2	46,683,430	-64,970,381	143,836	179	61	
万葉東部	E38	石核	黒色頁岩	26	17	9	4.4		褐色帶	2	46,683,766	-64,970,894	143,953	189	66	
万葉東部	E39	石核	黒色安山岩	23	34	5	3.8		褐色帶	2	46,683,725	-64,970,724	143,896	179	61	
万葉東部	E40	石核	黒色安山岩	19	16	3	0.7		褐色帶	2	46,684,038	-64,970,320	143,896			
万葉東部	E41	石核	黒色頁岩	37	35	10	9.8		褐色帶	2	46,684,474	-64,970,563	143,769			
万葉東部	E42	自然石	チート石	19	7	1	0.2		褐色帶	2	46,684,591	-64,970,120	143,812			
万葉東部	E43	石核	チート石	9	7	1	0.2	自然石?	褐色帶	2	46,684,387	-64,965,804	143,819			
万葉東部	E44	自然石	チート石	29	20	8	7.5		褐色帶	2	46,684,161	-64,965,998	144,065			
万葉東部	E45	石核	黒色安山岩	39	60	17	96.2		褐色帶	2	46,683,710	-64,970,019	143,799	185	64	
万葉東部	E46	石核	黒色安山岩	20	19	10	3.7		褐色帶	2	46,683,430	-64,970,015	141,198	179	61	
万葉東部	E47	石核	黒色安山岩	13	21	4	1.4		褐色帶	2	46,683,163	-64,970,027	144,104	179	61	
万葉東部	E48	石核	黒色頁岩	22	7	4	0.5		褐色帶	2	46,683,691	-64,969,853	143,902			
万葉東部	E49	石核	黒色安山岩	23	14	9	3.1		褐色帶	2	46,683,600	-64,969,817	143,947	181	62	
万葉東部	E50	石核	黒色安山岩	81	65	23	141.0		褐色帶	2	46,683,385	-64,965,853	143,860	176 ~ 179	59 ~ 61	
万葉東部	E51	石核	黒色頁岩	17	46	9	17.1		褐色帶	2	46,683,875	-64,963,671	143,881			
万葉東部	E52	石核	黒色安山岩	25	16	6	2.2		褐色帶	2	46,683,666	-64,963,638	144,098			
万葉東部	E53	石核	黒色頁岩	41	20	9	11.0		褐色帶	2	46,684,620	-64,969,291	144,008	189	66	

地點	番号	器種名	石材名	段さ	幅	厚さ	重量	備考	柄位	文様類	X座標	Y座標	Z座標	回	P	L
万葉東部	E53	鉗片	チャート	20	19	6	1.9		褐色帶		46,684,558	-64,968,805	144,079			
万葉東部	E55	台石	黒色頁岩	50	22	10	2872.0		褐色帶		46,684,233	-64,968,984	143,813			
万葉東部	E56	鉗片	黒色安山岩	205	129	98	10.6		褐色帶		46,683,177	-64,969,312	143,849	179	61	
万葉東部	E57	鉗片	黒色安山岩	34	29	11	14.3		褐色帶		46,682,999	-64,969,337	144,020	179	61	
万葉東部	E58	鉗片	黒色安山岩	33	11	7	2.9		褐色帶		46,683,133	-64,969,320	143,970	179	61	
万葉東部	E59	鉗片	黒色安山岩	18	33	5	3.0		褐色帶		46,682,729	-64,969,215	144,015			
万葉東部	E60	鉗片	黒色頁岩	28	20	7	3.6		褐色帶		46,682,093	-64,970,131	144,093			
万葉東部	E61	鉗片	黒色安山岩	20	16	7	2.7		褐色帶		46,681,701	-64,970,038	144,177			
万葉東部	E62	鉗片	黒色安山岩	14	6	1	0.2		褐色帶		46,681,568	-64,970,157	144,142			
万葉東部	E63	鉗片	黒色頁岩	39	19	18	10.6		褐色帶		46,681,579	-64,969,939	143,947	179	61	
万葉東部	E64	鉗片	黒色安山岩	15	22	4	1.5		褐色帶		46,682,521	-64,971,190	143,977	179	61	
万葉東部	E65	鉗片	黒色安山岩	34	29	14	12.0		褐色帶		46,681,230	-64,970,994	143,997	180	62	
万葉東部	E66	鉗片	黒色頁岩	30	36	12	22.6		褐色帶		46,681,099	-64,970,967	143,894	192	67	
万葉東部	E67	鉗片	黒色安山岩	43	41	18	18.9		褐色帶		46,680,542	-64,970,533	143,981	184	63	
万葉東部	E68	鉗片	黒色頁岩	56	29	9	11.8		褐色帶		46,681,162	-64,971,808	143,972	190	67	
万葉東部	E69	鉗片	黒色頁岩	31	57	11	16.2		褐色帶		46,680,545	-64,971,423	143,937	190	67	
万葉東部	E70	鉗片	黒色安山岩	42	43	14	30.0		褐色帶		46,680,344	-64,971,946	143,912	183	63	
万葉東部	E71	石核	黒色安山岩	45	69	31	38.7		褐色帶		46,680,106	-64,971,197	141,876	175 ~ 184	59 ~ 63	
万葉東部	E72	鉗片	黒色安山岩	38	38	13	30.3		褐色帶		46,679,629	-64,971,014	143,821	184	63	
万葉東部	E73	鉗片	珪質頁岩	20	30	6	2.4		褐色帶		46,680,082	-64,968,876	143,953	192	67	
万葉東部	E74	鉗片	黒色安山岩	27	18	6	2.1		褐色帶		46,679,331	-64,969,743	144,071			
万葉東部	E75	鉗片	黒色頁岩	25	32	9	6.1		褐色帶		46,678,948	-64,968,076	143,865	190	66	
万葉東部	E76	砂片	黒色安山岩	12	14	2	0.6		褐色帶		46,678,874	-64,969,492	143,891			
万葉東部	E77	鉗片	珪質頁岩	19	23	4	1.6		褐色帶		46,678,915	-64,968,616	143,816	192	67	
万葉東部	E78	鉗片	黒色安山岩	16	15	7	1.8		褐色帶		46,679,044	-64,969,399	143,933	184	63	
万葉東部	E79	鉗片	黒色安山岩	15	25	5	1.8		褐色帶		46,678,634	-64,965,596	143,924			
万葉東部	E80	鉗片	黒色安山岩	57	29	13	19.7		褐色帶		46,678,005	-64,965,161	143,879	183	63	
万葉東部	E81	鉗片	黒色頁岩	56	42	8	14.7		褐色帶		46,677,736	-64,969,734	143,796	186	65	
万葉東部	E82	鉗片	黒色安山岩	24	9	3	0.6		褐色帶		46,677,432	-64,969,677	143,878			
万葉東部	E83	鉗片	黒色安山岩	23	16	9	3.1		褐色帶		46,677,129	-64,969,039	143,890	193	63	
万葉東部	E84	砂片	黒色安山岩	10	8	2	0.2		褐色帶		46,677,144	-64,966,859	143,765			
万葉東部	E85	鉗片	黒色安山岩	13	9	2	0.2		褐色帶		46,677,883	-64,965,630	143,786			
万葉東部	E86	砂片	黒色安山岩	10	8	1	0.1		褐色帶		46,677,760	-64,968,725	143,792			
万葉東部	E87	鉗片	珪質頁岩	26	36	5	4.4		褐色帶		46,677,889	-64,968,290	143,886	192	67	
万葉東部	E88	鉗片	黒色安山岩	60	33	22	40.2		褐色帶		46,678,360	-64,968,195	143,788	183	63	
万葉東部	E89	砂片	珪質頁岩	53	55	23	66.1		褐色帶		46,678,433	-64,968,007	143,794	176	60	
万葉東部	E90	鉗片	黒色安山岩	24	22	4	2.2		褐色帶		46,676,481	-64,968,039	143,765			
万葉東部	E91	鉗片	黒色安山岩	15	20	5	1.7		褐色帶		46,676,231	-64,967,523	143,825			
万葉東部	E92	鉗片	黒色頁岩	68	43	13	51.8		褐色帶		46,675,733	-64,967,126	143,632	186	65	
万葉東部	E93	鉗片	黒色安山岩	12	11	5	0.8		褐色帶		46,678,521	-64,971,334	143,878			
万葉東部	E94	砂片	黒色頁岩	15	25	4	1.5		褐色帶		46,677,878	-64,971,552	143,895			
万葉東部	E95	鉗片	チャート	35	32	11	19.4		褐色帶		46,677,322	-64,972,466	143,819			
万葉東部	E96	砂片	黒色安山岩	33	22	14	8.4		褐色帶		46,676,572	-64,971,711	143,963			
万葉東部	E97	鉗片	黒色安山岩	14	20	6	1.3		褐色帶		46,676,590	-64,971,319	143,787	183	63	
万葉東部	E98	砂片	黒色安山岩	30	25	9	7.1		褐色帶		46,675,674	-64,970,257	143,852	183	63	
万葉東部	E99	自然石	珪質頁岩	11	10	4	0.8		褐色帶		46,674,323	-64,969,063	143,714			
万葉東部	E100	鉗片	黒色頁岩	37	50	17	26.0		褐色帶		46,674,570	-64,968,458	143,713	190	66	
万葉東部	E101	鉗片	黒色頁岩	26	34	4	4.6		褐色帶		46,674,163	-64,968,595	143,727	186	65	
万葉東部	E102	自然石	チャート	8	7	1	0.1		褐色帶		46,672,432	-64,969,630	143,070			
万葉東部	E103	加工品ある鉗片	黒色頁岩	31	37	12	16.5		褐色帶		46,672,535	-64,971,165	143,705	173 ~ 188	57 ~ 66	
万葉東部	E104	鉗片	黒色安山岩	20	10	4	0.6		褐色帶		46,674,253	-64,970,671	143,983	181	62	
万葉東部	E105	自然石	珪質頁岩	35	22	8	8.3		褐色帶		46,674,998	-64,969,659	143,892			
万葉東部	E106	鉗片	黒色安山岩	29	24	3	2.3		褐色帶		46,675,459	-64,971,245	143,915			
万葉東部	E107	鉗片	黒色頁岩	35	29	6	7.1		褐色帶		46,674,308	-64,972,413	143,969	188	66	
万葉東部	E108	鉗片	黒色安山岩	60	55	14	48.1		褐色帶		46,674,879	-64,972,177	143,687	181	62	
万葉東部	E109	礫石	黒色頁岩	23	12	3	1.1		褐色帶		46,674,044	-64,972,431	143,832	192	67	
万葉東部	E110	鉗片	黒色安山岩	54	35	19	33.3		褐色帶		46,674,618	-64,972,731	143,731	182	63	
万葉東部	E111	鉗片	黒色頁岩	62	45	17	38.7		褐色帶		46,674,103	-64,972,711	143,716	191	67	
万葉東部	E112	砂片	黒色頁岩	6	7	3	0.1	有ジグリ片	褐色帶		46,674,702	-64,973,050	143,065			
万葉東部	E113	鉗片	黒色頁岩	47	42	7	14.0		褐色帶		46,674,013	-64,973,090	143,888			
万葉東部	E114	鉗片	黒色安山岩	44	35	15	11.9		褐色帶		46,673,317	-64,972,779	143,605	192	63	
万葉東部	E115	鉗片	黒色頁岩	30	14	10	3.8		褐色帶		46,672,818	-64,973,002	143,981			
万葉東部	E116	鉗片	黒色安山岩	24	30	5	4.1		褐色帶		46,672,108	-64,973,099	143,783	182	63	
万葉東部	E117	鉗片	黒色頁岩	30	28	9	7.2		褐色帶		46,673,577	-64,973,311	143,919	191	67	
万葉東部	E118	鉗片	黒色頁岩	46	50	11	26.8		褐色帶		46,673,540	-64,972,218	143,700			
万葉東部	E119	鉗片	黒色頁岩	27	45	8	7.4		褐色帶		46,672,885	-64,972,975	143,974	190	67	
万葉東部	E120	鉗片	黒色安山岩	41	39	14	15.0		褐色帶		46,672,451	-64,973,505	143,854			
万葉東部	E121	砂片	黒色頁岩	31	22	5	3.4		褐色帶		46,672,578	-64,973,948	143,772			
万葉東部	E122	鉗片	黒色安山岩	63	46	12	33.4		褐色帶		46,672,806	-64,973,842	143,892	181	62	
万葉東部	E123	鉗片	黒色頁岩	27	32	5	4.5		褐色帶		46,673,119	-64,973,772	143,997			
万葉東部	E124	鉗片	黒色頁岩	41	62	16	39.9		褐色帶		46,672,385	-64,973,936	143,655	188	66	
万葉東部	E125	鉗片	黒色安山岩	58	63	22	72.9		褐色帶		46,672,621	-64,974,355	143,635	181	62	
万葉東部	E126	砂片	黒色頁岩	35	30	4	4.4		褐色帶		46,672,994	-64,974,067	143,795	188	66	
万葉東部	E127	鉗片	黒色頁岩	38	66	13	27.4		褐色帶		46,673,266	-64,974,065	143,854			
万葉東部	E128	礫石	黒色頁岩	106	64	56	560.0		褐色帶		46,673,370	-64,974,080	143,647	177 ~ 192	60 ~ 67	
万葉東部	E129	鉗片	黒色頁岩	16	33	6	3.8		褐色帶		46,673,723	-64,974,959	143,894	188	66	
万葉東部	E130	鉗片	黒色頁岩	15	25	3	1.6		褐色帶		46,673,828	-64,973,813	143,932	188	66	
万葉東部	E131	鉗片	黒色頁岩	65	53	17	57.1		褐色帶		46,673,777	-64,974,679	143,679	191	67	
万葉東部	E132	石核	黒色安山岩	47	77	35	115.2		褐色帶		46,672,798	-64,974,633	143,634	177 ~ 181	60 ~ 62	
万葉東部	E133	鉗片	黒色頁岩	27	14	7	2.2		褐色帶		46,672,891	-64,974,865	144,022	188	66	
万葉東部	E134	加工品ある鉗片	黒色頁岩	47	31	12	14.4	微細擦挫	褐色帶		46,672,908	-64,975,095	143,683	173 ~ 188	57 ~ 66	

## 遺物一覧表

遺跡	番号	器種名	石材名	長さ	幅	厚さ	重量	備考	朝代	文政期	洋標	櫻標	図	P.1	
万葉東部	E135	鉢	黒色頁岩	50	41	14	39.6		褐色帶	2	46,673,096	64,974,445	144,013	188	66
万葉東部	E136	鉢	黒色頁岩	20	9	3	0.7		褐色帶	2	46,673,244	64,974,338	143,705	188	66
万葉東部	E137	鉢	黒色頁岩	16	27	3	1.2		褐色帶	2	46,673,303	64,974,717	143,825	188	66
万葉東部	E138	鉢	黒色頁岩	42	42	10	20.3		褐色帶	2	46,673,476	64,974,720	143,690		
万葉東部	E139	鉢	黒色頁岩	49	48	14	28.0		褐色帶	2	46,673,276	64,974,941	143,610	188	66
万葉東部	E140	鉢	黒色頁岩	66	31	13	32.9		褐色帶	2	46,673,622	64,974,659	143,721	188	66
万葉東部	E141	鉢	黒色頁岩	52	40	30	47.9		褐色帶	2	46,673,364	64,974,502	143,657	190	66
万葉東部	E142	鉢	黒色頁岩	58	41	15	40.8		褐色帶	2	46,673,972	64,974,307	143,698	191	67
万葉東部	E143	鉢	黒色頁岩	25	47	8	6.4		褐色帶	2	46,674,036	64,974,277	143,587	188	66
万葉東部	E144	鉢	黒色頁岩	37	33	19	28.3		褐色帶	2	46,673,933	64,974,170	143,637	190	66
万葉東部	E145	鉢	黒色頁岩	45	53	13	30.2		褐色帶	2	46,674,086	64,974,974	143,773	188	66
万葉東部	E146	自然石	チャート	15	10	7	1.1		褐色帶	2	46,674,189	64,973,981	143,582		
万葉東部	E147	最右	砂質頁岩	34	39	5	5.2		褐色帶	2	46,674,542	64,974,335	143,778	178	61
万葉東部	E148	鉢	黒色頁岩	40	31	6	6.5		褐色帶	2	46,674,748	64,973,547	143,653	190	67
万葉東部	E149	鉢	黒色頁岩	17	37	4	2.8		褐色帶	2	46,674,748	64,973,547	143,853	190	67
万葉東部	E150	鉢	黒色安山岩	43	23	5	5.8		褐色帶	2	46,675,329	64,974,194	143,998		
万葉東部	E151	自然石	頁岩	9	5	2	0.2		褐色帶	2	46,675,958	64,974,930	143,859		
万葉東部	E152	鉢	黒色安山岩	23	20	5	2.7		褐色帶	2	46,676,068	64,975,078	143,847	181	62
万葉東部	E153	鉢	黒色安山岩	21	23	4	2.4		褐色帶	2	46,674,440	64,975,609	143,713	182	63
万葉東部	E154	鉢	チャート	20	14	9	2.6		褐色帶	2	46,674,844	64,975,728	143,812	192	67
万葉東部	E155	自然石	和鶴鱗石巖	20	17	8	1.9		褐色帶	2	46,674,690	64,976,905	143,776		
万葉東部	E156	鉢	黒色安山岩	21	11	8	1.8		褐色帶	2	46,674,753	64,976,043	143,729	180	62
万葉東部	E157	石核	チャート	50	56	21	60.4		褐色帶	2	46,675,197	64,978,087	143,755	175 + 192	59 + 67
貴賀東部	E158	石核	黒色安山岩	47	35	25	49.3		褐色帶	2	46,675,177	64,977,790	143,718	178 + 183	60 + 63
万葉東部	E159	鉢	黒色安山岩	22	29	6	3.4		褐色帶	2	46,675,348	64,977,180	143,700		
万葉東部	E160	鉢	黒色安山岩	10	14	4	0.6		褐色帶	2	46,675,243	64,977,630	143,772		
万葉東部	E161	鉢	黒色安山岩	34	48	8	22.2		褐色帶	2	46,675,599	64,977,645	143,763	180	62
万葉東部	E162	石核	黒色頁岩	68	64	34	22.0		褐色帶	2	46,675,562	64,977,183	143,619	173	58
万葉東部	E163	鉢	黒色安山岩	28	45	7	15.7		褐色帶	2	46,675,703	64,977,930	143,737	180	62
万葉東部	E164	鉢	黒色安山岩	33	18	7	4.8		褐色帶	2	46,675,835	64,977,951	143,759		
万葉東部	E165	鉢	黒色安山岩	15	5	2	0.2		褐色帶	2	46,676,006	64,977,727	143,715		
万葉東部	E166	鉢	黒色安山岩	9	22	3	0.7		褐色帶	2	46,675,384	64,977,295	143,980	180	62
万葉東部	E167	鉢	チャート	22	12	6	2.1		褐色帶	2	46,675,842	64,977,250	143,366	192	67
万葉東部	E168	鉢	黒色安山岩	39	40	14	18.8		褐色帶	2	46,675,612	64,978,441	143,855	183	63
万葉東部	E169	鉢	黒色安山岩	52	38	15	26.9		褐色帶	2	46,676,803	64,978,099	143,088	180	62
万葉東部	E170	石核	黒色安山岩	43	45	25	52.3		褐色帶	2	46,676,002	64,978,217	143,669	176 + 183	60 + 63
万葉東部	E171	加工麻ある鉢	黒色安山岩	27	45	12	16.7		褐色帶	2	46,675,981	64,978,391	143,947	173 + 180	57 + 62
万葉東部	E172	鉢	黒色安山岩	47	54	15	34.9		褐色帶	2	46,676,332	64,978,354	143,672	180	62
万葉東部	E173	鉢	黒色安山岩	19	15	6	1.6		褐色帶	2	46,676,964	64,979,241	143,726		
万葉東部	E174	鉢	黒色安山岩	64	19	12	15.0		褐色帶	2	46,677,880	64,979,043	143,681		
万葉東部	E175	鉢	黒色安山岩	26	46	11	10.9		褐色帶	2	46,679,590	64,978,826	143,791		
万葉東部	E176	鉢	黒色安山岩	30	34	9	8.4		褐色帶	2	46,679,936	64,978,853	143,699		
万葉東部	E177	鉢	黒色頁岩	54	42	15	31.4		褐色帶	2	46,680,103	64,978,817	143,797		
万葉東部	E178	鉢	黒色安山岩	16	29	2	1.4		褐色帶	2	46,680,148	64,979,062	143,885		
万葉東部	E179	鉢	黒色安山岩	37	34	12	14.2		褐色帶	2	46,680,198	64,978,473	143,879	181	62
万葉東部	E180	鉢	黒色安山岩	39	13	5	2.7		褐色帶	2	46,680,874	64,979,273	143,742		
万葉東部	E181	鉢	黒色頁岩	29	20	10	5.9		褐色帶	2	46,680,735	64,980,228	143,776		
万葉東部	E182	鉢	溶出層底灰	35	24	11	7.4		褐色帶	2	46,681,773	64,979,258	143,802		
万葉東部	E183	鉢	黒色安山岩	44	50	20	33.7		褐色帶	2	46,682,261	64,978,483	143,908	183	63
万葉東部	E184	鉢	黒色安山岩	23	17	6	2.3		褐色帶	2	46,681,300	64,977,999	144,043	181	62
万葉東部	E185	鉢	黒色安山岩	25	18	3	2.4		褐色帶	2	46,679,587	64,976,875	143,948		
万葉東部	E186	自然石	チャート	28	17	12	6.4	重角礫	褐色帶	2	46,679,603	64,976,728	143,947		
万葉東部	E187	鉢	黒色安山岩	19	15	5	1.6		褐色帶	2	46,680,178	64,975,914	144,019	180	62
万葉東部	E188	鉢	溶出層底灰	61	50	29	69.8		褐色帶	2	46,680,111	64,975,630	143,790		
万葉東部	E189	鉢	黒色安山岩	19	23	8	2.8		褐色帶	2	46,681,967	64,975,825	143,934	182	62
万葉東部	E190	鉢	黒色安山岩	26	43	12	14.2		褐色帶	2	46,682,335	64,975,503	144,103	182	62
万葉東部	E191	鉢	黒色頁岩	35	44	9	20.9	鉢?	褐色帶	2	46,682,387	64,975,268	143,909		
万葉東部	E192	鉢	黒色安山岩	23	42	5	6.3		褐色帶	2	46,683,074	64,975,452	143,977	184	64
万葉東部	E193	石核	黒色頁岩	107	100	78	97.0		褐色帶	2	46,683,832	64,975,043	143,971	174 + 187	58 + 65
万葉東部	E194	石核	黒色頁岩	60	69	33	138.5		褐色帶	2	46,683,717	64,976,941	143,892	175 + 187	57 + 65
万葉東部	E195	鉢	黒色頁岩	26	34	5	4.4		褐色帶	2	46,684,506	64,976,444	144,044	187	65
万葉東部	E196	鉢	黒色頁岩	26	21	10	5.0		褐色帶	2	46,680,976	64,975,556	144,096	190	66
万葉東部	E197	鉢	黒色安山岩	25	29	7	3.7		褐色帶	2	46,685,015	64,976,951	144,010	184	64
貴賀東部	E198	鉢	黒色安山岩	58	18	7	7.0		褐色帶	2	46,685,352	64,976,861	143,935	183	63
万葉東部	E199	鉢	黒色安山岩	40	26	13	10.4		褐色帶	2	46,686,098	64,979,062	144,039	184	64
万葉東部	E200	鉢	黒色安山岩	20	29	5	3.5		褐色帶	2	46,686,712	64,979,733	144,120	183	63
万葉東部	E201	鉢	黒色安山岩	23	43	5	5.2		褐色帶	2	46,686,513	64,978,626	144,149		
万葉東部	E202	鉢	黒色安山岩	9	16	4	0.6		褐色帶	2	46,686,171	64,978,542	144,116		
万葉東部	E203	加工麻ある鉢	黒色安山岩	74	44	22	55.1		褐色帶	2	46,686,999	64,978,298	144,067	173	58
万葉東部	E204	鉢	黒色頁岩	32	51	10	12.7		褐色帶	2	46,686,956	64,977,806	144,142	187	65
万葉東部	E205	磚	和鶴鱗石巖	56	48	29	72.0	白然石?	褐色帶	2	46,687,238	64,977,799	144,007		
万葉東部	E206	使用麻ある鉢	黒色頁岩	87	72	22	141.1		褐色帶	2	46,687,471	64,977,551	144,073	173 + 187	57 + 65
万葉東部	E207	鉢	黒色頁岩	46	15	11	7.7		褐色帶	2	46,687,424	64,977,273	144,028	187	65
万葉東部	E208	鉢	黒色頁岩	20	35	6	3.2		褐色帶	2	46,687,182	64,976,990	144,191	187	65
万葉東部	E209	鉢	黒色頁岩	21	24	6	3.1		褐色帶	2	46,686,758	64,976,474	144,170	187	65
万葉東部	E210	鉢	黒色頁岩	25	34	5	3.8		褐色帶	2	46,686,550	64,976,733	143,971	187	65
万葉東部	E211	鉢	黒色頁岩	25	19	6	2.6		褐色帶	2	46,686,298	64,976,814	144,068	187	65
万葉東部	E212	鉢	黒色頁岩	50	30	12	19.4		褐色帶	2	46,686,049	64,977,192	143,909		
万葉東部	E213	鉢	黒色安山岩	45	48	9	20.8		褐色帶	2	46,686,094	64,977,770	143,924	184	64
万葉東部	E214	鉢	黒色頁岩	29	24	6	4.6		褐色帶	2	46,685,920	64,977,932	144,063	187	65

遺跡部	番号	器種名	石材名	段さ	幅	厚さ	重量	備考	柄位	文化期	X座標	Y座標	Z座標	回	P	L
万葉東部	E215	鉗片	黒色安山岩	12	15	2	0.4		褐色帶	2	46,686,202	-64,974,760	144,322			
万葉東部	E216	鉗片	黒色安山岩	30	19	6	2.9		褐色帶	2	46,679,761	-64,974,627	144,010	180	62	
万葉東部	E217	鉗片	黒色安山岩	30	28	11	8.0		褐色帶	2	46,679,368	-64,975,423	143,769	180	62	
万葉東部	E218	鉗片	黒色安山岩	41	29	13	13.5		褐色帶	2	46,679,128	-64,974,975	143,811	180	62	
万葉東部	E219	鉗片	黒色安山岩	24	30	10	7.2		褐色帶	2	46,678,884	-64,975,114	143,847	181	62	
万葉東部	E220	鉗片	黒色安山岩	12	16	2	0.4		褐色帶	2	46,679,223	-64,973,691	143,992	181	62	
万葉東部	E221	自然石	輝緑輝長岩	13	9	4	0.6		褐色帶	2	46,679,006	-64,973,716	144,002			
万葉東部	E222	石核	黒色安山岩	67	82	36	255.0		褐色帶	2	46,678,810	-64,973,625	143,879	174	58	
万葉東部	E223	鉗片	黒色安山岩	19	19	4	0.8		褐色帶	2	46,678,781	-64,974,632	143,753			
万葉東部	E224	鉗片	黒色頁岩	73	82	18	89.8		褐色帶	2	46,678,423	-64,975,591	143,893	192	67	
万葉東部	E225	鉗片	黒色安山岩	30	24	8	5.3		褐色帶	2	46,678,321	-64,973,591	143,912	181	62	
万葉東部	E226	鉗片	黒色安山岩	16	15	3	0.9		褐色帶	2	46,678,176	-64,973,869	143,901			
万葉東部	E227	鉗片	黒色安山岩	34	42	15	17.6		褐色帶	2	46,678,122	-64,974,047	143,846	180	62	
万葉東部	E228	鉗片	黒色安山岩	26	29	8	5.7		褐色帶	2	46,678,373	-64,974,196	143,784	181	62	
万葉東部	E229	鉗片	黒色安山岩	20	10	4	1.1		褐色帶	2	46,678,500	-64,974,609	143,691	181	62	
万葉東部	E230	鉗片	黒色頁岩	59	64	15	40.9		褐色帶	2	46,677,945	-64,974,270	142,838	190	67	
万葉東部	E231	鉗片	黒色安山岩	32	63	9	15.4		褐色帶	2	46,677,941	-64,974,200	143,893	180	62	
万葉東部	E232	鉗片	黒色安山岩	43	75	23	71.8		褐色帶	2	46,677,785	-64,974,651	143,776	185	64	
万葉東部	E233	鉗片	黒色安山岩	25	13	7	2.0		褐色帶	2	46,677,823	-64,975,635	143,912			
万葉東部	E234	鉗片	黒色頁岩	17	20	5	1.2		褐色帶	2	46,677,445	-64,975,497	144,085			
万葉東部	E235	鉗片	黒色安山岩	18	19	5	1.5		褐色帶	2	46,677,268	-64,973,636	143,854	181	62	
万葉東部	E236	鉗片	黒色安山岩	17	9	3	0.4		褐色帶	2	46,677,308	-64,973,755	143,914			
万葉東部	E237	自然石	ホルンフェルス	8	7	2	0.1		褐色帶	2	46,678,034	-64,971,969	143,787			
万葉東部	E238	鉗片	黒色安山岩	12	18	5	0.7		褐色帶	2	46,678,116	-64,975,361	144,057			
万葉東部	E239	鉗片	黒色頁岩	45	22	11	10.6		褐色帶	2	46,677,630	-64,971,487	144,100			
万葉東部	E240	鉗片	黒色安山岩	23	15	5	2.0		褐色帶	2	46,677,144	-64,975,467	143,769	181	62	
万葉東部	E241	鉗片	黒色安山岩	20	13	5	1.2	E242と接合	褐色帶	2	46,677,332	-64,971,744	143,797	180	62	
万葉東部	E242	文鏡														
万葉東部	E243	自然石	和田輝石安山岩	33	20	9	6.7		褐色帶	2	46,677,962	-64,976,634	143,885			
万葉東部	E244	鉗片	黒色頁岩	50	46	14	31.2		褐色帶	2	46,687,086	-64,975,170	144,015	97	65	
万葉東部	E245	石核	黒色安山岩	75	61	55	359.0		褐色帶	2	46,694,997	-64,970,066	143,839	175 - 184	99 + 64	
万葉東部	E246	鉗片	黒色安山岩	43	43	19	28.7		褐色帶	2	46,694,051	-64,970,772	143,747	179	61	
万葉東部	E247	石核	黒色頁岩	53	75	52	298.0		褐色帶	2	46,693,879	-64,970,775	143,702	176 - 189	60 + 66	
万葉東部	E248	鉗片	黒色安山岩	25	11	6	5.6		褐色帶	2	46,693,095	-64,969,733	143,738	179	61	
万葉東部	E249	鉗片	黒色安山岩	29	23	11	2.0		褐色帶	2	46,694,593	-64,968,913	143,802	180	62	
万葉東部	E250	鉗片	黒色頁岩	23	26	9	5.0		褐色帶	2	46,681,008	-64,970,948	143,882	192	67	
万葉東部	E251	鉗片	黒色頁岩	32	43	17	26.7		褐色帶	2	46,678,407	-64,968,227	143,765	190	66	
万葉東部	E252	鉗片	黒色頁岩	26	46	13	20.3		褐色帶	2	46,678,447	-64,967,949	143,721	190	66	
万葉東部	E253	鉗片	黒色頁岩	52	44	20	33.7		褐色帶	2	46,675,367	-64,966,050	143,619	185	65	
万葉東部	E254	鉗片	黒色頁岩	71	48	18	53.2		褐色帶	2	46,674,556	-64,968,069	143,655	186	65	
万葉東部	E255	鏡	闊葉岩	41	37	30	36.6		褐色帶	2	46,674,870	-64,970,646	143,624			
万葉東部	E256	鉗片	黒色頁岩	23	24	3	2.1		褐色帶	2	46,674,332	-64,971,605	143,617	188	66	
万葉東部	E257	鉗片	黒色頁岩	22	46	3	6.1		褐色帶	2	46,674,818	-64,972,411	143,772	190	67	
万葉東部	E258	鉗片	黒色頁岩	39	54	16	37.0		褐色帶	2	46,674,015	-64,972,389	143,734			
万葉東部	E259	鉗片	黒色頁岩	32	52	7	13.1		褐色帶	2	46,674,123	-64,972,236	143,706	188	66	
万葉東部	E260	鉗片	黒色安山岩	30	25	5	4.0		褐色帶	2	46,672,938	-64,969,825	143,552	182	63	
万葉東部	E261	鉗片	黒色頁岩	26	35	8	4.3		褐色帶	2	46,672,725	-64,971,032	143,533			
万葉東部	E262	鉗片	黒色頁岩	46	63	15	43.9		褐色帶	2	46,671,600	-64,972,303	143,554	192	67	
万葉東部	E263	鉗片	黒色頁岩	42	33	10	12.1		褐色帶	2	46,673,659	-64,973,302	143,779			
万葉東部	E264	鉗片	黒色頁岩	15	17	2	0.7		褐色帶	2	46,673,847	-64,973,807	143,929			
万葉東部	E265	鉗片	黒色頁岩	66	14	6	3.6		褐色帶	2	46,673,718	-64,973,825	143,641	188	66	
万葉東部	E266	砂金石	砂金石頁岩	76	53	16	83.3	E305と接合	褐色帶	2	46,673,783	-64,974,021	143,682	178	64	
万葉東部	E267	鉗片	黒色頁岩	7	16	3	0.6		褐色帶	2	46,673,135	-64,972,749	144,104			
万葉東部	E268	鉗片	黒色頁岩	19	30	7	3.4		褐色帶	2	46,673,223	-64,974,444	143,866			
万葉東部	E269	鉗片	黒色安山岩	54	50	18	55.4		褐色帶	2	46,672,828	-64,974,552	143,660	182	63	
万葉東部	E270	鉗片	黒色安山岩	42	40	18	23.9		褐色帶	2	46,672,752	-64,974,671	143,567	182	63	
万葉東部	E271	鉗片	黒色安山岩	8	6	1	0.1		褐色帶	2	46,676,038	-64,976,202	143,616			
万葉東部	E272	鉗片	黒色安山岩	23	29	3	2.3		褐色帶	2	46,675,617	-64,977,695	143,701	180	62	
万葉東部	E273	鉗片	黒色安山岩	37	33	11	11.8		褐色帶	2	46,675,289	-64,976,273	143,726	183	63	
万葉東部	E274	鉗片	桂葉岩	54	31	11	15.7		褐色帶	2	46,674,018	-64,972,355	143,696	192	67	
万葉東部	E275	鉗片	黒色頁岩	7	18	1	0.2		褐色帶	2	46,673,175	-64,974,451	143,545			
万葉東部	E276	鉗片	黒色安山岩	15	25	4	2.1		褐色帶	2	46,675,099	-64,967,692	143,832	183	63	
万葉東部	E277	鉗片	黒色頁岩	76	54	25	66.8		褐色帶	2	46,675,212	-64,967,446	143,643	185	64	
万葉東部	E278	鉗片	黒色頁岩	15	18	5	0.9		褐色帶	2	46,675,037	-64,967,645	143,644	186	65	
万葉東部	E279	鉗片	黒色頁岩	88	61	22	97.0		褐色帶	2	46,675,145	-64,966,853	143,730	186	65	
万葉東部	E280	鉗片	黒色頁岩	31	36	9	7.8		褐色帶	2	46,675,206	-64,966,292	143,696	186	65	
万葉東部	E281	鉗片	黒色安山岩	54	37	12	21.9		褐色帶	2	46,674,617	-64,966,273	143,726	183	63	
万葉東部	E282	鉗片	黒色頁岩	37	35	8	6.6		褐色帶	2	46,674,808	-64,966,570	143,601	186	65	
万葉東部	E283	鉗片	黒色頁岩	18	27	11	3.6		褐色帶	2	46,674,385	-64,967,297	143,610	186	65	
万葉東部	E284	鉗片	黒色頁岩	17	17	9	2.0		褐色帶	2	46,674,222	-64,967,307	143,681	185	64	
万葉東部	E285	鉗片	黒色頁岩	23	26	6	3.5		褐色帶	2	46,674,082	-64,967,152	143,692	186	65	
万葉東部	E286	鉗片	黒色頁岩	34	20	5	3.1		褐色帶	2	46,673,894	-64,967,522	143,806	190	66	
万葉東部	E287	鉗片	黒色頁岩	54	36	15	28.2		褐色帶	2	46,673,876	-64,967,566	143,805	190	66	
万葉東部	E288	鉗片	黒色頁岩	12	15	2	0.5		褐色帶	2	46,673,365	-64,967,818	143,845			
万葉東部	E289	鉗片	黒色頁岩	18	30	6	2.6		褐色帶	2	46,674,266	-64,966,593	143,534	190	66	
万葉東部	E290	鉗片	黒色頁岩	42	20	6	4.5		褐色帶	2	46,674,043	-64,966,640	143,631	186	65	
万葉東部	E291	鉗片	黒色頁岩	30	32	3	3.5		褐色帶	2	46,673,896	-64,966,599	143,646	186	65	
万葉東部	E292	加工品ある鉗片	黒色頁岩	36	47	10	17.3		褐色帶	2	46,673,725	-64,966,760	143,550	173 - 186	57 - 65	
万葉東部	E293	鉗片	黒色頁岩	29	18	7	4.3		褐色帶	2	46,673,484	-64,966,234	143,767	186	65	
万葉東部	E294	鉗片	黒色頁岩	31	17	3	2.1		褐色帶	2	46,673,312	-64,966,384	143,732	186	65	
万葉東部	E295	鉗片	黒色頁岩	29	31	7	6.2		褐色帶	2	46,673,254	-64,966,880	143,877	190	66	

遺物一覧表

遺跡	番号	器種名	石材名	段さ	幅	厚さ	重量	備考	発見位	文化期	X座標	Y座標	標	固	P	L	
万葉東部	E296	鉗片	黒色頁岩	16	16	4	0.7		褐色帶	2	46,673,048	-64,967,239	143,639				
万葉東部	E297	鉗片	黒色頁岩	16	25	2	1.0		褐色帶	2	46,671,888	-64,966,589	143,838	186	65		
万葉東部	E298	鉗片	和田舞石安山岩	16	14	2	0.5		褐色帶	2	46,669,032	-64,966,570	143,724				
万葉東部	E299	鉗片	黒色安山岩	29	21	8	4.2		褐色帶	2	46,671,294	-64,973,634	143,769	182	63		
万葉東部	E300	鉗片	黒色安山岩	28	35	6	4.9		褐色帶	2	46,671,585	-64,973,625	143,703	182	63		
万葉東部	E301	鉗片	黒色安山岩	29	15	7	3.0		褐色帶	2	46,671,678	-64,973,882	143,641	182	63		
万葉東部	E302	鉗片	黒色安山岩	49	35	32	75.9		褐色帶	2	46,672,192	-64,973,300	143,616	177 + 182	60 + 63		
万葉東部	E303	鉗片	黒色安山岩	35	34	11	13.3		褐色帶	2	46,672,198	-64,973,496	143,810	182	63		
万葉東部	E304	鉗片	黒色安山岩	58	45	27	49.3		褐色帶	2	46,672,249	-64,974,666	143,639	182	63		
万葉東部	E305	鉗片	砂質頁岩	218	92	57	1628.0	E266と接合	褐色帶	2	46,672,416	-64,975,769	143,553	178	61		
万葉東部	E306	鉗片	黒色安山岩	23	9	10	2.3		褐色帶	2	46,673,942	-64,978,111	143,636	180	62		
万葉東部	E307	鉗片	黒色安山岩	31	16	12	6.0		褐色帶	2	46,673,917	-64,978,412	143,603	183	63		
万葉東部	E308	鉗片	黒色安山岩	50	24	14	13.7		褐色帶	2	46,673,421	-64,973,497	143,559	182	63		
万葉東部	E309	鉗片	黒色頁岩	22	26	5	2.8		褐色帶	2	46,675,217	-64,966,794	143,655	190	66		
万葉東部	E310	鉗片	黒色頁岩	22	28	6	3.8		褐色帶	2	46,675,239	-64,967,579	143,688	185	65		
万葉東部	E311	鉗片	黒色頁岩	19	15	3	0.8		褐色帶	2	46,673,851	-64,967,831	143,723				
万葉東部	E312	鉗片	黒色安山岩	22	35	7	5.4		褐色帶	2	46,672,295	-64,974,333	143,822	187	63		
万葉東部	E313	鉗片	黒色頁岩	27	10	6	1.8		褐色帶	2	46,673,049	-64,967,261	143,630	186	65		
万葉東部	E314	鉗片	自然石	相田舞石安山岩	27	15	8	3.9		褐色帶	2	46,674,152	-64,967,272	143,862			
万葉東部	E315	鉗片	黒色頁岩	29	30	6	3.7		褐色帶	2	46,674,343	-64,965,995	143,696	186	65		
万葉東部	F1	矢垂															
万葉東部	F2	鉗片	相田舞石安山岩	68	38	10	33.6	試掘No.7-1号					なし	なし	なし		
万葉東部	F3	鉗片	相田舞石安山岩	105	92	20	124.4	試掘No.7-1号					なし	なし	なし		
万葉東部	F4	鉗片	相田舞石安山岩	82	70	26	192.8	試掘No.7-1号					なし	なし	なし		
万葉東部	F5	鉗片	相田舞石安山岩	74	79	7	83.1	試掘No.7-1号					なし	なし	なし		
万葉東部	G1	矢矢															
鋼鏡	1	ナイフ形石器	黒曜石	19	10	5	0.7		Ⅱ-Ⅲ層	1	46,890,549	-65,410,782	146,434	203	69		
鋼鏡	2	鉗片	黒曜石	20	11	2	0.4		Ⅱ-Ⅲ層	1	46,892,890	-65,418,009	146,523	205	70		
鋼鏡	3	石刀	黒曜石	52	21	4	4.2		Ⅱ-Ⅲ層	1	46,897,111	-65,416,299	145,621	204	69		
鋼鏡	4	石刀	黒曜石	12	8	2	0.2		Ⅱ-Ⅲ層	1	46,897,291	-65,415,764	146,804	204	69		
鋼鏡	5	鉗片	チート	9	7	2	0.2		Ⅱ-Ⅲ層	1	46,898,539	-65,415,761	146,711				
鋼鏡	6	鉗片	黒曜石	9	4	1	0.1		Ⅱ-Ⅲ層	1	46,898,436	-65,414,875	146,881				
鋼鏡	7	鉗片	黒曜石	17	12	1	0.3		Ⅱ-Ⅲ層	1	46,897,133	-65,414,437	146,619				
鋼鏡	8	鉗片	黒曜石	14	11	1	0.2		Ⅱ-Ⅲ層	1	46,896,780	-65,414,613	146,599				
鋼鏡	9	鉗片	チート	12	22	2	0.6		Ⅱ-Ⅲ層	1	46,897,050	-65,415,809	146,696				
鋼鏡	10	鉗片	相田舞石安山岩	13	10	1	0.2		Ⅱ-Ⅲ層	1	46,899,087	-65,413,135	146,721				
鋼鏡	11	石刀	黒曜石	40	19	7	4.9		Ⅱ-Ⅲ層	1	46,896,060	-65,411,780	146,518	204	69		
鋼鏡	12	ナイフ形石器	黒曜石	41	12	3	1.5		Ⅱ-Ⅲ層	1	46,893,486	-65,417,649	145,502	203 + 205 + 70	70		
鋼鏡	13	ナイフ形石器	黒色安山岩	42	18	4	4.6		Ⅱ-Ⅲ層	1	46,893,279	-65,411,563	145,363	203	69		
鋼鏡	14	鉗片	黒曜石	23	6	1	0.2	刃手不明	Ⅱ-Ⅲ層	1	46,891,781	-65,410,742	146,424				
鋼鏡	15	石刀	黒曜石	42	13	2	3.4		Ⅱ-Ⅲ層	1	46,891,610	-65,412,177	146,389	206 + 205 + 69 + 70	69 + 70		
鋼鏡	16	石刀	黒曜石	20	10	2	0.4		Ⅱ-Ⅲ層	1	46,891,338	-65,412,246	146,355	204	69		
鋼鏡	17	石刀	黒曜石	25	17	2	3.2		Ⅱ-Ⅲ層	1	46,890,553	-65,412,283	146,404	204	69		
鋼鏡	18	鉗片	相田舞石安山岩	100	86	60	580.0		Ⅱ-Ⅲ層	1	46,889,415	-65,413,099	146,329				
鋼鏡	19	矢矢															
鋼鏡	20	鉗片	相田舞石安山岩	62	51	47	178.1	完形の円周	Ⅱ-Ⅲ層	1	46,889,288	-65,412,129	146,309				
鋼鏡	21	鉗片	チート	10	16	6	0.9		Ⅱ-Ⅲ層	1	46,889,357	-65,409,342	146,289	206	70		
鋼鏡	22	鉗片	黒色頁岩	44	90	11	40.5		Ⅱ-Ⅲ層	1	46,889,077	-65,414,913	146,614	206	70		
鋼鏡	23	石刀	黒曜石	67	22	8	6.5		Ⅱ-Ⅲ層	1	46,888,107	-65,413,827	146,195	204 + 205 + 69 + 70	69 + 70		
鋼鏡	24	ナイフ形石器	黒曜石	29	13	3	1.2		Ⅱ-Ⅲ層	1	46,890,411	-65,414,793	146,291	203 + 205 + 69 + 70	69 + 70		
鋼鏡	25	鉗片	黒色安山岩	12	10	8	1.3		Ⅱ-Ⅲ層	1	46,890,594	-65,413,859	146,278				
鋼鏡	26	ナイフ形石器	黒曜石	32	15	4	2.4		Ⅱ-Ⅲ層	1	46,892,272	-65,414,227	146,395	203	69		
鋼鏡	27	石刀	黒曜石	40	20	5	3.9		Ⅱ-Ⅲ層	1	46,891,992	-65,415,579	146,379	204 + 205 + 69 + 70	69 + 70		
鋼鏡	28	磨削	黒曜石	50	19	5	6.7	二次加工	Ⅱ-Ⅲ層	1	46,892,081	-65,412,064	146,294	203 + 205 + 69 + 70	69 + 70		
鋼鏡	29	石刀	黒曜石	20	14	6	1.7	櫛付き石刀	Ⅱ-Ⅲ層	1	46,891,597	-65,411,165	146,152	204 + 205 + 69 + 70	69 + 70		
鋼鏡	30	鉗片	黒曜石	20	20	2	0.9		Ⅱ-Ⅲ層	1	46,892,538	-65,412,799	146,216	205	70		
鋼鏡	31	加工未成の鉗片	黒曜石	14	21	4	1.2	調整済片	Ⅱ-Ⅲ層	1	46,893,388	-65,412,794	146,367	203	69		
鋼鏡	32	鉗片	黒曜石	13	10	2	0.3		Ⅱ-Ⅲ層	1	46,893,339	-65,413,146	146,245				
鋼鏡	33	石刀	黒曜石	37	15	8	5.1		Ⅱ-Ⅲ層	1	46,892,904	-65,413,920	146,395	204 + 205 + 69 + 70	69 + 70		
鋼鏡	34	鉗片	黒曜石	18	14	6	1.4	右肩端部	Ⅱ-Ⅲ層	1	46,894,147	-65,413,794	146,438				
鋼鏡	35	石刀	黒曜石	28	25	8	4.9	右肩端部	Ⅱ-Ⅲ層	1	46,894,019	-65,413,030	146,180	204 + 205 + 69 + 70	69 + 70		
鋼鏡	36	石刀	黒曜石	38	11	3	1.4		Ⅱ-Ⅲ層	1	46,895,204	-65,414,018	146,330	204	69		
鋼鏡	37	鉗片	黒曜石	17	15	1	0.3		Ⅱ-Ⅲ層	1	46,895,437	-65,414,086	146,437				
鋼鏡	38	石刀	黒曜石	22	17	5	2.0		Ⅱ-Ⅲ層	1	46,895,962	-65,415,107	146,417	204	69		
鋼鏡	39	鉗片	チート	27	21	6	2.3		Ⅱ-Ⅲ層	1	46,895,992	-65,414,373	146,342				
鋼鏡	40	鉗片	チート	8	16	3	0.6		Ⅱ-Ⅲ層	1	46,896,067	-65,414,224	146,344				
鋼鏡	41	自然石	黒色頁岩	34	17	3	2.8		Ⅱ-Ⅲ層	1	46,896,499	-65,415,094	146,463				
鋼鏡	42	鉗片	黒曜石	32	18	4	2.1	鉗入	Ⅱ-Ⅲ層	1	46,896,818	-65,415,714	146,254	202 + 205 + 69 + 70	69 + 70		
鋼鏡	43	鉗片	黒曜石	26	25	6	2.7	右肩端生鉗片	Ⅱ-Ⅲ層	1	46,897,485	-65,415,493	146,500	205	70		
鋼鏡	44	鉗片	黒曜石	32	22	6	3.6	銅鏡附	Ⅱ-Ⅲ層	1	46,897,286	-65,414,835	146,590	202 + 205 + 69 + 70	69 + 70		
鋼鏡	45	鉗片	黒曜石	15	22	3	0.8		Ⅱ-Ⅲ層	1	46,898,173	-65,415,120	146,303				
鋼鏡	46	鉗片	チート	20	26	6	3.8		Ⅱ-Ⅲ層	1	46,897,865	-65,414,598	146,538	206	70		
鋼鏡	47	鉗片	黒曜石	26	13	5	1.2		Ⅱ-Ⅲ層	1	46,897,396	-65,414,470	146,446				
鋼鏡	48	鉗片	黒曜石	16	9	3	0.4		Ⅱ-Ⅲ層	1	46,896,892	-65,414,869	146,458	205	70		
鋼鏡	49	石刀	黒曜石	42	16	4	2.4		Ⅱ-Ⅲ層	1	46,896,418	-65,412,983	146,522	204	69		
鋼鏡	50	鉗片	碧玉	23	14	4	1.5		Ⅱ-Ⅲ層	1	46,894,737	-65,411,264	146,359	206	70		
鋼鏡	51	鉗片	碧玉	25	18	2	1.1		Ⅱ-Ⅲ層	1	46,894,824	-65,417,675	146,406	205 + 70	70		
鋼鏡	52	碧玉	碧玉	27	17	4	1.4		Ⅱ-Ⅲ層	1	46,893,442	-65,410,009	146,489	203	69		
鋼鏡	53	鉗片	碧玉	5	12	3	0.2		Ⅱ-Ⅲ層	1	46,890,405	-65,410,486	146,241				
鋼鏡	54	ナイフ形石器	碧玉	30	16	4	1.6		Ⅱ-Ⅲ層	1	46,891,274	-65,410,631	146,222	203	69		
鋼鏡	55	鉗片	碧玉	31	14	6	2.1	鉗入	Ⅱ-Ⅲ層	1	46,891,166	-65,417,246	146,249	202 + 205 + 69 + 70	69 + 70		

遺跡	番号	器種名	石材名	長さ	幅	厚さ	重量	備考	位相	文化層	X座標	Y座標	Z座標	固	P.L.
遺城	56	礫	和田輝石安山岩	92	65	40	347.0	鶴石?	Ⅲ～Ⅴ相	1	46,802,360	65,419,441	145,256		
遺城	57	鉄片	黒色片岩	29	40	7	9.6	石柱?	Ⅲ～Ⅴ相	1	46,802,342	65,418,007	145,195	206	70
遺城	58	他用施ある鉄片	黒色片岩	13	12	2	0.4		Ⅲ～Ⅴ相	1	46,802,834	65,417,778	145,402	205	70
遺城	59	他用施ある鉄片	黒色片岩	39	24	4	4.1	鶴石月	Ⅲ～Ⅴ相	1	46,802,771	65,417,467	145,235	204	69
遺城	60	ナイフ形石器	鶴石	24	9	3	1.5	鶴石英?	Ⅲ～Ⅴ相	1	46,802,857	65,416,731	145,325	203	69
遺城	61	鉄片	黒色片岩	27	19	6	2.3	鶴石月?	Ⅲ～Ⅴ相	1	46,803,820	65,417,606	145,431	205	70
遺城	62	鉄片	黒色片岩	12	13	3	0.6	ガジリ軸	Ⅲ～Ⅴ相	1	46,803,927	65,416,764	145,444		
遺城	63	石片	黒色片岩	15	7	1	0.2	小型円片	Ⅲ～Ⅴ相	1	46,804,151	65,417,912	145,387	204	69
遺城	64	鉄頭	黒色片岩	48	13	4	2.6	抉入	Ⅲ～Ⅴ相	1	46,804,514	65,417,776	145,313	203	69+70
遺城	65	石片	黒色片岩	31	37	4	3.7	平切削鋸	Ⅲ～Ⅴ相	1	46,804,950	65,416,311	145,434	206	69+70
遺城	66	鉄片	黒色片岩	15	14	4	0.5		Ⅲ～Ⅴ相	1	46,807,931	65,416,956	145,370	205	70
遺城	67	礫片	和田輝石安山岩	57	51	19	49.3		Ⅲ～Ⅴ相	1	46,807,625	65,415,553	145,445		
遺城	68	加工施ある鉄片	黒色片岩	11	8	2	0.1	7256鐵片	Ⅲ～Ⅴ相	1	46,807,762	65,415,036	145,272	203	69
遺城	69	鉄片	和田輝石安山岩	66	32	17	24.5		Ⅲ～Ⅴ相	1	46,807,915	65,413,990	145,399		
遺城	70	礫片	和田輝石安山岩	6	10	4	0.4	小型圓穴	Ⅲ～Ⅴ相	1	46,807,486	65,415,384	146,294		
遺城	71	ナイフ形石器	黒色安山岩	44	17	6	5.6		Ⅲ～Ⅴ相	1	46,806,965	65,412,912	146,344	203	69
遺城	72	鉄頭	黒色片岩	21	17	2	0.7	抉入	Ⅲ～Ⅴ相	1	46,805,590	65,415,435	146,121	203	69
遺城	73	ナイフ形石器	黒色片岩	27	12	4	1.3	ポイント?	Ⅲ～Ⅴ相	1	46,805,691	65,415,398	146,258	203	69
遺城	74	鉄片	チート	26	13	9	3.2		Ⅲ～Ⅴ相	1	46,803,615	65,415,004	146,112	206	70
遺城	75	石片	黒色片岩	27	13	4	1.4		Ⅲ～Ⅴ相	1	46,803,091	65,412,222	145,117	204+205	69+70
遺城	76	鉄片	黒色安山岩	13	12	6	1.3		Ⅲ～Ⅴ相	1	46,803,806	65,411,425	146,109		
遺城	77	鉄片	チート?	49	68	19	57.0		Ⅲ～Ⅴ相	1	46,803,214	65,411,352	146,109	206	70
遺城	78	石片	和田輝石安山岩	250	200	110	4044.0	人型圓盤	Ⅲ～Ⅴ相	1	46,806,908	65,411,664	146,308		
遺城	79	鉄片	黒色片岩	14	11	3	0.5		Ⅲ～Ⅴ相	1	46,807,385	65,414,513	146,377		
遺城	80	砂片	チート?	8	7	3	0.2		Ⅲ～Ⅴ相	1	46,807,322	65,414,487	146,300		
遺城	81	鉄片	黒色片岩	12	8	2	0.2		Ⅲ～Ⅴ相	1	46,807,444	65,412,720	146,271		
遺城	B1	自然石	和田輝石安山岩	34	28	22	19.5		Ⅳ～Ⅴ相	1	46,809,061	65,372,754	143,021		
遺城	B2	自然石	雲母石英片岩	53	42	20	51.8		Ⅳ～Ⅴ相	1	46,809,564	65,372,266	145,087	74	
遺城	B3	自然石	黒色片岩	19	15	12	5.1		Ⅳ～Ⅴ相	1	46,809,697	65,372,172	144,990	74	
遺城	B4	自然石	雲母石英片岩	22	12	10	3.6		Ⅳ～Ⅴ相	1	46,809,014	65,372,227	145,117	205	70
遺城	B5	自然石	和田輝石安山岩	45	36	13	16.6		Ⅳ～Ⅴ相	1	46,809,490	65,372,922	144,922		
遺城	B6	自然石	和田輝石安山岩	43	45	17	45.1		Ⅳ～Ⅴ相	1	46,800,731	65,372,453	144,703		
遺城	B7	自然石	和田輝石安山岩	49	31	27	47.8		Ⅳ～Ⅴ相	1	46,801,412	65,372,742	144,929		
遺城	B8	自然石	不明	27	17	15	10.3		Ⅳ～Ⅴ相	1	46,801,686	65,372,825	144,643		
遺城	B9	自然石	チート?	46	32	23	36.5		Ⅳ～Ⅴ相	1	46,801,014	65,372,277	145,117		
遺城	B10	自然石	消磨圓底片	25	18	11	5.2		Ⅳ～Ⅴ相	1	46,801,798	65,372,176	145,013		
遺城	B11	自然石	雲母石英片岩	32	22	12	11.5		Ⅳ～Ⅴ相	1	46,801,352	65,371,530	145,241	74	
遺城	B12	自然石	黒色片岩	41	14	11	9.6		Ⅳ～Ⅴ相	1	46,801,122	65,371,484	144,971	74	
遺城	B13	自然石	雲母石英片岩	51	26	18	27.2		Ⅳ～Ⅴ相	1	46,801,565	65,371,014	145,352	74	
遺城	B14	自然石	雲母石英片岩	51	24	18	23.9	薄片試料	Ⅳ～Ⅴ相	1	46,801,299	65,370,806	145,106	73	
遺城	B15	自然石	和田輝石安山岩	71	50	17	68.0		Ⅴ相	1	46,801,361	65,370,088	144,186		
遺城	B16	自然石	黒色片岩	34	18	7	5.6		Ⅴ相	1	46,801,040	65,370,556	144,987	73	
遺城	B17	自然石	雲母石英片岩	18	13	8	2.2		Ⅴ相	1	46,800,580	65,370,483	145,103	74	
遺城	B18	自然石	黒色片岩	45	18	10	13.3		Ⅴ相	1	46,800,520	65,370,836	144,848	73	
遺城	B19	自然石	不明	22	18	12	7.0		Ⅴ相	1	46,809,722	65,371,452	145,074	74	
遺城	B20	自然石	砂鉄	29	22	16	9.1		Ⅴ相	1	46,809,728	65,370,971	145,046		
遺城	B21	自然石	雲母石英片岩	37	12	7	4.7		Ⅴ相	1	46,809,044	65,371,145	145,187	74	
遺城	B22	自然石	雲母石英片岩	36	28	14	19.4		Ⅴ相	1	46,808,457	65,370,774	144,641	73	
遺城	B23	自然石	雲母石英片岩	29	13	4	2.3		Ⅴ相	1	46,808,395	65,370,441	144,784	73	
遺城	B24a	自然石	黒色片岩	30	15	8	5.1		Ⅴ相	1	46,809,615	65,370,445	145,066	74	
遺城	B24b	自然石	黒色片岩	15	10	9	1.6		Ⅴ相	1	46,809,615	65,370,445	145,066	74	
遺城	B25	自然石	雲母石英片岩	21	15	2	1.2		Ⅴ相	1	46,800,125	65,370,231	144,966	74	
遺城	B26	自然石	雲母石英片岩	19	17	7	1.9		Ⅴ相	1	46,800,233	65,369,996	144,845	73	
遺城	B27	自然石	黒色片岩	34	20	6	5.0		Ⅴ相	1	46,800,496	65,369,902	144,808	73	
遺城	B28	自然石	黒色片岩	43	23	8	12.4		Ⅴ相	1	46,800,403	65,370,210	144,996	74	
遺城	B29	自然石	黒色片岩	41	19	10	10.5		Ⅴ相	1	46,800,513	65,370,330	145,071	74	
遺城	B30	自然石	雲母石英片岩	33	19	15	14.1		Ⅴ相	1	46,800,671	65,370,210	144,971	74	
遺城	B31	自然石	雲母石英片岩	31	24	17	12.8		Ⅴ相	1	46,800,705	65,370,538	144,960	74	
遺城	B32	自然石	雲母石英片岩	28	17	12	7.5		Ⅴ相	1	46,800,695	65,370,139	144,970	74	
遺城	B33	自然石	雲母石英片岩	12	9	3	0.5		Ⅴ相	1	46,800,696	65,370,111	144,974	74	
遺城	B34	自然石	雲母石英片岩	15	12	5	1.2		Ⅴ相	1	46,800,700	65,370,059	144,973	74	
遺城	B35	自然石	雲母石英片岩	46	34	27	46.3		Ⅵ相	1	46,800,981	65,370,236	145,149	74	
遺城	B36	自然石	桂冠貝殻質	31	30	15	15.5		Ⅵ相	1	46,801,238	65,370,052	145,290		
遺城	B37	自然石	雲母石英片岩	26	18	5	3.5		Ⅵ相	1	46,800,908	65,369,678	144,889	73	
遺城	B38	自然石	和田輝石安山岩	23	8	6	1.4		Ⅵ相	1	46,801,341	65,369,742	144,914	74	
遺城	B39	自然石	和田輝石安山岩	61	39	30	94.4		Ⅵ相	1	46,803,247	65,370,298	145,140		
遺城	B40	自然石	雲母石英片岩	30	17	9	5.7		Ⅵ相	1	46,802,450	65,369,642	145,270	74	
遺城	B41	自然石	消磨圓底片	17	10	5	1.2		Ⅵ相	1	46,801,890	65,369,602	145,002		
遺城	B42	自然石	桂冠貝殻質	24	15	12	5.2		Ⅵ相	1	46,801,637	65,369,184	144,871		
遺城	B43	自然石	雲母石英片岩	38	28	10	14.3		Ⅵ相	1	46,801,130	65,368,777	145,298	74	
遺城	B44	自然石	和田輝石安山岩	27	19	8	4.2		Ⅵ相	1	46,800,165	65,369,175	144,992		
遺城	B45	自然石	雲母石英片岩	35	24	10	12.0		Ⅵ相	1	46,809,277	65,369,490	145,041	74	
遺城	B46	自然石	雲母石英片岩	29	20	12	89.3		Ⅵ相	1	46,808,182	65,369,894	145,067	74	
遺城	B47	自然石	桂冠貝殻質	25	11	6	2.1		Ⅵ相	1	46,808,140	65,369,766	145,083		
遺城	B48	自然石	チート?	24	16	5	3.7	円盤	Ⅵ相	1	46,809,366	65,369,654	145,047		
遺城	B49	自然石	砂鉄	20	9	8	1.6		Ⅵ相	1	46,809,395	65,361,297	144,760		
遺城	B50	自然石	消磨圓底片	27	20	8	5.4		Ⅵ相	1	46,809,986	65,361,319	145,189		
遺城	B51	自然石	和田輝石安山岩	22	13	5	2.3		Ⅵ相	1	46,802,628	65,368,557	144,869		
遺城	B52	自然石	雲母石英片岩	38	15	5	5.6		Ⅵ相	1	46,804,381	65,361,440	145,057	74	
遺城	B53	自然石	結晶片岩	29	16	11	8.0		Ⅵ相	1	46,809,026	65,371,258	144,785	73	
遺城	B54	自然石	消磨圓底片	20	14	11	3.4		Ⅵ相	1	46,803,230	65,372,816	145,229		

遺物一覧表

遺跡	番号	器種名	石材名	長さ	幅	厚さ	重量	備考	前位	文化期	X座標	Y座標	Z座標	回	P.L.
B4城	B55	自然石	綠色片岩	30	12	11	4.2	薄片試料	誰～	Ⅳ期	46,867,290	-65,371,251	144,718	73	
B4城	B56	自然石	雲母石英片岩	20	10	5	1.6		誰～	Ⅳ期	46,867,380	-65,371,185	144,898	73	
B4城	B57	自然石	雲母石英片岩	17	16	6	1.9		誰～	Ⅳ期	46,867,687	-65,371,098	144,810	73	
B4城	B58	自然石	綠色片岩	23	12	7	2.5		誰～	Ⅳ期	46,867,478	-65,370,983	144,658		
B4城	B59	自然石	雲母石英片岩	22	20	13	7.4		誰～	Ⅳ期	46,867,800	-65,369,754	144,799	73	
B4城	B60a	自然石	黑色片岩	19	13	7	2.5		誰～	Ⅳ期	46,868,592	-65,370,184	144,782	73	
B4城	B60b	自然石	雲母石英片岩	17	13	6	1.8		誰～	Ⅳ期	46,868,592	-65,370,184	144,782	73	
B4城	B61	自然石	雲母石英片岩	60	37	13	36.3	薄片試料	誰～	Ⅳ期	46,858,373	-65,371,742	144,790	73	
B4城	B62	自然石	石英	28	17	10	5.7		誰～	Ⅳ期	46,858,254	-65,372,434	144,790		
	90M1-2	自然石	黑色片岩	32	12	6	5.5				なし	なし	なし	74	

## 第4章 まとめと考察

### 第1節 各遺跡の様相

上泉唐ノ堀遺跡、上泉新田塚遺跡群、上泉武田遺跡、五代砂留遺跡群、芳賀東部团地遺跡、胴城遺跡の各遺跡からは、群馬編年のⅠ～Ⅴ期の5時期のうち、Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ期の4つの時期に相当する石器群が出土している。ここではそれについて概要を述べるとともに、「群馬編年」(岩宿フォーラム1994、小菅・大工原・麻生2004、関口2010)との比較を、古い順に行うこととする(第212・213図参照)。特に、関口博幸氏はⅠ期・Ⅱ期・Ⅳ期について、さらに前半期と後半期に細分しており、この違いとも比較してみる。

#### 1 各遺跡の文化層の内容

まず、本報告での上武道路関係の各遺跡での石器群の様相と変遷についてみてみることとする。

**上泉唐ノ堀遺跡** 上武道路基本土層のⅢ層、Ⅳ層、Ⅶ層中からそれぞれ石器群が検出されており、第1・第2・第3文化層の3つの石器文化層と位置付けた。

第3文化層の石器分布は、環状を呈しており、北側に空白をもつことが大きな特徴である。石器組成は、不定形剥片を素材とした小形ナイフ形石器が主体で、石刃、縦長剥片に局部磨製石斧が加わっている。石器の組成と出土層位から群馬編年のⅠ期に相当するものと考えている。

第2文化層からは、石器は見つかっていないものの、落ち込みが3ヶ所確認されており、その検出した層位から群馬編年のⅡ期に相当すると考えている。また、一部に炭化物を含む落ち込みが1ヶ所確認されており、これについてはⅢ期以降の可能性がある。

第1文化層の石器の数は少なく、石器組成までは言及できないものの、出土層位からⅣ期に相当すると考えている。

**上泉新田塚遺跡群** 上武道路基本土層のⅢ層、Ⅳ層、Ⅵ層中からそれぞれ石器群が検出されており、第1・第2・第3文化層の3つの石器文化層と位置付けた。

第3文化層の石器組成は、削器と石刃を僅かに剥片を主体として構成された石器群で、ナイフ形石器などの主要石器が少ないので特徴である。石器組成からの比較は難しいものの、出土層位から群馬編年のⅠ期に相当すると見てよいであろう。

第2文化層の石器組成は、削器の存在は確認できるものの、全体的に出土数が少ない傾向がある。石器群のほかに落ち込みが2ヶ所確認されている。石器組成と検出層位から群馬編年のⅢ期に相当するものと考えている。

第1文化層の石器組成は、槍先形尖頭器と縦長剥片だけが出土したものであり、全体を知ることはできないが、槍先形尖頭器の存在と出土層位から群馬編年のⅣ期に相当すると考えられる。

**上泉武田遺跡** 上武道路基本土層のⅢ層、Ⅳ層、Ⅵ層中からそれぞれ石器群が検出されており、第1・第2・第3文化層の3つの石器文化層と位置付けた。

第3文化層の石器組成は、石刃や縦長剥片を素材とした大形ナイフ形石器、削器、石刃、石核などで構成された石器群で、石刃を素材とした大形ナイフ形石器の存在と出土層位から群馬編年のⅡ期に相当するものと考えられる。

第2文化層の石器組成は、削器と剥片は確認されるものの、ナイフ形石器は欠落しており、石器構成要素が少ない傾向がある。出土層位から群馬編年Ⅳ期前半に相当すると考えられる。

第1文化層からは、槍先形尖頭器だけしか出土しておらず、石器組成まではわからない。槍先形尖頭器の存在から群馬編年Ⅳ期後半に相当すると考えられる。

**五代砂留遺跡群** 上武道路基本土層のⅢ層、Ⅳ層、Ⅵ層中からそれぞれ石器群が検出されており、第1・第2・第3文化層の3つの石器文化層と位置付けた。

第3文化層の石器組成は、彫器、楔形石器、削器を主体とし、剥片と比較して敲石と石核の出土数が多く、接合資料が少ないと傾向がある。石器組成と出土層位から群馬編年Ⅱ期に相当すると考えられる。

第2文化層の石器組成は、横長剥片を素材とした小形ナイフ形石器や削器、楔形石器などで構成されており、横長剥片素材の小形ナイフ形石器の存在から群馬編年Ⅲ期に相当すると考えられる。

第1文化層からは、槍先形尖頭器だけしか出土していないため、組成までをとらえることはできないが、その存在から群馬編年のIV期に相当すると見てよいであろう。

**芳賀東部団地遺跡** 上武道路基本土層のV層とⅦ層中からそれぞれ石器群が検出されており、第1・第2文化層の2つの石器文化層と位置付けた。

第2文化層の石器組成は、縦長剥片を素材とした大形ナイフ形石器と剥片素材の小形ナイフ形石器、局部磨製石斧を主体として構成されており、大形ナイフ形石器の割合が多い傾向が見られる。また、環状ブロック群が2ヶ所検出されており、石器組成や石器群の分布から群馬編年Ⅰ期に相当すると考えられる。

第1文化層の石器組成は、石刃素材の大形ナイフ形石器と削器や石刃で構成されており、礫群と土坑を伴う集石が検出されている。石刃素材の大形ナイフ形石器の存在と、出土層位から群馬編年Ⅱ期に相当すると考えられる。

**銅城遺跡** 上武道路の基本土層のⅢ層中から、小型の黒曜石製のナイフ形石器を含む石器群と、石刃技法の石器群が出土しており、第1文化層として位置付けたが、石刃技法の存在から群馬編年IV期に相当すると考えた。

### 2 各文化層の石器組成

第223・224図は、各遺跡の文化層の主要な石器組成について、群馬編年の段階設定に基づいて構成したものである。この図からは、Ⅰ期・Ⅱ期・Ⅳ期と重層した文化層をもつ遺跡が多いことがわかる。Ⅰ期の遺跡が多いのは、群馬県の旧石器時代の大きな特徴であるが、上武道路関係で調査された遺跡においても、この傾向が追認されている(第1表参照)。Ⅱ期についても、Ⅰ期と同様に遺跡数が比較的多い傾向がある。従来は遺跡数が少ないと見られてきたⅢ期については、上武道路関連の遺跡においてはやや多い傾向が窺える。しかし、石器の点数や石器組成などがⅠ期・Ⅱ期と比較して貧弱であり、充実した内容とは言えない。Ⅳ期の遺跡数もやや多い傾向が窺え、大間々扁状地から赤城山南東麓にかけて、槍先形尖頭器を石器組成とする遺跡が多い傾向と一致している。しかし、本報告書に掲載した遺跡では、3遺跡から槍先形尖頭器がそれぞれ1点しか出土しておらず、狩猟の場で消費されたものであるかもしれない。Ⅴ期は、これまでの上武道路関連の調査ではまったく検出されていない。しかし、赤城山南東麓でも鳥取福藏寺Ⅱ遺跡(標高150m)、頭無遺跡(標高120m)、枡形遺跡(標高430m)、柏倉見沢遺跡(標高360m)、市之闇前田遺跡(標高290m)、馬見岡遺跡(標高125m)など、標高にはあまり関係なく小河川寄りの位置からⅤ期に相当する遺跡が発見されており、赤城山から延びる樹枝状の台地を横切るように通過する上武道路において、まったく発見されていないことが不思議である。

### 3 各ブロック群の様相

次に、各遺跡における石器の分布状況と、場の機能について検討してみる。

上泉唐ノ堀遺跡の1号ブロックの分布状況(第214図)は、北半の石器分布が希薄であり、いわゆる「弧状ブロック群」なのだが、局部磨製石斧などの石器組成や剥片剥離技術などからみれば、群馬Ⅰ期の時期の石器群そのものであり、この時期に特徴的な「環状ブロック群」と見るのが妥当であろう。このような環状ブロックの一端が欠落することについて、小菅将夫氏らは環状を形成する複数集団の一つが集結しなかったことによるとしている(小菅2003)。1号ブロックの西半では、ナイフ形石器などの主要石器が出土しているだけでなく、接合資料が多く、敲石や石核も出土していることから、この部分が石器製作の場である可能性が高い。

一方、南側に位置する3号ブロックでは、1号ブロックと異なり接合関係がなく、局部磨製石斧や石刃などの利器が僅かに出土しているだけであることから居住空間の可能性がある。これについては、環状ブロックには、別のブロックが付帯する事例もあることから、1号ブロックと同時存在であるとする同一集団による場の機能区別が表れている可能性がある。さらに、石材の分布では、黒曜石は1号ブロックの中央部から西半に偏った分布をし、黒色安山岩の原石からの分割も西側でしか確認されていない。これらのことから、西側と東側では場としての何らかの違いがあったこと

がわかる。

上泉新田塚遺跡群では、第3文化層で9ヶ所のブロックを検出したが、この中で2号ブロックと4号ブロックでは石刃と石核が集中しているだけでなく、黒色安山岩の接合資料がほとんどこの2ヶ所に集中しており、接合関係から見ても石器製作の場と考えられる。

上泉武田遺跡の第3文化層では、長さ約60m、幅約16mの範囲で全体に弧状に分布する9ヶ所のブロックを検出し、これを「弧状ブロック」と認識した。このような分布状況は、利根郡みなかみ町の後田遺跡や善上遺跡、渋川市房谷戸遺跡など、群馬I期からII期にかけての遺跡で特徴的に認められる(麻生2009)。接合資料の分布では、大部分が同一ブロック内に完結している事例が多く、関口氏はI期の環状ブロック群から弧状ブロック群への変換と捉えているが、上泉武田遺跡でも同様の考え方可能であろう。また、ナイフ形石器や彫器などの主要石器は全体としては少なく、石器製作に関係する敲石は5号ブロックと7号ブロック、石核は3号ブロックを除く各ブロックに存在し、接合資料もほぼ全域に分布することから、上泉武田遺跡のブロックにおいては、石器製作の場としての機能が優先されたものと考えられる。

五代砂留遺跡群の第3文化層では、長軸約43.5m、短軸約10mの範囲から16ヶ所のブロックを検出した。石器が集中するのは第2ブロックと第7ブロックを中心とした西半で、主要な石器であるナイフ形石器や彫器、削器なども同様に西半を中心に分布している。また、点数は少ないものの、碧玉が石器分布域のほぼ中央から石刃・石核とともに出土しており、注目すべき存在である。接合資料は多くはないが、大部分の資料が個々のブロック内で完結する。こうした点から上泉武田遺跡と同様に、群馬I期からII期にかけて特徴的にみられる、環状ブロック群から弧状ブロック群への変換の特徴を表していると考えられる。

芳賀東部団地遺跡で注目されるのは、第2文化層のD区の集石とその下部で検出した土坑である。特異な遺構であり、第4章第3節で詳述する。また、1区の礫群は、長軸約6.5m、短軸約2.5mの範囲に分布しており、礫群の点数は少ないものの、北西部から出土した接合関係の見られる礫は、被熱によると思われる破碎が認められた。県内の礫群で同様の事例は無く、貴重な検出例となった。また、第3文化層のB区とE区で環状ブロック群が検出されている。B区では5ヶ所のブロックで構成されており、北西部に1号ブロックの1か所の密集部分、南東部には3号ブロックと4号ブロックの2カ所の集中部分があり、北東部の2号ブロックと南西部の5号ブロックの石器分布は希薄で、中央部にはブロックは検出されておらず、全体としてやや梢円形を呈する環状ブロックである。E区では1号ブロックから8号ブロックの8か所が環状に分布し、内側に9号ブロックと10号ブロックの2ヶ所のブロックが存在する。各ブロックの石器の集中度はほとんど同じである。B区とE区のそれぞれの分布範囲は、B区が長軸約36m、短軸約24mの梢円形、E区が長軸約20m、短軸約15mの梢円形である。石器の分布では、ナイフ形石器などの主要な石器は少ないものの、E区はB区よりも全体に出土点数も多く、石材では黒色安山岩と黒色頁岩が全体に分布するが、ブロック別では黒色安山岩を主体とするのが多い。接合資料の多くは、両区とも同一ブロック内で接合が完結し、ほぼすべてのブロックで剥片削離作業が行われていることが確認できる。したがって、大部分が石器製作の場と考えられる。

胴城遺跡からは黒曜石を主体とする石器群を検出しており、原産地はすべて星ヶ塔との結果が出ている。この黒曜石の状況については、第5章第1節及び第3節で詳述する。

#### 4 各石器群と群馬編年

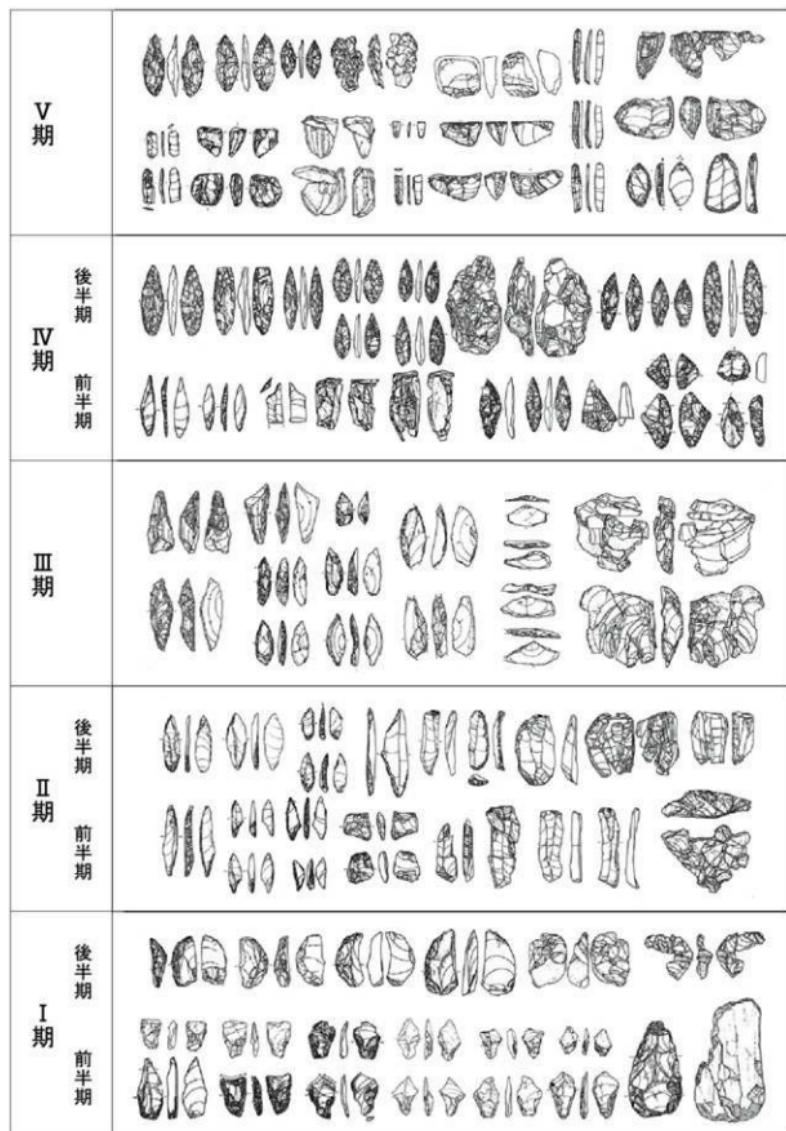
次に、各遺跡出土の石器群と群馬編年との関係および編年各期について説明することとする。

##### (1) 群馬I期

群馬編年I期は、姶良Tn火山灰(AT)より下位、Hr-HA上位の暗色帶中の下半部を出土層位としている。この時期は南関東の武藏野編年のX層からIX層下部にかけてで、相模野編年の第II期と対比される。

この石器群の時期は、剥片素材の尖刃(いわゆるベン先形)や斜刃・平刃(いわゆる台形様石器)の小形ナイフ形石器を中心とし、石刃あるいは縱長剥片を素材として基部や先端部に調整を施した大形ナイフ形石器を少量に、その他の主要な石器として搔器、削器、打製石斧、局部磨製石斧などが出土している。ナイフ形石器の形状には多種がみられ、石刃素材のものが少なく、ベン先形や台形状の形状が多いが、これについては、それぞれの定義付けをして「ベン先形





第213図 群馬の旧石器時代石器群の変遷(岡口2010より引用)

「ナイフ形石器」や「台形様石器」などの呼称を使用する研究者もいる。石器石材は群馬県内の在地系の黒色安山岩が多数を占め、同じ在地系である黒色頁岩も利用されている。これ以外では、チャートや遠隔地系である長野県諏訪地方や栃木県高原山の黒曜石が一部用いられている。

また、この時期の石器の分布状況には、20～50mの規模で「環状ブロック群」と呼称される中央部に空間をもちリング状に石器が分布する特異な形態が存在する。最大規模の50mの分布を誇る栃木県佐野市の上林遺跡、伊勢崎市赤堀町の下触牛伏遺跡や長野県信濃町の日向林B遺跡、千葉県四街道市の池花南遺跡などを代表とする特徴的な分布で、全国的に見ても群馬県や千葉県での検出事例が多い(岩宿フォーラム1993、小菅2000、日本旧石器学会2006)。

この時期の代表的遺跡としては、渋川市房谷戸遺跡、同市分郷八崎遺跡、前橋市内堀遺跡、伊勢崎市三和工業団地I遺跡、同市波志江西宿遺跡、同市下触牛伏遺跡、桐生市十二遺跡、みどり市岩宿遺跡、太田市藪塚遺跡、安中市古城遺跡、甘楽町白倉下原遺跡、同町天引孤崎遺跡、藤岡市北山遺跡、高崎市折茂Ⅲ遺跡があげられる。

かつて、麻生と大工原氏らは、この時期を3段階に区分した。(岩宿フォーラム1994)そこでは、第1段階は、主として幅広剥片を素材とし、折断調整・平坦剥離・急角度調整・縁辺微調整など多様な調整技術によって整形された小形ナイフ形石器が安定して存在する。一方、大形ナイフ形石器は素材の形状が多様で、打面が残存し微細な基部調整を施した資料が多い傾向があり、搬入品で客体的である。この段階の特徴的な石器である局部磨製石斧は、遺跡ごとの点数は少ないものの、大部分の石器群に普遍的に存在する。

第2段階は、小形ナイフ形石器の折断調整と急角度の調整が主体となり、平坦剥離がほとんど認められない。石刃・縦長剥片系の大形ナイフ形石器は数量が多く、普遍的に存在するが、一方で局部磨製石斧を含む石斧類は減少する。

第3段階は、大形・小形ナイフ形石器共に急角度調整が主体となり、調整自体も丁寧に施され、さらに石刃技法が確立する。局部磨製石斧を含む石斧類は引き続き減少する傾向が認められる。この段階は、さらに武蔵野編年VII層とVI層とに細分が可能と想定したが、県内でのVI層の資料が当時は少なかった。だが、この段階そのものが、後に新たにⅡ期として分離されることになる。

これに対して、小菅氏は上記の段階をI a前半期とI b後半期とに区分している(小菅2003)。前者は石刃を素材として基部と先端部に加工が施される杉久保系ナイフ形石器と、貝殻状剥片を用いて平坦や斜めの刃部をもつ、あるいは先端部が尖る形態で側縫部に平坦な加工が施された藪塚系ナイフ形石器を主体とし、斧形石器を普遍的に含み、砾器などの大形の石器が多いとしている。後者は、杉久保系ナイフ形石器も含まれるが、石刃を用い対向調整を含む切断技法によって全体形状を整えた茂呂系ナイフ形石器が増加する時期である。藪塚系ナイフ形石器は数が激減し、調整加工もプランティング状の急なものになる。斧形石器を作るのは稀であるとしている。

この小菅編年と麻生・大工原編年との対比では、第1段階がI a前半期、第2段階がI b後半期に相当するとし、第3段階については後で述べるが、この時期からはずして次の新しい時期としている。これを受けて、小菅氏・大工原氏と共に新編年を組み上げ、從来のI期をI期とII期に細分し、その後は今まで次の数字の時期に移行する形の、IV期編年からV期編年に変化することになった。(小菅・大工原・麻生2004)

さらに、小菅氏らはI期を5段階に細分しているが、その段階ごとの内容と推移の解釈にはやや問題があるが、これについては群馬I期の個別の検討課題として、別の機会を設けて考えたいと思う。

一方、関口氏はこの時期を前半期と後半期に区分した。関口氏によると、「前半期はナイフ形石器、ベン先形ナイフ形石器、台形様石器、打製石斧、局部磨製石斧などの石器組成で、環状ブロック群を形成する。武藏野台地Ⅸ層下・X層上段階に相当する。石器石材に黒色安山岩、黒曜石を利用する遺跡が多く、黒色頁岩の割合は低い。黒曜石は信州産と高原山産で、大間々扁状地(桐原面)地域には大上遺跡をはじめ高原山産を利用する遺跡が多く分布している」としている(関口2010)。実際に高原山産の黒曜石の出土が多いのは、大間々扁状地から赤城山南麓を中心とする東毛地域であるが、当該期の遺跡がこの地域からの検出が顕著であることによる可能性がある。また、黒色頁岩の割合も言われるほどは低くはない。

後半期についても関口氏は、「石器組成からベン先形のナイフ形石器や局部磨製石斧が無くなり、環状ブロック群も

次第に姿を消す段階」とし、「ナイフ形石器には弧状の一側縁加工が見られ、石器数量は多いもののトゥール自体の数は減少し、ナイフ形石器を少量組成する程度で主体は不定形剝片である」としている。このことは、「房谷戸遺跡や堀下八幡遺跡で不定形剝片生産に関連する接合資料が、多数確認された」ことでも立証されている（関口2010）。

## (2) 群馬Ⅱ期

群馬編年Ⅱ期は、姶良Tn火山灰(AT)下位から暗色帶上半部が出土層位である。主要な石器である、ナイフ形石器は大形・小形とも急角度調整が主体となり、調整自体も丁寧に施され、その素材となる石刃技法が確立する。石斧は引き続き減少する傾向にある。この段階は、石器群の様相から武藏野編年のVII層とVI層とに細分が可能と想定した。

この時期の遺跡は、利根川上流部と赤谷川の合流地点付近から沼田盆地周辺にかけてと、やや下流の赤城山西麓の利根川左岸の急傾斜な崖をもつ上位段丘面の上面、さらに赤城山南麓の丘陵部にかけて分布している。前者は群馬での在地系と称される黒色安山岩（産出地が武尊山北面周辺）や黒色頁岩（産出地が三国山から赤谷湖周辺の赤谷層）の産出地に近接していることから、石器石材の採取拠点と考えられている。後者は獲物となる動物の集まる場所である湧水や沢を見下ろせるという環境であり、さらに関東平野の縁辺部という地形が、山から平野への出入り口、あるいは山に沿って移動する動物の回遊ルートという意味合いがあるのかも知れない（第7図参照）。

代表的な遺跡は、利根郡みなかみ町大竹遺跡、同町小竹A遺跡、同町善上遺跡、同町後田遺跡、渋川市勝保沢中ノ山遺跡、同市見立溜井遺跡、前橋市熊ノ穴II遺跡、伊勢崎市堀下八幡遺跡、同市大上遺跡などがあげられる。

関口氏はこの時期を前半期と後半期に区分するなかで、「前半期にはナイフ形石器、楔形石器、彫器、大形石刃を主に組成する」とし、「典型的な石器群として大上遺跡第3文化層や上泉唐ノ堀遺跡第2文化層をあげており、ナイフ形石器は石刃素材で二側縁加工より打面除去して柳葉形に整形したもの、基部を尖頭形に作出し二側縁加工で有肩形に整形したものが特徴である」とした（関口2010）。また、「ほかに剝片素材の弧状の一側縁形もある。大上遺跡第3文化層では同一規格と考えられる有肩形のナイフ形石器がまとまって出土した。このようにⅡ期前半期のナイフ形石器は形態及び大きさのバリエーションが豊富であるとともに、同一形態・同一規格のものを量産する傾向がある。大形の石刃は平坦打面で單設打面からの剝離痕を持つものが多い。搬入品で遺跡内での石刃生産の痕跡を持たないため、剝離工程を復元できる接合資料に乏しい。大形石刃に関する石刃技法の詳細な技術は判然としないが、Ⅱ期前半期になると石刃生産の頻度が高まっているのは確実である。石刃生産には黒色頁岩の利用頻度が高い。大形石刃素材のナイフ形石器や彫器、大形石刃を組成するものの、遺跡内における剝片剝離作業の主体は石刃生産ではなく、黒色安山岩・黒色頁岩製円礫を搬入した大量の不定形剝片生産である。これがⅡ期前半期の特徴の一つ」であると述べ、いわゆるVII層階層石器群の特徴を指摘している。

なお、関口氏は「Ⅱ期前半期とⅠ期後半期の石器群については、伊勢崎市堀下八幡遺跡や同市塚下遺跡のように、VI層の特徴をも有するなど編年区分の判断が難しい石器群」であるとも述べている（関口2010）。

関口氏は、Ⅱ期前半期の石器分布についても、大上遺跡第3文化層や上泉唐ノ堀遺跡第2文化層、伊勢崎市書上遺跡第3文化層I区のように環状ブロック群に匹敵する規模を持つ大規模ブロック群を形成」することを指摘した（関口2010）。これらについては、「弧状ブロック群」と呼称する関口氏らが注目するように、「群馬編年のⅠ期後半部からⅡ期前半期にかけての遺跡は、「環状ブロック群」の衰退後の遺跡構造を解明するうえで、また環状ブロック群と比較して遺跡形成過程を解明するうえで重要」であり（関口2010）、後田遺跡や勝保沢中ノ山遺跡での分析を通じて、筆者もその解説を試みている。（麻生2009）

後半期の石器群の特徴として関口氏は、「黒曜石を主体とした石刃石器群と黒色安山岩・黒色頁岩を主体とした石刃石器群の2つのグループがある。前者のグループは、石刃素材のナイフ形石器、石刃、エンドスクリーパーを組成する石器群で、大上遺跡2文化層や堀下八幡遺跡B遺跡が典型例である。ナイフ形石器は二側縁加工により茂呂型に整形したもので有肩形は見られない。大上遺跡2文化層では二側縁加工を施しても微細な大きさで打面を残したナイフ形石器が複数認められる。亀井坂上遺跡2文化層では、二側縁加工のナイフ形石器はないものの、黒曜石による両設打面石刃石核からの石刃生産を示す接合資料が確認された。一方、後者のグループは、大形のナイフ形石器、幅広石刃素材のエン

ドスクレイバー、石刃を組成する石器群で、波志江西宿遺跡2文化層や書上遺跡3文化層II区が典型例である。石刃技法には、黒色安山岩の円礪を分割するとともに、稜形成を施して石刃生産する接合資料が確認されている。遺跡内に原石（主に黒色安山岩）を搬入し石核調整を施して石刃生産を行っており、また剝離された石刃の廃棄率が高いため接合率も高い」と指摘した。通常の石刃剝離とは異なり、黒色安山岩を用いる点で異質であり、注目しておきたい。

### （3）群馬Ⅲ期

群馬編年Ⅲ期は、始良Tn火山灰(AT)上位から浅間板鼻褐色軽石(As-BP)上位までの間の層位から出土する石器群であり、武藏野編年のIV下・V層に対比される。主要な石器は、ナイフ形石器と角錐状石器、円形の搔器、削器、楔形石器などである。最近では、関口氏も指摘する通り、渋川市上白井西伊熊遺跡の第2文化層のように、これまで県内でまったく確認されていなかった、黒色安山岩・黒色頁岩を主に利用した瀬戸内技法の一群からなる石器群が、黒曜石を利用したナイフ形石器と角錐状石器の一群と共に伴った事例も確認されている（関口2010）。このうちの「黒曜石の一群は武藏野編年でのIV下・V層上部段階の石器群の典型的な石器組成である。その出土層位は、前橋泥流堆積物とAs-Srに挟まれたローム層中で、これにより国府系石器群がAs-BPグループ降下の時期に相当すること」が初めて確認された（関口2010）。

関口氏は太田市「峯山遺跡第1文化層では切出形ナイフ形石器、小形ナイフ形石器、角錐状石器、黒曜石を利用した横長剣片剝離を示す接合資料が確認された」としている（関口2010）。

この時期の群馬県内では遺跡数が極端に少なくなる時期で、その理由については多くの研究者が浅間山の頻繁な火山活動に伴う自然環境の急激な変化に伴う動植物の変移などが要因の一つであると考えられており、その意味で赤城山西麓の渋川市諏訪西遺跡などで指摘されている、浅間板鼻褐色軽石下位の土層中からの炭化物の出土が注目される。そして、人間もまた集団の維持のために狩猟に適したよりよい場所に移動したであろうと推察するのが一般的である。一方、この時期に武藏野台地や相模野台地などの南関東地域で遺跡数が著しく増加する。これらの様々な要因が組み合わされることにより、北関東地域の遺跡数が減少するのに反比例する形で南関東地域での遺跡数が増加する事象との間に、何らかの関係が存在するのではないかという点などについて、小菅氏らの解釈との相互の比較検討が十分必要である。

また、時期の遺跡は、遺跡数が少ないために正確かどうかははっきりしないが、前段階のⅠ期からⅡ期にかけてでも述べたように赤城山西麓の利根川左岸の急傾斜崖をもつ上位段丘面の上面、あるいは赤城山南麓の丘陵部にかけて分布する傾向がある。代表的な遺跡ではみどり市岩宿遺跡、渋川市北町遺跡などがある。注目なのは、先に述べたように上西日本の瀬戸内地域から関西地方にかけての特異な石器製作技術である『瀬戸内技法』を用いた国府型ナイフ形石器が、白井西伊熊遺跡で在地系の黒色安山岩などを用いて大量に製作されており、その内容が本場に匹敵するものである点は、研究の再構築を余儀なくさせると共に、喫緊の課題である。また、前橋市富田宮下遺跡からも单品ながら、県内でも数少ない黒曜石の国府型ナイフ形石器が出土している。

関口氏は、「群馬でのこの時期の特徴である遺跡数の減少の状況について、群馬と比べて大宮台地・武藏野台地で遺跡が多いとし、群馬ではブロック・疊群も小規模な遺跡が多く、大規模な遺跡が多い大宮台地・武藏野台地とは対照的である」としている。また、「この旧利根川で結ばれた上流域の群馬と下流域の大宮台地・武藏野台地との間に偏在した遺跡分布がみられることについて、この現象は群馬編年のIV期前半にも続くが、この現象の背景には、As-BPグループ降下と前橋泥流の発生・利根川扇状地の埋没が石器石材採取地や狩場の壊滅をもたらしたため、旧石器人の移動範囲が変化し埋没利根川扇状地の周辺地域に遺跡を残す機会が減少した可能性が考えられる」としているが、傾聴に値する意見である。

一方、今回だけでなく、上武道路関係の旧石器遺跡では、石器群の量や内容こそ少ないものの、遺跡数だけではこの時期が多い。これだけを見て考えると、前記した火山活動などの影響があまりなかったのではとの感じも浮かんでくる。

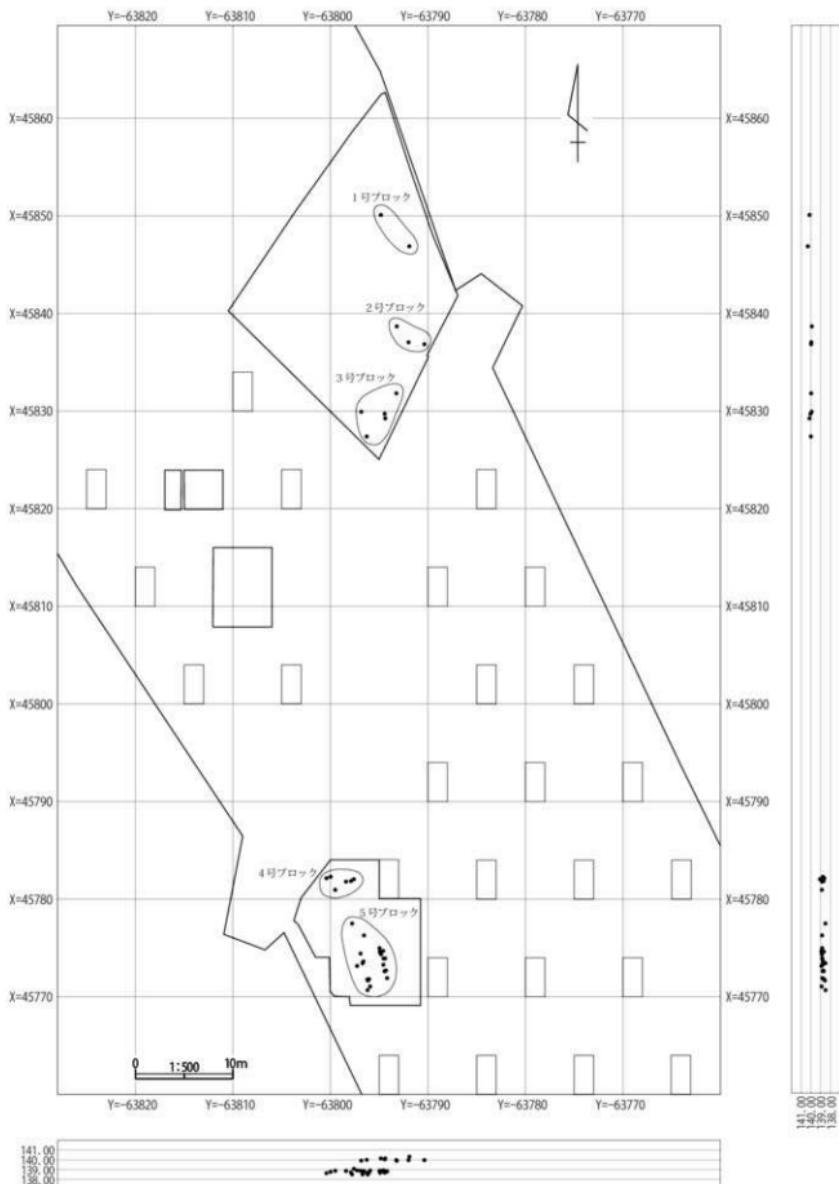
### （4）群馬Ⅳ期

群馬編年のIV期は、浅間板鼻褐色軽石と浅間大庭沢第1軽石との間であり、武藏野編年のIV中・上層に対比される。槍先形尖頭器とナイフ形石器、それに彌器と搔器が特徴的な石器群である。

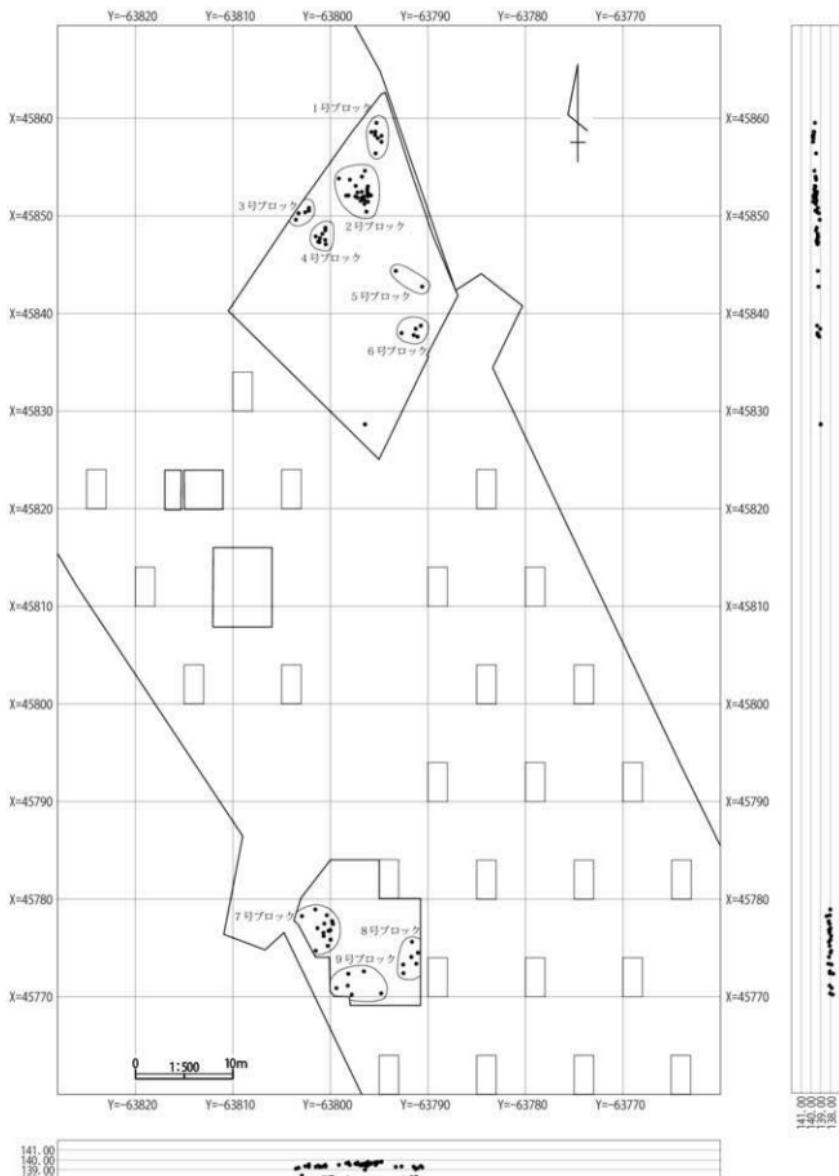
第1節 各道路の様相



第214図 上泉唐ノ堀遺跡拡張1・5区のブロック別分布図



第215図 上泉新田塚遺跡群第2文化層のブロック別分布図

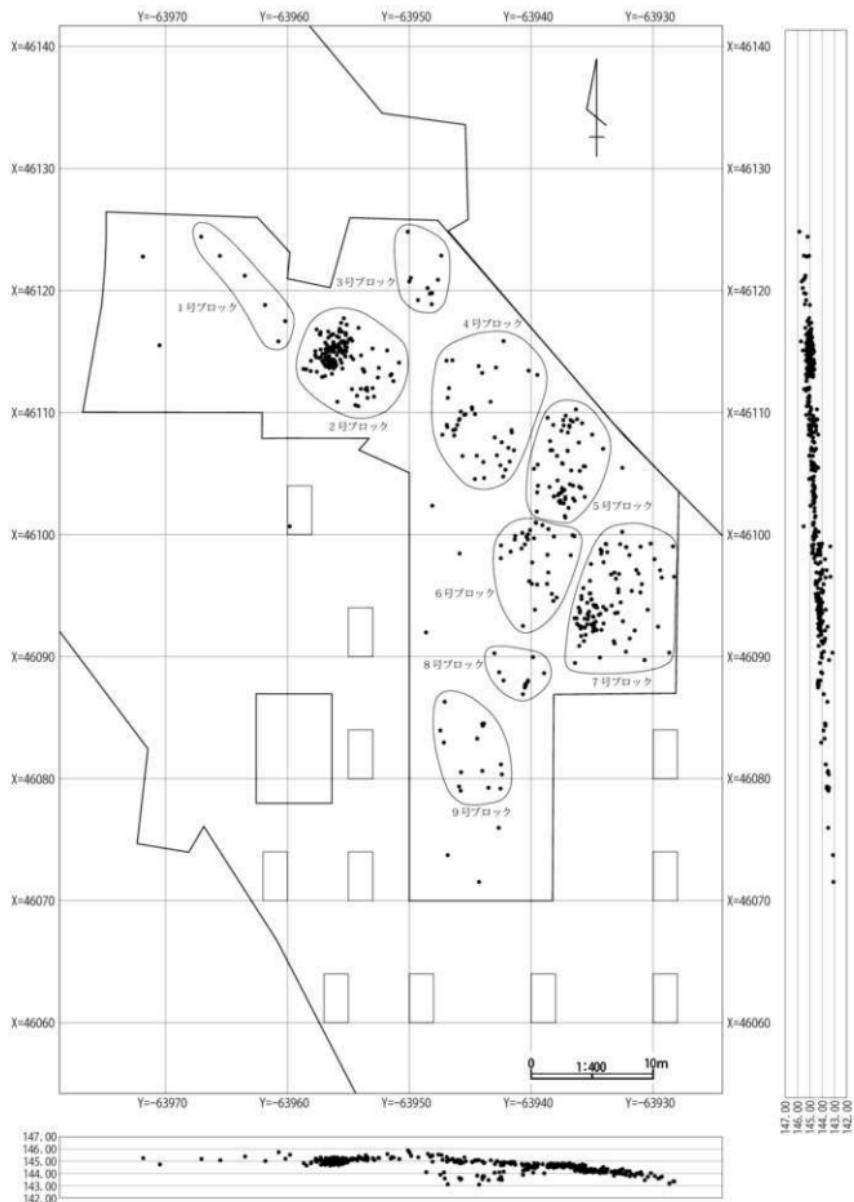


第216図 上泉新田塚遺跡群第3文化層のブロック別分布図

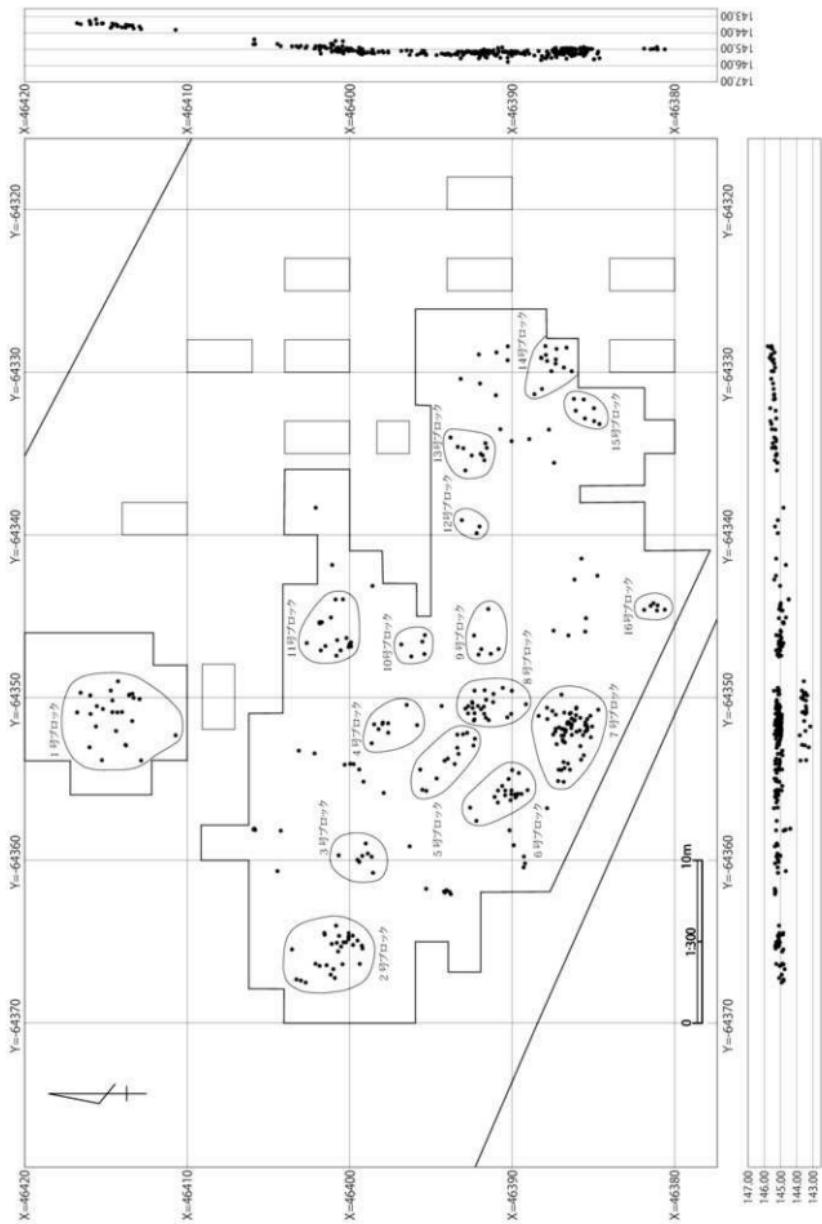


第217図 上泉武田遺跡第2文化層のブロック別分布図

### 第1節 各道跡の様相



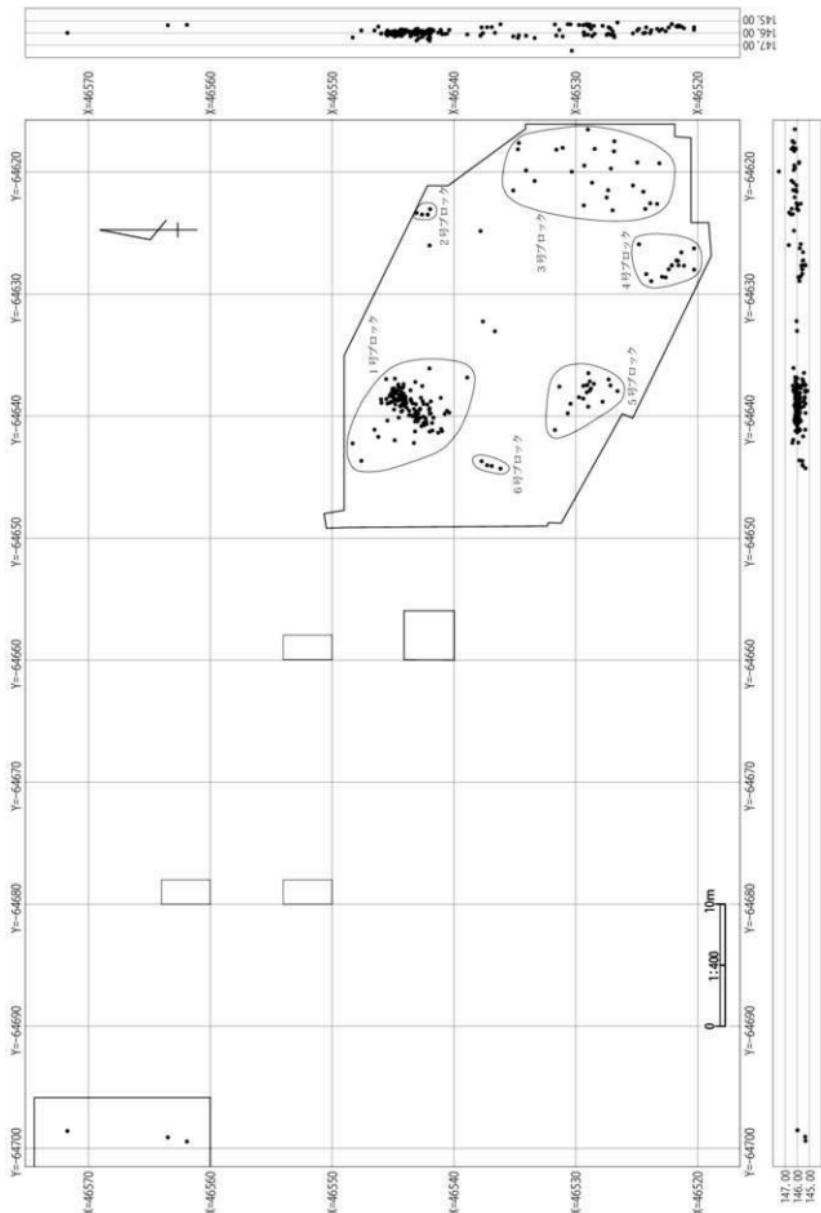
第218図 上泉武田遺跡第3文化層のブロック別分布図



第219図 五代砂留選跡群拡張 7区のブロック割分図



第220図 芳賀東部山地道路1区のブロック別分布図



第221図 方鏡東側地道路B区のブロック別分布図



第222図 芳賀東部団地遺跡E区のブロック別分布図

県内の槍先形尖頭器を含む遺跡群の位置付けについては、県内の研究者の間でも見解が分かれている。軽部達也・中島誠両氏や筆者は大筋では同様に、御正作遺跡を古く、次に下触牛伏遺跡や武井遺跡で、見立溜井遺跡を新しく位置付けるのに対して、小菅氏は、当初は石刃素材のナイフ形石器が多いものの、種状剥離を有する尖頭器の下触牛伏遺跡が古く、武井遺跡や元宿遺跡、邑楽郡大泉町御正作遺跡、三ツ屋遺跡を新しく位置付けている。さらに、下触牛伏遺跡をⅢaとⅢbの2時期に細分している。

また、槍先形尖頭器そのものも形態などから小菅氏が三ツ屋遺跡を古く、次に元宿遺跡を位置付けるのに対して、軽部氏・中島氏や筆者は三ツ屋遺跡を中頃に、元宿遺跡を新しく位置付けるなど、研究者の中での見解も様々である。

第7図を見ると、Ⅰ期終末からⅢ期にかけての遺跡はいくつもの河川の流域の周辺の丘陵地にまとまって分布している。その中でも武井遺跡の槍先形尖頭器を中心とした武井Ⅱ石器文化は、全国的にみても規模が大きく、ここで製作された石材は渡良瀬川で採集されるチャートの他に、長野県の和田岬・星ヶ塔や栃木県の高原山の黒曜石、東北地方の硬質頁岩(珪質頁岩)などが使用されている(岩宿フォーラム1997)。ここで製作された槍先形尖頭器は、周辺の遺跡へと供給された可能性が小菅氏らにより指摘(笠懸野岩宿文化資料館1992)されており、こうした石材や石器の流れから、人の行動も把握できる可能性が考えられている。

代表的な遺跡は、渋川市見立溜井遺跡、前橋市三ツ屋遺跡、桐生市武井遺跡、同市元宿遺跡、太田市東長岡戸井口遺跡、大泉町御正作遺跡などがある。特に、東長岡戸井口遺跡はⅡ期からⅢ期への変遷過程を考える上で重要な遺跡である。

前半期石器群について関口氏は、「前半期は、武藏野台地Ⅳ層中・上部の砂川期に相当する。石刃素材のナイフ形石器、エンドスクレイバー、石刃、槍先形尖頭器を組成し、石刃技法が主体となる砂川期石刃石器群である。群馬では東長岡戸井口でチャートを利用したまとまった石刃石器群が出土している程度で、石刃石器群を残す遺跡がとても少ない」とした。

また、同時期には「黒曜石を利用した有極尖頭器石器群があり、男女倉型有極尖頭器を作う一群と東内野型有極尖頭器を作う一群の二つグループが認められる。前者には、前橋市富田下大日遺跡第1文化層、伊勢崎市本閑町古墳群、藤岡市北山B遺跡、高崎市神保富士塚遺跡がある。いずれも小規模な石器群で砂川期石刃石器群との共伴の事例はない。後者には、前橋市今井三騎堂遺跡第2文化層があり、東内野型有極尖頭器のほかに大量の彫器と搔器と共に共伴している。原産地分析の結果、これらの遺跡出土の男女倉型有極尖頭器と東内野型有極尖頭器の黒曜石は和田岬産と判明した(関口2010)。また、この段階の特徴的な石器である有極尖頭器の削片・彫器削片を組成する石器群が波志江西宿遺跡2文化層と書上遺跡2遺跡第1文化層・第2文化層などで出土し、前者では石刃と搔器、後者では小形の石刃素材ナイフ形石器をそれぞれ共伴している。下触牛伏遺跡第1文化層では、ナイフ形石器と共に彫器とその削片が多数出土している。前半期の石刃石器群と二つの有極尖頭器石器群を合わせた形での三つの石器群は、層位的にAs-Sr降下前後付近からAs-0k1降下前後付近に位置づけられるが、相互の前後関係までは明確にできない。そこで現状ではⅣ期前半に編年区分した枠内に包括される時間的並行関係にある」と想定した。関口氏は東内野型有極尖頭器を古く、男女倉型有極尖頭器を新しく考えているが、上白井西伊熊遺跡での東内野型有極尖頭器と『瀬戸内技法』を用いた国府型ナイフ形石器が共伴するのであれば、その考えは正しいこととなるが、逆にⅣ期内ではなく、Ⅲ期への位置付けという新たな問題が発生することとなる。

後半期は、「槍先形尖頭器石器群の段階で、槍先形尖頭器の量産に特徴づけられる石器群である。武井遺跡、前道下A遺跡、今井三騎堂遺跡第2文化層、梨子ノ木J遺跡などがある。槍先形尖頭器は両面調整を主体とし片面調整、半両面調整も見られる。形態は長幅比2:1から4:1の木葉形から柳葉形が主体で、大型から小型まで様々な大きさのものが製作される。多くの遺跡でチャートを利用している。武井遺跡では、千点を超える膨大な槍先形尖頭器が出土し、チャート以上に黒曜石を利用して槍先形尖頭器を製作している。槍先形尖頭器石器群を石器組成とする遺跡は、槍先形尖頭器製作の大規模拠点である武井遺跡を中心として赤城山南麓地域に集中」する傾向が窺えるとした(関口2010)。

これに対して「利根川以西では、鎌川流域の多野郡下仁田町の下鎌田遺跡や子持山南東麓地域の渋川市の吹屋遺跡で小規模な石器群が発見されている程度である。武井遺跡に大量の信州産黒曜石を搬入して槍先形尖頭器が製作している

にも関わらず、赤城山南麓地域と信州黒曜石原産地との間に相当する利根川以西の地域では、黒曜石を多量に消費する形で槍先形尖頭器を製作する遺跡がとても少ない。この点からも、いかに大量の信州産黒曜石が武井遺跡のみで一極集中して消費されているかが理解できる」と述べた。武井遺跡を中心とする石器の流通と拡散が行われていたことを如実に示している事例と言える。

#### (5) 群馬V期

群馬編年V期は、浅間大窪沢第1軽石(As-0k1)や浅間大窪沢第2軽石(As-0k2)から浅間板鼻黄色軽石(As-YP)までの時期で、武蔵野編年のⅢ層に対比される。この時期の特徴は、細石核と細石刃からなる細石器石器群を主体とし、彫器や搔器を作成する石器群である。櫻井美枝氏や筆者らは以前に形状や石材から3段階を設定したが、萩谷千秋氏も細石核の形状で細分しており、V a期は「円錐形細石核」で石材は黒曜石が主体であり、V b期は「船底形細石核」で、石材は在地系の黒色頁岩が主体であるとし、V c期は「湧別技法」を中心とした細石刃剥離技術を特徴とする「削片系細石核」で、石材が東北地方の硬質頁岩であることから、大きくは三つの時期差があるとした。

この時期の代表的な遺跡は、渋川市上原遺跡、前橋市市之閑前田遺跡、同市柳形遺跡、同市柏倉吉見沢遺跡、同市頭無遺跡、同市鳥取福藏寺II遺跡、伊勢崎市三和工業団地IV遺跡、同市舞台遺跡、同市上植木光仙房遺跡、桐生市大雄院前遺跡、みどり市馬見岡遺跡、太田市八ヶ入遺跡があげられる。

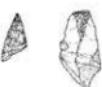
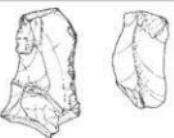
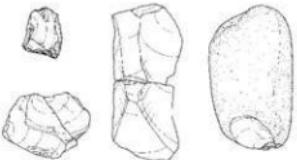
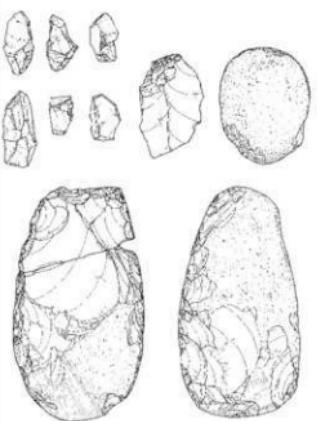
V期の石器群は前記したように細石刃石器群を中心とし、群馬県内では円錐形細石刃核を持つ一群(市之閑前田遺跡、三和工業団地IV遺跡、舞台遺跡)、ホロカ型細石刃核を持つ一群(柳形遺跡、柏倉吉見沢遺跡、上植木光仙房遺跡)、湧別技法による楔形細石刃核を持つ削片系細石刃石器群(八ヶ入遺跡、大雄院前遺跡、頭無遺跡、鳥取福藏寺II遺跡、上原遺跡)の三つのグループの遺跡がそれぞれ分布している。また、馬見岡遺跡では円錐形細石刃核に湧別技法の痕跡を持つ削片が同一ブロックから出土しているが、その評価については意見が分かれる所である。関口氏は「3グループの石器群はいずれもAs-YP降下以前に位置づけられる。八ヶ入遺跡では一次堆積層のAs-YP直下から削片系細石刃石器群が出土し、As-YP降下以前に石器群が形成されたことが判明した。これは遺跡形成年代がAs-YP降下年代以前であることを明確にしたもので、同じ関東平野の削片系細石刃石器群の編年及び年代を把握していく上で基準となりえる。一方、天ヶ堤遺跡第1文化層ではAs-YP降下付近のローム層からホルンフェルスや溶結凝灰岩など粗粒石材を利用した礫器、石核、大型剥片からなる石器群が出土した。細石刃生産の痕跡はないが、細石刃石器群に伴う大型の礫器製作との関連が想定される石器群である」と述べ、編年指標としての八ヶ入遺跡と、細石刃石器群と同時期の礫器を伴う石器群の存在を指摘した(関口2010)。

As-YP降下後には、細石刃石器群に変わって黒色安山岩や黒色頁岩を利用した大型両面調整の槍先形尖頭器石器群が残される。沼田市下川田平井遺跡や房谷戸遺跡第1文化層や荒砥北三木堂I遺跡、伊勢崎市石山遺跡が典型例である。これについては、後期旧石器終末期とも称されている。

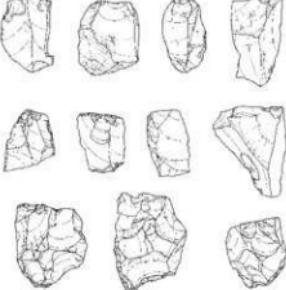
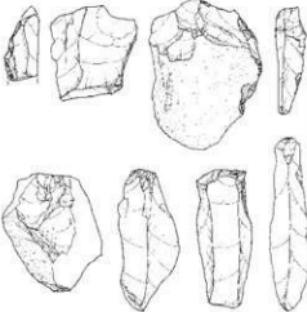
以上、群馬県内の旧石器時代の編年変遷及び内容を記述してきたが、これを通じて上武道路関係のみならず、赤城山南麓から大間々扁状地にかけての地域での旧石器時代の遺跡の概要が理解できたと考える。

#### 参考文献

- 岩宿博物館 2011 「岩宿時代(改訂版)」 常設展示解説図録
- 岩宿フォーラム実行委員会 1993 「環状ブロック群 一岩宿時代の集落の実像にせまるー」 笠懸野岩宿文化資料館
- 岩宿フォーラム実行委員会 1994 「群馬の岩宿時代の変遷と特徴」(麻生・大工原 I期、小菅 II期、中島・軽部 III期、桜井 IV期) 笠懸野岩宿文化資料館
- 小菅将夫 2000 「環状ブロック群の構造」『考古学ジャーナル』465号 ニュー・サイエンス社
- 小菅将夫 2003 「北関東地域との対比」『第15回長野県旧石器文化研究交流会』長野県旧石器文化研究交流会
- 小菅将夫・大工原豊・麻生敏隆 2004 「群馬の旧石器」みやま文庫
- 麻生敏隆 2009 「赤城山西麓・利根川上流域の暗色帶上部段階(後田遺跡・房谷戸遺跡)」『石器文化研究15』石器文化研究会
- 関口博幸 2010 「群馬における旧石器時代石器群の変遷」北関東地域の石器文化の特色」岩宿博物館・岩宿フォーラム実行委員会

	上泉唐ノ堀遺跡(8工区)	上泉新田塚遺跡群	上泉武田遺跡
IV 期			 
III 期			
II 期			
I 期			

第223図　遺跡内変遷図(1)

	五代砂留遺跡群	芳賀東部団地遺跡	胴城遺跡
IV 期			
III 期			
II 期			
I 期			

第224図 遺跡内変遷図(2)

## 第2節　環状ブロック群の様相

### 1. はじめに

国道50号線以北の上武道路は、赤城山南麓を南東から北西へ走り抜け、前橋市北部で利根川の低地部に至る。この間約11kmほどであるが、これまで21遺跡中18遺跡で旧石器遺跡が発見されている。赤城山南麓は旧石器遺跡の宝庫であるとされているが、それは上武道路の発掘が証明している。

赤城山麓の端部には典型的な火山麓扇状地が広がり、長い裾野を形成している。そして、この扇状地は大小の河川・渓水により放射状に侵食され、南麓では南北に長い丘陵性の台地が形成されている。これによりこの地域では台地と谷が交互に入り組む起伏に富んだ地形観が展開することになる。国道50号線付近の台地は低台地化しているが、徐々に侵食が深まり、前橋市上泉付近から芳賀地区にかけては台地と低地部の比高差は10m弱になる。本書で報告した6遺跡は侵食が進んだ丘陵性台地の縁辺に立地することが圧倒的である。ここで取り上げた環状ブロック群は上武関連の発掘では3遺跡4地点がある。環状ブロックについてはその発見以来30年が経ち、その分布が全国的に広がることが確認されているが、解釈レベルの研究が先行しており、具体的な資料分析が停滞気味である。

### 2. 環状ブロック群の特徴と立地

環状ブロック群とは、石器ブロックが空白部を埋んで10～50mの範囲に円形に巡る分布状態を説明したものである。あくまでそれは分布状態を指したものであり、それ以上の意味はない。伊勢崎市下触牛伏遺跡の環状ブロック群が最初の発見とされ、研究史的にも良く知られている。環状ブロック群は発見以来30年が経ち、全国的にも分布が知られるようになり、今まで102遺跡があるとされている。環状ブロックは後期旧石器時代の初期(今から3万年前)に盛行した集落形態で、これ以後の旧石器遺跡では石器群が環状分布するような遺跡はないといわれる。住居などが発見されることが少ないとされるが、近年では定住集落とする見解(出居2005)や季節的集落とする見解(佐藤2006)、異なる集団が残したこととする従来の見解に異を唱える单一集団説(稲田2001)など、多様な解釈が示されている。

**a. 特徴** 環状ブロック群の規模はさまざまで、長軸80m・短軸50mの栃木県神林遺跡のものが最大とされ、径10mほどのもの(岡山県中山西遺跡)が最小とされている。環状ブロック群には台形様石器や局部磨製石斧があり、これに搬入石刃類(石刃ナイフ)が伴う。台形様石器は遺跡内で製作されるのに対し、石刃類は遺跡外から持ち込まれることが多い。接合資料は近接する石器ブロック間で接合するものが大部分であるが、空白部を挟んだ石器ブロック間で接合するものがある。石器ブロックの内側は石器の分布が希薄となり、そこに搬入石器や被熱石器、被熱した礫があることから火処が想定されること、などが早い段階から指摘されていた。このほか、環状ブロック群の外側に弧状ブロック群と呼ばれるものが付帯することも指摘されている。

**b. 立地** 環状ブロック群には大小があり、さまざまであることは指摘したとおりである。以前、大型のものは低平な台地上にあり、小型のものは丘陵性台地など狭い台地にあることが指摘されたことがあるが、これはいまも変わらない見解としてあるようである。現在、群馬県内には28遺跡31地点で環状ブロック群が確認されているが、上武関連の旧石器遺跡では不確実なものを含め3遺跡4地点に環状ブロック群がある。その立地をみてみると、標高100m弱にある荒砥北三木堂II遺跡(第3文化層)は荒砥川右岸の低平な台地上にあるのに対して、上泉唐ノ堀遺跡や芳賀東部団地遺跡は比高差のある台地上にある点で異なる。台地と低地の比高差は侵食が堆積を上まわることにより生じた現象であり、環状ブロック群が残されたときの地形とすることはできないが、荒砥北三木堂II遺跡に近い二之宮洗足遺跡の低地では15mほど下層に始良丹沢火山灰があり、今回報告した地域の地形が旧石器的な地形に近い、とすべきかもしれない。また、

上記旧石器遺跡の南には旧利根川の崖線があり、旧石器遺跡の立地を考えるうえで無視できないものがある。現在、崖線は10mほどであるが、新井房夫氏(当時群馬大学教授)の話では、同崖線の露頭に前橋泥流が乗り上げた状態で堆積しているということであり、これが正しいなら現在の崖線は前橋泥流以後形成されたということになる。環状ブロック群が残されたころの地形については不明とせざるを得ないが、旧利根川の流路は重要な移動ルートであり、当時の崖線が現在と変わらないなら、崖線上は狩猟時の絶好の観察ポイントとなるものと見られる。現在まで崖線上の旧石器遺跡については渋川市分郷八崎遺跡が知られているだけであるが、同遺跡の石器群について他の遺跡と異なるという見解は聞いたことがない。上武道路には山麓端部を通過するルートがあり、どのような旧石器遺跡が発見されるだろうか、発掘が期待されている。

### 3-1. 石器群の構造的理

上武旧石器遺跡として、荒砥北三木堂II遺跡の環状ブロック群が報告されている。本書で報告した3ヶ所の環状ブロック群を加えて3遺跡4地点で環状ブロック群が確認されたことになる。ここでは、今回報告した上泉唐ノ堀遺跡ほか3遺跡の石器製作構造についてまとめようとするものであるが、遺跡の構造性を明らかにしようとする観点から、報告済みの荒砥北三木堂遺跡の環状ブロック群についても取り上げてみたい。

**a. 荒砥北三木堂遺跡・第3文化層** この遺跡には第3文化層として3地点があり、近接して南北に並んでいた。それぞれの地点間には接合関係が確認されていないが、相互補完の関係にあることも予想されるため、ここでは地点毎に概要を述べていきたい。

<中央地点> 南北3地点の中央にある石器群で、ここでは便宜的呼称として中央地点と呼んだ。この地点の石器群は東西30m・南北24mの範囲に分布した。石器ブロックは14ヶ所が見込まれ、石器ブロックが環状に巡る中央にも石器ブロック2ヶ所がある。出土石器には局部磨製石斧2点・打製石斧1点・石刃4点があるほか、両極剥片とされたものが特徴的に組成する。石器石材は17種類(礫・礫片を除く)があり、黒色安山岩と黒色頁岩が主体を占め、これ以外数点からなる石材がある。通例、環状ブロック群に伴う台形様石器や石刃ナイフは20mほど南東に離れた石器群に出土しており、環状ブロック群内には発見されていない。石核類は大型剥片を石核としているようであり、遺跡内剥離した剥片類も大型であるものが多い。

接合資料はブロック内や近接ブロック間で接合しているが、南北・東西ブロック間で接合するもの各1例が確認されている。石器ブロックは北東側・南東側ブロックの集中性が高く、西側や南側の分布密度は薄い。北東側・南東側ブロックに接合点数が多く、その他の地点の接合資料は折断剥片同士の接合例が多い。

器種レベルで見ると、石斧類や両極剥片類の分布が特徴的である。石斧類3点は中央ブロックに出土しており、2例の接合関係がある。いずれも刃部再生が行われ、激しく変形していた。両極剥片とされたものは20点があり、南東側のブロックに接合資料2例が分布している。この種の器種に認定されたものは単独で中央ブロックを含む全ブロックにあるよう見える。石刃類は3点が北西側に遍在しており、特に記されていないが搬入石器として理解すべきものかもしれない。

石器石材の特徴として、黒色頁岩が北東側・西側・中央ブロックにある。その他の石材としてチャートや珪質頁岩の分布がある。1点のみ出土したチャートが中央ブロックに、珪質頁岩も中央ブロック2点・南側の散漫な分布域に2点があり、少量存在する石材の分布域は遍在するという点で特徴的である。

<南側地点> この地点の石器群は南北2~30m・東西13mの範囲に分布した。石器群は調査区の東に確実に延びる。約150点が出土した。石器ブロックは6ヶ所程度があり、分布密度の高い石器ブロック2ヶ所を挟んで、南北に散漫な石器ブロックがある。石器石材は黒色安山岩が圧倒的多数を占めており、黒色頁岩や珪質頁岩が少量これに加わる。

接合資料は分布密度の高い石器ブロックに集中している。台形様石器や石刃製ナイフは散漫な分布域や周辺部に単独出土している。この地点と中央地点には接合関係が確認されておらず両地点間の関係は不明だが、通常は環状ブロック

群に伴う台形様石器や石刃製ナイフが出土しており、両地点の石器群は同段階のものでありその関係性が問われよう。

＜北側地点＞ この地点の石器群は南北35m・東西22mの範囲に分布した。中央地点から北西側へ約20m離れており、比較的明瞭な石器集中部7ヶ所があるほか、散漫な分布域が周辺にある。この地点の石器群も調査区西に延びる可能性があり、解釈する際の制約は大きい。約200点が分布し、石器ブロックは南北に並んでいるように見える。接合資料は基本的にブロック内や近接ブロック間で接合するものが主体だが、ブロックを超えて15m・25m離れたブロックと接合するもの2例がある。石器石材は黒色安山岩・黒色頁岩が拮抗した状況で、チャートが少量だが他地点より多く、特徴的である。剥片類主体の石器群だが、原石を完全消費するようなものは1例がある程度で、大部分は石核の部分的消費を示す程度の接合資料が多い。石刃(搬入石器?)が単独出土するほか、二次加工ある剥片1点が出土している。

以上、各地点の分布状況を記した。剥片剥離は良好な剥離面を探し打面転移を繰り返しており、そこで得られた大型剥片選び、これを石核素材として小型幅広剝片を剥離するというので、各地点の黒色安山岩に共通した。冒頭で述べたとおり、各地点間に接合関係が確認されないことや、北側地点の全貌も不明であることから、断言することはできないが、少なくとも中央地点と南側地点は同時期の石器群として捉えることができ、南側地点については「非環状集中型」とされるものに近い石器群だろう。

**b. 上泉唐ノ堀遺跡8工区・第3文化層** 石器群が東西20mに及び弧状分布したほか、やや離れて南北両地点に散漫な石器分布域がある。上泉唐ノ堀遺跡7工区とは同じ台地上の遺跡ということになるが、7工区の石器群とは50mほど離れて8工区の石器群がある。報告書に掲載されている等高線図を見ると、7工区の石器群は尾根上にあり、西側は浅く窪んでいる。これが8工区石器群の分布域(南側分布域)に延びるものと考えている。

約230点が弧状分布したほか、北側に約10m離れて散漫な分布域(約15点)と南側に約25m離れて散漫な南側分布域がある。弧状分布域については本文中で石器ブロックが分離されていないが、6~8ヶ所の石器ブロックが連結しているように見える。出土石器には南側ブロックに局部磨製石斧(上半部破損した2点が接合)と石刃2点が、弧状分布域に台形様石器5点・局部磨製石斧1点の他、石刃類がある。石器石材は8種類(礫・礫片を除く)があり、黒色安山岩が193点(73.9%)を占め、これに黒曜石30点(11.5%)が続く。黒色頁岩は7点と少量だが、局部磨製石斧3点・石刃1点・剥片3点で構成され、客体的存在である。

＜弧状分布域＞ 石器群が弧状分布しており、石器ブロックが近接して連結しているように見える。黒色安山岩5個体・黒曜石3個体が識別されており、それぞれ接合資料が16例52点・3例5点がある。母岩レベルでは黒色安山岩2が全域に分布しているが、東側ブロックの接合資料は部分的で、剥離主体は西側ブロックとするべきである。その他の母岩は両石材とも西側ブロックに偏在する傾向がある。黒色安山岩1・3は北側分布域の剥片類と接合している。通常剥離により幅広剝片を得て、これから選択的に素材を選び、台形様石器を製作している。石核は大型剥片を利用したものはほとんどないようである。本文中で1号ブロックとして報告されている。

＜北側分布域＞ 黒色安山岩6点・黒曜石4点などがあり、散漫な分布状態を示す。黒色安山岩は6点のみだが、うち5点は母岩が異なるものとされた。弧状分布域と接合関係も確認されており、両地点間の同時性は明らかである。本文中では2号ブロックとして報告されている。

＜南側分布域＞ 上半部で破損接合した局部磨製石斧1点・石刃2点・剥片2点からなる。石刃2点は碧玉・黒曜石製で、単独出土している。両石材とも弧状分布域に同質石材があり、搬入石器と断言することはできないが、製品類が集中することは明らかであり、機能的には特殊な場とすることができる。この地点については本文中で3号ブロックとして報告されている。

以上、各地点の分布状況を記した。弧状分布域と北側分布域の同時性は接合資料の存在から明らかである。南側分布域については接合資料から同時性を検証することはできないが、局部磨製石斧や同質石材の石刃類があり、組成的には同段階のものであることが確実であろう。であるとするならば、上記分布は可能性として環状ブロック群のひとつとすることもできるのではないかと考えている。仮に、これが環状ブロック群であるとするならば、径50m規模となること

が想定されることになるが、石器群が環状分布するとなると、調査区東は調査区外であり、調査区内においても実掘から外れており、分布実態が確定できていない。現状は推測の域を出ない想定というべきであるが、今後これに似た石器分布に注意していただきたい。

**c. 芳賀東部団地遺跡B区** 石器群は、長軸36m・短軸24mに環状分布した。石器ブロックは6ヶ所程度が見込まれ、中心部は空白域となる。総計213点が出土しており、主な石器として台形様石器1点・局部磨製石斧破片1点・石刃製ナイフ3点がある。石器石材は5種類(礫・礫片を除く)があり、黒色安山岩164点(77.0%)が主体を占め、これに黒色頁岩(37点、17.4%)が次ぐ。北東側に石器集中部があり、これ以外は散漫に分布しているが、南西側(5号ブロック)や東側(3号ブロック)に石器類が分布する傾向が明らかである。

接合資料は15例80点があり、いずれもブロック内で接合しているが、1例(黒色頁岩2①)のみブロック間の接合が確認されている。黒色安山岩・黒色頁岩とも3個体がある。黒色安山岩は母岩1・2を北東側集中部で消費しており、剥片(2③)が東側ブロックに持ち出されている。同ブロックには黒色安山岩3としたものがあり、大型剥片素材の石核として小型剥片を剥離しており、小規模だが剥片生産が行われている。これに対して、黒色頁岩の分布域は南西側の地点2ヶ所にある。この地点に黒色頁岩の剥離地点が想定可能だが、接合資料には加工痕や使用痕があり、便宜的に使用されている。

その他の石材には黒曜石・碧玉・変玄武岩があり、東側分布域(3号ブロック)と南西側分布域(5号ブロック)に分布した。黒曜石製の石器類が北東側集中域の周辺に分布しているが、これについての評価は難しい。同地点には黒色安山岩の集中的な剥離地点という性格を与えることができるが、黒曜石製の石器類は剥離作業に付随して用いたということであろうか。

以上、各地点の分布状況について記した。北西側集中部を除き、各分布域には少量の石器類と剥片類が分布することが明らかにされた。後者の分布域は台形様石器その他の石器類があることによりその使用空間とすることができるが、そこでは同時に少量の剥片生産が行われ、それにより得た剥片類が使用されたという構造が抽出できたものと思う。

**d. 芳賀東部団地遺跡E区** 石器群は、長軸20m・短軸15mに環状分布した。石器ブロックは10ヶ所があり、中心部にも石器分布域がある。計301点が出土した。出土石器に台形様石器その他の主要器種ではなく、加工剥片類が少量出土しただけである。石器石材は5種類(礫・礫片を除く)があり、黒色安山岩152点(50.5%)・黒色頁岩130点(43.2%)が多数を占めた。その他の石材には珪質頁岩・チャート・砂質頁岩3石材があり、このうち砂質頁岩は敲打したもので、剥片生産に係わるその他の石材としては砂質頁岩を除く2石材ということになる。出土した石核には大型剥片を素材に小型剥片を剥離するものは少なく、原石を分割して石核素材とするものが多い。石器分布については比較的均質であるようにみえるが、北西側の分布密度が若干だが低い。

各ブロックには石核や剥片類があり、これにより剥片生産が行われたことが明らかであるが、分布が均質で特徴が見出し難い。このため石材毎の分布状況を踏まえ、接合資料の在り方を見て、場の構造理解を深めていきたい。黒色安山岩は4号ブロックとした南西側分布域を除いて分布、特に2・6・9号ブロックに集中する。接合資料も同様で、前述したブロック3ヶ所に黒色安山岩6①～⑥・⑧が分布、ブロック間で母岩を共有し、原石を消費している。これに似た母岩が黒色安山岩9で、中央分布域を挟んでブロック間(3・4号、6・7号)で母岩消費している。これに対して、個別ブロック内に分布が完結するものが黒色安山岩7・8(5号)・10～13である。

黒色頁岩には13例98点があり、ブロック内で母岩消費するものとして黒色頁岩4～7・9の5個体がある。一方、黒色頁岩8はブロック間で母岩消費したようであり、中央より東のブロック(3～5・9号)に偏在する。この母岩の接合資料は礫表皮を大きく残しており、剥離地点としては5号ブロックが、この過程で得られた分割礫を隣接ブロック(3・4号)で消費したのである。

以上、母岩別に接合資料の分布状況を見た。接合資料の分布状況から見る限り、各個体はブロック内で完結する傾向が明らかであり、ブロック間で母岩を共有するものは黒色安山岩1個体(母岩9)、黒色頁岩1個体(母岩8)のみに限ら

れることが判明した。石器群総体として石器ブロックは独立的で、内部の空白域も明瞭ではないことが特徴と言えば特徴になるだろう。

### 3-2. 環状ブロック群としての構造的特徴

上記3遺跡にある環状ブロック群は個性的で、構造的類似性を抽出することが難しい。これこそが環状ブロック群の実態であるといるべきであるが、類似要素がないわけではない。

まず、荒砥北三木堂II遺跡(第3文化層)と芳賀東部團地遺跡B区の環状ブロック群の石器分布に類似性が指摘されよう。両遺跡ともほぼ同サイズの環状ブロック群であり、荒砥北三木堂II遺跡の環状ブロック群が北東側および南東側に、芳賀東部團地遺跡B区の環状ブロック群の北東側には集中度の高い石器ブロックがあり、それ以外の石器分布が散漫になるという傾向がある。母岩消費の主体は集中度の高いブロックにあり、その他のブロックでは部分的に剥片生産を行う点で共通する。これは、まさに白倉下原遺跡A区で示された石器製作構造に相似しているといえよう。これに似た石器分布は今井三騎堂遺跡(第IV文化層B地点)にもあり、分布上の類似性と/orしていける。今井三騎堂遺跡では集中性の高い石器ブロック2ヶ所が、剥片類が比較的密集したブロック数ヶ所があり、前者の石器ブロックで母岩を集中剥離したものが放射状に各ブロックに持ち出され、後者では部分的に石核消費され、これが近接ブロックに持ち出されているということが想定される。芳賀東部團地遺跡E区の環状ブロックについては原石(石核)消費が各ブロックで完結する傾向が明らかであり、これは渋川市房谷戸遺跡出土の石器群(第II文化層)に似た石核消費の在り方といえることができる。同遺跡石器群については環状ブロック群に後出する編年的位置づけがあり、石器群は二時期に分離できるだろうという指摘がある。房谷戸遺跡の石器群が二時期に分離できることの具体像は不明で、未分析でありコメントすることはできないが、母岩消費がブロック単位の行われたことは確実である。これに似た母岩消費が今井見切塚遺跡(第IV文化層1b地点)に見られる。

これに対して、上泉唐ノ堀遺跡(8工区)出土の石器群は環状ブロック群としてみたが、確証に乏しい点は否めず、今後類例を以て検証していきたいと考える。分布的特徴および器種構成から、環状ブロックが変形したものという評価也可能だらうと考えてみたが、北側分布域が環状ブロック群の環状部であるとすれば、径20m前後の小形環状ブロック群としてその全貌が把握されているといえようが、北側分布域が中央分布域になるとすれば環状部東側は確実に調査区内にあること、また、環状部西側については調査区内にあるものの、この地点で試掘が行われていないなど不確定要素が多く、判断できない。要素的には環状ブロック群とすることもできるが、これについては結論を保留しておきたい。

## 4. 研究の現状と課題

環状ブロック群に関する研究は、橋本勝雄氏(橋本2010)が詳細に論じている。これによると、初期の集団狩猟説や石材交換説、祭祀場説に変わり、稲田孝司氏による「外部警戒説」や佐藤宏之氏による「縄帶確認説」が注目されるという。後者の説を田村隆氏も支持している。稲田氏によれば環状ブロック群は「よそ者に対する警戒(=身内を守ろうという防衛意識)」の現われであり、また佐藤氏によれば「集団の利害調整=同盟行為の確認」であるといふ。そう認識する背景としては、領域が形成され固定化されるようになって集団の行動範囲が縮小した結果、集団が集住する必要がなくなり環状ブロック群が消滅したとする理解がある。橋本氏は上述した見解を評価する一方で環状ブロック群が消滅した後、言われるような現象(行動範囲縮小や領域形成)は見られず、気候の寒冷化に伴う集団の分散化や活動範囲の広域化を想定せざるを得ないとしている。

このことについてここで論評する力量はないが、石器群の解釈を巡る研究動向が敏感に報告書の記載・図化法に反映しているということである。砂川遺跡以降の方法は石器群を解釈する際の方法的限界が指摘され、それ以後軽視されつあるように感じる。広域で遺跡が大規模である場合、全体を表現するには個々の石器ブロックを苦心して表現するより、全貌を捉え表現することに傾注しているように見える。隣接する石器ブロック間に接合関係を明らかにしてこれを単位

的石器群と認める手法は砂川以来の方法だが、これも恣意的であるとされてしまうのが現状である。批判は砂川の分析だけで社会や集団が語れるのかということであったはずであるが、記載法としても影響は大きい。果してこれに代わる方法があるのだろうか。本報告においてはこれについてほとんど検討できていないが、環状ブロック群とされるものに大規模環状ブロック群の「均質性」とは異なる構造が見えたようだ。それは集団サイズを反映するものもあるれば、段階差を反映するものもあるというべきである。

## 参考文献

- 安藤政雄 1990 「先土器時代の生活空間—先土器時代のムラ」『日本村落史講座二 景觀一 原始・古代・中世』雄山閣出版
- 安藤政雄 2006 「旧石器時代の集落構成と道路の連絡—環状ブロック群研究の一覧点」『旧石器研究』2号
- 出居 博 2006 「環状に分布する石器群に定住性を探る—上林遺跡集落形成論からの視点」『吉澤考古』27号
- 種田孝司 2001 「遊動する旧石器人」先史日本を復元するー1 岩波新書
- 岩宿フォーラム実行委員会編 1993 「環状ブロック群 一岩宿時代の集落の実態にせまるー」第1回岩宿フォーラム／シンポジウム資料集 笠懸野岩宿文化資料館
- 栗島泰明 1991 「環状ブロック群 一岩宿時代の集落の実態にせまるー」第1回岩宿フォーラム／シンポジウム資料集 笠懸野岩宿文化資料館
- 小菅将夫 2003 「環状ブロック群研究の現状と課題」「旧石器人たちの活動をさぐる—日本と韓国の旧石器研究からー」講演会・シンポジウム予稿集 大阪市学芸員共同研究・朝鮮平島総合学術査定会・石器シンポジウム実行委員会
- 小菅将夫 2011 「環状ブロック群の消長と局地部製石変遷」『考古学ジャーナル』618 ニューサイエンス社
- 佐藤宏之 2005 「環状集落をめぐる地域行動論—環状集落の社会生態学」第3回講演・研究発表シンポジウム予稿集「環状集落—その機能と展開をめぐって」須藤隆司 1993 「岩宿時代における環状集落の歴史的背景—その視点と課題」「環状ブロック群 一岩宿時代の集落の実態にせまるー」第1回岩宿フォーラム／シンポジウム資料集 笠懸野岩宿文化資料館
- 大工原豊 1990・1991 「下位石器群の道路構造と分析に関する一試論」『旧石器考古学』41・42 旧石器考古学講話会
- 谷 和隆 2005 「日向林」石器文化の環状ブロック群「地域と文化の考古学」!明治大学文学部考古学研究室
- 津島秀章 2007 「環状ブロック群」「紀要」25 財团法人郡馬県歴史文化財調査事業団
- 日本旧石器学会編 2003 第3回講演・研究発表シンポジウム予稿集「環状集落—その機能と展開をめぐって」
- 橋本勝雄 1989 「環状ブロック群」「考古学ジャーナル」 ニューサイエンス社
- 橋本勝雄 2005 「日本旧石器学会 第3回講演・研究発表 シンポジウム予稿集 環状集落—その機能と展開をめぐって」日本旧石器学会
- 橋本勝雄 2010 「—ナイフ形石器文化前半期の居住様式」「講座日本考古学 旧石器時代II」青木書店

第24表 群馬県内「環状ブロック群」検出遺跡一覧

番号	遺跡名	所在地	層位	地点名	文化層	規模	類型	備考
1	分郷八崎	渋川市	AT下位			24×21	II b	
2	白倉下原	甘楽郡甘楽町	AT下位	1	II	20×18	II a	
3	白倉下原	甘楽郡甘楽町	AT下位	2	II	19×18	II b	
4	天引向原	甘楽郡甘楽町	AT下位		II	36×24	I a	
5	天引孤崎	甘楽郡甘楽町	AT下位			16×16	I b	
6	古城	安中市	AT下位	C区		20×18	II b	
7	北山	藤岡市	AT下位			19×18	II b	
8	北山B	藤岡市	AT下位			19×18	II b	
9	多比貞道野	高崎市	AT下位			23×13	II a	北東に延びる?
10	折茂Ⅲ	高崎市	AT下位			28×22	I a	
11	白川卯松	高崎市	AT下位			32×20	I a	
12	白岩民部	高崎市	AT下位	2		40×35	I a	
13	三ツ子沢中	高崎市	AT下位			29×17	I a	
14	上泉原ノ堀	前橋市	AT下位	B I区	III	35×25	I b	
15	芳賀東部切地	前橋市	AT下位	B区	3	36×24	I b	
16	芳賀東部切地	前橋市	AT下位	E区	3	20×15	II a	
17	北三木堂Ⅱ	前橋市	AT下位			30×30	I a	
18	内廻	前橋市	AT下位			40×20	I a	長軸は推定
19	今井三騎堂	前橋市・伊勢崎市	AT下位	B地点	IV	40×40	I a	
20	今井三騎堂	前橋市・伊勢崎市	AT下位	C地点	IV	55×40	I a	
21	今井見切塚	前橋市・伊勢崎市	AT下位	1b地点	IV	40×38	I a	
22	下触牛伏	伊勢崎市	AT下位		IV	50×45	I a	
23	波志江西宿	伊勢崎市	AT下位			35×20	I b	
24	三和工業地	伊勢崎市	AT下位			85×60	I a	環状に帶状分布が結合
25	舞台	伊勢崎市	AT下位	1群		22×20	II a	環状に帶状分布が結合
26	舞台	伊勢崎市	AT下位	2群		20×20	II a	調査区外
27	大上	伊勢崎市	AT下位	A地点		(24×21)	II a	
28	天ヶ堤	伊勢崎市	AT下位		3	23×20	II b	
29	武井	桐生市	AT下位			—	II	詳細不明
30	十二社	桐生市	AT下位			22×19	II a	詳細不明
31	和田	みどり市	AT下位			20×13	II b	

## 第3節　土坑

### 1. 上武旧石器遺跡群の土坑

旧石器時代の遺構として、芳賀東部団地遺跡D区より疊群下の土坑1基があるほか、上泉唐ノ堀遺跡(8工区)、上泉新田塚遺跡、五代砂留遺跡群3遺跡で「落ち込み」数基が記録されていた。このうち、芳賀東部団地遺跡D区の土坑については次節の疊群を扱う中で取り扱われることになるが、旧石器時代遺跡から発見される土坑について検討する必要上、上記3遺跡の「落ち込み」に含めて検討することにした。

上泉唐ノ堀遺跡以下3遺跡では「落ち込み」とされたもの7基があり、いずれもトレンチ断面で確認されている。概して不整形であり、楕円形状を呈するものから溝状を呈するものまでさまざまだが、全体形状が分かるものは少ない。掘り上げた底面は凹凸が激しいものが圧倒的である。炭化物が含まれるものと含まれないものがあり、唐ノ堀遺跡4号土坑のみ炭化物を含むAs-BPを含むロームが撹拌された状態で堆積、その他は暗色帯が乱れて堆積していた。新田塚遺跡のものはAs-BP上面で確認され、覆土はAs-BPを含むロームとされている。2基とも試掘トレンチで確認され、このうち1基に炭化物が含まれたとある。砂留遺跡例は石器ブロックに近接して発見され、As-BP上面で確認されている。これらについて、その共通項を述べるとすると、確認面がAs-BP上面であること、覆土はAs-BPが撹拌したものであること、平面形は不定形(不整形)で、掘り上げた底面は凹凸が激しい点で似る。石器ブロックの位置関係で言えば、近接して位置することもあれば、石器ブロックとは無関係に検出されることもあるということになろう。現状で「落ち込み」から石器が発見されたものではなく、「落ち込み」7基は土壤攪乱等により生じたとするのが妥当と考えている。土壤攪乱の代表的なものに寒冷地特有のクリオターベーションがあり、そうした現象が最寒冷期を迎えた赤城山南麓域にもあるのか問題になるだろうが、利根川右岸の渋川市吹屋中原遺跡では下層前橋泥流中の疊が巻き上がる現象が確認されており、当地域にも現象したであろうことが想定されるものの、クリオターベーションによる土壤攪乱は大規模であり、上泉唐ノ堀遺跡以下の「落ち込み」が深さ30cmと浅い点を踏まえれば、現状では植生などによるものと理解するのが妥当だろう。南関東で言われるような炭化物集中は赤城山南麓の旧石器遺跡にはなく、赤城山西麓ではAs-BPグループの直下に石器群の有無と関係なく見られることから、確認を得ているわけではないが自然現象のひとつとして理解すべきだろうと考えている。西麓のAs-BPは間層を挟んで3層が堆積しており、これを赤城山南麓では確認できていないが、西麓に近い上武道路8工区の旧石器遺跡ではAs-BPの間層が確認できるようになり、同テフラの間層にもAs-BPグループ直下と同じ炭化物(上泉武田遺跡、第229図)のあることが判明しており、人為的な遺構とするには無理がある。

芳賀東部団地遺跡・D区の土坑は上面に疊群を伴い、属性的には繩文期・集石土坑と何ら変わることろがない。疊群を取り上げる前から疊群内部に炭化物が確認されており、また、周辺域には炭化物が分布しないことが確認されている。最終的に、土坑は皿状(長軸50cm・短軸45cm・深さ8cm)を呈することが確認されている。土坑底面は凹凸がないとされており、植生攪乱まで注意して観察されていないが、人為的遺構である可能性が高い。

### 2. 県内土坑

旧石器時代の遺構として明確なものは概して少ないが、遺構として確実視されるものに落し穴や貯蔵穴とされるものがある。群馬県内では、渋川市勝保沢中ノ山遺跡に2基、前橋市富田西原遺跡に1基、同市二之宮宮下西遺跡に3基、渋川市箱田遺跡群上原遺跡に2基、みどり市北山遺跡に2基(未報告)がある。

勝保沢中ノ山遺跡では、断面漏斗状を呈する土坑2基が重複して検出されている。暗色帯から出土した石器群の出土層位を明らかにするため、その北側に設けた土層観察用のトレンチに土坑の一部が掛かり確認されたものである。土坑の確認面は暗色帯下の黄褐色硬質ローム層の上面であり、暗色帯が落ち込んでいたことからその存在が判明した。土坑規模は2号土坑とされたものが長軸2.14m・短軸1.86m・深さ1.44m、3号土坑とされたものが長軸2.60m・短軸1.86m・

深さ1.38mを測る。形態的にはいずれも「落し穴」とされるものである。現在、「落し穴」とされるものは間隔を置いて連続的に検出されているが、勝保沢中ノ山遺跡の土坑は複数して1ヶ所のみ確認されたため、当時においては旧石器時代に「落し穴」とされるものは類例がないことから、積極的に「落し穴」として報告するのは難しいだろうと考えた。「落し穴」という土坑の性格を踏まえれば、広く確認範囲を広げるべきであったが、土坑を確認しようとする意識に欠けていたといわざるを得ない。このほか、勝保沢中ノ山遺跡では炭化物集中土坑1・倒木跡3が確認されている。倒木痕には石刃製のナイフが出土していることや覆土中にAs-BPが含まれないことから、いずれもAs-BP降下前のものとすることができる。

二之宮宮下西遺跡の土坑は3基があり、いずれも円形を基調とするものである。土坑(3号土坑)は旧石器の試掘坑の断面で確認されており、典型的な貯藏穴タイプの土坑として認知されたのを覚えている。周辺域を精査したところ、黄褐色ロームを覆土とする土坑2基(1・2号土坑)を確認することができ、これを半蔵調査したところ、土坑は意外に浅く、やや凹凸のある坑底が現れた。最も深い3号土坑は径97cm・深さ30cmを測り、暗色帯を掘り込んでいた。残る2基の土坑も径80cm前後・深さ10cm前後で、坑底が平坦でないことを除けば、3号土坑同様に、人為的遺構として何ら問題はないだろうと考えている。覆土は白色バミス(As-0p1、当時はAs-SPと認識)を含む硬質ロームと記載されている。出土石器等ではなく厳密な時期判定は難しいが、IV期を測る可能性は低い。

富田宮下遺跡の1基は暗色帶石器群を調査中に確認されたもので、覆土中にAs-BPを多く含んでいた。やや不整形(長軸0.96m・短軸0.74m・深さ0.62m)で、断面も歪んでいる。土坑として扱われているが、掘り上げた土坑の写真には根があり込んだような痕跡があり、形態的に土坑とするのは難しいかもしれない。

箱田遺跡群(上原遺跡)では、北方系細石刃石器群に伴う土坑2基が確認されている。1号土坑とされたものは径64cm・深さ38cmを測る。2号土坑は断面ナベ底状で、径74cm・深さ24cmを測る。1号土坑の底面は歪んでおり、土坑とするのはやや不安だが、2号土坑とされたものは人為的遺構として間違いないだろう。

北山遺跡の土坑2基はAs-BPを掘り込んでいる。土坑は明瞭に立ち上がり、楕円形状のものと浅い皿状のものが確認されている。人為的であることは確実で、これに伴う石器類は確認されていないが、層位的には群馬IV期に相当する時期が想定されている。

### 3.まとめ

群馬県内で人為的遺構とができる土坑を観察したところ、AT降下期前に測る土坑(勝保沢中ノ山遺跡)と、IV期段階の土坑(二之宮宮下西遺跡・北山遺跡)およびV期段階の土坑(上原遺跡)を確認することができた。前者は「落し穴」タイプのもので、県外のものをみてみると、静岡県三島市の初音ケ原遺跡例や同県長泉町の富士石遺跡例、神奈川県打木原遺跡例があり、鹿児島県大津保畠遺跡例がある。初音ケ原遺跡では60基、富士石遺跡では30基の土坑(深さ1.5~2.0m)が列状に配置されている。いずれも断面漏斗状を呈し、時期的にもAT降下以前のもので、勝保沢中ノ山遺跡例と共に通する。この種のタイプの土坑は環状ブロック群が消滅した後に構築されるようになることが層位的に確認されているが、それ以後構築されなくなることから、短期的に出現・消滅する理由や背景が追究されている。本県以外では、神奈川・静岡・鹿児島各県にあり、それらがいずれも比較的温暖な地域にあることが注意すべきことだろう。

後者は、円形を基調とする貯藏穴タイプのものである。円形タイプのものはサイズ的には径80cm前後であるものが多く、縄文期土坑に比べて小型である。このタイプの土坑には出土遺物がなく、簡単に性格づけられないが、IV期以降このタイプの土坑が普及したのであろう。旧石器遺跡の構築は検出が難しいのが現状だが、検出しようとする調査姿勢に欠ける傾向があり、今後注意すべきことである。桐生市武井遺跡の大規模遺跡や神奈川県田名向原遺跡の大型住居跡の発見に見られるように、IV期に至り居住形態が大きく変わることが予想されている。IV期に至り貯藏穴タイプの土坑が増加するのも、そうした居住形態の変化を敏感に反映しているのであろう。

## 第4節 磺群の様相

### 1. はじめに

芳賀東部団地遺跡のI区から検出された磺群の検出層位は、浅間板鼻褐色軽石の直下(第5章、テフラ分析参照)である。以前、筆者は波志江西宿遺跡の報告の中で、2004年までの県内磺群を一覧表に作成して、その時期や出土層位、形状や構成磺点数を比較検討したことがある。その後2010年の岩宿フォーラム(保坂2010)で磺群が検討されているので、それを参考にして再度県内検出の磺群を整理しておきたい。

### 2. 段階毎に見た磺群の概要(第25表)

群馬Ⅰ期は、暗色帶下半部から出土する石器群で、南関東・武藏野台地のX・IX層に相当する時期である。群馬県内では比較的遺跡数の多い時期だが、磺群が検出された遺跡は桐生市武井遺跡(第Ⅲ次調査)・同市十二社遺跡があるほか、高崎市矢田遺跡で磺5点からなる小規模磺群1基があるだけである。武井遺跡例は磺群12基が報告されており、うち10基が環状に配置されていたということであり、質量とも突出している。

群馬Ⅱ期は、暗色帶上半部から出土する石器群で、南関東・武藏野台地のⅦ・Ⅵ層に相当する時期である。Ⅰ期に比べてⅡ期は遺跡数そのものが少ない時期だが、磺群は増加傾向にあり、みなかみ町後田遺跡・渋川市勝保沢中ノ山遺跡・前橋市今井三騎堂遺跡・伊勢崎市塙下八幡遺跡・桐生市武井遺跡(峰岸地区)・みどり市岩宿遺跡などがある。磺群は小規模磺群とされるものが多く、磺重量は500g前後のものが多い。磺群は石器分布域に重なるもの(勝保沢中ノ山遺跡、今井三騎堂遺跡・第IV文化層A地点)と、石器分布域から外れるもの(塙下八幡遺跡、台地東南側斜面部に磺群1基が存在)がある。いずれにしても、この段階の磺群はⅠ期に引き続いてその大部分が磺点数の少ない点が特徴として指摘できるだろう。

群馬Ⅲ期は、始良Tn火山灰(AT)上位から浅間板鼻褐色軽石(As-BPグループ)間に出土するもので、南関東武藏野台地V・IV下層に相当する時期である。群馬県においては近年この段階の磺群は増加傾向にあり、今井三騎堂遺跡・第Ⅲ文化層(第1・4地点)や武井遺跡(峰岸地区)、岩宿遺跡・第二文化層、伊勢崎市中西原遺跡(2012年度報告予定)がある。本書で報告する芳賀東部団地遺跡D・I区の磺群も、この段階のものとすることができます。各遺跡の磺群は、今井三騎堂遺跡(第1地点1号磺群4点・同2号磺群10点、第4地点1号磺群4点・同2号磺群24点)、中西原遺跡(磺群1基・13点)、芳賀東部団地遺跡(D区:磺群1基24点、I区:磺群2基、北側磺群5点・南側磺群15点)で、概して小規模である。以下、各遺跡の磺群について、磺重量や接合関係をみてみると、今井三騎堂遺跡の磺群は完形磺や接合磺が1kgを超えるものもあるが平均重量は300g前後であり、拳大程度の比較的軽量な磺であることが分かる。接合関係については磺群内で接合するのみであり、磺群間で接合するものは確認されていない。中西原遺跡の磺群は13点中11点が完形磺、2点が破損磺であり、磺重量は500g前後のものが主体を占めた。同遺跡の磺群はAs-BP直下の出土が確実で、これは現地で確認しているので間違いない。芳賀東部団地遺跡の磺群も、記録類を見る限り、As-BP直下の磺群であることは確実である。D期磺群は23点があり、磺重量は500g以下の磺(平均345g)が主体を占めた。これに対して、I区磺群18点は磺重量のバラツキ(平均968g、最大重量2274g・最少10.3g)が大きく、1kgを超えるもの5点がある。分布状態からみて、これ以上調査区内には磺群が分布しないとされているが、磺群構成磺の破断面は新鮮なものが多く、磺が使い回されている(磺の再使用の可能性)ことも考えておく必要がある。このほか、出土層位が確定できない難点もあるが、この段階だろうとされる大規模磺群(構成磺点数2619点、磺重量532.5kg)が伊勢崎市前道下遺跡で検出されている。当事業団の年報では磺群はAs-BP相当層から出土したとされているが、報告者は「写真で見る限り、As-BP直下であるように見える」としており、磺群に伴う石器群はⅥ層段階であろうとする指摘が岡口博幸氏(岩宿フォーラム2008)によりなされている。石器群は磺群と同レベルに出土していることから、前道下遺跡の磺群は中西原遺跡の磺群と同様に、As-BP直下の出土

ということになるかもしれない。As-BP前後の石器群については上白井西井熊遺跡の瀬戸内系石器群の発見を契機に再考されるであろうが、仮にVI層段階とするならば、群馬Ⅱ期の碓群のイメージは大きく変わることになろう。

群馬Ⅳ期は、浅間板鼻褐色軽石(As-BPグループ)から浅間大窪沢軽石(As-0kl)間の層位から出土するもので、南関東・武蔵野台地IV中・IV上に相当する時期である。この段階の遺跡は前代に比べて明らかに増加しており、碓群の数も格段が多い。碓群が確認されている主な遺跡として、武井遺跡・今井三騎堂遺跡・第II文化層・下触牛伏遺跡・第I文化層、波志江西宿遺跡・第I文化層・波志江岡屋敷遺跡・東長岡戸井口遺跡A地点・御正作遺跡などがある。このうち、武井遺跡の碓群は質量とも他を圧倒しており、83基(寄居山地区4基、峰岸地区・二次調査で2基、東内出地区43基、峰岸地区・V次調査で34基)がある。石器・剥片類は20万点を超えるとされ、これらすべてが同時に機能したものでないことは明らかであるが、関東地方では最大規模を誇る。このほか、今井三騎堂遺跡では碓群15基があり、第1地点に碓群2基が、第2地点に碓群12基が、第5地点に碓群1基が確認されている。第1地点の碓群は北側碓群と南側碓群の2ヶ所があり、それぞれ344点・92点の碓から構成されていた。碓重量は平均200g前後だが、北側碓群には1kgを超えるもの1点がある。接合資料は両地点で66例がある。碓の接合資料は碓群内に収まり、碓群間で接合するものは1例のみ確認されているだけである。その他の地点の碓群は小規模碓群とされるものであり、10点未満の碓から構成される碓群9ヶ所、20点未満4ヶ所、30点未満4ヶ所がある。各碓群を構成する碓の平均重量は3~500g前後のものが主体だが、平均重量が2000gを超える碓群4基が確認されている。これは碓重量が10kgを超えるような大型碓があるためであるが、こうした大型碓は碓群構成碓としては常識的にはあり得ないものであり説明が難しい。今井三騎堂遺跡・第2地点の碓群は3群ないし4群があり、各群に接合関係が6例ほど確認されているが、各碓群は基本的に石器分布と重複している。下触牛伏遺跡の碓群は7ヶ所があり、それぞれ石器ブロックに重複して分布した。碓群間に頻繁な接合関係がある。石器群には二側縁加工したナイフ形石器と、極状剥離した東内野型尖頭器があり、これについてその伴出関係が議論されているが、それぞれの石器ブロックに重複する碓群には接合関係があり、碓群構成碓は使い回された状態にある。御正作遺跡の碓群は石器ブロック2ヶ所に挟まれた状態で検出されている。この段階の碓群は石器ブロックに重複する在り方が主体であり、ブロックに外れているものが客体的であるだろうが、前半期石器群のように大規模遺跡であるのに碓群が少ない言わば、碓群を共有するような状況ではなく、各ブロックに碓群があるという状況に近い。

群馬V期は、浅間大窪沢軽石から浅間板鼻黄色軽石(As-YP)間に出土するものであり、武蔵野台地においては軟質ローム層から出土する石器群が相当する。2004年の段階では、群馬V期の碓群・集石については確認されないとしたが、箱田遺跡群(上原遺跡)で碓群1基が発見され、また、その後の見直し作業で前橋市柳形遺跡にも被熱した安山岩碓があるという記載を知り、これも碓群とできるだろうと考えている。

### 3. 県内碓群の様相

碓群の構成碓は石材・碓重量・接合関係の有無が記載されている程度で、タール状の物質やスス状の付着物、被熱による破損・碓面の剥落等の観察までデータ化されているものは少ない。これまで確認されている碓群は赤城山南麓に立地する遺跡のものが多く、石材は粗粒輝石安山岩と呼ばれるものが大半を占めている。赤城山南麓に点在する「流れ山」にある同種石材を見ると、表面のみ赤く酸化しているものや、内部まで酸化して焼けたように見えるものがあり、報告に赤化しているという表現があるとすれば、赤化と酸化を誤認している可能性もあるため、個別に確認する必要があるだろうと考えている。粗粒輝石安山岩を用いる碓群の場合、碓群としての認定は碓表皮の赤色より、タール状の物質やスス状の付着物・碓面の被熱剥落が確実な目安としたほうが確実である。県内出土の碓群についてはここで取り上げた遺跡以外に未報告遺跡が多数あり、特に、III・IV期の碓群が確実に追加されることになる。

前項では、群馬県内の碓群を時期毎に整理してみた。現状で県内碓群の様相について指摘するとすれば、碓群は時期毎に増減があること、碓群は通時的にあることが明らかであると思う。碓群の規模は数点規模のものから300点以上の大型碓群まで大小さまざまであるが、概略を述べるとすると、環状分布したという武井遺跡の碓群を除いて、群馬I・II

期では10点前後の標からなる小規模礫群が主体を占めていることが分かる。それらは石器ブロックに重複するものもあるが、石器ブロックが10ヶ所を超えるような比較的規模の大きな遺跡でも1ヶ所～数ヶ所がある程度であり、中央広場に「火處」のある環状ブロック群の伝統を引き継いでいるかのようである。

Ⅲ期の礫群も同様に、全体としては小規模礫群が主体となることは確実だが、前代までとは異なり、礫群が石器ブロックに重複する傾向が強まり、少なくとも石器分布域(=集落内)に礫群が1基というようなことはなくなるよう見える。前段下遺跡の礫群についてはその出土層位がAs-BP直下にあり、それがVI層段階のものとなれば盛行期礫群の「はしり」となり、また、それが南関東V層段階のものとなれば、盛行期礫群の分布範囲が赤城山南麓まで及んでいたということになるだろう。

これに対して、IV期礫群は明らかな増加傾向にあることが確実で、石器ブロックに重複する度合が高まる。この段階の礫群が多出した遺跡として武井遺跡があり、県内ではどこより大規模な遺跡である。武井遺跡が複数の集団が継続的、ないし、断続的に居住して残された大規模遺跡と推定される集落であるのに対して、5～7ヶ所の石器ブロックがある下触牛伏遺跡は中規模程度の集団が、数ブロックが残されていた波志江西宿遺跡や光仙房遺跡、富田大日塚遺跡などは小規模集団=最小の単位集団が残したキャンプ地とすることも可能で、これらはいずれも石器ブロック内に礫群が重複している点で括られてこよう。東長岡戸井口遺跡(A地点)の上層文化層の礫群は異質であり、ごく簡単に言えば、複数の石器ブロック(=各々のブロックには少量の石刃製作を伴う居住空間という評価が可能)に囲まれた中央に破損率の高い礫群1基があり、この段階の集落としては珍しく構造的な集落構造がイメージされてもくる。群馬県内においてはIV期段階に礫群のピークがある。

V期礫群は、その数を減らすことが確実視される。繊石刃石器群は繩文時代草創期に似た集落分布が指摘され、多量の石器が発見される遺跡と周辺域の少量の石器類を出す遺跡で遺跡群を形成している。この段階の礫群は九州東・南部や北海道を除いて明らかではないが、相模野台地で30%近い遺跡で礫群とされるものがあり、今後この段階の礫群は確実に増えしていくだろう。

#### 4. 周辺域の礫群

群馬周辺域の礫群の様相は、どのようなであろうか。保坂康夫氏(保坂2010)によれば、文化層毎に見て半数以上の遺跡で礫群がある場合、これを「多出地域」としている。本県はⅢ期のみ「多出地域」とされ、遺跡数が減少する割に礫群を保有する遺跡は半数以上あるとされている。そして、IV期には遺跡数が増加する反面で、保有率は3割ほどに減少するという。Ⅲ期礫群において、群馬県周辺域、特に南関東(相模野・武蔵野・下総台地)の旧石器遺跡では礫群の保有率は90%に達し、IV期礫群の時期にも10～20%減る程度とされている。北関東ではⅢ期礫群50%が、IV期礫群30%へ減少し、礫群希薄域となるとした。上述した「遺跡数が減少する割に」という言い方は、本県において遺跡数がⅢ期に激減するという従来の評価を踏襲したものであろうが、IV期礫群は指摘ほど少なくないうように思う。

保坂氏は、Ⅲ期礫群多出地域として九州南部から南関東地方に至る太平洋岸の地域に加えて、これに北関東および野尻湖周辺が含まれるとする一方、Ⅲ期礫群希薄地域として中部山岳・北陸・東北・北海道の寒冷地域、中国・近畿があるとしている。多出地域に寒冷な野尻湖が、希薄地域に比較的温暖な中国・近畿があることから、温暖な気候と礫群は関連しないとした。

#### 5. まとめ

本県において、礫群はⅢ期のみ多出地域とされているが、同時期の栃木県内でも保有率が73%に達することが示されている。栃木県内の旧石器遺跡は鬼怒川流域に集中しており、全体の保有率を引き上げている。群馬IV期でも、赤城山南麓に限れば、礫群保有率は56%に達しており、関東地方以北の礫群希薄地域とは対照的である。こうした在り方を見れば、礫群保有率は気候と関連するということも可能性として否定できないのではないかと考えている。上武道路関連

の発掘ではⅢ期の旧石器遺跡が増加傾向にあり、萱野Ⅱ遺跡・第3文化層や亀泉坂上遺跡第2文化層でAs-BP層中に石器群が確認されている。同時期の遺跡は渋川市周辺域にも散見され、As-BPの間層に文化層を持つ石器群が数遺跡で確認されている。Ⅲ期遺跡はテフラの給源に近づくほど増加傾向にあるという現実を踏まえれば、給源から遠く南麓ではⅢ期遺跡とⅣ期遺跡が分離できていないということも考えておく必要があるだろう。

## 引用参考文献

麻生敏隆 2004 「碓群の様相」『波志江西宿遺跡Ⅱ 横文時代・旧石器時代編』財団法人郡馬県埋蔵文化財調査事業団

関口博幸 2010 「郡馬県における旧石器時代石器群の変遷」『北関東地域の石器文化の特色』千葉集岩宿博物館

保坂康夫 2010 「碓群」『北関東地域の石器文化の特色』千葉集岩宿博物館

\*報告書等の文献については指標の関係で割愛させていただいた。

第25表 群馬県内旧石器時代遺跡碓群等一覧表

時期	遺跡名	所在地	層位	地 点	文化層	種類数	規 模	備 考
V期	箱田遺跡群	渋川市	As-Sr混	第2地点	IV	1	小型	碓 30点余
V期	桐生	前橋市	As-Sr混			—	—	被熱碓
IV期	御正作	邑楽郡大泉町	As-Ok1混			1	小型	碓 27点
				寄居山	II	4	小型	碓 80点
				峰岸二次	II	2	小型	—
IV期	武井	桐生市	As-Ok1混	東内出	III	43	小型	碓 72点
				峰岸五次	II	34	大型～小型	— 大規模群
IV期	東長岡戸井口	太田市	As-Ok1混	A地点	I	5	中型1・小型1	碓 166点碓接合 37
IV期	今井三騎堂	伊勢崎市	As-Ok1混	第1地点	II	2	大型1・小型1	碓 344点碓接合 51例、碓 92点碓接合 15例
				第2地点	II	12	小型	碓 243点碓接合 42例
				第3地点	II	1	小型	碓 9点
IV期	今井見切塚	伊勢崎市	As-Ok1混	1b地点	I	—	—	配石4基
IV期	前道下遺跡	伊勢崎市	As-Ok1混	A地点	I	3	小型	碓 42点
				B地点	I	1	小型	碓 8点
IV期	波志江西宿	伊勢崎市	As-Ok1混	C-I区	I	2	中型1・小型1	碓 230点
IV期	波志江園屋敷	伊勢崎市	As-Ok1混	A区	III	3	小型	碓 210点
IV期	光仙所遺跡	伊勢崎市	As-Ok1混	B区	III	2	小型	碓 130点碓接合 17例
IV期	下触牛伏	伊勢崎市	As-Ok1混		I	7	小型	碓 736点
IV期	富田下大日	前橋市	As-Ok1混		I	1	小型	碓 97点、碓接合14例
IV期	亀泉坂上	前橋市	As-Ok1混			1	小型	碓 58点、碓接合5例
IV期	上尾原ノ堀(7丁目)	前橋市	As-Ok1混	A地点	I	1	小型	碓 21点、大型碓
Ⅲ期	花園	太田市	As-BP下			4	—	—
Ⅲ期	武井	桐生市	As-BP下	峰岸二次	II	—	—	—
Ⅲ期	十二社	桐生市	As-BP下			1	中型1・小型1	碓 100点以上
Ⅲ期	岩宿	みどり市	As-BP			—	—	—
Ⅲ期	波志江園屋敷	伊勢崎市	As-BP混	C区	I	1	小型	碓 27点
Ⅲ期?	前道下遺跡	伊勢崎市	As-BP下?	C地点	I	1	小型	碓 32点
			As-BP下?	D地点	III	5	小型	碓 50点碓接合1例
			As-BP下?	E地点	III	27	大型2・中型6・小型19	碓 2619点碓接合342例、 大規模碓群
Ⅲ期	今井三騎堂	伊勢崎市	As-BP下	第1地点	III	2	小型	碓 14点
Ⅲ期	伊勢崎市	As-BP下	第4地点	III	2	小型	碓 29点	
Ⅲ期	今井見切塚	伊勢崎市	As-BP下	1b地点	III	7	小型	碓 79点18例
Ⅲ期	中西原	伊勢崎市	As-BP下	1区	I	1	小型	碓 13点
Ⅲ期	芳賀東部畠地	前橋市	As-BP下	D区	I	1	小型	碓 24点
				I区	I	2	小型	碓 19点
Ⅲ期	見立溜井	渋川市	As-BP下		III	2	小型	碓 62点
Ⅲ期	後田	利根郡みなかみ町	暗色帶			—	—	被熱碓
Ⅲ期	今井三騎堂	伊勢崎市	暗色帶上半	A地点	IV	1	小型	碓 22点碓接合1例、配石3基
Ⅲ期?	今井見切塚	伊勢崎市	暗色帶上半	第45地点	IV	1	小型	碓 27点
Ⅲ期	堀下八幡	伊勢崎市	暗色帶上半			1	小型	碓 12点
Ⅲ期	飯土井中央	前橋市	暗色帶上半			1	小型	碓 26点
Ⅲ期	武井	桐生市	暗色帶上半	寄居山	I	2	小型	碓 30点
Ⅲ期	武井	桐生市	暗色帶上半			10～12	中型	碓 1861点
Ⅲ期	勝保沢中ノ山	渋川市	暗色帶	B地点	III	5?	小型	碓 74点
Ⅲ期	神社裏	みどり市	暗色帶			—	—	—
Ⅲ期	岩宿	みどり市	暗色帶			—	—	—
Ⅲ期	下触牛伏	伊勢崎市	暗色帶		II	—	—	被熱碓、『環状ブロック群』
Ⅲ期?	今井見切塚	伊勢崎市	暗色帶	1a地点	IV	2	小型	碓 11点
Ⅲ期	矢田	高崎市	暗色帶			1	小型	碓 5点

## 第5節　母岩分類

旧石器遺跡の構造や石器の製作構造を理解しようとするとき、母岩別資料や接合資料の分析は基本的な作業のひとつとして認知されている。上武道路関連の旧石器遺跡整理でも上記作業を重視して整理作業を進めた。現状で、母岩分類の重要性について付言することはなく、凡例や本文中で述べる程度のものしかないが、凡例に収まりきらないためここにまとめてみた。

出土石器を母岩毎に括り、母岩毎の石器製作や分布状況を明らかにすることの重要性については、改めていうまでもないことがある。肉眼観察に頼る母岩分類には主觀があり入り込む余地が多くあり、その分類精度が問題とされている。そうした批判に応えるためにも分類精度を高める必要があり、同一母岩であることの具体的な証明となる接合資料には時間を掛けたつもりである。母岩分類と接合資料は相互補完の関係にあることから、時間の許す限り、この二つの作業を反復した。

県内旧石器遺跡から出土する石器に、在地石材である黒色頁岩や黒色安山岩が多用されてることは良く知られている。黒曜石やチャートなどと違い、両石材とも風化の影響が著しく、母岩認定が難しい石材である。黒色安山岩については石器表面の色調で暗色帯から出土したものか、それより上層のローム層から出土したものか、一瞥して判断することができるほどである。石器はローム層中で上下するため、当然の如く色調の異なる剥片同士が接合することになり、このことに母岩分類は悩まされてきた。接合資料に時間を割いたほど成果が得られないのが実態だが、それでも遺跡を構造的に理解するためには欠かせない作業と考えている。

本書では、母岩別資料を以下のように、A：接合資料と非接合資料からなる母岩別資料、B：接合資料からなる母岩別資料、C：非接合資料からなる母岩別資料、に3区分して捉えた。

A～Cの区分は、接合・母岩分類が終了した時点で決定されることになる。接合した2点以上のものに接合番号が付されることになるが、接合資料間に同一母岩だろうことが想定されたものには母岩番号が追記されることになる。その表記法は「母岩番号-接合番号」となる。例えば、黒色安山岩1①・②・③・などである。なお、破損して出土した2点が接合した場合も、それが母岩として認定されれば母岩番号を付した。

さらに、接合資料間に接合関係が確認できない場合でも、それが同一母岩であることが明らかなことがある。例えば原石を分割してそれぞれ剥片剥離するものであり、これについては母岩分類の下位に個体レベルの分類を設けた。例えば、黒色安山岩1・①・個体Aと表記した。

非接合資料としたものは、接合関係こそ確認できていないが、同一母岩である可能性があるものである。また、単独としたものは、遺跡内に同一母岩がないもので、基本的に搬入石器がこれにあたる。分類不能としたものは母岩が特定できないものであり、小型であるため分類できないもの、被熱等で分類できないものなどがあり、「石材名+分類不能」と表記した。以上の表記法は、それぞれの母岩に接合資料がいくつあるか、その対応関係を把握するのに便利な合理的な表記法と考えている。

母岩別資料の認定は視覚的な属性に基づく母岩分類にはじまり、接合資料と母岩分類を繰り返して最終的に母岩認定に至る。接合が確認できれば同一母岩と認定し、また、接合関係が確認できなくても、最終的に属性を同じくすると判断されれば、同一母岩と認定した。このため、母岩別資料とは、同一母岩であることの可能性のある集合体（資料群）ということになる。同一母岩とされたものには、接合関係により同一母岩であることを保証されたもの（接合資料）と、それが保障されない非接合の資料があり、確実性・信頼性に差のあるふたつの資料群からなるわけである。これにより、我々は同一母岩として信頼性の高い接合資料を第一次資料として、接合関係の確認できていない同一母岩として信頼性の低い非接合の資料群を第二次資料として、資料的な限界を踏まえることにより、はじめて妥当な解釈が導けるだろうと理解している。

上述した記載法は砂川遺跡の実践の延長上にある。母岩単位に出土資料を分け、それを石器製作という視点で捉え、そ

の分布を通じ「場」の機能を明らかにしようとするものであり、また、石核消費や石器の搬入・搬出の関係を捉え、これにより旧石器人の行動を語ろうとするものである。現状は出土資料のすべてを母岩単位に分離できないため、次善の策として、同一母岩としたものに接合資料の分布を重ね、あるいは、同一石材の分布に接合資料の分布を重ねて表現し、剥離地点を想定する際の手掛かりとしている。これに剥片類や碎片類がマークされれば、剥離地点がより明確に表現でき、具体的な資料からムラの構造や生活を語る際の有効な方法とされてきた。

今回の整理でも、出土層位の異なる文化層の石器群を同一文化層と認証して母岩分類されていることが分かり、修正を余儀なくされたように、母岩分類は難しい作業である。明らかに異なる文化層のものでも同一母岩として認定される可能性がある、そうした危険性を持つ分類法と言わざるを得ない。こうした母岩分類の限界が明らかになるのに従い、最近では最初から分類や記載を放棄する風潮が生じており、石器ブロックの区分や母岩分類は軽視されているように思えてならない。

砂川遺跡で具体的に示された研究法は、長く旧石器研究の基本とされていたが、90年代に至り方法的限界が指摘されその認識が研究者間に浸透した。石器ブロックの認定ひとつを見ても、以前の慎重な姿勢は影を潜めている。言われるとおり、石器ブロック区分はさまざま個人差があるのは事実で、これに意を注いでどれほど意味があるのか、という批判は当然である。母岩分類についても然り。同一母岩の分布から人の動きを炙り出せるほど、ことは単純でないからだ。しかしながら、どれほど解釈が重視されても、具体的な根拠なしにはその解釈を受け入れることはできないであろう。従来の手法で旧石器社会のすべてが解明できるはずもないだろうが、上記作業からえられたデータなしにそれを語ろうとすれば、考古学としての基盤を自ら放棄するようなものだからだ。接合資料や非接合資料を含む母岩別資料の分布は通常は母岩分類から外される碎片類の分布を併せることにより、その母岩の剥離地点が見えてくる。これが基本的な考え方である。場の在り方を明らかにしようとする際に、これ以外の方策は現状で思い浮かばないが、いかがであろうか。

「報告書は読まれない」「報告書では評価されない」という近年の風潮も問題で、こうした風潮は決していい状態とはおもえない。報告書の画一化が指摘されているが、報告書にはスタイルがあるべきであり、読者が遺跡なり石器群を知ろうとする際、それは読者の理解を深めるうえで大きな役割を果たすことになる。砂川的方法は記載法として極めて優れているというべきである。

# 第5章 自然科学分析

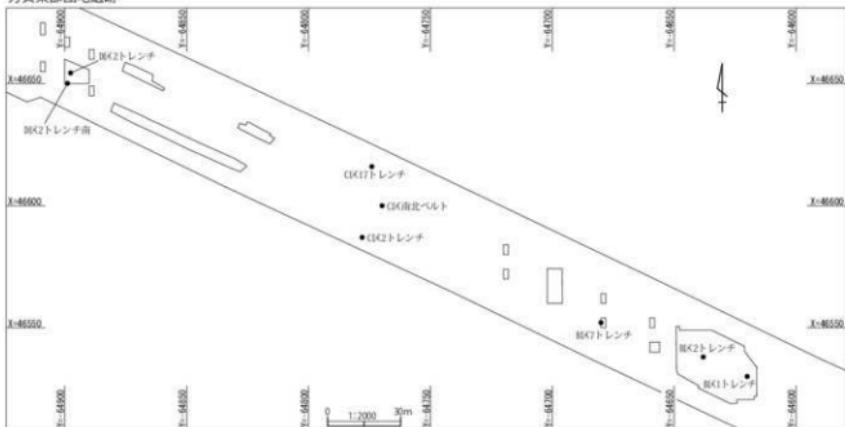
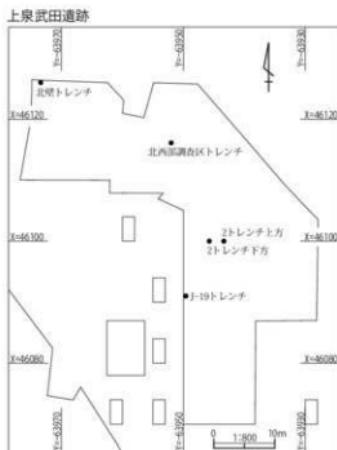
## 第1節 テフラ分析

旧石器時代調査において、石器出土層位を正確に把握することは他遺跡との比較を行う上でも重要であり、鍵となるAs-YP（浅間板鼻黄色軽石）、As-Sr（浅間白糸軽石）、As-Ok1（浅間大窪沢第1軽石）、As-BP（浅間板鼻褐色軽石）、AT（姶良（n）火山灰）などのテフラ同定が必要である。そこで、8工区の東寄りの上泉武田遺跡及び芳賀東部団地遺跡において、地質調査を行い、土層層序やテフラの層相に関する記載、及び採取試料について火山ガラス比分析、テフラ検出分析、屈折率測定による指標テフラの層位把握などのテフラ分析を、株式会社 古環境研究所に委託した結果は以下のとおりである。

分析試料の採取地点については第225図に示したが、上泉武田遺跡では、J-19トレーナー、I区第2トレーナー上方地点、I区第2トレーナー下方地点、プレハブ東調査区北壁、北西部調査区深堀トレーナーSPB-B'の5地点、芳賀東部団地遺跡では、B区1・2・7トレーナー、C区南北ベルト、C区2トレーナー南端部、C区17トレーナー、D区2トレーナーの7地点である。

### 1. はじめに

赤城火山南麓に分布する後期更新世以降に形成された地層や土壤の中には、赤城、榛名、浅間など北関東地方とその周辺の火山、中部地方や中国地方、さらには九州地方などの火山に由来するテフラ（火山碎屑物、いわゆる火山灰）が多く認められる。その中には、噴出年代が明らかにされている指標テフラがあり、これらとの層位関係を遺跡芳賀東部団地遺跡



第225図 自然科学分析試料採取位置図

で求めることで、遺構や遺物包含層の層位や年代を知ることができる。

そこで、層位や年代が不明な土層が検出された前橋市上泉武田遺跡や芳賀東部団地遺跡において、地質調査を行って土層層序やテフラの層相に関する記載をおこなうとともに、採取された試料について火山ガラス比分析やテフラ検出分析、さらに屈折率測定を行って指標テフラの層位を把握し、土層の層位や年代に関する資料を収集することになった。上泉武田遺跡での調査分析の対象となった地点は、J-19トレンチ、I区第2トレンチ上方地点、I区第2トレンチ下方地点、プレハブ東調査区北壁、北西部調査区深掘トレンチSPB-B'の5地点であり、芳賀東部団地遺跡では、B区1トレンチ、B区2トレンチ、B区7トレンチ、C区南北ベルト、C区2トレンチ南端部、C区17トレンチ、D区2トレンチの7地点である。

## 2. 土層の層序

### (1) 上泉武田遺跡J-19トレンチ

平坦面上に位置するJ-19トレンチでは、下位より灰色がかった褐色土(層厚3cm以上)、灰褐色土(層厚10cm)、灰色岩片混じり暗灰褐色土(層厚17cm、石質岩片の最大径8mm)、灰色岩片混じり灰褐色土(層厚13cm、岩片の最大径9mm)、灰褐色土(層厚8cm)、黄色がかった褐色土(層厚19cm)、成層したテフラ層を含む橙色軽石混じり褐色土(層厚17cm)、黄色がかった褐色土(層厚11cm)、最上部に粗粒軽石(最大径11mm)を含む黄色軽石混じり褐色土(層厚21cm)、軽石の最大径6mm)が認められる(第226図)。

これらのうち、暗灰褐色土や灰褐色土中に含まれる灰色岩片については、層位や岩相などから、約3万年前<sup>a)</sup>に榛名火山から噴出した榛名箱田テフラ(Hr-HA、早田、1996、未公表資料)に由来する可能性が高い。

また、成層したテフラ層は、下位より橙色粗粒軽石層(層厚4cm)、軽石の最大径10mm、石質岩片の最大径2mm)、黄色がかった灰色粗粒火山灰層(層厚2cm)、橙色軽石層(層厚3cm、軽石の最大径2mm)からなる。このテフラ層は、層相から1.9~2.4万年前<sup>a)</sup>に浅間火山から噴出した浅間板鼻褐色軽石群(As-BP Group、新井、1962、早田、1996、未公表資料)の中・上部に同定される。

最上位の土層中に含まれる黄色軽石については、その層位や岩相などから、浅間大窪沢第1軽石(As-0k1、約1.7万年前<sup>a)</sup>、中沢ほか、1984、早田、1996)および浅間大窪沢第2軽石(As-0k2、約1.6万年前<sup>a)</sup>、中沢ほか、1984、早田、1996)からなる大窪沢テフラ群(As-0k Group)に由来すると考えられる。また、最上部の粗粒の黄色軽石は、層位や岩相から、約1.3~1.4万年前<sup>a)</sup>に浅間火山から噴出した浅間板鼻黄色軽石(As-YP、新井、1962、町田・新井、1992)に由来すると考えられる。

### (2) 上泉武田遺跡I区第2トレンチ上方地点

東向き斜面に近いI区第2トレンチの上方地点では、下位より、褐色土(層厚3cm以上)、粗粒の褐色スコリア層(層厚4cm、スコリアの最大径11mm、石質岩片のシダ剥離4mm)、灰色がかった褐色土(層厚51cm)、褐色土(層厚25cm)、風化した黄白色軽石層(層厚39cm、軽石の最大径34mm、石質岩片の最大径18mm)、灰色がかった褐色土(層厚10cm)が認められる(第227図)。これらの土層は緩く西側に傾斜している。

これらの土層の上位には、斜交関係で覆う火山灰土がさらに認められる。火山灰土は、下位より灰色岩片混じりで若干色調の暗い灰褐色土(層厚17cm、岩片の最大径4mm)、灰褐色土(層厚9cm)、灰色がかった褐色土(層厚11cm)、黄色がかった褐色土(層厚9cm)からなる。

これらのうち、黄白色軽石層は、層相から約5万年前に榛名火山から噴出した榛名八崎軽石(Hr-HP、新井、1962、町田・新井、2003)に同定される。また、その下位にあるスコリア層は、層位や層相などから北橘スコリア(HkS、早田、1990)に同定される。

## (3) 上泉武田遺跡I区第2トレーニング下方地点

東向き斜面に位置するI区第2トレーニング下方地点でも、Hr-HPを斜交関係で覆う火山灰土が認められた(第228図)。火山灰土は、下位より灰色岩片混じりて若干色調が暗い灰褐色土(層厚51cm、岩片の最大径4mm)、灰褐色土(層厚9cm)、灰色がかった褐色土(層厚11cm)、黄色がかった褐色土(層厚20cm)からなる。

## (4) 上泉武田遺跡プレハブ東調査区北壁

平坦面上に位置し、旧石器時代の遺物が検出されたプレハブ東調査区北壁では、火山灰土のうち上部を詳細に観察できた(第229図)。ここでは、下位より灰色がかった褐色土(層厚4cm以上)、軽石に富む橙色軽石層(層厚3cm)、軽石の最大径8mm、石質岩片の最大径2mm)、橙色軽石混じり灰褐色砂質土(層厚2cm)、灰色粗粒火山灰混じり橙色細粒軽石層(層厚4cm、軽石の最大径2mm)、炭化物混じり暗灰褐色土(層厚4cm)、成層したテフラ層(層厚5.2cm)、褐色土(層厚3cm以上)が認められる。

これらのうち、成層したテフラ層は、下部の橙褐色細粒火山灰層(層厚1.2cm)と、上部の暗灰色石質岩片を多く含む橙色軽石層(層厚4cm)、軽石の最大径5mm、石質岩片の最大径2mm)からなる。このテフラ層を含め、この地点で認められた3層のテフラ層は、層相から、いずれもAs-BP Group中・上部と考えられる。

## (5) 上泉武田遺跡北西部調査区深掘トレーニングSPB-B\*

西向き斜面上に位置する北西部調査区深掘トレーニングのSPB-B\*では、下位より褐色土(層厚5cm以上)、灰色岩片混じり暗灰褐色土(層厚41cm、石質岩片の最大径22mm)、灰褐色土(層厚13cm)、灰色がかった褐色土(層厚17cm)、軽石に富む橙色軽石層(層厚3cm)、灰褐色砂質土(層厚1cm)、橙色細粒軽石層(層厚3cm)、軽石の最大径4mm、石質岩片の最大径2mm)、暗灰褐色土(層厚4cm)、成層したテフラ層(層厚7cm)、褐色砂質土(層厚6cm)、砂混じり褐色土(層厚11cm)、黄色軽石を多く含む褐色土(層厚36cm)、軽石の最大径16mm)が認められる(第230図)。

## (6) 芳賀東部圃地遺跡B区1トレーニング

深掘が実施されたB区1トレーニングでは、下位より若干色調が暗い褐色粘質土(層厚5cm以上)、黄色軽石層(層厚49cm)、軽石の最大径58mm、石質岩片の最大径19mm、Hg-1)、若干緑灰色がかった褐色土(層厚18cm)、橙褐色軽石(最大径3mm、Hg-2)を含む少量含む褐色土(層厚19cm)、橙褐色軽石(Hg-2)を含む褐色土(層厚27cm)、軽石の最大径9mm)、灰色岩片や黄白色軽石(Hg-3)を含む暗灰褐色土(層厚11cm)、軽石の最大径11mm、石質岩片の最大径21mm)、灰色岩片や黄白色軽石(Hg-3)を含む暗灰褐色土(層厚14cm)、軽石の最大径13mm、石質岩片の最大径14mm)、灰色岩片や黄白色軽石(Hg-3)混じりで若干色調が暗い灰褐色土(層厚16cm)、軽石の最大径14mm、石質岩片の最大径17mm)、灰褐色土(層厚8cm)、細粒の橙色軽石(Hg-5)混じり灰褐色土(層厚15cm)、軽石の最大径3mm、Hg-4を混在:後述)、橙色軽石層(層厚4cm)、軽石の最大径11mm、石質岩片の最大径2mm、Hg-6)、橙色軽石混じり褐色土(層厚2cm)、軽石の最大径3mm)、橙色細粒軽石層(層厚5cm)、軽石の最大径4mm、石質岩片の最大径2mm、Hg-7)が認められる(第234図)。

その上位には、炭化物混じり暗灰色土(層厚7cm)が特徴的に形成されており、さらに上位には、下位より暗灰色石質岩片を多く含む橙色軽石層(層厚7cm)、軽石の最大径14mm、石質岩片の最大径3mm、Hg-8)、褐色砂質土(層厚13cm)、黄色軽石(Hg-10)を少量含む褐色土(層厚15cm)、軽石の最大径4mm)、黄色軽石(Hg-10)混じり褐色土(層厚36cm)、軽石の最大径21mm)、黄白色粗粒軽石(Hg-11)を多く含む灰褐色土(層厚11cm)、軽石の最大径2mm)が認められる。

これらのうち、Hg-1は層相から約5万年前に榛名火山から噴出したと推定されている榛名八崎テフラ(Hr-HP、新井、1962、町田・新井、1992、2003)に同定される。Hg-6からHg-8にかけてのテフラは、層相や軽石の岩相などから、約1.9~2.4万年前\*に浅間火山から噴出した浅間板鼻褐軽石群(As-BP Group、新井、1962、早田、1996、未公表資料)の中部と考えられる。そのうち、Hg-5については、層位や岩相などから、As-BP Groupの下部、いわゆる室田軽石(MP、森山、

1972, 早田, 1990)と推定される。さらに、Hg-12については、層位や岩相などから、約1.3～1.4万年前<sup>14</sup>に浅間火山から噴出した浅間板鼻黄色軽石(As-YP, 新井, 1962, 町田・新井, 1992)に由来すると考えられる。

#### (7) 芳賀東部団地遺跡B区2トレチ

B区2トレチでは、下位より暗灰褐色土(層厚5cm以上)、細粒の橙色軽石(Hg-5)を含む灰褐色土(層厚22cm, 軽石の最大径3mm)、橙色軽石層(層厚4cm, 軽石の最大径11mm, 石質岩片の最大径3mm, Hg-6)、褐色砂質土(層厚2cm)、橙色細粒軽石層(層厚5cm, 軽石の最大径4mm, 石質岩片の最大径2mm, Hg-7)、橙色細粒軽石混じりで褐色がかった灰土(層厚4cm, 軽石の最大径2mm)、暗灰色石質岩片を多く含む橙色軽石層(層厚5cm, 軽石の最大径11mm, 石質岩片の最大径3mm, Hg-8)、褐色砂質土(層厚12cm)、橙色軽石層(層厚5cm, 軽石の最大径3mm, 石質岩片の最大径2mm, Hg-9)、黄色軽石(Hg-10)を少量含む褐色土(層厚13cm, 軽石の最大径4mm)、黄色軽石(Hg-10)を多く含む褐色土(層厚36cm, 軽石の最大径7mm)、黄色軽石を多く含む褐色土(層厚14cm, 軽石の最大径7mm, Hg-11)、桃灰色砂質細粒火山灰のブロックを含む)が認められる(第235図)。

#### (8) 芳賀東部団地遺跡B区7トレチ

B区7トレチでは、As-BP Group層準の岩相をより詳しく観察できた(第236図)。ここでは、下位より細粒の橙色軽石(Hg-5)を含む灰褐色土(層厚3cm以上, 軽石の最大径3mm)、軽石を多く含む橙色軽石層(層厚3cm, 軽石の最大径9mm, 石質岩片の最大径3mm)および灰色粗粒火山灰層(層厚0.4cm, 以上Hg-6)、橙色軽石混じり灰褐色土(層厚1cm)、橙色細粒軽石層(層厚4cm, 軽石の最大径3mm, 石質岩片の最大径2mm, Hg-7)、橙色軽石混じり暗灰色土(層厚3cm, 軽石の最大径4mm)、橙褐色細粒火山灰層(層厚1.1cm)、暗灰色石質岩片を多く含む橙色軽石層(層厚5cm, 軽石の最大径7mm, 石質岩片の最大径2mm, 以上Hg-8)、褐色砂質土(層厚5cm以上)が認められる。

#### (9) 芳賀東部団地遺跡C区南北ベルト

C区南北ベルトでは、下位より黒色土(層厚10cm以上)、黄色軽石(Hg-12)混じり黒灰褐色土(層厚5cm, 軽石の最大径3mm)、粗粒の白色軽石(Hg-13)を少量含み黄色軽石(Hg-14)に富む黒灰褐色土(層厚8cm, 白色軽石の最大径63mm, 黄色軽石の最大径12mm)、やや色調が暗い灰褐色土(層厚3cm)、暗灰褐色土(層厚21cm)、やや色調が暗い灰褐色土(層厚5cm)、褐色盛土(層厚32cm)が認められる(第237図)。これらのうち、Hg-12については、層位や岩相などから、4世紀初頭に浅間火山から噴出した浅間C軽石(As-C, 荒牧, 1968, 新井, 1979, 友廣, 1988, 若狭, 2000など)に由来すると考えられる。

#### (10) 芳賀東部団地遺跡C区2トレチ南端部

C区2トレチ南端部では、下位より褐色土(層厚32cm)、黄色軽石層(層厚8cm, 軽石の最大径5mm, 石質岩片の最大径2mm, Hg-11)、黄色粗粒火山灰を多く含む灰褐色土(層厚12cm)、黄白色粗粒火山灰を含む暗灰褐色土(層厚39cm)、暗灰褐色土(層厚36cm)、黒灰褐色土(層厚11cm)、黄色軽石(Hg-12)混じり黒灰褐色土(層厚7cm, 軽石の最大径7mm)が認められる(第238図)。

#### (11) 芳賀東部団地遺跡C区17トレチ

C区17トレチでは、下位より灰色岩片や灰白色粗粒火山灰(Hg-3)を含む暗灰褐色粘質土(層厚22cm以上, 軽石の最大径3, 石質岩片の最大径6mm)、灰褐色粘質土(層厚12cm, Hg-4を含む: 後述)、黄橙色軽石層(層厚4cm, 軽石の最大径4mm, 石質岩片の最大径2mm, Hg-5)、褐色土(層厚15cm)、橙色軽石層(層厚5cm, 軽石の最大径4mm, 石質岩片の最大径2mm, Hg-6)、褐色砂質土(層厚1cm)、橙色細粒軽石層(層厚5cm, 軽石の最大径2mm, Hg-7)、灰色砂質土(層厚6

cm)、暗灰色石質岩片を多く含む橙色軽石層(層厚4cm)、軽石の最大径3mm、石質岩片の最大径2mm、Hg-8)、砂混じり褐色土(層厚8cm)、橙色軽石(Hg-9)に富む褐色土(層厚6cm)、軽石の最大径4mm)、黄色軽石(Hg-10)を少量含む褐色土(層厚18cm)、軽石の最大径7mm)、黄色軽石(Hg-10)を含む褐色土(層厚18cm)、軽石の最大径12mm)、黄色軽石(Hg-11)を含み若干灰色がかった褐色土(層厚17cm)、黃白色粗粒火山灰を含む灰褐色土(層厚23cm)、暗灰褐色土(層厚16cm)が認められる(第239図)。

#### (12) 芳賀東部團地遺跡D区2トレチ東壁

D区2トレチでは、下位より橙色軽石(最大径4mm、Hg-2)混じり褐色土(層厚5cm以上)、灰色岩片や黄白色軽石(Hg-3)を含む暗灰褐色土(層厚31cm)、軽石の最大径2mm、石質岩片の最大径6mm)、灰褐色土(層厚15cm)、若干色調が明るい灰色土(層厚7cm、Hg-4を含む)、橙色軽石層(層厚18cm)、軽石の最大径5mm、石質岩片の最大径2mm、Hg-5)、灰褐色土(層厚11cm)、炭化物混じり灰褐色土(層厚8cm)、橙色軽石層(層厚4cm)、軽石の最大径4mm、石質岩片の最大径2mm、Hg-6)、灰色がかった褐色土(層厚2cm)、暗灰色石質岩片を多く含む橙色軽石層(層厚5cm)、軽石の最大径2mm、Hg-8)、灰褐色砂質土(層厚6cm)、炭化ぶる混じりで若干色調が灰色がかった褐色土(層厚17cm)、橙色軽石層(層厚4cm)、軽石の最大径3mm、石質岩片の最大径2mm、Hg-9)、褐色土(層厚6cm)、擾乱土(層厚3cm以上)が認められる(第240図)。

ここでは、Hg-7より上位で、Hg-6のすぐ下位に礫群を構成する礫が検出されている。

#### (13) 芳賀東部團地遺跡D区2トレチ東壁南部

D区2トレチ東壁南部では、下位より灰褐色土(層厚2cm以上)、橙色軽石層(層厚4cm)、軽石の最大径4mm、石質岩片の最大径3mm、Hg-6)、褐色砂質土(層厚1cm)、橙色細粒軽石層(層厚5cm)、軽石の最大径2mm、Hg-7)、暗灰色砂質土(層厚3cm)、橙褐色細粒火山灰層(層厚0.8cm)、暗灰色石質岩片を多く含む橙色軽石層(層厚3cm)、軽石の最大径3mm、Hg-8)、灰色がかった褐色土(層厚2cm以上)が認められる(第241図)。

### 3. 火山ガラス比分析

#### (1) 分析試料と分析方法

ここでは、ガラス質テフラの降灰層準を求めるために、各遺跡各地点での可能性がある土層から基本的に厚さ5cmごとに設定採取された試料のうち、各土層最低1点を採取することとした。

上泉武田遺跡のJ-19トレチ、I区第2トレチ上方地点、I区第2トレチ下方地点の3地点で15点、芳賀東部團地遺跡のC区17トレチの1地点での8点について、火山ガラス比分析を行った。また、芳賀東部團地遺跡のD区2トレチの試料1(Hg-9)について、火山ガラス比分析と重鉱物組成分析を実施した。分析の手順は次の通りである。

- 1) 試料について10gずつを秤量。
- 2) 超音波洗浄により泥分を除去。
- 3) 80°Cで恒温乾燥。
- 4) 分析篩により1/4-1/8mmの粒子を篩別。
- 5) 偏光顕微鏡下で250粒子を観察し、火山ガラスの色調・形態別比率を把握(火山ガラス比分析)。
- 6) 偏光顕微鏡下で重鉱物250粒子を観察し、重鉱物の組み合わせを調べる(重鉱物組成分析)。

#### (2) 分析結果

上泉武田遺跡のJ-19トレチ、I区第2トレチ上方地点、I区第2トレチ下方地点における火山ガラス比分析の結果を、ダイヤグラムにして第231図～第233図に、またその内訳を表1に示す。J-19トレチでは、試料4に火山

ガラスの出現ピークが認められた(14.8%)。この試料に含まれる火山ガラスは、比率が高い順に無色透明のバブル型(12.8%)、スポンジ状に発泡した軽石型(1.6%)、分厚い中間型(0.4%)である。

I 区第2トレーニチ上方地点では、J-19トレーニチほど顯著ではないものの、試料6や試料4で火山ガラスがより多く認められる(6.4%および5.2%)。いずれの試料においても、無色透明のバブル型ガラスの比率が、スポンジ状に発泡した火山ガラスの比率とともに高い(2.0~2.4%)。

I 区第2トレーニチ下方地点では、さほど顯著な火山ガラスの出現ピークは認められないものの、試料2にスポンジ状に発泡した軽石型ガラスが比較的多く含まれている(2.8%)。試料10および試料8には、より多くの無色透明のバブル型ガラスが含まれている(2.4%)。

芳賀東部団地遺跡のC区17トレーニチとD区2トレーニチの試料1(Hg-10)の火山ガラス比分析の結果を第242図と第243図に、その内訳を第28表に示す。第243図には、重鉱物組成も合わせて示した。また、D区2トレーニチ東壁のHg-10の重鉱物組成の内訳を第29表に示した。C区17トレーニチでは、試料18に透明のバブル型ガラスの出現ピーク(8.4%)が認められる。この火山ガラスで特徴づけられ、試料18付近に降灰層があると考えられるテフラをHg-5とする。

また、全体として、透明のバブル型ガラス以外の火山ガラスは、上方に向かってその比率が増大する傾向にある。土層断面で、細粒あるいは粗粒の黄色軽石が認められた試料14および13では、スポンジ状あるいは織維束状に発泡した軽石型ガラスや分厚い中間型ガラスがほぼ等量含まれている(Hg-10、後述)。Hg-11が含まれている土層(試料7)やその上位(試料2)では、スポンジ状に発泡した軽石型ガラスの比率が減少するかわりに、中間型ガラスのそれが増大する傾向が伺える。なお、重鉱物の占める比率は、試料18以下で高く、逆に試料14より上位では比較的低い傾向がある。

D区2トレーニチ東壁の試料1(Hg-9)には、ほとんど火山ガラスが含まれていない。これは、含まれるテフラ粒子の風化が進んでおり、洗浄処理中に風化物が流失したことによると考えられる。わずかに認められる火山ガラスは、スポンジ状に発泡した軽石型ガラスや、中間型ガラスである。一方、含まれる重鉱物は、比率が高い順に、斜方輝石(53.6%)、單斜輝石(29.2%)、磁鐵鉱(16.8%)で、いわゆる両輝石型のテフラである。

#### 4. 屈折率測定(火山ガラス・鉱物)

##### (1) 測定試料と測定方法

火山ガラス比分析で検出されたガラス質テフラと指標テフラとの同定精度を向上させるために、上泉武田遺跡のJ-19トレーニチの試料4に含まれる火山ガラスについて、温度変化型屈折率測定装置(MAIOT)により火山ガラスの屈折率(n)を測定した。屈折率の測定には、ガラス部について古澤地質社製MAIOT、斜方輝石について京都フィッシュン・トラック社製RIMS2000のいずれも温度変化型屈折率測定装置を使用した。

##### (2) 測定結果

屈折率測定の結果を第27表、第31表に示す。

上泉武田遺跡のJ-19トレーニチの試料4に含まれる火山ガラス(26粒子)の屈折率(n)は、いずれも1.499~1.501である。

芳賀東部団地遺跡のC区17トレーニチの試料14に含まれる火山ガラス(29粒子)の屈折率(n)は、1.501~1.506である。また、試料10に含まれる火山ガラス(29粒子)の屈折率(n)は、1.497~1.503である。そのうち、鉱物に付着してより本質的質の可能性が高い火山ガラス(4粒子)については、1.501~1.503の値が得られた。C区南北ベルトの試料1に含まれる軽石(Hg-14)のガラス部(19粒子)の屈折率(n)は、1.502~1.507である。ただし、この試料に関してはさほど測定に不適で、測定精度はさほど高くない。D区2トレーニチの試料1(Hg-9)に含まれる斜方輝石(49粒子)の屈折率(y)は、1.703~1.708である。

## 5. 考察

分析測定の対象となった試料のうち、上泉武田遺跡のJ-19トレンチの試料4に含まれるバブル型ガラスについては、色調や形態さらに屈折率などから、約2.4～2.5万年前<sup>\*1</sup>に南九州の姶良カルデラから噴出した姶良Tn火山灰(AT, 町田・新井, 1976, 2003, 松本ほか, 1987, 村山ほか, 1993, 池田ほか, 1995など)に由来すると考えられる。したがって、I区第2トレンチ上方地点やI区第2トレンチ下方地点を含め、今回検出された無色透明のバブル型ガラスについては、層位も考慮するとそのほとんどがATに由来すると考えられる。

火山ガラスの産状から、J-19トレンチの試料では試料4付近、またI区第2トレンチ上方地点では試料6付近にあると考えられる。I区第2トレンチ下方地点では、AT起源の火山ガラスの明瞭な濃集は認められないものの、試料10付近に降灰層準のある可能性も考えられる。

今回明らかになった火山ガラスの産状は、地点により火山ガラスの濃集の程度が異なること、また土層の色調とAT起源の火山ガラスの含有量にさほど関係がないことも示しているよう非常に興味深い。I区第2トレンチ下方地点の試料2により多く含まれている軽石型ガラスについては、層位や岩相などから、As-BP Groupに由来する可能性が高い。したがって、後者に関しては、ATのすぐ後に浅間火山から噴出したAs-BP Groupの下部の室田軽石(MP, 森山, 1972, 早田, 1996)の降灰の影響の方が大きいかも知れない。

いずれにしても、I区第2トレンチには、Hr-Hp降灰後に火山灰土が形成された後に、現在の東側の谷斜面が発達することで浸食を受けており、その後形成されたAT下位のいわゆる暗色帯との間に斜交関係を生じていると推定される。芳賀東部団地遺跡のC区17トレンチの試料14に含まれる火山ガラスについては、その形態や屈折率などから、浅間大窪沢第1軽石(As-Ok1, 約1.7万年前<sup>\*1</sup>, 中沢ほか, 1984, 早田, 1996)および浅間大窪沢第2軽石(As-Ok2, 約1.6万年前<sup>\*1</sup>, 中沢ほか, 1984, 早田, 1996)からなる大窪沢テフラ群(As-Ok Group)に由来すると考えられる。試料10には火山ガラスの屈折率から、多くのテフラに由来する火山ガラスが混在している可能性が考えられるが、鉱物に付着したより本質的な火山ガラスについては、As-Ok Groupと考えられる。この火山ガラスで特徴づけられるテフラをHg-10とする。

なお、試料14に含まれる火山ガラスのうち、屈折率(n)が1.506に近いものについては、約1.9万年前<sup>\*1</sup>の浅間白糸テフラ(As-Sr, 町田ほか, 1984, 町田・新井, 1992, 2003)に由来する可能性もある。また試料10で検出された火山ガラスのうち、屈折率が低いものの中には、ATのほか約2.0万年前<sup>\*1</sup>に浅間火山から噴出した可能性のある雲霧火砕流堆積物(早川, 1995)に関係するらしい、浅間萩生テフラ(As-Hg, 早田, 1995, 1996)に由来する火山ガラスが検出された可能性もある。

この地点における火山ガラス比分析で、試料18付近に降灰層準があると推定されるテフラは、その層位と透明のバブル型ガラスで特徴づけられることから、約2.4～2.5万年前<sup>\*1</sup>に南九州の姶良カルデラから噴出した姶良Tn火山灰(AT, 町田・新井, 1976, 2003, 松本ほか, 1987, 村山ほか, 1993, 池田ほか, 1995など)と考えられる。

C区南北ベルトの試料1(Hg-14)の軽石粒子は、岩相や重鉱物の組み合わせから、6世紀初頭に棟名火山から噴出した棟名二ツ岳渡川テフラ(Hr-FA, 新井, 1979, 坂口, 1986, 早田, 1989, 町田・新井, 1992)、または6世紀中葉に棟名火山から噴出した棟名二ツ岳伊香保テフラ(Hr-FP, 新井, 1962, 坂口, 1986, 早田, 1989, 町田・新井, 1992)に由来すると考えられる。現段階において、前者には粗粒の軽石の存在が周辺で確かめられているものの、Hr-FAの一次堆積層の上位にHr-FPの一次堆積層が認められた例は知られてない。したがって、現段階においては、前者の可能性がより高いように思われる。今回の軽石の屈折率の測定値については、精度が高くないことから詳しく述べ難いが、Hr-FPなどには、縞状軽石があり、部位によっては、火山ガラスの屈折率が從来記載されている値と異なる可能性がある。そこで、縞状軽石について、部位ごとに屈折率を測定して、高精度の同定のための資料を収集する必要があるのかも知れない。さらに、遺跡周辺での調査分析も行う必要があろう。

D区2トレンチの試料1のテフラ層(Hg-9)については、今回測定された斜方輝石の屈折率と、テフラ・カタログのデータ

タを比較するとAs-HgあるいはAs-Srの可能性が考えられる。しかしながら、前者については、角閃石や黒雲母が認められず、典型的な層相とかなり異なり、可能性は非常に低い。一方、後者についてもわずかに含まれるとされる角閃石は認められず、軽石の岩相などは、As-BP Groupのそれによく似ている。また、As-BP Group中部に含まれる斜方輝石の屈折率( $y$ : 1.700~1.709)に比較的似ており、As-BP Group中部を構成する個々のテフラによっては今回の値をもつテフラ層があることも考えられる。今後、火山ガラスの屈折率測定などを実施してさらに同定精度を向上させる必要がある。

なお、今回の斜方輝石の屈折率の値は、同定の可能性が考えられた故新井房夫群馬大学名誉教授測定によるAs-BP Group上部の斜方輝石の値( $y$ : 1.704~1.714, 町田・新井, 2003)とは異なる傾向にある。今後、後期旧石器のより詳細な編年のために、さらに調査分析を行って、その岩相や分布を把握する必要がある。

## 6.まとめ

上泉武田遺跡において、地質調査、火山ガラス比分析、テフラ検出分析、火山ガラスと鉱物の屈折率測定を行った。その結果、下位より榛名八崎軽石(Hg-HP, 約5万年前)、榛名箱田テフラ(Hg-HA, 約3万年前<sup>\*\*</sup>)、始良Tn火山灰(AT, 約2.4~2.5万年前<sup>\*\*</sup>)、浅間板鼻褐色軽石群(As-BP Group, 約1.9~2.4万年前<sup>\*\*</sup>)、浅間大窪沢テフラ群(As-Ok Group, 約1.6~1.7万年前<sup>\*\*</sup>)、浅間板鼻黄色軽石(As-YP, 約1.3~1.4万年前<sup>\*\*</sup>)、榛名二ツ岳渋川テフラ(Hg-FA, 6世紀初頭)など多くのテフラ層やテフラ粒子を検出することができた。

芳賀東部団地遺跡において、地質調査、火山ガラス比分析、テフラ検出分析、屈折率測定を行った。その結果、下位より榛名八崎軽石(Hg-HP, 約5万年前, Hg-1)、年代および給源が不明の軽石(Hg-2)、榛名箱田テフラ(Hg-HA, 約3万年前<sup>\*\*</sup>)に由来すると考えられる粒子(Hg-3)、始良Tn火山灰(AT, 約2.4~2.5万年前<sup>\*\*</sup>, Hg-4)、浅間板鼻褐色軽石群(As-BP Group, 約1.9~2.4万年前<sup>\*\*</sup>)のうちの4層(Hg-5~Hg-8)、現段階では浅間白糸軽石(As-Sr, 約1.9万年前<sup>\*\*</sup>)の可能性が高いと考えられるテフラ層(Hg-9)、浅間大窪沢テフラ群(As-Ok Group, 約1.6~1.7万年前<sup>\*\*</sup>)に由来する粒子(Hg-10)、浅間板鼻黄色軽石(As-YP, 約1.3~1.4万年前<sup>\*\*</sup>, Hg-11)、浅間C軽石(As-C, 4世紀中葉, Hg-12)、榛名二ツ岳渋川テフラ(Hg-FA, 6世紀初頭, Hg-13)など多くのテフラ層やテフラ粒子を検出することができた。

本遺跡群で検出された疊群の層位は、このうちAs-BP Group層準(Hg-5とHg-6の間)にある。また、Hg-7とHg-8の間に特徴的に炭化物が多く含まれていることが明らかになった。

<sup>\*\*</sup> 放射性炭素(<sup>14</sup>C)年代。ATおよびAs-YPの較正年代については、各々約2.6~2.9万年前と約1.5~1.65万年前と考えられている(町田・新井, 2003)。

## 文献

- 新井房夫(1962)関東盆地北西部地域の第四紀編、群馬大学紀要自然科学院編、10, p.1~79.
- 新井房夫(1972)斜方輝石・角閃石の屈折率によるテフラの同定—テフロクロノロジーの基礎的研究、第四紀研究、11, p.254~269.
- 新井房夫(1979)関東地方北西部の繩文時代以降の示標テフラ層、考古学ジャーナル、no.53, p.41~52.
- 新井房夫(1993)温度一定型屈折率測定法、日本第四紀学会編「第四紀試料分析法—研究対象別分析法」、p.138~148.
- 荒牧重雄(1968)浅間火山の地質、地図研専報、no.45, 65p.
- 早川山紀夫(1995)浅間火山の地質見学案内、地学雑誌、104, p.561~571.
- 池田晃子・奥野 充・中村俊夫・小林哲夫(1995)南九州、始良カルデラ起源の大崩落下軽石と入戸火砕流中の炭化樹木の加速器<sup>14</sup>C年代、第四紀研究、34, p.377~379.
- 町田 洋・新井房夫(1976)広域に分布する火山灰—始良Tn火山灰の発見とその意義—、科学、46, p.339~347.
- 町田 洋・新井房夫(1992)火山灰アトラス、東京大学出版会、276p.
- 町田 洋・新井房夫・小田静夫・遠藤邦彦・杉原重夫(1984)テフラと日本考古学—考古学研究と関係するテフラのカタログー、古文化財編集委員会編「古

- 文化財に関する保存科学と人文・自然科学』, p.865-928.
- 松本英二・前田保夫・竹村恵二・西田史朗(1987)姶良Ta火山灰(AT)の<sup>14</sup>C年代. 第四紀研究, 26, p.79-83.
- 森山昭雄(1972)榛名火山東・南麓の地形ーとくに軽石流の地形についてー. 爰知教育大学地理学報告, 36-37, p.107-116.
- 中沢英俊・新井房夫・遠藤邦彦(1984)浅間火山. 黒斑ー前掛期のテフラ層序. 日本国四紀学会講演要旨集, no.14, p.69-70.
- 坂口 一(1986)榛名二ヶ岳起源FA・伊勢下の土師器と須恵器. 群馬県教育委員会編「荒砥北原道路・今井神社古墳群・荒砥青柳道路」, p.103-119.
- 早田 魁(1989)6世紀における榛名火山の2回の噴火とその災害. 第四紀研究, 27, p.297-312.
- 早田 魁(1996)関東地方・東北地方南部の示標テフラの諸特徴ーとくに御岳第1テフラより上位のテフラについてー. 名古屋大学加速器質量分析計業績報告書, 7, p.256-267.
- 友廣哲也(1988)古式土師器出現期の様相と浅間山C軽石. 群馬県埋蔵文化財調査事業団編「群馬の考古学」, p.325-336.
- 若狭 徹(2000)群馬の弥生土器が終わるとき. かみつけの里博物館編「人が動く・土器も動く—古墳が成立する頃の土器の交流」, p.41-43.

第26表 上泉武田遺跡火山ガラス比分析結果

地点	試料	bw(c1)	bw (pb)	bw(br)	sd	pm(sp)	pm(fb)	その他	合計
J-19トレーナー	2	12	0	0	1	4	0	233	250
	4	32	0	0	1	4	0	213	250
	6	7	0	0	0	4	0	239	250
	8	2	0	0	0	5	0	243	250
	10	1	0	0	0	8	0	241	250
I区第2トレーナー上方地点	2	3	0	0	1	4	0	242	250
	4	5	0	0	1	6	1	237	250
	6	6	0	0	3	6	1	234	250
	8	0	0	0	0	2	0	248	250
I区第2トレーナー上方地点	2	4	0	0	1	7	2	236	250
	4	3	0	0	0	3	0	244	250
	6	5	0	0	1	5	0	239	250
	8	6	0	0	1	5	0	238	250
	10	6	0	0	2	4	0	238	250
	12	0	0	0	2	3	1	244	250

数字は粒子数. bw: バブル型, sd: 中間型, pm: 軽石型, cl: 透明, pb: 淡褐色, br: 褐色, sp: ソンジ状, fb: 織維束状.

第27表 上泉武田遺跡屈折率測定結果

地点	試料	火山ガラス		斜方輝石	
		屈折率(n)	測定粒子数	屈折率(γ)	測定粒子数
J-19トレーナー	4	1.498-1.501	26		
1号住居址	輝石	1.501-1.504	30	1.706-1.710	41

測定は温度変化型屈折率測定装置(火山ガラス: MA10T, 斜方輝石: RIMS2000)による。

第28表 芳賀東部団地遺跡火山ガラス比分析結果

地点	試料	bw(cl)	bw(pb)	bw(br)	nd	pm(sp)	pm(fb)	重鉱物	その他	合計
C区17トレンチ	2	0	0	0	32	6	12	50	150	250
	7	0	0	0	20	6	7	54	163	250
	10	0	0	0	11	10	7	52	170	250
	14	3	0	0	8	11	7	74	147	250
	18	21	0	0	1	4	0	126	98	250
	19	7	0	0	3	4	0	124	112	250
	20	6	0	0	0	5	1	129	109	250
	22	3	0	0	1	3	0	124	119	250
D区2トレンチ	1	0	0	0	1	6	0	79	164	250

数字は粒子数。bw:バブル型, nd:中間型, pm:軽石型, cl:透明, pb:淡褐色, br:褐色, sp:スポンジ状, fb:纖維束状。

第29表 芳賀東部団地遺跡重鉱物組成分析結果

地点	試料	ol	opx	cpx	ho	bi	mt	その他	合計
D区2トレンチ	1	0	134	73	0	0	42	1	250

数字は粒子数。ol:カンラン石, cpx:单斜輝石, ho:角閃石, bi:黒雲母, mt:磁鐵鉄。

第30表 芳賀東部団地遺跡テフラ検出分析結果

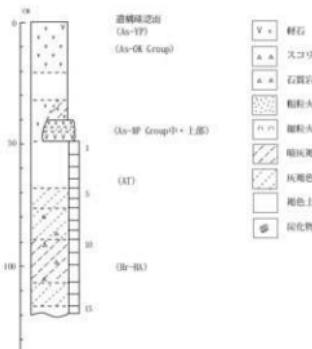
地点	試料	軽石の発泡形態	鉱物の量	重鉱物
C区南北ベルト	1	sp	++	opx, ho, mt

sp:スポンジ状, fb:纖維束状, ++++:とくに多い, +++:多い, ++:中程度, +:少ない, -:認められない, ol:カンラン石, cpx:单斜輝石, ho:角閃石, bi:黒雲母, mt:磁鐵鉄。

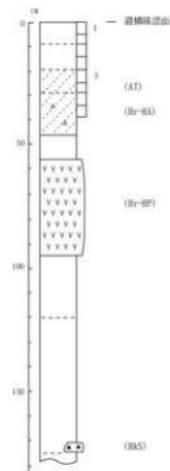
第31表 芳賀東部団地遺跡屈折率測定結果

地点	試料	火山ガラス(n)	斜方輝石(γ)	測定粒子数
C区17トレンチ	10	1.497-1.503	-	29
C区17トレンチ	14	1.501-1.506	-	29
C区南北ベルト	1	1.502-1.507	-	19
D区2トレンチ	1	-	1.703-1.708	29

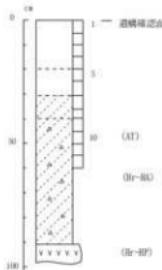
屈折率の測定は、温度変化型屈折率測定装置(RIMS2000)



第226図 J-19トレーニチの土層柱状図



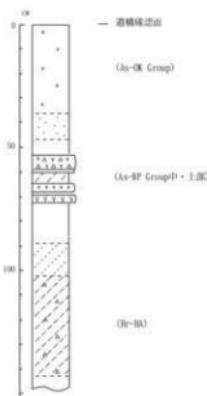
第227図 I区第2トレーニチ上方地点の土層柱状図



第228図 I区第2トレーニチ下方地点の土層柱状図



第229図 プレハブ東調査区北壁の土層柱状図



第230図 北西部調査区深堀トレーニチの土層柱状図

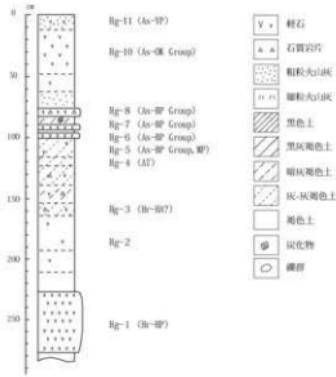


第231図 J-19トレーニチの火山ガラス比ダイヤグラム

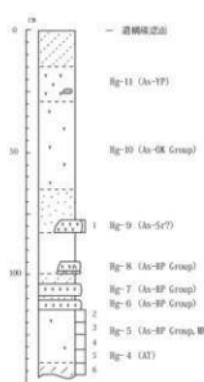


第232図 I区第2トレーニ上方地点の火山ガラス比ダイヤグラム

第233図 I区第2トレーニ下方地点の火山ガラス比ダイヤグラム



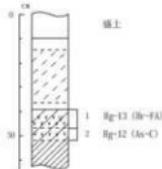
第234図 B区1トレーニの土層柱状図



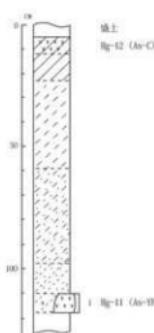
第235図 B区2トレーニの土層柱状図



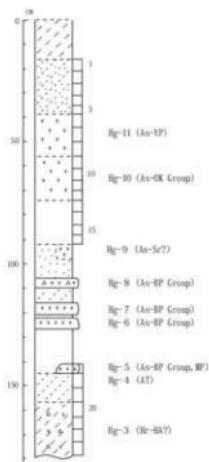
第236図 B区7トレーニの土層柱状図



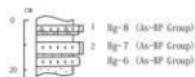
第237図 C区南北ベルトの土層柱状図



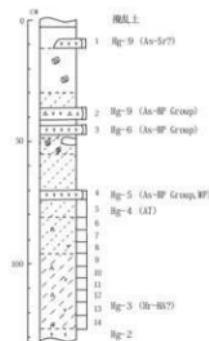
第238図 C区2トレーニ南壁の土層柱状図



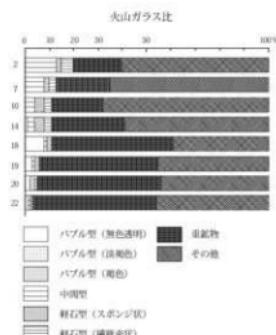
第239図 C区17トレンチ南壁の土層柱状図



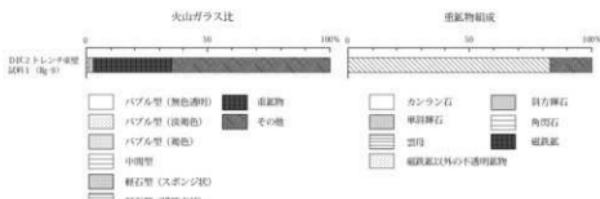
第241図 D区2トレンチ東壁南部の土層柱状図



第240図 D区2トレンチ東壁の土層柱状図



第242図 C区17トレンチの火山ガラス比ダイヤグラム



第243図 D区2トレンチ東壁試料1 (Rg-9)の火山ガラス比ダイヤグラム(重晶石組成を含む)

## 第2節 群馬県上武道路関連遺跡出土旧石器時代黒曜石資料の産地分析

黒曜石分析は、北関東自動車道や上武道路関連の遺跡でも行われており、黒曜石産地からの搬入の大まかな傾向が把握できるようになってきた。しかし、各遺跡において分析対象としているのは出土資料の一部であることが多いため、遺跡ごとの詳細な傾向は捉えきれていない。そこで、より全点に近いデータが得られるように上泉唐ノ堀遺跡、上泉新田塚遺跡群、上泉武田遺跡、五代砂留遺跡群、芳賀東部団地遺跡、胴城遺跡から出土した旧石器時代の黒曜石について、同一母岩と判断されたものであっても非接合資料の場合はすべて分析対象として、蛍光X線分析による産地分析を三浦麻衣子(東京学芸大学大学院)、建石徹(文化庁)、二宮修治(東京学芸大学)の三氏に委託した結果は以下のとおりである。

### 1.はじめに

群馬県前橋市内の上武道路建設工事に係る、上泉唐ノ堀遺跡、上泉新田塚遺跡群、上泉武田遺跡、五代砂留遺跡群、芳賀東部団地遺跡、胴城遺跡より出土した旧石器時代黒曜石資料について、蛍光X線分析による産地分析をおこなったので報告する。なお、上武道路建設工事に関連する旧石器時代黒曜石資料の産地分析についての報告は過去にもなされている(竹原2008・2010)。

### 2.資料(試料)

産地分析に供した資料は、上武道路関連遺跡より出土した黒曜石資料計86点である。遺跡ごとの点数の内訳は、上泉唐ノ堀遺跡26点、上泉新田塚遺跡群1点、上泉武田遺跡7点、五代砂留遺跡群9点、芳賀東部団地遺跡7点、胴城遺跡36点である。対象資料の帰属時期は、上泉唐ノ堀遺跡・五代砂留遺跡群・芳賀東部団地遺跡が群馬I期、上泉武田遺跡・胴城遺跡が群馬IV期である。上泉新田塚遺跡群の時期は不明である。

資料の選定、帰属時期や器種の検討等にあたっては群馬県埋蔵文化財調査事業団麻生敏隆氏の全面的なご協力を頂いた。

### 3.産地分析の方法

黒曜石資料中の各元素の測定には、エネルギー分散型蛍光X線分析(非破壊法)を用いた。本研究に用いた装置は、SIIナノテクノロジー社製蛍光X線分析装置SEA-5120Sである。本法の測定条件を第32表に示した。

黒曜石の主成分元素であるケイ素(Si)、チタン(Ti)、アルミニウム(Al)、鉄(Fe)、マグネシウム(Mg)、カルシウム(Ca)、ナトリウム(Na)、カリウム(K)の8元素のうち、Fe、Ca、Kの3元素は、黒曜石の産地間の識別・分類に特に有効であり、産地分析の指標元素となる。筆者らはこれら3元素と、これらと挙動に相関性のある微量成分元素であるマンガン(Mn)、ストロンチウム(Sr)、ルビジウム(Rb)を加えた6元素による検討が産地分析に有効であることを示してきた(建石・坂上・柳田・二宮2008他)。本研究においても、はじめにこの6元素の測定を行った。

産地分析のための基準資料として、北海道白滝、置戸、十勝三股、赤井川、青森県小泊、出来島、鶴ヶ坂、深浦、岩手県寒石、折居、花泉、秋田県金ヶ崎、脇本、宮城県湯の倉、色麻、秋保、山形県月山、新潟県板山、栃木県高原山、日光、長野県小深沢、男女倉、星ヶ塔、麦草峠、神奈川県畠宿、静岡県上多賀、柏嶺、東京都神津島の各産地黒曜石を使用した。各産地黒曜石の分析値(岩石学の慣例に従い酸化物の形で表記し、その総和を100とした百分率で示した)を第33表に示した。

産地分析は先の6元素の測定(測定1)の結果をもとに、最遠距離法によるクラスター分析を実施し、産地黒曜石との

類似性(非類似性)を検討した。クラスター分析だけでは産地を絞り込むことが困難であった資料については、個々の資料と産地群とのクラスター分析による併合関係やその距離等の検討に加え、主成分8元素の測定(測定2)により推定する産地を絞り込んだ。なお、クラスター分析には、SPSS社製SPSS (Ver.14.0J)を用いた。

#### 4. 産地分析の結果と考察

第34表に測定1による遺跡出土黒曜石の6元素組成と推定される産地等を示した。産地分析をおこなう際に用いたクラスター分析の結果(デンドログラム)を第245図に示した。また、個々の分析資料と産地資料群の分析値をクラスター分析した結果、最も類似性の高い(非類似性の低い)産地資料との併合距離(以下、産地資料との併合距離をいう)も第34表に示した。

第245図と産地資料と併合距離を合わせて検討し、第245図でグループ化された産地資料との併合距離が比較的小さく(0.5未満)、個々の分析値にも矛盾がない場合は、それを推定産地とした。これにより、分析No.上泉武田7、五代砂留4を除く84点の産地が推定された。

分析No.上泉武田7、五代砂留4については、Rb20とSr0の相関による検討をおこなった。その結果、五代砂留4は産地資料との併合距離が0.5以上ではあるが、小深沢産が妥当であると判断した。上泉武田7は、産地資料との併合距離が大きいこと(1.0以上)、Rb20とSr0の相関等においても明確な産地が求められなかつたことから、不明とした。

本研究により得られた遺跡ごとの産地構成は、上泉唐ノ堀遺跡(小深沢5、星ヶ塔18、柏峰3)、上泉新田塚遺跡群(小深沢1)、上泉武田遺跡(小深沢3、星ヶ塔3、不明1)、五代砂留遺跡群(小深沢8、星ヶ塔1)、芳賀東部団地遺跡(小深沢1、星ヶ塔4、高原山2)、胴城遺跡(星ヶ塔36)であった。

群馬県内における旧石器時代黒曜石資料のこれまでの産地分析結果の傾向は、概ね、小深沢、星ヶ塔等の長野県産が多いことが知られている(勢藤・村田2010他)。今回の産地分析でも86点中80点が長野県産という結果が得られ、この傾向と整合する。長野県産以外の資料としては、芳賀東部団地遺跡の高原山産2点と、上泉唐ノ堀遺跡の柏峰産3点が確認された。これらはいずれも群馬1期に帰属する。群馬1期の群馬県内黒曜石資料の産地分析結果は、特に県東部において高原山産が卓越することが知られているが(勢藤・村田2010他)、芳賀東部団地遺跡の事例はその延長上にあるものと考えられる。また、群馬県内における当該期の黒曜石産地分析の結果では、柏峰産とされた事例は確認されていないが、同時期の南関東地域では柏峰産黒曜石は比較的よく利用されていたことが知られている(日本考古学協会栃木大会実行委員会編2011他)。今後、周辺地域において同様の分析事例をさらに蓄積する必要があろう。

#### 謝辞

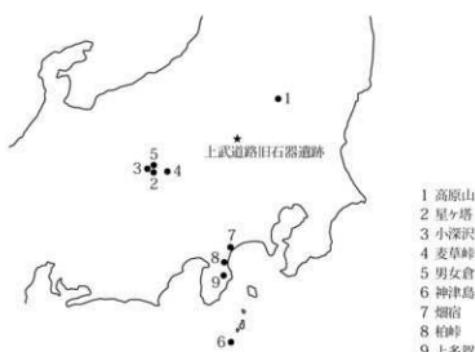
本研究を実施するにあたり、麻生敏隆氏には全般にわたる多くのご協力・ご教示を賜りました。産地分析を実施するにあたり、東京学芸大学文化財科学研究室が所有する各産地黒曜石とともに、國學院大學研究開発推進機構考古学資料館所有の「吉谷昭彦博士寄贈黒曜岩資料」(國學院大學研究開発推進機構考古学資料館編2008)のうち北海道・東北地域の産地黒曜石を基準資料として利用させていただきました。吉谷昭彦博士および、吉田恵二館長・内川隆志准教授はじめとする國學院大學の皆様には多くのご協力・ご教示をいただきました。また、大工原豊氏、小曾将夫氏、芹澤清八氏、国武貞克氏には日頃より本研究にも関わる多くのご教示をいただきしております。皆様方に厚く御礼申し上げます。

第32表 蛍光X線分析の測定条件

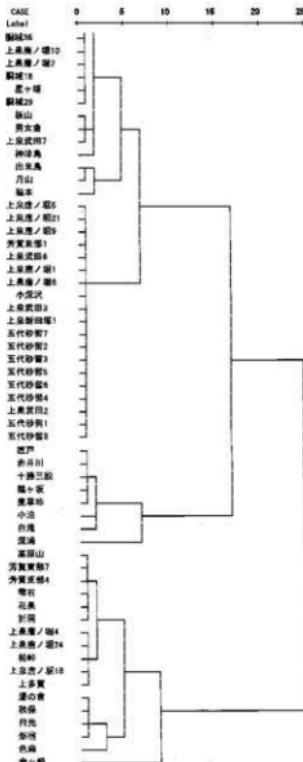
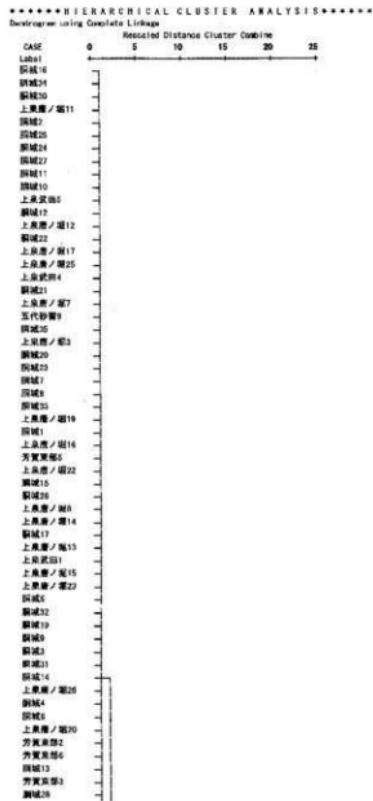
装置	SIIナノテクノロジー社製エネルギー分散型 蛍光X線分析装置(SEA-5120S)						
	測定1		測定2				
線源	ターゲット				モリブデン(Mo)管球		
	電圧		45 kV		15 kV, 45 kV		
測定	照射径				1.8 mm φ		
	霧囲気		大気		真空		
定量分析	測定時間		100 秒		180 秒		
	計算法		ファンダメンタルパラメータ法				
標準試料		なし		なし			

第33表 東日本の主な产地黒曜石の6元素組成（6元素の積和を100とした百分率）

都道府県	産地	MnO	FeO	SeO	CaO	Rb2O	K2O
北海道	白凧	1.5	38.9	0.2	11.8	1.9	46.7
	留戸	1.3	37.6	0.4	18.2	0.9	41.7
	十勝三股	1.6	36.1	0.3	16.6	1.0	44.4
青森	森井川	1.5	36.2	0.3	18.0	0.8	43.1
	小泊	0.9	38.4	0.4	20.8	0.9	38.7
	出来島	4.9	32.7	0.7	19.6	0.6	41.4
岩手	鶴ヶ坂	1.7	36.6	0.4	15.1	1.0	45.2
	深浦	1.4	55.9	0.0	4.1	0.6	37.9
	宝石	2.0	44.9	0.6	23.1	0.5	28.8
秋田	折居	2.0	45.7	0.6	20.6	0.6	30.5
	花泉	2.1	45.7	0.6	22.3	0.5	28.7
	金ヶ崎	1.9	39.1	2.1	26.9	0.6	29.4
宮城	臨本	5.4	24.1	0.5	22.3	1.1	46.6
	湯の倉	1.9	56.0	1.0	27.3	0.2	13.6
	色麻	3.8	55.3	1.1	24.3	0.2	15.2
山形	秋保	2.3	58.4	0.9	29.0	0.2	9.3
	月山	4.3	30.0	0.6	17.4	0.8	46.8
	新潟	3.3	29.0	0.4	17.7	1.1	48.5
栃木	高原山	1.4	48.5	0.6	20.7	0.6	28.2
	日光	1.7	62.1	0.8	27.5	0.1	7.8
	小瀬沢	3.7	28.2	0.1	14.7	1.8	51.5
長野	男女倉	2.5	32.0	0.4	16.1	1.0	48.0
	星ヶ塔	3.1	27.3	0.2	13.8	0.9	54.6
	麦草峠	1.6	33.8	0.7	17.2	0.6	46.0
神奈川	烟宿	2.4	61.4	1.0	23.9	0.1	11.3
	上多賀	1.7	53.1	0.9	24.2	0.2	19.9
静岡	柏岬	1.4	51.1	0.6	24.0	0.3	22.7
	神津島	3.2	33.8	0.5	19.1	0.6	42.8



第244図 関東周辺の黒曜石原产地位置図



第34表 産地分析の結果 (分析値は、6元素の酸化物の総和を100とした百分率)

分析No.	道跡・ 道路名	文 化 層	群 馬 編 年	種 類	注記	器種	MnO	FeO	SrO	CaO	Rb20	K20	併合產地	併合距離
上泉店ノ堀1	上泉店ノ堀	3	暗色帶	I	K1-5	石刃	4.1	25.7	0.0	14.2	2.0	53.1	小深沢	0.399
上泉店ノ堀2	上泉店ノ堀	3	暗色帶	I	K2-27	ナイフ形石器	3.3	25.9	0.1	14.4	0.9	55.4	星ヶ塔	0.136
上泉店ノ堀3	上泉店ノ堀	3	暗色帶	I	K2-31	剥片	3.0	25.9	0.3	14.6	1.0	55.2	星ヶ塔	0.208
上泉店ノ堀4	上泉店ノ堀	3	暗色帶	I	K2-47	剥片	1.2	49.0	0.7	24.2	0.4	24.6	柏嶺	0.188
上泉店ノ堀5	上泉店ノ堀	3	暗色帶	I	K2-62	剥片	4.0	27.2	0.0	12.5	1.9	54.3	小深沢	0.424
上泉店ノ堀6	上泉店ノ堀	3	暗色帶	I	K2-65	石核	4.2	26.0	0.0	13.8	1.8	54.2	小深沢	0.360
上泉店ノ堀7	上泉店ノ堀	3	暗色帶	I	K4-25	剥片	3.2	25.9	0.2	13.6	1.1	56.1	星ヶ塔	0.246
上泉店ノ堀8	上泉店ノ堀	3	暗色帶	I	K4-27	剥片	3.0	25.5	0.3	14.5	1.1	55.7	星ヶ塔	0.314
上泉店ノ堀9	上泉店ノ堀	3	暗色帶	I	K4-28	スクレイパー	4.1	25.6	0.0	14.8	1.9	53.5	小深沢	0.287
上泉店ノ堀10	上泉店ノ堀	3	暗色帶	I	K4-30	研片	3.1	26.8	0.1	16.3	0.9	52.9	星ヶ塔	0.334
上泉店ノ堀11	上泉店ノ堀	3	暗色帶	I	K4-31	剥片	2.9	26.0	0.2	15.1	1.0	54.9	星ヶ塔	0.183
上泉店ノ堀12	上泉店ノ堀	3	暗色帶	I	K4-33	剥片	3.4	26.2	0.3	15.3	1.0	53.8	星ヶ塔	0.321
上泉店ノ堀13	上泉店ノ堀	3	暗色帶	I	K4-41	剥片	3.1	26.8	0.2	12.4	1.1	56.3	星ヶ塔	0.441
上泉店ノ堀14	上泉店ノ堀	3	暗色帶	I	K4-46	剥片	3.2	25.5	0.3	14.4	1.1	55.6	星ヶ塔	0.358
上泉店ノ堀15	上泉店ノ堀	3	暗色帶	I	K4-48	剥片	3.4	25.7	0.2	13.5	1.1	56.1	星ヶ塔	0.253
上泉店ノ堀16	上泉店ノ堀	3	暗色帶	I	K4-49	研片	3.1	26.0	0.3	14.1	1.0	55.4	星ヶ塔	0.163
上泉店ノ堀17	上泉店ノ堀	3	暗色帶	I	K4-50	剥片	3.2	25.0	0.3	15.8	1.1	54.7	星ヶ塔	0.433
上泉店ノ堀18	上泉店ノ堀	3	暗色帶	I	K4-60	研片	1.6	50.0	0.7	24.2	0.3	23.2	柏嶺	0.164
上泉店ノ堀19	上泉店ノ堀	3	暗色帶	I	K4-74	ナイフ形石器	3.3	25.3	0.3	14.5	1.0	55.6	星ヶ塔	0.251
上泉店ノ堀20	上泉店ノ堀	3	暗色帶	I	K4-111	石刃	3.4	26.7	0.3	13.8	1.0	54.8	星ヶ塔	0.159
上泉店ノ堀21	上泉店ノ堀	3	暗色帶	I	K4-122	剥片	3.9	28.9	0.0	12.6	1.9	52.7	小深沢	0.296
上泉店ノ堀22	上泉店ノ堀	3	暗色帶	I	K4-153	剥片	3.1	26.0	0.4	14.4	1.1	55.1	星ヶ塔	0.336
上泉店ノ堀23	上泉店ノ堀	3	暗色帶	I	K4-159	剥片	3.4	25.6	0.4	13.4	1.1	56.1	星ヶ塔	0.470
上泉店ノ堀24	上泉店ノ堀	3	暗色帶	I	K4-167	剥片	1.2	49.2	0.7	25.4	0.4	23.2	柏嶺	0.205
上泉店ノ堀25	上泉店ノ堀	3	暗色帶	I	K4-168	石核	3.2	25.4	0.3	13.5	1.1	56.6	星ヶ塔	0.268
上泉店ノ堀26	上泉店ノ堀	3	暗色帶	I	K4-181	剥片	3.6	25.2	0.2	14.1	1.0	55.8	星ヶ塔	0.312
上泉新田塚1	上泉新田塚	?		K2-1		石刃	3.5	28.1	0.1	14.2	1.6	52.6	小深沢	0.404
上泉武田1	上泉武田	2	As-YP～As-Ok1	IV	F10	剥片	3.0	25.4	0.3	13.0	1.1	57.3	星ヶ塔	0.270
上泉武田2	上泉武田	2	As-YP～As-Ok1	IV	T49	石刃	3.1	27.7	0.1	15.3	1.6	52.1	小深沢	0.404
上泉武田3	上泉武田	2	As-YP～As-Ok1	IV	I51	剥片	3.5	27.3	0.1	14.7	1.8	52.6	小深沢	0.048
上泉武田4	上泉武田	3	As-BP下	II	B293	剥片	3.1	25.6	0.3	13.7	1.0	56.4	星ヶ塔	0.176
上泉武田5	上泉武田	3	As-BP下	II	B295	剥片	3.2	25.6	0.3	15.1	1.0	54.8	星ヶ塔	0.209
上泉武田6	上泉武田	3	As-BP下	II	327	ナイフ形石器	4.2	24.4	0.0	15.6	1.9	53.9	小深沢	0.433
上泉武田7	上泉武田	1	不明	IV	曲2	橢形先端頭器	2.9	28.7	0.2	16.2	1.3	50.7	不 明	—
五代砂留1	五代砂留	1	As-Ok1	IV	K3-2	剥片	3.2	27.7	0.1	16.3	1.6	51.1	小深沢	0.478
五代砂留2	五代砂留	1	As-Ok1	IV	K3-6	ナイフ形石器	3.8	27.8	0.0	13.6	1.7	53.2	小深沢	0.154
五代砂留3	五代砂留	1	As-Ok1	IV	K3-7	ナイフ形石器	3.4	27.7	0.0	13.7	1.6	53.6	小深沢	0.375
五代砂留4	五代砂留	1	As-Ok1	IV	K3-8	剥片	3.3	27.8	0.0	14.5	1.6	52.9	小深沢	0.553
五代砂留5	五代砂留	1	As-Ok1	IV	K3-13	剥片	3.3	27.9	0.1	13.7	1.7	53.3	小深沢	0.270
五代砂留6	五代砂留	1	As-Ok1	IV	K3-14	研片	3.1	28.4	0.0	13.6	1.7	53.2	小深沢	0.459
五代砂留7	五代砂留	1	As-Ok1	IV	K3-19	石核	3.6	27.8	0.1	14.3	1.6	52.6	小深沢	0.185
五代砂留8	五代砂留	1	As-Ok1	IV	K3-20	剥片	3.2	28.4	0.2	14.7	1.7	51.8	小深沢	0.234
五代砂留9	五代砂留	1	As-Ok1	IV	K6-1	橢形先端頭器	3.2	25.3	0.3	14.8	1.1	55.4	星ヶ塔	0.279
芳賀東部1	芳賀東部1	2	暗色帶	I	B1b	剥片	4.0	25.2	0.0	15.2	1.9	53.7	小深沢	0.317
芳賀東部2	芳賀東部2	2	暗色帶	I	B131	加工痕ある剥片	3.3	26.8	0.3	13.9	0.9	54.8	星ヶ塔	0.073
芳賀東部3	芳賀東部3	2	暗色帶	I	B147	剥片	3.4	25.3	0.3	15.2	0.9	54.9	星ヶ塔	0.275
芳賀東部4	芳賀東部4	2	暗色帶	I	B148	使用痕ある剥片	1.5	46.2	0.7	22.3	0.7	26.7	高尾山	0.199
芳賀東部5	芳賀東部5	2	暗色帶	I	B171	ナイフ形石器	3.2	26.1	0.4	13.7	1.0	55.6	星ヶ塔	0.245
芳賀東部6	芳賀東部6	2	暗色帶	I	B174	剥片	3.4	25.1	0.3	15.1	1.0	55.1	星ヶ塔	0.236
芳賀東部7	芳賀東部7	2	暗色帶	I	B184	彫刻刃磨器	1.5	47.2	0.6	21.1	0.6	29.0	高尾山	0.042
制城1	制城	1	As-YP～As-Ok1	IV	1	ナイフ形石器	3.3	25.8	0.4	14.6	1.1	55.0	星ヶ塔	0.353
制城2	制城	1	As-YP～As-Ok1	IV	3	石刃	3.1	24.9	0.4	15.6	1.0	55.0	星ヶ塔	0.400
制城3	制城	1	As-YP～As-Ok1	IV	4	石刃	3.2	26.6	0.2	15.4	1.0	53.6	星ヶ塔	0.131
制城4	制城	1	As-YP～As-Ok1	IV	6	硝片	3.7	26.2	0.3	13.5	0.9	55.4	星ヶ塔	0.332
制城5	制城	1	As-YP～As-Ok1	IV	7	剥片	3.7	25.4	0.2	15.6	1.0	54.1	星ヶ塔	0.427
制城6	制城	1	As-YP～As-Ok1	IV	8	剥片	3.6	27.4	0.2	13.3	0.9	54.6	星ヶ塔	0.195
制城7	制城	1	As-YP～As-Ok1	IV	11	石刃	3.1	25.5	0.3	13.8	0.9	56.4	星ヶ塔	0.102
制城8	制城	1	As-YP～As-Ok1	IV	16	石刃	3.2	24.8	0.3	14.3	0.9	56.5	星ヶ塔	0.191
制城9	制城	1	As-YP～As-Ok1	IV	17	石刃	3.6	24.8	0.3	14.7	1.1	55.7	星ヶ塔	0.429
制城10	制城	1	As-YP～As-Ok1	IV	23	石刃	3.2	24.5	0.3	15.8	1.0	55.2	星ヶ塔	0.273
制城11	制城	1	As-YP～As-Ok1	IV	26	ナイフ形石器	3.1	25.0	0.2	15.8	1.0	54.9	星ヶ塔	0.265
制城12	制城	1	As-YP～As-Ok1	IV	28	スクレイパー	3.2	25.1	0.3	15.3	1.0	55.0	星ヶ塔	0.326
制城13	制城	1	As-YP～As-Ok1	IV	31	加工痕ある剥片	3.4	25.5	0.3	14.7	0.9	55.2	星ヶ塔	0.154
制城14	制城	1	As-YP～As-Ok1	IV	32	硝片	3.5	25.3	0.2	16.3	0.9	53.8	星ヶ塔	0.382

分析No.	遺跡・ 遺跡群名	文化 期	細分層位	群 馬 編 年	注記	器種	ReO	FeO	SrO	CaO	Rb20	K20	併合產地	併合距離
脇城15	脇城	1	As-YP ~ As-Okl	IV	33	石刃	3.1	25.5	0.3	14.3	1.1	55.8	星ヶ塔	0.301
脇城16	脇城	1	As-YP ~ As-Okl	IV	34	刮片	3.0	25.4	0.3	15.7	1.1	54.6	星ヶ塔	0.359
脇城17	脇城	1	As-YP ~ As-Okl	IV	36	石刃	3.2	25.4	0.3	14.3	1.1	55.7	星ヶ塔	0.427
脇城18	脇城	1	As-YP ~ As-Okl	IV	37	刮片	3.3	27.1	0.2	14.2	1.0	54.3	星ヶ塔	0.085
脇城19	脇城	1	As-YP ~ As-Okl	IV	43	刮片	3.6	25.7	0.2	14.5	1.0	55.0	星ヶ塔	0.357
脇城20	脇城	1	As-YP ~ As-Okl	IV	44	スクレイパー	3.1	26.2	0.3	14.7	1.1	54.7	星ヶ塔	0.292
脇城21	脇城	1	As-YP ~ As-Okl	IV	45	刮片	3.2	25.1	0.3	13.9	1.0	56.5	星ヶ塔	0.149
脇城22	脇城	1	As-YP ~ As-Okl	IV	47	刮片	3.3	25.4	0.3	15.4	1.0	54.6	星ヶ塔	0.271
脇城23	脇城	1	As-YP ~ As-Okl	IV	49	石刃	3.1	26.1	0.2	14.4	1.0	55.2	星ヶ塔	0.080
脇城24	脇城	1	As-YP ~ As-Okl	IV	52	磨削形石器	3.1	25.3	0.3	16.2	1.0	54.0	星ヶ塔	0.371
脇城25	脇城	1	As-YP ~ As-Okl	IV	54	ナイフ形石器	3.1	25.8	0.3	15.6	1.1	54.2	星ヶ塔	0.400
脇城26	脇城	1	As-YP ~ As-Okl	IV	59	石刃	3.0	25.1	0.3	14.1	1.1	56.3	星ヶ塔	0.326
脇城27	脇城	1	As-YP ~ As-Okl	IV	61	刮片	3.2	25.4	0.3	15.8	1.0	54.3	星ヶ塔	0.317
脇城28	脇城	1	As-YP ~ As-Okl	IV	62	研片	3.1	25.3	0.2	15.8	1.0	54.6	星ヶ塔	0.219
脇城29	脇城	1	As-YP ~ As-Okl	IV	63	石刃	3.2	25.5	0.0	14.2	0.8	56.3	星ヶ塔	0.308
脇城30	脇城	1	As-YP ~ As-Okl	IV	65	石刃	2.9	25.5	0.3	15.5	1.1	54.9	星ヶ塔	0.474
脇城31	脇城	1	As-YP ~ As-Okl	IV	66	刮片	3.4	25.8	0.2	15.4	0.9	54.3	星ヶ塔	0.175
脇城32	脇城	1	As-YP ~ As-Okl	IV	68	加工痕ある削片	3.8	26.1	0.3	14.9	1.0	54.0	星ヶ塔	0.454
脇城33	脇城	1	As-YP ~ As-Okl	IV	72	スクレイパー	3.0	26.2	0.4	13.8	1.0	55.7	星ヶ塔	0.199
脇城34	脇城	1	As-YP ~ As-Okl	IV	73	ナイフ形石器	3.0	25.4	0.3	15.7	1.0	54.6	星ヶ塔	0.334
脇城35	脇城	1	As-YP ~ As-Okl	IV	79	刮片	3.1	25.6	0.3	15.0	1.1	55.0	星ヶ塔	0.259
脇城36	脇城	1	As-YP ~ As-Okl	IV	81	研片	3.2	24.4	0.2	16.9	1.0	54.4	星ヶ塔	0.478

第35表 上武道路旧石器時代遺跡群黒曜石原産地一覧表

層位	編年	遺跡	文化層	高原山	和田	諏訪	蓼科	柏井	不明	計
IIIa	IV期	富田下大日	1		14	2			2	18
		堤沼上	1		1					1
		亀泉坂上	1		1					1
		上泉房ノ脇(7工区)	1	2	11	1	85			99
		上泉武田	1・2		2				1	3
		五代砂留	1		8	1				9
IVa	III期	脇城	1		36					36
		計		2	73	4	85	0	3	167
		荒砥北三木堂Ⅱ	2		6					6
		富田宮下	1		1					1
IVb~V	II期	萱野Ⅱ	2		1					1
		計	0	8	0	0	0	0	0	8
		江木下大日					1			1
		亀泉坂上	2		16					16
VI~VII	I期	萱野Ⅱ	3				1			1
		上泉武田	3		1	3				4
		計	0	17	3	2	0	0	0	22
		荒砥北三木堂Ⅱ	3			1				1
不明		富田西原			12					12
		富田宮下	2			1				1
		富田下大日	2		8		1			9
		萱野Ⅱ	4		3	2				5
		上泉房ノ脇(7工区)	2	17	14		7			38
		上泉房ノ脇(8工区)	1		5	18		3		26
		芳賀東部印地	2		1	4				7
不明		計	19	43	26	8	3	0	0	99
		上泉新田塚	1		1					1
		計	0	1	0	0	0	0	0	1
不明		合 計		21	142	33	95	3	3	297

★本報告分析遺跡

★★★★★

## 第6章 結晶片岩について

### 第1節 考古学からみた結晶片岩

#### 1. はじめに

上武道路関連の旧石器遺跡ではローム層中から片岩類が出土し、これを遺物として捉えるのか否か先の「前期旧石器ねつ造事件」との兼ね合いもあり問題となっている。片岩製礫片類については『上武道路・旧石器時代遺跡(1) (2)』の報告があり、本報告でも上泉唐ノ堀遺跡(8工区)以下8遺跡71点の片岩類を『上武道路・旧石器時代遺跡(3)』としてあつかうことになるが、(1) (2)の報告で認定した石器としての結論が妥当であるのかどうか、再検証する必要性があると判断し、検証作業をおこなうこととした。

本章では、旧石器遺跡から出土した片岩類について形状・サイズ等の属性、出土状況、器種：石材レベルで見た片岩類と石器の関係などについて検討し、ローム層中から出土する片岩類について考古学的立場から見解を述べていきたい。これとともに、次節に結晶片岩について中島啓治(群馬大学非常勤講師)・中庄村八(群馬県立渋川青翠高校非常勤講師)・保科裕(埼玉県立初雁高校教諭)の三氏により、下記の①～③に留意して地質学的・岩石学的な立場から南麓旧石器遺跡から出土する片岩類について検討していただいた。

- ① 当該結晶片岩類は群馬県南西部の三波川帯や北部の上越帯のみに存在するものか否か
- ② 赤城山麓に片岩類が自然に散在する可能性について、
- ③ 赤城山・榛名山の基盤に三波川帯・上越変成帯が潜り込む可能性について

#### 2. 再検討に至る経過

ローム層中から片岩類が出土することについては、県内で旧石器調査が本格化した昭和57・58年ころからすでにその存在が知られていた。渋川市房谷戸遺跡や伊勢崎市下触牛伏遺跡の片岩類がそれである。房谷戸遺跡例(1911事業団第11集)は榛名八崎火山灰一榛名八崎軽石層間のローム層中から出土した片岩製礫片3点で、そのうち2点に接合関係があることや石英脈のない良質石材であるという石材性状が積極的に評価され、第3文化層の石器として報告されている。牛伏遺跡例(1986 事業団第11集)は暗色帶中から出土した緑色片岩製の局部磨製石斧で、これまで人工品であるという見解に異論はない。牛伏遺跡の石斧は約2,000点の石器・片岩類に伴い暗色帶から出土したものであるが、雲母石英片岩や珪質準片岩などが礫片として出土した。通常、旧石器遺跡では石器類に混じり、粗粒輝石安山岩やチャートその他の礫片類が出土、自然礫とされている。牛伏遺跡の片岩類(石斧を除く)は小片で石英脈が入り込んでおり、これを用いた旧石器がないことや出土状態も規則性がないことから自然礫と判断した。いまなおこの判断基準は生きており、常識化している。二之宮谷地遺跡の発掘(昭和61年)では、小規模だがローム層中から出土する礫片類が全量抽出されている。抽出された自然礫の石材種については報告されていないが、こうした作業が行われていること自体がローム層中の自然礫を確認しておこうという当時の問題意識の現われである。これより以後、県内旧石器遺跡の発掘は上信越自動車道や北陸新幹線関連の発掘に移る。甘楽町白倉下原遺跡や高崎市三ツ子沢中遺跡(旧榛名町)で片岩類が発見されているが、両遺跡とも片岩類については特に注意されていないようである。

平成10年を前後するころから再び赤城山南麓で旧石器遺跡が発掘されるようになるが、国道50号線以北の上武道路関連の16遺跡で片岩類(250点)が確認されており、初期の暗色帶から出土するものに加え暗色帶下の硬質ローム層から発見される片岩類の存在が明らかにされた。片岩類について、上武道路・旧石器時代遺跡(1)では加工痕や剥離痕の認定が難しい石材であること、粗粒・軟質で剥片石器には適さないこと、明確な加工痕がなく礫・礫片とすべきであろうと

いう見解が示されるとともに、地質学的には赤城火山の基盤に三波川帯が入り込む余地がないことから「人の手を経た遺物」であり、暗色帶下層のローム層から出土する片岩類は後期旧石器時代を測るものであり、片岩類に伴う石器群を探るべきであろうとされた。また、上武道路・旧石器時代遺跡(2)では上泉唐ノ堀遺跡の片岩製扁平礫が記載、使用痕観察により河床礫の礫面に似た摩耗痕が観察されたとある。同遺跡の片岩製扁平礫は平成11年ころ発見されたものであろうが、それほど騒がれたという記憶はない。この片岩製扁平礫は報告書刊行後ホームページ上に紹介され、人の手を介して遺跡に持ち込まれたものであろうとされたが、これについて外部から厳しい批判があり、今後の調査方針にも係わるため事業団として再評価することになった。

### 3-1. 旧石器遺跡出土の片岩類

片岩類は、本報告分を除く上武道路関係の旧石器遺跡で339点、その他の赤城山南麓旧石器遺跡で62点、榛名山麓の三ツ子沢中遺跡・三峰山麓の後田遺跡に各3点がある(津島2008)とされている。

a. 磨形状 上武道路・旧石器遺跡(3)として報告予定の片岩類の平均サイズは長さ33mm・幅19mm・重さ12.44gで、最大重量は109gである。内訳は10g未満56点・20g未満21点・30g未満8点・40g未満3点・50g未満3点・60g未満2点・100~110g1点となり、10g未満の礫が主体を占める。礫片は角礫の稜が取れ丸味を帯びた亜角礫様で、稜の新鮮な破断面を有するものも少量ある。片岩類には緑色片岩がないことも特徴的であるが、各遺跡とも雲母石英片岩(上泉唐ノ堀11.8g・上泉新田塚23.0g・上泉武田22.2g・五代砂留27.4g・胴城11.6g)より黒色片岩(上泉唐ノ堀3.6g・上泉新田塚3.0g・上泉武田4.0g・五代砂留10.2g・胴城6.4g)が軽い傾向は明らかである。これに見合う片岩製の加工石器は確認されていない。

上武旧石器遺跡(1)(2)の片岩類の平均サイズは、上武旧石器(1)の片岩類は長さ25.5mm・幅15.7mm・重さ5.2g(雲母石英片岩:10g未満123点・20g未満13点・30g未満6点・40g未満1点、黒色片岩:10g未満45点・20g未満7点・30g未満2点・40g未満1点、緑色片岩10g未満6点)、上武旧石器(2)のそれは長さ33.1mm・幅20.3mm・重さ10.5g(雲母石英片岩:10g未満30点・20g未満9点・30g未満1点・40g未満1点・80g未満1点、緑色片岩:10g未満1点・20g未満1点・60g未満1点・70g未満1点、黒色片岩なし)を計り、上武旧石器遺跡(1)で報告した遺跡の片岩類が小形であることが分かる。

b. 石材構成 片岩類には雲母石英片岩・黒色片岩・緑色片岩(飯島静男氏による分類)がある。上武旧石器遺跡(1)(2)では雲母石英片岩が182点(72.8%)と多数を占め、これに黒色片岩59点(23.6%)が続く。片岩類の出土量が多い富田宮下遺跡・第2文化層では黒色片岩は1/3ほどであるが、北三木堂Ⅱ遺跡第4文化層や富田高石遺跡では黒色片岩が逆に主体を占めている。緑色片岩は9点(3.6%)と概して少ない。本報告分の上泉唐ノ堀遺跡以下8遺跡の片岩類(雲母石英片岩52点・黒色片岩14点・緑色片岩2点)を加えてなお上記石材構成は変わるものではない。

c. 石材性状 片岩類の大半が雲母石英片岩であり、石英脈が入り込んだものが多い。石器製作にはこの石英脈が邪魔して利用されないことが予想されるものばかりである。

d. 分布傾向 旧石器遺跡の石器分布は石器集中部と散漫な分布域からなり、器種レベルでは遺跡内製作の石器と別の地点で作られた石器からなるという特徴がある。旧石器遺跡から出土した片岩類は石器集中部にも散漫な分布域にも発見されることが多く、片岩類の分布のみ見るとランダムであることが圧倒的である。これに対し、富田宮下遺跡や胴城遺跡では片岩類のみ集中分布することが確認されており、これについて検討した。富田宮下遺跡の片岩類(第2文化層)は調査区北側が削平され暗色帶が露出し、HR-HP前後の旧石器調査に力が注がれた。暗色帶中の石器群はチャートを主体とするもので、片岩類は調査区南西側に集中分布し、周辺域にも散漫に分布(第246図)した。片岩類は集中性が高く、3m×5mの範囲に分布したほか、周辺域にも散漫に分布した。分布状況を見る限り、他の石器ブロックと何ら変わることはないが、同遺跡では噴砂がHR-HP下部で発生していることや、荒砥川右岸にあるという遺跡の立地条件を考慮して、下層の片岩類が移動した可能性について検討(第246図)した。この垂直分布図を見る限り、下層から片岩類が巻

第36表 上武旧石器(1)(2)、片岩類總括表

&lt;三日石器分布域に片岩が共伴した遺跡&gt;

遺跡名	今井道上Ⅱ遺跡		北三木堂Ⅱ遺跡		富田宮下遺跡		富山西原遺跡		富高石遺跡		富田津田遺跡		富田下大口遺跡		江木下大口遺跡												
	文化層	第1文化層	第2文化層	第3文化	文化層	第1文化層	第2文化層	文化層	第1文化層	第2文化層	文化層	第1文化層	第2文化層	文化層	第1文化層	第2文化層											
分布		B	B	B	B	A+B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B											
層位	石器	青	黒	緑	石器	青	黒	緑	石器	青	黒	緑	石器	青	黒	緑											
Ⅱ層																											
Ⅲ層																											
IVa層																											
IVb層	1		20	1	143	1										23											
V層	12	1	124		87	1			6	3	107	2	79	2	1	125	4										
VI層	1		217	1	297	2	2		34	21	4	791	7	1	208	4	3										
VII層			47		153	4			102	45	22	41	4	2	29	2											
Ⅷ層			2						6	20	6	1			0	1											
IX層																											
不明																											
統計	14	1	410	1	1	696	8	2	149	89	32	1	942	13	3	318	5	7	2	125	4	173	2	2	173	2	2

&lt;三日石器分布域に片岩が共伴した遺跡&gt;

遺跡名	菅野Ⅱ遺跡			堤沼上Ⅱ遺跡												
	文化層	第3文化層	第4文化層	B地点	第4文化層C地点	第2文化層										
分布		B	B	B	B	B										
層位	石器	青	黒	緑	石器	青	黒	緑	石器	青	黒	緑	石器	青	黒	緑
Ⅱ層																
Ⅲ層																
IVa層																
IVb層	3	4	0	0	0	22	1									
V層	1		49			10										
VI層			213		1	52	1	1								
VII層			137	1	0	2	19	1	2							
Ⅷ層			1			2										
IX層																
不明			6													
統計	4	4	406	1	1	2	107	3	3							

&lt;分布パターン&gt;

A: 片岩が石器分布域内に集中分布

雪片: 青母石黄片岩

B: 片岩が石器分布域内に散漫に分布

黒片: 黒色片岩

C: 片岩のみ集中分布

緑片: 緑色片岩

D: 片岩のみ散漫に分布

0: 0

&lt;片岩のみ分布した遺跡&gt;

今井道上Ⅱ遺跡	北三木堂Ⅱ遺跡		鬼泉坂上遺跡		上泉唐ノ堀遺跡		
	文化層	第3文化層	第4文化層	第3文化層	第4文化層	文化層	第3文化層
	C	C	C	D	D	C	C
石器	青	黒	緑	石器	青	黒	緑
Ⅱ層							
Ⅲ層							
IVa層							
IVb層							
V層							
VI層							
VI層							
VII層							
Ⅷ層							
IX層							
不明							
統計	0	0	0	0	0	0	0

き上がるような状況はないだろうということが結論である。上泉唐ノ堀遺跡(第2文化層)には南北2ヶ所に分布域があり、片岩類は南北両地点にある。片岩類は石器ブロックに完全に重なるわけではなく、集中性も乏しい。片岩製扁平礫は集中性を欠いた北東側の分布域にある。ここではその出土位置より、片岩それ自体が完形の扁平礫(河床礫)であるという点が注意され、人が意図的に持ち込んだとする形態的要素を備えている。

e. 出土層位 片岩類は暗色帯中に出土、高低差を以て出土する場合も出土量のピークは暗色帯にあることが圧倒的である。これに外れるのが、今井道上遺跡(第3文化層)と北三木堂Ⅱ遺跡(第4文化層)とされるもので、暗色帯下層の黄褐色ローム層に出土量のピークが一群である。この2遺跡では文化層毎の片岩類全体の礫サイズの比較が可能で、その傾向を礫重量で見ると、今井道上Ⅱ遺跡では第1文化層: 5.8g、第2文化層: 9.2g、第3文化層: 5.8g、北三木堂Ⅱ遺跡では第3文化層: 9.1g、第4文化層: 3.6gとなり、下層文化層より上層文化層の礫重量が大きくなることが判明した。傾向を述べるには資料的に不足しているかもしれないが、下層より上層文化層の礫重量が大きくなる点は注意されよう。

### 3-2. 暗色帯出土の礫片類

片岩類が暗色帯中に含まれるものか判断することはデータ的に難しい。それは、旧石器遺跡の調査で出土する自然礫(礫片類)についてはその場で廃棄されてしまい報告されることがないためである。下触牛伏遺跡では、ローム層中の礫片類818点(片岩類を含む)がサンプル保管されており、参考資料としてデータを示しておく。

礫片類は石材19種があり、粗粒輝石安山岩473点(57.8%)・珪質変質岩97点(11.9%)・チャート92点(11.2%)・砂岩32点(3.9%)・ホルンフェルス32点(3.9%)・安山岩ガラス23点(2.8%)・溶結凝灰岩13点(1.6%)・変玄武岩12点(1.5%)・

デイサイト凝灰岩11点(1.3%)・雲母石英片岩5点(0.6%)、そのほか少数石材として凝灰質砂岩・頁岩・流紋岩が各4点、石英・変輝綠岩が各3点、珪質頁岩2点、安山岩凝灰岩・珪質準片岩・変珪岩・未固結凝灰岩各1点がある。サンプルには雲母石英片岩5点が含まれており、1点がVII層からの出土で、残る4点が出土層位不明であり、いずれも小片であり石器素材となりうるものではないことが明らかであった。礫重量については粗粒輝石安山岩が平均6.1g(礫片には大小があり、グリッド毎の上位3点の平均重量は19.2g)、珪質變質岩3.4g(上位3点の平均6.7g)、チャート6.1g(八崎直上のローム層から円礫217.7g 1点、層位不明の礫68.4g 1点があり、平均重量を押し上げている。この2点を除いた平均重量は2.8gとなる)、砂岩5.3g(7.3g)、ホルンフェルス5.2g(7.0g)変玄武岩1.4gであった。礫サイズについてはほぼ均質であり、Q・R-33グリッド(5m × 10m)でサンプリングされていた①粗粒輝石安山岩と②珪質變質岩のみデータ化したところ、①②とも長さ・幅1~4cmの枠内に収まる亜角礫であることが判明した。

以上がサンプリングされていた牛伏遺跡の礫の内訳だが、注記を見るとIV~VII層とされているものが圧倒的で、全点が意識的にサンプリングされているわけではないが、ローム層中の礫種についてその傾向性を示していることができるだろうと考えている。安山岩ガラスや珪質準片岩はIV・V層のみ出土、層位的に限定されていた。安山岩ガラスはAs-YPに伴う黒曜石様の火山ガラスと見られ、その降下層準に近いIV・V層としてサンプリングされていたものであろう。同層準でサンプリングされている珪質準片岩の偏在理由は現状では明らかでない。

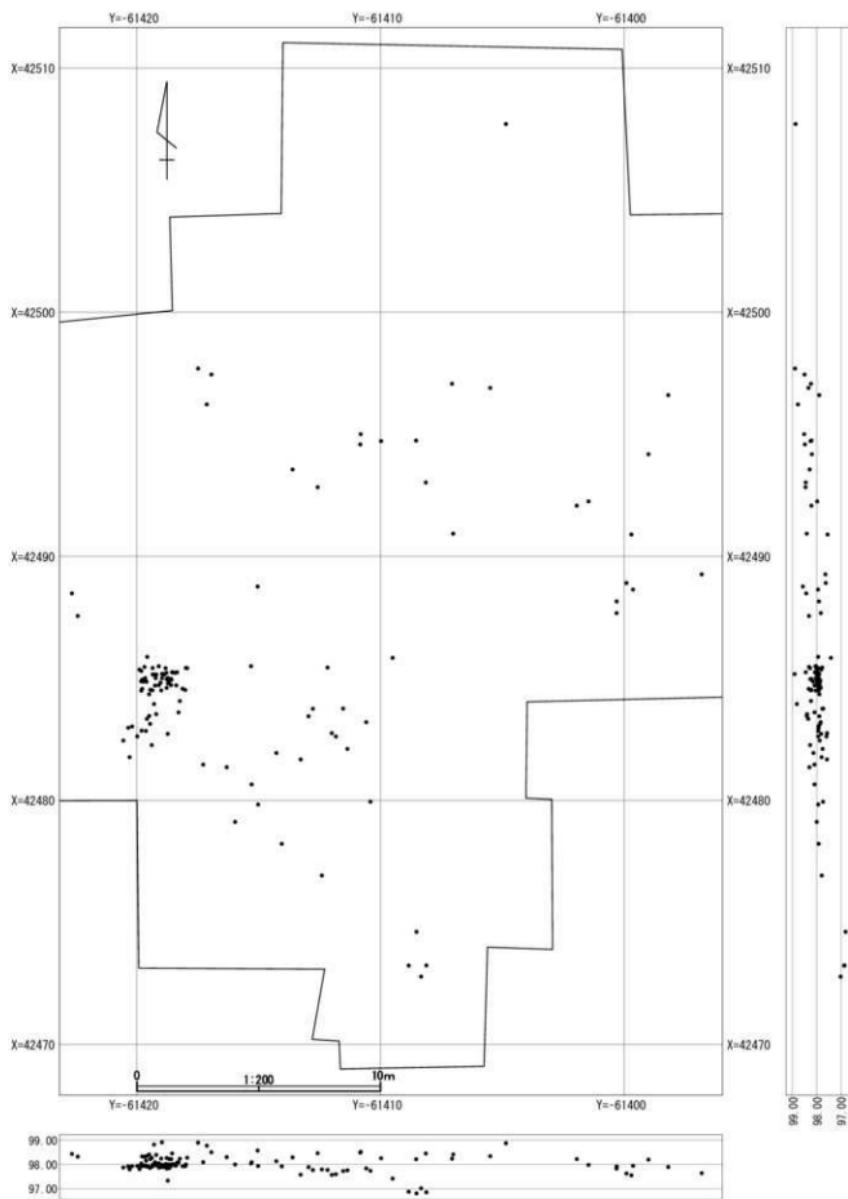
### 3-3. 石器としての片岩類

県内旧石器遺跡から出土した片岩製石器類は、赤城山南麓1遺跡、西毛域5遺跡の事例がある。下触牛伏遺跡から出土した局部磨製石斧は刃部が研磨され、破損後の再生加工も明らかで人工品であることは明らかである。同様に、西毛域の高崎市折茂Ⅲ遺跡から出土した片岩製石斧は端部を粗く打ち欠いただけのものだが、國から見る限り、加工石器であることは明らかである。甘楽町白倉下原遺跡・天引向原遺跡・天引孤崎遺跡や藤岡市北山B遺跡から出土した片岩製敲石は、剥片類とともに石器ブロック内で出土し、礫の小口部に敲打痕があるほか打撃に伴う衝擊剥離痕(孤崎例)や接合関係(下原例)があり、これらについても人工品とすることができます。礫サイズは11~14cm・重量は350gほどである。上武・旧石器時代遺跡(1)で片岩製スクレイパーとされたものは報告では変玄武岩とされており、誤認か誤植がある。以上の傾向から、片岩類は剥片系石器には適さないということが分かる。

甘楽町の旧石器3遺跡は、鏡川右岸の上位段丘上に立地する。遺跡は谷に分断され、孤崎一向原両遺跡間には丘陵側から三途川が流れ、深く浸食されている。3遺跡とも基本土層は同様で、暗色帶下層に礫層と青灰色粘土層の互層が堆積している。いずれも石器類に混じり礫類が出土しているが、回収されている礫は大型であるものが多い。下原A区で5点(片岩1・安山岩2・砂岩2)、下原B区で2点(片岩1・硬質泥岩1)、向原A区1点(安山岩1)、孤崎53点(片岩29・砂岩4・泥岩7・安山岩9・チャート4)が出土している。片岩類は下原A区が165.3g、下原B区が191.9g、孤崎が最大1531.0g・最少158.2g・平均734.2gを計り、孤崎が突出している。この突出理由が暗色帶下の堆積状態(礫層)の相違によるものか分からぬが、片岩以外の礫の平均重量も砂岩649.8g・泥岩146.4g・安山岩1233.2g・チャート957.5gと大型であることは明らかである。下原・向原遺跡の報告では台地中央で暗色帶下層に青灰色粘土層が厚く堆積(その下位に礫層と粘土層が互層堆積)し、台地縁辺では直接礫層を覆い暗色帶が堆積したとされている。礫類には打痕等がないため分布図・数値データのみ提示されているだけであるが、礫類は石器ブロックに重複分布しており、出土した大型礫は持ち込んだものとして捉えているようである。片岩類が上記遺跡で敲石として用いる例があるのは、それが周辺域に富蔵であるということになる。現状では、片岩製石器は牛伏遺跡の局部磨製石斧と西毛域の敲石類を除いてないが、これは縄文期石器にも通じる器種-石材関係とすることができる。

### 4. 旧石器遺物としての片岩類の可能性

旧石器としての認定条件をあげるとすれば、明らかな加工(使用痕)があるということに尽きるだろうが、分布が石



第246図 富田宮下遺跡の結晶片岩分布・垂直分布状況（座標は日本測地系）

器ブロックと重なるか、あるいは偏在するなど考古学的な有意性がなければならない。これに対して、上武旧石器遺跡から出土した片岩類、特に雲母石英片岩とされるものは石英脈があり、旧石器的な剥片系石器の素材には適していないとするのが常識的な見方である。

以上の要件を前提とするなら、片岩製礫片類は考古学的に人工物として認定することは難しいということになるが、上泉唐ノ堀遺跡（第2文化層）から出土した片岩製扁平礫は、その形状から意図的に持ち込んだものという可能性を残している。これについても使用痕はなく河床礫（転石）を遺跡に持ち込んでいるというだけであり、同文化層から出土したこれ以外の片岩類とはどのように係わるのか、現状で解釈する手掛かりはない。暗色帯中石器群と同一レベルで片岩類が集中分布した富田宮下遺跡や上泉武田遺跡、石器類を作わず片岩類のみ集中分布した北三木堂II遺跡（第4文化層）や胴城遺跡など、分布論的には考古学的な脈絡において有意性があるとせざるを得ない。ここでも片岩類とともにあるはずの礫片類がデータ化されていないが、富田宮下遺跡では接合資料があり、人工物としての可能性を考える必要がある。接合資料については意図的な打撲によるものか判断が難しく、偶発的な剥落の可能性を含め、剥離実験等を行い検証すべき必要を感じている。

## 5. 課題

牛伏遺跡や房谷戸遺跡の発掘当時、片岩を含む礫片類は遺物から除外された。自然礫とした礫片類はクリオターベーションされ下層の礫が混じり込んだものとされたが、房谷戸遺跡の片岩類は石英脈がなく良質であり、接合関係もあるということで遺物として取り扱われた。当時、赤城火山の基盤に第三紀の基盤が潜り込む可能性について、地質学にはこれを否定するだけのデータではなく、考古学では人工物とは見なせない片岩類については赤城火山の基盤に潜り込んでいるであろうという推定の下に解釈するのが合理的、説得的であった。その後、赤城火山の基盤に関するデータが集積され、地質学的には赤城火山の基盤に片岩類が混じる可能性はない（次節参照、中島・中村・保科）というのが今日的解釈であるようである。考古学的には片岩類について遺物として積極的に認定される要素は見当たらないというのが現状で、言わばその解釈基盤を否定されたかのような状況にある。

当該地域のローム層中にある片岩類についてそれを自然礫とするには、それら礫片類が下層から巻き上がる状態を示す必要がある。通常、旧石器遺跡では石器が出なくなるまでローム層を掘り下げていくが、片岩類は数が少なく調査中その存在に気づくことは稀である。また、気づいてもそれだけが注意され、それが自然礫としての可能性が検討できるようなデータ化はしていないため、検討することができないことも多い。人が持ち込んだとされた白倉下原遺跡や向原遺跡でも下層に片岩を含む礫層があるにもかかわらず、礫層から巻き上がる礫という視点ではデータ化されていない。第一義的には、赤城山中で片岩の露頭なり、河川で片岩を確認することができれば解決する問題だが、片岩類とともに礫片類が基盤層から浮き上がる状態をデータ化することが急がれよう。『上武道路・旧石器時代遺跡（1）』では、大間々扇状地の旧石器遺跡においては下層ほど礫片類が大きく量も増えるとされているが、HR-HP下層についても片岩類の有無を含めてそのデータ化が必要となるだろう。こうしたデータ化は「人が持ち込んだ」とする立場でも欠かせないが、意図的な剥離であることを示す必要がある。知る限り從来の剥離実験では剥片系石器の素材一例えば黒曜石やサヌカイトなど一のデータはあるが、片岩類を対象にした剥離実験はない。剥離実験では剥片形状やバルブ、打点の在り方などが観察項目となるだろうが、これと接合資料を含む発掘品と比較する必要があるだろう。

問題視されている片岩類は暗色帯から出土するほか、暗色帯下層にもあるとされている。群馬県を除く関東各県では最初期の石器群が発見されているが、本県では暗色帯下層ローム層とHR-HP層間に列島最初期の後期旧石器が出土するものと見られる。今後の発掘調査では、最初期の石器群の確認を念頭に、片岩を含む礫片類に注意を払い、暗色帯下層を含む調査メニューが再検討・再構築されるべきだろう。

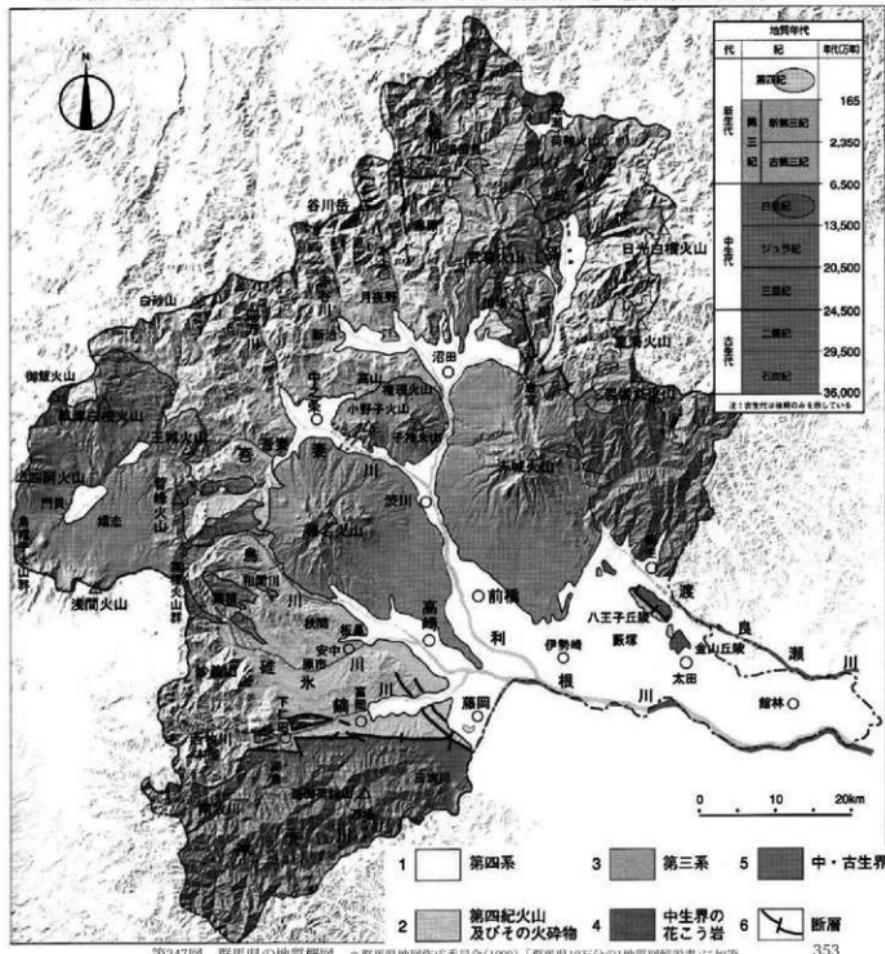
## 第2節 地質からみた結晶片岩

## 第1項 赤城山南麓の旧石器時代遺跡の結晶片岩礫

## 1 群馬県の地質(第247図)

群馬県は関東平野の北西部に位置する。第247図のとおり群馬県の地質を大きく分けると、古い方から中・古生界(中・古生代の地層)、中生代の花こう岩(火成岩)、第三系(第三紀の地層)、第四紀火山及びその火山噴出物、火山噴出物を除く第四系(第四紀の地層)の5つに区分できる。

県中央部や北東部は、第四紀火山及びその噴出物に覆われ、その周囲は第三紀の地質が分布している。

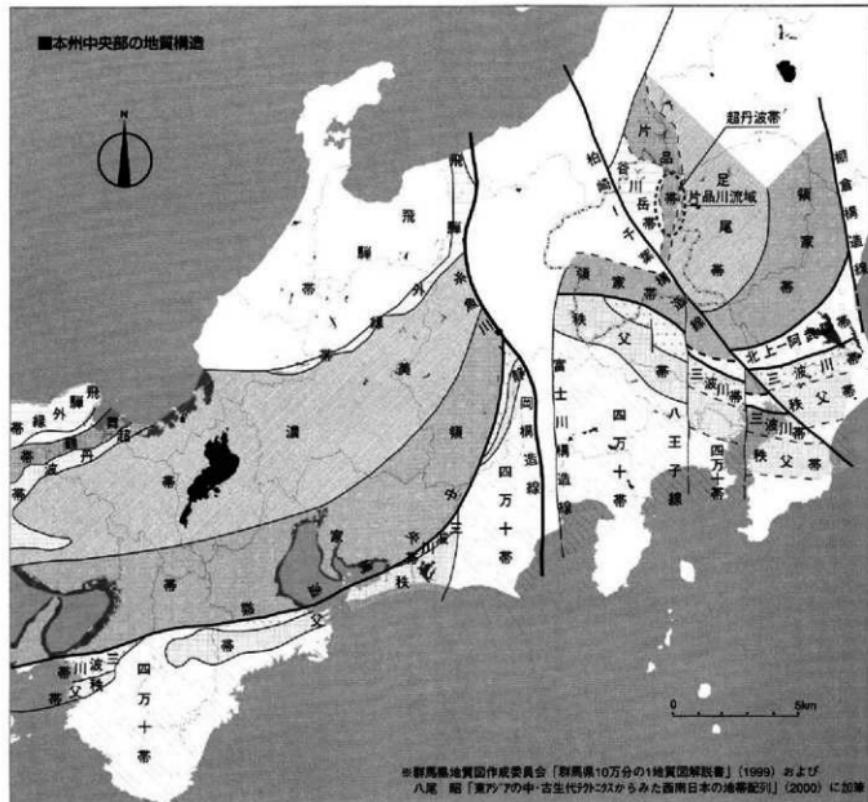


第247図 群馬県の地質概図 \*群馬県地図作成委員会(1999)「群馬県10万分の1地質図解説書」に加筆

## 2 日本列島中央部および群馬の地帯構造(第248図)

地質の特徴が似ている地域を地質区といい、日本列島はいくつかの地質区に分けられる。本州は中央部のフォッサマグナで東北日本と西南日本に分けられ、西南日本はさらに中央構造線で内帯(日本海側)と外帯(太平洋側)に分けられる。帯は同じ時代にできた岩石が帯状に分布している地質区となる。内帯では北から南へ飛騨帯、飛騨外縁帯、舞鶴帯、超丹波帯、美濃帯(丹波帯)、領家帯の帯状構造。それがある時期の付加体を反映していると考えられている。一方で外帯は、三波川帯、御荷鉢帯、秩父帯、四万十帯の帯状構造からなる。

中央構造線の北側の内帯は領家帯、南側は三波川帯からなり、共に変成作用を受けた岩石が分布する。三波川帯には、結晶片岩や緑色岩が、領家帯には片麻岩、花崗岩や酸性凝灰岩などが分布する。三波川帯の南側は秩父帯で、チャート、砂岩、泥岩、火山岩など中生代や古生代の岩石が分布する。これらの岩石は、九州から四国、紀伊半島をへて長野県諏訪まで細長く帯状に分布する。関東山地には、西南日本に連続するような帯状構造が見られ、三波川帯や秩父帯の岩石が分布する。①帯状構造の方向が、西南日本がほぼ東西方向であるのに対し、関東山地では90°折れ曲がって、北西—



第248図 本州中央部の地質構造図

南東方向になっていること②関東山地では、中央構造線とその北側の領家帯の岩石は、大部分が新しい時代の地層に覆われていて、西南日本に比べはっきりしないことである。関東山地の中央構造線は、長野県内山から群馬県下仁田町、さらに埼玉県寄居町を通り、小川町に続くと考えられている。

下仁田構造体の南限の断層は、西南日本の中央構造線の延長に相当する。関東山地の北方から谷川岳に至る地域については、地質区の区分がまだ十分には確立していない。関東山地の北側には領家帯が存在することがほぼ確実である。これは、下仁田構造体の数種類の岩石にも認められるし、また、秩父盆地の中期岩層中の礫からも推定される。中央構造線が続くと考えられている埼玉県小川町の奈良梨(ならなし)断層より北側の嵐山町越畠(おっぱた)には、小規模ながら領家帯の花崗岩や片麻岩が見られる。

以下、これらの地質区の特徴を述べる。

#### (1) 内帶

飛騨帯を構成する基本的な岩石は第一に飛騨変成岩類で、第二に船津花崗岩類である。

飛騨変成岩類の代表的な岩石は飛騨片麻岩である。この岩石は、20億年前の原生代に始まり、繰り返し変成作用を受けた。最終的には1.8億年のジュラ紀初期に船津花崗岩類の貫入を受けて、広い範囲で接触変成作用を受け、同時に強い変成作用も受けた。

飛騨外縁帯のメランジュと呼ばれる複雑な地層が広がっている。飛騨外縁帯は、飛騨帯と美濃帯の間に存在する。

美濃帯主要な岩石は砂岩・泥岩で、ほかに多量のチャートと多少の石灰岩および少量の火山噴出物がある。砂岩・泥岩の大部分はジュラ紀に堆積し、多くはメランジュである。メランジュの中のチャート岩塊は大部分が三疊紀である。フズリナを含む古生代の石灰岩も異質岩塊である。

谷川岳帯、片品帯、超丹波帯、足尾帯が群馬県北東部にほぼ南北に並んでいる。これらは、糸魚川—静岡構造線より西の、飛騨外縁帯、舞鶴帯、美濃帯に続くとされる。谷川岳帯と片品帯は、まとめて上越帯と呼ばれる。

上越帯と足尾帯の境界の位置や性格は明確でない。また、上越帯は、中生代後期～新生代初期の花崗岩に貫かれたり、あるいは中期岩層(新第三紀以降、2500万年前～70万年前)に広く覆われているため、相互の関係は不明なところが多い。しかし、ここには西南日本の飛騨外縁帯、舞鶴帯を構成する岩層の主要なものが存在する。すなわち、谷川岳や至仏山をはじめとして、各地に蛇紋岩が存在し、谷川岳ではその中に結晶片岩が含まれる。

さらに飛騨外縁帯の来馬層に相当する岩室層、手取層に相当する戸倉沢層が片品川上流に分布し、岩質だけでなく、化石も飛騨外縁帯のものと共通する。川場村には谷川岳帯が存在し、谷川岳帯構成岩である二疊紀とされる蛇紋岩メランジュが分布する。

谷川岳山頂部には、粗粒の結晶片岩が産出する。黒色片岩および緑色片岩で曹長石の点紋がある。緑色片岩は緑簾石を伴ったり伴わなかったりするが、いずれもガーネット角閃石片岩である。黒色片岩はガーネット白雲母片岩である。上越帯は、蛇紋岩・結晶片岩(蛇紋岩メランジュ)を主体とする谷川岳帯と変成オフィオライトを主体とする片品帯に大別される。上越地方の結晶片岩は、群馬県では谷川岳周辺と川場村に産出するが、川場村の結晶片岩は接触変成作用によりホルンフェルス化が著しいのに対し、谷川岳の結晶片岩は接触変成の影響が少なく、結晶片岩としての原型をとどめている。上越地方の結晶片岩は、川場地区から木村(1952)によって最初の発見がなされた。彼は、黒雲母片岩・緑色片岩・角閃石片岩・ザクロ石一チタン石片岩・透輝石一ザクロ石片岩そして普通角閃石・透輝石片岩の産出を報告している。

水上町周辺の栗沢礫岩層の礫岩中に、石墨石英片岩および緑色片岩等の結晶片岩礫が新井・木崎(1958)により発見された。栗沢礫岩層の結晶片岩礫は完全に再結晶した藍閃石片岩、大部分再結晶したザクロ石一雲母片岩および片理はそれほど発達していない点紋緑色片岩であることも吉村・市橋(1966)により示された。また、谷川岳の山頂の結晶片岩類の岩石の型は、緑泥石・網雲母・石英片岩、ザクロ石・網雲母・緑泥石片岩そして透輝石・緑泥石片岩等である。これ

らは、鉱物の特長、特に粒度の粗いこと等から飛騨片麻岩類の外側に発達する岩石と比較され、西南日本の三都変成岩類に所属すると前田(1962)はみなしした。他に結晶片岩は川場村の蛇紋岩メランジュ中のブロックに確認されている。また、沼田市白沢町岩室付近に露出する超塩基性岩中に結晶片岩類の捕獲岩が発見されている。岩室地区の地下に結晶片岩が存在する可能性が大きいと木村(1952)は指摘している。

足尾帯は、中・古生代の足尾層群、白亜紀～古第三紀の花崗岩類・酸性火山岩類などから構成されるジュラ紀の付加帯である。

領家帯は変成岩と花こう岩からできているので、その変成岩の原岩は美濃帯と同じものであった。領家帯は美濃帯の一部が後に変成されただけの地帯である。領家帯は、第一には領家変成岩類であり、代表的には片麻岩とホルンフェルである。領家帯は美濃帯の南縁部が変成作用を受けた部分である。第二は大量の花崗岩類である。

#### (2)外帯

三波川帯は、美濃帯や領家帯に比べると幅が狭い。四国中央部で最大の30km、赤石山地で4～0kmである。構成するにはさまざまな結晶片岩類があり、大別して黒色片岩と緑色片岩がある。黒色片岩の原岩は砂岩や泥岩である。緑色片岩の緑色は緑泥石と緑れん石によるもので、原岩はたいていは火山噴出物である。三波川帯の結晶片岩類は、温度より圧力の効果が顕著な変成岩である。それは地下20kmの深さに相当する高压下で形成された。原岩はジュラ紀、したがって秩父帯と同じであり、変成作用は白亜紀であった。

秩父帯は、美濃帯のものとほとんど同じで、本体はジュラ紀層であり、その中に三疊紀のチャート層と古生代の石灰岩層が、メランジュなかの異物として含まれる。

関東山地は、東西80km、南北70km、ほぼ正方形に近い古期岩層の山地である。古期岩層は基本的には西南日本外帯のそれと同じで、北(内)から南(外)へ、三波川帯、秩父帯、四万十帯が並ぶ。

下仁田構造体は、関東山地の北縁、幅数kmである。多数の断層が発達し複雑な地帯である。岩層は西南日本の領家帯のものに相当する。それに接してすぐ南側にはほぼ水平な跡倉押し被せ断層があり、根なしの山(クリッペ)がある。三波川帯の南縁には斑れい岩・玄武岩を原岩とする変成岩があり、御荷鉢岩類と総称される。

#### (3)中央構造線

中央構造線は、日本最大の断層であり一般的には直線的である。中央構造線は西南日本本州区中軸部を縱断し、花崗岩類や高温低圧型変成岩類で特徴づけられる領家帯と低温高圧型変成岩類の発達する三波川帯との境界をなす。この構造線は四国から紀伊半島にかけて西南西～東北東方向にのび、中部地方にはいると漸次転進して南西～東北、さらには南南西～北北東方向になり、諏訪湖南方において糸魚川一静岡構造線で切られる。中央構造線は糸魚川一静岡構造線に切られて北方に転位し、フォッサ・マグナにおいて大きく方向を変え下仁田構造帯の南縁に延び、その後関東平野に入る。

#### (4)結晶片岩礫の由来のまとめ

群馬県での結晶片岩は、神流川流域と上越地方に見られる。

しかし、今回の対象である遺跡からのものは点絞片岩が多く、その岩石の特徴から上越地方に分布が少ない結晶片岩ではなく、神流川流域の分布が広い三波川結晶片岩であると結論づけられる。

## 用語説明

**メランジュ：**フランス語の混合または混合物を意味する。普通の場合、泥質のマトリックス（充填物質）の中に、大小の不揃いの塊（岩塊）が雖然と含まれ、そのマトリックスは不規則に変形している。塊は正常な礫岩の水磨された円錐とは異なって、いくらか角ばっている。本来は、いくらか壊されたマトリックス（礫状物の間を埋めているもの）の中に大小さまざまな岩塊を含む岩体に対して用いられた術語である。それに似た構造をもつもので、マトリックスが蛇紋岩であるものを蛇紋岩メランジュと呼んでいる。それが堆積した地層よりも古い年代の岩層を含んでいて、正常な層序や連續性をもたない地層である。メランジュ形成の原因としては、付加体に伴う作用が考えられる。

**オフィオライト：**フランス語で蛇紋岩の意味である。海洋地殻起源の那種類かの岩石からなる。太平洋の海底は、上からチャート（堆積岩の仲間）、斑れい岩、玄武岩の岩脈や枕状溶岩、かんらん岩（オフィオライトでは蛇紋岩になっていることが多い）が層状に重なる。このような岩石が順番に重なっているのではなく、あちこちが断層で切られている。このような層状の構造を残した岩石である。片品川流域の戸倉オフィオライトは、2億数千万年以前の古生代二疊紀の付加体にあたり、蛇紋岩・斑れい岩・玄武岩が分布する。

**上越変成帯：**結晶片岩と蛇紋岩からなる蛇紋岩メランジュ帯と考え、また片品構造帯は、閃綠岩・変成した斑れい岩と玄武岩の複合岩体からなるオフィオライト帯と考え、それぞれを谷川帯・片品帯とよんだ。

**付加体：**海洋プレートの移動が続いて、プレートが海溝で大陸プレートの下へ沈みこみはじめると、チャート・砂屑岩などの海洋プレートの上の堆積物やプレートの一部がはぎられ、陸側に押しつけられ付加し陸地の一部となったもの。

**三郡変成帯：**九州北部から中国地方東部にかけて在する低変成度の変成岩。東方延長は飛騨外縁帯に沿い点々と分布し、さらにフォッサマグナをえて、上越変成帯にのびると考えられている。

**舞鶴帯：**近畿地方北部から中国地方東部へかけてのびる地質構造帯。

**超円波帯：**北陸地方で、美濃帯と舞鶴帯の間にあらに二疊紀の付加体。

使用図：利根村の自然 平川・栗原川の記録（水資源開発公団 栗原川ダム調査書 平成15年3月） p.20本州中央部の地質構造 p.21群馬県の地質図

## 参考文献：

新井房人・木崎高雄（1958）上越、地方谷川信南のグリーンタフ第三系について（その1）藤本治義教授還暦記念論文集 p.213-219

群馬県10万分の1地質図(1999) 群馬県地質図作成委員会 内外地図株式会社

HAYAMA,Y., KIZAKI,Y., KOBAYASHI,S., TOYA,K., and YAMASHITA,N. (1969) THE JOETSU METAMORPHIC BELT AND ITS BEARING ON THE JAPANESE ISLANDS 地質学論集4 p.61-82

上毛三山の成り立ち(2009) 上毛三山 安中市ふるさと学習館 p.1-3,63-71

片品川上流の自然(2006) 独立行政法人 水資源機構 戸倉ダム建設所 p.1-151

木村達明(1952) 岩室巣層の地質学的研究(1) (付) 岩室巣周辺の一般地質(地質学雑誌58 p.457-468

前田四郎 (1962) 群馬・新潟県境の結晶片岩について(演説) 地質学雑誌68 p.407

久保誠二(2006)川場村の温泉地質 学術調査研究調査報告 p.1-19

大森昌衛他 (1986) 日本の地質3 関東地方 共立出版株式会社 p.1-336

須藤定久(1976) 群馬県片品地域の地質 地質学論集13 p.229-240

利根村の自然(2003) 平川・栗原川の記録 水資源開発公団 栗原川ダム調査所 p.1-87

山下 昇(1995) フォッサマグナ 東海大学出版社 p.1-310

吉村尚久・市橋拡一 (1966) 群馬県水上町に分布する栗沢層(新第三系)中の変成岩類 新潟大学理学部地質教室研究報告1 p.97-104

## 第2項 赤城火山形成史とその地下構造

本稿では、上武道路建設に先行して発掘調査された前橋地区での遺跡から出土した結晶片岩礫について論じることとする。ここでは、結晶片岩礫を産出する全ての地点が赤城山麓西斜面～南斜面に限定されており、赤城火山噴出物と緊密な関係にあると見られている(第249図)。そこで、赤城火山を理解するために、その誕生から現在までの活動史を概説する。次に、火山体の基盤が誕生直前にどのような形状で当時の地表部に露出していたかを野外こと実やボーリングデータなどから検討し、火山誕生直前の古地形を復元する。その一方では、赤城火山噴出物中に含まれる基盤礫が具体的に記載された研究論文や報告書の文献学的調査も行った。

## (1) 赤城火山の形成史

赤城火山は、守屋(1993)によると中期更新世の約50万年前に活動を開始し、中心噴火を繰り返し2500mほどの円錐火山体に成長した。それ以降、火山体の浸食、崩壊、陥没を繰り返し、約3ないし4万年ほど前に、山頂カルデラ内に地蔵岳や小沼の中央火口丘を形成した。2万数千年前にも噴火したとする記載がある(佐藤、2002)。いずれにしても、2万年以前に火山活動を休止したと考えられる。

赤城火山の形成史は守屋(1968)により構築され、その後、守屋自身(1983, 1986, 1993)により修正等も加えられてきている。その間、またはそれ以降、Koga (1984)、竹本(1998, 1999)、群馬県企業局(1999)、中島・中村(2009)などによって一部変更ないし修正を加えた火山体形成史も発表されている。

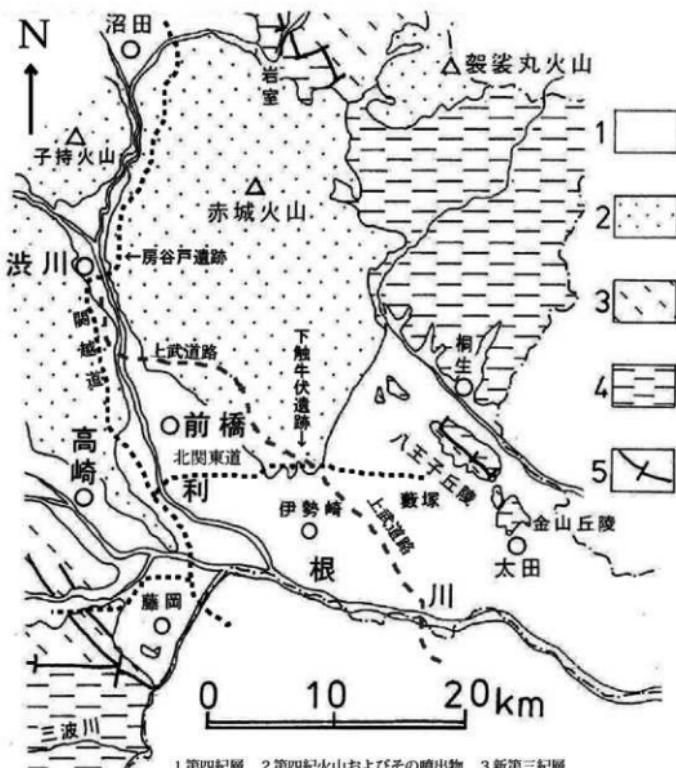
## (2) 火山誕生前の古地形の復元と基盤岩類の地下分布

赤城火山の直接の基盤岩は、山頂域を中心にして山麓に至る広範囲で数100m以上の厚さの火山噴出物に覆われている。このため、赤城火山形成の直前に地表部に露出していた基盤を、火山体内で直接観察できる地点は、その分布標高が高いとされる山頂域より東側に限定されている。たとえば、柏川上流の標高800m付近の右岸で足尾帯のチャート岩塊(群馬県企業局1999; 矢島祐介・野村哲2009)、砂川上流域の標高1300m付近に分布する南郷凝灰角礫岩(守屋1968)などである。ところで、1980年代後半以降になると、群馬県、各市町村、企業・個人などによる温泉掘削が盛んになり、赤城山の火口および周辺の山麓域でも掘削によるボーリングコアや資料から基盤の情報が直接得られるようになってきた。

またとえば、渋川市北橘町真壁(中村2005)、前橋市荻窪町・富士見町石井など。

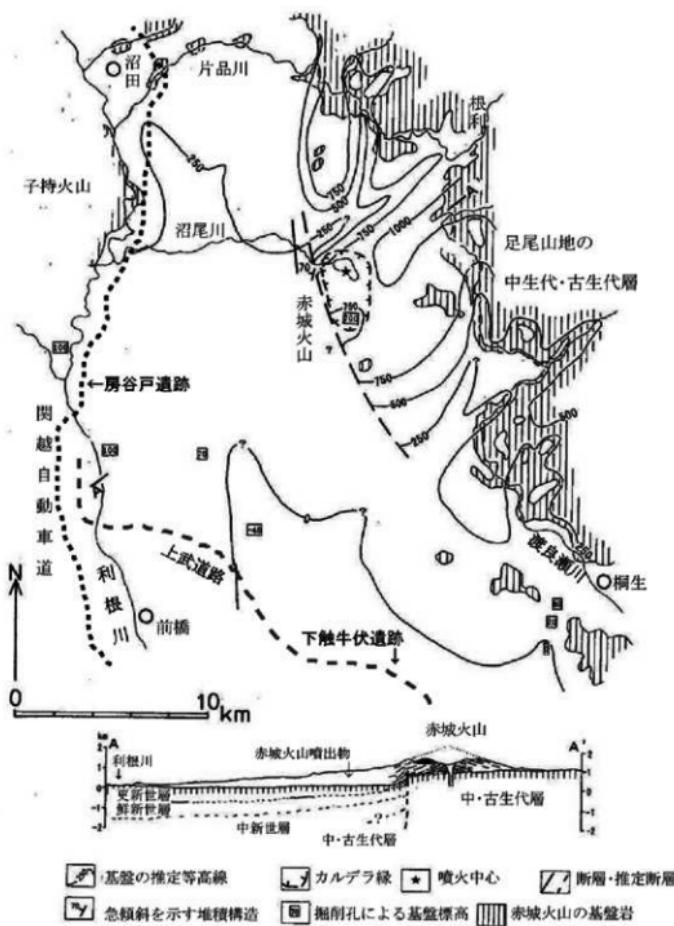
上記の論文・報告書やボーリング資料などから赤城火山活動直前の古地形を復元したのが第250図である。この図から、噴火中心域には何本もの平行する断層が当時の地表に出現していて、これらの断層を境にして相対的に西側が次々と沈降し、それらの落差を合計すると1000m以上となっていたことがわかる。また、当時の古地形高度から判断して、現在は山腹～山麓となっている赤城山の西側には、古利根川や古片品川の流路が存在していたことになる(第251図)。

第250図の地質断面図に示したように、赤城山の西麓では約100mの、山頂直下の断層の西側では1000m以上の火山噴出物が堆積している。赤城山の西麓に位置する房谷戸遺跡の下には約100mの、南麓に位置する下触牛伏遺跡の下には数十m以上の火山噴出物等が堆積していることも読み取れる。これら火山噴出物等の下に、前述した古河川の円錐や足尾帯の基盤岩類は分布している。ところで、地下数km以深の高圧条件下のものと形成される結晶片岩類は、地質断面図に示される足尾帯の中・古生代層の基盤岩類よりも、さらに深い場所に存在していたことになるはずである。仮にマグマ活動に関連して結晶片岩類が地表にいたらされて発見されるときには、その地表面からは足尾帯の中・古生代層の礫が確率的に多数発見されるはずである。実際はどうであろうか、次項で記述する。



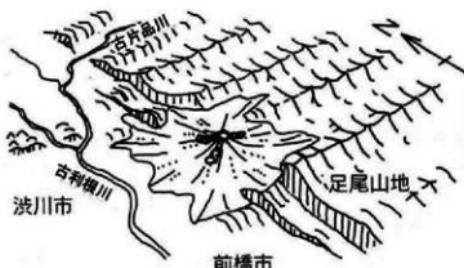
第249図 赤城火山周辺域の地質概図

群馬県10万分の1地質図(群馬県地質図作成委員会1999)より作成



第250図 赤城火山直下の基盤面等高線と地質断面図

中村庄八 (2004) を修正し作成



第251図 赤城火山発生直後の復元鳥瞰図

中島・中村（2009）の一部を使用

## (3)まとめ

数多くの公表論文・報告書(本報では文献は省略)の中で、次の2例が基盤礫を記載している。

守屋(1968)は、赤城のカルデラ壁の内側で、山頂域から東麓に分布する鹿沼降下鉱石層(Ag-KP, 約4.5万年前)のほぼ直上に約3mの厚さの水沼石質降下火碎岩層が重なり、この構成礫に泥岩やチャートの数~5cm大の角礫を含むと記載している。これらの異質礫は、山頂域で発生した水蒸気爆発のときに地下深部の足尾帯からもたらされたとしている。竹本(1998, 1999)は、渡良瀬川に近い地域で梨木岩屑なだれ堆積物(約22万年前)中にホルンフェルスや花こう岩の円礫を記載している。これらの円礫は赤城火山活動前に堆積した渡良瀬川の段丘礫や河床礫が流下中の梨木岩屑なだれ堆積物に取り込まれた異質礫としている。

なお、赤城火山に関する文献中に結晶片岩礫の記載は皆無である。筆者らも結晶片岩礫の存在を知り得ていない。唯一、赤城山の小沼付近で赤城火山噴出物中に結晶片岩礫を確認したという久保誠二氏の私信があるが、礫そのものが採集されておらず、その後の検証もなされていない。前項の「日本列島中央部および群馬の地帯構造」で記述されているように、赤城山の北方、沼田市垂坂付近では上越帯の蛇紋岩メランジェ中に結晶片岩塊が取り込まれている。地質学的には、地帯構造の配列分布や古片品川の河床礫由来を考慮すると、上越帯の結晶片岩塊の一部が赤城火山の基盤として分布する可能性を否定できない。しかし、三波川結晶片岩が地帯構造を異にする内帯から、また、赤城火山形成以前の河川流路に逆行して上流域から運搬されてくることは、群馬県全域の地帯構造の形成史から考えても不可能である。

## 参考文献

- 群馬県地質図作成委員会(1999)群馬県10万分の1地質図解説書、新井房大監修、内外地図、114p.
- 群馬県企業局(1999)赤城山頂カルデラ内南縁の地質並びに温泉調査、62p.
- Koga, S. (1984) Geology and petrology of Akagi Volcano, Gunma Prefecture, Japan. Sci. Rep., Inst. Geosci., Univ. Tsukuba, Sec. B, 5, 1-67.
- 久保誠二(2006)片品川上流の自然―地形・地質、水資源開発機構戸倉ダム建設所、22-63.
- 水資源協会(2003)利根川の自然―ひら川・栗原川流域の記録、水資源開発公團栗原川ダム調査所、群馬県自然保護連絡会監修。
- 守屋以智雄(1993)赤城火山の生い立ちと将来の噴火、新井房大編「火山灰考古学」、古今書院、173-193.
- 守屋以智雄(1986)赤城火山、日本の地質3「関東地方」共立出版、225-227.
- 守屋以智雄(1983)日本の火山地形、東京大学出版社会、135p.
- 守屋以智雄(1968)赤城火山の地形及び地質、前橋市林局、65p.
- 中島啓治・中村庄八(2009)上毛三山の成りたち、安中市ふるさと学習館、16-17.
- 中村庄八(2005)群馬県吾妻川流域に分布する没食された火山の内部と基盤構造、地球科学、59, 5-24.
- 佐藤成人(2002)最後の赤城山噴火、群馬評論、90, 38.
- 竹本弘幸(1999)北関東西北部地域における第四紀古環境変遷と火山活動、茨城大学大学院学位論文、130p.
- 竹本弘幸(1998)赤城火山、関東・甲信越の火山I、築地書館、52-73.
- 矢島清介・野村哲(2000)鶴川の砂礫、ぐんまの大地、上毛新聞社、16-17.

### 第3項 旧石器時代遺跡にみいだされる結晶片岩礫の供給源

群馬県の赤城山南西麓には、旧石器時代遺跡が多く分布する。その遺跡には、明らかに旧石器人がつくった打痕のある石器とともに、手の加えられていない結晶片岩の礫が多く見いだされる。この結晶片岩は旧石器人が何かの意図でもたらされたものなのか、自然の営みの中で旧石器時代時代の遺跡に存在するのか。その礫の岩石学的な特徴から、その結晶片岩礫の供給地はどこなのかを考察する。

#### —結晶片岩礫の供給源はどこか？—

結晶片岩礫の供給地については諸説あるが、ここでは、有力な以下の3点を取り上げて考察する。

- ①利根川上流に分布する上越帯の結晶片岩
- ②赤城山の地下の基盤岩類
- ③関東山地北縁の三波川帯結晶片岩

#### ①利根川上流に分布する上越帯の結晶片岩

上越帯は端山ほか(1969英)で提唱された変成帯で、上越地方に点在する結晶片岩などの存在から、藍閃石型の広域変成帯が存在したと推定した。上越帯の結晶片岩は谷川岳トマの耳付近および戸倉に小分布がある。また水上付近の新生代新第三系の粟沢礫岩の礫としてみられる。のちに茅原・小松(1982)などによって詳しく研究された。これらの研究によつて、上越帯は西南日本の飛騨外縁帯の延長と考えられ、結晶片岩や変ハニレイ岩などを含む蛇紋岩の構造性メランジであることがわかつってきた。

上越帯の結晶片岩は蛇紋岩メランジに含まれる構造性岩塊のため、たいへん圧碎や変形をうけている。今回、旧石器時代遺跡に見いだされる結晶片岩と比較するために、谷川岳トマの耳の結晶片岩の薄片を作成して検討した。この薄片をみると全体に圧碎構造が著しく、結晶が粉碎されていたり、結晶が壊れて角張っていたりすることが観察される。また、旧石器時代遺跡に見られる結晶片岩より変成度がやや低い。曹長石点紋は存在するものの、黒雲母はまったく見つからず石墨と白雲母主体の鉱物組み合わせの結晶片岩である。この点で、谷川岳のものは千枚岩に近い。上越帯の変成度の高い変成岩では熱の影響を受けた片状ホルンフェルスであるが、旧石器時代遺跡の礫にはない。

利根川の上流から上越帯の結晶片岩が運ばれてとしても、赤城山の南西麓斜面に利根川からの河川が存在して堆積した可能性は、地形上から考えられない。また、旧石器時代遺跡での結晶片岩の出土状況は、河川堆積物の形態ではない。

したがって、上越帯の結晶片岩の可能性は低いと考えられる。

#### ②赤城山の地下の基盤岩類

火山は、時としてその山体の基盤岩をマグマに取り込んで、異質礫として火口から噴出することがあり、その火山地下の基盤岩の推定に役立てることができる。赤城火山のこういった火山活動の過程で、噴出した結晶片岩礫が赤城山南西麓に分布したとの考えがある。赤城火山の基盤岩中に結晶片岩はあるのだろうか。

#### 上越帯結晶片岩存在の可能性

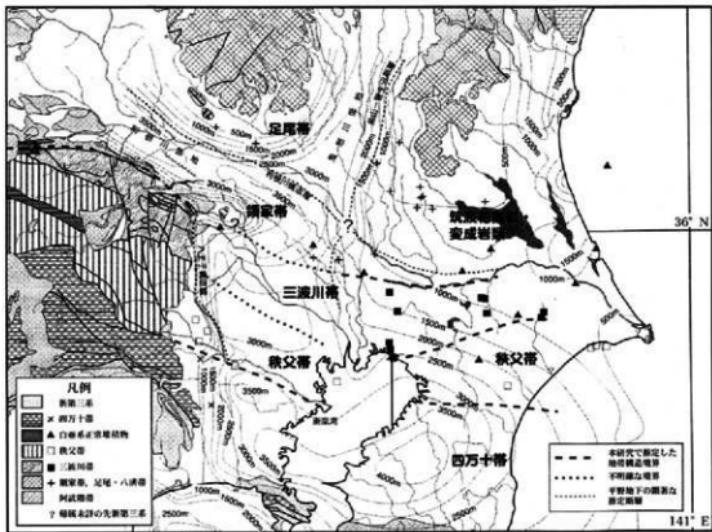
須藤定(1981)の地帯構造区分では、赤城山の北西半分は上越帯の範囲である。しかし、上記のように、たとえ上越帯に結晶片岩があったとしても、岩石学的特徴から旧石器時代遺跡の礫とは異なる。また、茅原・小松(1982)の地帯構造区分で赤城山は美濃一足尾帯で、古生代末から中生代ジュラ紀のいわゆる付加体堆積物で結晶片岩は存在しない。

最近では、ボーリングによる関東平野地下の新生界堆積盆地の研究が進むなか、ボーリングでその堆積盆地の基盤岩に

達したものがあり関東平野地下の地帯構造が明らかになってきている。林・笠原・木村(2006)は関東平野地下の先新第三系の基盤についての論文を公表した。それによると、坂川ほか(2004)の太田温泉ポーリングでは、地下600mからチャート粘板岩互層が確認されて足尾帶の岩石としている。また、鈴木・小村(1999)の館林観測ポーリングでは、地下576mで砂岩頁岩チャート互層および花崗岩が確認され、やはり足尾帶をしている。太田や館林の地下が足尾帶であったことから、林・笠原・木村(2006)は赤城山の地下も足尾帶と推定している。これらのことから、赤城山地下の基盤岩は足尾帶を構成する古生代末から中生代ジュラ紀のいわゆる付加体堆積物で、上越帯に所属する結晶片岩存在の可能性は低い。(第252図)

### 三波川帯結晶片岩存在の可能性

三波川帯は日本列島の地質構造の中で、中央構造線南の隣接する変成帶である。中央構造線の北側は領家帯の変成岩



第252図 ポーリングおよび物理探査データにより暫定的に推定された関東平野地下における先新第三系地帯構造区分

で、一般に高温低圧型の変成岩と花崗岩類からなり、三波川帯の低温高压型の変成岩との区別は容易である。

関東地方における中央構造線は、関東山地北縁に沿って群馬県下仁田町から埼玉県寄居付近から武藏丘陵山へて、南東方向へ関東平野に続く構造線である。関東山地北部には中央構造線の南に隣接して、三波川帯の結晶片岩や御荷鉢緑色岩類が分布している。また、その北側には断片的ではあるが、下仁田町付近の平滑花崗岩類や寄居町南西の小川町奈良梨付近には越畠花崗岩類や片麻岩などの領家帯の花崗岩や変成岩が分布する。したがって、これより北方の赤城山地下の基盤岩に、三波川帯の結晶片岩類が分布する可能性は低い。

### ③関東山地北縁の三波川帯結晶片岩

関東平野北縁の三波川帯には鍋川の支流である鍋川や神流川の支流である三波川が流れ、削られた三波川帯の結晶片

岩は礫として利根川に入る。このため、これらの河川が合流する高崎南部・玉村地区より下流の利根川の河原には、結晶片岩礫が見られる。

矢野・田切(1998)は、この関東山地北縁の三波川一鮎川地域の研究をおこなった。この研究は砂岩や泥岩起源の結晶片岩の石墨化度をもちいて変成分帯をおこない、北部の高変成度地域を黒雲母帶、中部の中変成度地域をザクロ石帶、南部の低変成度地域を緑泥石帶として変成分帯をおこなった。(第253図)

この論文に記載された結晶片岩と旧石器時代遺跡に見られる結晶片岩の顕微鏡観察を比較検討した。



第253図 Geological map of the Ayukawa-Sanbagawa area. S-s:Shibadaira synform.A-a:Ayukawa antiform.4

D-s:Dosojin synform.Sn-a:Sanbagawa antiform. 矢野・田切 1998のFig2を引用

旧石器時代遺跡に見られる結晶片岩は、そのほとんどが砂岩を源岩とする白雲母片岩である。矢野・田切(1998)によると、砂泥質片岩中の変成鉱物出現の特徴は、低变成度から高变成度になるにつれて、以下の4種類の鉱物組み合わせとしている。

#### 緑泥石+白雲母

緑泥石+白雲母+ザクロ石

緑泥石+白雲母+ザクロ石+黒雲母

緑泥石+白雲母+黒雲母

旧石器時代遺跡に見られる結晶片岩は、試料が少ないにもかかわらず、“緑泥石+白雲母+黒雲母”をのぞいてそのほか3種類の変成鉱物組み合わせが観察できる。赤城山南西麓の旧石器時代遺跡から出土した結晶片岩の変成鉱物組み合わせとの対応は、以下のようになる。

#### 緑泥石+白雲母

上泉唐ノ堀遺跡(JK52b 57M9-3)

#### 緑泥石+白雲母+ザクロ石

上泉唐ノ堀遺跡(JK52b 57H4-7, JK52b K1-10)

芳賀東部团地遺跡(JK57 385III12)

胸城遺跡(JK58 II 14)

#### 緑泥石+白雲母+ザクロ石+黒雲母

上泉武田遺跡(JK54 I-3, JK54 380III-7)

胸城遺跡(JK58 141II 61)

#### 緑泥石+白雲母+黒雲母

なし

このように、三波川-鮎川地域の三波川帯結晶片岩と赤城山南西麓の旧石器時代遺跡からの結晶片岩の変成鉱物組み合わせの対応が見られることから、少なくとも両者の結晶片岩は同様な変成作用をうけていると考えられる。したがって、隣接した地域ということを考慮すると、旧石器時代遺跡に見られる結晶片岩礫の供給地は、この関東山地北縁の三波川帯の結晶片岩が分布する地域の可能性が高い。

#### 引用文献

- Hayama, S., Kizaki, K., Kobayashi, S., Toya, K. & Yamashita, N. (1969) The Joetsu metamorphic belt and its bearing on the geologic structure of the Japanese Islands. *Mem. Geol. Soc. Japan.*, 4, 61-82.
- 茅原一也・小松正章(1982)飛騨外縁帯(特に青海連草原)及び上越帯に関する諸問題. 地質学論集, 21, 101-116.
- 須藤定久(1981)北関東とその周辺地域の地質構造に関する一試論. 地質学論集, 21, 207-222.
- 林広樹・笠原敬司・木村尚紀(2006)関東平野の地下に分布する先新第三系基盤岩類. 地質雑誌, 112, 2-13.
- 坂田幸洋・梅田浩司・鈴木元孝・梶原竜哉・内田洋平(2004)日本の坑井温度プロファイルデータベース. 地震2, 57, 63-67.
- 鈴木宏芳・小村健太朗(1999)関東地域の坑井データ資料集. 防災研研究資料, 191, 1-80.
- 矢野徳也・田切美智雄(1998)関東山地三波川-鮎川地域, 三波川変成帯の地質構造と温度構造. 地質雑誌, 104, 442-453.

## 付記 ◆◆群馬県旧石器時代遺跡に発見された変成岩礫◆◆

旧石器時代遺跡から見いだされた結晶片岩礫の岩石記載

### —結晶片岩礫試料—

#### 上泉唐ノ堀遺跡

①試料番号：JK52b、57H4-7

岩石名：曹長石点紋 ザクロ石白雲母片岩

源 岩：砂岩

#### 岩石記載

斑状変晶は長径2mmほどの曹長石で、塵状の石墨が線状に包有され波打つことがある。その他の包有物は、0.03mm径のザクロ石、アーバー状の石英および淡緑色の電気石がみられる。

基質は石英がモザイク状となり、その粒間に白雲母とザクロ石が多く観察される。白雲母は無色から淡茶褐色をして、定向配列をしたレピドプラスティック組織を示す。ザクロ石は径が0.1mm前後で、白雲母結晶の並びに沿って存在する。その他の鉱物として、少量の緑泥石、アバタイト、電気石がみられる。

②試料番号：JK52b、K1-10

岩石名：曹長石点紋 ザクロ石白雲母石英片岩

源 岩：チャートや石英質砂岩などの珪質岩

#### 岩石記載

曹長石の点紋はあるが、圧倒的に石英が多くモザイク状の集合体となっている。モザイク石英の径は最大0.3mmで、波動消光することが多い。曹長石は径1.0mmほどで、線状の塵状石墨やザクロ石およびアーバー状の石英を包有する。白雲母は直線上に石英の粒間に細く連続し、そのうち30%ほどの結晶は緑泥石に変質している。基質のザクロ石は径が最大0.3mmで、白雲母結晶の並びに沿って存在するが、全体の数は少ない。このザクロ石の一部には、累帯構造の観察ができるものがある。一部に極小さく長径が0.05mmの紅レン石が存在する。

③試料番号：JK52b、57H9-3

岩石名：千枚岩（または 弱変成の無点紋白雲母片岩）

源 岩：砂岩シルト岩の細互層

#### 岩石記載

石英のモザイク状の集合体で、粗粒部(石英径0.3～0.4mm)と細粒部(石英径0.1mm以下)がある。粗粒部の源岩は砂岩で、石英の粒間に白雲母が見られることがある。一部には、源岩の砂粒組織の残っているところがある。細粒部の源岩は泥岩で、石英粒間を白雲母が直線上に配列している。その他の鉱物として、少量の緑泥石や細粒白雲母の並びに沿った塵状石墨がみられる。

#### 上泉武田遺跡

④試料番号：JK54、1サン7

岩石名：曹長石点紋 黒雲母ザクロ石白雲母片岩

源 岩：シルト岩

### 岩石記載

斑状変晶の曹長石は、径が0.6mm前後で大きさがそろい、直線上に配列した塵状石墨やアーマー状石英を包有している。ザクロ石を包有する曹長石は少ないが、包有されるザクロ石は径が0.1mmで大きい。基質部のモザイク状石英の粒間にモザクロ石が存在するが、径は0.01mm以下でたいへん小さい。白雲母は石英粒間に定向配列するレピドプラスティック組織で、ところどころに束状に平行連晶している。白雲母結晶の一部が変質し、茶褐色となっている部分があり赤鉄鉱が見られる。少量ではあるが黒雲母が観察され、淡褐色から茶褐色の多色性がある。その他の鉱物として、淡緑色で自形の電気石、粒間や白雲母を置換する緑泥石、柱状のアバタイトが少量みられる。

#### ⑤試料番号：JK54、Ⅲ 7

岩石名：黒雲母ザクロ石白雲母石英片岩

源 岩：石英質砂岩またはチャート

### 岩石記載

90%以上が石英で、モザイク状のグラノプラスティック組織を示す。石英結晶の径は0.15mmほどである。石英結晶粒間に、白雲母、黒雲母、曹長石、ザクロ石が存在する。雲母類は散在する場合と線状に配列する場合があり、線状のところには曹長石やザクロ石が多く観察できる。曹長石は少量含まれ、最大径が0.7mm前後で塵状石墨やザクロ石が包有されている。白雲母の多くが変質し、緑泥石に置換されている。少量で径0.02mmの電気石が少量みられる。

#### ⑥試料番号：JK54、Ⅲ 12

岩石名：曹長石点紋 ザクロ石白雲母片岩

源 岩：砂岩

### 岩石記載

片状斑晶の曹長石は径が1.5mmとたいへん大きく、量的にも多い。この曹長石には線状の塵状石墨が多く包有しているため、点紋の曹長石は肉眼的に黒く見える。自形のザクロ石やアーマー状の石英を包有する。一部には、電気石も包有される。基質の石英はモザイク状であるが、0.2mmとやや小さく、その粒間に束状になった白雲母が多量に存在する。定向配列してレピドプラスティック組織を示し、石英粒子を白雲母の束が取り巻いていることがある。その他では、径0.2mmでやや大きなザクロ石や電気石、白雲母を置換する緑泥石が見られる。

### 胴城遺跡

#### ⑦試料番号：JK58、Ⅱ 14

岩石名：白雲母ザクロ石石英片岩

源 岩：石英質砂岩

### 岩石記載

石英結晶がたいへん多く、モザイク状になる。その粒間を白雲母。ザクロ石、曹長石の集合体が線状に連続する。白雲母はやや少なく、70%近くが緑泥石に変質している。ザクロ石は径が0.02mmと小さいが、線状に配列した白雲母に沿う部分に集中して存在する。曹長石はごく少量であるが、小さなザクロ石や白雲母を包有し、アーマー状の石英も見られる。一部に、赤鉄鉱が観察される。

#### ⑧試料番号：JK58、Ⅱ 55

岩石名：緑レン石アクチノ閃石片岩（緑泥片岩）

源 岩：玄武岩質凝灰岩

## 岩石記載

全体に細粒で、アクチノ閃石および緑レン石、曹長石、石英などからなる。アクチノ閃石は長径が0.3mmで纖維状、束状および扇状の集合体を形成する。緑泥石に変質した結晶は、褐緑色の多色性をもつ。緑レン石は異常干渉色を示すユウレン石とやや干渉色の高い斜ユウレン石があり、中心がユウレン石で周辺が斜ユウレン石に累帯している結晶も見られる。石英や曹長石は、アクチノ閃石と緑レン石の粒間に埋めている。その他では、少量に白雲母がアクチノ閃石集合体の間に存在する。また、アクチノ閃石の結晶粒間に緑泥石が見られる。

⑨試料番号：JK58、II 61

岩石名：黒雲母白雲母ザクロ石石英片岩

源 岩：チャート

## 岩石記載

石英とザクロ石からなる岩石で、石英のモザイク結晶中にザクロ石の密集する組織を持つ。ザクロ石の帶状部分は肉眼的にもうすいピンク色が確認できる。鏡下では径0.1mmほどの自形から半自形の結晶が、多量に集中して帶を形成している。ザクロ石はこの帶以外にはたいへん少なく、散在する程度である。白雲母はザクロ石の帶状部に単結晶が散在し、そのほとんどが緑泥石に置換している。ザクロ石の帶状部境界の白雲母は線状に並び、一部に黒雲母と平行晶すらものが観察される。

---

## 一比較試料一

谷川岳（上越変成帯の結晶片岩）

⑩試料番号：800622

岩石名：曹長石点紋 白雲母片岩

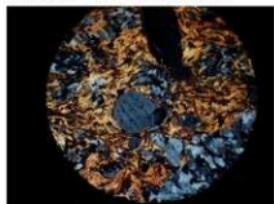
源 岩：シルト岩

## 岩石記載

全体に結晶が壊された圧碎組織を示す。

斑状変晶の曹長石は長径が1.5mmで、線状の塵状石墨、無色の電気石、小さな白雲母を包有する。一部の曹長石は変質し、石英、緑レン石（ゾイサイト）、緑泥石、白雲母の集合体に分解している。基質の石英は径の大きさがまちまちで、しかも角張った長四角形をして、接触部では結晶が破壊されている。破壊された結晶間は、緑泥石や小さな白雲母が埋めている。緑レン石は多く観察され、異常干渉色を示すユウレン石である。白雲母は結晶粒間に並び、レピドプラスティック組織を示す。

①上泉唐ノ堀遺跡 JK52b 57H4-7 曹長石点紋 ザクロ石白雲母片岩



- 1. 開放ニコル。視野直径 5 mm

- 2. 直交ニコル

- 3. 曹長石包有物、  
開放ニコル。視野直径 2 mm

②上泉唐ノ堀遺跡 JK52b K1-10 曹長石点紋 ザクロ石白雲母片岩

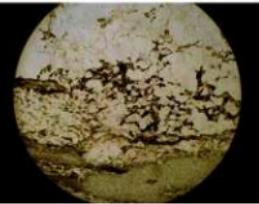
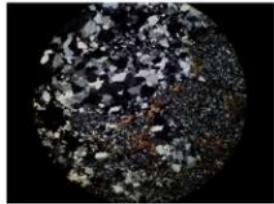
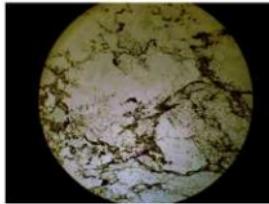


- 1. 開放ニコル。視野直径 5 mm

- 2. 直交ニコル

- 3. ザクロ石と紅廉石、  
開放ニコル。視野直径 0.5mm

③上泉唐ノ堀遺跡 JK52b 57M9-3 千枚岩(または弱変成の無点紋白雲母片岩)

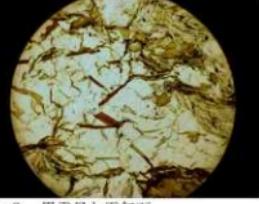
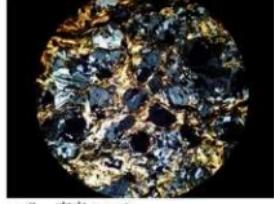


- 1. 開放ニコル。視野直径 5 mm

- 2. 直交ニコル

- 3. 残存砂岩粒子と源岩組織、  
開放ニコル。視野直径 2 mm

④上泉武田遺跡 JK52 I-3 曹長石点紋 黒雲母ザクロ石白雲母片岩

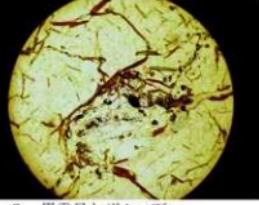
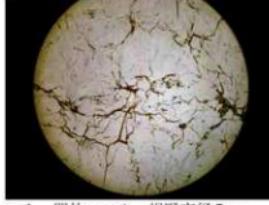


- 1. 開放ニコル。視野直径 5 mm

- 2. 直交ニコル

- 3. 黒雲母と電気石、  
開放ニコル。視野直径 2 mm

⑤上泉武田遺跡 JK54-380 III 7 黒雲母ザクロ石白雲母石英片岩



- 1. 開放ニコル。視野直径 5 mm

- 2. 直交ニコル

- 3. 黒雲母とザクロ石、  
開放ニコル。視野直径 2 mm

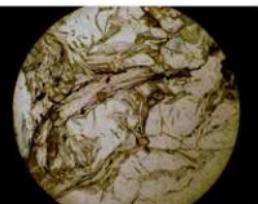
⑥芳賀東部団地遺跡 JK57 385 III 12 曹長石点紋 ザクロ石白雲母片岩



- 1. 開放ニコル、視野直径 5 mm



- 2. 直交ニコル



3. 電気石とザクロ石、  
開放ニコル、視野直径 2 mm

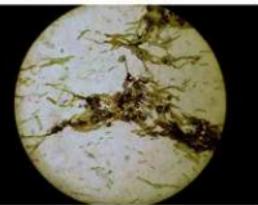
⑦桐城遺跡 JK58 II 14 白雲母ザクロ石片岩



- 1. 開放ニコル、視野直径 5 mm

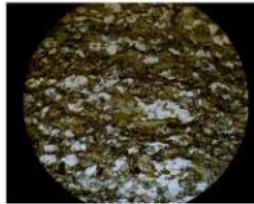


- 2. 直交ニコル

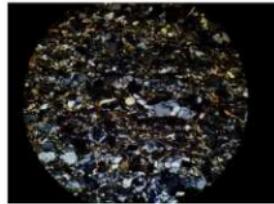


- 3. 白雲母とザクロ石と曹長石、  
開放ニコル、視野直径 2 mm

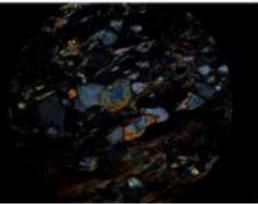
⑧桐城遺跡 JK58 II 55 緑レン石アクチノ閃石片岩(緑泥片岩)



- 1. 開放ニコル、視野直径 2 mm

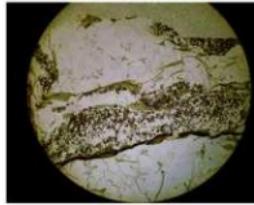


- 2. 直交ニコル



- 3. 緑簾石の黒帯組織、  
直交ニコル、視野直径 0.5 mm

⑨桐城遺跡 JK58 141 II 61 黒雲母白雲母ザクロ石片岩



- 1. 開放ニコル、視野直径 5 mm



- 2. 直交ニコル



- 3. 黒雲母とザクロ石、  
開放ニコル、視野直径 2 mm

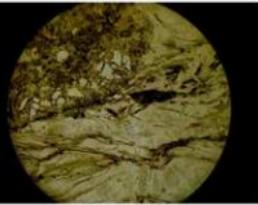
⑩谷川岳 (参考資料) 800622 曹長石点紋 白雲母片岩



- 1. 開放ニコル、視野直径 5 mm



- 2. 直交ニコル



- 3. 破壊された結晶、  
開放ニコル、視野直径 2 mm

# 写 真 図 版



芳賀東部団地遺跡現況（東から棲名山を臨む。平成 23 年 12 月撮影）



1 遺跡群遠景西側（南から）



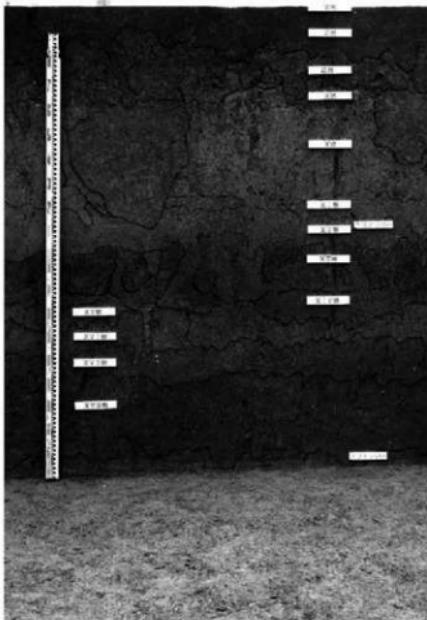
1 遺跡群遠景（西から）



1 遺跡群遠景東側（南から）



2 遺跡群遠景（東から）



1 南壁セクション（北から）



2 北壁セクション（南西から）



3 遺跡遠景（南東から）



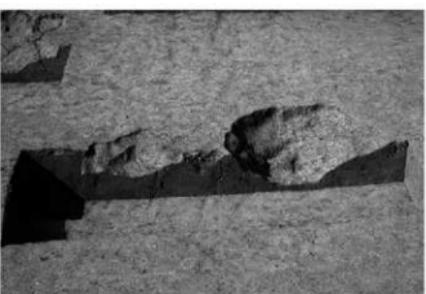
1 1号落ち込みセクション（東から）



2 1号落ち込み調査状況（東から）



3 2号落ち込みセクション（東から）



4 1号・2号落ち込み調査状況（東から）



5 3号落ち込みセクション（東から）



6 3号落ち込み調査状況（東から）



7 4号落ち込み全景（西から）



8 第1文化層遺物出土状況（北から）



1 遺物出土状況（南から）



2 遺物出土状況（西から）



3 遺物出土状況（南東から）



4 遺物出土状況（東から）



5 遺物出土状況（北東から）



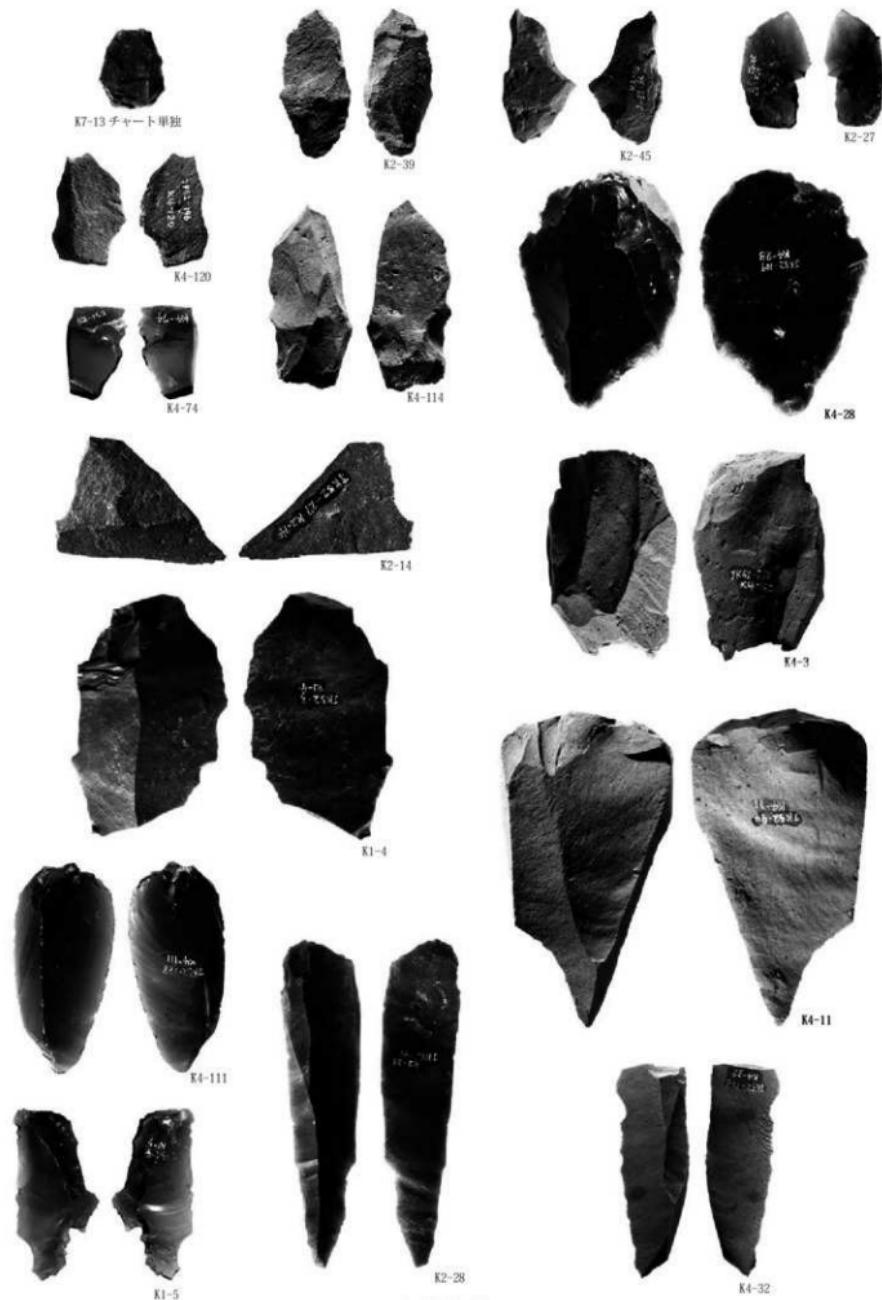
6 遺物出土状況（東から）



7 局部磨製石斧出土状況（北から）



8 結晶片岩類出土状況（北から）



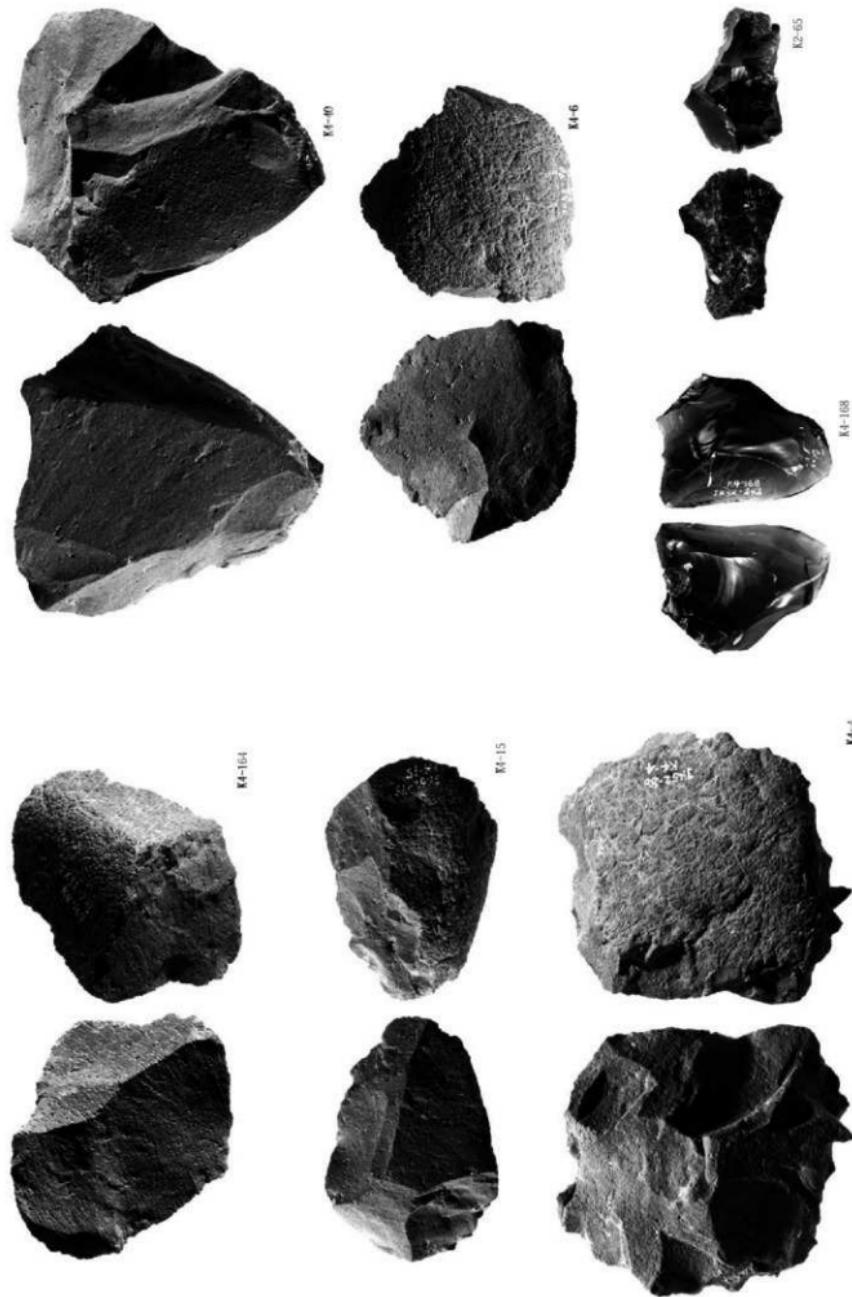
出土遺物（1）

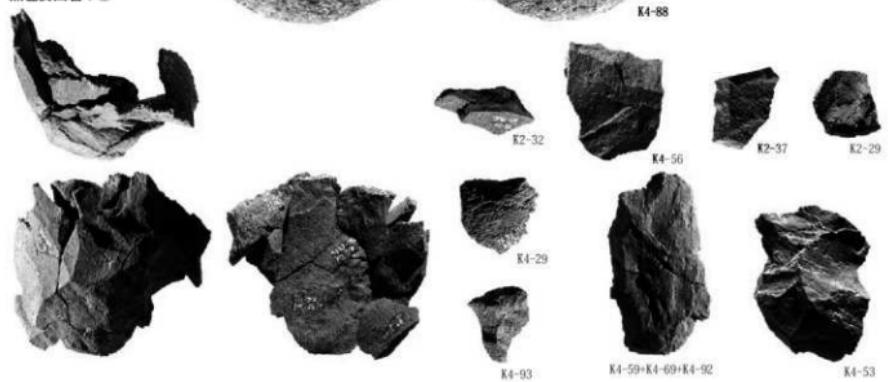
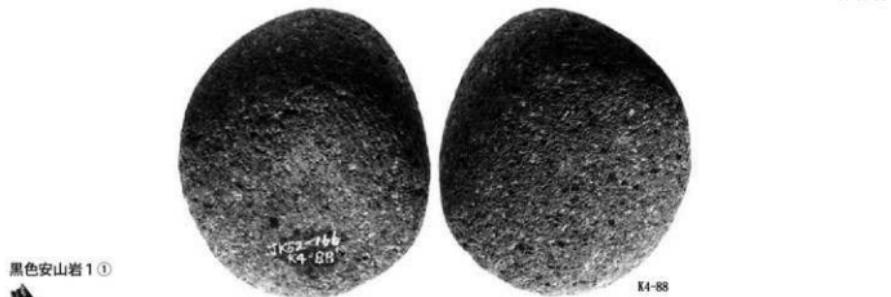


K1-1+K1-2



K1-90





出土遺物 (4)

黑色安山岩 ③



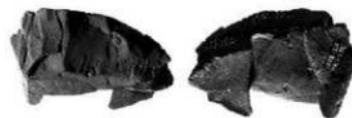
黑色安山岩 ④



黑色安山岩 ⑤



黑色安山岩 ⑥



黑色安山岩 ⑦



黑色安山岩 ⑧



黑色安山岩 ⑨



黑色安山岩 ⑩



黑色安山岩 ⑪

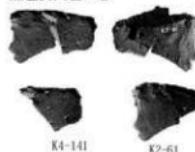


黑色安山岩 ⑫



出土遺物 (5)

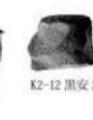
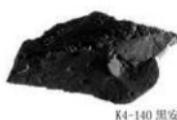
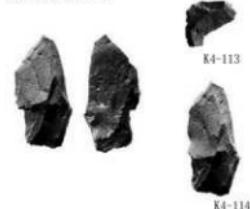
黒色安山岩 2 ⑧



黒色安山岩 3 ①



黒色安山岩 4 ①



黒曜石 1 ①



黒曜石 2 ①



黒曜石 1 ②



デイサイト 1 ①





1 試掘トレンチG-4 南壁セクション（北から）



2 2号落ち込み（北から）



3 1号落ち込み炭化物検出状況（北から）



4 1号落ち込み（北から）



5 拡張3区第2文化層遺物出土状況（北西から）



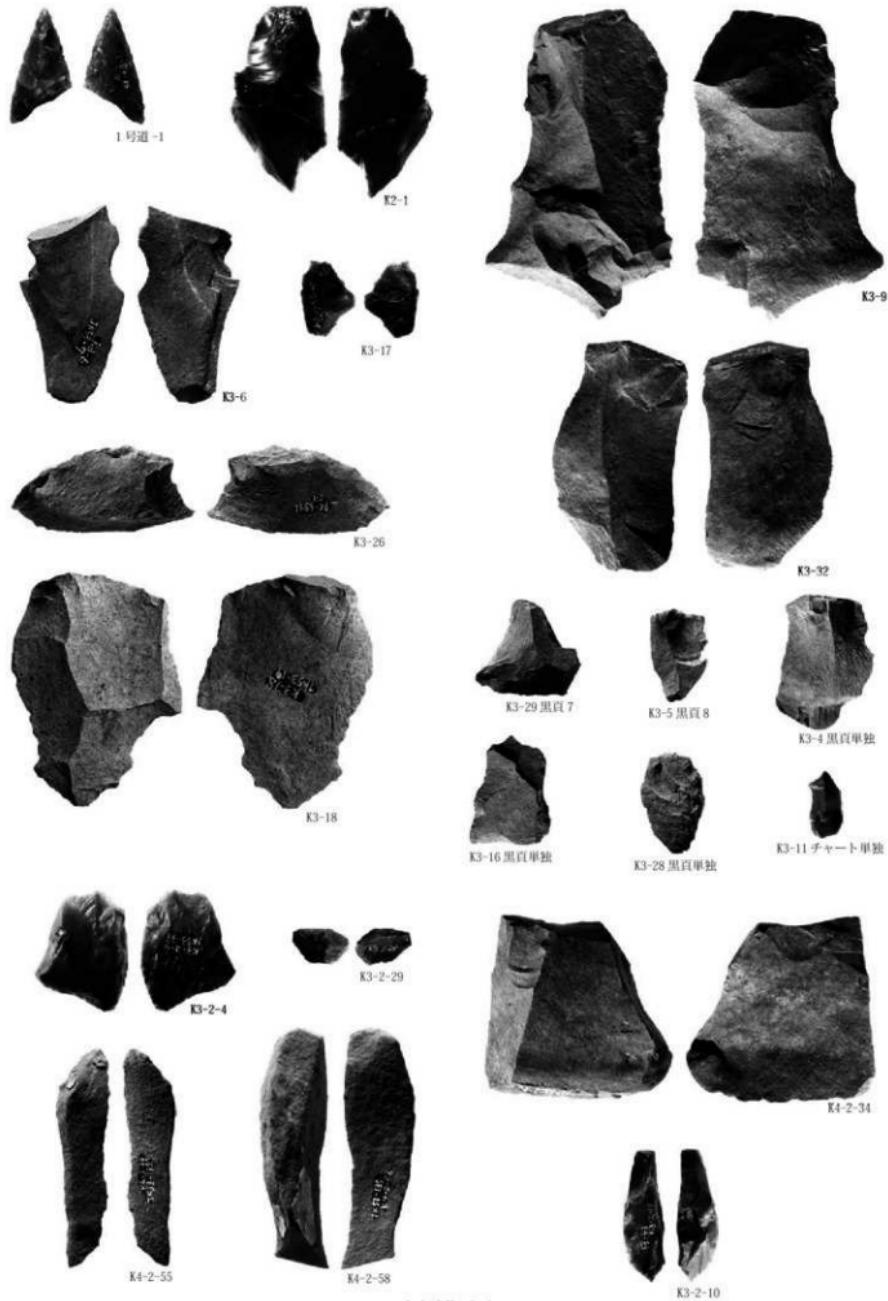
6 拡張3区第3文化層遺物出土状況（北西から）



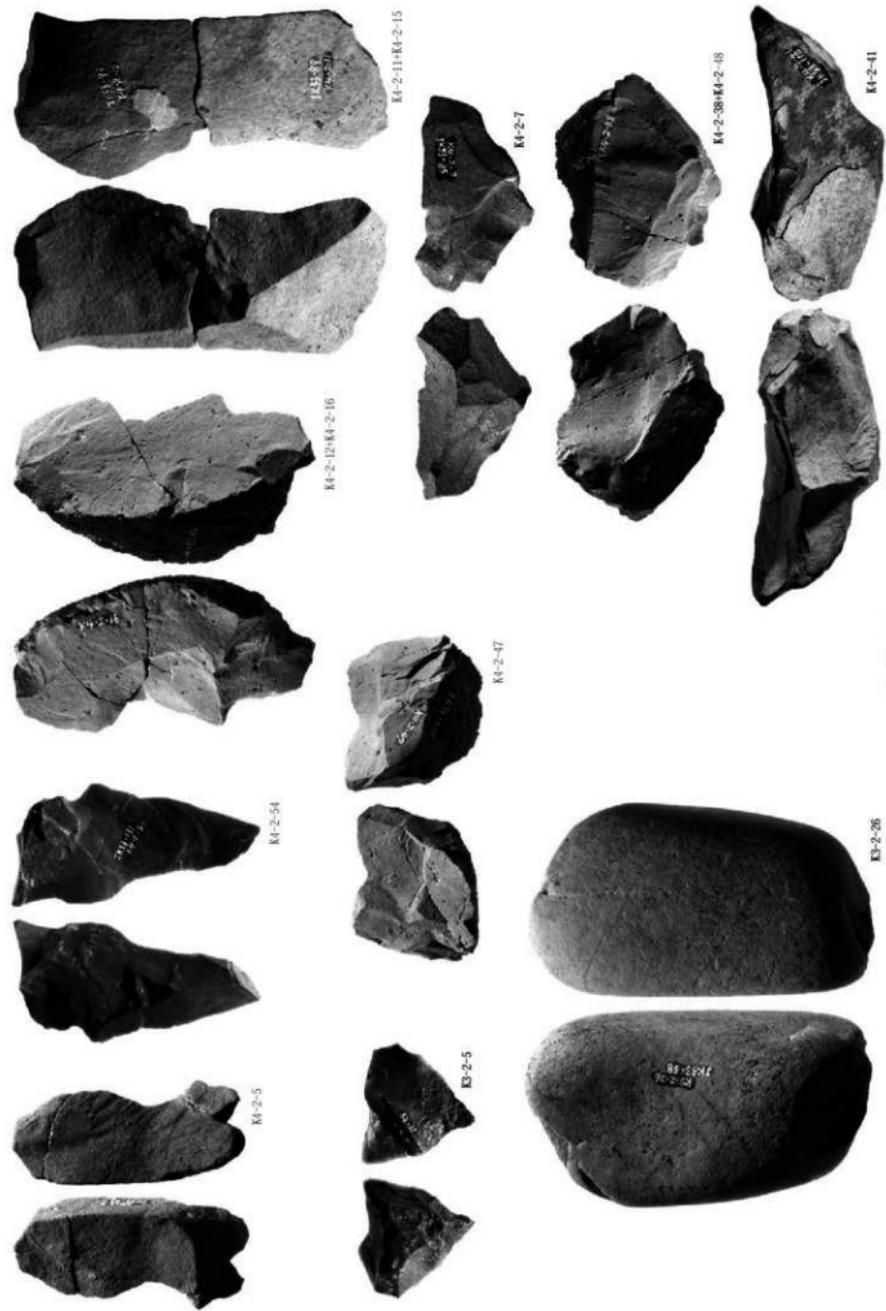
7 78-T-17遺物出土状況（東から）



8 拡張4区遺物出土状況（南から）

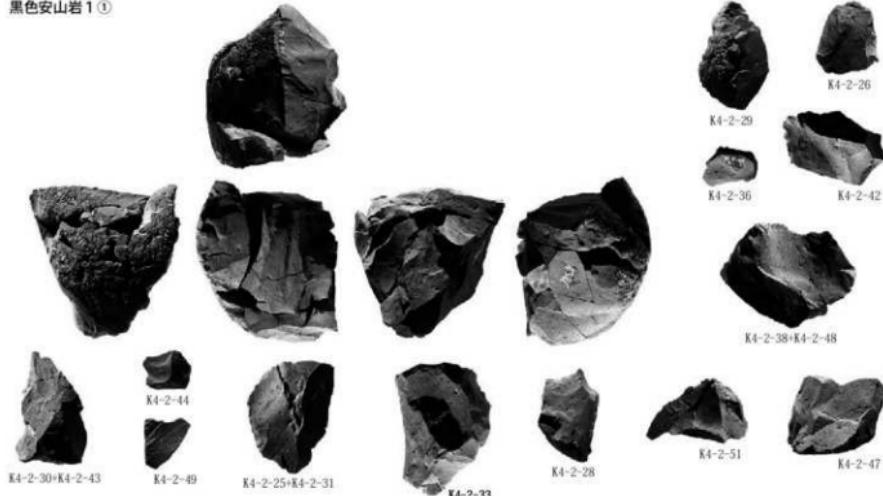


出土遺物（1）

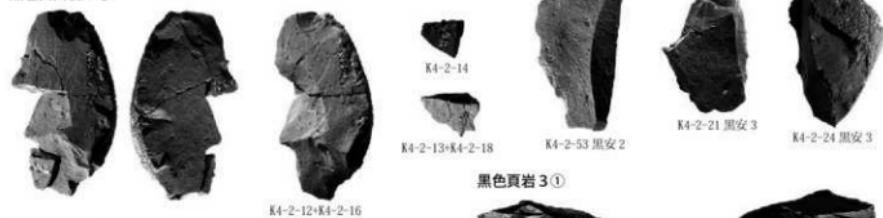


出土遺物（2）

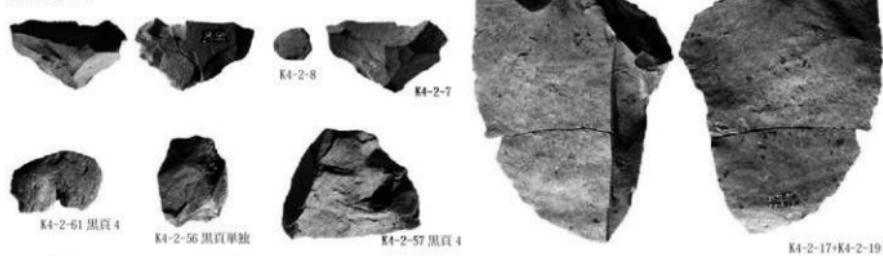
## 黒色安山岩 ①



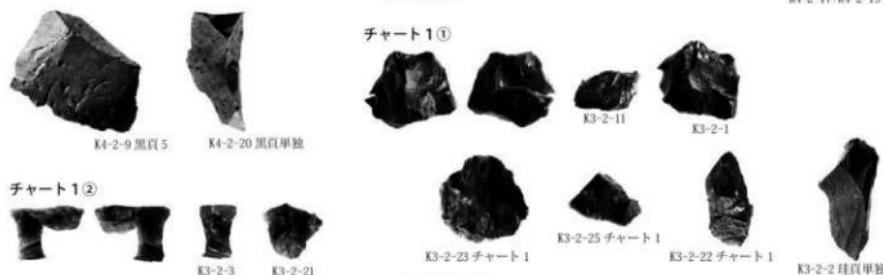
## 黒色安山岩 ②



## 黒色頁岩 ①



## チャート ①



## チャート ②



出土遺物 (3)



1 遺跡遠景（南から）



2 遺跡遠景（南東から）



1 2区西壁セクション（東から）



2 第2文化層遺物出土状況（南から）



3 第2文化層遺物出土状況（西から）



4 第3文化層遺物出土状況（北西から）



5 第3文化層遺物出土状況（北西から）



1 試掘トレンチ全景（北西から）



2 第3文化層G19遺物出土状況（南から）



3 第3文化層H1遺物出土状況（南から）



4 第3文化層I1遺物出土状況（南から）



5 第3文化層遺物出土状況（南から）



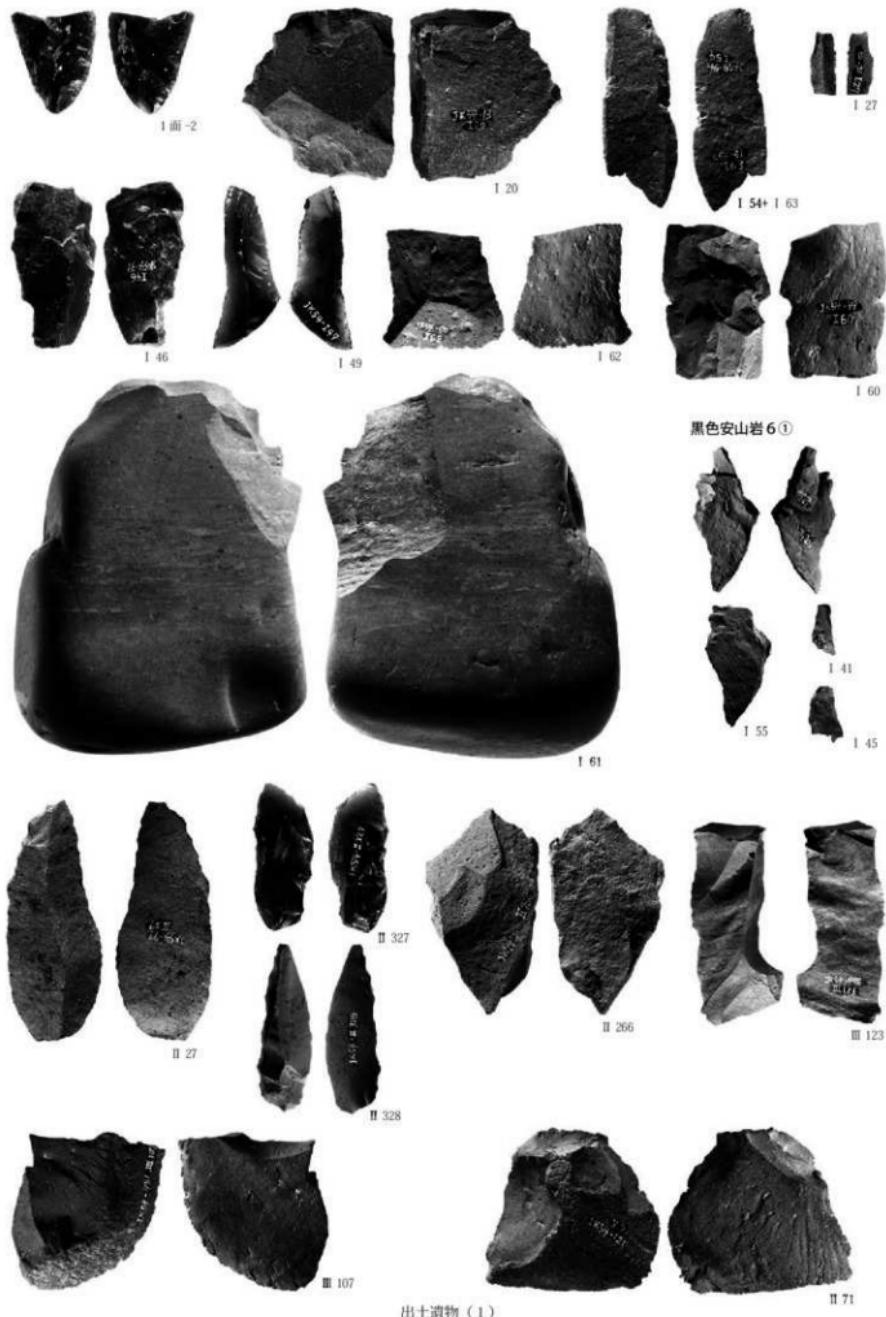
6 第3文化層遺物出土状況（南西から）



7 第3文化層遺物出土状況（南から）



8 作業風景（南から）

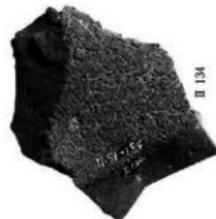




出土遺物（2）



出土遺物（3）



II 108



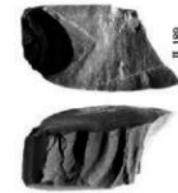
II 215



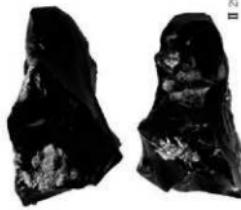
II 298



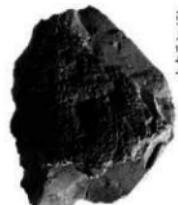
II 211



II 189



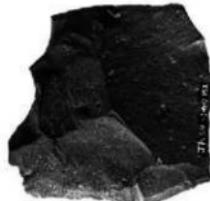
II 3



II 151



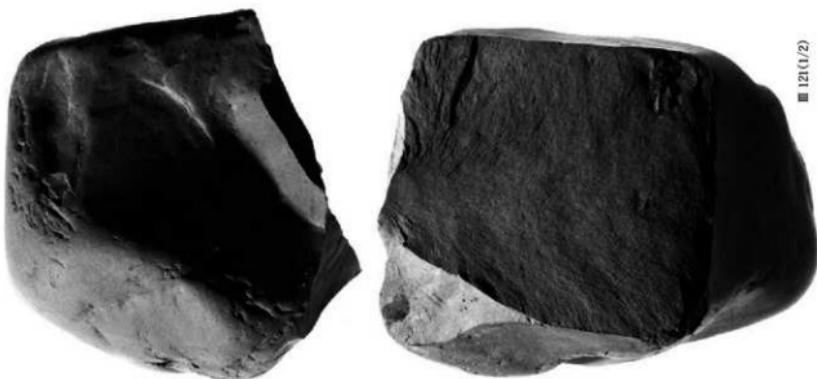
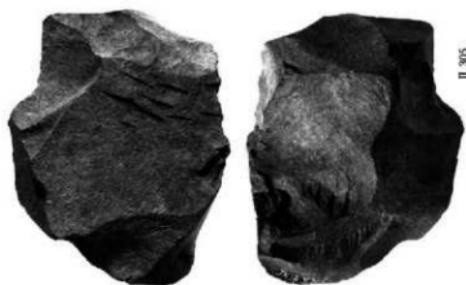
II 152



II 150



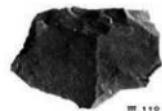
出土遺物（4）



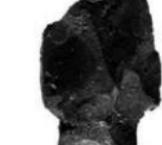
出土遺物（5）



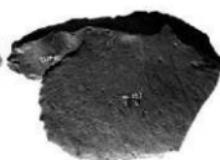
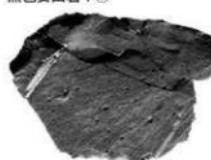
## 黒色安山岩 ①



## 黒色安山岩 ②



## 黒色安山岩 ③



## 黒色安山岩 ⑥



II 260

II 174

II 238

II 172

II 177

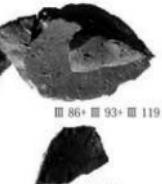
カクラン 154

カクラン 152

## 黒色安山岩 ④

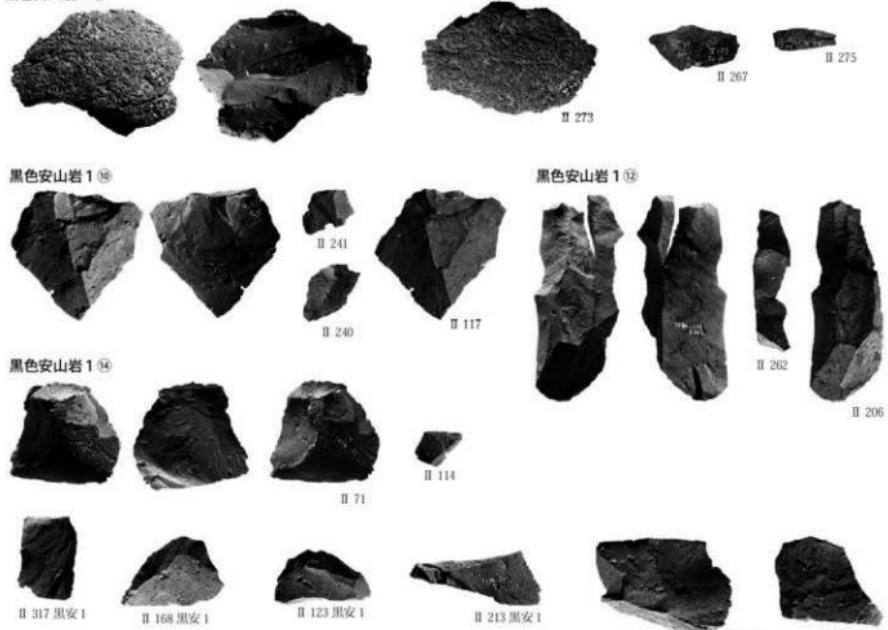


## 黒色安山岩 ⑤

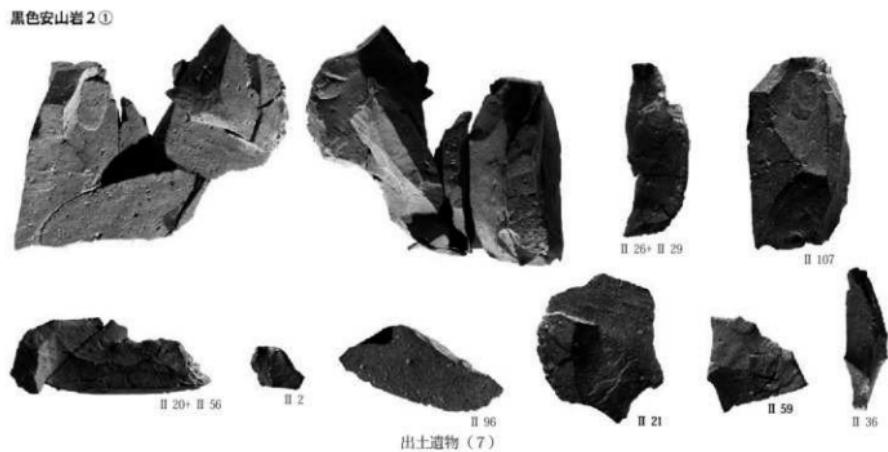


出土遺物（6）

## 黑色安山岩 1 ⑦



## 黑色安山岩 1 ⑧



黑色安山岩 2 ②



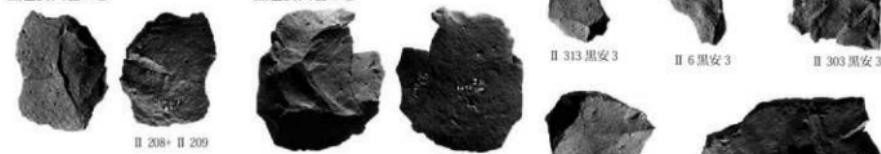
II 35+ II 223

黑色安山岩 2 ③



II 134

黑色安山岩 3 ④



II 303 黑安 3

黑色安山岩 4 ①



II 303 黑安 3

黑色安山岩 5 ①



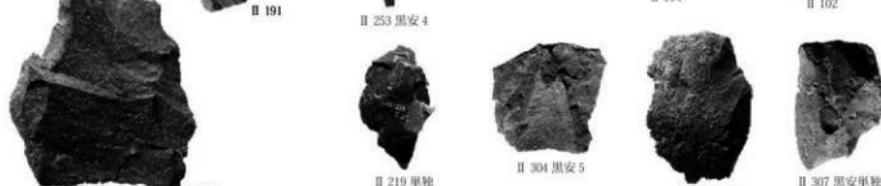
II 253 黑安 4

II 253 黑安 4



II 219 单独

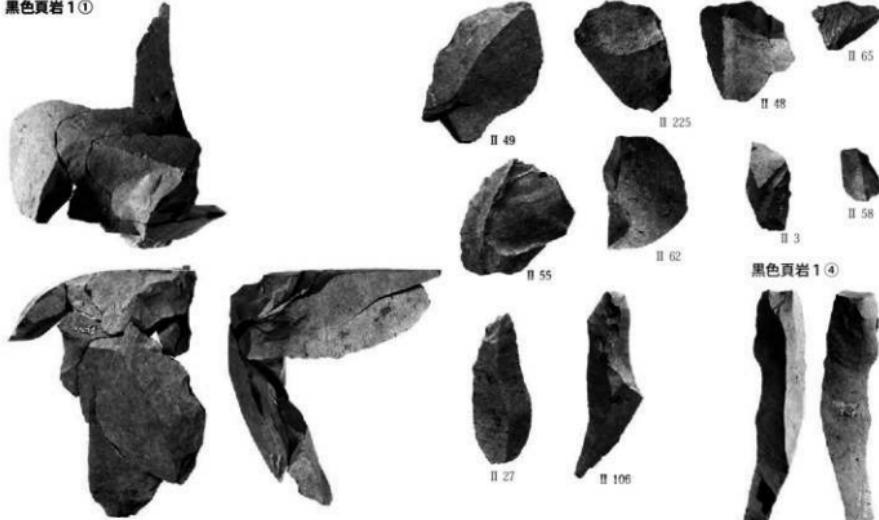
II 219 单独



II 307 黑安单独

出土遺物 (8)

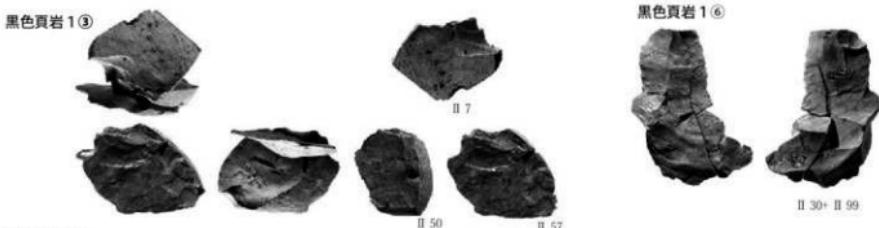
黑色頁岩 ①



黑色頁岩 ②



黑色頁岩 ③

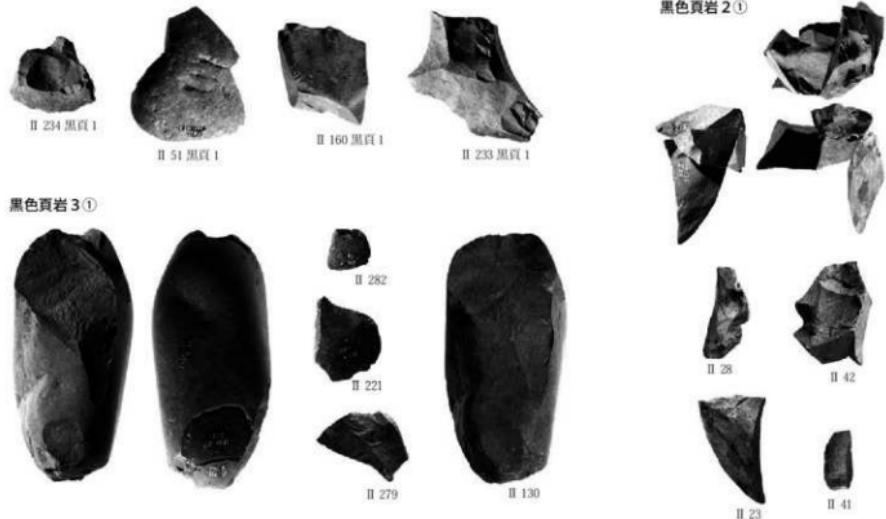


黑色頁岩 ⑤

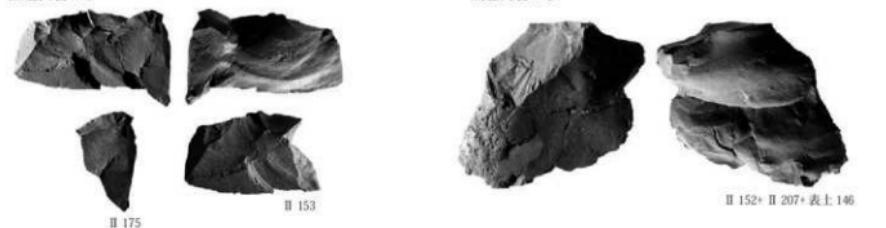


出土遺物 (9)

黑色頁岩 2 ①



黑色頁岩 3 ①



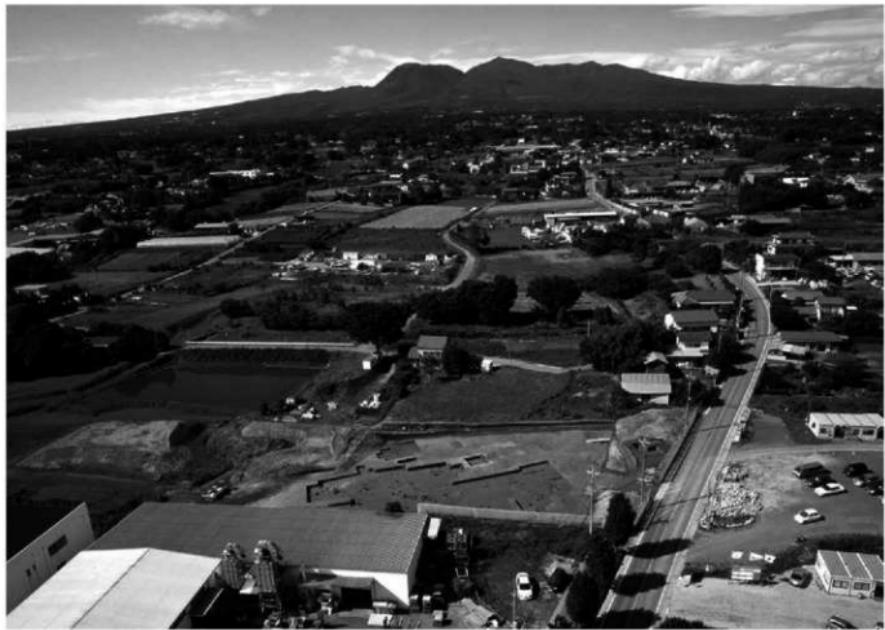
黑色頁岩 4 ①



黑曜石 1 ①



出土遺物 (10)



1 遺跡遠景（南から）



2 試掘トレンチ33-M-15南壁セクション（北から）



1 拡張6区炭化物検出状況（北から）



2 拡張6区落ち込み（北から）



3 拡張3区落ち込み（北から）



4 拡張3区遺物出土状況（北から）



5 拡張5区1面遺物出土状況（北東から）



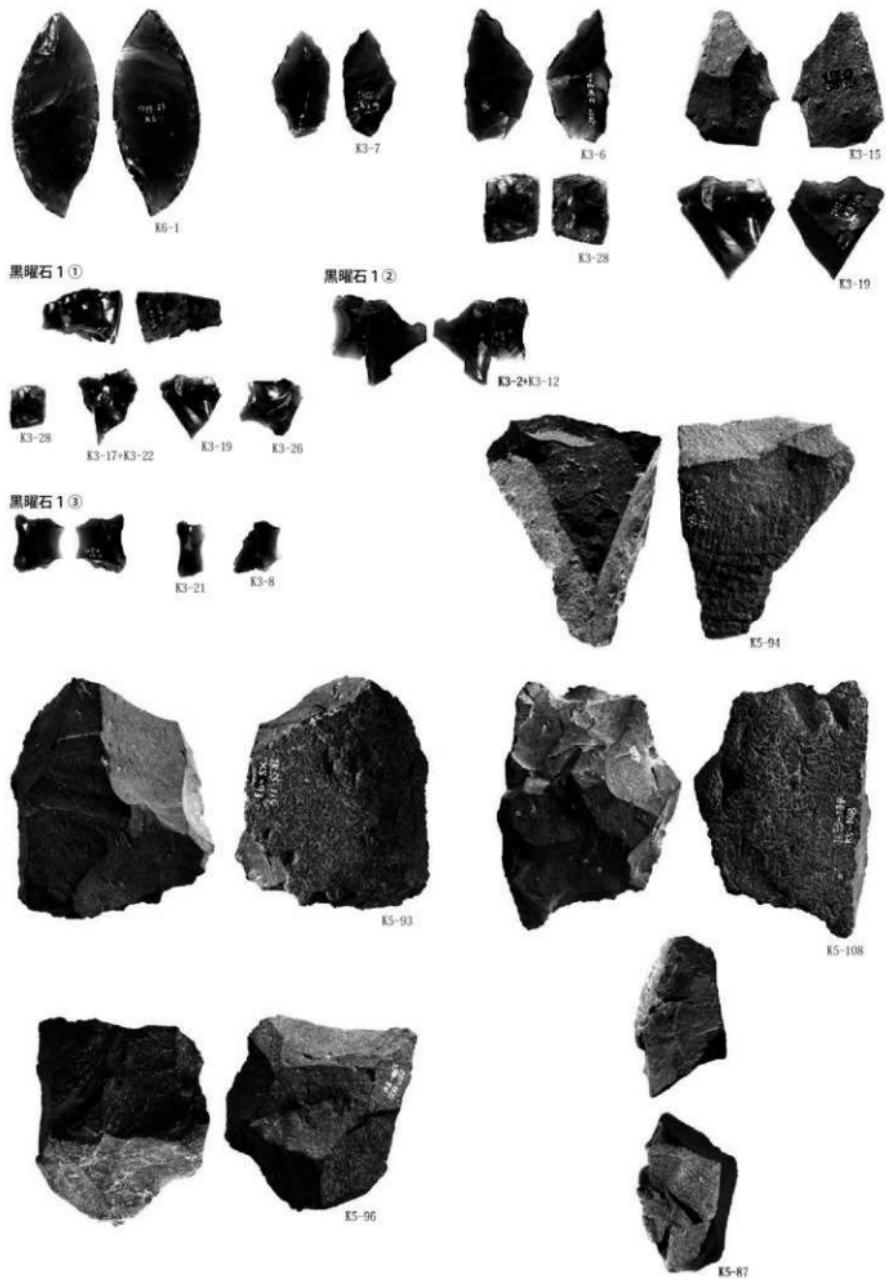
6 拡張5区2面遺物出土状況（北東から）



7 拡張7区遺物出土状況（東から）

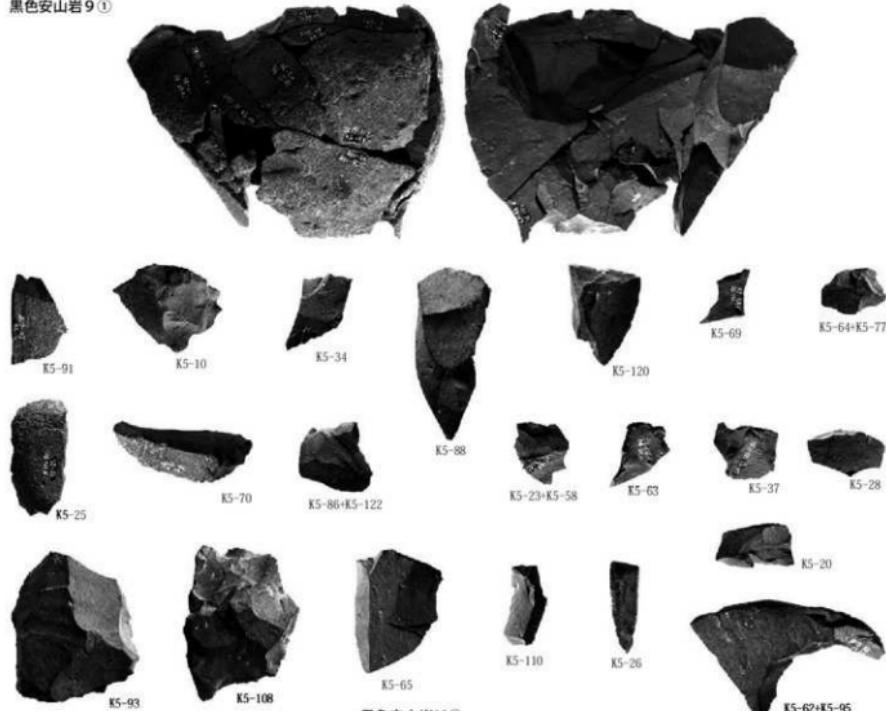


8 拡張7区遺物出土状況（南東から）



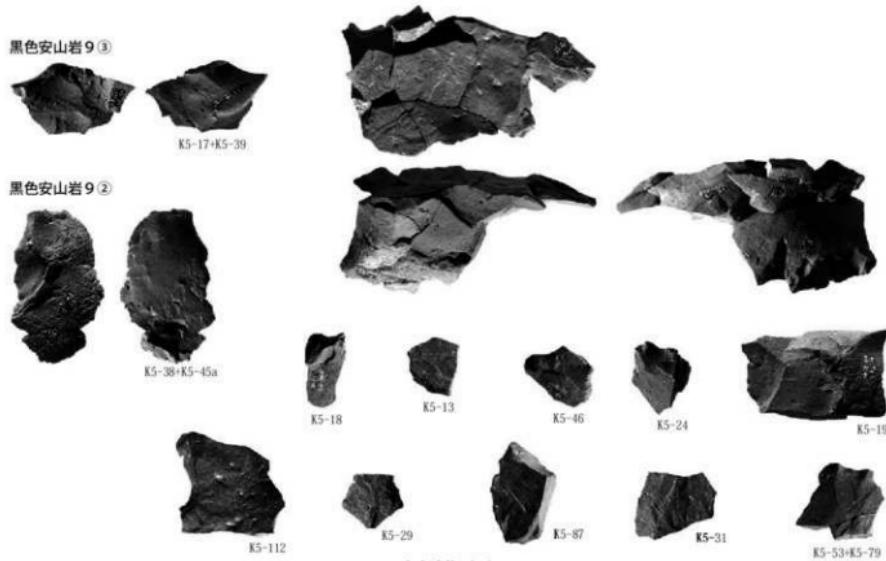
出土遺物（1）

## 黑色安山岩 9 ①



黑色安山岩 10 ①

## 黑色安山岩 9 ③



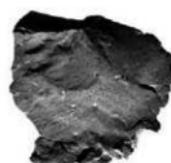
出土遺物 (2)

黑色安山岩10②



K5-6+K5-8+K5-9

黑色安山岩10③



K5-10+K5-11

黑色安山岩11①



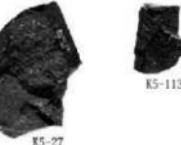
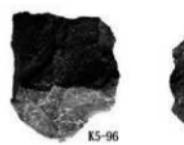
K5-4

K5-5

K5-76

K5-59

K5-16



K5-30

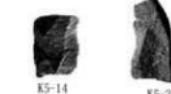
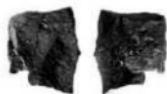
K5-32

K5-61

K5-96

K5-27

黑色安山岩11②



K5-14

K5-21



K7-254

K7-45



K7-13

K7-75



K7-236

K7-149+K7-151

出土遺物（3）





K7-283



K7-287



K7-146



K7-182+K7-201



K7-2



K7-269



K7-23



K7-33



K7-38



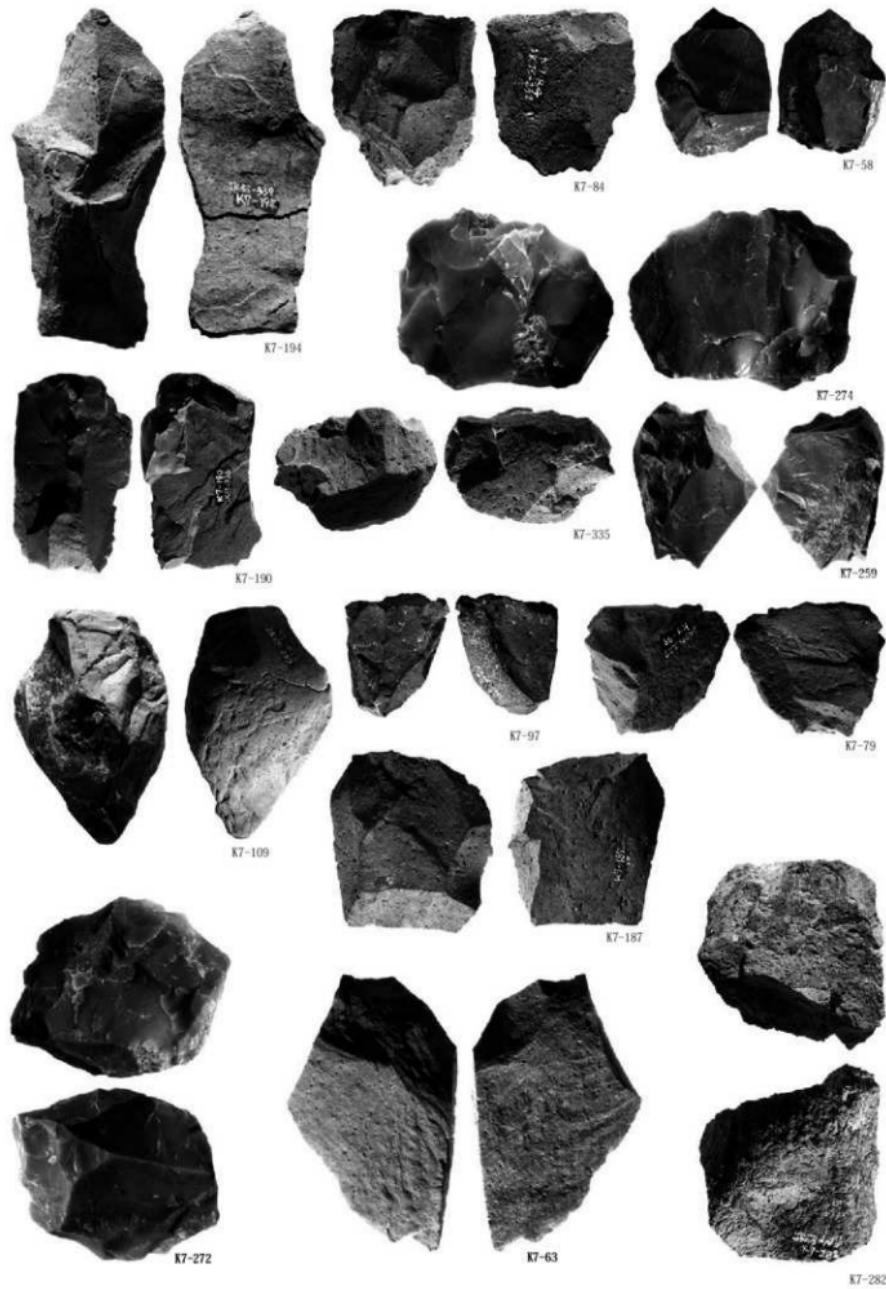
K7-230



K7-196



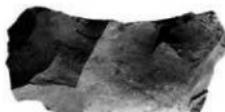
出土遺物（5）



出土遺物（6）



K7-56



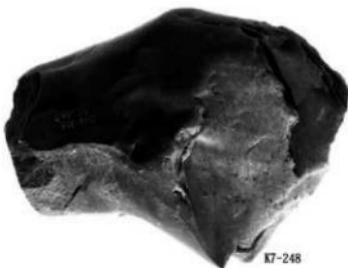
K7-255



K7-34



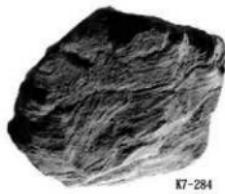
K7-145



K7-248



K7-47





K7-250



K7-172



K7-199

出土遺物 (9)



K7-251



K7-200



K7-65



K7-59



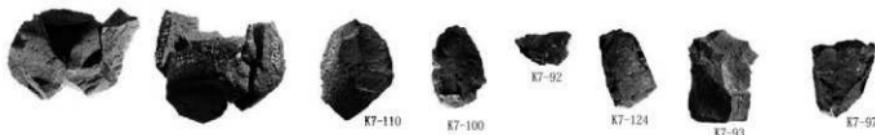
出土遺物 (11)



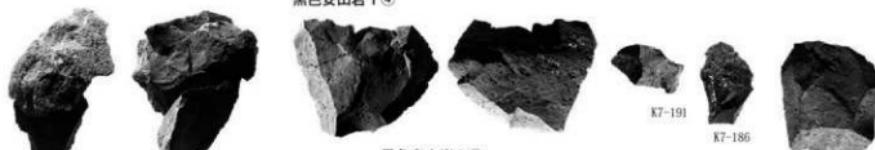
黑色安山岩①



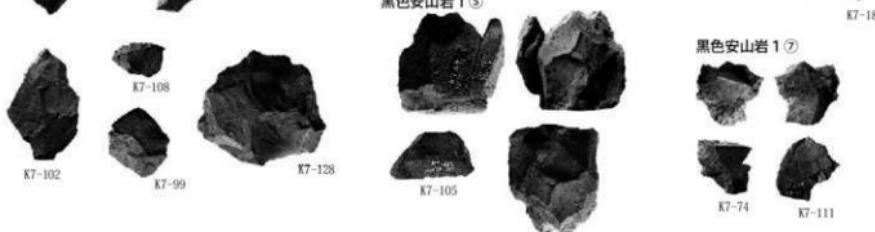
黑色安山岩②



黑色安山岩③



黑色安山岩④



出土遺物(12)

黑色安山岩 ⑥



K7-149+K7-151

黑色安山岩 3 ②



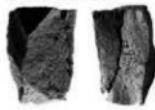
K7-311+K7-342

黑色安山岩 2 ①



K7-67+K7-154

黑色安山岩 2 ②



K7-101

黑色安山岩 1 ⑧



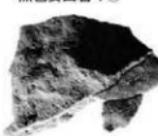
K7-115+K7-121

黑色安山岩 3 ①



K7-281+K7-282

黑色安山岩 4 ①



K7-135+K7-141+K7-142

黑色頁岩 1 ①



K7-178



K7-168+K7-245



K7-176

珪質頁岩 2 ①



K7-202



K7-171



K7-174



K7-180



K7-172

出土遺物 (13)

チャート1①

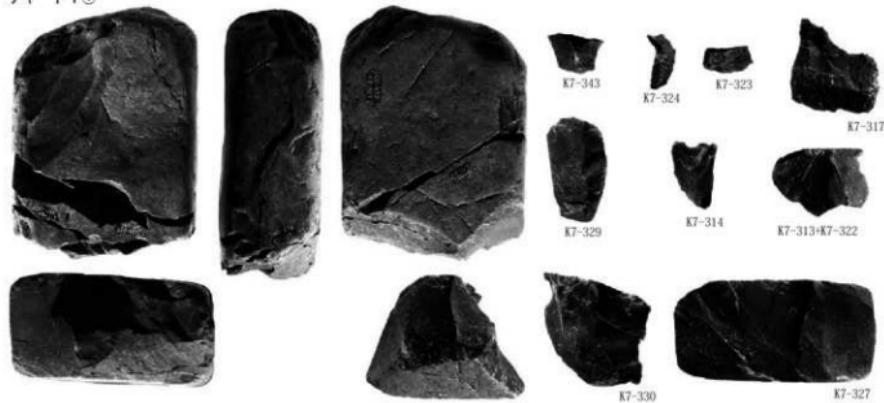


チャート2①

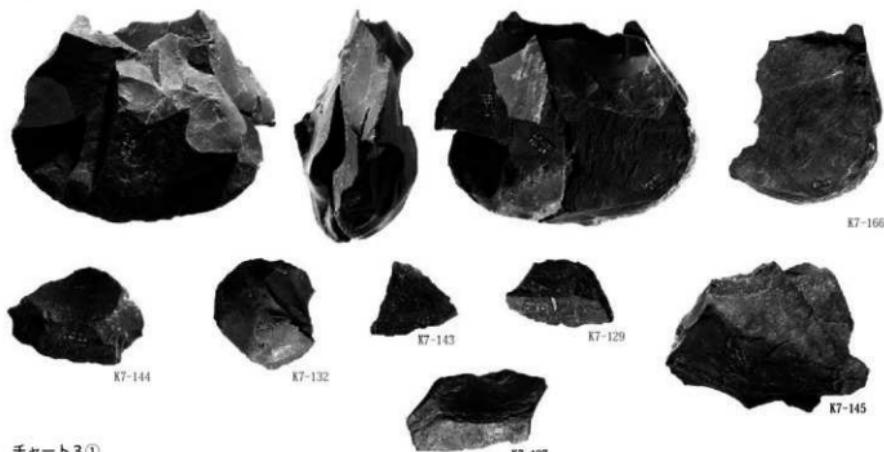


チャート3①

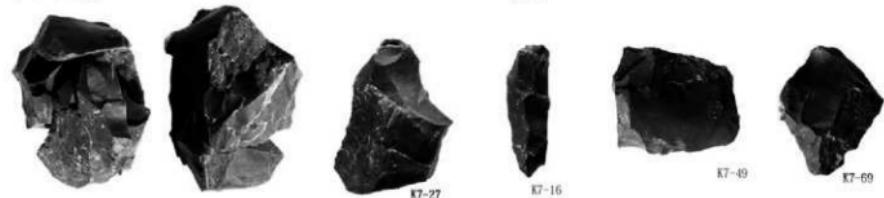


チャート3②



出土遺物 (14)

チャート5①



K7-70+K7-71



チャート6①



K7-34+K7-41



K7-10



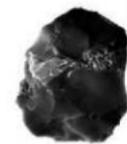
K7-288



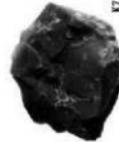
K7-289



K7-271



K7-272



K7-272



K7-273



K7-270



K7-250



チャート4①

ホレンツエルス1①



K7-250

出土遺物 (15)



1 B区試掘トレンチ5西壁セクション（東から）



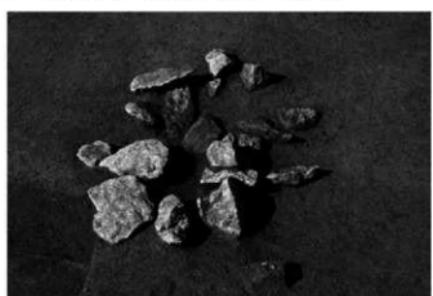
2 E区南壁セクション（東から）



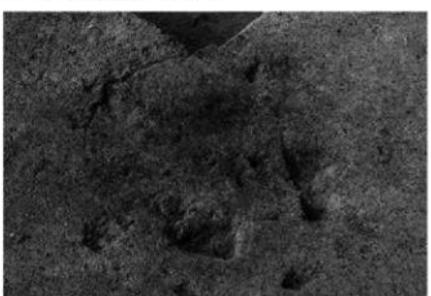
3 I区試掘トレンチ6南壁セクション（北から）



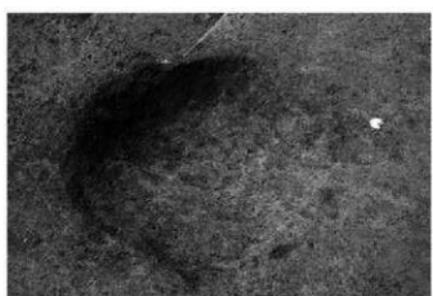
4 D区集石確認状況（西から）



5 D区集石検出状況（南東から）



6 D区炭化物検出状況（北から）



7 D区集石土坑（北から）



8 B区南壁遺物出土状況（東から）



1 B区全景（西から）



2 E区遺物出土状況（北から）



3 E区全景遺物出土状況（北から）



4 I区試掘トレンチ6 拡張遺物出土状況（北から）



5 I区試掘トレンチ6 再拡張遺物出土状況（北から）



138



194



161



1102



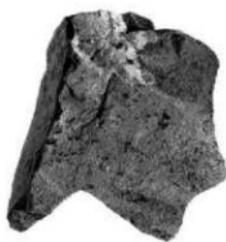
162



153



141

144  
出土遺物（1）

151



177

176



160



151

185



173



172



182

195



117

141



197

181

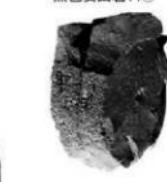


193

158



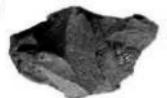
184(1/2)



153

156

黒色安山岩16①



156

16+18+149

黒色安山岩15①



118+119

黒色安山岩16②



189



1101



152 黒安14



147 黒安14



199 黒安16



180 黒安14



157 黒安16



159 黑安16



192 黑安16



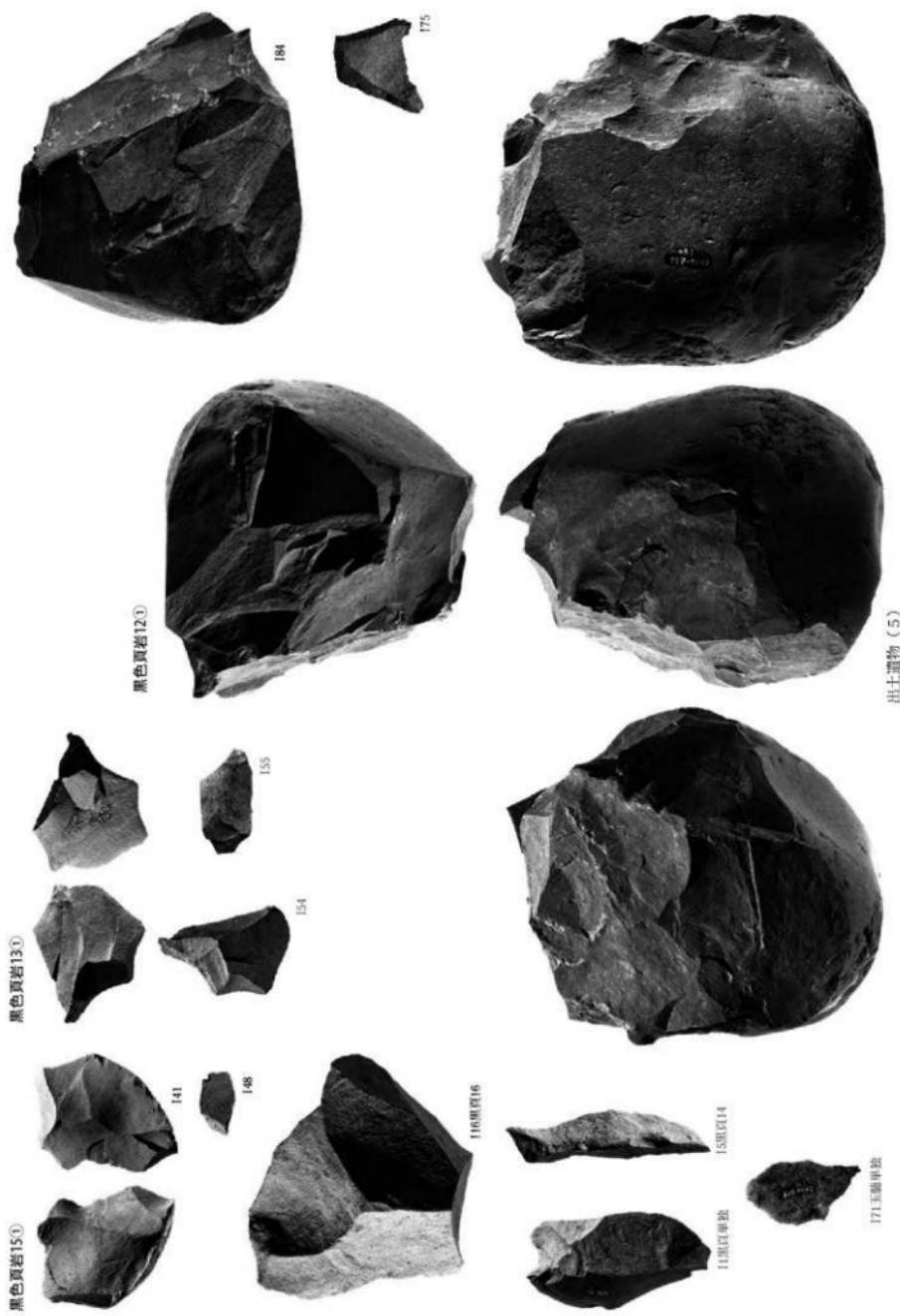
169 黑安17

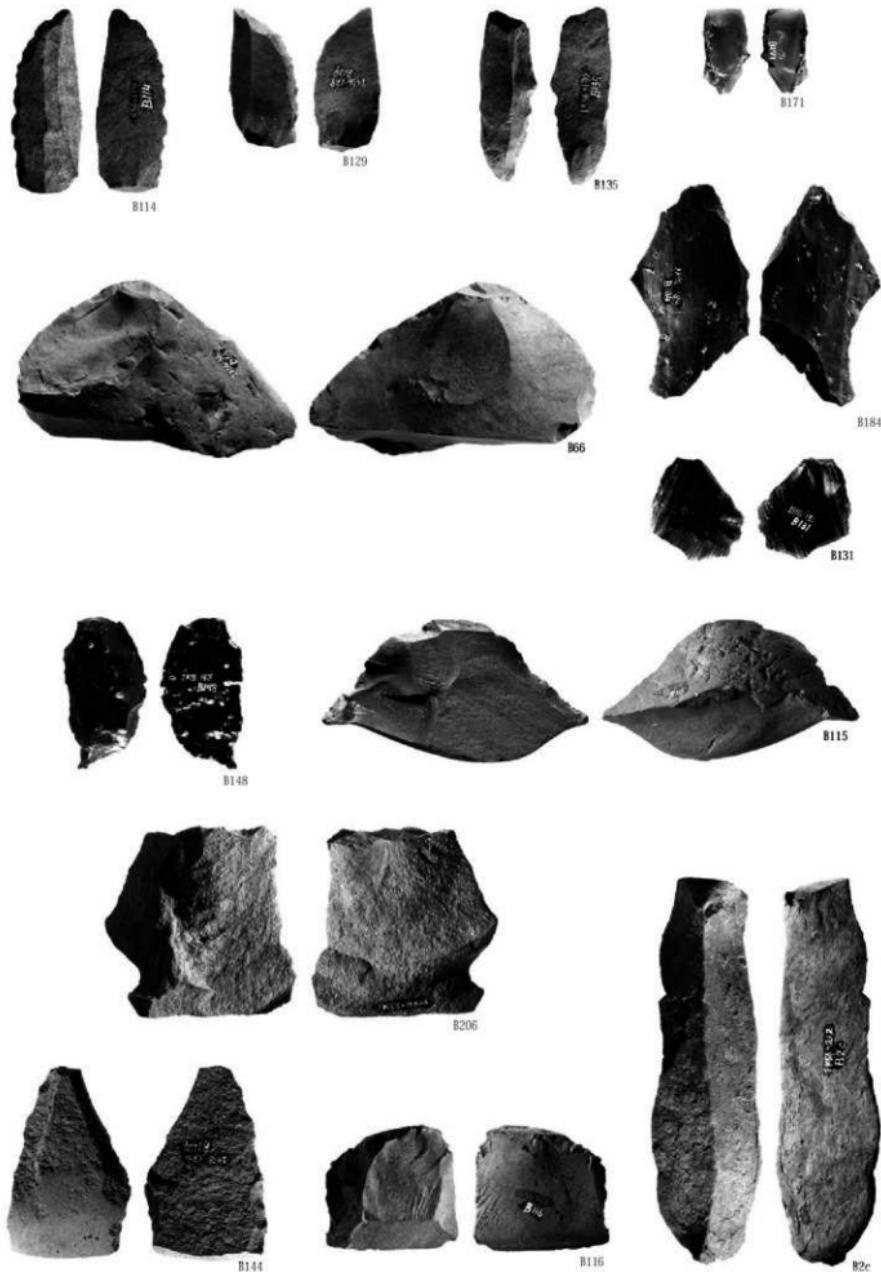


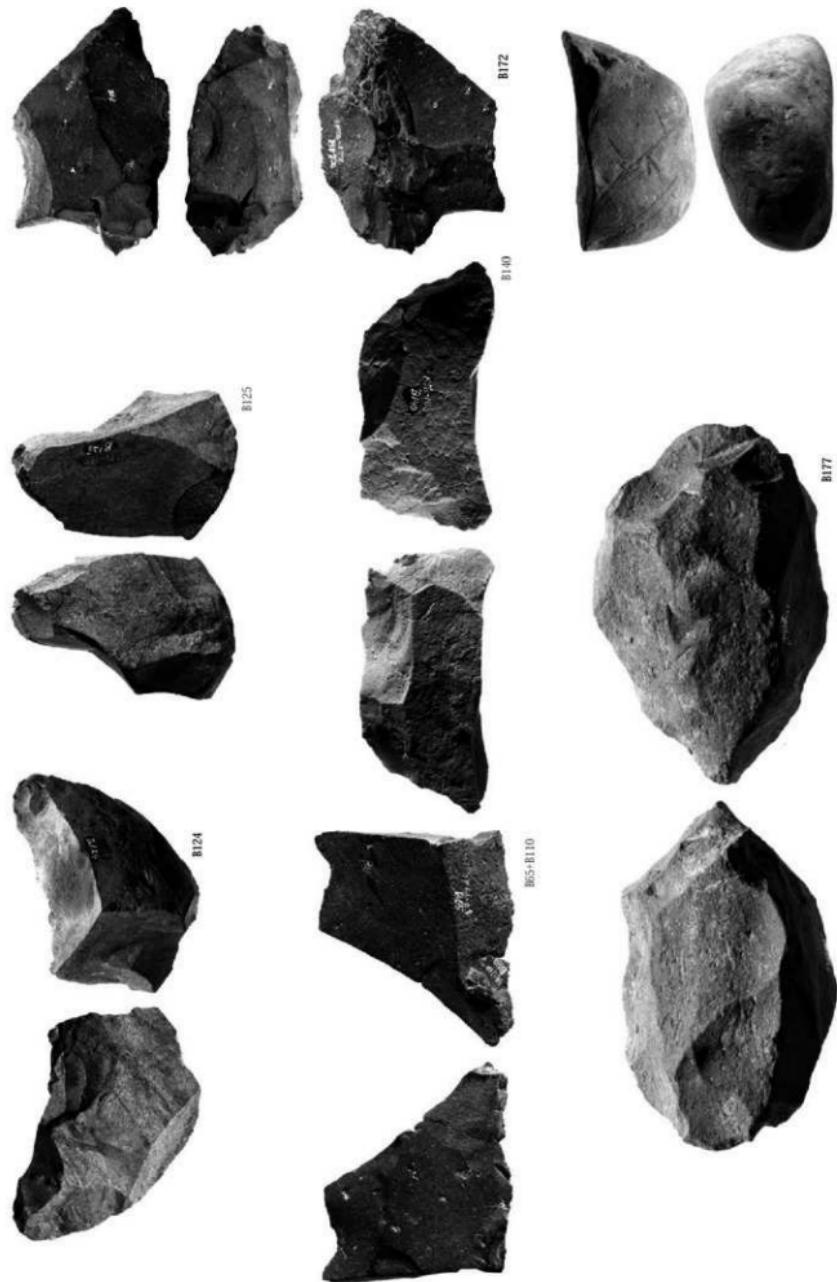
137+139

黒色頁岩14①

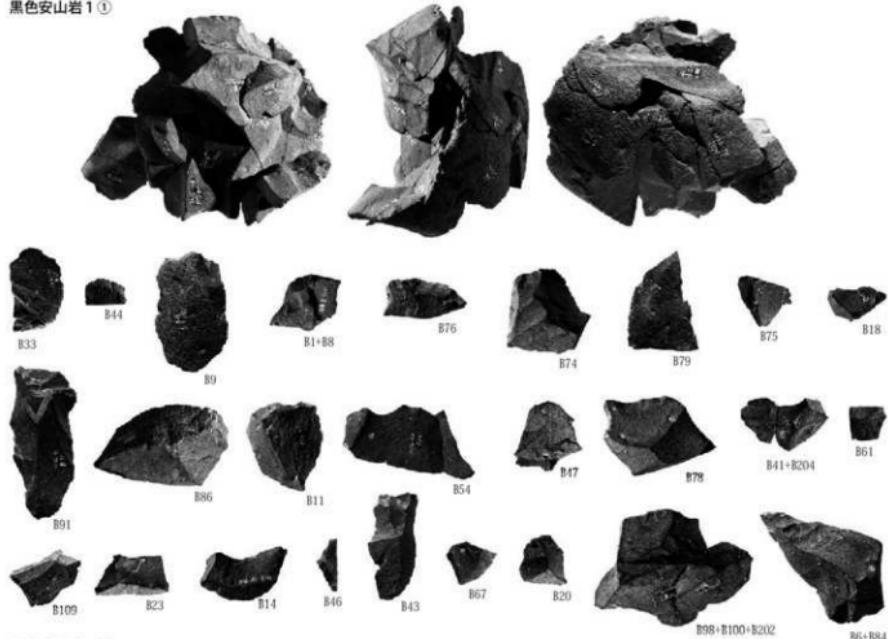
出土遺物（4）







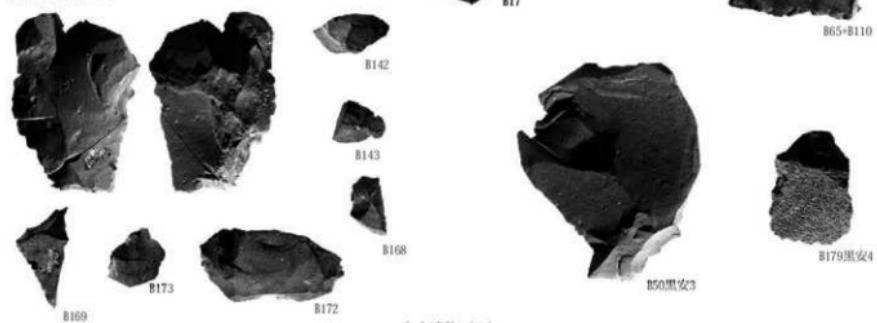
## 黒色安山岩 1 ①



## 黒色安山岩 1 ②



## 黒色安山岩 3 ①



黒色頁岩 1 ①



B118



B125



B121

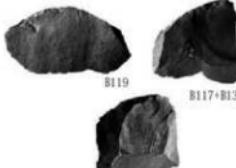
黒色頁岩 2 ①



B119



B115



B117+B130



B116



B118

黒色頁岩 3 ①



B124



B25+B51



B112黒頁3



E103



B1c黒頁單独



B127碧玉1



B174黒曜石1



E171



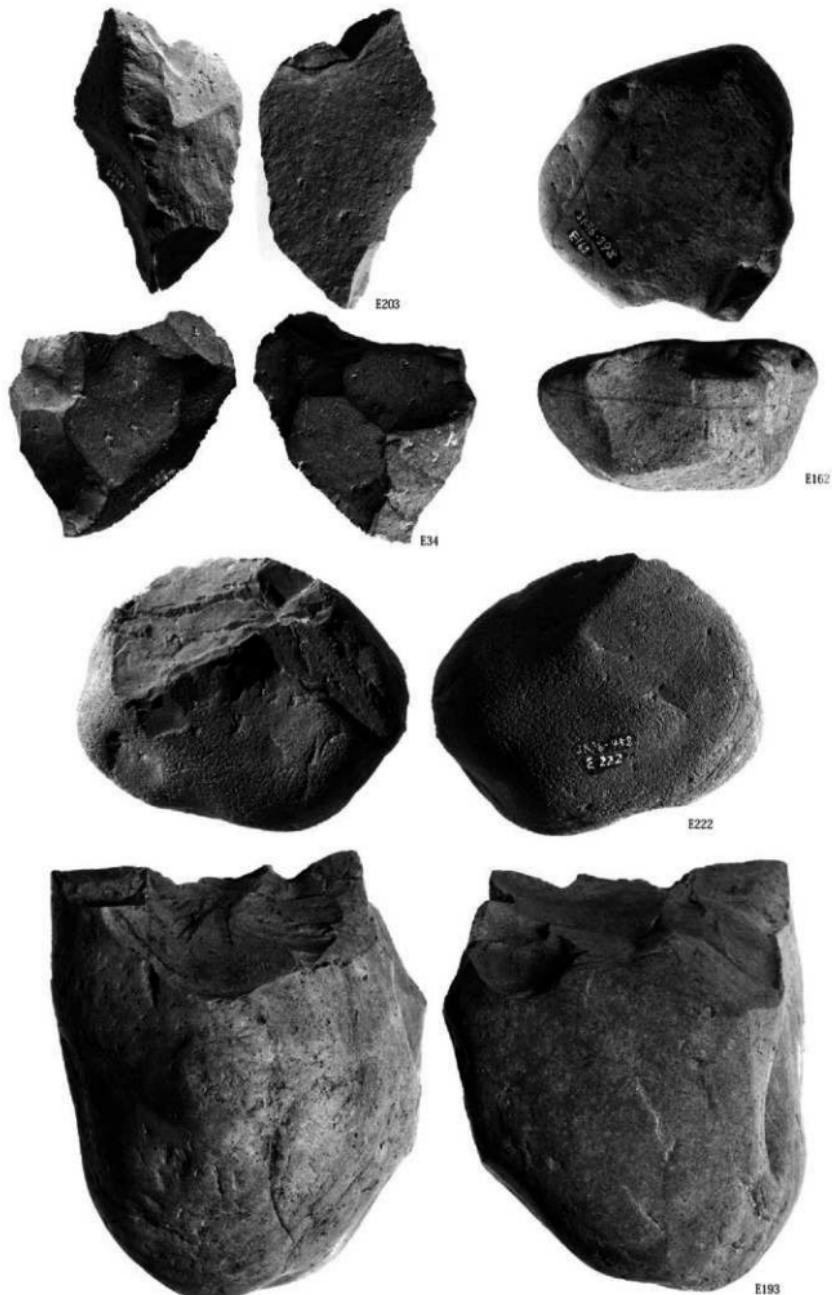
E292



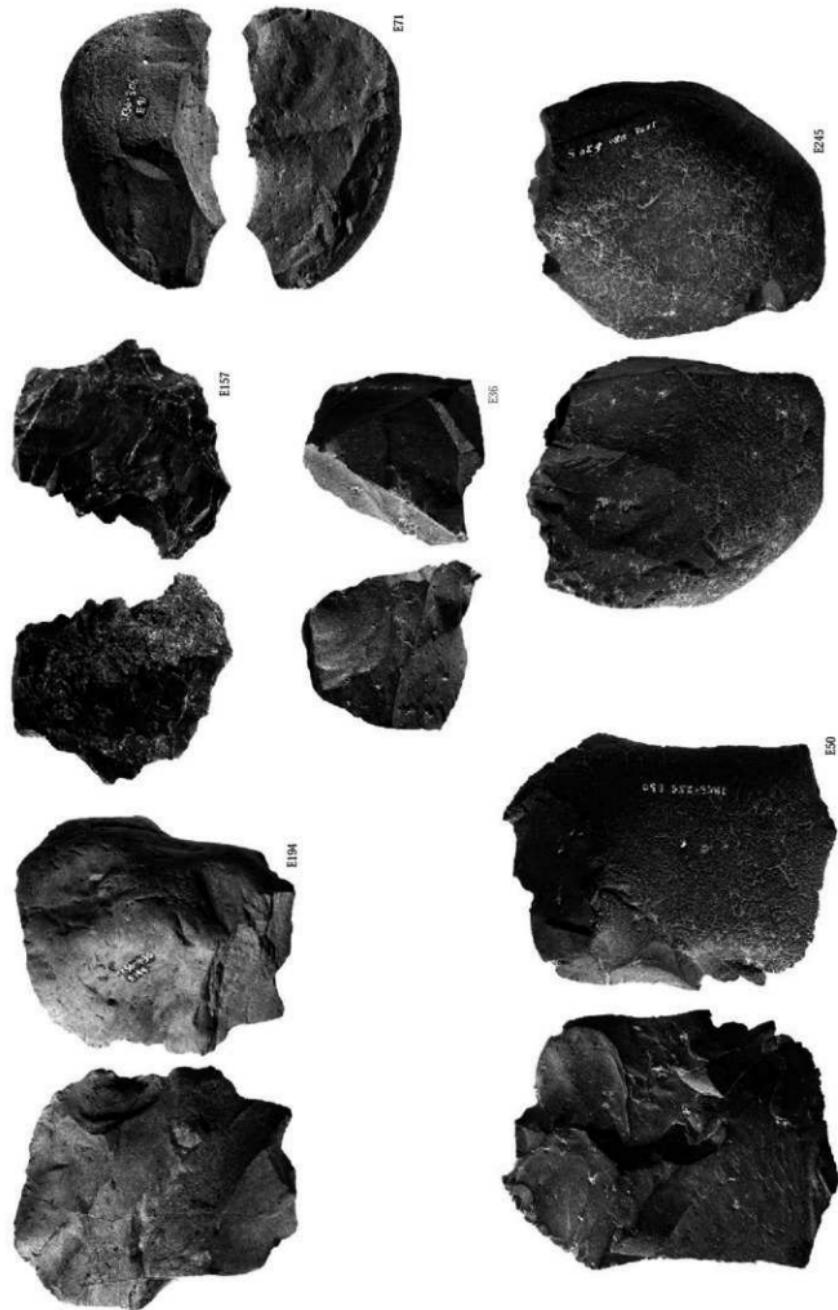
E206



E134



出土遺物 (10)



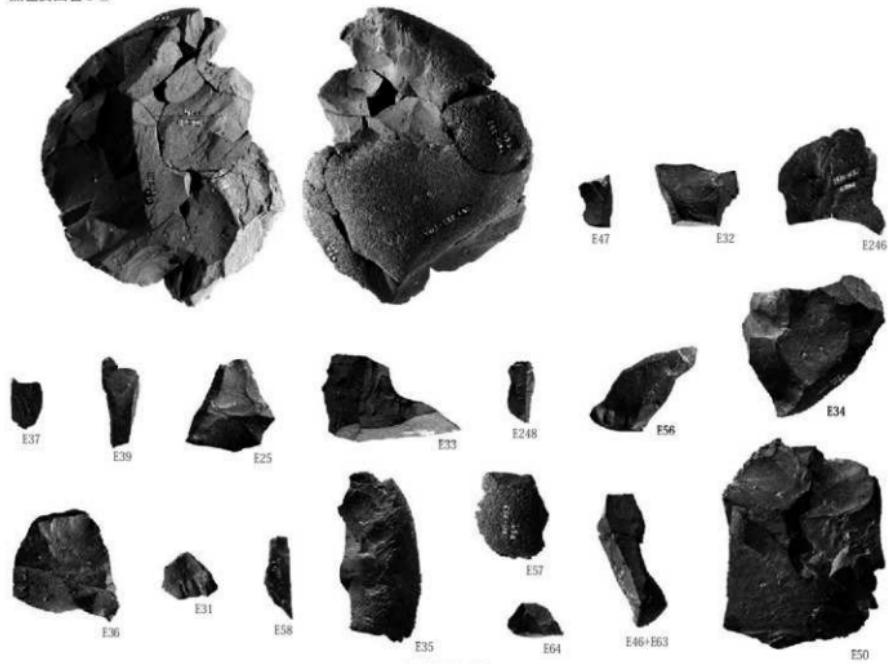


出土遺物 (12)



E147+E266+E305

## 黒色安山岩 6 ①

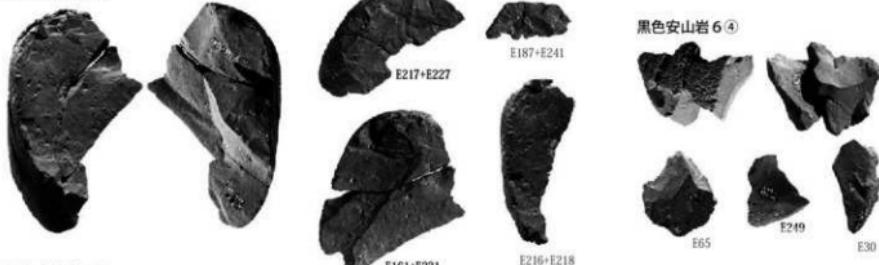


出土遺物 (13)

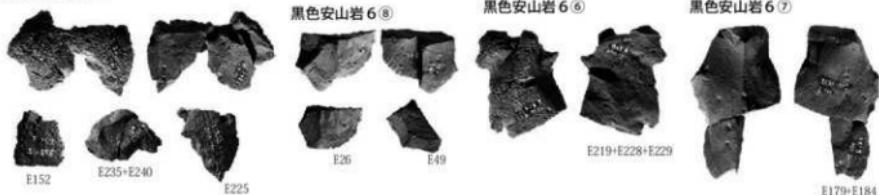
黒色安山岩 ②



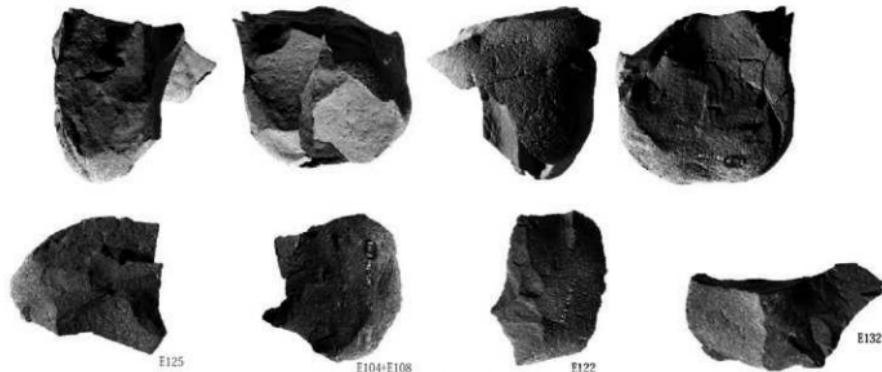
黒色安山岩 ③



黒色安山岩 ⑤

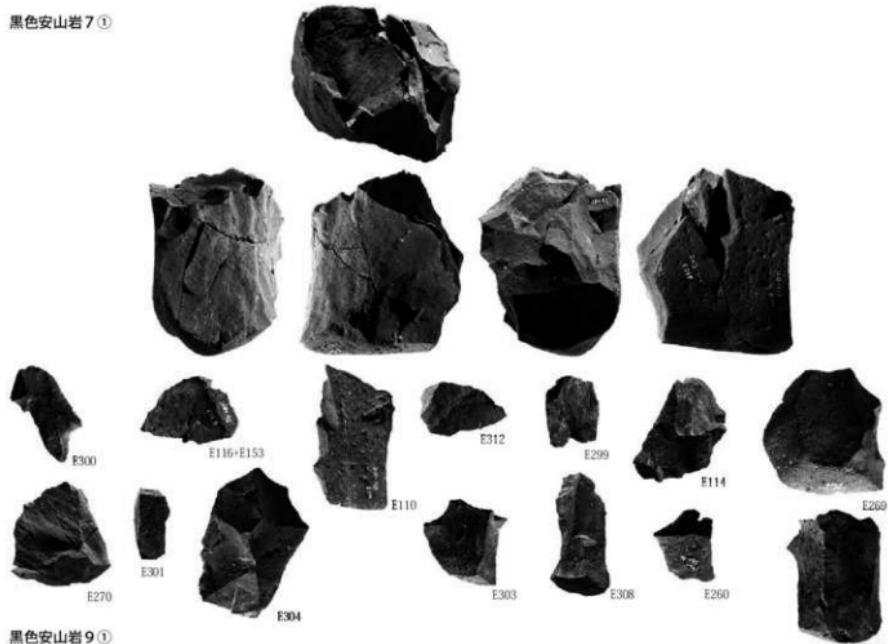


黒色安山岩 ⑧

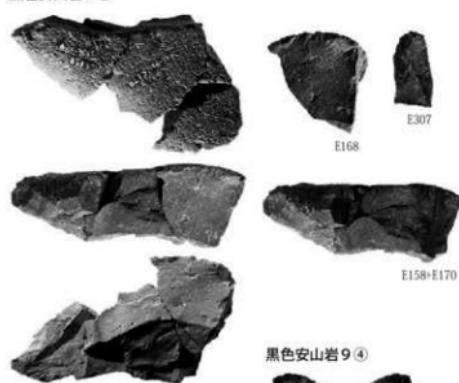


出土遺物 (14)

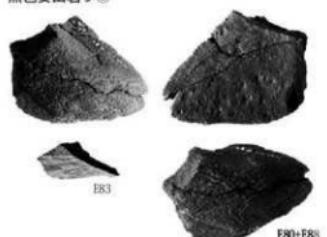
黒色安山岩 7 ①



黒色安山岩 9 ①



黒色安山岩 9 ②



黒色安山岩 10 ①

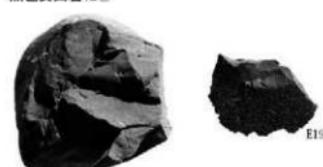


出土遺物 (15)

黒色安山岩11①



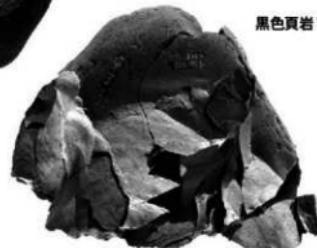
黒色安山岩12①



黒色安山岩13①



黒色頁岩7①



E45黒安單独



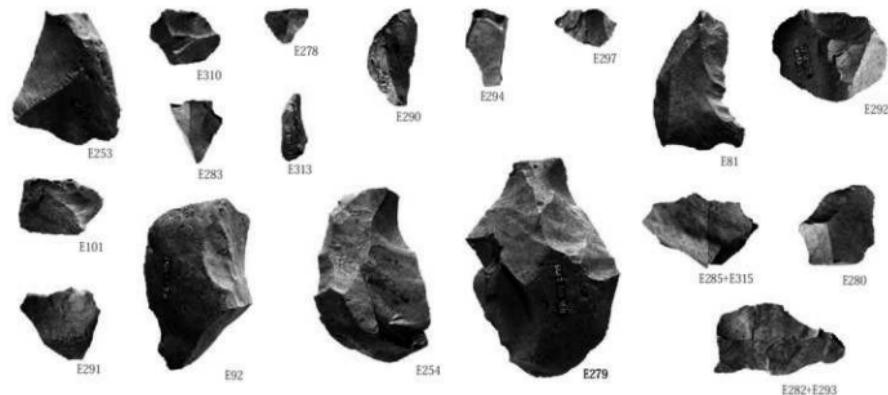
E232黒安單独



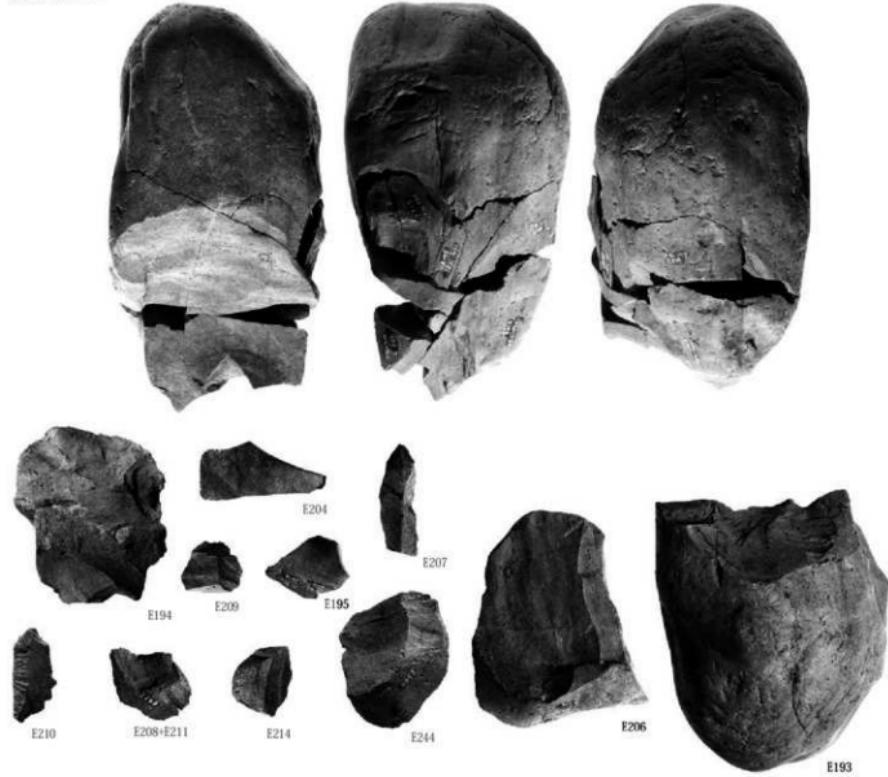
E284



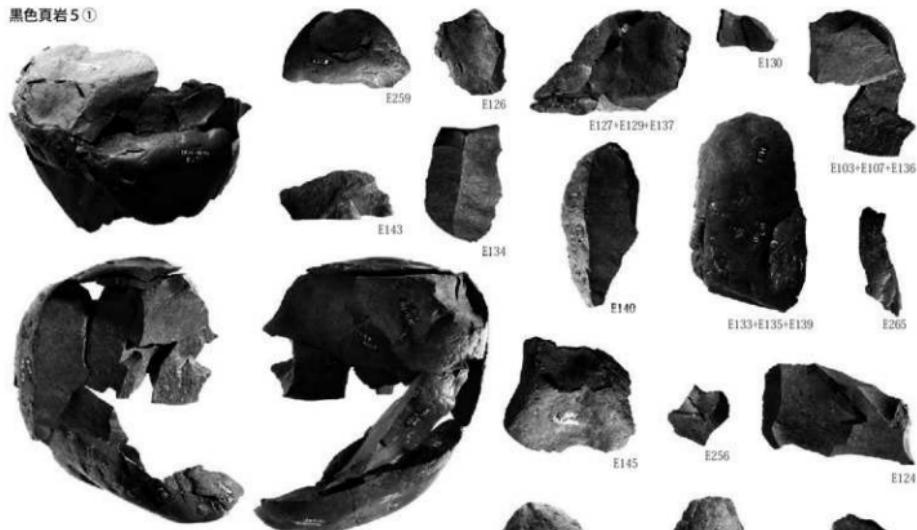
E277



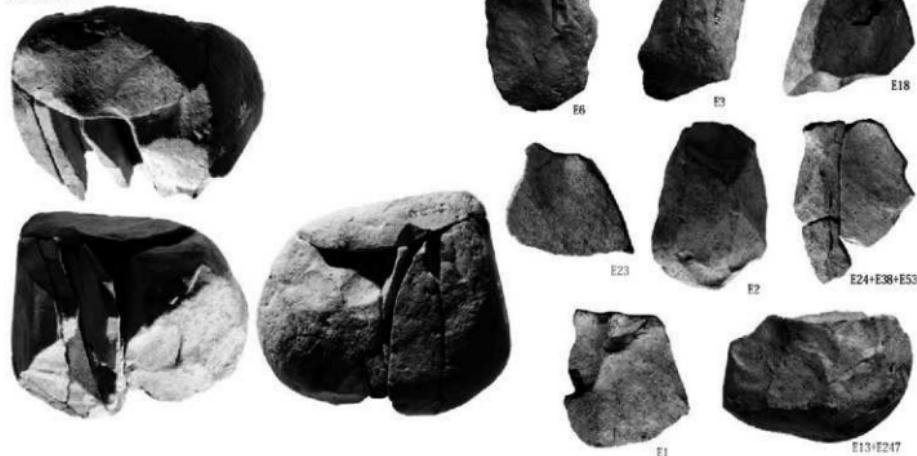
黒色頁岩 4①



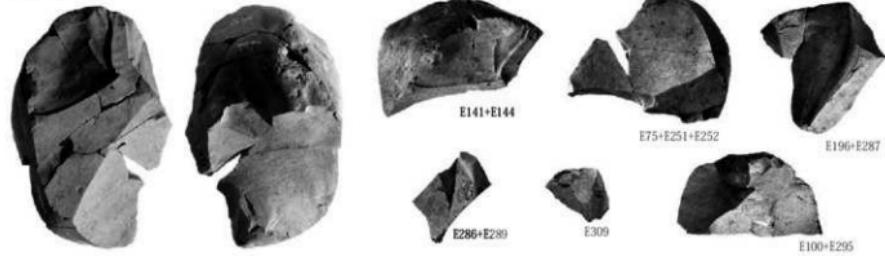
## 黒色頁岩 5 ①



## 黒色頁岩 6 ①

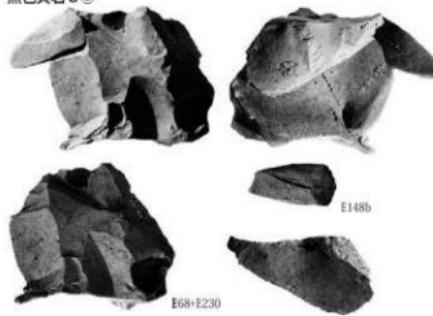


## 黒色頁岩 8 ①



出土遺物 (18)

黒色頁岩 8②



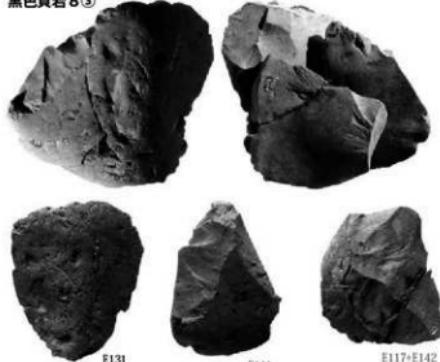
黒色頁岩 8④



黒色頁岩 9①



黒色頁岩 8③



黒色頁岩 10①



黒色頁岩 11①

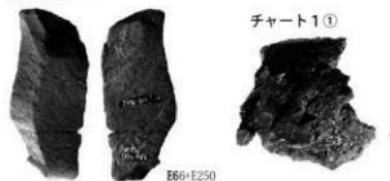
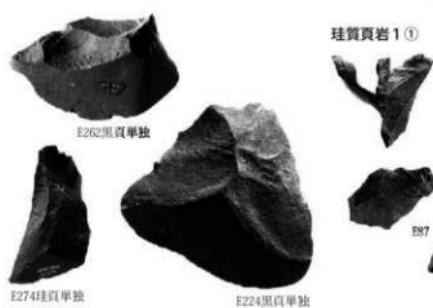


チャート 1①



珪質頁岩 1①





1 試掘トレンチ84-O-13北壁セクション（南から）



2 遺物出土状況（南から）



3 遺物出土状況（南東から）



4 結晶片岩類出土状況（北から）



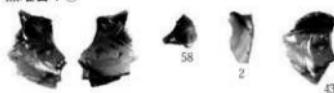
## 黒曜石 ①



## 黒曜石 ②



## 黒曜石 ④



## 黒曜石 ⑤



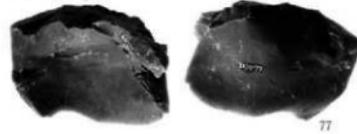
## 黒曜石 ⑦



## 黒曜石 ⑥



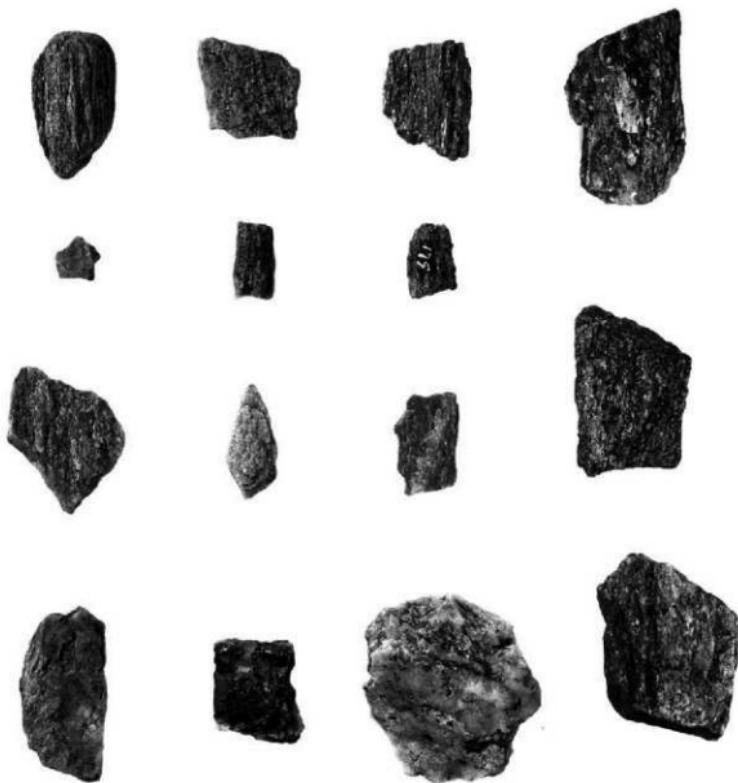
## チャート ①



## チャート ②



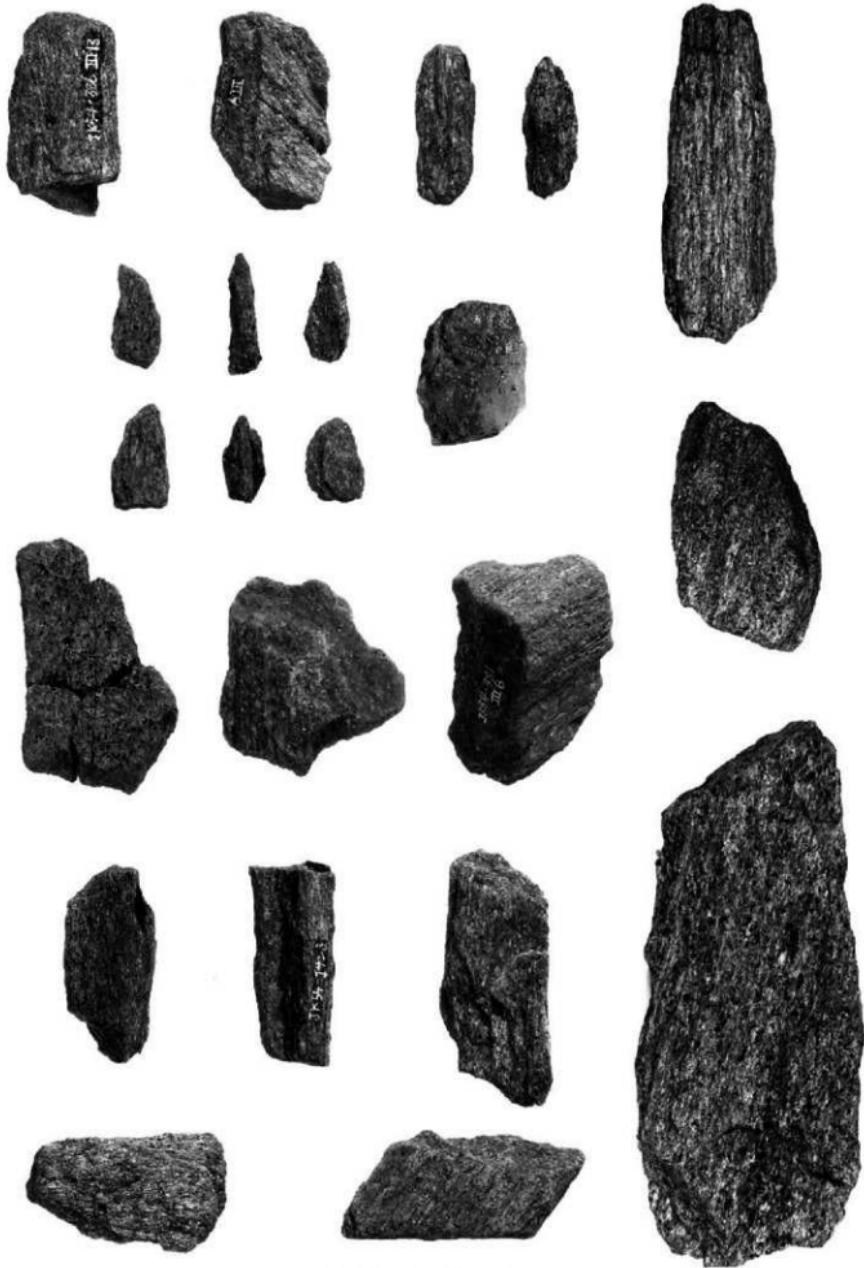
上泉唐ノ堀遺跡



上泉新田塚遺跡群



結晶片岩（1） 上泉唐ノ堀遺跡・上泉新田塚遺跡群



結晶片岩（2） 上泉武田遺跡

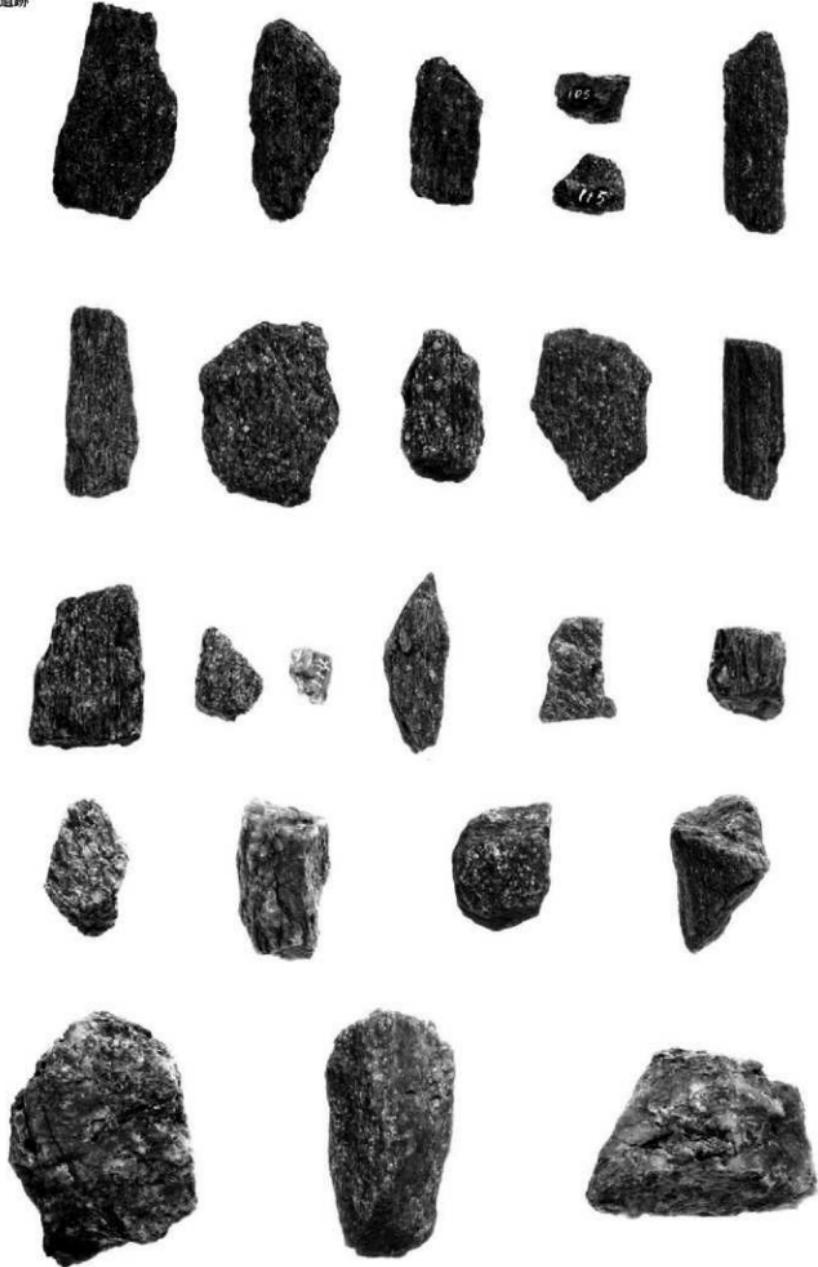
上泉武田遺跡

芳賀東部团地遺跡



結晶片岩（3） 上泉武田遺跡・五代砂留遺跡群・芳賀東部團地遺跡・脚城遺跡

銅城遺跡



結晶片岩（4）銅城遺跡

# 報告書抄録

書名ふりがな	じょうぶどうろ・きゅうせつきじだい・せきぐん
書名	上武道路・旧石器時代遺跡群(3) 上泉唐ノ堀遺跡・上泉新塚遺跡群・上泉武田遺跡・五代砂留遺跡群・芳賀東部湖岸道路・利城遺跡
副書名	一般国道17号(上武道路)改築工事に伴う埋蔵文化財発掘調査(その3)報告書
巻次	3
シリーズ名	財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団調査報告書
シリーズ番号	535
編著者名	麻生敏隆・岡口博幸・岩崎泰一
編集機関	財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団
発行機関	財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団
発行年月日	20120316
作成法人ID	21005
郵便番号	377-8555
電話番号	0279-52-2511
住所	群馬県渋川市北橘町下箱田784番地2
遺跡名ふりがな	かみいすみからのはりいせき
遺跡名	上泉唐ノ堀遺跡
所在地ふりがな	ぐんまけんまえぼしがみいすみまち
遺跡所在地	群馬県前橋市上泉町
市町村コード	10201
遺跡番号	774
北緯(世界測地系)	362428
東経(世界測地系)	1390725
調査期間	20060701-20070331/20070401-20070531/20080401-20080630
調査面積	6,808.40
調査原因	道路建設工事(一般国道17号・上武道路)
種別	その他
主な時代	旧石器時代
遺跡概要	その他・旧石器・石器
特記事項	赤城山南麓地域の旧石器時代遺跡群
要約	旧石器時代の3つの文化層が確認された。第3文化層として石器群は255点があり、主な石器にナイフ形石器や刃部磨製石斧がある。石器は弧状分布しており、「環状ブロック群」のひとつとして捉えることができる。
遺跡名ふりがな	かみいすみにつけだいせきぐん
遺跡名	上泉新塚遺跡群
所在地ふりがな	ぐんまけんまえぼしがみいすみまち
遺跡所在地	群馬県前橋市上泉町
市町村コード	10201
遺跡番号	775
北緯(世界測地系)	362438
東経(世界測地系)	1390719
調査期間	20060701-20070331/20070401-20070531/20080401-20080630
調査面積	14,578.42
調査原因	道路建設工事(一般国道17号・上武道路)
種別	その他
主な時代	旧石器時代
遺跡概要	その他・旧石器・石器
特記事項	赤城山南麓地域の旧石器時代遺跡群
要約	旧石器時代の3つの文化層が確認された。第1文化層として石器2点、第2文化層は2地点から石器40点、第3文化層として89点が出土した。
遺跡名ふりがな	かみいすみたけだいせき
遺跡名	上泉武田遺跡
所在地ふりがな	ぐんまけんまえぼしがみいすみまち
遺跡所在地	群馬県前橋市上泉町
市町村コード	10201
遺跡番号	773
北緯(世界測地系)	362451
東経(世界測地系)	1390710
調査期間	20070601-20071231
調査面積	8,832.56
調査原因	道路建設工事(一般国道17号・上武道路)
種別	その他
主な時代	旧石器時代
遺跡概要	その他・旧石器・石器
特記事項	赤城山南麓地域の旧石器時代遺跡群
要約	旧石器時代の3つの文化層が確認された。第3文化層として457点があり、台地東側縁辺に弧状分布した。

遺跡名ふりがな	ごだいすなどめいせき
遺跡名	五代砂留遺跡群
所在地ふりがな	ぐんまけんまえぼししごだいまち
遺跡所在地	群馬県前橋市五代町
市町村コード	10201
遺跡番号	772
北緯（世界測地系）	362457
東経（世界測地系）	1390657
調査期間	20070201~20070331/20070501~20080331
調査面積	19,528.77
調査原因	道路建設工事(一般国道17号・上武道路)
種別	その他
主な時代	旧石器時代
遺跡概要	その他・旧石器・石器
特記事項	赤城山南麓地域の旧石器時代遺跡群
要 約	旧石器時代の3つの文化層が確認された。第1文化層として黒曜石製の小形ナイフ形石器を含む石器群が、第3文化層として453点が2地点から出土した。台地西側縁辺に出土した石器群には接合資料が多数確認されている。

遺跡名ふりがな	はがとうふんだんじいせき
遺跡名	芳賀東部凹地遺跡
所在地ふりがな	ぐんまけんまえぼししごだいまち・とっとりまち
遺跡所在地	群馬県前橋市五代町・鳥取町
市町村コード	10201
遺跡番号	357
北緯（世界測地系）	362505
東経（世界測地系）	1390654
調査期間	20070522~20080331
調査面積	28,943.18
調査原因	道路建設工事(一般国道17号・上武道路)
種別	その他
主な時代	旧石器時代
遺跡概要	その他・旧石器・石器
特記事項	赤城山南麓地域の旧石器時代遺跡群
要 約	旧石器時代の2つの文化層が確認された。第1・2文化層としたものは2地点あり、第1文化層には礫群が伴う。第2文化層とした石器群は「殻状ブロック群」とされるものである。

遺跡名ふりがな	どうじょうういせき
遺跡名	桐城遺跡
所在地ふりがな	ぐんまけんまえぼしとっとりまち
遺跡所在地	群馬県前橋市鳥取町
市町村コード	10201
遺跡番号	41
北緯（世界測地系）	362457
東経（世界測地系）	1390614
調査期間	20080201~20080331/20080401~20080911
調査面積	6,130.78
調査原因	道路建設工事(一般国道17号・上武道路)
種別	その他
主な時代	旧石器時代
遺跡概要	その他・旧石器・石器
特記事項	赤城山南麓地域の旧石器時代遺跡群
要 約	旧石器時代の1つの文化層が確認された。第1文化層は、出土層位がAs-YPからAs-OKIの間の黒曜石を主体とする石器群で、ナイフ形石器や多数の接合資料が検出された。

財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団調査報告書 第535集

## 上武道路・旧石器時代遺跡群（3）

一般国道17号（上武道路）改築工事に伴う埋蔵文化財発掘調査（その3）報告書

---

平成24（2012）年3月9日 印刷

平成24（2012）年3月16日 発行

編集・発行／財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団

〒377-8555 群馬県渋川市北橘町下箱田784番地2

電話 (0279)52-2511(代表)

ホームページアドレス <http://www.gunmaibun.org/>

印刷／株式会社開文社印刷所

---

